Syllabus

2018　講義概要

びわこ成蹊スポーツ大学
BIWAKO SEIKEI SPORT COLLEGE

講 義 概 要

シラバス（SYLLABUS）は、各授業科目の担当教員が、授業に関する情報を授業前に提示する「授業計画書」です。自らが学ぶ授業内容についてよく調べ、授業を受ける準備をしてください。
シラバスを有効に利用し、学修に励んでください。

※ポータルシステムでも閲覧することが可能です。

※卒業後、進学等の提出書類として、在学中に履修した科目内容について求められることがありますので大切に保管しておいてください。

成績評価について

本学の成績評価についての基準は下記のとおりです。

［成績評価基準］

区　分	評　価	評　点	ＧＰ※	基準（評価内容）
合　格	A	100～90点	4.0	基本的な目標(到達目標)を十分に達成し、特に優秀な成績を修めている
	B	89～80点	3.0	基本的な目標(到達目標)を十分に達成している
	C	79～70点	2.0	基本的な目標(到達目標)を達成している
	D	69～60点	1.0	基本的な目標(到達目標)を必要最低限は達成している
不合格	E	59点以下	0.0	基本的な目標(到達目標)の必要最低限を達成していないまたは授業に３分の２以上出席していないもの

※ＧＰ … Grade Point

レポート・課題作成及び提出にあたってのルール

大学では、レポート・各種課題の作成及び提出が求められます。その多くは成績評価の対象となるものであり、定期試験と同じ厳正な態度で作成、提出することが必要です。

以上のことをふまえ、作成及び提出にあたって以下のようなルールを守ってください。

＜作成にあたってのルール＞

大学でのレポートや論文は、課題について調べて、書き写すだけでなく自分なりの理解を深めたことなどを書き加えてください。

レポートや論文を作成する際、書き物やウェブサイトの情報を利用する場合、利用の仕方を間違えると「盗用・剽窃行為」とみなされます。例えば、他人の文章を引用した場合、出典を明示することが求められます。その場合、自分なりの理解を深めたことを書き加えることなく引用のみの利用であれば、盗用・剽窃になります。

〔盗用・剽窃とみなされる行為〕

・書物やウェブサイトなどの他人の文章、資料について、出典を明示せずにレポート、論文に記載すること。

・ウェブサイトからの他人の文章をコピーペーストすること。また、文章の一部分を利用する際も、同様の扱いとなります。

⇒出典を明示すれば「引用」としての利用となり、盗用・剽窃になりません。

〔「引用」としての一般的な利用方法〕

他人の文章や資料を利用し、自分の考えをレポート、論文で述べる場合は、レポート論文の最後にその出典を明示することで「引用」「参考」とすることができる。記載方法の一般的なルールは以下のとおりである。

〇書物の場合：「著者名、書名、出版社、出版年」

〇論文の場合：「著者名、論文名、論文掲載書名、巻号、出版年、論文が記載されているページ」

〇新聞の場合：「新聞名、年月日、朝刊か夕刊かの区別」

〇ウェブサイトの場合：「著者名、タイトル、アドレス、アクセスした日付」

＜提出にあたってのルール＞

●レポート提出は、筆記試験に準ずる扱いになります。提出にあたっては間違いがないよう十分に注意してください。

●提出締め切り日（締め切り時間が指定されている場合はその時間）を過ぎたレポートは理由のいかんを問わず一切受け付けません。

●レポートボックスに一度投函したレポートを取り出すことはできません。投函する場所を間違えた場合も同様ですので、注意してください。一度提出したレポートの「返却」および「差し替え」（二通以上あるレポートはすべて無効となります）の受付は行いません。

●提出するレポートは、必ずコピーし各自、保管してください。

●氏名の記載がないものは、評価対象にはなりません。

※盗用（とうよう）：ぬすんで使用すること（広辞苑より）
※剽窃（ひょうせつ）：他人の詩歌・文章などの文句または説を盗みとって、自分のものとして発表すること（広辞苑より）

レポート提出の留意点

レポートは、担当教員から特別な指示がない限り、以下のような体裁で作成すること。体裁が整っていない場合、受理しない場合がある。

１．表紙の作成

レポートには、表紙をつけること。表紙には、最低、次の６項目を記載すること。①レポートのタイトル、②講義名、③担当教員名、④学籍番号、⑤名前、⑥提出日

２．ホッチキス止め

表紙を一番上にして、本文と一緒に左上をホッチキスで固定すること。

３．ページ数の記載

レポートの本文には、ページ数を記載すること。

４．表紙と本文の作成例

（表　紙）

近代オリンピックの問題点

講義名：＿＿＿＿＿＿
担当教員：＿＿＿＿＿＿
学籍番号：＿＿＿＿＿＿
名前：＿＿＿＿＿＿
提出日：＿＿月＿＿日

（本　文）

近代オリンピックの問題点

１．はじめに

近年、～が問題となっている。○○○○、○○○○○○○○○○○○。○○○○、○○○○○○○○○○○○○。そこで本レポートでは、～について報告する。

２．見出しタイトル１

×××××××××、××××××××××。×××××××××、×××××××××××××。×××××××××、×××××××××××××××。×××××××××××、×××××××××××××××××。

３．見出しタイトル２

△△△、△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△、△△△△。△△△△△△△△△△△△△、△△△△△△△△△、△△△△△△△△△。△△△、△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△△、△△△△。△△△△△△△△△△△△△、△△△△△△△△△、△△△△△△△△△。

４．おわりに

□□□、□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□、□□□□。□□□□□□□□□□□□□、□□□□□□□□□。

参考文献

井上俊・菊幸一編著（2012）よくわかるスポーツ文化論. ミネルヴァ書房：京都.

目　次

学部共通［教養科目］

【教養科目】

〔こころとからだ〕

栄養と健康	・・・・	1
コミュニケ-ションと身体表現	・・・・	2
現代社会と人間関係	・・・・	3
人間の心理と行動	・・・・	4

〔生活と社会〕

法と生活(日本国憲法を含む)	・・・・	5
産業と経済	・・・・	6
地域福祉とボランティア	・・・・	7
高齢化と家族	・・・・	8

〔自然と文化〕

身近な自然科学	・・・・	9
国際化と文化	・・・・	10
地球の歴史と琵琶湖	・・・・	11
陶芸と地域伝統文化	・・・・	12

〔教育と情報〕

教育学概論	・・・・	13
現代社会とジャ-ナリズム	・・・・	14
情報と統計	・・・・	15
情報発信と情報倫理	・・・・	16

〔初年次教育〕

教養演習A	・・・・	17
教養演習B	・・・・	18
教養演習C	・・・・	19

【外国語科目】

英語Ⅰ	・・・・	187・188
英語Ⅱ	・・・・	189・190
英語Ⅲ	・・・・	20
英語Ⅳ	・・・・	21
ドイツ語	・・・・	22
中国語	・・・・	23
韓国語	・・・・	24
スペイン語	・・・・	25

【情報処理科目】

情報処理論	・・・・	26
コンピュ-タリテラシ-Ⅰ	・・・・	27
コンピュ-タリテラシ-Ⅱ	・・・・	28
コンピュ-タリテラシ-Ⅲ	・・・・	29

学部共通［専門科目］

【講義・実習科目】

スポーツ学入門Ⅰ（総論）	・・・・	30
スポーツ生理学概論	・・・・	31
スポーツマネジメント概論	・・・・	32
スポーツ社会学概論	・・・・	33
スポーツ心理学概論	・・・・	34
水中運動法	・・・・	35
体力トレーニング法	・・・・	36
身体構造と機能	・・・・	37
スポーツ学入門Ⅱ（各論）	・・・・	191・192
救急処置法	・・・・	38
スポーツ哲学概論	・・・・	39
フレッシュマンキャンプ	・・・・	40
雪上実習	・・・・	41
水辺実習	・・・・	42
インターンシップ実習	・・・・	43
スポーツ学研究法	・・・・	44
スポーツ指導論	・・・・	45
障害者スポーツ概論	・・・・	46
テーピング・マッサージ法	・・・・	47
健康教育・管理論	・・・・	48
スポーツ医学概論	・・・・	49
スポーツ栄養学概論	・・・・	50
身体発育発達論	・・・・	51
レジャー・レクリエーション論	・・・・	52
衛生・公衆衛生学	・・・・	53
体育・スポーツ史	・・・・	54
運動学概論	・・・・	55
スポーツ政策論	・・・・	56
学校保健	・・・・	57
体力測定と評価	・・・・	58
武道論	・・・・	59
舞踊論	・・・・	60
スポーツ法学	・・・・	61
スポーツボランティア実習	・・・・	62

スポーツと安全管理 ・・・・ 63
スポーツと環境 ・・・・ 64
スポーツ生理学Ⅰ ・・・・ 65
スポーツバイオメカニクス ・・・・ 66
スポーツ統計学 ・・・・ 67
海外研修実習 ・・・・ 68

【実技科目】

〔A群〕
器械運動 ・・・・ 69
陸上競技 ・・・・ 70
〔B群〕
バスケットボール ・・・・ 71
バレーボール ・・・・ 72
サッカー ・・・・ 73
テニス ・・・・ 74
ソフトボール ・・・・ 75
〔C群〕
柔道 ・・・・ 76
剣道 ・・・・ 77
ダンス ・・・・ 78
〔D群〕
エアロビックダンスⅠ ・・・・ 79
レクリエーションスポーツ ・・・・ 80
体づくり運動・健康体操 ・・・・ 81
障害者スポーツ ・・・・ 82
エアロビックエクササイズ ・・・・ 83
スノースポーツ ・・・・ 84
マリンスポーツ ・・・・ 85

コース専門科目

【野外スポーツ】

野外スポーツ基礎演習 ・・・・ 193・194
野外スポーツ演習（中野） ・・・・ 195・196
野外スポーツ演習（黒澤毅） ・・・・ 197・198
野外スポーツ演習（林綾子） ・・・・ 199・200
野外スポーツ演習（橋本） ・・・・ 201・202
野外スポーツ専門実習Ⅰ ・・・・ 86
野外スポーツ専門実習Ⅱ ・・・・ 87
キャンプカウンセリング ・・・・ 88
キャンプマネジメント ・・・・ 89
野外スポーツ理論と実践 ・・・・ 90
キャンプ指導法 ・・・・ 91

野外スポーツ指導法	・・・・	92
野外スポーツ特別講義	・・・・	93
野外スポーツプログラム	・・・・	94

【地域スポーツ】

地域スポーツ基礎演習	・・・・	203・204
地域スポーツ演習（上利）	・・・・	205・206
地域スポーツ演習（佐藤）	・・・・	207・208
地域スポーツ演習（黒須）	・・・・	209・210
地域スポーツ演習（村瀬）	・・・・	211・212
地域スポーツ演習（中道）	・・・・	213・214
地域スポーツ演習（秋武）	・・・・	215・216
地域スポーツ専門実習Ⅰ	・・・・	95
地域スポーツ専門実習Ⅱ	・・・・	96
地域社会とスポーツ	・・・・	97
地域スポーツの理論と実際	・・・・	98
生涯スポーツと地域保健	・・・・	99
こどものあそびと運動	・・・・	100
障害者スポーツ指導法	・・・・	101
中高齢者と生涯スポーツ	・・・・	102

【学校スポーツ】

学校スポーツ基礎演習	・・・・	217・218
学校スポーツ演習（川合）	・・・・	219・220
学校スポーツ演習（柴田）	・・・・	221・222
学校スポーツ演習（谷川）	・・・・	223・224
学校スポーツ演習（黒澤寛己）	・・・・	225・226
学校スポーツ演習（大西）	・・・・	227・228
学校スポーツ演習（髙松）	・・・・	229・230
学校スポーツ演習（股村）	・・・・	231・232
学校スポーツ専門実習Ⅰ	・・・・	103
学校スポーツ専門実習Ⅱ	・・・・	104
保健体育科教育課程論	・・・・	105
学校スポーツの理論と実際	・・・・	106
学校スポーツ指導法Ⅰ	・・・・	107
学校スポーツ指導法Ⅱ	・・・・	108
保健体育授業分析評価法	・・・・	109
教材開発演習Ⅰ	・・・・	110
教材開発演習Ⅱ	・・・・	111

【トレーニング・健康】

トレーニング゛・健康基礎演習	・・・・	233・234
トレーニング゛・健康演習（小松）	・・・・	235・236
トレーニング゛・健康演習（佃）	・・・・	237・238
トレーニング゛・健康演習（藤松）	・・・・	239・240
トレーニング゛・健康演習（禰屋）	・・・・	241・242
トレーニング゛・健康演習（田中）	・・・・	243・244
トレーニング゛・健康演習（武田）	・・・・	245・246
身体開発専門実習Ⅰ	・・・・	112
身体開発専門実習Ⅱ	・・・・	113
スポーツリハビリテーション	・・・・	114
運動処方と運動療法	・・・・	115
スポーツ生理学Ⅱ	・・・・	116
実践スポーツ栄養学	・・・・	117
身体開発システム論	・・・・	118
身体開発特別講義	・・・・	119
スポーツコンディショニング論	・・・・	120
スポーツコンディショニング特別講義	・・・・	121

【コーチング】

コーチング基礎演習	・・・・	247・248
コーチング演習（渋谷）	・・・・	249・250
コーチング演習（植田）	・・・・	251・252
コーチング演習（望月）	・・・・	253・254
コーチング演習（林弘典）	・・・・	255・256
コーチング演習（吉川）	・・・・	257・258
コーチング演習（白木）	・・・・	259・260
コーチング演習（北村）	・・・・	261・262
コーチング専門実習Ⅰ	・・・・	122
コーチング専門実習Ⅱ	・・・・	123
コーチング理論Ⅰ	・・・・	124
コーチング理論Ⅱ	・・・・	125
サッカーコーチング理論と実践	・・・・	126
バレーボールコーチング理論と実践	・・・・	127
バスケットボールコーチング理論と実践	・・・・	128
テニスコーチング理論と実践	・・・・	129
陸上競技コーチング理論と実践	・・・・	130
柔道コーチング理論と実践	・・・・	131
水泳コーチング理論と実践	・・・・	132
トップアスリート論	・・・・	133
コーチング理論Ⅲ	・・・・	134

【スポーツビジネス】

スポーツビジネス基礎演習	・・・・	263・264
スポーツビジネス演習（石井）	・・・・	265・266
スポーツビジネス演習（山本）	・・・・	267・268
スポーツビジネス演習（吉倉）	・・・・	269・270
スポーツビジネス専門実習Ⅰ	・・・・	135
スポーツビジネス専門実習Ⅱ	・・・・	136
スポーツマーケティング	・・・・	137
スポーツ・メディア論	・・・・	138
スポーツ施設イベントマネジメント	・・・・	139
スポーツ産業論	・・・・	140
スポーツスポンサーシップ	・・・・	141
スポーツマネジメント特別講義	・・・・	142

【スポーツ情報戦略】

スポーツ情報戦略基礎演習	・・・・	271・272
スポーツ情報戦略演習（豊田）	・・・・	273・274
スポーツ情報戦略演習（高橋）	・・・・	275・276
スポーツ情報戦略演習（山田）	・・・・	277・278
スポーツ情報戦略演習（藤林）	・・・・	279・280
スポーツ情報戦略専門実習Ⅰ	・・・・	143
スポーツ情報戦略専門実習Ⅱ	・・・・	144
身体操作法	・・・・	145
パフォーマンス分析論	・・・・	146
スポーツメンタルサポート論	・・・・	147
スポーツ指導支援	・・・・	148
ゲーム分析法	・・・・	149
スポーツ動作分析法	・・・・	150

【全コース】

卒業研究	・・・・	151

キャリア関連科目

エアロビックダンスⅡ	・・・・	152
エアロビックダンスⅢ	・・・・	153
レクリエーション指導法	・・・・	154
アスレティックトレーナー特別講座（1）	・・・・	155
アスレティックトレーナー特別講座（2）	・・・・	156
アスレティックトレーナー実習Ⅰ	・・・・	157
アスレティックトレーナー実習Ⅱ	・・・・	158
アスレティックトレーナー実習Ⅲ	・・・・	159
健康運動指導士特別講座（1）	・・・・	160
健康運動指導士特別講座（2）	・・・・	161
キャリア英語Ⅰ	・・・・	162
キャリア英語Ⅱ	・・・・	163
キャリア英語Ⅲ	・・・・	164
教職入門	・・・・	165
教師論	・・・・	166
教育心理学	・・・・	167
教育制度論	・・・・	168
生涯教育論	・・・・	169
教育課程論	・・・・	170
保健体育科教育法Ⅰ（体育）	・・・・	171
保健体育科教育法Ⅱ（保健）	・・・・	172
教材研究Ⅰ（体育）	・・・・	173
教材研究Ⅱ（保健）	・・・・	174
道徳の指導法	・・・・	175
特別活動論	・・・・	176
教育方法論	・・・・	177
生徒・進路指導論	・・・・	178
教育相談基礎論	・・・・	179
教育相談と学校カウンセリング	・・・・	180
教育実習指導	・・・・	181
教育実習Ⅰ	・・・・	182
教育実習Ⅱ	・・・・	183
教職実践演習（中・高）	・・・・	184
福祉と介護	・・・・	185
特別支援教育論	・・・・	186

栄養と健康

【担当】武田　哲子

■授業概要

人の体は食べたものからできている。何を、どのように食べるかは健康的な生活を送るために重要な課題である。この授業では食事の働きについて理解し、健康的な生活を実践するために必要な知識を修得することを目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：健康を維持しスポーツを実践するために必要な栄養・食生活に関する知識を習得する

目標：栄養・食生活に関する基礎知識および健康管理や運動実践に必要な知識を身につけ，自身の食生活に実践できるようになる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：ガイダンスと食事と健康に関する概説

授業の進め方，達成目標を確認する．

学修課題：授業内容に関して配布された資料の復習を行う．次回のキーワード（エネルギー源）について調べノートに記述してくる．

第２回：エネルギー源

エネルギー源になる栄養，食事，食生活の工夫を理解する．

学修課題：エネルギー源に関する資料を復習する．次回のキーワード（身体づくり）について調べノートに記述してくる．

第３回：身体づくり

身体づくりの材料になる栄養，食事，食生活の工夫を理解する．

学修課題：身体づくりに関する資料を復習する.次回のキーワード(身体機能の調節）について調べノートに記述してくる．

第４回：身体の機能調節

身体の機能調節を担う栄養，食事，食生活の工夫を理解する．

学修課題：身体機能調節に関する資料を復習する．次回のキーワード（身体組成，エネルギー消費の測定）について調べノートに記述してくる．

第５回：健康のための身体づくりの評価

体格や生活活動の評価方法を理解する．

学修課題：体格や生活活動の評価方法を復習し実践する．次回のキーワード（食事調査）について調べノートに記述してくる．

第６回：食生活の把握

食生活評価方法を学び，自分自身の食生活をふりかえる．

学修課題：食生活評価方法を復習し実践する．

第７回：前半授業と達成度チェック

前半授業のまとめを行う．

学修課題：次回のキーワード（成長期,身体的特徴）について調べノートに記述してくる．

第８回：成長期の食事の課題（身体的特徴）

体格の変化とそれに合わせた食事についてまとめる．

学修課題：成長期の身体的特徴に関する資料を復習する．次回のキーワード（成長期，肥満，アレルギー）について調べノートに記述してくる．

第９回：成長期の食事の課題（食生活の工夫）

成長期の肥満，アレルギーなど食生活における注意事項についてまとめる．

学修課題：成長期の肥満，アレルギーに関する資料を復習する．次回のキーワード（成人期，肥満）について調べノートに記述してくる．

第10回：成人期の食事の課題（肥満）

成人期の体重管理や肥満予防についてまとめる．

学修課題：成人期の体重管理や肥満予防についての資料を復習する．次回のキーワード（メタボリックシンドローム）について調べノートに記述してくる．

第11回：成人期の食事の課題（メタボリックシンドローム）

メタボリックシンドロームの予防についてまとめる．

学修課題：メタボリックシンドロームとその予防・対策に関する資料を復習する．次回のキーワード（高齢期，骨粗鬆症）について調べノートに記述してくる．

第12回：高齢期の食事の課題（骨の健康維持）

高齢期の骨の健康維持のための食生活についてまとめる．

学修課題：高齢期の骨の健康維持と食事に関する資料を復習する．次回のキーワード（サルコペニア）について調べノートに記述してくる．

第13回：高齢期の食事の課題（筋の健康維持）

高齢期の筋の健康維持のための食生活についてまとめる．

学修課題：高齢期の筋の健康維持と食事に関する資料を復習する．次回のキーワード（栄養教育）について調べノートに記述してくる．

第14回：栄養教育

栄養教育の方法論についてまとめ課題について考える．

学修課題：栄養教育に関する資料を復習する．レポート作成に向けた課題を設定し，資料を探索する．

第15回：後半授業のまとめと達成度チェック

後半授業のまとめを行う．

学修課題：最終レポートを作成する．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間試験（40%）：学期の前半の内容の理解度について40点満点で評価する

期末試験（40%）：学期の後半の内容の理解度について40点満点で評価する

レポート（20%）：栄養と健康の内容に関する知識を用い、指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コミュニケーションと身体表現

【担当】森川　みえこ

■授業概要

人との伝達の手段の1つに、携帯電話やインターネットが利用されている。しかしそこには本来のコミュニケーションが存在しているのであろうか。本来のコミュニケーションは、感情、思考、感動の伝達は言語、文字、視覚、聴覚をとおして行われることが本筋であろう。本講義では、初歩的な身体表現や言語表現に関する基本的な理論の知見を踏まえたうえで、現代社会に必要とされている表現力やコミュニケーション能力に着目した授業展開を実施する。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：コミュニケーションの種類や方法を知り、実践する。

目標：コミュニケーションの方法を知り、自己のコミュニケーション力を向上させる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション（身体表現とは）

コミュニケーションについて、受講生の自己紹介、授業の進め方、達成目標の確認

学修課題：自分の長所、短所を知っておく

第２回：非言語コミュニケーション①　身体表現

ダンス小作品から内容を読み取ったものをレポートにする。

学修課題：周辺の自然に目を向け感じる心を高める

第３回：非言語コミュニケーション②　絵画

自己表現、自己内面の気持ちを色でデフォルメ作品制作しグループ発表、その内容をレポートにする。

学修課題：相手の感情を読み取る練習をする

第４回：非言語コミュニケーション③　映像

チャップリンの「街の灯」無声映画を鑑賞し、レポートにする。

学修課題：他の映画を観賞する

第５回：遊びと表現１　実技

フォークダンスと伝承ゲーム

学修課題：一人でも多くの人とコミュニケーションをとる

第６回：非言語ミュニケーション④　視覚

外見の重要性を知り、その必要性についてレポートを作成する。

学修課題：前半の授業内容を整理しておく

第７回：非言語コミュニケーション⑤　身体表現

東洋、西洋の舞踊の歴史を追って舞踊作品の鑑賞とレポートを作成する

学修課題：音楽がもつ役割について調べる

第８回：非言語コミュニケーション⑥　聴覚

音と詩の表現を聴覚から感じ取り、レポートを作成する。

学修課題：年齢を問わずコミュニケーションをとる

第９回：言語コミュニケーション①　トロッコ問題

トロッコ問題を取り上げディスカッションとレポート作成を行う。

究極の選択をテーマにグループディスカッションを行う。

学修課題：人でも多くの人と話す機会を作る

第10回：遊びと表現２　実技

リズムダンスとゲーム

学修課題：自分自身のことについて考えてみる

第11回：言語コミュニケーション②　走れメロス

太宰治の走れメロスより刎頸の交わりについてレポートを作成する。

学修課題：どのような人と一日に何人挨拶をするにか調べる

第12回：言語コミュニケーション③　挨拶と第一印象

挨拶と第一印象についてレポート作成を行う。

学修課題：自己を振り返り特徴をまとめる

第13回：言語コミュニケーション④　前半

１分間で自己PRをまとめ発表

学修課題：周囲の人との会話の中で聞き取る練習をする

第14回：言語コミュニケーション⑤　後半

１分間で自己PRをまとめ発表

学修課題：全授業の整理をしておく

第15回：授業の総まとめ

14回の授業内容を通してコミュニケーションと身体表現の関連についてレポートを作成する

学修課題：今後人とのコミュニケーションを取り豊かな日々になることを目標にする

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内容の課題レポート提出は９回おこなう。指定された回数以上の出席がない場合、評価の対象としない。

各授業内容関する課題レポート（85%）：課題レポートに授業内容の要点と自分の考えをまとめられていること。および文章構成、文字に評価をおこなう。

最終授業課題レポート（15%）:15回の授業内容から、あらゆる方面からのコミュニケーションのとらえ方から、現在のコミュニケーション不足、今後のコミュニケーションのあり方についてのまとめのレポート

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

身体運動の表現学　山口恒夫　山口順子訳　泰流社舞踊と身体表現　日本学術会議文化人類学・民族学研究連絡委員会　財団法人　日本学術協力財団

■履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は授業内容により９課題のレポート提出があるため、欠席することによりその授業の評価は０点となります。

指定された回数以上の出席がない場合、評価の対象としない。

その回の授業の内容を丁寧に復習し、最終のレポート向けて予習をしてください。

現代社会と人間関係

【担当】若井　裕子

■授業概要
本科目は、人間関係に関る心理学の基本的知識の修得に基づき、現代社会の諸問題への理解を深めることを目的とする。現代社会でしばしば指摘され、メディアで報道される、人間関係に関る様々な問題を、統計資料や報道記事などからとりあげ、社会、臨床、発達、人格などの分野からの理解を示していく。体験的に理解を深めるために簡単な検査や実験なども実施する。

■養うべき力と到達目標
１．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：現代社会や人間関係に関する知見を学習することで，新たな視点を獲得したりそれまでに獲得していた視点を深めることができる。
目標：講義で学ぶ心理学の用語を理解し，概ね説明できるようになる。
２．DP7.自覚、誇り、道徳心
具体的内容：自分の人生やパーソナリティを，講義で学ぶ心理学の知見から振り返り，自分をより客観的に見つめられるようになる。
目標：自分や他者の言動について，心理学の視点から説明できる側面を増やす。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）
第１回：乳幼児期の発達と人間関係
脳科学の発展により，従来考えられてきたよりも乳幼児期においてヒトの脳は急激に発達し，たくさんの学習をしていることが明らかになってきた。第1回では,「社会的微笑」「ミラーニューロン仮説」「指差しやことばの発生」「三項関係の成立」の視点から，乳幼児がどのような過程で人間関係を形成しているかを学ぶ。
学修課題：「社会的微笑」「ミラーニューロン仮説」「指差しやことばの発生」「三項関係の成立」というような講義で扱った用語を用いて，乳幼児の人間関係について説明できるようにしておくこと。参考文献（『脳科学からみる子どもの心の育ち』,『子どもの発達と診断　1　乳児期前半』,『手にとるように発達心理学がわかる本』）のどれか1冊を読んでおくことが望ましい。
第２回：愛着理論から考える虐待問題
虐待死の報道が頻繁になされており，日本においても虐待は大きな社会的問題になっている。また,虐待を受けて育つと,自分が親になったときにも虐待を繰り返してしまいやすいことがわかってきた。そのような現象は虐待の世代間伝達（連鎖）と言われており,第2回では，愛着理論の視点から，虐待の世代間伝達を考察する。また，虐待問題に関係して起こる問題にメンタライジング（内省）力の弱さがある。虐待により，メンタライジングの力がどのように影響を受けるのか，虐待の世代間伝達の予防と修正愛着体験の関係についても学ぶ。
学修課題：自分の出身地や居住地における虐待の通告件数を調べ，身近な問題として考えられるようにする。また，なぜ虐待行動が世代間伝達してしまいやすいのか，虐待によりメンタライジングがどのように影響を受けるのか，修正愛着体験とは何かを説明できるようにしておくこと。また，参考文献（『ネグレクト―育児放棄　真奈ちゃんはなぜ死んだか』,『メンタライジング・アプローチ入門　愛着理論を生かす心理療法』）のどちらかを読んでおくことが望ましい。
第３回：ひきこもり問題から考える自閉スペクトラム症
近年，ひきこもりが社会的問題として取り上げられるようになってきた。家族内にひきこもっている人がいても，家族がその問題を抱え込んでしまい助けを求めないことはめずらしくなく，正確な実態はわかっていない。しかし，ひきこもりと発達障害の関連を多くの研究者が指摘しており，発達障害への支援体制の強化も大きな社会的課題である。第3回では，発達障害の中の自閉スペクトラム症を取り上げ，その特性とひきこもりの関連を考察する。
学修課題：現代社会の特徴とひきこもり問題を関連づけて，自分なりにどうしてひきこもり問題が大きくなってきているのかを説明できるようにしておくこと。
第４回：流行の漫画から考える心理学
第4回では，日本が世界に誇る文化の一つである漫画を題材にして，人間の欲求や一部のパーソナリティ障害について考察する。具体的には,「東京喰種」「キングダム」「7 SEEDS」を取り上げる予定である。
学修課題：一部でもよいので，講義で取り上げる漫画を読んでおくことが望ましい。また，漫画を通して人間の心理をどのように理解できるのかを自分なりに考えておく。
第５回：思春期に起こりやすい不適応から考える人間関係
思春期には自分とは何かを模索し，アイデンティティを形成しようとする。また，他者視点（他者から自分がどのように見えているのか）の弱さを持つ自閉スペクトラム症を有する人の中には，思春期にさしかかる前後に不適応に陥りやすくなる人がいる。第5回では,「心の理論」や視線恐怖症などの事例を通して，思春期の不適応について考察する。
学修課題：自分の思春期を振り返り，自分自身の当時の心情や友人の悩みなどを，講義で学んだ知見から再考し，説明できるようにしておくこと。
第６回：ネット・ゲーム依存問題から考える心理学
近年，特にアジア圏を中心にネット・ゲーム依存問題が深刻になってきている。韓国や中国では子どもの深夜の使用に制限をかけるなど，国ぐるみでの対策が取られるようになってきたものの，日本では対策が不十分であり，それに関連した問題が大きくなっている。また，ネット・ゲーム依存の低年齢化も進んでおり，今後の日本社会にとって見過ごせない状況にある。第6回では，依存症の問題を扱い，特に居場所感やオンラインでのコミュニケーションの視点から考察する。
学修課題：依存症の種類や定義を説明できるようにしておくこと。また，自分が陥っている依存症がないかを振り返り，そこから脱却するためにはどのようなことができるかを考察する。
第７回：民族紛争から考える心理学
私たちは，自分が所属している集団や文化は居心地が良く感じても，他の集団メンバーに対しては奇妙に感じることがある。そこで，第7回では，自分の集団と他集団との違い，集団と個人の利害の対立について，民族紛争，いじめ問題などから考える。
学修課題：「スケープゴート」「ステレオタイプ」「いじめの4層構造」について理解し，説明できるようにしておくこと。
第８回：自殺問題から考える心理学
長年タブー視され，あまり扱われてこなかった自殺問題だが，2012年においてWHOは初めて自殺を予防することは世界の優先課題だと言及したため，急激に研究されるようになってきた。第8回では，現代社会の優先課題でもある自殺を取り上げ，自殺に強い関連があるとされるうつ病などを取り上げ，考察する。
学修課題：講義で扱う，心理的視野狭窄，群発自殺などの専門用語を理解し，説明できるようにしておくこと。
第９回：影響の心理学
私たちは，自分でも気づかないうちに判断させられたり行動させられたりすることがある。そのため，気づかないうちに相手の思うつぼにはまってしまうこともありうる。また，マス・メディアなどからの情報が社会現象を生むことがある。そのため，個人レベル・社会レベルで私たちがどのように影響を受けているのかについて考える。
学修課題：マス・メディアの情報とインターネットの情報にはどのような異同があるのかについて調べ，自分で説明できるようにしておくこと。
第10回：現代社会と人間関係の心理学（1）
現代社会の状況が私たちの人間関係や心理に与える影響はさまざまである。第10回では，グループワークを行う。各グループごとに，現代社会の状況が私たちの人間関係や心理にどのような影響を与えているのかについて問いを立て，“善/悪”や“是/否”など，自分たちの答えを決め，その根拠を説明できるようにする。第14回の講義時間には，グループごとに発表する。たとえば,「AI（人口知能）の発達は望ましいか」「国際化社会によって，国境が曖昧になっていくことは望ましい」というような問いを立てることができる。
学修課題：講義の時間内で終わらなかった課題は，各グループで役割分担したり集まったりして完成させておくこと。
第11回：古くて新しい関係性：性的マイノリティ
2015年に文部科学省は初めて性的マイノリティ（少数者）である児童生徒に対してきめ細かな対応をするよう通達を出した。この通達の背景には，性的マイノリティが，マイノリティといえども決して少なくないことが理解されるようになってきたこともあると思われる。第11回では，性的マイノリティとは何なのかという基本的なことも踏まえ，性（セクシャリティ）や関係性について考察する。
学修課題：スポーツの世界では，性（セクシャリティ）についてどのような問題が起こっているのか，どのような対応がなされているのかについて調べたり考えたりして，自分なりに説明できるようにしておくこと。
第12回：環境が人間の行動に及ぼす影響の心理学
神社の周りにはゴミがあまり捨てられていない反面，荒廃しているように見える地域にはたくさんのゴミが捨てられているというように，私たちの言動は，あまり意識していなくても環境に影響を受けていることがある。第12回では，環境と人間の言動に関する心理学の知見を紹介し，それについて考察する。
学修課題：「割れ窓理論」とは何かを説明できるようにしておくこと。また，自分が将来就職したときや家庭を持ったときに，どのような環境を作りたいかについても考察しておくこと。
第13回：現代社会と幸福感
2012年以降，毎年国際連合は国別の幸福度を発表しており，日本の幸福度ランキングが取りざたされている。第13回では，幸福とは何なのかについて，さまざまな統計や報告を題材に考察する。
学修課題：幸福感という主観的な体験を，もし自分がアンケート調査などによって研究するとすれば，どのような尺度で測るのかについて考察する。必要に応じて研究法の書籍を読むことが望ましい。
第14回：現代社会と人間関係の心理学（2）
第10回で実施したグループワークにおいて各班が設定した問題提起，自分たちの答え，その答えに対する根拠を，班ごとに発表する。聴衆は，それらについて意見を出し合い，ディスカッションする。
学修課題：各班の発表を聞いて自分が興味を持った問題提起について，それに関連する文献を読み，自分なりの答えを出せるようにする。
第15回：まとめおよび総評
特に重要な考え方や専門用語について、最初の授業内容から順次確認し、講義全体を振り返る。
学修課題：試験に向け、重要な考え方や専門用語の意味を再確認し、整理しておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし，成績評価は「不可」となる。
私語，授業途中の入退室，不要な携帯電話等の機器の使用など，明らかなマナー違反があった場合には，欠席とみなすことがある。
期末試験（50%）：人間関係に関わる心理学の基礎知識の修得の程度を50点満点で評価する。
授業内での課題（30%）:毎回講義で学んだことや考えたことを小レポートとして提出し,それに基づき評価する(最終的には30点満点に換算する)。
グループワークの発表や個別のレポート（20%）:

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
乾敏郎『脳科学からみる子どもの心の育ち』（ミネルヴァ書房，2013年）
田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断　1　乳児期前半』（大月書房，1981年）
小野寺敦子『手にとるように発達心理学がわかる本』（かんき出版，2009年）
杉山春『ネグレクト―育児放棄　真奈ちゃんはなぜ死んだか』（小学館，2007年）
上地雄一郎『メンタライジング・アプローチ入門　愛着理論を生かす心理療法』（北大路書房，2015年）
ニキ・リンコ，藤家寛子『自閉っ子、こういう風にできてます！』（花風社，2004年）
小道モコ『あたし研究　自閉症スペクトラム～小道モコの場合』（クリエイツかもがわ，2009年）
石田スイ『東京喰種1』（集英社，2012年）
原泰久『キングダム1』（集英社，2006年）
田村由美『7 SEEDS　1』（小学館，2002年）
藤本忠明・東正訓『ワークショップ　人間関係の心理学』（ナカニシヤ出版，2004）
デボラ・ブラム（著），藤澤隆史・藤澤玲子（訳）『愛を科学で測った男　異端の心理学者ハリー・ハーロウとサル実験の真実』（白揚社，2014年）
その他，講義中に随時紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

人間の心理と行動

【担当】若井　裕子

■授業概要

本科目の目的は，心理学の基礎的知識の修得を通じて人間の心理や行動を理解するための手がかりを得ることである。できるだけ身近なテーマをとりあげて説明を加えることで，日常経験している出来事に対する認識を深めやすくする。また，体験的に理解を深めるために，簡単な心理検査やグループワークも実施する。

■養うべき力と到達目標

１．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：人間の心理や行動に関する知見を学習することで，新たな視点を獲得したりそれまでに獲得していた視点を深めることができる。

目標：講義で学ぶ心理学の用語を理解し，概ね説明できるようになる。

２．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容：自分の人生やパーソナリティを講義で学ぶ心理学の知見から振り返り，自分をより客観的に見つめられるようになる。

目標：自分や他者の言動について，心理学の視点から説明できる側面を増やす。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：乳幼児の発達と心理や行動

人間は，生後まもない時期から他者を意識するようになる。第１回では，「社会的微笑」，「ミラーニューロン仮説」，「指差し」，「ことばの発生」，「三項関係の成立」などの視点から，特に乳幼児期における人間の心理や行動を考える。

学修課題：「社会的微笑」「ミラーニューロン仮説」「三項関係」とは何かをそれぞれを説明できるようにしておくこと。参考文献（『手にとるように発達心理学がわかる本』，『脳科学からみる子どもの心の育ち』）のどちらか1冊を読むことが望ましい。

第２回：社会性やコミュニケーションに障害がある人の心理と行動

近年，知的能力に問題がないにもかかわらず，先天的に社会性やコミュニケーションに障害がある人の存在が広く知られるようになってきた。それらの人々は，自閉スペクトラム症（ASD）と言われ，定型発達（偏りのない多数派の発達）の人とは異なる感じ方や考え方をしていることがわかってきている。第２回では，ASDについて学び，人間の心理と行動を考える。

学修課題：自閉スペクトラム症とは何かを説明できるようにしておくこと。参考文献に示したものでなくてもよいので，自閉スペクトラム症に関する書籍を読むことが望ましい。

第３回：愛着関係とパーソナリティ

「揺りかごから墓場まで」と言われるように，幼少期の愛着関係は人の生涯に渡って大きな影響を与える。第３回では，愛着理論を紹介し，愛着関係が個人の自分観，他者観，世界観にどのような影響を及ぼすのか，愛着関係によって形成される愛着スタイルが，個人のパーソナリティや行動にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。また，近年注目されるようになってきたメンタライジング（内省）の力が育成されるにあたって愛着関係がどのように作用するのかも学ぶ。

学修課題：愛着とは何か，愛着スタイルの差異がその人のパーソナリティや行動にどのような影響を与えるのかを説明できるようにしておくこと。被虐待児のメンタライジングが弱くなるメカニズムを自分なりに考えておくこと。

第４回：出会いの心理学

人間関係は人との出会いから始まる。私たちは，初めて出会った人であっても短時間でその人への印象を形成し，その人の人となりなどを判断する。第４回では，どのようにその人への印象が作られるのか，どのように他者を認知するのかについて学ぶ。

学修課題：人はどのような要因から他者への印象を形成するのかを説明できるようにしておくこと。日常生活の中で，自分が他者と出会ったときにそれまでは意識していなかったことを考察しておくこと。

第５回：人を好きになる心理学

昔から「人を好きになる」ということについて，古今東西を問わず文学の世界で描かれてきたものの，心理学で扱われるようになったのは比較的最近である。「好き嫌い」や「愛」は非常にとらえどころのない曖昧な現象だが，人はなぜ他者に惹かれるのかについて考えてみる。

学修課題：「愛」とは何か，人がお互いに好意を持って交友関係を築くためには，どのような工夫があるとよいのかに対する自分なりの答えを言えるようにしておくこと。）参考文献に示した『愛を科学で測った男　異端の心理学者ハリー・ハーロウとサル実験の真実』を読んでおくことが望ましい。

第６回：集団の心理学

私たちの多くは何らかの集団（組織）に所属しており，人は集団になることで普段の自分とは異なる言動を取ることがある。第６回の講義では，集団からの影響，集団と集団の関係など，集団との関わりという側面から人間の行動や心理を考える。

学修課題：第６回での講義で扱った専門用語を説明できるようにしておくこと。集団の中で起こりやすい問題を想定し，そのような事態にはどのようなことに気をつければよいかを考えておくこと。

第７回：対人コミュニケーショを円滑にする心理学

私たちは，日々，他者と関わり合いをもち，お互いに影響を与え合いながら社会生活を営んでいる。そのような人間関係にはコミュニケーションを介して営まれている。そのため，対人コミュニケーションについての理解を深め，より良い人間関係を築き上げることについて考える。

学修課題：「自己開示」「アイコンタクト」「アサーション」について説明できるようにしておくこと。

第８回：自分自身を知る心理学

「自分のことは自分が一番よくわかっている」と言われる反面，「わかるようで一番わからないのが自分」とも言われている。自分のことを知っておくこと。

学修課題：講義で扱った心理検査の結果から，自分自身のパーソナリティを見立てておき，説明できるようにしておくこと。

第９回：人間の欲求や発達段階の心理学

マズローの欲求階層説，フロイトの心理・性的発達理論，エリクソンの心理・社会的発達理論などを紹介する。これらの理論を総合的にとらえ，人間の言動を欲求や発達段階の視点から考える。

学修課題：各仮説や理論をそれぞれ説明できるようにしておくこと。また，日常生活で起こりうる自分や他者の言動を，それらの理論から再考すること。

第10回：日常生活の中に潜む心理学（１）

私たちの日常生活の中にある出来事は，全て，心理学の研究対象になりうる。主体的に学ぶためにも，第10回では，グループワークを通して，日常生活の中で経験する些細な疑問から問いを立て，“善/悪”や“是/否”など，自分たちの答えを決め，その根拠を説明できるようにする。第14回の講義時間には，グループごとに発表する。たとえば，「授業のノートにおける綺麗さは，IQの高さと関連する」「3色ボールペンの使い分けには意味がある」などの問いを立てることができる。

学修課題：講義の時間内で終わらなかった課題は，各グループで役割分担したり集まったりして完成させておくこと。

第11回：群れる行動の心理学

前思春期における同性・同年齢の親友関係は，チャム（chumship）呼ばれており，前思春期にチャム関係を形成できるかどうかは，青年期における精神疾患の発症を緩和すると主張する研究者もいる。また，小学校中学年頃からギャングエイジと呼ばれる現象が生じるとされているものの，ギャングエイジが見られなくなってきていることも指摘されている。第11回では，チャムやギャングエイジの視点を取り上げ，群れる行動について考察する。

学修課題：チャムやギャングエイジとは何かを説明できるようにしておくこと。

第12回：精神分析的心理療法の視点から考える人間の心理と行動

フロイトが提唱した精神分析の流れを組む心理療法である精神分析的心理療法の中にはさまざまな心理学がある。第12回では，「無意識」，「意識」，「防衛機制」など，精神分析の簡易な用語，あるいはコフートの自己心理学を取り上げ，人間の心理と行動を考察する。

学修課題：防衛機制の種類と実例を整理し，意識にのぼらない他のさまざまな心の働きについても調べてみること。自分の性格を振り返り，コフートの自己心理学の視点から説明できるように考察する。

第13回：ストレスと人間関係の心理学

私たちの日常生活には，多くのストレスが存在しており，ストレスによって心身に不調をきたすこともある。第13回では，認知行動療法の基礎的な考え方を紹介し，人がいつの間にか形成している心の癖について考える。また，近年，大手企業などでもストレスマネジメントとして取り入れられているマインドフルネス認知療法の概要を紹介し，マインドフルネス呼吸法を体験する。

学修課題：「ストレス」「ストレッサー」「ストレス反応」について説明できるようになっておくこと。マインドフルネス呼吸法を実践し，自分の心身の変化を考察すること。

第14回：日常生活の中に潜む心理学（２）

第10回で実施したグループワークにおいて各班が設定した問題提起，自分たちの答え，その答えに対する根拠を，班ごとに発表する。聴衆は，それらについて意見を出し合い，ディスカッションする。

学修課題：各班の発表を聞いて自分が興味を持った問題提起について，それに関連する文献を読み，自分なりの答えを出せるようにする。

第15回：まとめおよび総評

講義全体を振り返りながら重要な考え方や用語を復習し、併せて心理学の全体像について考えてみる。

学修課題：試験に向け、用語の確認を中心としながら、講義全体の復習をしておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし，成績評価は「不可」となる。

私語，授業途中の入退室，不要な携帯電話等の機器の使用など，明らかなマナー違反があった場合には，欠席とみなすことがある。

期末試験（50%）：心理学の基礎知識の修得の程度を50点満点で評価する。

授業内での課題（30%）:毎回講義で学んだことや考えたことを小レポートとして提出し，それに基づき評価する(最終的には30点満点に換算する)。

グループワークの発表や個別のレポート（20%）：

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

小野寺敦子『手にとるように発達心理学がわかる本』（かんき出版，2009年）

ニキ・リンコ，藤家寛子『自閉っ子、こういう風にできてます！』（花風社，2004年）

小道モコ『あたし研究　自閉症スペクトラム～小道モコの場合』（クリエイツかもがわ，2009年）

藤本忠明・東正訓『ワークショップ　人間関係の心理学』（ナカニシヤ出版，2004）

デボラ・ブラム（著），藤澤隆史・藤澤玲子（訳）『愛を科学で測った男　異端の心理学者ハリー・ハーロウとサル実験の真実』（白揚社，2014年）

乾敏郎『脳科学からみる子どもの心の育ち』（ミネルヴァ書房，2013年）

上地雄一郎『メンタライジング・アプローチ入門　愛着理論を生かす心理療法』（北大路書房，2015年）

その他，講義中に随時紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

法と生活(日本国憲法を含む)

【担当】梶居　佳広

■授業概要

本講義は、法とは何か、それは私たちの生活とどのように関わり、そしていかなる意義を持つのかについて、日本国憲法を手がかりに考えることを目的としている。国家統治の基本を定めた法である憲法を学ぶことは、私たちの生活が依拠する「原則」を明らかにすることにもつながる。講義内容の理解を深める材料として関連の時事問題を適宜紹介する。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：法・人権に関する知識

目標：歴史的背景も踏まえたうえで法・人権の意義を理解することができる

2．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：日本国憲法に関する知識

目標：日本国憲法の人権・統治規定の特徴を理解することができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、法とは何か

「法」の定義を学びながら、法と日常生活の関わりを具体例に基づいて考えます。

2．法と法律の違いを学びます。

学修課題：法の定義についての配布レジュメ・資料の見直し。

第２回：人権獲得・憲法の歴史（19世紀まで）

人権獲得と近代憲法が成立した歴史を学びます（19世紀まで）。

学修課題：①人権獲得・憲法の歴史の配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第３回：人権獲得・憲法の歴史（20世紀）

人権獲得と近代憲法が成立した歴史を学びます（20世紀）。日本国憲法の制定についても学びます。

学修課題：①人権獲得・憲法の歴史についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第４回：基本的人権（１）人権総論

人権の分類の他、「公共の福祉」、外国人の人権、平等について学びます。

学修課題：①「公共の福祉」、外国人の人権、平等についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第５回：基本的人権（２）自由権と精神的自由

「自由権」の性質や種類を踏まえて、精神的自由について具体例を交えながら学びます。

学修課題：①精神的自由（表現の自由、信教の自由）についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第６回：基本的人権（３）経済活動の自由、身体の自由

経済活動の自由及び身体の自由の内容について具体例を交えながら学びます。

学修課題：①経済活動の自由及び身体の自由についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第７回：基本的人権（４）社会権

社会権が成立した時代背景を学ぶとともに、生存権の意義について考えます。

学修課題：①生存権の意義についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第８回：基本的人権（５）参政権

選挙の意義や原則を学ぶとともに、選挙権をめぐる各国の歴史を学びます。

学修課題：①選挙の意義についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第９回：統治機構（１）国会と立法権

「権力分立」の原則を学んだ上で、立法権の意義と役割を考えます。

学修課題：①立法権の意義と役割についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第10回：統治機構（２）国会の機能

国会の権能と組織について具体例を交えながら学びます。

学修課題：①国会の権能と組織についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第11回：統治機構（３）内閣

立法権との違いを念頭に置きつつ行政権の意義と役割を学ぶとともに、内閣の具体的な権能を学びます。

学修課題：①行政権の意義と役割についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第12回：統治機構（４）司法

立法権・行政権との違いを念頭に置きつつ司法権の意義と役割を学びます。

学修課題：①司法権の意義と役割についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第13回：統治機構（５）地方自治

「地方自治の原則（本旨）」を踏まえて、地方公共団体の権能を学びます。

学修課題：①地方公共団体の権能についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第14回：国境を超える人権

世界人権宣言や国連人権規約の制定、国際刑事裁判設立にみられる国家を超えた人権保障の動きを学びます。

学修課題：①国際レベルの人権保障についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。

第15回：まとめ（法と生活をめぐる現代的課題）

現在の「法と生活」をめぐる諸問題、例えば憲法改正の動きや人権問題の進展に関する論点を学ぶとともに、これらの問題について考えます。

学修課題：これまでに授業内で配布したレジュメ・資料を見直して定期試験に備える。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。なおコメントペーパーとは別に、希望者のみ、レポートの提出も受け付けます（出来により評価割合を変更します）。

コメントペーパー（30%）：授業内容を理解しているか、または授業を踏まえたうえで自己の見解をまとめられているか。

学期末試験（筆記試験）（70%）：論述中心の問題。授業内容をよく理解しているかどうかが評価の基準。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

履修者全員に購入を義務付ける指定教科書はないが、より深く学習したい受講生は以下にあげる本を購入するのが望ましいです。また、高校時代の政治経済ないし現代社会の教科書を参照するのもいいでしょう。　水島朝穂『18歳からはじめる憲法』(法律文化社、2016年)本体価格2,200円　978-4-589-037871-7。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

産業と経済

【担当】児山　俊行

■授業概要

21世紀の世界経済はグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報が地球上をダイナミックに動くようになっています。わが国・日本の産業も、高度経済成長期から長い間にわたり発展してきましたが、「バブル経済」、さらには「100年に１度」と言われる金融危機の痛手のため曲がり角に来ています。このような現代の産業や経済を（メディアやインターネットからの膨大な情報に惑わされることなく）どのような「眼」で見ていけば良いのでしょうか。この授業では、その基本的な「視点」「視角」を持てるよう、皆さんと考えていければと思っていま

■養うべき力と到達目標

1．DP11．忠恕の心

具体的内容：経済・産業の様々な事例を通じて、貨幣・利益至上主義でなくステークホルダー重視の社会貢献行動が持続的発展につながることを学ぶ。

目標：社会のための活動が自らの成長発展につながることを体得する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：おカネと商品

「産業」、及び貨幣・商品・利潤の意味内容について学ぶ

学修課題：社会の中で「商品」であるものとないものを区別して調べ、その基準について考える。

第２回：国の「豊かさ」とは

GDPとGNHの違いから国に豊かさについて考える。

学修課題：ブータン王国のGNH指標とその政治機構について調べる。

第３回：「働く」とは

労働とは何かについて学ぶ。

学修課題：リストラや長時間労働、ブラック企業について何が問題になっているかを調べる。

第４回：「インフラ」とは

経済と産業を支えるインフラの重要性について学ぶ。

学修課題：近年の水道管や橋脚などの事故を通してインフラの老朽化問題について調べる。

第５回：「労使協調」と日本企業のイノベーション

利潤の源泉である労働とそれを司る経営のあるべき関係について日本企業のイノベーションから見る

学修課題：現在の有名な日本企業のルーツについて調べる。

第６回：企業の社会的責任（CSR）

企業不祥事を通じて基本的CSRについて学ぶ

学修課題：最近の企業不祥事事例の全体像と原因について調べる。

第７回：経営理念

経営理念の有無と企業発展との関連

学修課題：有名な日本企業の掲げる経営理念を調べ、それぞれを比較検討する。

第８回：サステナビリティ経営

地球環境や様々な利害関係者と調和する経営について学ぶ。

学修課題：日本の大企業を一つ選び、その環境対策や福利厚生、株主対策、地域貢献などを調べる。

第９回：日本製造業の危機？

日本の家電メーカーの苦境の背景と要因について学ぶ。

学修課題：日本の有名家電メーカーの主力商品の世界シェアの変遷を調べ、家電量販店での陳列や売れ行きについて店員より聞き取りを行う。

第10回：現代のイノベーションとは①～ジョブズに学ぶ

スティーブ・ジョブズを通じて、現代のイノベーションの特徴について学ぶ。

学修課題：アップル社の歴史及びジョブズの行跡について調べる。

第11回：現代のイノベーションとは②～イタリアに学ぶ

メイド・イン・イタリーを通じて、現代イノベーションの特徴について学ぶ。

学修課題：イタリア製のブランドについて種類とルーツを調べ、販売店の店員にその魅力についてヒアリングする。

第12回：新たなメーカーの登場

新たなプレイヤーである海外メーカーや「一人メーカー」の登場を通じて現代産業の変化について学ぶ。

学修課題：日本市場で人気の海外メーカー製品について調べ、家電量販店での売れ筋とその要因をヒアリングする。

第13回：地域活性化について

「地方創生」政策やビジネス活動を通じた各地の地域活性化の取り組みからその可能性と課題について学ぶ。

学修課題：地方創生政策の基本的内容と東日本大震災の被災地ビジネスをいくつか調べ、その現状と可能性・課題について調べる。

第14回：ソーシャルビジネスとは

様々な社会問題にアプローチする社会起業家を通じてソーシャルビジネスの特徴について学ぶ

学修課題：ソーシャルビジネスと社会起業家について、日米での具体的事例をいくつか調べた上で、その基本的特性をおさえておく。

第15回：セカンドキャリア問題について

スポーツ選手の引退後のキャリア問題について考える。

学修課題：スポーツ選手引退後の問題を取材した新聞・雑誌・映像をチェックし、その問題にアプローチしている組織・団体を調べる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業態度（10%）：授業中での受講態度や質疑応答への積極性で評価する。

授業ごとのレポート（50%）：授業内容の理解度と論旨の明確さで評価する。

課題レポート（10%）：課題の理解度と論旨の明確さで評価する。

最終レポート（30%）：課題の理解度と論旨の明確さで評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

毎回の授業内容に関連したものをその都度紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

地域福祉とボランティア

【担当】齋藤　誠一

■授業概要

日本における「地域福祉」の理念を理解するとともに、ボランティア活動の意義を理解する。
地域社会の中で生きづらさを抱える人と地域社会との関係にある様々な「障害」について理解を深める。
先駆的、または身近なボランティア活動についてビデオ通して学びを深め、自身がかかわれるボランティア活動について検討するとともに実際に活動に参加する。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：講義やグループディスカッションを通して、地域社会に現存する「障害」について理解する。
目標：「障害」とは何か。「障害」について、自分はどう考え、何ができるのかを自身の言葉で語れるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：講義１　オリエンテーション（福祉への関わりについて）
講義受講についての注意事項等を連絡
講師がこれまで関わってきた福祉活動の紹介を通じて、福祉への関わりのきっかけについて気づく。
支援を受けるだけの存在として認知されがちな障害のある人が持つ可能性について気付くことを目的に、障害者と芸術表現についてのビデオ視聴する。
学修課題：講義の内容の振り返り、地域福祉や人権について調べる

第２回：講義２　人権と地域福祉
日本における人権について、法や条例の条文から理解する。
地域福祉を理解する－地域とは何か。福祉とは何か。
地域福祉の概念、歴史などを理解する。
学修課題：人権、地域福祉について復習するとともに糸賀一雄氏について調べる

第３回：講義３　滋賀の障害福祉について
滋賀の障害福祉を理解する。
ビデオ視聴「この子らを世の光に」（NHKビデオアーカイブから）
学修課題：滋賀の障害福祉について復習する

第４回：講義４　ボランティア活動について
ボランティア活動を理解する－その歴史と現況。
ボランティアの概念や意義、多様なボランティア活動について理解する。
学修課題：自身が取り組みたいボランティア活動について考え、参加の方法を調べる

第５回：講義５　障害を理解する①　障害とは何か
障害の概念、日本における障害者観の変遷について理解する。
現在の障害の定義（ICF国際生活機能分類）について理解する。
学修課題：ICF（国際生活機能分類）について復習し、さらに理解を深める

第６回：講義６　障害を理解する　②障害の種類
障害の種類（知的障害、精神障害、身体障害、高次脳機能障害、発達障害等）とその概要について理解する。
事例をもとに、障害へのかかわり方についてグループディスカッションする。
学修課題：障害の種類と概要について復習し、さらに理解を深める

第７回：講義７　見えにくい障害①（精神障害について）
精神障害者保健福祉の歴史と現状について理解する。
外から見えにく障害ならではの生きづらさについて理解する。
学修課題：精神障害について復習するとともに発達障害に関することを調べる

第８回：講義８　見えにくい障害②（発達障害について）
発達障害者福祉の現状、社会的課題について理解する。
外から見えにく障害ならではの生きづらさについて理解する
学修課題：発達障害に関して復習するとともに高齢者の福祉について調べる

第９回：講義９　高齢者福祉について
高齢者福祉と認知症について
少子高齢社会における、高齢者のケアと地域福祉について考える。
学修課題：高齢者福祉を振り返るとともに生活困窮者支援について調べる

第10回：講義10　生活困窮者支援について
生活困窮者支援について、その現状と課題について理解する。
ホームレス支援について先駆的な取り組みをまとめたDVDを上映する。
学修課題：これまでの講義の内容の復習及びボランティア活動への参加

第11回：講義11　グループディスカッション
地域福祉と障害をテーマとしたグループディスカッションを行う。
学修課題：ボランティアへの参加体験についてプレゼンする資料をまとめる

第12回：講義12　グループディスカッションとグループごとの発表
地域福祉と障害をテーマとしたグループディスカッションを行う。
グループごとにディスカッションの経過や中身についてスピーチする。
学修課題：授業の復習及び体験のプレゼン資料をまとめる

第13回：講義13　ボランティア体験を語る（準備）
ボランティアへ参加した体験を１人３～５分程度スピーチを行うため、その準備および発表練習を行う。
※13回、14回は同日に実施。
学修課題：講義で聞いたボランティア体験を基に自身が参加したいボランティア活動を調べる

第14回：講義14　ボランティア体験を語る（発表）
ボランティアへ参加した体験を１人３～５分程度スピーチを行う。
※13回、14回は同日に実施。
学修課題：これまでの講義資料を復習しておく

第15回：講義15　まとめの講義
地域社会で生きづらさを抱える人と地域社会との関係の中にある「障害」について
また、その「障害」を軽減するためのボランティア活動の意義について、講義や体験を振り返りながら改めて理解する。
学修課題：講義全体を振り返る

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

講義の期間中に、自身で選択したボランティア活動に参加し、その体験をレポート＆スピーチしてもらいます。
毎回の講義後の小レポート（40%）：講義で理解した内容、講義を受け考えた自身の意見等をきちんと述べられているか。
講義・グループワークへの参加態度（20%）：集中して講義に取り組んでいるか。グループワークの議論に進んで参加しているか。
ボランティア体験に関するスピーチ（資料原稿）（40%）：体験の概要及び体験の意義や自身の考えを伝える資料、口述となっているか。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業内で適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

高齢化と家族

【担当】江南　健志

■授業概要

本講義では、少子高齢化社会における高齢者と家族の関係性に関して、人口学・社会学・社会福祉学などの観点から多角的に検討を行う。とりわけ高齢者の生き方や家族意識などについての理解にポイントをおく。その際、基本的には日本の事例に焦点を当てるが、諸外国の状況との比較を常に念頭におきつつ、日本の特徴を明確化することを目的としている。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：高齢者に関する様々なトピックを通して高齢者の現状をより深く理解できる。「高齢化」問題を現在の高齢者の問題というよりも、むしろ今の若者たちが将来直面する問題として考える視点を身につける。

目標：上記の内容を高齢者と家族に関する事柄を、様々な情報やデータを用いて正確にかつ客観的に記述し、かつ批判的に考察できるようになること。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション（高齢化の現状と課題）

「高齢化と家族」を課題とする本講義の意味や意義について紹介する。

学修課題：本講義の意味や意義について説明したことをしっかりと理解し、考察すること。

第２回：人口構造の変動

人口問題研究所等による統計データを使用し、戦後日本における人口構造の変動を確認する。

学修課題：人口構造の変動について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第３回：日本における家族世帯の変動

日本の政府等による統計データを使用し、戦後日本における家族世帯の推移について考える。

学修課題：日本における家族世帯の変動について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第４回：老親と世代関係

高齢化する日本における老親との世代関係について考える。

学修課題：老親と世代関係について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第５回：社会福祉体制：国際的コンテクストから

高齢者ケアに（も）関連する（世界諸国での）社会福祉体制のあり方について学ぶ。

学修課題：社会福祉体制のあり方について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第６回：日本における家族政策

日本における社会福祉体制・家族福祉体制のあり方について学ぶ。

学修課題：日本における家族政策について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第７回：高齢者ケアと家族（１）（家族変動）

戦後日本における家族変動（小規模化等）の視点から、家族成員同士による高齢者ケアの困難について考える。

学修課題：高齢者ケアの困難について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第８回：高齢者ケアと家族（２）（ケアの現状）

日本における高齢者ケアの現状について考える。

学修課題：高齢者ケアの現状について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第９回：高齢者虐待

日本における高齢者虐待の現状について考える。

学修課題：高齢者虐待の現状について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第10回：高齢者と犯罪

初犯の高齢犯罪者、高齢受刑者が全国的に増加する傾向にあるが、その社会的要因について福祉や家族の観点から考える。

学修課題：高齢者と犯罪について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第11回：熟年離婚

離婚問題の中でも独特な現象である熟年離婚について考える。

学修課題：熟年離婚について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第12回：高齢者のQOL（１）（高齢者の暮らしやすいまち）

高齢者のQOL（生活の質）に焦点を当て、高齢者の暮らしやすいまちとはどのようなものか考える。

学修課題：高齢者の暮らしやすいまちについて配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第13回：高齢者のQOL（２）（高齢者の生きがい）

高齢者のQOL（生活の質）に焦点を当て、一般に（高齢者ではない世代に）あまりにも理解されていない「高齢者の生きがい」について考える。

学修課題：「高齢者の生きがい」について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第14回：地域社会の変容

コミュニティの維持・変容の観点から、高齢化と家族の問題について考える。

学修課題：高齢化と家族の問題について配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

第15回：まとめおよび総評

わたしたちの生活と高齢化、家族の問題との関連について、これまでの講義から総括する。

学修課題：これまでに講義で配布した資料と、それに関して行われた説明を熟読してしっかりと復習すること。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。欠席回数が5回以上の場合は授業放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

期末レポート（60%）：中間提出を含む。講義内容に対応した課題について、データ収集、分析、論理的な記述ができているかを重視する。

宿題、小テスト、リアクションペーパー（25%）：複数回の宿題と小テスト、授業毎のリアクションペーパーの提出（名前と学籍番号しか書いていないもの、授業の内容と関係のない記述は評価しない）をもとに総合的に評価する。

授業参加度・取り組み（15%）：授業への積極的な参加、発言や質問などに対して点数をつける。出席すれば自動的に加点される「出席点」ではないことに注意すること。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

講義中で紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると主に毎回４時間の授業外学修が求められます。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

私語、携帯電話の使用、他講義の内職などをおこなう講義中に行う学生については退室を求めることもあります。また、上記行為を行った学生には授業後のリアクションペーパーを配布しないことがあります。

身近な自然科学

【担当】西野　麻知子

■授業概要

現代に生きる私たちは、科学技術なしに生きていくことは出来ません。ごく身近な生活においても、地震や気候変動、環境問題への対応など、科学技術の知識と応用が求められています。本授業では、現代の科学について、社会人として最低限知っておくべき科学的なものの見方や考え方、および自然についての基礎知識について学びます。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：現代の自然科学への理解能力向上

目標：自然科学の基礎知識および科学的なものの見方を身につける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：本授業全体の概説

本授業全体のアウトラインを説明するとともに、科学リテラシーとはなにか、科学にできること、できないこと、科学と技術の違い、科学とエセ科学・疑似科学との違いを学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、科学リテラシーや科学と技術の違い、科学とエセ科学の違いについて復習しておくこと。

第２回：宇宙の成り立ちと太陽系

私たちが住む地球は、広大な宇宙の中の一つの恒星を周回する小さな惑星にすぎませんが、私たちが、今、なぜここにいるのかは、宇宙の存在なしには考えられません。宇宙の成り立ちと太陽系について、学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、宇宙の成り立ちと太陽系について復習しておくこと。

第３回：地球内部の構造と地震

地球内部の構造、プレートと火山の関係、地震のメカニズムについて学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、地球内部の構造と地震について復習しておくこと。

第４回：生物と環境

環境の変化が多くの生物を絶滅させる一方、新たな進化を促す原動力になっています。生物と環境との関係には、人と自然、人と環境との関係を考える上でのヒントが詰まっています。

学修課題：配布した資料をよく読み、生物と環境について復習しておくこと。

第５回：生物の世界

一見のどやかにみえる野生生物の世界は、実は厳しい生存競争にさらされています。生物は他の生物とどのように向き合い、厳しい生存競争を生き抜いているかを知ることは、私たちが社会で生きていく上でのヒントを与えてくれます。

学修課題：配布した資料をよく読み、野生生物の世界について復習しておくこと。

第６回：生命のしくみ（１）　生物の特徴、性の起源

世界は物理法則で支配されており、生物もこれらの法則から逃れることができません。しかし生物はこれらの法則にいかに対抗するかで進化してきました。生物が生きていく仕組みを学ぶことは、人が生きていくための基本を学ぶことでもあります。生物の特徴や性の起源等について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、生物の特徴や性の起源について復習しておくこと。

第７回：生命のしくみ（２）　単細胞生物と多細胞生物、生物の寿命

単細胞生物と多細胞生物、生物の寿命について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、単細胞生物と多細胞生物の違いや生物の寿命について復習しておくこと。

第８回：大気とその循環

大気とその循環のしくみについて学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、大気とその循環のしくみについて復習しておくこと。

第９回：水環境：海洋

海洋の特性、海洋の大循環について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、水環境、とくに海洋について復習しておくこと。

第10回：食料問題

食料は我々が生きていくのに不可欠なものです。過去から現在までの食料問題や日本の食糧自給率が低い理由について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、食料問題について復習しておくこと。

第11回：食料とエネルギー問題

食料問題と密接な関係にあるエネルギー問題について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、食料とエネルギーの関係について復習しておくこと。

第12回：エネルギー問題

日本はエネルギーも含め資源のほとんどない国で、石油をはじめ大部分の資源を輸入に頼っています。日本のエネルギー資源の現状と課題について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、エネルギー問題について復習しておくこと。

第13回：エネルギーと環境問題

2011年の福島原発事故から、日本では、エネルギー政策が大きな社会的課題となっています。太陽エネルギーも含め、今後のエネルギー問題を考える上で、課題となる論点について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、エネルギーと環境問題について復習しておくこと。

第14回：環境問題（１）　公害問題

日本の四大公害問題など、過去の環境問題について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、公害問題について復習しておくこと。

第15回：環境問題（２）　現代の環境問題

地球環境問題、生物多様性保全など、近年、社会的課題となっている問題から、循環型社会、持続可能社会の構築に向けて、私達が今後どのように対処していけばよいかを考えます。

学修課題：配布した資料をよく読み、現代の環境問題について復習しておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各授業の最後に、授業への理解度を判断するため10-15分程度の小テストや授業内容の要約等を行う。小テストの回答を他の学生に見せたり、書き写した場合、書き写した学生はもちろんのこと、見せた学生の得点もゼロとする。また授業時間中のインターネットからの書き写し等についても得点をゼロとし、場合によっては減点する。

期末試験では、事前配布用紙に本人が手書きで記入したもののみ持込み可とする。これは、授業内容を理解するには、受講者自らが重要事項を手書きする必要があると考えるからである。

私語がひどい場合は、教室から退出させる。

授業内容への質問は加点する。

毎回の授業内容の復習小テストまたは要約（60%）：各回４点x15回

授業内容をきちんと理解しているか、自分の考えを整理し、論理的に述べることができるかどうかで評価する。

期末試験（40%）：授業内容をきちんと理解しているか、自分の考えを整理し、論理的に述べることができるかどうかで評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

毎回資料を配布する。

ビル・ブライソン（楡井浩一訳）「人類が知っていることすべての短い歴史（上・下）」新潮文庫

クリストファー・ロイド（野中香方子訳）「137億年の物語　宇宙が始まってから今日までの全歴史」文芸春秋

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

科学リテラシーとは、科学に関係した知識、技能、ものの見方のことです。本授業は、現代の私たちが心豊かに生きるために、本学の学生に身につけておいてほしい科学の素養と科学的なものの見方、考え方について学びます。授業の成果をぜひ日々の生活に生かせるようになってください。

国際化と文化

【担当】小松　正道

■授業概要

これまで出会うことがなかったもの同士が接触することで新たな価値や摩擦が生まれるのは今に始まったことではありませんが，現代では移動手段や情報伝達の高速化によりそのスピードが加速しています．私たちは世界中で起こることを目にすることができるようになりましたが，しかし，それがすなわち「理解した」ということにはなりません．人間の文化的営みへの理解を深めるため，本講義では主に20世紀以降の文学や音楽，美術をテーマに，国際化をはじめとする「他者との接触」が文化をどのように変容，発展させてきたのかを考察します．

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：人文科学の諸分野に関する知識

目標：国際化した世界に対応できる基準となる文学，音楽，美術についての教養を身につける．

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：批評的視野

目標：自分の力で調査，検証し，客観的な言葉で説明する能力を身につける．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：イントロダクション：「国際化と文化」について考える

「国際化」と「文化」について定義づけ，これからの講義で行うことが学問分野でどのように位置づけられるのか全体の見取り図を示す．

学修課題：「国際化と文化」について復習する

第２回：国際化のダイナミズム（１）―「人種」という問題

人種とは生物学的な分類ではなく，社会的に作り上げられた概念であることを確認し，これまで「人種」がどのように機能してきたか歴史をとおして概観する．

学修課題：「人種」という問題について復習する

第３回：国際化のダイナミズム（２）― ディアスポラの諸文化

「ディアスポラ（民族離散）」という述語を通じて，本来の意味のユダヤ人のみならず，ブラック・ディアスポラと呼ばれるアフリカ諸民族や，中国人などの離散の歴史と各地に根付く文化について概観する．

学修課題：ディアスポラの諸文化について復習する

第４回：文化の諸相（１）― 米国音楽

ブルースやジャズといったアメリカ合衆国で生まれた音楽の民族固有性と普遍性について考察する．

学修課題：米国音楽について復習する

第５回：異文化への眼差し（１）― 植民地の問題

不均衡な関係が人間や文化にどのような影響をもたらすか，アフリカやカリブ海，アジアなどに植民地を有したフランスを例に取り概観する．

学修課題：植民地の問題について復習する

第６回：異文化への眼差し（２）― オリエンタリズム

文学や絵画における異国趣味（「オリエンタリズム」「エキゾティズム」）への批判について，エドワード・サイードらの思想を通して理解する．

学修課題：オリエンタリズムについて復習する

第７回：異文化への眼差し（３）― 異邦人たちのパリ

国際都市として知られるパリの成り立ちを中東やインド，アジア，アフリカからの移民や来訪者の歴史を通じて学ぶ．映画やミュージックビデオ，文学作品を適宜用いる．また今日ヨーロッパに訪れている難民の現状についても紹介する．

学修課題：異邦人たちのパリについて復習する

第８回：文化と思想（１）― フロイトと精神分析

ジークムント・フロイトの精神分析学における「無意識」や「心的構造論（エス，自我，超自我）」について学び，それらが性別や地域，習慣を越えて人類に適応されることに注目する．

学修課題：フロイトと精神分析について復習する

第９回：文化の諸相（２）― 第一次世界大戦とシュルレアリスム

第一次世界大戦後にフランスで始まり，やがて国際的に広まっていった20世紀最大の芸術運動であるシュルレアリスムの夢や無意識を重視する理論や手法，作品，また二つの大戦間という時代状況との関わりについて理解を深める．

学修課題：第一次世界大戦とシュルレアリスムについて復習する

第10回：文化の諸相（３）― シュルレアリスムの展開

前回に引き続き，フロイトの精神分析の強い影響下で夢や無意識，非合理に目を向け，現実の新しい見方や生き方を模索したシュルレアリスムの国際的な受容や展開について学ぶ．

学修課題：シュルレアリスムの展開について復習する

第11回：文化と思想（２）―「他者とは地獄である」

実存主義の哲学者サルトルの思想を振り返るとともに，「見る」（主体），「見られる」（客体）の関係や，他人が「私」に抱く偏見を身にまとってしまう他人の眼差しの「内面化」（自己の客体化，モノ化）について考察する．

学修課題：「他者とは地獄である」について復習する

第12回：文化と思想（３）― レヴィ＝ストロースと「野生の思考」

文明人や未開民族などいかなる人類にも共通の無意識を「構造」という形で明らかにした文化人類学者クロード・レヴィ＝ストロースの仕事を通して，私たちがいかに西洋近代的な偏ったものの見方を身につけているか考察する．

学修課題：レヴィ＝ストロースと「野生の思考」について復習する

第13回：文化のダイナミズム（１）― ネグリチュードの文学

セゼールやサンゴールらフランスの植民地出身の詩人による1930年代以降の黒人文学運動により生まれたネグリチュードという黒人性を称揚する思想とその反響について考察する．

学修課題：ネグリチュードの文学について復習する

第14回：文化のダイナミズム（２）― クレオールとはなにか

20世紀後半のフランス領カリブ海諸島で生まれたクレオール文学を通してクレオールという概念を理解する．

学修課題：クレオールについて復習する

第15回：まとめおよび総評

これまでに紹介した国際化と文化をめぐる様々な言説を整理する．

学修課題：半期の内容を復習する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業期間中に課すレポート（40%）：講義で得た知識や能力を発揮して文献を調査，精読し，自分の言葉で考察すること．盗用・剽窃は一切認めない．

学期末レポート（60%）：講義で得た知識や能力を発揮して文献を調査，精読し，自分の言葉で考察すること．盗用・剽窃は一切認めない．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

フロイト『人はなぜ戦争をするのか:エロスとタナトス』（光文社古典新訳文庫，2008）

酒井健『シュルレアリスム？：終わりなき革命』（中公新書，2011）

サルトル『嘔吐』（人文書院，2010）

サルトル『実存主義とは何か』（100分 de 名著）（NHK出版，2015）

レヴィ＝ストロース『野生の思考』（100分 de 名著）（NHK出版，2016）

セゼール『帰郷ノート/植民地主義論』（平凡社ライブラリー，2004）

セゼール『ニグロとして生きる』（法政大学出版局，2011）

シャモワゾー『素晴らしきソリボ』（河出書房新社，2015）

ほかテーマごとに授業中に紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため，毎回４時間以上の授業外学修が求められる．

「授業外学修課題」に取り組むことに加えて，その回の授業の内容を復習し，次回の授業に備えて予習をすること．

地球の歴史と琵琶湖

【担当】西野　麻知子

■授業概要

世界でも有数の古代湖である琵琶湖の周囲には、古くから人々が住み豊かな自然のもとで様々な歴史が刻まれてきました。本授業の前半では琵琶湖の自然特性について、後半では豊かな自然の中で人々の営みがどのように繰り広げられてきたかを中心に学び、人と自然の関わりはどうあるべきかについて考えます。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：人と自然との関係の理解

目標：地域の自然特性を理解し、人と自然の関わりのありかたについて自らの意見をもつことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：本授業の概説

本授業の全体像について概説するとともに、琵琶湖についての基礎知識を学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、本授業の全体像について復習しておくこと。

第２回：地球の歴史

地球内部の構造や、海洋や大陸の起源をはじめとする地史を中心に、地球の歴史について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、地球の歴史について復習しておくこと。

第３回：日本列島の歴史

日本列島と琵琶湖の地史について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、日本列島と琵琶湖の地史について復習しておくこと。

第４回：琵琶湖と集水域の地形特性

琵琶湖は古琵琶湖から数えて約400万年、現在の場所に湖盆が形成されてからでも40数万年の歴史をもつ古代湖です。琵琶湖の歴史と集水域や近畿の地形特性との関連について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖の歴史と近畿の地形特性について復習しておくこと。

第５回：琵琶湖の生物多様性

琵琶湖には、世界中で琵琶湖にしかいない固有種をはじめ、多くの動植物が生息しています。これらの生物と琵琶湖の地史との関係を学ぶとともに、生物多様性保全の意義について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖の生物多様性について復習しておくこと。

第６回：琵琶湖の物理・化学的特性

琵琶湖は近畿1450万人の生活用水、農業用水、工業用水をささえる命の湖です。私たちの命を支える水の性質や、水の量、深い湖沼特有の水温構造、湖流について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖の物理・化学的特性について復習しておくこと。

第７回：琵琶湖の富栄養化とその変遷

近畿1450万人の飲み水を提供している琵琶湖では、1977年に初めて赤潮が発生して以来、富栄養化が大きな社会問題となってきました。琵琶湖の富栄養化とその変遷および現状について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖の富栄養化とその変遷について復習しておくこと。

第８回：琵琶湖の生態系とその変遷

琵琶湖の生態系は、外来魚の増加や、湖岸堤の建設等による湖岸の形状変化、地球温暖化の影響も加わって、大きく変わろうとしています。その変遷と現状について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖の生態系とその変遷について復習しておくこと。

第９回：琵琶湖と人の関わり：琵琶湖と生業（なりわい）

滋賀県は、かつては農業、漁業中心の１次産業県でしたが、現在は３次産業が卓越しています。琵琶湖の周囲の人々の生業、特に琵琶湖漁業について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖と生業について復習しておくこと。

第10回：琵琶湖と人の関わり：先史時代

琵琶湖とその周囲は、古代および中世には日本の政治の中心でもありました。その時代の琵琶湖と人々の関わりについて学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖と人の関わりについて復習しておくこと。

第11回：学外授業

前期は近江八幡市宮ヶ浜での地曳網による魚介類や水草類の採集および種の同定・計測、あるいは琵琶湖博物館での講義および学習を、後期は琵琶湖源流の森トチノキ巨木林での計測を予定しています。半日の授業のため、授業２回分となります。

学修課題：指定された課題および学習した内容をレポートにまとめること。

第12回：学外授業

前期は近江八幡市宮ヶ浜での地曳網による魚介類や水草類の採集および種の同定・計測、あるいは琵琶湖博物館での講義および学習を、後期は琵琶湖源流の森トチノキ巨木林での計測を予定しています。半日の授業のため、授業２回分となります。

学修課題：指定された課題および学習した内容をレポートにまとめること。

第13回：琵琶湖と人の関わり：古代～中世

琵琶湖の湖底および周囲には多くの遺跡が分布し、遺物も多く出土しています。遺跡や遺物の特性から、先史時代の人々の暮らしについて学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖と人の関わりについて復習しておくこと。

第14回：琵琶湖と人々の関わり：琵琶湖と文化

琵琶湖の名称の歴史的変遷や琵琶湖をめぐる文化について学びます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖をめぐる文化について復習しておくこと。

第15回：琵琶湖の環境問題と今後の展開

琵琶湖の環境問題の経緯と現状について学び、今後、自然を生かしつつ、心豊かな社会をどう作り上げていけばよいのかについて、滋賀県（＝琵琶湖とその集水域）を事例に、その道筋と課題を考えます。

学修課題：配布した資料をよく読み、琵琶湖の環境問題について復習するとともに、自らの考えを整理し、まとめること。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各授業の最後に、授業の理解度を判断するため10-15分程度の小テストまたは要約を行う。小テスト等の回答を他の学生に見せたり、書き写した場合、書き写した学生はもちろんのこと、見せた学生の得点もゼロとし、場合によっては減点する。また授業時間中のインターネットからの書き写し等については、得点をゼロとする。

期末試験では、事前配布用紙に本人が手書きで記入したもののみ持込み可とする。これは、授業内容を真に理解するには、受講者自らが重要事項を手書きする必要があるとの考えによる。

私語がひどい場合は、教室から退出させる。

質問やよいアイデアを提出した場合は、加点する。

授業内容の復習小テスト（52%）：各回４点x13回

授業内容をきちんと理解しているか、自分の考えを整理し、論理的に述べることができるかどうかで評価する。

学外授業レポート（８%）：課題に真摯に取り組んだかどうか、学外授業の意義について自分の考えを整理し、論理的に述べることができるかどうかで評価する。

期末試験（40%）：授業内容をきちんと理解しているか、自分の考えを整理し、論理的に述べることができるかどうかで評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

琵琶湖ハンドブック改訂版（http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/koai/handbook/kaiteiban.html）。

他の参考書等は、毎回の授業時に紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学外授業については、現地までの交通費等（1000円前後）が必要となる。前期は琵琶湖岸での地曳網による魚介類や水草類の採集および種の同定・計測、あるいは琵琶湖博物館での講義および学習を、後期は琵琶湖源流の森トチノキ巨木林の計測を予定している。

琵琶湖のほとりにある大学で、世界有数の古代湖である琵琶湖の自然や歴史について学ぶことは、本学の学生として備えておくべき教養のひとつです。滋賀県や琵琶湖に関する図書は沢山出版され、テレビや新聞でもしばしば報道され、インターネットでも発信されていますが、意外に知らないことが多いものです。分からないことがあれば、まずは自分で調べる習慣をつけましょう。それでも分からないことがあれば、いつでも研究室に聞きに来てください。

陶芸と地域伝統文化

【担当】度會　保浩

■授業概要

昨今スポーツ選手の間で、陶芸をオフシーズンのトレーニングに取り入れている人が増えている。土という自然鉱物と向き合って、自身の五感に刺激を与え何かに挑戦しようという姿勢や集中力を、限られた時間の講義の中で育んでいって欲しい。講義内容は多種の土を使い分けた実技／彩色を中心に、その中で陶芸を通じた日本の伝統文化や、歴史との関わりあいを指導していきます。土に触れて見て、人や物に対する優しさ／大切にする気持ちを、各自が感じ持って欲しいと思います。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：講義では滋賀県を中心とした日本陶磁史について学習します。実習では陶芸の基本技法による制作と信楽焼の伝統技法による制作を行います。

目標：滋賀県の伝統文化や日本独自のものづくり文化を認識／体感して、これからの社会生活の中でそれを生かし、自分自身を高めていけるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：講義内容の説明／やきものを知る
15週の講義形態の説明とやきものの基礎知識の講義。
学修課題：やきものの基礎知識について復習する

第２回：手びねり技法による制作
実際に粘土を使い基本形態である円筒を制作します。
学修課題：手びねり技法の理解

第３回：絵付けの講義とスケッチ
陶磁器の装飾の講義／ビデオ鑑賞の後、円筒への加飾用の図案を考えます。その後実際に使用する筆を用いて運筆を行います。
学修課題：陶磁器の装飾について考える

第４回：絵付け実習
前回スケッチした図案を元に制作した円筒へ絵付けを行います。
学修課題：陶磁器の装飾方法について理解しておく

第５回：蹲壷（うずくまる壷）の制作（土練）
滋賀県産の原土を中心とした３種類の土で蹲壷（穴窯焼成用）制作用の粘土を生成します。
学修課題：信楽焼についての理解を深める

第６回：蹲壷の制作（成形）
第５回の講義で生成した粘土を用いて穴窯焼成用の蹲壷を制作します。
学修課題：作品デザインについて考えておく

第７回：日本のやきもの
六古窯を中心とした日本のやきものの講義と焼き上がった円筒の鑑賞。
学修課題：日本のやきものについて理解を深める

第８回：近江のやきもの
滋賀県のやきものの歴史についての講義／焼き上がった円筒の観賞。
学修課題：滋賀県のやきものの歴史について理解を深める

第９回：信楽焼講義（前半）
信楽の成り立ちと信楽焼の歴史。
学修課題：作品デザインについて考えておく

第10回：穴窯の焼成実習
陶芸の森で校外実習を行います。
１）穴窯による蹲壷の焼成を体験します。
２）釜山窯・登り窯・穴窯の見学。
３）滋賀県立陶芸の森陶芸館の展示観賞。
学修課題：これまでの講義内容について復習しておく

第11回：穴窯による蹲壷の焼成を体験
穴窯による蹲壷の焼成を体験する。
学修課題：穴窯による蹲壷の焼成について復習する

第12回：釜山窯・登り窯・穴窯
釜山窯・登り窯・穴窯について学修する。
学修課題：釜山窯・登り窯・穴窯について復習する

第13回：滋賀県立陶芸の森陶芸館の展示観賞
滋賀県立陶芸の森陶芸館の展示観賞を体験する
学修課題：滋賀県立陶芸の森陶芸館について復習する

第14回：信楽焼講義（後半）
信楽焼と茶道具の講義と校外学習で焼成した蹲壷の鑑賞。
学修課題：校外学習で学習したことを復習しておく

第15回：現代陶芸と陶芸と地域伝統文化の総括
現代陶芸の講義と陶芸と地域伝統文化の講義を振り返り総括する。
学修課題：やきものの歴史を復習しておく

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

実習作品の達成度（60%）：円筒と蹲壷の2点の達成度
期末レポート（40%）：校外実習の感想（薪窯焼成／展覧会の感想）か講義で陶芸や地域の伝統文化についてどの様な感想を持ったかのどちらかのテーマを選択し提出

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「日本のやきもの史」監修／矢部良明（美術出版社、1998年）
「近江やきものがたり」編著者／滋賀県立陶芸の森（京都新聞出版センター、2007年）
その他参考資料については、講義に合わせて紹介していく

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
教材費（焼成費・粘土代金）として、3000円程度必要。

教育学概論

【担当】田村　徳子

■授業概要

誰もが「教育」を受けた経験があるため、誰もが「教育」を知っているように捉えがちである。しかし、教員にとって必要なのは、自らの経験の枠を超えた「教育」を知ることである。本講義では、これまで受けてきた「教育」以外の「教育」を知る手がかりとして、教育の理念、歴史、思想を学び、今日の教育や学校教育のあり方についての理解を深めることを図る。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：教育の基本的概念を身につける。

目標：教育の基本的概念について説明できる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：教育の理念・歴史の変遷を理解する。

目標：教育の理念・歴史の変遷について説明できる。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：教育理念・思想と、実際の教育や学校との関係を理解する。

目標：教育理念・思想と、実際の教育や学校との関係について、具体例を挙げて説明できる。

４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：他者との意見交流をとおし、教育の理念・歴史・思想と、実際の教育や学校の関係について、多角的に捉え直し、自分の意見を構築する力を身につける。

目標：特定のテーマに対し、客観的理由および自分なりの理由を挙げて意見を述べることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：オリエンテーション：「教育」とは何か

「教育」の意味について考える。あわせて、講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。

学修課題：「教育」と聞いてイメージすることを考えておく。

第２回：教育の本質

教育学の概念と教育の本質、目標について理解する。

学修課題：教育の本質や目標について、配布資料をもとに復習する。

第３回：古代ギリシアの教育

古代ギリシアの教育について学ぶ。

学修課題：古代ギリシアの教育について、配布資料をもとに復習する。

第４回：近代教育制度の歴史的展開

近代教育制度の歴史的展開について学ぶ。

学修課題：近代教育制度の歴史的展開について、配布資料をもとに復習する。

第５回：日本における公教育制度の歴史的展開

日本における公教育制度の歴史的展開について学ぶ。

学修課題：日本における公教育制度の歴史的展開について、配布資料をもとに復習する。

第６回：西洋における教育思想の潮流

西洋における教育思想について学ぶ。

学修課題：西洋における教育思想について、配布資料をもとに復習する。

第７回：日本における教育思想の潮流

日本における教育思想について学ぶ。

学修課題：日本における教育思想について、配布資料をもとに復習する。

第８回：前半授業のまとめ

前半授業のまとめを行う。

学修課題：前半授業の配布資料を整理し、復習する。

第９回：学力とゆとり教育

子どもたちに必要な教育をめぐる論争について学ぶ。

学修課題：学力とゆとり教育について、配布資料をもとに復習する。

第10回：教師と子どもの関係性

教師と子どものより良い関係性について考える。

学修課題：教師の子どもへの関り方について、配布資料をもとに復習する。

第11回：ジェンダーと教育

ジェンダーについて学び、ジェンダーの視点から学校教育について考える。

学修課題：ジェンダーと教育について、配布資料をもとに復習する。

第12回：セクシュアリティと教育

セクシュアリティについて学び、セクシュアル・マイノリティの視点から学校教育について考える。

学修課題：セクシュアリティと教育について、配布資料をもとに復習する。

第13回：特別支援教育

特別支援教育の歴史について学び、インクルーシブ教育について考える。

学修課題：インクルーシブ教育について、配布資料をもとに復習する。

第14回：家庭教育、地域の教育

子どもの教育をめぐる家庭と地域の機能とその変遷について学ぶ。

学修課題：家庭教育、地域の教育力について、配布資料をもとに復習する。

第15回：後半授業のまとめ

後半授業のまとめを行う。

学修課題：後半授業の配布資料を整理し、復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業への参加状況（50%）：毎回提出するリフレクションペーパーおよびディスカッション等への参加で評価する。

授業内の小レポート（50%）：授業内に小レポートの作成を２回（25点満点×２回）実施する。授業内容に関して理解を深められているか、自分なりの考えを確立できているかという観点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

安彦忠彦・児島邦宏・藤井千春・田中博之編著（2012）『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房

酒井朗・多賀太・中村高康編著（2012）『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

現代社会とジャーナリズム

【担当】内田　孝

■授業概要

ジャーナリズムとは何か。誰もが日々を生きるうえで求められるメディアの活用法を学ぶ。その手段として、主に新聞記事がどう組み立てられて紙面化されるのか、どのように読めばよいのかを伝える。報道機関としての新聞社、通信社、テレビ局の概要を知り、大学の所在地・滋賀県、琵琶湖や隣接する京都についての報道の実際を読み解く。国内外の注目すべきニュースを毎回取り上げ、新聞やテレビ、ネットが伝えるニュースの理解度を深める。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：ジャーナリズムに関する知識

目標：新聞、テレビなどで報じられる日々のニュースを理解し、将来の目標設定に役立てられるようにする。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよびジャーナリズムの概説

スケジュール、評価方法、講義の進め方などを説明し、ジャーナリズムについての小レポートを課します

学修課題：ジャーナリズムについて復習を行い、次回のキーワード（通信社）について調べてくる。

第２回：新聞社について学ぶ

新聞社を紹介し、その種類、機能と役割について学ぶ

学修課題：新聞社について復習し、次回のキーワード（通信社、放送局）について調べてくる

第３回：放送局について学ぶ

日本の代表的な放送局を紹介し、その機能や役割を確認する。

学修課題：放送局について復習し、次回のキーワード（新聞社）について調べてくる。

第４回：ニュース編集について学ぶ

ニュースの価値判断、見出し、レイアウトなど「ニュース編集」を紹介し、その機能や役割を知る

学修課題：新聞社について復習し、次回のキーワード（新聞記事）について調べてくる

第５回：新聞記事について学ぶ

新聞の構成について学ぶ。社説などの記事を読み、「見出し」をつけてみる

学修課題：新聞の構成について復習し、次回のキーワード（事件・事故報道）について調べてくる

第６回：事件・事故報道を理解する

取材活動の基本となる事件・事故報道の現状を紹介し、ジャーナリズムのあり方を考える

学修課題：事件・事故報道を復習し、次回のキーワード（報道機関の災害協定）について調べてくる

第７回：報道機関の災害協定について考える

阪神・淡路大震災と神戸新聞社、京都新聞社間の災害協定を紹介する

学修課題：報道機関の災害協定について復習し、非常時に報道を継続することの意義を学ぶ

第８回：中間まとめおよび後半の主題「ジャーナリズムの実際」についての概説

今まで学んできたジャーナリズムに関する事項をまとめ、その理解度を確認する

学修課題：前半授業の内容を整理し、次回のキーワード（報道写真）について調べてくる

第９回：報道写真について考える

報道写真と、その意義を振り返り、あるべき姿を考える

学修課題：報道写真について復習し、次回のキーワード（災害報道）について調べてくる

第10回：災害報道を学ぶ

災害発生時の取材と報道について学ぶ

学修課題：災害報道について復習し、次回のキーワード（政治報道）について調べてくる

第11回：選挙・政治報道を学ぶ

６月24日に実施された滋賀県知事選などを振り返りながら、選挙・政治報道について考える

学修課題：選挙・政治報道などについて復習し、次回のキーワード（地域報道）について調べてくる

第12回：地域報道を学ぶ

琵琶湖と環境問題など、足元の報道のあり方を考える

学修課題：地域報道について復習し、次回のキーワード（明治維新150年）について調べてくる

第13回：明治維新150年、平成30年など歴史報道を学ぶ

歴史を検証する報道の具体例を紹介し、あり方を考える

学修課題：歴史の検証報道などについて復習し、出版について調べてくる

第14回：出版・雑誌とジャーナリズムを考える

出版ジャーナリズムの実際を紹介し、あり方を考える

学修課題：出版ジャーナリズムについて復習し、後半の講義についてまとめる

第15回：まとめおよび総評

今まで学んできた授業を振り返り、あらためて理解した内容を確認する

学修課題：ジャーナリズムとその実際に関する授業内容をまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（60%）：講義内容の理解度について毎回評価する（４点×15回）

試験（40%）：ジャーナリズム、ニュースの読み解き方を理解しているかを問う。問題は、授業中に追って指示する。試験に際し、ノート、書籍は持ち込んでもよい。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

新聞などの切り抜きを提供する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

情報と統計

【担当】木村　聡

■授業概要

情報と統計について、なるべく幅広い話題を取り上げ、様々な場面でのコンピュータと統計の利用法を考える。統計との関わりが深い人工知能(AI)についても、概略のみにとどまるが、触れておきたい。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：コンピュータを「利用する」ための基礎知識。

目標：情報処理技術と統計学のかかわりを理解し、AIなど、情報処理技術の進展に振り回されないで済む程の知識を身につける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ハードウェア

コンピュータを構成する各種の装置とその基本的な機能と動作について学ぶ。

学修課題：各装置について調べ、簡単なイメージを掴んでおく。

第２回：ソフトウェア

データとプログラム、プログラムとアルゴリズムついて学ぶ。フォン・ノイマン型の計算機モデルによる汎用性の獲得とその意味を考え、「コンピュータは、何をする機械なのか」を理解する。また、「決定不能な問題」や「計算困難な問題」についても学ぶ。

学修課題：量子コンピュータについて調べる。

第３回：プラットフォームとアプリケーション

プラットフォームの必要性について学ぶ。

学修課題：普段、自分が使っているプラットフォームがどんなシステムであるか調べる。

第４回：インターネットとプロトコル

インターネットで使われる各種プロトコルの概要を学ぶ。

学修課題：インターネットで使われるルータなどの装置について調べる。

第５回：情報と通信の理論

情報量と情報のエントロピー、符号化等について学ぶ。

学修課題：確率、対数について調べておく。

第６回：シミュレーション

乱数とモンテカルロ法について学ぶ。

学修課題：シミュレートという言葉の意味について調べておく。

第７回：母集団や標本の代表値と標準化

平均、分散、標準偏差など、また、確率変数と確率密度関数について学ぶ。

学修課題：どんな確率密度関数があるのか調べる。

第８回：相関

単相関係数、クラメールの連関係数について学ぶ。

学修課題：相関比について調べる。

第９回：検定（χ２値を使う）

独立性の検定について学ぶ。

学修課題：マクネマー検定について調べる。

第10回：検定（t値を使う）

平均値の差の検定(t検定)について学ぶ。

学修課題：分散分析について調べる。

第11回：推論とルール

ルールベースのAIとファジィ理論について学ぶ。

学修課題：エキスパートシステムの適用例やファジィ制御の家電製品などについて調べる。

第12回：不確実な状況下における意思決定

ベイジアンネットワークについて学ぶ。

学修課題：トーマス・ベイズ（Thomas Bayes）について調べる。

第13回：人工知能と機械学習（回帰分析）

回帰分析について学ぶ。

学修課題：回帰分析について調べる

第14回：人工知能と機械学習（次元削減）

主成分分析について学ぶ。

学修課題：主成分分析、因子分析について調べる

第15回：人工知能と機械学習（ニューラルネットワーク）

ニューラルネットワークについて学ぶ。

学修課題：ニューラルについて調べる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

期末試験（80%）：

講義時間内で指示する課題（20%）：「考えて、解答する」ことを評価の基本とするので、解答内容そのものについては、正誤を、特に気にする必要は無い。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

統計学の参考書には良書が豊富である。各社から、マンガで読めるものも出ている。コンピュータとの関連では、SPSSやExcelなどで統計を学べるものがある。本講座では必要無いが、いずれは要りようになろうから、馬の合うものを探すことを心がけておかれるように。ここでは、一応、担当者の手許にあるオーム社の「マンガでわかる」シリーズを挙げておく。

・高橋 信,井上 いろは,トレンド・プロ,『マンガでわかる統計学』,オーム社,2004

・田久 浩志, 小島 隆矢, こやま けいこ, ビーコム,『マンガでわかるナースの統計学 データの見方から説得力ある発表資料の作成まで』,オーム社,2006

■履修上の注意・備考・メッセージ

情報にせよ統計にせよ、実は、「わからないことだらけ」と言えよう。研究の進展、あるいは、技術革新により、解決済みの範囲は広がるのだが、しかし、必ずしも、未解決の範囲は狭まらない。その一方で、情報も統計も、広範囲に応用可能なものである。「わかっている分だけでも、ここまでできる」という実績がある。本講座が、現状、「わかっていること、できていること」と「わかっていないこと、できていないこと」を考えるよすがになれば、幸いである。

情報発信と情報倫理

【担当】千代原　亮一

■授業概要

ネット上には無数の情報が飛び交い、それを鵜呑みにしてしまうことにより誰もが簡単に被害者にも加害者にもなってしまう。実際のキャッチボールは、ボールの大きさも相手が誰かということも分かるが、情報のキャッチボールの場合は、ボールの大きさもスピードも様々で、相手も時には誰か分からないこともあるため、ネット社会を生き抜くスキルとしてメディア・リテラシーが必要になる。この授業では、情報との賢い付き合い方を、講義および様々なワークを通じて身につけることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容:「スポーツと情報倫理」「スポーツ選手による情報発信」に関する具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、哲学的・倫理的なものの見方の基礎を養い、社会問題についてより深く理解する。

目標：他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。

2．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容:倫理、責任、他人（特に弱者）を思いやる心など、SNSなどを通じた情報発信がもたらしうる様々なインパクトやリスクについて考察する。

目標：情報発信がもたらしうる様々なインパクトやリスクについて様々な角度から考察し、現代社会を生き抜く知恵を身につけることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ選手の「炎上」はなぜ起きるのか

ネットに情報を発信することは世界中に情報を発信することであり、便利であると同時にリスクがあるが、「自分だけは大丈夫」という意識が働くのか、不適切なツイートはあとを絶たない。ツイッターを炎上するする側及びさせる側の論理、ネット上で発信することのリスクについて、スポーツ選手が過去に起こした「炎上」事例を基に学ぶ。

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第２回：「炎上」の構造と収め方―どうやって火がつき、どのように鎮火するのか―

(1)炎上はなぜ起きるのか
(2)炎上を引き起こす「不適切情報」とは
(3)炎上を収めるには
(4)炎上を予防するには

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第３回：情報をしっかり受け取るための４つの「ギモン」

(1)4つのギモン①（結論を即断するな）
(2)4つのギモン②（意見か、印象か、ごっちゃにして鵜呑みにするな）
(3)4つのギモン③（一つの見方に偏るな）
(4)4つのギモン④（スポットライトの周囲を見よ）

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第４回：情報をしっかり届けるための４つの「ジモン」

(1)4つのジモン①（何を伝えたいの？―「明確さ」）
(2)4つのジモン②（キメつけてないかな？―「正確さ」）
(3)4つのジモン③（キズつけてないかな？―「優(やさ)しさ」）
(4)4つのジモン④（これで伝わるかな？――「易(やさ)しさ」）

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第５回：新聞は「中立」で「事実」を伝えているか？

(1)自分の世界を広げ、メディア・リテラシーを育てる
(2)新聞の社説を読み比べよう
(3)社説の読み方

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第６回：放送禁止用語

(1)「頑張れ」が放送禁止用語!?意外なNGワード候補
(2)放送禁止用語はあくまでメディアの「自主規制」
(3)放送禁止用語は言葉狩りか？
(4)「盗んだバイクで走り出す」―CM曲が犯罪を助長？

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第７回：テレビ番組の質を量で測る？

(1)BPOに対して視聴者から寄せられた意見
(2)日本人のテレビ視聴時間、実はネットの７倍―実はパワフルなテレビ
(3)テレビ番組の質を可視化する試み「Quae」
(4)受講生による番組評価の実施と発表

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第８回：なぜ、あなたの言葉は伝わらないのか①（ヤバいことを伝える技術）

(1)修羅場を乗り越え、相手を動かすリスク・コミュニケーション
(2)なぜ「ヤバいこと」を伝えるのは難しく、トラブるのか？
(3)伝わらない原因は「安全安心」にある
(4)小さな「ヤバいこと」が許されない不寛容社会

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第９回：なぜ、あなたの言葉は伝わらないのか②（伝え方の基本とコツをプロセスで考える）

(1)準備：相手の話を聴き、準備にかけるコストと時間をケチらない
(2)実行①：伝える姿勢を整える
(3)実行②：相手サイズの説明と言葉を選ぶ
(4)実行③：NG言葉・表現を使わない

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第10回:なぜ、あなたの言葉は伝わらないのか③（謝罪会見の明と暗）

(1)一夜明ければ社会の敵に
(2)謝罪会見のOKとNG
(3)組織を守る「PPAP」とは
(4)おわびリリースを書いてみよう

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第11回：ソーシャルスキル・トレーニング①（感情をコントロールするスキル）

(1)ネット危機に備える想定訓練
(2)アンガーマネジメント
(3)怒りの下にある気持ちとは
(4)ソーシャルリスク予防のためのリテラシー

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第12回：ソーシャルスキル・トレーニング②（質問するスキル）

(1)質問するスキルの効用（質問することで得られるもの）
(2)質問するスキルの要素
(3)問いかけで「要求」を引き出す
(4)問いかけで「議論」を深める

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第13回：謝罪の基本を知る

(1)「人が怒る」ということは？
(2)炎上しない伝え方
(3)謝罪の成功例と失敗例
(4)ピンチをチャンスに変える謝罪の秘訣

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第14回：謝罪の手段を使い分ける

(1)相手に応じた謝り方
(2)状況に応じた謝り方
(3)謝罪を成功に導く6つのステップ

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

第15回：深刻なトラブルにおける謝罪方法

(1)失言をしてしまったら
(2)謝罪シナリオを書く
(3)グッド・コミュニケーションとは
(4)まとめレポートの作成

学修課題：スポーツをめぐる社会問題にはどのようなものがあるか、新聞・雑誌・インターネット等で調べておく。授業内容を振り返り、テキストと配布資料を復習して授業テーマを現実に即して理解する。講義ノートを復習・整理しておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

＜提出課題およびレポートの評価基準＞
Ａ評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
Ｂ評価：到達目標を十分に達成している。
Ｃ評価：到達目標を達成している。
Ｄ評価：到達目標を最低限達成している。
Ｅ評価：到達目標を達成していない。

各授業時の提出課題（８点×15回＝120点）(60%)：各回の授業内容を踏まえたワークシートなどの課題について理解できていれば８点満点とする。

まとめレポート（60点）(30%)：講義内容を踏まえた上で、一定程度のレベルを超えたレポートの内容を合格とする。単に講義資料の内容を丸写しした内容では、合格とはしない。

授業貢献（20点）（10%）：授業時の質疑応答やケース討議での発言内容により授業貢献度を評価し、随時加点する。正解を求めるための質疑応答や討議ではなく、自分の考えをまとめて、自分の言葉で説明できているかという観点から評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

教科書は使用せず、毎回、授業資料（レジュメ）を配布します。

＜参考文献＞

①岡本真一郎(著)『悪意の心理学　悪口、嘘、ヘイト・スピーチ』(中公新書・2016年)、②下村健一(著)『10代からの情報キャッチボール入門―使えるメディア・リテラシー―』(岩波書店・2015年)、③竹中功(著)『よい謝罪　仕事の危機を乗り切るための謝る技術』(日経BP社・2016年)、④戸田桂太・小玉美章子（監修）・山下玲子(編著)『ユーザーからのテレビ通信簿―テレビ採点サイトQuaeの挑戦』(学文社・2013年)、⑤山口明雄(著)『知識ゼロからの謝り方入門』(幻冬舎・2016年)。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・規定の回数以上の授業を欠席した場合は、成績評価の対象外となる。やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・遅刻・途中退室・授業中の私語・携帯電話の使用など、他の受講生の迷惑となる行為を禁止する。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

教養演習Ａ

【担当】田村　徳子

■授業概要

大学生活を送るにあたっては、（１）授業内容を理解し、課題を遂行するための能力（アカデミック・スキル）、（２）大学生活４年間の計画と卒業後の将来設計を立てる能力（ソーシャル･スキル）、（３）社会人としての一般常識や態度（スチューデント･スキル）が求められる。本授業では、こうしたスキルのなかでも、主として（１）アカデミック・スキルである論理的に文章を読解し、作成する力を身につけることをめざす。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：文章の基礎構造を理解することができる。

目標：文章の基礎構造について、正しく説明することができる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：論理的に文章を理解することができる。

目標：文章を論理的に正しく読み取ることができる。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：論理的に文章を考え、作成する能力を身につける。

目標：論理的な文章を作成することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよび授業の概説

論理的とは何か、文章とは何かの説明を行う。各自が自身の論理力や読解力の現状把握を行うとともに、論理的に文章を読む・書くことの必要性とその方法について学ぶ。

学修課題：配布資料を復習し、論理とは何かについての演習問題に取り組む。

第２回：文章の理解（１）　文の構造

一文の論理的な構造を理解する。文の間違いを論理的に訂正することができるように演習し、理解を含める。

学修課題：配布資料を復習し、文の構造についての演習問題に取り組む。

第３回：文章の理解（２）　一文と一文の関係

一文と一文の関係の関係を理解し、論理的に文章のつながりを把握できるように演習する。

学修課題：配布資料を復習し、一文と一文の関係についての演習問題に取り組む。

第４回：文章の理解（３）　指示語と指示内容

指示語の指示内容を正しく把握し、文章を正確に理解できるように演習する。

学修課題：配布資料を復習し、指示語と指示内容についての演習問題に取り組む。

第５回：文章の理解（４）　文章全体の論理構造

文章全体の論理的構造を理解する。文章の間違いを論理的に指摘することができるように演習する。

学修課題：配布資料を復習し、文章全体の論理構造についての演習問題に取り組む。

第６回：中間まとめ

これまでの学習を復習し、十分理解できているかどうかについて確認を行うとともに、講評を行う。

学修課題：「文の構造」「一文と一文の関係」「指示語と指示内容」「文章全体の論理構造」についての演習問題に取り組む。

第７回：パラグラフ・ライティング（１）　段落と段落の論理的関係、段落の要点

パラグラフ・ライティングとは何かについて理解する。段落と段落の論理的関係や、段落の要点が捉えられるように演習をする。

学修課題：配布資料を復習し、段落の要点についての演習問題に取り組む。

第８回：パラグラフ・ライティング（２）　イコールの関係

文章におけるイコールの関係について学ぶ。定義づけ、具体と一般、比喩など、イコールの関係が正確に捉えられるように演習する。

学修課題：配布資料を復習し、イコールの関係についての演習問題に取り組む。

第９回：パラグラフ・ライティング（３）　話題と主張

文章における話題と主張について学ぶ。文章を読み、筆者が伝えようとするもの（話題）、それについての作者の考え（主張）を正確に捉えられるように演習する。

学修課題：配布資料を復習し、意見と主張の使い方についての演習問題に取り組む。

第10回：パラグラフ・ライティング（４）　具体と抽象

具体と抽象の違いとは何かを学ぶ。抽象的な文章の読み方を学び、内容を適切に把握できるように演習する。

学修課題：配布資料を復習し、具体と抽象の使い方についての演習問題に取り組む。

第11回：パラグラフ・ライティング（５）　段落の要点

段落の要点について学ぶ。１つの段落における要点と飾りの部分が見分けられるように演習をする。

学修課題：配布資料を復習し、段落の要点の使い方についての演習問題に取り組む。

第12回：レポートとは何か

レポートとは何かを学ぶ。特にエッセイとレポートの違いを比較し、理解することで、レポートの特徴を理解する。

学修課題：配布資料を復習し、レポートの演習課題に取り組む。

第13回：レポートの読み方・まとめ方

レポートの構成を学ぶ。実際に複数のレポートを読み、内容を要約する。

学修課題：配布資料を復習し、レポートの内容要約を完成させる。

第14回：レポート作成（１）下書き

配布資料を読んで、その内容についてレポートの下書きを作成する。

学修課題：レポートの下書きを完成させる。

第15回：レポート作成（２）完成

作成したレポートを推敲するとともに学生間で添削を行ったり、教員からも助言を受けたりして、レポートを完成させる。

学修課題：レポートを完成させる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

やむを得ず欠席した場合は、翌週までに欠席した週の課題に取り組んでおくこと。

指定する２種類の演習課題を全て終えていない場合は、成績評価を「不可」とする。

授業内の演習（45%）：授業内に配布する３種類の課題について、１種類につき15点で評価する。評価は、課題の取り組み具合（全て取り組んでいる15点～全く取り組んでいない０点）で行う。

授業内のチェックテスト（25%）：文章に関する内容を理解できているかという観点から評価する(５点×５回)。

授業内の小レポート（30%）：レポート作成のルールに基づいて作成できているかという観点から評価する（10点×３回)。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜、資料を配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教養演習Ｂ　【担当】学部長・田村徳子・各クラス担任

■授業概要

大学生活を送るにあたっては、（１）授業内容を理解し、課題を遂行するための能力（アカデミック・スキル）、（２）大学生活４年間の計画と卒業後の将来設計を立てる能力（ソーシャル･スキル）、（３）社会人としての一般常識や態度（スチューデント･スキル）が求められる。本授業では、こうしたスキルのなかでも、主として（２）ソーシャル・スキルを身につけることをめざす。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：アカデミック・スキルを身につける。

目標：効果的なプレゼンテーションができる。

2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：ソーシャル・スキルを身につける。

目標：将来を見すえた大学4年間の学習計画とキャリア設計を策定できる。

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：スチューデント・スキルを身につける。

目標：本学の行動指針「忠恕」を説明できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび授業の概説

大学生活をおくる上での、（１）アカデミック･スキル、（２）ソーシャル･スキル、（３）スチューデント･スキルの重要性について理解する。あわせて、本授業の計画と評価方法について理解する。

学修課題：配布資料をもとに、教養演習Ｂでの学びについて復習する。

第２回：社会で求められる汎用的な能力・態度・志向の測定：リテラシー

社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを、リテラシーの観点から測定する。

学修課題：配布資料をもとに、リテラシーの重要性を復習する。

第３回：社会で求められる汎用的な能力・態度・志向の測定：コンピテンシー

社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを、コンピテンシーの観点から測定する。

学修課題：配布資料をもとに、コンピテンシーの重要性を復習する。

第４回：大学での学び

学問の重要性を理解し、規則正しく計画的に学習する習慣を身につけることの必要性を理解する。

また、本学の行動指針「忠恕」について理解する。

学修課題：配布資料をもとに、本学の行動指針「忠恕」について説明できるようにする。

第５回：大学での学びと働くこと

大学での学びと、社会に出て働くこととの関連性について理解する。

学修課題：大学での学びと働くことの関連性についてのレポートを作成する。

第６回：社会で求められる汎用的な能力・態度・志向の把握

社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルに関する自身の現状を把握し、大学４年間で育成すべきスキルについて分析する。

学修課題：ジェネリックスキルに関するワークシートを完成させる。

第７回：ゴールセッティング

ワークシートを用いてゴールセッティングを行う。

学修課題：ゴールセッティングのワークシートを完成させる

第８回：個人面談①／エッセイの書き方・ワークシート（エッセイの構成）の作成

個人面談にて、１年次および大学卒業に向けてのゴールセッティングを行う。／個人面談を受けていない学生は、ワークシート（エッセイの構成）を作成する。

学修課題：ワークシート（エッセイの構成）を完成させる。

第９回：個人面談②／エッセイの執筆

個人面談にて、１年次および大学卒業に向けてのゴールセッティングを行う。／個人面談を受けていない学生は、これまでのエッセイを読み、各自エッセイを執筆する。

学修課題：エッセイの下書きを完成させる

第10回：個人面談③／エッセイの校正・完成

個人面談にて、１年次および大学卒業に向けてのゴールセッティングを行う。／個人面談を受けていない学生は、各自エッセイを校正し、完成させる。

学修課題：エッセイを完成させる

第11回：プレゼンテーション

プレゼンテーションの方法について学ぶ。

学修課題：効果的なプレゼンテーションに関する授業レポートを作成する。

第12回：クラス別エッセイ発表①

クラスごとにエッセイ発表会を行う。

学修課題：エッセイ発表会①での学びを、ピアレビューシートにまとめる。

第13回：クラス別エッセイ発表②

クラスごとにエッセイ発表会を行う。

学修課題：エッセイ発表会②での学びを、ピアレビューシートにまとめる。

第14回：クラス別エッセイ発表③

クラスごとにエッセイ発表会を行う。

学修課題：エッセイ発表会③での学びを、ピアレビューシートにまとめる。

第15回：エッセイ全体発表会

各クラスから選出された代表者が、全体で発表を行う。

学修課題：エッセイ全体発表会での学びを、ピアレビューシートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

必須課題のうち、未発表もしくは未提出の課題がある場合は、成績評価を「不可」とする。

エッセイ（50%）：授業で提示した観点から、エッセイに関するワークシート（10点）、文章（10点）、発表（10点）、ピアレビューシート（20点＝５点×４回）を評価する。

講義（振り返りシート）（30%）：授業内容を簡潔に要約し、自身の考えを客観的理由もしくは自分なりの理由をもとに主張できているかで評価する（30点＝10点×３回）。

キャリアデザイン（ワークシート）（20%）：授業で提示した観点から、キャリアデザインに関するワークシート（20点＝10点×２回）を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

なし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教養演習Ｃ　【担当】学部長・田村　徳子・各クラス担任

■授業概要

大学生活を送るにあたっては、（１）授業内容を理解し、課題を遂行するための能力（アカデミック・スキル）、（２）大学生活４年間の計画と卒業後の将来設計を立てる能力（ソーシャル・スキル）、（３）社会人としての一般常識や態度（スチューデント・スキル）が求められる。本授業では、こうしたスキルのなかでも、主として（１）アカデミック・スキルと、（３）スチューデント・スキルを身につけることをめざす。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：アカデミック・スキルを身につける。

目標：文献を収集し、資料にまとめ、効果的に発表することができる。

2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：ソーシャル・スキルを身につける。

目標：将来を見すえた大学4年間の学習計画とキャリア設計を見直し、策定し直すことができる。

3．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容：スチューデント・スキルを身につける。

目標：インターネットと情報、対人コミュニケーションについて注意点を説明することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび授業の概説

大学生活をおくる上での、（１）アカデミック・スキル、（２）ソーシャル・スキル、（３）スチューデント・スキルの重要性について理解する。あわせて、本授業の計画と評価方法について理解する。

学修課題：配布資料をもとに、教養演習Cでの学びについて復習する。

第２回：SNS・インターネットと情報

SNS・インターネットに関する情報の取扱いの注意点を理解する。

学修課題：SNS・インターネットに関する授業レポートを作成する。

第３回：アサーティブ・コミュニケーション

学生生活における他者とのつきあい方など、人と良好な関係を築くためのマナーを学ぶ。

学修課題：アサーティブ・コミュニケーションに関する授業レポートを作成する。

第４回：思考の整理：マインドマップの作成方法

マインドマップの作成方法を理解するとともに、マインドマップを活用した思考の整理の仕方を学ぶ。

学修課題：マインドマップの作成方法に関する授業レポートを作成する。授業内に指定されたマインドマップを完成させる。

第５回：情報の整理：マインドマップの活用

マインドマップを活用した情報整理の仕方を学ぶ。

学修課題：情報整理の仕方に関する授業レポートを作成する。

第６回：文献資料の収集方法と図書館の利用方法

文献資料の収集方法と図書館の利用方法を理解する。

学修課題：図書館の利用に関して、授業レポートを作成する。授業内で指定されたテーマに関する図書を検索し、図書館で借りて、読む。

第７回：文献の要約：マインドマップの活用

マインドマップを活用した文献の要約を理解する。

学修課題：マインドマップを活用した文献の要約に関する授業レポートを作成する。借りてきた図書の内容をマインドマップにまとめる。

第８回：個人面談①／文献調査の発表資料の作成方法

個人面談にて、これまでの大学生活の振り返り、これからの学生生活の再検討および将来の計画について見直す。／個人面談を受けていない学生は、文献調査の発表資料の作成方法を理解し、構成を作成する。

学修課題：文献調査の発表資料の下書きを完成させる。

第９回：個人面談②／文献調査の発表資料の校正・完成

個人面談にて、これまでの大学生活の振り返り、これからの学生生活の再検討および将来の計画について見直す。／個人面談を受けていない学生は、文献調査の発表資料を校正し、完成させる。

学修課題：発表資料を完成させる。

第10回：文献調査の発表会①

文献調査の発表会を行う。①の発表者の発表内容をまとめながら聴く。

学修課題：発表会①の内容をピアレビューシートにまとめる。

第11回：文献調査の発表会②

文献調査の発表会を行う。②の発表者の発表内容をまとめながら聴く。

学修課題：発表会②の内容をピアレビューシートにまとめる。

第12回：文献調査の発表会③

文献調査の発表会を行う。③の発表者の発表内容をまとめながら聴く。

学修課題：発表会③の内容をピアレビューシートにまとめる。

第13回：文化講演会

スポーツ界で活躍する著名人の話を聴き、講演者ならではのスポーツの見方や捉え方を理解することで、大学生活や将来に対する新たな知見を得る。

学修課題：講演会レポートを作成する。

第14回：特別講義①

スポーツ界で活躍する著名人の話を聴き、将来の就職のための心構えを学ぶ。

学修課題：講義内容に関するレポートを作成する。

第15回：特別講義②

スポーツ界で活躍する著名人の話を聴き、将来の就職のための心構えを学ぶ。

学修課題：講義内容に関するレポートを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

必須課題のうち、未発表もしくは未提出の課題がある場合は、成績評価を「不可」とする。

マインドマップ（15%）：授業内で指示に従ってマインドマップを作成できているかで評価する（15点＝５点×３回）。

授業レポート（45%）：授業内容を簡潔に要約し、自身の考えを客観的理由もしくは自分なりの理由をもとに主張できているかで評価する（５点×９回）。

文献調査（資料・発表）（40%）：授業内で提示した観点から、文献検索（５点）、発表資料（10点）、発表（10点）、ピアレビューシート（15点）を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

なし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

英語Ⅲ　【担当】Steve　Jugovic

■授業概要

本授業は、全ての英語レベルの生徒に適応します。健康とスポーツに関するトピックを英語で話し合い、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの４つのスキルを向上させましょう。具体的には、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーションなど、様々なコミュニケーション方法を使います。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：英語でのコミュニケーションスキルの習得

目標：英語での基本的な会話力、基本的な読解力を身につけること。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび本授業の概説

導入的なコミュニケーション・アクティビティ

学修課題：prepare your introduction, research about lifestyle choices effect on health　自己紹介の準備、生活習慣が健康に与える影響について調べる

第２回：トピック１　肉体的な健康、癌、食やライフスタイルの選択

グループで社会での健康問題に関して、マインドマップを作成する。

学修課題：research about fast food and why it is popular　ファストフードについて調べ、なぜ人気があるのか理由を考える

第３回：トピック１　肉体的な健康、癌、食やライフスタイルの選択

癌、食物、砂糖についての驚くべき事実をもとに、コミュニケーションを必要とするタスクを課す。

学修課題：research about healthy and unhealthy food　健康的な食べ物と不健康な食べ物についてそれぞれ調べる

第４回：トピック１　肉体的な健康、癌、食やライフスタイルの選択

効果的なエクササイズの形態、肉体や精神を鍛錬する手法について、ブレインストーミングを行う。

学修課題：research about human movement and why it is important　人間の動きと、それがなぜ重要なのかについて調べる

第５回：トピック１　肉体的な健康、癌、食やライフスタイルの選択

大学卒業後の生活について、ロールプレイを交えた話し合いを行う。

学修課題：think about how to be physically active in the future after college　将来大学を卒業した後、どのように身体的に活躍的でい続けるか考える

第６回：トピック２　英語を用いた、ヨガの健康上の利点、肉体的な鍛錬

ヨガの指導DVDを見る。研究論文を読む。次回以降に向けたイントロダクションとなる。

学修課題：research about yoga in Japan　日本のヨガについて調べる

第７回：トピック２　英語を用いた、ヨガの健康上の利点、肉体的な鍛錬

ヨガを相互に教える（ピア・ティーチング）実習を行う。

学修課題：research about yoga health benefits, especially for sportspeople　特にスポーツ選手のための、ヨガの健康上の利点に関して調べる

第８回：トピック２　英語を用いた、ヨガの健康上の利点、肉体的な鍛錬

アイコンタクト、声、ボディランゲージ、姿勢を含め上手なプレゼンテーションのポイントを紹介する。

学修課題：research about different types of yoga and choose one for your presentation　さまざまなタイプのヨガについて調べ、自分のプレゼンテーション用に1つ選択する

第９回：トピック２　英語を用いた、ヨガの健康上の利点、肉体的な鍛錬

ゲスト・ティーチャーを招き、ヨガの心、体、個人への便益について討議する。

学修課題：think of some questions for the guest teacher　ゲストの先生への質問をいくつか考えておく

第10回：トピック３　「氣」とは何か、あなたのスポーツと生活の関係は何か

「氣」の文化的な側面は何か

学修課題：research about what Ki means in different countries　さまざまな国で「氣」がどういう意味をもつか調べる

第11回：トピック３　「氣」とは何か、あなたのスポーツと生活の関係は何か

前回の講義を復習する。スポーツと生活との「氣」の関係と説明。

学修課題：research about Ki and sport in Japan　日本の「氣」とスポーツに関して調べる

第12回：ヨガ指導の実演と紹介①

生徒はそれぞれのパートナーに創造的にヨガ指導を行う。

学修課題：watch and listen to a yoga teacher on the internet　インターネットでヨガの教師を見たり聞いたりする（英語）

第13回：ヨガ指導の実演と紹介②

生徒が選択したヨガのポーズを基にしたプレゼンテーション。口頭での説明の準備を行う。

学修課題：watch and listen to a yoga teacher on the internet　インターネットでヨガの教師を見たり聞いたりする（英語）

第14回：「氣」についての言葉と身体の紹介とあなたのスポーツ①

生徒のスポーツと「氣」について口頭と身振り手振りをふまえたプレゼンテーションを行う。

学修課題：research about giving presentations and the main topics from this course　プレゼンテーションやこのコースの主なトピックに関する研究

第15回：「氣」についての言葉と身体の紹介とあなたのスポーツ②

口頭と身振り手振りをふまえたプレゼンテーションの続きを行う。グループワーク。この講義で重要なこととして何を学びましたか？

学修課題：research your notes about important topics and prepare your report　自分のノートにある重要なトピックについて調べて、レポートの準備をする

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

participation and effort　授業への参加度と努力（40%）：コース全体の継続的な評価。課題の達成度、ライティング、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ホームワーク

presentation- yoga ヨガについてプレゼンテーション（20%）：内容、長さ、ポスター制作の努力；10%、スピーキング力、コミュニケーション力：10%、などを評価します。

yoga demonstration ヨガのデモンストレーション（20%）：適切な語彙、ジェスチャーおよび熱意をもって、クラスメートがお互い初歩的なヨガのルーティーンを教え合います。

Course summary report コース要約レポート（20%）：文法のスキルに焦点をおくのではなく、コースの主なテーマについて理解ができているかを重視します。 あなたのスポーツと生涯学習のために重要な、どのようなことを学びましたか？

■教科書

Steve Jugovic　・topic based materials designed by the teacher

■参考文献等

英語スキル特にリスニングスキルの向上のために以下のサイトを使用します。

www.er-central.com. 簡単な物語の読解

http://www.eigotown.com/eigocollege/ ５分間のTOEIC練習

http://esl-lab.com/ リスニング

www.ted.com/talks. TEDを日本語字幕付きで聞く

www.manythings.org

http://a4esl.org

http://www.eslcafe.com/students/

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

授業ではアクティビティに尽力してクラスメートと英語でコミュニケーションする努力をしてください。

英語でのコミュニケーション力は、将来のあなたにとってとても強い力になります。通常の英語の勉強に加え、できるだけたくさん英語の映画や音楽を見たり聴いたり、興味のある内容の英語のウェブサイトを見たりして、自分が楽しめる内容の英語に触れてください。ぜひ英語サークルに参加して、気軽に私に話しかけたり、アドバイスを受けたりしてください！

英語Ⅳ　【担当】Steve　Jugovic

■授業概要
本授業は、すべての英語レベルの学生に適応しています。英語の読解、会話、リスニング、ライティングのスキルを向上させ、受講生が海外旅行したり計画を立てる場合に備えます。
旅行中によく遭遇する様々な状況での英語でのコミュニケーション方法について学び、練習します。また、自分の行きたい国について簡単なプレゼンテーションを行い、想像の旅行計画をたてます。

■養うべき力と到達目標
1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：英語でのコミュニケーションスキルの習得
目標：英語での基本的な会話力、基本的な読解力を身につけること。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回:オリエンテーション、自己紹介、スピーキングアクティビティ
コースの概要ー成績評価、グループアクティビティの紹介
マインドマップーなぜ旅行するのか？　旅行についてのディスカッション、海外旅行についての心配、旅行の経験談や将来の旅行について
学修課題：think about your travel experiences and research travel stories　自分の旅の経験について考え、旅行記について調べる

第２回：Unit１-Where Are You Heading?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
旅行中に出会う人々との会話、旅行計画の説明について
学修課題：research about small talk　世間話について調べる

第３回：Unit１-Where Are You Heading?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
旅行中に出会った人々に自分のことについて話す、飛行機の中やその他の場面での会話のロールプレイ
学修課題：research about small talk and practice asking questions　世間話について調べ、質問をする練習をする

第４回：Unit２：May I See Your Passport?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、スピーキングアクティビティ
入国管理での会話、Can you ～？とCould you ～？を用いた要求の伝え方
学修課題：research a short movie about going through a typical airport　空港を通る際の短い映像を調べる

第５回：Unit２：May I See Your Passport?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
入国審査用の到着カードの書き方や、それに関係する会話等のロールプレイ
学修課題：prepare to write about your personal information　自分の個人的情報について書く準備をする

第６回：Choosing Your Target Country
前回の復習
ボキャブラリー、リーディング、リスニング、コミュニケーションアクティビティ
なぜその国に行きたいのか､その国についてどのくらい知っているか(文化、宗教、自然など)、どのような危険があるか、質疑応答のロールプレイ
学修課題：research and choose your favorite country　自分の好きな国について調べ、選ぶ

第７回：Unit３：Where To?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
タクシーに乗る、let meを使う言い方、値段やお金について話す、タクシードライバーとの会話のロールプレイ
学修課題：research about taxis and small talk　タクシーと世間話について調べる

第８回：Unit４：I Asked for a Double
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
チェックイン、問題の解決、インターネットでの予約表の書き方
プレゼンテーションのプランニングー自分が選んだ国について３つのトピックの選択と話し合い
学修課題：research about checking in to a hotel　ホテルのチェックインの仕方について調べる

第９回：Unit５：What Would You Suggest?, UNIT１-５Speaking Review quiz.
前回の復習
ホームワークリサーチのチェック、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング
おすすめの観光について尋ねる、興味のあることについて表現する、提案をする
学修課題：research the topics and content for your presentation　プレゼンテーションのトピックと内容について調べる

第10回：Unit７：Turn Left at the Light
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング
道の尋ね方、命令形、世間話
プレゼンテーションのチェック１とフィードバック
学修課題：imagine you are in a foreign country and practice asking for and giving directions　自分が外国にいると想定し、道を尋ねる練習をする

第11回：Unit８：How Much is This?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング
ショッピングー値段交渉と支払い
効果的なプレゼンテーションのための声・ジェスチャー・姿勢・アイコンタクトを使った簡単なコミュニケーション
学修課題：research about important points when giving presentations and practice it　research about important points when giving presentations and practice
プレゼンテーションをする際の重要なポイントについて調べ、練習する

第12回：Unit９：Are you Free Tomorrow?
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
招致、Do you ～？の質問、簡単な道案内
プレゼンテーションのペア練習
学修課題：research a short video about giving good presentations　良いプレゼンテーションをするために役立つ短い映像について調べる

第13回：Unit９：Are you Free Tomorrow?
Unit10：I'll Have the Steak
前回の復習
リスニング､スピーキング､リーディング､ライティングアクティビティ
プレゼンテーション１日目、クラスメンバーの質疑応答
学修課題：practice your presentation and think about restaurant vocabulary　プレゼンテーションの練習をし、レストランで使う語彙について考える

第14回：Unit10：I'll Have the Steak
前回の復習
リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングアクティビティ
レストランでーメニューの読み方、注文の仕方、食べ物についての談話
プレゼンテーション２日目、クラスメンバーの質疑応答。スピーキングテストの練習
学修課題：research about polite requests in a restaurant- please and thankyou　レストランでの丁寧な要求の伝え方について調べる - お願します、ありがとうございます、など

第15回：UNIT７-10 Speaking Test and Review
前回の復習
プレゼンテーション最終日、気軽な世間話のトピックとロールプレイ、友達作り、最終ディスカッションアクティビティ、スピーキングテスト
学修課題：practice for your speaking test　スピーキングテストの練習

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
participation and effort　授業への参加度と努力（40%）:コース全体の継続的な評価。課題の達成度、ライティング、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ホームワーク
presentation　プレゼンテーション（30%）：内容、長さ、パワーポイント制作の努力：15%、スピーキング力、コミュニケーション力：15%、など　を評価します。
speaking test　スピーキングテスト（20%）：ペアになってさまざまなトピックや状況の受け答えをする
ボキャブラリー、グラマー、スピーキング力：15%、アイコンタクト、ジェスチャー：５%
speaking review tests　ユニット復習のスピーキング（10%）：ペアになってさまざまなトピックや状況の受け答えをする
ボキャブラリー、グラマー、スピーキング力、アイコンタクト、ジェスチャー

■教科書
Michael Critchley　・Encounters Abroad　・Nan'un-do　・2007年
Steve Jugovic　・materials designed by the teacher

■参考文献等
英語スキル、特にリスニンク？スキルの向上のために以下のサイトを使用します。
www.er-central.com. 簡単な物語の読解
http://www.eigotown.com/eigocollege/５分間のTOEIC練習
http://esl-lab.com/ リスニング
www.ted.com/talks. TEDを日本語字幕付きで聞く
http://iteslj.org/v/j/ck-transportation.html
www.manythings.org
http://a4esl.org

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
授業にはテキストブックを持参してください。
授業ではアクティビティに尽力してクラスメートと英語でコミュニケーションする努力をしてください。
英語でのコミュニケーション力は、将来あなたにとってとても強い力になります。通常の英語の勉強に加え、できるだけ英語の映画や音楽を見たり聴いたり､興味のある内容の英語のウェブサイトを見たりして､自分が楽しめる内容の英語に触れてください。ぜひ英語サークルに参加して、気軽に私に話しかけたり、アドバイスを受けたりしてください！

ドイツ語

【担当】Fangohr Till Daniel

■授業概要

ドイツ語の音声、基礎的な文法と語彙を学習し、基礎的な日常会話で練習し、基礎的な読解力も養成する講座です。
最初はドイツ語の歴史、ゲルマン系言語のドイツ語と英語との関係と音の変化を教えます。それから、音声と綴り、人称代名詞と動詞の活用、規則と不規則変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞と動詞の各支配、話法助動詞、形容詞の格変化、を順番に学習します。会話内容は、自己紹介、買い物と物の注文、時間と場所（待ち合わせ）、道案内等、日常会話の基本的な内容で学習します。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：ドイツ語の基礎知識
目標：読解と会話の基礎を身につけること

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：ドイツ語について
先生の自己紹介、授業の進め方と成績評価の説明。
ドイツ語の歴史概要、ゲルマン系の言語のドイツ語と英語との関係、第二次子音推移、
ドイツ語の音声と綴り。
学修課題：音声と綴り

第２回：音声と綴り、挨拶
ドイツ語のアルファベットと音声の説明、ローマ字の綴り、子音と母音、ウムラウトの発音
発音練習。挨拶表現
学修課題：挨拶表現

第３回：動詞の現在人称変化Ⅰ（規則変化）
人称代名詞と動詞の現在形の変化（語尾）の説明、語順の説明
会話：自分の名前を述べる・相手の名前を聞く
学修課題：規則動詞現在人称変化

第４回：動詞の現在人称変化Ⅱ（不規則動詞）第１回目検証テスト
不規則動詞のseinとhabenの現在人称変化
会話：自己紹介（名前、出身、専攻など）
学修課題：不規則動詞の現在人称変化

第５回：名詞と冠詞の格変化Ⅰ（不・否定冠詞）
名詞の性（男・女・中）と名詞の格変化の説明。不定冠詞と否定冠詞とその格変化の説明
会話：「これは何ですか？」
学修課題：名詞の不定冠詞と否定冠詞

第６回：名詞と冠詞の格変化Ⅱ（定冠詞）
名詞の不定冠詞と定冠詞の使い分けと、定冠詞の格変化の説明。
会話：食べ物の注文
学修課題：名詞の定冠詞の格変化

第７回：所有代名詞、平叙文と疑問文
所有代名詞の説明。平叙文と疑問文の語順の説明。疑問詞の学習。
会話：家族
学修課題：所有代名詞、語順

第８回：動詞の強変化と命令形　第２回目検証テスト
強変化動詞の現在人称変化と命令形の説明。
会話：趣味、好きな物
学修課題：強変化動詞の現在人称変化

第９回：名詞と代名詞の2，3格
2格と3格をとる前置詞、名詞と代名詞の2格、3格の説明。
会話:買い物、衣類
学修課題：名詞と代名詞の２，３格

第10回：動詞と3格、4格支配の前置詞
動詞と前置詞と前置詞の格支配（3格「どこで」4格「どこへ」）の学習。
会話：街を歩く、道案内
学修課題：3格、4格支配の前置詞

第11回：話法助動詞　第３回目検証テスト
話法助動詞（muessen, wollen, koennen等）の現在人称変化の説明。
会話：休暇、放課後（したいこと、しなければならないこと等）
学修課題：話法助動詞の現在人称変化

第12回：再帰動詞と再帰代名詞
再帰動詞と再帰代名詞の現在人称変化
会話:体と健康
学修課題：再帰動詞と再帰代名詞

第13回：形容詞Ⅰ（強変化）
形容詞の格変化Ⅰ（強変化）冠詞がない場合と不定冠詞の場合の形容詞の格変化、曜日と月の学習。
会話：天気
学修課題：形容詞の強変化、曜日と月

第14回：形容詞Ⅱ（弱変化）第４回目検証テスト
形容詞の格変化Ⅱ（弱変化）冠詞がある場合の形容詞の格変化、日付の学習。
会話：日付、予定
学修課題：形容詞の弱変化、日付

第15回：復習と応用編
動詞の現在人称変化、名詞の格変化と単数・複数形、形容詞の格変化の復習、ドイツ語文の読解の翻訳の説明と練習。
会話：自由会話発表
学修課題：読解と翻訳の基礎

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

４回の到達目標テスト（70%）：主に文法の試験問題、100点満点。60点以上合格
宿題準備等の平常点（20%）：積極的な参加
発表、作文（10%）：クラスの前での自己紹介や作文

■教科書

Yuko Tanizawa　・Klasse! Neu　・Hakusuisha　・2018年

■参考文献等

特にないが、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化の一覧表の用意・持参は望ましい

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

中国語

【担当】鄭　恵芳

■授業概要

初心者にとって、中国語の学習は文法を理解した上で、一字一字の発音を正確に練習することによって、中国語の美しい音色を体得し、さらにコミュニケーションへの喜びを覚える。まず身近にいる中国人留学生に声をかけてみてはどうでしょう。簡単な会話を通じて、中国語を学ぶ楽しさが増します。ことばは文化交流の第一歩です。

この授業は、はじめて中国語を学ぶには「分かりやすく覚えやすい」初級レベルの中国語会話を中心の授業です。学習効果を高まるため事前予習と授業中ノートをとることが必要です。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：語学力を高めていくこと
目標：語学力を高めるにつれて、専門的知識はさらに視野を広げること

2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：スポーツの学術を広げるには、様々な側面的知識をもつこと。それをいっそ成果を見いだすことができる
目標：語学力を高める、かつ各国の人々との交流すること

3．DP5．新しい価値を創造する能力
具体的内容：積極的かつ創造力を養う
目標：よりよい社会性とコミュニケーション力を養う

4．DP7．自覚、誇り、道徳心
具体的内容：何事も本気かつ誠実に取り組む力を養う
目標：自信溢れる言動力、さらに公益的な思考をもつことを養う。

5．DP11．忠恕の心
具体的内容：自他の存在を認識しかつ尊重するこころを養う
目標：日本にいる外国人とのコミュニケーションをとる前にまず相手を尊重し、敬意をはらうことからはじめること

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：中国語のアプローチ（概要）
中国語を学ぶには、まず近代な中国の変化と発展を知る必要があります。さらに、日本の漢字と違ういわゆる「簡体字」は今、中国では一般的に使われていることや同じ漢字でも日本と意味がまったく違うことを勉強します。
学修課題：授業した内容を復習する

第２回：第１課　母音の仕組みと四つの声調の練習
１．日本と違って漢字の一字一字には「抑揚頓挫」(高さ) があります。文章で読むと自然にイントネーションが作られて、まるでメロディーのように美しく感じられます。最初は少し不慣れかもしれないが、歌の練習のように回を重ねていけば結構楽しいリズムが出てきます。「何事も最初のひと踏ん張り！」が大事です。
２．授業内テスト
学修課題：授業した内容を復習とCDを聞きながら声調の練習する

第３回：第２課　複母音と声調の変化ルール
１．37の母音を声調の高さをのせて発音練習しながら単独で使える母音の単語も一緒に練習。そのほか、発音に関するルールを紹介し、そのルールのもとに正しい発音を練習して覚える。
２．授業内テスト
学修課題：授業した内容を復習と発音ルールを暗記する

第４回：第３課～第４課　子音の練習および鼻母音の紹介と練習
１．中国語の発音の中、37個の母音（単独に使える）と21個の子音が存在しています。
子音は単独には使えませんが、子音は必ず母音と一緒に組み合わせして文字になります。
子音を紹介したあとは、繰り返し発音練習をします。また、第４課の鼻母音も一緒に紹介し、 数を数える練習をします。
２．授業内テスト
学修課題：次回の復習テストのために概要、発音ルールと子音一覧を暗記

第５回：復習テスト/第５課　名詞述語文の解説
１．復習テスト（テスト範囲：概要・発音ルール・子音一覧を書く）
２．発音ルールが覚えられなければ、正しく美しく中国語を発音できませんので、必ず覚えよう。
テスト後、第５課　名詞文の文型を解説しながら発音練習。
学修課題：授業内容を復習してP.26～P.27のドリルを書いてみよう（次回チェックする）

第６回：第５課　キャンパスで初対面
１．名詞文の特徴や使い方を復習しながら､文型を使って置き換え練習。
２．ドリルの課題発表と本文のストーリーを練習してペアで練習。
３．授業内テスト
学修課題：次回に課題提出（第５課P.22～24をB５のルーズリーフで書き写す、練習問題の解答を書く）

第７回：第６課　自己紹介＆相手の名前の尋ね方
１．はじめてのあいさつや名前の尋ね方を説明。
２．本文のストーリーを練習してからペアで練習。
３．中国語で自己紹介を練習（プリントを配布）。
４．授業内テスト
学修課題：次回に課題提出（第６課P.28～33、P.31除く)を書いてみよう

第８回：第７課　喫茶店で　動詞述語文
１．動詞文の特徴や使い方を解釈し文型を使って置き換えの練習。
２．さまざまな疑問詞を使って疑問文を練習。
３．本文のストーリーをペアで練習。
４．授業内テスト
学修課題：次回の中間試験（１）筆記＋自己紹介の実演を復習する

第９回：「自己紹介」の実演と中間試験（１）を行う
１．自己紹介を暗記で全員に披露します。その後は筆記試験を行う(範囲：授業内指示)
２．第７課ドリル練習を講師といっしょに答え合わせます。
３．本文ストーリーとドリルの内容をロールプレイで練習。
学修課題：次回に課題提出（第７課P.34～P.39、P.37除く）

第10回：第８課　趣味を語る
１．文型、文法の説明とポイント練習
２．本文ストーリーを説明してからペアで練習
３．授業内テスト
学修課題：次回に発表する（P.44～45)、提出ではないが教科書に答えを書いて授業内に発表する

第11回：第８課　本文ストーリー＆ドリルの答え合わせ
１．今まで習ったところを見直しして、所定ドリルの発表を行う。
２．第１課～第８課の本文ストーリーをまとめて練習。
３．授業内テスト
学修課題：次回に課題提出（第８課P.40～42）

第12回：第９課　数詞と量詞　Tシャツを買う
１．第９課ポイントの説明と練習、本文ストーリーを練習。
２．本文ストーリーをペアで練習。
３．授業内テスト
学修課題：次回中間試験(２)の復習をする(範囲は授業内で指示する)

第13回：中間試験（２）筆記＋リスニング
１．中間試験（筆記試験＋語句の聞き取り）
２．数量疑問詞疑問文を練習
３．第９課のドリルを講師といっしょに練習。
学修課題：次回課題提出（第９課P.46～48）

第14回：第10課　「どうぞ～ください」と形容詞述語文
１．ポイントの説明と練習
２．中国語の基本文型（肯定文、否定文、形容詞、さまざまな疑問文など）を復習しながら置き換えの練習。
３．リスニング練習
４．授業内テスト
学修課題：総復習

第15回：期末総まとめ＆発表（各課本文の会話文を読むおよび学習成果と課題の提出)
各課スキットの会話文を発音なしで読ませ、学習の成果と課題をフィードバックとして与え、
学生が今後の学習計画を考える機会を与える。
学修課題：常に復習すること

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

本科目は出席回数や試験の結果を重視する以外、受講者が学習に対する「本気さ」も評価のポイントとかんがえます。
本気であれば授業への集中力はおのずから備えます；本気であればはじめてチャレンジするものにも真正面から向き合うことができます。そのうえ、常に話の相手を心から理解しよう、優しい心をもつことも評価します。
授業内の態度（40%）：授業態度：教師の支持に従い、積極的に活動をする。グループ、ペアで協力しながら活動するなどの項目において、５段階で評価する
授業内テストおよび課題の提出（30%）：授業内テスト：毎回授業のあとに行う10問の小テスト。課題の提出：指示された範囲の教科書内スキットの書き写す。
中間試験（２回）および期末試験（30%）：中間試験：復習するために筆記試験（100点満点）＋自己紹介の発表
期末試験：所定した範囲の筆記試験（100点満点）＋各課本文の読み（発音なしで）

■教科書

陳淑梅　・劉光赤　・実学実用　初級中国語　・朝日出版社　・2018年

■参考文献等

授業中プリントを配布

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

韓国語

【担当】魯　恵英

■授業概要

韓国語の初歩的・実用的な会話能力を、学生の視点で「身につける」ことを目指す。具体的には「ハングルが読める・書ける」、「韓国語の基本単語・基本文型を身につける」、「基本的・日常的なコミュニケーションができる」ことを目標とする。まず、韓国語の文字・発音を丁寧に学習した後、体が自然と覚えていくように「問いかけ―返事」の練習に時間をかけた演習形式で授業を行う。毎回の授業で、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：韓国語と韓国社会・文化に関する基礎知識

目標：韓国語の基礎会話とともに韓国の社会と文化を知り、理解することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：Introductionおよび韓国語の概要の説明

１）韓国語・ハングルとは？
２）ハングルの仕組み
３）簡単なフレーズ

学修課題：原則毎回の授業の冒頭に小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現などの復習をしてから授業に参加すること。

第２回：母音

１）前回学習内容の確認
２）基本母音字10個、陽母音と陰母音
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に韓国語の概要についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第３回：子音

１）前回学習内容の確認
２）基本子音字14個、平音と激音
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に母音についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第４回：合成母音（11個）

１）前回学習内容の確認
２）合成母音字11個、変わる発音
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に子音についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第５回：合成母音（５個、平音・激音・濃音）

１）前回学習内容の確認
２）合成母音字５個、平音・激音・濃音の違い
３）簡単なフレーズ

学修課題：原則毎回の授業の冒頭に合成母音についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第６回：パッチム

１）前回学習内容の確認
２）パッチムの仕組み
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に平音・激音・濃音の違いについての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第７回：発音の変化（連音化・激音化）

１）前回学習内容の確認
２）連音化・激音化など
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭にパッチムの小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第８回：発音の変化（濃音化・鼻音化）

１）前回学習内容の確認
２）濃音化・鼻音化など
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に発音の連音化・激音化についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第９回：用言の活用１（２パターンの紹介）

１）前回学習内容の確認
２）活用2パターン表現
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に濃音化・鼻音化についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第10回：用言の活用２（２パターンの活用）

１）前回学習内容の確認
２）活用2パターン表現
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に用言の活用1についての小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現などの復習をしてから授業に参加すること。

第11回：用言の活用３（３パターンの紹介）

１）前回学習内容の確認
２）活用3パターン表現
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に用言の活用2についての小テストを行うので、必ず新出語彙と新出表現などの復習をしてから授業に参加すること。

第12回：数字１（漢語数詞）

１）前回学習内容の確認
２）漢語数詞
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に用言の活用3についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第13回：数字２（固有語数詞）

１）前回学習内容の確認
２）固有語数詞
３）簡単なフレーズ

学修課題：授業の冒頭に漢語数詞についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第14回：総復習

１）前回学習内容の確認
２）「日韓友好のために」：簡単なプレゼンテーションを各自発表

学修課題：授業の冒頭に固有語数詞についての小テストを行うので、復習をしてから授業に参加すること。

第15回：到達度の確認および総評

学期を通じた復習およびまとめをするとともに、韓国語の修得の達成度チェックを行う

学修課題：これまでに学んだ内容を振り返る

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

1．私語・携帯はほかの人に迷惑になりますので禁止します。
2．授業に積極的に参加してください。特に，声を出して読むことが大事です。
3．課題，小テストの準備をした上で，授業に参加することを強く望みます。

参加度（30%）：授業に積極的に参加しているかを評価する。

小テスト・課題（30%）：毎回小テストを行い、その結果で評価する。学習課題を提出してもらう。

筆記テスト（40%）：15回目の授業で行う筆記テストの結果で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

NHKハングル講座（ラジオ・テレビどちらでも可）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スペイン語

【担当】大河　ジャッケリネ

■授業概要

スペイン語会話の基礎を勉強します。日常生活で必要な挨拶、表現、語彙、基礎的な文法などを、会話練習をすることにより身につけてもらいます。また、言葉を学ぶことを通して、ラテンアメリカとスペインの社会や文化に親しんでもらうことも、この授業のねらいの一つです。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：カリキュラム修了後には、簡単なスペイン語会話ができるようになるよう、授業内では会話の練習に重点を置いています。

目標：スペイン語での簡単なコミュニケーションをとれるようになること。スペイン語の言語習得だけではなく、ラテンアメリカとスペインの文化を学ぶこと。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：イントロダクション、スペイン語のアルファベット
基本的な挨拶、主語人称代名詞
学修課題：スペイン語独特の発音を練習

第２回：テキストの第１課
自己紹介、国籍、職業や身分を言う
定冠詞・形容詞の性
学修課題：男性名詞、女性名詞の区別を知る

第３回：テキストの第２課
～が好きですか　？Le gusta ～？
基礎単語・定冠詞の練習問題
学修課題：サッカー用語など簡単な単語を覚える

第４回：テキストの第３課
職業　Profesiones
～ ar動詞を習う
学修課題：動詞の変化は複雑、しっかり覚える

第５回：テキストの第４課
数字と色　Numeros y colores
学修課題：UNO（１）　DOS（２）・・　数字に強くなろう

第６回：テキストの第５課
これは何ですか／これはどんな物ですか／形容詞の性
？Que es esto？　？Como es esto？
学修課題：旅行で大事な会話フレーズを覚える

第７回：テキストの第６課
～があります　haber動詞
～はいくつありますか　Cuantos ～ hay ？
学修課題：数字を覚えたらその応用をしっかり身につける

第８回：まとめ、小テスト
前半のまとめ、小テストを行う
学修課題：前半の講義で学んだ内容を復習しておく

第９回：テキストの第７課
～持っています　tener動詞　Julian tiene fax.
～持っていますか
学修課題：大事な動詞をしっかり覚えてくる

第10回：テキストの第８課
～を知っている　conocer動詞
Conozco Madrid.
学修課題：ER、IR動詞の不規則動詞を覚える

第11回：テキストの第９課
～が欲しい　querer動詞
Quiero una cerveza.
学修課題：会話で一番大事な動詞です。

第12回：テキストの第10課
スポーツをする　hacer動詞
Hacer deporte.
スポーツについて話す。
学修課題：この動詞の変化もよく使います。

第13回：テキストの第11課
～はどこにあります　？Donde？疑問詞
？Donde esta ～？
学修課題：居場所を言う大事なフレーズです

第14回：文化紹介、ラテンアメリカのお話をする。
みんなで簡単なスペイン語の会話をする。
学修課題：ラテンアメリカ等について調べてくる

第15回：まとめおよび総評
これまでの学習内容の振り返りを行う。
学修課題：これまでの学習内容について復習し、身につける

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

中間試験（20%）：８回目の講義において小テストを実施する
最終試験（80%）：

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

なし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

情報処理論

【担当】北中　佑樹

■授業概要

この講義では，情報に接する上で基本となる知識や技術を身に着けることで，身の回りの情報をコンピュータにより処理し，適切に表現することで大学での学びに寄与することを目指す．
具体的には，ワードプロセッサソフトによる文書表現の方法と表計算ソフトによるデータの整理と加工の方法を，演習を通して身につける．
また，情報を扱う上で必要なセキュリティや知的財産権についての知識を学ぶことで，安全にコンピュータを使用できるようになる．

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：情報を扱う上で知っておくべき、コンピュータについての知識や、知的財産権やネットにおけるマナーについて学ぶ．
目標：情報倫理と基本的な用語を習得し，コンピュータを安全に使うことができる．

2．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：ワードプロセッサソフトを用いた演習によって，ワードプロセッサの基本的な操作と文書表現の方法について学ぶ．
目標：ワードプロセッサソフトを使用し，図や表を挿入した適切な書式の文書を作成できる．

3．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：表計算ソフトを用いた演習によって，表計算ソフトの基本的な操作と，参照計算，データの整理と加工を学ぶ．
目標：表計算ソフトを使用し，データを整理・加工することで，表やグラフといった形式でデータを適切に表現できる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業ガイダンス・コンピュータ操作の基本
授業の目標，学習内容，評価方法，受講に際しての諸注意を説明します．
コンピュータにログインし，ソフトウェアの起動やファイルの操作，文字入力等，基本的な操作について学びます．
学修課題：自らのIDとパスワードを使用し，学生向けページにログインできることを確認する．コンピュータを使用し，授業で行った操作を復習しておく．コンピュータの基本的な操作についての確認問題に取り組む．

第２回：コンピュータの構成要素・Wordの基本的な操作
コンピュータを構成する装置について学び，入力・出力をはじめとした各装置の役割を理解します．
Wordを使用して文字を適切に入力し，書式を変更する方法について学びます．
学修課題：配布する資料をよく読み，コンピュータを構成する装置について復習しておく．様々な書式の変更操作を確実に行えるように復習しておく．コンピュータの構成要素とWordの基本的な操作についての確認問題に取り組む．

第３回：ハードウェアとソフトウェア・Wordを使用した文書作成
ハードウェアとソフトウェアの違いについて学び，ソフトウェアの役割を理解します．
前回習得した書式変更の方法を活かし，演習課題としてビジネス文書を作成します．
学修課題：配布する資料をよく読み，ハードウェアとソフトウェアの違いについて復習しておく．演習課題を完成させる．ハードウェアとソフトウェアやWordの様々な書式についての確認問題に取り組む．

第４回：情報のディジタル化・Word文書への表の挿入
アナログとディジタルの違いについて学び，コンピュータがどのように情報を扱っているかを理解します．
Wordを使用して，適切に表を作成する方法について学びます．
学修課題：配布する資料をよく読み，コンピュータがどのように情報を扱っているかを復習しておく．表の作成方法について復習しておく．ディジタル表現とWordの表作成についての確認問題に取り組む．

第５回：マルチメディア・表を含む文書作成
コンピュータが様々な形式の情報をどのようにして表現しているかを学びます．
Wordを使用した複雑な表の作成方法を学びます．
また，演習課題として表を含むより複雑な文書を作成します．
学修課題：配布する資料をよく読み，様々な形式の情報をどのようにして表現しているかを復習しておく．演習課題を完成させる．コンピュータにおけるデータ表現とWordの複雑な表についての確認問題に取り組む．

第６回：Word文書への図の挿入
Word文書への図の適切な挿入方法について学びます．
また，演習課題として，図を含む文書を作成します．
学修課題：図の挿入の仕方や適切な配置の方法について復習し，演習課題を完成させる．Wordの図の挿入についての確認問題に取り組む．

第７回：Word総合演習
これまで学んできたWordの操作方法について確認し，様々な書式・表・図が含まれる総合的な演習を行います．
学修課題：演習課題を完成させ，苦手だと感じた要素について復習をしておくこと．Wordを使用した文書作成についての確認問題に取り組む．Excelを起動し，簡単に操作を確認しておくこと．

第８回：ネットワークとセキュリティ・Excelの基本操作
ネットワークの基本的な仕組みとネットワークセキュリティを学び，安全にコンピュータを使用する方法を覚えます．
Excelの基本的な操作について学び，セルを対象とした操作を習得します．
学修課題：配布する資料をよく読み，ネットワークとセキュリティについて復習しておく．セルに対する書式変更やオートフィルなどのExcelの基本的な操作について復習しておく．ネットワークとセキュリティ，Excelの基本操作についての確認問題に取り組む．

第９回：情報倫理・Excelでの計算方法
情報機器を扱う上で留意すべき法律やマナーについて学びます．
Excelを使用し計算を行う．参照を使用した方法について理解します．
学修課題：配布する資料をよく読み，情報倫理について復習しておく．参照を使用した計算の演習課題を完成させる．情報倫理とExcelの参照計算についての確認問題に取り組む．

第10回：Excelの関数
関数を使用し，計算を行います．
基本的な関数の使用方法を習得し，関数を使用する演習問題を完成させます．
学修課題：演習問題を完成させ，関数の使用方法を復習しておくこと．授業で扱う基本的な関数を覚えておくこと．Excelの関数についての確認問題に取り組む．

第11回：グラフの作成
Excelを使用し様々なグラフを作成します．
また，作成したグラフを適切に設定変更する方法について学び，グラフの作成についての演習問題を完成させます．
学修課題：演習問題を完成させ，グラフの作成方法を復習しておくこと．グラフの各部位と設定変更の方法を覚えておくこと．Excelのグラフについての確認問題に取り組む．

第12回：データベース
データベースと呼ばれる大きなデータを扱う方法について学びます．
データベースを適切に並べかえ，必要なデータを抽出する方法について学び，データベースについての演習問題を完成させます．
学修課題：演習問題を完成させ，データベースの操作を復習しておくこと．データベースから適切な情報を抽出する方法について復習しておくこと．Excelのデータベースについての確認問題に取り組む．

第13回：データのリンク
WordとExcelをリンクさせ，Excelで作成したデータを利用したWord文書の作成の方法について学びます．
学修課題：Wordの操作方法について，苦手な箇所があれば復習しておくこと．Excelで作成したデータをWord文書内に挿入する方法について復習しておくこと．WordとExcel双方を使用した確認問題に取り組む．

第14回：計算の発展
参照計算や関数を組み合わせ発展させた複雑な計算に取り組みます．
学修課題：Excelの演習課題を完成させる．計算について苦手な要素があれば復習しておくこと．Excelにおける計算の応用についての確認問題に取り組む．

第15回：総合演習
これまで学んできたExcelの全要素を確認する演習を行います．
学修課題：これまで学んだ内容から，苦手な問題があれば再度取り組み，習得をしておくこと．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること．
確認問題（56%）：授業内容の理解度を解答の正解・不正解に基づき，各４点満点で評価します．問題は各授業で配布し，次回授業で回収します．（各４点×14回）
総合演習（10%）：解答の正解・不正解を基に評価します．
期末レポート（34%）：記述内容の妥当性と，文書処理の能力について，独自のルーブリックに基づいて評価します．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

学生に役立つMicrosoft Word 2010 基礎，富士通エフ・オー・エム
学生に役立つMicrosoft Excel 2010 基礎，富士通エフ・オー・エム
その他，適宜紹介を行う．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる．
授業で学んだことは，授業外で繰り返し復習し確実に習得すること．
コンピュータの操作が苦手な者は，授業外で積極的にコンピュータを使用し，慣れるようにすること．

コンピューターリテラシーⅠ

【担当】田中　優介

■授業概要

授業概要：表計算ソフトおよびワープロソフトは、あらゆる分野で利用されている。この科目ではそれらの代表的なソフトの一つであるMicrosoft-ExcelとMicrosoft-Wordを基礎から学習し、文章処理、表の作成と編集、データの統計処理、データベース機能の利用、各種の統計データの活用等を習熟する。

あらゆるデータをMicrosoft-ExcelとMicrosoft-Wordを用いて処理し、分析し、レポートとしてまとめることにより、Microsoft-ExcelとMicrosoft-Wordを使いこなせるようになることを目標とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：コンピューターに関する基礎知識

目標：収集したデータを分析・理解し、資料としてまとめることができるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：文章処理演習（１）
講義の概要説明と、Wordへの入力・変換・レイアウトを整えた文章作成等の基礎機能の確認。
学修課題：ワード入力について、実際に操作し、復習を行う。

第２回：文章処理演習（２）
画像や図形などの挿入、ワードアートの利用による、より見やすい文章作成等のグラフィック機能の確認。
学修課題：グラフィック機能について、実際に操作し、復習を行う。

第３回：文章処理演習（３）
段組み、グラフ・表・数式の挿入を理解し、様々なレポート提出様式に対応した文章作成等のレイアウトを整えたレポートの作成。
学修課題：文章作成について実際に操作し、復習を行う。

第４回：表計算演習（１）
Excelへの入力、表の作成、簡単な表計算等の基礎機能の確認。
学修課題：表作成について実際に操作し、復習を行う。

第５回：表計算演習（２）
関数の活用（１）
SUM関数、AVERAGE関数、STDEV関数などを理解。
学修課題：関数計算を実際に操作し、復習を行う。

第６回：表計算演習（３）
関数の活用（２）
RANK関数、IF関数などを理解。
学修課題：表計算を実際に操作し、復習を行う。

第７回：表計算演習（４）
関数の活用（３）
VLOOKUP関数、COUNT関数などを理解。
学修課題：関数理解を深める

第８回：表計算演習（５）
グラフの活用（１）
棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散布図の作成。
学修課題：棒グラフ作成を実際に操作し、復習を行う。

第９回：表計算演習（６）
グラフの活用（2）
複合グラフ、補助円付き円グラフなどの作成。
学修課題：円グラフ作成を実際に操作し、復習を行う。

第10回：表計算演習（７）
表作成活用
表示形式の変更や条件付書式、入力規則などを理解。
学修課題：表作成を実際に操作し、復習を行う。

第11回：表計算演習（８）
データベースの活用
集計機能、ピボットテーブルなどを理解。
学修課題：集計機能を理解する

第12回：表計算演習（９）
ブックとワークシートの活用
複数ブック間で集計と統合、複数のワークシートの同時編集。
学修課題：ワークシートの作成を実際に操作し、復習を行う。

第13回：マクロ
マクロ機能の基本操作の理解。
学修課題：マクロ機能の理解を深める

第14回：まとめ（１）
第１回～第7回までの内容の復習。
学修課題：復習の総括を行う

第15回：まとめ（２）
第８回～第13回までの内容の復習。
学修課題：授業内容の総括を行う

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。

コンピュータ機器を扱うため講義室内での飲食は厳禁とする。

課題提出（15%）：各回の講義内で行う課題等を提出することにより、各回１点×15回とする。

レポート（10%）：レポートは５点×２回とする。評価基準は指定した提出様式に則してレポート作成していれば５点。則していなければ、そこから減点とする。

小テスト（15%）：与えられた問題に対しWordとExcelを用い、適切な機能を用いて処理を行えるのかを確認する。

試験（60%）：与えられた問題に対しWordとExcelを用い、適切な機能を用いて処理を行えるのかを確認する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

飯田慈子・小林正樹・米沢雄介30時間アカデミック情報活用Excel2010-Windows対応　　実教出版

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

基礎的な操作や機能の復習から入り、応用、実践と進んでいきます。今後の大学生活や社会生活においても必要な知識となりますので、自信有無にかかわらず積極的に学んでいきましょう。

コンピューターリテラシーⅡ

【担当】木村　聡

■授業概要

大学での学習・研究は、文書作成と同様に、表計算ソフトウェア他を使用しての、特性値の算出や各種統計的処理といった、基礎的なデータ処理を要求することがある。また、表計算ソフトウェアは、特定データの検索など、実務でも重宝される機能を多く持っている。本講座では、データ型と関数の利用方法を主眼に置き、表計算ソフトウェア利用のための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：表計算ソフトウェアの利用。

目標：関数を駆使した、効率的なスプレッドシートを作成できる知識を身につける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：関数とは

「関数」という言葉の意味、関数の形式、関数の入力方法など

学修課題：関数の入力支援機能や[関数の挿入]ダイアログの使い方を確認

第２回：データの型

数値、文字列、論理値、エラー

学修課題：IS*** 関数の使い方を確認

第３回：集計用の関数

合計、平均、個数

学修課題：SUM, AVERAGE, COUNT の各関数の使い方を確認

第４回：集計関連の関数

最大、最小、順位

学修課題：MAX, MINI, RANK.* の各関数の使い方を確認

第５回：条件と判断

条件、複合条件

学修課題：IF, AND, OR, NOT, COUNTIF の各関数の使い方を確認

第６回：VLOOKUP関数を使った簡単な伝票システム

VLOOKUP関数について

学修課題：VLOOKUP関数の検索の仕方を確認

第７回：VLOOKUP関数を使った簡単な成績処理システム

VLOOKUP関数を用いた伝票システムを作成し、関数の活用方法を実習する

学修課題：完全一致と近似一致の違いを確認

第８回：VLOOKUP関数以外の検索関数

MATCH関数とINDEX関数を使ってみる

学修課題：MATCH関数とINDEX関数の使い方を確認

第９回：データ整形

数値を丸める

学修課題：ROUND, ROUNDDOWN, ROUNDUP の各関数の使い方を確認

第10回：シリアル値

時刻データの扱い

学修課題：シリアル値という表現法の確認

第11回：文字列

各種の文字列操作関数

学修課題：LEN, LEFT, RIGHT, MID, CONCATENATE の各関数の使い方を確認

第12回：文字列の検索

文字列検索、文字列と数値間の変換

学修課題：SEARCH, VALUE, TEXT 等の関数の使い方を確認

第13回：ピボットテーブル

集計表とピボットテーブル

学修課題：クロス集計表とは何か調べる

第14回：グラフ

集計結果をグラフに反映すること、また、各種グラフの特性について

学修課題：データの種別(質的変数と量的変数)について調べる

第15回：レポート作成

レポートの書き方 他

学修課題：レポートの書き方を確認

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

期末試験（80%）：

講義時間内で指示する課題（20%）：「考えて、解答する」ことを評価の基本とするので、解答内容そのものについては、正誤を、特に気にする必要は無い。

■教科書

飯田慈子・米沢雄介・小林正樹　・30時間アカデミック 情報活用Excel2010　・実教出版　・2011年

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

表計算ソフトウェアは、応用範囲の広い、有用なアプリケーションである。ユーザから見て、いかにもコンピューターを「使っている」と実感できもする。その分、「難しい」という印象を持ちやすいとも言えよう。確かに、「コンピュータの都合」を考慮せねばならない分だけ難しいのは事実ではあるものの、しかし、本当に難しいのは、実は「PCと表計算を使って解決しようとする問題」であって、表計算やPCを使うことではないことも、珍しくない。本講座が、「解きたい問題を、どうすれば、PCと表計算を使って解けるのか？」を考えるヒントになれば、幸甚である。

コンピューターリテラシーⅢ

【担当】木村　聡

■授業概要

定型処理、自動処理は、コンピューターの利用技術において、本質的な部分と言える。また、実務においても、処理効率の向上に、その効果を、大いに期待できるものである。本講座では、表計算ソフトウェアMicrosoft Excelのマクロ機能を利用しての、定型処理、自動処理の実現法を中心に、学ぶ。比較的簡単なサンプルアプリケーションを示し、その実現に向け、マクロ機能の基本であるキーボードマクロから始め、簡単なループ処理まで進みたい。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：Excelのマクロ機能。

目標：マクロ機能を、キーボードマクロの域を超えて、利用できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：基礎知識の確認
スプレッドシートを使う意味を思い出す
学修課題：関数、セルの絶対参照など、確認

第２回：マクロ機能
マクロ機能とは
学修課題：[開発]タブの使い方を確認

第３回：キーボードマクロ
定型処理としてのキーボード操作の登録と呼び出し
学修課題：キーボードマクロの登録と呼び出し方法を確認

第４回：マクロ付きスプレッドシートとセキュリティ
マクロの実行許可がもたらすもの
学修課題：マクロウイルスについて調べる

第５回：マクロとVBA
Officeのマクロ用言語VBAについて
学修課題：Wordのマクロ機能を調べる

第６回：コントロール
スプレッドシートにコントロールを置く
学修課題：コントロールの配置方法を確認

第７回：コントロールとVBA
コントロールからVBAコードを呼び出す(イベント駆動)
学修課題：コントロール操作で起きることを確認

第８回：VBAの変数
VBAで使う「変数」とは何か
学修課題：Excelでのデータの型を復習

第９回：VBAの代入と演算
四則演算と代入
学修課題：Excelでの演算式を復習

第10回：VBAとオブジェクト
「オブジェクト」という捉え方
学修課題：「オブジェクト」という語の意味を調べる

第11回：VBAとセル
VBAからスプレッドシートのセルを参照する
学修課題：Rangeオブジェクトついて調べる

第12回：VBAと関数
VBAから関数を呼び出す
学修課題：スプレッドシートの関数とVBAの関数の違いを確認

第13回：判断
If文とSelect文
学修課題：Excelの条件の書き方を復習

第14回：反復
For文、Do文
学修課題：「何故、繰り返す形に書くのか？」を考える

第15回：全体のまとめ
補遺と簡単なExcelアプリケーションの作成
学修課題：Excelアプリケーションの作成の仕方を確認

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

期末試験（80%）：

講義時間内で指示する課題（20%）：「考えて、解答する」ことを評価の基本とするので、解答内容そのものについては、正誤を、特に気にする必要は無い。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

Excelのマクロ機能は、その気になれば、本格的なアプリケーションを実現できるほどのものであり、その恩恵は、多少の努力に見合うものである。学生諸君には、馴染めない部分もあるかもしれないが、少なくとも、こうした世界と技術があることを理解して頂きたい。また、これを悪用する、通称、マクロウィルスの存在を、認識して頂きたい。

スポーツ学入門Ⅰ（総論）

【担当】学部長／他

■授業概要

本学における「スポーツ学部」のベースとなっている「スポーツ学」について、そして「各コースに位置付けられたスポーツの特徴」について、その基本的な理念を学習する。また本学においてスポーツ学を学ぶために欠かせない学園の「建学の精神」や本学の「理念・目的」について理解した上で、大学での学びのルールについても学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：「スポーツ学部」のベースとなっている「スポーツ学」について、そして「各コースに位置付けられたスポーツの特徴」について、その基本的な理念を学習する。

目標：スポーツ学とは何なのか、体育とスポーツの違いが何か説明できる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学園の「建学の精神」や本学の「理念・目的」について理解した上で、大学での学びのルールについても学習する。

目標：各種スポーツの観点について理解し、学部共通科目、学科共通科目を学習する基盤を持つ。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション（学部長、教務委員長）、スポーツ学の学び方概説

授業ガイダンス、１年次末に行われるコース選択、２年次末にチェックされる進級ルール等、スポーツ学部全体の学び方について説明する

学修課題：ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーをまとめる

第２回：建学の精神とスポーツ（学長）

大阪成蹊学園の建学の精神を理解する

建学の精神の観点からスポーツ、スポーツ学をみる

学修課題：ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーについて理解を深め、今後養うべき自己の課題についてまとめる

第３回：スポーツ学とは（学部長）、大学でのルールとマナー（学生委員長）

体育とスポーツ、スポーツ文化、スポーツ学とはについて概説する

BSSC教育の特徴、BSSCの目指す人物像について学部長から説明する

学修課題：BSSCとしての目指す人物像と現在の自己を比較して、今後飛躍するための課題と在学中に学んでみたい課題についてまとめる

第４回：スポーツ学（野外スポーツ）

野外スポーツの観点から、スポーツについて概説する

学修課題：野外スポーツにおけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第５回：スポーツ学（コーチング）

スポーツコーチングの観点から、スポーツについて概説する

学修課題：コーチングにおけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第６回：スポーツ学（スポーツと環境、学長）

地域の自然とスポーツを生かした地域創生など、今後の新しいスポーツ学の発展の可能性について学ぶ

学修課題：環境とスポーツの捉え方についてまとめる

第７回：スポーツ学（地域スポーツ）

地域スポーツの観点からスポーツを概説する

学修課題：地域スポーツにおけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第８回：スポーツ学（トレーニング・健康）

トレーニングと健康の観点からスポーツを概説する

学修課題：トレーニングと健康領域におけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第９回：スポーツ学（学校スポーツ）

学校スポーツの観点からスポーツを概説する

学修課題：学校におけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第10回：スポーツ学（スポーツビジネス）

スポーツビジネスの観点からスポーツを概説する

学修課題：ビジネスにおけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第11回：スポーツ学（スポーツ情報戦略）

スポーツにおける情報戦略について概説する

学修課題：情報戦略におけるスポーツの捉え方の特徴についてまとめる

第12回：スポーツと健康（保健センター）

本学が目標として掲げている『タバコの無いキャンパス』の説明と禁煙教育、そしてスポーツ傷害の予防の観点からスポーツと健康について概説する

学修課題：スポーツと喫煙の影響やスポーツでのケガを防ぐにために必要な課題についてまとめる

第13回：スポーツの社会貢献（スポーツ開発支援センター長）

スポーツ開発支援センターで地域との連携の下重点的に取り組んでいる「びわスポキッズプログラム」ならびに公開講座として行っているスポーツプログラムについてスポーツ学を知る観点から紹介する

学修課題：広域スポーツの有り方についてまとめる

第14回：キャリア教育（就職委員長）

３年後に待ちうける就職活動へつなぐキャリア教育の第一歩として、卒業生の就職活動体験談を聞く

学修課題：スポーツを活かした職業の拡張性について学ぶ

第15回：まとめ（特別講義を含む、学部長）

多岐にわたるスポーツの可能性と観点を理解し、自己の志向性を拡張するための柔軟な発想を養う

学修課題：この授業で学んだスポーツ学についてまとめ、自己の専門性の希望と課題をまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業毎の課題レポート（100%）：複数のレポート課題について、内容の妥当性と理論構成について独自のルーブリックに基づいて評価します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

スポーツ学のすすめ　大修館書店

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ生理学概論

【担当】禰屋　光男

■授業概要

スポーツ生理学概論は、人体の機能を探求する学問である生理学の中で、スポーツという観点で学ぶ学問領域です。このスポーツ生理学を学ぶことで、各自のスポーツの競技力向上やトレーニングに役立てることができます。特に、骨格筋やエネルギー供給系の知識は中学校や高校の保健体育の授業においても紹介されます。これらの知識を習得することは中学生、高校生の保健体育の授業やスポーツ活動を指導する上で不可欠です。この授業では運動生理学の概要を紹介します。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：主にスポーツ活動時に生じる運動生理学的反応を中心に学ぶ

目標：運動生理学的観点からパフォーマンス分析を行う際に必要な基礎的知識を習得すること

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：オリエンテーションおよびスポーツ生理学の哀切

授業の内容，進め方，予習･復習，評価方法などについて説明します．

学修課題：配布された資料の内容を復習すること

第２回：身体組成，骨格筋の構造

スポーツ生理学を学ぶのに必要な身体の構造（身体組成，骨格筋の仕組み）について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（身体組成、骨格筋の仕組み）を復習すること

第３回：骨格筋の微細構造と神経支配

骨格筋の微細構造と骨格筋を構成する要素，収縮のための神経の支配の仕組みを学びます．

学修課題：配布された資料の内容（骨格筋の微細構造、神経支配による収縮）を復習すること

第４回：骨格筋収縮のメカニズム

運動単位や興奮収縮連関について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（運動単位、興奮収縮連関）を復習すること

第５回：筋活動のためのエネルギー供給系

筋活動に必要なエネルギー供給系とその基質について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（３つのエネルギー供給系の特徴）を復習すること

第６回：筋線維タイプの特性

エネルギー供給系と筋収縮特性からみた筋線維タイプの特性を学びます．

学修課題：配布された資料の内容（筋線維タイプとエネルギー供給系の関係）を復習すること

第７回：筋の力発揮特性

筋の横断面積と固有筋力，関節角度の影響などについて学びます．

学修課題：配布された資料の内容（筋断面積、関節角度と発揮張力）を復習すること

第８回：筋活動の種類と特性

静的収縮と動的収縮について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（静的収縮、動的収縮の特徴）を復習すること

第９回：骨格筋の加齢による変化と性差

骨格筋の発育，老化による変化およし性差について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（骨格筋の発育、老化、性差の特徴）を復習すること

第10回：運動を制御する神経系の構造

筋の活動に影響を及ぼす神経系の構造と働きを学びます．

学修課題：配布された資料の内容（神経系の構造）を復習すること

第11回：運動・トレーニングと神経系の機能

運動時の神経系の機能の機序および各種トレーニングによる神経系機能の応答について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（トレーニングによる神経系機能の変化）を復習すること

第12回：運動を制御する内分泌系の機能の概要

運動に関係する各種ホルモンの特性と機能について学びます．

学修課題：配布された資料の内容(各種ホルモンの運動に対する影響)を復習すること

第13回：運動と免疫系の関係の概要

運動に関係する免疫系の特性について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（運動時の免疫系の機能）を復習すること

第14回：運動と呼吸循環系機能の概要

運動に関係する呼吸循環系機能の概要について学びます．

学修課題：配布された資料の内容（運動時の呼吸循環系の機能）を復習すること

第15回：授業期間全体の内容のまとめ

授業期間全体を通じて，特に重要な点について復習します．

学修課題：配布された資料の内容を復習すること

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

学期末の試験により評価する

学期末試験（80%）：授業で解説したスポーツ生理学の基礎知識の理解度を筆記試験で評価する。

授業期間中の課題（レポート）（20%）:授業で解説する生理学領域（４領域）ごとに重要点をまとめたレポートを提出すること（５点×４領域)。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識」村岡功編著　市村出版

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツマネジメント概論

【担当】石井　智

■授業概要

スポーツマネジメントとは、スポーツ組織が組織目標を達成するために、また持続可能な発展を志向するために、人材、資金、資源、情報を効果的に配分、管理することである。本講義では、スポーツ組織にとどまらず、自らの競技や生き方に対するマネジメント手法を学ぶことによって、豊かな人生を送るための基礎的スキルの獲得を目指す。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツが生活において多様なシーンで活用されている実態について把握する

目標：スポーツの社会的意義について理解し、スポーツが社会課題の解決に役立つことを実感する

2．DP6．優れたスポーツマンシップ

具体的内容：マネジメントにおけるスポーツ界のみならず、実業界におけるリーダーシップについて学習する

目標：真のリーダーシップについて理解する

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツが社会課題の解決に活用されている実態について学習し、スポーツの今日的価値について学習する

目標：スポーツをカルチベイト（深く耕す）することは社会の発展に大きく貢献できるということを実感する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび、スポーツマネジメントの概説

マネジメントとは何か？また、スポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、復習しておくこと

第２回：スポーツマネジメントの対象分野

スポーツに関するマネジメントの領域、たとえば学校スポーツの現場やスポーツ産業、スポーツ市場、個別産業領域を知る。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツ産業の特徴について復習しておくこと

第３回：プロスポーツのマネジメント

プロスポーツ組織におけいて、スポーツの価値を向上させ、顧客（消費者）＝ファンにどのようなベネフィットを提供するのかについて学習する。具体的にはプロ野球、Jリーグ、スポーツ観戦、スポーツファンについて学習する。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、プロスポーツのマネジメントについて復習しておくこと

第４回：スポーツ施設のマネジメント

スポーツの価値を享受するにはやはり適切な「場」が必要である。しかし、いくら良い場があってもそれをうまく活用できなければ意味がない。「場」の価値を高める代表的事例、スポーツスタジアムの指定管理者制度などを学ぶ。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、マーケティングやスポーツプロダクトについて復習しておくこと

第５回：スポーツマーケティング

マーケティングの本質である、顧客の創造はマネジメントの本質でもある。このことを、スポーツプロダクト、消費者ニーズ、スポーツ消費者行動を学び、実感として理解する。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツイベントや施設の経済効果について復習しておくこと

第６回：スポーツマーケティングミックス

マーケティングを考えるうえで大事な、４P(製品、価格、流通、販売促進）の学習を通じて経済におけるマネジメントの本質について学ぶ。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツマーケティングミックスについて復習しておくこと

第７回：スポーツマーケティングミックス：サービスマーケティング

サービスの本質は何か？従業員のホスピタリティはどのように醸成するのか？製品やサービスの提供過程、サービス環境を中心に学ぶ。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、コアプロダクトとカスタマーサービスについて復習しておくこと

第８回：スポーツブランドマネジメント

ブランドとは企業と顧客との信頼関係である。それはどのようにすれば実現するのか？ブランディングやブランドマネジメントの実際を学習しながら、「ブランド価値」について学びを深める。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツプロダクトのブランディングについて復習しておくこと

第９回：スポーツスポンサーシップ

マーケティング戦略のひとつであるスポンサーシップについて学ぶ。広告との違いやなどからスポンサーシップの本質について学習する。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップについて復習しておくこと

第10回：パブリックリレーションズ

PRとは企業と顧客とのコミュニケーションである。ステイクホルダー（利害関係者）ごとの関係性をいかに構築するのか、そのための広報はどうするのか？について、メディアスポーツの視点から明らかにする。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、パブリックリレーションズについて復習しておくこと

第11回：スポーツ組織論：計画と組織化

組織を活性化するためのマネジメント機能、自身を成長させるためのセルフ・マネジメントなどを学ぶ：計画、組織化

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、計画と組織化について復習しておくこと

第12回：スポーツ組織論：実行と評価

組織を活性化するためのマネジメント機能、自身を成長させるためのセルフ・マネジメントなどを学ぶ：実行と評価

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、実行と評価について復習しておくこと

第13回：スポーツファイナンス

スポーツの経験価値を醸成する場としての「スタジアム」や「アリーナ」を建設するための資金調達方法を学ぶ。このことは、一般の経済活動にも活用できることを理解する。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツにおける財源の開発について復習しておくこと

第14回：スポーツ経済学

行動経済学におけるアノマリーとナッジを学び、経済行動とスポーツの関連性を学ぶ。そのほか、税金、需要と供給などの知識も併せて学ぶ

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツと経済の関係について復習しておくこと

第15回：まとめ

スポーツビジネスマネジメントの基礎の復習と期末試験の説明

学修課題：これまでの配布資料および読み物を整理し、期末試験に備え、事前に質問を準備する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

レポート（毎講義後提出。中間テスト含む）（45%）：授業内容にかかわる資料作成、学修課題についての自分の意見をまとめる能力をみる。

期末テスト（55%）：授業で取り上げた専門的知識の理解度をはかる。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年

スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

受講生は、毎時間後、与えられたテーマについて講義の内容を踏まえて小レポートを提出ください。また、中間試験と期末試験に備え、毎時間の配布資料の復習を行うなど、授業の予習と復習を行ってください。

スポーツをさらに面白くする、楽しくする、魅力的に見せるためには、スポーツビジネスのマネジメントが欠かせません。また、マネジメントを学ぶことはスポーツにとどまらず、社会にでてからのスキルにもつながります。そういう意味でも、人々が求める新しいスポーツの楽しみ方を提供するにはどうしたら良いのか、という課題について一緒に考えましょう。

スポーツ社会学概論

【担当】佐藤　馨

■授業概要

スポーツ社会学は、スポーツの場面での人の行為や行動、スポーツ通じて起こる社会現象や変動を扱い、それを紐解いていく学問である。すなわちスポーツ社会学は、スポーツの場面での人の行為や行動、スポーツに関わる組織やスポーツを通じて起こる社会現象や変動を扱い、それを紐解いていく。本講義では、スポーツに関連する事象を「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」といったテーマからスポーツに包含される問題を学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツ社会学の意義

目標：スポーツ社会学の基礎を習得し、スポーツ社会学の意義を理解する。

２．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：社会学的キーワードとスポーツとの関わり

目標：「人種」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「政治」等をスポーツとの関連から理解する。

３．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツにおける多様な問題

目標：スポーツにおける多様な問題を社会学的に学習しし、問題の本質を理解する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：スポーツ社会学概論：ガイダンスおよびスポーツ社会学の概説

スポーツ社会学で学習する全講義の概要と受講上の留意点

学修課題：スポーツ社会学で学習する講義の概要および受講上の留意点ににについて資料を精読する

第２回：社会学とスポーツ　スポーツにおける社会学の位置づけ

スポーツ社会学は学問的にどこに位置するのか、スポーツ社会学の意義とは何か

学修課題：スポーツ社会学的な視点で見ることの意味を理解する

第３回：社会学とスポーツ　スポーツをする行為と社会による影響

スポーツをする行為は必ず他者から何らかの影響を受けていることを理解する

学修課題：スポーツにおける社会化とその周辺概念についてまとめる

第４回：人種・民族とスポーツ　人種・民族とスポーツとの関わり

人種・民族とスポーツとの関連を解説する

学修課題：人種や民族が問題となった社会的事象を調べる

第５回：人種・民族とスポーツ　歴史的にみたスポーツにおける人種・民族問題

スポーツにおける人種・民族問題の歴史的背景の概観

学修課題：スポーツにおける人種や民族について調べ、まとめる

第６回：ジェンダーとスポーツ　ジェンダーとは何か

「ジェンダー」はスポーツにどのような影響を及ぼしているのか

学修課題：ジェンダーとスポーツの関係について調べる

第７回：ジェンダーとスポーツ　らしさとスポーツ

「女性らしさ」や「男性らしさ」におけるスポーツへの影響

学修課題：スポーツとジェンダーにおける自分の経験をまとめる

第８回：前半までの授業のまとめと確認

前半までの講義において内容を正確に理解しているか確認する

学修課題：前半までの講義内容について正確に理解し、まとめる

第９回：スポーツとメディア　メディアがスポーツに与える影響

メディアとスポーツとの関連、特にばオリンピック等のスポーツイベントを事例として

学修課題：メディアがスポーツに与える影響について具体例をまとめる

第10回：スポーツとメディア　スポーツの「見せ方」「あつかい方」

メディアにおけるスポーツの「見せ方」「あつかい方」の差異と矛盾

学修課題：メディアによるスポーツに見せ方とあつかい方の差異と矛盾について具体例をまとめる

第11回：スポーツとガバナンス

なぜ組織においてガバナンスが必要であるのか

学修課題：スポーツにおけるガバナンスの必要性についてまとめる

第12回：スポーツとハラスメント

「セクシャルハラスメント」を取り上げ、それが生起する社会的構造について説明する

学修課題：スポーツにおけるセクシャルハラスメントについてこれまでにメディア等で報道された具体例について調べる

第13回：スポーツと政治　スポーツと政治との結びつき

スポーツと政治（政府）の結びつきはどのようなものであるか

学修課題：スポーツと政治が結びつくことのメリット、デメリットについてまとめる

第14回：スポーツと政治　スポーツにおけるテロリズム

歴史的変遷から見るスポーツイベントにおけるテロリズム

学修課題：過去にあったスポーツにおけるテロリズムについて調べ、まとめる

第15回：ドーピングとスポーツ

なぜドーピングは根絶できないのか、社会規範との関連から解説する

学修課題：なぜスポーツにおいてドーピングが問題視されるのか、その功罪についてまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他

優秀な提出課題については、講義中に全体に対してコメントします

■評価方法

授業で学習した内容に沿った小レポート（５％）：授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する。

授業中盤に実施する確認テスト（25%）：講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか25点満点で評価する。

本試験（70%）：講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのかを70点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『Sport in Society 7th Ed』Coakley, J.J., Boston; MacGraw-Hill, 2001

『スポーツの社会学』池田勝,守能信次編　杏林書院　1998

『現代スポーツの社会学-課題と共生への道のり-』,J.コークリー ,P.ドネリー著、前田和司,大沼義彦,村松和則　共編訳,南窓社,2011

■履修上の注意・備考・メッセージ

履修上の注意

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本試験だけでなく、講義中盤で実施する確認テストも全体評価の45%を占める。従って、普段の講義で重要と指摘された点は確実に覚えるだけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。

メッセージ

普段目にしたり、行なっているスポーツの場面で起こっている事象や問題には、何かしら必ず理由や理屈がある。そうした理由等をスポーツ社会学を通じて理解できるようになる講義を目指す。

スポーツ心理学概論

【担当】豊田　則成

■授業概要

スポーツ心理学は、スポーツに関わる心理的側面を研究するために生まれた学問である。スポーツメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニングを含む）は、スポーツ領域において、既に周知の科学的アプローチであり、大事な本番での実力発揮に向けては不可避な取り組みとなっており、スポーツ心理学は、その学術的背景を理解する上で、有益な学問であるといえる。本講義では、スポーツの実践や指導場面に役立つような、スポーツ心理学の有益な知見を広く学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツ心理学の近隣領域について広く知る

目標：スポーツ心理学について広く知識を深めることができる

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：大事な場面での実力発揮に向けての科学的アプローチに実情を知る

目標：アスリートの心理面への介入、スポーツ指導における心理面への配慮等、具体的な介入方略について知識を得ることができる

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：実力発揮するために取り組むべきメンタル課題について知る

目標：スポーツ心理学に関する最新のトピックに触れ、理解を深めることができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：スポーツ心理学とは？（スポーツ心理学の歴史と研究課題の変遷）

スポーツ心理学の歴史と研究課題の変遷について解説する。

特に、スポーツ心理学研究の最新のトピックなどにも触れ、受講意欲を高めることに配慮したい。

学修課題：スポーツ心理学とは何かについて、教科書を利用して、予習しておく。

第２回：スポーツでうまくなるためには？（スポーツスキルの獲得メカニズム）

スポーツスキルの獲得メカニズムについて、運動学習研究の成果を紹介し、その効果がスポーツ実践場面でどのように援用されているのかについて解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツスキルの獲得メカニズムについて、ノートにまとめておく。また、反復練習の工夫とその効果について、関連図書を利用して、予習しておく。

第３回：合理的な練習とは？（反復練習の工夫とその効果）

スポーツスキル向上には、「練習」の量的および質的な介入が不可欠であり、その効率的な介入方略を検討するための基礎的知識を学習する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、反復練習の工夫とその効果について、ノートにまとめておく。また、あがりの症候とその対策について、関連図書を利用して、予習しておく。

第４回：あがってしまうと、どうしてぎこちない？（あがりの症候とその対策）

「あがり」の問題は、スポーツに関わる誰もが直面する心理的問題でもある。これを詳しく分析し、「あがり」による弊害を抑制するためには、様々な角度からの研究成果が得られている。それらについて解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、あがりの症候とその対策について、ノートにまとめておく。また、怪我への心理的アプローチについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第５回：怪我は“こころ”の“あらわれ”として起こる？（怪我への心理的アプローチ）

スポーツにおける「怪我」は、スポーツ障害や傷害など、様々な様態を示すことは自明である。これらは、すべて怪我をした人間の心理が多かれ少なかれ関与していることを深く理解する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、怪我への心理的アプローチについて、ノートにまとめておく。また、バーンアウトの生起メカニズムについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第６回:一生懸命やっているのに、どうしてもうまくいかない？（バーンアウトの生起メカニズム）

バーンアウトは、スポーツに対して真摯に取り組めば取り組むほど、発症する確率が高まるのかもしれない。

世間一般に使われる「燃え尽き」という言葉の意味とはことなり、心理的に深刻な問題を有していることを学ぶことになろう。

学修課題：授業の内容を踏まえ、バーンアウトの生起メカニズムについて、ノートにまとめておく。また、ピグマリオン効果の実践について、関連図書を利用して、予習しておく。

第７回:うまく指導するために必要なこと？（ピグマリオン効果の実践）

「ほめる」ことと「しかる」ことは、スポーツ指導にとって永遠のテーマでもある。スポーツ指導場面においては、「ほめる」ことによって意欲を高めることができる一方、「しかる」ことも必要な場面も散見される。ピグマリオン効果は「期待」といった切り口から、このテーマにアプローチしている。

学修課題：授業の内容を踏まえ、ピグマリオン効果の実践について、ノートにまとめておく。また、自己物語について、関連図書を利用して、予習しておく。

第８回：スポーツを語るということ（自己物語）

「語る」ことは、人間にとって行動を組織化し、意味付ける行為でもある。それは、スポーツ場面においても同様で、スポーツ行動を組織化し、意味付けることで、スポーツが個人の人生おいてかけがえのない価値へと変貌していく。スポーツを「語る」ことについて心理学的な観点から学びを深めたい。

学修課題：授業の内容を踏まえ、自己物語について、ノートにまとめておく。また、目標設定と動機づけについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第９回：スポーツで何をめざす？（目標設定と動機づけ）

ひとは、目標を設定することにで、それを達成させるための動機を有するようになる。このような達成動機づけの効果を期待するためには、どのような基礎的理論を理解しなければならないのか。本時では、動機づけ研究の成果を中心に解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、目標設定と動機づけについて、ノートにまとめておく。また、メンタルトレーニングについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第10回：メンタルトレーニングとは？（アスリートたちの最前線）

メンタルトレーニングは、昨今、注目されている。メンタルトレーニングの目指すところは、試合で勝つことではない。大切な試合の本番で、いかにして自己の実力を発揮するかに重きを置いている。ここでは、メンタルトレーニングの基礎的理論を学ぶ。

学修課題：授業の内容を踏まえ、メンタルトレーニングについて、ノートにまとめておく。また、心理スキルトレーニングについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第11回：実力を発揮するためには？（心理スキルトレーニング）

メンタルトレーニングは、特効薬ではない。トレーニングという名がつく限り、ある程度の時間を必要とし、計画的かつ教育的に継続されなければならない。その中では、心理スキルのトレーニングが中心となる。本時では、そのトレーニング内容について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、心理スキルトレーニングについて、ノートにまとめておく。また、学習性無力感とその対について、関連図書を利用して、予習しておく。

第12回：運動好きと運動嫌い（学習性無力感とその対策）

運動嫌いは、いてはならない。これはとてもショッキングな言葉に相違ない。しかしながら、「運動嫌い」に含まれる心理的メカニズムを分析すれば、そのことにも首肯できるようになる。スポーツを専門的に学ぶ我々にとって、とても大きな問題でもある。

学修課題：授業の内容を踏まえ、学習性無力感とその対について、ノートにまとめておく。また、運動と心の健について、関連図書を利用して、予習しておく。

第13回：“からだ”と“こころ”のつながり（運動と心の健康）

「からだ」と「こころ」は、表裏一体で、つながっている。そのことを実感できるエクササイズを紹介しながら、内的な体験を深める。

学修課題：授業の内容を踏まえ、運動と心の健について、ノートにまとめておく。また、スポーツ離れのメカニズムについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第14回：バリアフリー社会におけるスポーツ（高齢者や障害者のスポーツ離れのメカニズム）

パラリンピックにみられるように障がい者スポーツは隆盛の一途を辿っている。スポーツの果たす役割は果てしない。関連する様々な事例を紹介しながら、この領域についての理解を深めたい。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ離れのメカニズムについて、ノートにまとめておく。また、最終筆記試験に向けて、関連図書を利用し、対策しておく。

第15回：スポーツ心理学をスポーツフィールドに活用しよう

本時は、この授業のまとめとして位置づけることができる。スポーツへの関わり方が多様化した今日にあって、スポーツとこころは切っても切れない関係にある。これまでに、様々なアプローチを紹介してきたことから、本時では、スポーツ社会に寄与するための心理学的貢献を考察したい。

学修課題：最終筆記試験に向けて、関連図書を利用し、対策しておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

最終筆記試験（50%）：全15回の授業内容を含めた最終筆記試験を課す。評価は100点満点とし、90点以上を「Ａ」、80 ～ 89点を「Ｂ」、70 ～ 79点を「Ｃ」、60 ～ 69点を「Ｄ」、59点以下を「Ｅ」とし、「Ｅ」は単位認定しない。

小レポート課題（50%）：毎回の授業の中で、授業内容を踏まえた小レポートを課す。全授業で実施し、授業内容を踏まえた論述ができていれば５点とし、重大な誤りや不足があれば１点とする。

■教科書

高見和至ほか　・スポーツ・運動・パフォーマンスの心理学　・化学同人　・2016年

■参考文献等

１）よくわかるスポーツ心理学（中込ほか編著　ミネルヴァ書房）

２）生涯スポーツの心理学　（杉原隆編著　福村出版）

３）スポーツ心理学事典　（日本スポーツ心理学会編　大修館書店）

４）スポーツ心理学第事典　（シンガーほか著　西村書）

その他、必要な資料・文献等を印刷し、配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。

特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

水中運動法

【担当】白木　孝尚・村瀬　陽介・川合　英之

■授業概要

本授業では、水中運動や水泳運動の技術の習得、さらに水泳の応用知識・水中環境における安全管理についての理解を目指す。講義では水中環境の基本的特性や水泳・水中運動のバイオメカニクス・生理学を理解し、実技ではその内容を実践する。能力班を編成し、競泳４泳法を身につける。また、ゆっくり長く泳ぐ能力をつけるため、10分間泳を行う。さらに、授業を通してその指導方法を身につける。

到達目標　・水の特性、水泳、水中運動についての知識を深める　・水泳基礎４泳法を習得する　・連続して長く泳ぐ能力を身につける

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：水中運動や水泳運動さらには水泳の応用知識・水中環境における安全管理についての理解

目標：講義の聴講ならびに文献からの情報収集により課題を作成することができる。

２．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：水泳基礎４泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の習得

目標：ルールに基づいた泳法を習得する。

３．DP6.優れたスポーツマンシップ

具体的内容：授業を通して水泳の指導方法を身につける。

目標：水泳ならびに各泳法の技術習得段階を理解し、安全に指導することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：水泳の基礎知識（講義）

授業ガイダンス、泳力調査

講義①　水の特性，水中のバイオメカニクス・運動生理学

水の特性（４要素）について深く理解し、水中環境が身体に与える影響をバイオメカニクス的側面ならびに生理学的側面から理解する。

学修課題：配布資料を確認し、講義内容「水の特性，水中のバイオメカニクス・運動生理学」を復習した上で、レポートを作成する。また、翌週の講義に向けて配布された資料を予習する。

第２回：水泳を用いた運動実践（講義）

講義②　水中運動の現状

水の特性を利用して実施されている水中運動の現状を社会学的側面・医学的側面から理解するとともに、水中運動の将来的な展望について深く考える。

学修課題：配布資料を確認し、講義内容「水中運動の現状」を復習した上で、レポートを作成する。

第３回：水泳の基礎

泳力チェック、10分間泳，浮き方・沈み方，呼吸法

50mクロールならびに50m平泳ぎ、10分間泳を実施し、受講生の泳力を確認する。

講義内で説明した水中環境が身体に与える影響を実際に感じ、浮く・沈むの体験をおこなうとともに、水中での呼吸法を習得する。

学修課題：学習した水泳技術（特に浮き方・沈み方，呼吸法）をプール内で復習する。

第４回：クロールの基礎技術

クロールの理論と実践、クロールの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）

クロールの推進原理について理解し、クロールのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。

各動作を統合し、クロールの泳ぎ方を習得する。

※泳力レベルを判断し、「速く泳ぐ」などのより高度な内容を練習することもある。

学修課題：学習した水泳技術（クロールの基礎技術）をプール内で復習する。

第５回：クロールの練習法

クロールの練習法の紹介

クロールの泳力を向上させるための練習方法を紹介し、実践する。

泳力別グループに分け、反復練習を行い、泳力の向上を目指す。

学修課題：学習した内容を整理し、プール内でクロールの練習法を実践する。

第６回：平泳ぎの基礎技術

平泳ぎの理論と実践、平泳ぎの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）

平泳ぎの推進原理について理解し、平泳ぎのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。

各動作を統合し、平泳ぎの泳ぎ方を習得する。

※泳力レベルを判断し、「速く泳ぐ」などのより高度な内容を練習することもある。

学修課題：学習した水泳技術（平泳ぎの基礎技術）をプール内で復習する。

第７回：平泳ぎの練習法

平泳ぎの練習法の紹介

平泳ぎの泳力を向上させるための練習方法を紹介し、実践する。

泳力別グループに分け、反復練習を行い、泳力の向上を目指す。

学修課題：学習した内容を整理し、プール内で平泳ぎの練習法を実践する。

第８回：背泳ぎの基礎技術

背泳ぎの理論と実践、背泳ぎの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）

背泳ぎの推進原理について理解し、背泳ぎのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。

各動作を統合し、背泳ぎの泳ぎ方を習得する。

学修課題：学習した水泳技術（背泳ぎの基礎技術）をプール内で復習する。

第９回：背泳ぎの練習法

背泳ぎの練習法の紹介

背泳ぎの泳力を向上させるための練習方法を紹介し、実践する。

泳力別グループに分け、反復練習を行い、泳力の向上を目指す。

学修課題：学習した内容を整理し、プール内で背泳ぎの練習法を実践する。

第10回：バタフライの基礎技術

バタフライの理論と実践、バタフライの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）

バタフライの推進原理について理解し、バタフライのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。

各動作を統合し、バタフライの泳ぎ方を習得する。

学修課題：学習した水泳技術（バタフライの基礎技術）をプール内で復習する。

第11回：バタフライの練習法

バタフライの練習法の紹介

バタフライの泳力を向上させるための練習方法を紹介し、実践する。

泳力別グループに分け、反復練習を行い、泳力の向上を目指す。

学修課題：学習した内容を整理し、プール内でバタフライの練習法を実践する。

第12回：泳法練習：クロール、平泳ぎ

クロール、平泳ぎの正しい技術を身につける。

泳力別グループに分け、反復練習を行い、泳力の向上を目指す。

学修課題：学習した内容を整理し、それぞれのレベルに合わせたクロール・平泳ぎの泳法練習を実践する。

第13回：泳法練習：背泳ぎ、バタフライ

背泳ぎ、バタフライの正しい技術を身につける。

泳力別グループに分け、反復練習を行い、泳力の向上を目指す。

学修課題：学習した内容を整理し、それぞれのレベルに合わせた背泳ぎ・バタフライの泳法練習を実践する。

第14回：健康のための水中運動

健康のための水中運動、（着衣泳）

水中ウォーキングや水中エアロビクスなどの水中運動を体験する。

また、水中での安全管理として一般的な着衣泳を体験する。

学修課題：学習した内容を整理し、健康のための水中運動を実践する。

次回の課題達成度チェックに向けて、10分間泳・背泳ぎ・バタフライの泳力向上を狙った練習を実践する。

第15回：実技課題の達成度チェックおよびまとめ

10分間泳，25m背泳ぎ，25mバタフライの達成度を確認する。

学修課題：次回の試験に向けて、クロール・平泳ぎの泳力向上を狙った練習を実践する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします　・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

講義内容に関するレポート（20%）：講義内容が適当に整理され、また与えられたテーマに対して、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に説明されていることが求められる。

実技の達成度（80%）：・50mクロールと50m平泳ぎの泳法習熟度ならびにタイム　・25m背泳ぎと25mバタフライの泳法習熟度　・10分間泳距離

※全ての種目において評価基準をクリアしなければならない.

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「水泳コーチ教本」（財）日本水泳連盟（大修館書店）,「安全水泳」（財）日本水泳連盟（大修館書店）,「スイミング・ファステスト」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社）,「スイミング・イーブン・ファースター」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社）,「新水中健康術」野村武男（善本社）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

水中運動法は水中での安全管理の内容も含まれます。命の危険を扱う授業として捉え、集中して取り組むことを望みます。

泳力が低い受講生は試験に向けて自主練習を実施する必要があります。

体力トレーニング法

【担当】佃　文子

■授業概要

本科目では、スポーツに取り組んだことのある人なら、ほとんどの者が経験したことのある体力トレーニングについて、その意義と基礎を学ぶことを目的とします。主にレジスタンストレーニングについての講義を通して、トレーニングに対する適応を学修し、次に身体部位毎に代表的なトレーニング方法を学びます。またトレーニングの方法ごとに使用される筋や運動器にかかる負荷の種類、トレーニング時の安全管理のポイントを学びます。授業の後半には体力トレーニングの原理・原則等の計画的な体力トレーニングの基本な知識を学びます。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：トレーニングの原理原則を学ぶ

目標：トレーニングの原理原則を理解する

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：トレーニング時時使用される筋やトレーニング時の姿勢により、どのような負荷が体に加わっているのかを知る

目標：主要なトレーニング方法を理解し、運動学の観点から、身体にかかる負荷と、トレーニングにに伴う注意事項を理解する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：イントロダクション及びトレーニング時の安全管理

授業の概要とスケジュール、および評価方法を確認する

授業時の注意事項とトレーニングルーム利用方法を学び、トレーニング時の安全管理への理解を深める。

学修課題：安全なトレーニングルーム利用のポイントを復習する。授業時間外にトレーニングルームに行って体験利用する。

第２回：体力の分類と評価

体力の分類を概説し、それぞれの項目に対する評価方法について概説する。

学修課題：各種の体力測定項目と体力要素の関係について理解する

第３回：トレーニング理論①　レジスタンストレーニングの基礎

レジスタンストレーニングの意義を理解する。

下肢の主な筋肉の働きを理解する。

学修課題：スクワット時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習する。 トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとにスクワット を実践してみる。

第４回：トレーニング理論②　スクワットトレーニングの基礎

スクワットの基本テクニックと補助法、スクワットの種類と負荷について理解する

学修課題：トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとに、スクワット動作を正しく行えるように練習する

第５回：トレーニング理論③　ベンチプレストレーニングの基礎

ベンチプレス動作、基本テクニック、補助法、ベンチプレスの種類と負荷について理解する。

上肢の主な筋肉の働きを理解する。

学修課題：ベンチプレス時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習 する。 ベンチプレスの手の位置の違いによって負荷のかかる部位を理解する。

第６回：トレーニング理論④　デットリフトの基礎、クイックリフト

デットリフトの基本、ハイクリーンの基本、体幹を支える筋肉の種類と働きを理解する。

学修課題：デッドリフトトレーニング時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢 と動作を復習する。

第７回：トレーニング理論⑤最大筋力の推定

最大筋力の推定方法を理解する。

学修課題：推定最大筋力の算出について予習復習する。 トレーニングルームに行って安全に配慮して推定最大筋力の測定を 行う。

第８回：前半授業のまとめと達成評価

前半の授業を振り返り、重要なポイントの理解度について確認する

学修課題：理解度が不十分なポイントは、復習しまとめなおす

第９回：トレーニング理論⑥上肢のマシントレーニング

上肢マシントレーニングの種類について概説します。

学修課題：上肢マシントレーニング時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習する。 可能な限り、トレーニングルームに行って授業時のポイントをもと に、マシントレーニングを正しく行えるように練習する。

第10回：トレーニング理論⑦下肢のマシントレーニング

下肢マシントレーニングの種類について概説します。

学修課題：下肢マシントレーニング時に使用される筋肉を予習し、基本姿勢と動作を復習する。可能な限り､トレーニングルームに行って授業時のポイントをもと に、マシントレーニングを正しく行えるように練習する。

第11回：トレーニング理論⑧ストレッチング

筋や腱が伸張され関節可動域が拡大する現象について理論を学ぶ。

学修課題：ストレッチングの理論的背景についてまとめる

第12回：トレーニング理論⑨ストレッチショートニングサイクル他

プライオメトリクストレーニングの基本的な知識を学ぶ。

学修課題：プライオメトリクスのトレーニング方法と注意事項を予習復習する

第13回：体力の分類とトレーニングの原則

トレーニング計画の立案に向けて、体力の定義や分類とトレーニングの原則を学習する。

学修課題：トレーニングの原則を復習する

第14回：トレーニングプログラム作成の基礎知識と長期トレーニング計画の立案

トレーニング計画を立案するための具体的なポイントと安全に配慮すべき事項を学ぶ。１年間のトレーニング計画を立案する手順を概説し、実際に身近な対象者に対する計画表を作成する。

学修課題：自己の体力的特徴と自己のトレーニング課題を分析し、１年間のトレーニング計画を完成させ、レポートを作成する。

第15回：まとめ及び総括

立案したトレーニング計画をグループで評価しながら、お互いに改善のための提案を行い、安全で効率の良いトレーニング計画についてディスカッションする。

学修課題：改善したトレーニング計画にトレニング実施に伴うリスク管理を加えて計画を完成させる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内のミニ課題（30%）：内容の妥当性に対して、独自のルーブリックに基づいて評価します

中間評価（30%）：講義内容についての知識と理解度を評価します

試験（40%）：講義内容についての知識と理解度を評価します

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

・よくわかる筋の機能解剖　Kingston，B.著（足立和隆訳）

・競技スポーツのためのウエイトトレーニング　有賀誠司著

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

身体構造と機能

【担当】小松　猛・田中　忍

■授業概要

本科目は，人体の構造と機能について，運動器と呼ばれる骨・関節・筋肉の領域での具体的な組成内容や動き，中枢・末梢を含めた神経組織の役割と人体に対する影響，循環器・呼吸器・消化器などの各臓器の領域が生きていく上で果たす具体的な役割について，それぞれの領域での身体各部の名称も含めた学習をする．これらの知識を得ることで，人体が様々な状況で対応している機能を理解し，スポーツ動作やトレーニングまたケガの予防や対処法を正確に行うことが出来るようになる．

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：運動器，神経系，各臓器に関する解剖学的名称とその具体的な機能を学習する

目標：身体の構造と機能を，部位別・臓器別に説明できる

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：人間が生きていく上で必要な活動（運動，呼吸，消化など）がどのような状況で機能するのかを学習する

目標：実際の人体に関わる様々な動きや現象に当てはめて，身体の機能を理解できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：骨・関節の種類と構造および動き（運動）（第１～７回、田中担当）

骨と関節の分類，構造，機能，運動を学ぶ．また，３つの運動軸を理解し，運動に負荷をかけることで筋が鍛えられ，対の方向に動かすことでストレッチングができることを理解する．

学修課題：ヒトはいつまで身長が伸びるのか，理由を含めて考える．

第２回：運動器のしくみ：上肢の関節・靭帯・筋肉（肩）

鎖骨・肩甲骨を含む上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肩に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．

学修課題：鎖骨・肩甲骨を含む上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肩に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．

第３回：運動器のしくみ：上肢の関節・靭帯・筋肉（肘・手関節）

上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肘・手関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．

学修課題：上肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち肘・手関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．

第４回：運動器のしくみ：下肢の関節・靭帯・筋肉（骨盤・股関節）

骨盤を含む下肢を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉のうち，骨盤及び股関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．

学修課題：骨盤を含む下肢を構成する主な骨,関節,靭帯,筋肉のうち，骨盤及び股関節に関係するものの名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．

第５回：運動器のしくみ：下肢の関節・靭帯・筋肉（膝関節）

膝関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．

学修課題：膝関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．

第６回：運動器のしくみ：下肢の関節・靭帯・筋肉（下腿・足関節）

下腿・足関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．

学修課題：下腿・足関節に関係する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．

第７回：運動器の仕組み：体幹の関節・靭帯・筋肉

脊柱を含む体幹を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を学ぶ．

学修課題：体幹を構成する主な骨，関節，靭帯，筋肉の名称および運動と対応する主な筋の名称を覚える．

第８回:神経の構造と機能:総論と中枢神経（第８～ 14回、小松担当）

神経組織の構造と伝達機能の機序、脳・脊髄といった中枢神経の構造と機能、名称を学習

学修課題：神経組織の名称と機能、中枢神経系の構造と役割について再確認する

第９回：神経の構造と機能：末梢神経と自律神経

末梢神経、自律神経の役割と機能について学習

学修課題：末梢神経の名称とその支配領域、自律神経の機能について復習する

第10回：人体における恒常性と血液の組成、血液感染について

恒常性の維持と血液の構成と役割、血液感染の内容と対処法を学習

学修課題：恒常性（ホメオスターシス）の意味とその維持のために人体で行われていること、血液の成分とその役割について理解する

第11回：人体における免疫・アレルギー、呼吸器の構造と機能について

生きていくために必要な免疫機能と、過剰な免疫反応であるアレルギーについて学習し、酸素を取り込んで二酸化炭素を排出するというはたらきをする呼吸器系の構造と機能を学ぶ

学修課題：免疫・アレルギーが起こるしくみ、呼吸器系の組織が果たしている役割を理解する

第12回：心血管系の構造と機能

心臓血管系の構造と血液循環経路を学習

学修課題：人体の心臓の構造と役割を深く理解し、循環器系について復習する

第13回：消化器系および腎・尿路系の構造と機能について

摂取した栄養を消化・吸収・代謝をする消化器系のそれぞれの臓器とその役割、そして体内の老廃物を排泄するために必要な腎臓やその他の尿路系の器官について学習する。

学修課題：体内への吸収を担う消化器系、体外への排泄を担う腎・尿路系の具体的な働きについて再確認する

第14回：生殖器の構造と機能

生殖器の構造を理解し、機能するために必要なホルモンのはたらきについても学ぶ

学修課題：男女の生殖器系の解剖について復習し、機能の重要性について理解を深める

第15回：全体のまとめと達成度チェック（小松、田中担当）

学習内容の全体を復習し、理解の足りない部分をチェックする

学修課題：人体における運動器、臓器それぞれの構造と機能に関する知識を整理する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題（20%）：暗記のために実践したことや暗記のために作成した資料，確認のための課題などを評価する．

定期試験（80%）：身体の構造と機能の理解度を運動器領域および神経や各臓器の領域のそれぞれにおいて評価する．

■教科書

美田誠二（編著）　・からだのしくみが目で見てわかる　得意になる解剖生理　・照林社　・2016年

竹井　仁（監修）　・筋肉と関節のしくみがわかる事典　・西東社　・2013年

■参考文献等

授業で適宜紹介します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

救急処置法　【担当】小松　猛・佃　文子・田中　忍・夏目　美樹

■授業概要

スポーツ現場での基本的な救急処置の理解と実践力の修得を授業のねらいとする。
救急処置の第一次処置であるBasic-Life-Supportの原則について学び、次にスポーツや教育現場で多い疾病と外傷障害発生時の二次的処置について学習する。さらに実践力に結び付けるために、スポーツや教育現場で多い救急処置の必要なシーンを想定し、他者との協力によってスムーズに適切な応急処置や救急の初期行動ができるようにシュミレーションワークを繰り返して実習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：スポーツや教育現場での救急処置をガイドライン2015に従い正しく実践する。
目標：スポーツ現場で怪我が発生したときに、適切な応急処置や初期行動ができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：救急法　イントロダクション（スポーツ活動と救急法）
スポーツの現場での事故や傷害の発生率などを概説し、スポーツ活動に関わる全ての者が、救急の知識と基本的な対応力を身につけることの必要性について学習する。
学修課題：救急処置の基本的理論と手技、救命の連鎖の重要性について復習する

第２回：Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:発見から胸骨 圧迫まで)
心肺蘇生の手順と基本動作について学ぶ
学修課題：心肺蘇生の手順を整理し、正しい手技を復習する

第３回：Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:呼気吹き込み とAED、他者の協力体制)
救急処置の際に、他者への協力の呼びかけと救命行動の際の協働について学ぶ。さらにAEDの使用手順と基本操作を学ぶ。
学修課題：心肺蘇生の手順を整理し、AEDの使用方法を復習する

第４回:Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:体位の変換と移動、複数傷病者の対応)
傷病者の状況に応じて必要な体位変換や移動方法とリスクマネジメントを学ぶ。
学修課題：一次救命時の傷病者の体位変換や移動の際の注意点を復習する

第５回：コミュニティでのスポーツ活動と安全(心疾患、突然死、除細動を含む)
コミュニティでのスポーツ活動と安全(心疾患、突然死、除細動を含む)について学ぶ
学修課題：年代別の突然死の種類と対応方法を復習する

第６回：コミュニティでのスポーツ活動と安全（脱水、熱中症など）
コミュニティでのスポーツ活動と安全（脱水、熱中症など）について学ぶ
学修課題：予習：各自の運動前と運動後の体重を３日分記録してくる　復習：授業後の３日間の運動前と運動後の体重変化について記録し脱水の危険について考察する習：各自の運動前と運動後の体重を３日分記録してくる　復習：授業後の３日間の運動前と運動後の体重変化について記録し脱水の危険について考察する

第７回：Basic life support　RICE処置の理論と実際
スポーツ現場で一般的に用いられるRICE処置の理論と実際を学ぶ
学修課題：RICE処置の原則と禁忌を復習する

第８回：一般外傷(手当ての基本　傷と止血)について
一般外傷の具体的な手当の手順と特に感染防御等のリスク管理を学ぶ
学修課題：感染のリスクを復習し、身近なスポーツ現場での救急処置の際の感染のリスクについてまとめる

第９回：一般外傷(手当ての基本　捻挫、骨折、脱臼)について
捻挫、骨折、脱臼について、スポーツ現場で好発する外傷の重症度と救急搬送のための固定について学ぶ
学修課題：身近なスポーツ現場での外傷発生とその対応に備えて、救急処置に必要な物品の調達などを確認する

第10回：中間評価と救急処置理論のまとめ
スポーツ現場で発生するスポーツ外傷・障害、および一般外傷や疾病に対しての救急処置を総括し、特に生命に関わる一次救命の重要性の理解について、中間試験を用いて確認する。
学修課題：理解不足の場合は、十分な理解に達するまで復習する

第11回：Basic life support 基礎実技（止血と固定）
三角巾などを使って止血と固定のための具体的方法を学修する。
学修課題：できなかった実技については、正確に素早くできるように復習する

第12回：Basic life support 基礎実技（一次救命とAED）
AEDを用いた一次救命行動を実習する
学修課題：手技や一連の行動に課題があれば、苦手な課題を改善できるまで練習する

第13回：Basic life support 基礎実技（シミュレーションワーク）
1.マラソン心停止、2.柔道中熱中症、3.遠泳時の落雷
学修課題：グループワーク中の課題について改善策を提案しまとめる

第14回：Basic life support 基礎実技（シミュレーションワーク）
4.ラグビー脳震とう、5.バスケットボール肩脱臼、6.バレーボール足関節捻挫
学修課題：グループワーク中の課題の改善策を次のシミュレーションで解決できたか確認する

第15回：Basic life support 基礎実技（まとめとレポート作成）
シミュレーションで改善が必要であった状況を振り返り、今後の課題について議論してまとめる
学修課題：シミュレーションワークの改善課題を参照し、身近なスポーツ現場での外傷・心停止・熱中症・脳振盪発生時の対応策についてまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内で課される小テスト（50%）：救急処置に関する理論と、救急処置が必要となるスポーツ現場におこりやすい外傷や疾病についての理解度を評価する。
実技試験（50%）：実習中のグループワークの課題に対する取り組みの正確性と協働的救助行動について、独自のルーブリックに基づいて評価します

■教科書

日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修　・救急蘇生法の指針 市民用　・へるす出版　・2016年

■参考文献等

日本赤十字社救急法講習教本、日本赤十字社編

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ哲学概論

【担当】黒須　朱莉

■授業概要

本科目は、「体育・スポーツとは何か？」「体育・スポーツの問題点や可能性とは何か？」といった問いを基点としながら、スポーツ哲学や体育原理で扱われてきた概念及び体育とスポーツに対する哲学的／倫理学な見方・考え方、そしてスポーツにおける重要人物の思想を学んでいく。これらの学びを土台として、体育とスポーツに関する原理的知識について理解するとともに、スポーツにおける問題と可能性を主体的に考えていく態度を養う。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツ哲学の知識を習得する。

目標：体育・スポーツに関する重要な概念について説明できる。

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツ哲学の視点を活用する。

目標:スポーツを哲学的･倫理学的に考え、その考えを論理的に文章化できる。また、自身のスポーツ経験を振り返りながら受講生自身の「スポーツ思想」を明確にすることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：ガイダンス・スポーツ哲学を学ぶ意義

授業全体の概要と、スポーツ哲学を学ぶ意義について理解する。

学修課題：評価項目やルールについて確認する。スポーツにおける問題や規範について整理する。

第２回：体育とスポーツの概念①（体育）

体育の概念について理解する。

学修課題：授業の復習をする。日本における体育とスポーツの混合の事例について調べる。

第３回：体育とスポーツの概念②（スポーツ）

スポーツの概念について理解する。

学修課題：３回までの授業の内容を復習し、体育とスポーツの概念について説明できるようにする。

第４回：体育とスポーツにおける問題

運動部活動の指導者における問題を体育とスポーツの概念に触れながら説明する。

学修課題：第１回から４回までの講義資料をもとに自身の内容の理解度を把握してくる。

第５回：第１回から４回までの授業のまとめと確認

第1回から4回までの講義内容と要点を正確に理解しているか確認する。

学修課題：スポーツにおける問題としてドーピングに関する近年のニュースを調査し、整理する。

第６回：ドーピングについて知る①（ドーピング問題の歴史）

ドーピングの語源、スポーツにおけるドーピング問題の歴史を概観する。

学修課題：授業の復習を行うとともに、JADAのHPを閲覧し取り組みの全体像を把握する。

第７回：ドーピングについて知る②（近年の事例）

近年の遺伝子ドーピングの事例と倫理的な問題について説明する。

学修課題：授業の復習をする。

第８回：ドーピングについて考える

ドーピング問題に関する学術的な議論について説明する。

学修課題：ドーピング禁止の理由を考察する際の注意点を踏まえながら、自身のドーピングに対する見解を批判的に考察し、レポートにまとめる。

第９回：フェアプレイについて考える

形式的フェアプレイと非形式的フェアプレイの考え方、ゲームの定義について説明した上で、実際のスポーツにおける場面について考える。

学修課題：第９回までの授業の復習をする。

第10回：第６回から９回までの授業のまとめと確認

第６回から９回までの講義内容と要点を正確に理解しているか確認する。

学修課題：JOCのHPを閲覧し、オリンピックの歴史と創始者について調べる。

第11回：クーベルタンの思想を学ぶ

ピエール・ド・クーベルタンの思想を理解するために、教育、平和、無知の克服というキーワードをもとに解説する。

学修課題：自身のスポーツ活動及び日常生活にオリンピズムはどのように活かすことが可能か？各自考えをまとめる。

第12回：嘉納治五郎の思想を学ぶ

嘉納治五郎の思想を理解するために、道、精力善用、自他共栄というキーワードをもとに解説する。

学修課題：精力善用、自他共栄の精神を今後自身の生活にどのように活かしていきたいと思うか、その考えをまとめる。

第13回：身近な人のスポーツ思想を知る①（前半）

身近な人のスポーツ思想として、本学教員のスポーツに対する考えを紹介する。

学修課題：自身の経験を振り返りながら、スポーツとの出会い、画期となった出来事などを年表にして整理してくる。

第14回：身近な人のスポーツ思想を知る②（後半）

身近な人のスポーツ思想として、本学教員のスポーツに対する考えを紹介する。

学修課題：第13回の授業外学修課題と第13、14回の授業内容を参考に自分の「スポーツ思想」をレポートにまとめる。

第15回：総括

講義内容の総復習を行い、全体の内容の要点を理解する。

学修課題：授業全体の内容を復習し､期末レポートの作成に取り組む。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

確認テスト（50%）：授業内容を正確に理解できているか科目独自のルーブリックに基づき評価する。

レポート（10%）：自身の「スポーツ思想」をこれまでの経験を振り返りながら論理的に述べることができているか、科目独自のルーブリックに基づき評価する。

定期試験（40%）：授業全体の内容を正確に理解できているか科目独自のルーブリックに基づき評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

久保正秋『体育・スポーツの哲学的見方』東海大学出版会、2010年。

友添秀則・岡出美則 編著『教養としての体育原理』大修館書店、2016年。

友添秀則編『よくわかるスポーツ倫理学』ミネルヴァ書房、2017年。

■履修上の注意・備考・メッセージ

スポーツに関する事象について「なぜ？」と問いかける癖をつけてください。それが、哲学的思考の第一歩になります。

フレッシュマンキャンプ　【担当】野外スポーツコース教員

■授業概要

本学に入学した学生全員が必修で受講する実習で、初年次教育の柱として実施されています。
「考える」「判断する」「行動する」ことに主眼を置き、仲間とともに自然の中で生活することを通して、これからの大学生活の基礎となる人間関係を形成・構築することを目的としています。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：キャンプの中で実践する野外炊事や仲間作り活動、登山活動の実践
目標：自然環境を生かしたスポーツ活動を通して、自然や人の関わりについて理解を深める。

２．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：自然環境の中で、自己の挑戦、仲間との協力を目的としたキャンプ活動の実践
目標：非日常生活の中で、自己理解や他者との関わりについて新たな価値を創造する力を育む。

３．DP11.忠恕の心
具体的内容：集団生活を基盤とした中で、登山への挑戦や仲間との協力課題を実践
目標：１人ではできない課題を通して仲間への思いやりの気持ちや感謝の気持ちを育む。

４．DP7.自覚、誇り、道徳心
具体的内容：全教員が積極的に関与する中で、様々な野外活動を通して本学の建学の精神や忠恕の心を理解する
目標：びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つ。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき1時間）

第１回：事前オリエンテーション
キャンプ開始前に行い、実習に向けて必要な準備についてのオリエンテーションを行います。
学修課題：服装や装備などの準備を行う。

第２回：フレッシュマンキャンプ
●キャンプ実習Ａグループ：2018年４月５日（木）～８日（日）
●キャンプ実習Ｂグループ：2018年４月８日（日）～ 11日（水）
※１クラス～ 16クラスがAグループ、17クラスから32クラスがBグループとなります。

プログラム予定（天候等の条件により、変更の可能性があります）
１日目（テント泊）　集合･オリエンテーション･アイスブレーキング･班別ミーティング
２日目（テント泊）　仲間作り野外ゲーム･クラス対抗レクリエーション大会
３日目（テント泊）　比良山登山（冒険プログラム）･生還パーティー･キャンプファイヤー
４日目　個人別ふりかえり・撤収作業・事後レポート・解散
学修課題：クラスごとのふりかえりを行う。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

実習内プログラムにおける実技課題達成度（80%）：実習についての取り組み度を評価する。
実習後レポート（20%）：レポートによって、実習の目標についての到達度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

大学に入学して最初の授業を､新入生全員が全担任教員と共に実施します｡比良の豊かな自然の中で一緒に新たな学生生活をスタートしましょう。

雪上実習

【担当】野外スポーツコース教員

■授業概要

冬という特有の自然環境に身をおき、仲間と共に過ごしながら実施する本実習で、１年次のまとめと今後３年間の学生生活に向けての態度と意識を再確認します。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：冬期野外スポーツであるアルペンスキーや雪上活動を実践する。

目標：自然環境を生かしたスポーツ活動を通して、自然や人の関わりについて理解を深める。

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：自然環境の中で、自己の可能性を見いだしたり、仲間を理解することを目的とした宿泊実習を実践する。

目標：非日常生活の中で、自己理解や他者との関わりについて新たな価値を創造する力を育む。

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：班単位でのスキー講習や、宿舎内における集団生活を通した実習を実践する。

目標：共に目標達成への努力を重ねながら活動する仲間への思いやりの心を育む。

４．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：教員が積極的に関与する実習の特色を活かし、雪上活動を通して本学の建学の精神や忠恕の心を理解する。

目標：びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つ。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき1時間）

第１回：事前オリエンテーション

雪上実習の概要説明と個人調査票の記入、技術レベル確認アンケートを行い、冬の自然環境、アルペンスキーの技術について理解を深める。

学修課題：冬の自然環境についての理解を深める。

第２回：雪上実習

日程：2019年２月　現地３泊４日

場所：新潟県妙高市赤倉温泉スキー場、赤倉観光リゾートスキー場

宿舎：赤倉温泉

プログラム

雪上実習

１日目　集合・バスにて移動・実習開始

２日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習＞

３日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習＞

４日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習＞

バスにて移動・解散

＊夜のプログラムとして、クラス別ミーティング、ナイタースキーを行います。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

入力無し　要修正（教務課コメント）

■評価方法

実習プログラム内における実技課題達成度（80%）：実習についての取り組み度を評価する。

実習後レポート（20%）：レポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

大学から遠く離れた環境での実習です。心身の準備をしっかり行い、万全のコンディションで実習に挑みましょう。

水辺実習

【担当】野外スポーツコース教員

■授業概要

本実習では、大学が立地する恵まれた環境を活用し、琵琶湖にて行う。カヤックもしくはボードセーリングのどちらかを選択し，１日目から２日目にかけてその理論と実践を学ぶ。また、３日目には全員で琵琶湖での遠泳に挑戦する。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：水辺領域での野外スポーツである水辺スポーツ活動、遠泳活動を実践する。

目標：自然環境を生かした水辺スポーツ活動・遠泳活動を通して、自然や人との関わりについて理解を深める。

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：自己への挑戦、仲間との協力を目的とした水辺スポーツ活動および遠泳活動を実践する。

目標：リスクを伴う環境において、助け合い、励まし合いながら課題達成することから、思いやりの心を育む。

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：リスクを伴う環境における水辺スポーツ活動や遠泳活動を実践する。

目標：リスクを伴う環境において、助け合い、励まし合いながら課題達成することから、思いやりの心を育む。

4．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容：教員が積極的に関与する中で、琵琶湖を活用した水辺スポーツ活動を実践する。

目標：びわこ成蹊スポーツ大学の学生としての自覚や誇りを持つ。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

事前オリエンテーションおよび講義

コースの概要説明とコース説明をした後、活用する琵琶湖について理解をする。

学修課題：琵琶湖についての理解を深める。

水辺実習（カヤック）・水辺実習（ボードセーリング）・遠泳

カヤック

１日目　集合・オリエンテーション
　　講習（１）：基礎トレーニング１
　　講習（２）：基礎トレーニング２
２日目　講習（３）：カヤックポロに挑戦
　　講習（４）：カヤックツーリング
３日目　遠泳本番　　事後評価・レポート

ボードセーリング

１日目　集合・オリエンテーション
　　講習（１）：基礎トレーニング１
　　講習（２）：基礎トレーニング２
２日目　講習（３）：基礎トレーニング３
　　講習（４）：応用トレーニング（レースなど）
３日目　遠泳本番　　事後評価・レポート

学修課題：実習要項を活用し､毎日の実習における技術的な学習内容、自然環境に関する学び、他者との関り、安全管理などについてふりかえり、記録を取る。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

実習プログラム内における実技課題達成度（80%）：実習についての取り組み度を評価する。

実習後レポート（20%）：レポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

大学名に入っている琵琶湖でのマリンスポーツの実践、遠泳への挑戦という本学ならではの取り組みです。新たな体験・発見へ心を開いて挑戦しましょう。

インターンシップ実習　【担当】各ゼミ担当教員

■授業概要

本学では、高度な専門知識と実践的な技能を備えた「職業人」養成を目指し、現場での実践体験を行なうインターンシップ実習を重要な科目と位置づけ、必修としている。本実習では、民間企業、公共施設、NPO法人、医療機関、教育現場など、さまざまなスポーツ関連の実習機関における就業体験を通して、自らが専攻するスポーツ領域の理解を深めるとともに、自身の適性を見極め、将来のキャリアに役立つ実践力を身につけることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容:民間企業、自治体、公共施設、NPO法人、医療機関、教育現場など、さまざまなスポーツ関連の実習機関における就業体験を通して、自らが専攻するスポーツ領域の理解を深める。

目標：自らが専攻するスポーツ領域に関する知識と技能を身につける

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：自身の適性を見極め、将来のキャリアに役立つ実践力を身につける

目標：将来のキャリアに役立つ実践力を身につける

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：高度な専門知識と実践的な技能を備えた「職業人」を目指し、現場での実践を体験する

目標：「職業人」としてふさわしい専門知識と技能を身につける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき2時間）

事前指導１：手続きについて（４月）

現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。

・手続きについての説明と実施要領についての確認を行う。

学修課題：実習機関を探索し、実習先に求められる人材像を把握する。自分の習得すべきことを知り、事前指導を通じて身につける。

事前指導２：実習現場で求められるもの（５月）

現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。

・「実習現場で求められるもの」について業種や職種の違いを理解し、自分には何が求められており、何ができるか、何をするのかを明確にする。

学修課題：自分の興味ある職業、今は興味がなくても知見を広げるために様々なスポーツ関連の職業について調べる。

事前指導３：社会人マナー・守秘義務（６月）

現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。

・スキルアップするよう社会人としてのマナー（電話のかけ方、とり方、服装について等）、守秘義務（SNSの使い方の注意含む）について確認する。

学修課題：日ごろよりマナーや守秘義務について考え、実践するよう心がける。

事前指導４：実習前のまとめ（７月）

現場での就業体験に必要な基礎的知識・スキルの習得のためのプログラム。

・実習前のまとめとして決定している実習先について、もう一度自分のできることしなければならないことを確認し、最終準備を行う。今後の流れについても理解する。

学修課題：実習を通じて学ぶことを整理する。

実習（８月～９月）

スポーツ関連の組織や施設などの実習機関にて就業体験を行うプログラム。

自らの専攻するスポーツ領域の理解を深める。将来のキャリアに結びつけるよう実践力を身につける。

夏期休業中に２週間以上（実日数10日間以上･70 ～ 80時間程度（70時間を下回らない））行う。

学修課題：実習期間中は毎日、日誌をつけ当日の反省を行い、翌日の仕事の改善へつなげていく。

事後指導１：実習の振り返り（10月）

就業体験をもとに学んだ知識やスキルをゼミやコースの学生と共有し、自己の職業観を明確にするプログラム。

・ゼミまたはコース別

・「事後指導①（目標設定シートを用いた実習内容の振り返り）」

学修課題：実習内容を振り返り、ディスカッションを通じ、卒業までの学びを整理する。

事後指導２：職業観の明確化（10月～12月）

就業体験をもとに学んだ知識やスキルをゼミやコースの学生と共有し、自己の職業観を明確にするプログラム。

・「事後指導②～⑤（詳細は決定次第連絡します）」

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

■評価方法

事前指導（30%）：全体事前指導レポート16点、目標設定シートの内容14点で評価する。

実習（40%）：実習評価報告書20点、日誌内容20点で評価する。

事後指導（30%）：全体事後指導レポート16点、インターンシップ実習レポート14点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

なし

■履修上の注意・備考・メッセージ

インターンシップ実習は２年次12月からの事前研修を含め、事前指導、実習、事後指導で構成されている。１度でも事前研修、事前指導を無断欠席した学生は３年次での履修の意思がないものとみなす。実習に臨むにあたっては、それぞれのゼミ担当教員とよく相談すること。また、配付した「インターンシップ実習ガイド」を熟読のうえ、実習の流れを把握し、各種手続き書類を忘れずに提出すること。

現場での就業体験だけでなく、事前、事後指導を含めて「２単位」の科目である。学内での日ごろの学びや事前指導を実習に活かし、実習での経験を今後の大学での学びに活かすように、心掛ける。

スポーツ学研究法

【担当】学部長／他

■授業概要

本授業では、スポーツを対象とした研究方法を包括的に学ぶ。具体的には、７つのコース（学校スポーツコース、地域スポーツコース、野外スポーツコース、コーチングコース、トレーニング･健康コース、スポーツビジネスコース、スポーツ情報戦略コース）における実際的な研究に触れ、「スポーツ学研究を実践して行く上での方法論について学ぶ。特に、それぞれのコースに関連して実践されている研究事例を踏まえながら、実践的な研究方法を学びを通じて、卒業研究の足がかりとなるよう調査・実験などの実践方法を学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ領域に関連する素朴な疑問や今日的な課題を知る

目標：スポーツ学研究の企画の仕方を知る

２．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：調査や実験など、スポーツ学研究が実際にどのように運営されているのかを知る

目標：スポーツ学研究の運営の仕方を知る

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：暗黙知を形式知に変換していくのに有効な報告書作成の仕方を知る

目標：スポーツ学研究の報告書の作成の仕方を知る

４．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：プレゼンテーションの有益な仕方を知る

目標：スポーツ学研究の研究発表の仕方

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：スポーツ学研究のすすめ（オリエンテーションとスポーツ情報戦略領域）（学部長）

本授業の進め方についてのオリエンテーションを行う。特に、７つのコース（学校スポーツ、地域スポーツ、野外スポーツ、コーチング、トレーニング・健康、スポーツビジネス、スポーツ情報戦略）の特徴に触れ、各コースに関連した研究方法を概観する。

学修課題：各コースの卒業論文について、予め予習しておく。また、コーチングに関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第２回：コーチング分野の研究の現状と課題（コーチング領域）

コーチングに関わる様々な研究に触れ、コーチング分野の多岐にわたる研究領域を理解しながら、自身の志向する研究の方向性を検討する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、コーチングに関してノートにまとめておく。また、指導実践に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第３回：指導実践に関わる事例研究について（コーチング領域）

コーチング分野における指導実践について扱った事例研究を取り上げ、その研究意義や研究法について学ぶとともに、自身の志向する研究の方向性を検討する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、指導実践に関してノートにまとめておく。また、学校スポーツにおける観察研究に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第４回：観察的研究について（学校スポーツ領域）

学習者の動きの観察、授業評価の例を解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、学校スポーツにおける観察研究に関してノートにまとめておく。また、運動発生の事例的研究に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第５回：運動発生の事例的研究について（学校スポーツ領域）

他の研究領域との違いを明確にし、学習者あるいは自身が発生させた運動を、論理的に、文章として書き出していくことを目指す。

学修課題：授業の内容を踏まえて、運動発生の事例的研究に関してノートにまとめておく。また、社会調査系の研究に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第６回：社会調査系の研究について（スポーツビジネス領域）

社会調査系の研究を遂行するにあたって、どのような課題を解決しなければならないのかについて理解する。先行研究を紹介し、具体的な研究イメージを把握することを目指す。

学修課題：授業の内容を踏まえて、社会調査系の研究に関してノートにまとめておく。また､量的な研究に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第７回：量的な研究について（スポーツビジネス領域）

母集団を想定した大多数のサンプリングを通じて、統計処理を行い、有意傾向を探ることによって有益な知見を導き出す方法を学ぶ。

学修課題：授業の内容を踏まえて、量的な研究に関してノートにまとめておく。地域スポーツ研究における量的研究法に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第８回：地域スポーツ研究における量的研究法（地域スポーツ領域）

地域における各種スポーツ課題の抽出、分析を目的としたアンケート調査、意識調査等の実際について概説する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、地域スポーツ研究における量的研究法に関してノートにまとめておく。また、地域スポーツ研究における質的研究法に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第９回：地域スポーツ研究における質的研究法（地域スポーツ領域）

地域における各種スポーツ課題の抽出、および研究における仮説設定を目的としたインタビュー調査の実際について概説する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、地域スポーツ研究における質的研究法に関してノートにまとめておく。また、トレーニング・健康に関する研究テーマの探索に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第10回：トレーニング・健康に関する研究テーマの探索（トレーニング・健康領域）

トレーニング・健康に関する過去の報告から研究領域を理解し、自身の興味あるテーマに関して研究テーマを設定する。

学修課題：授業の内容を踏まえて､トレーニング･健康に関する研究テーマの探索に関してノートにまとめておく。また、応用科学系（医学・生理学・栄養学など）研究遂行に必要な知識と手法に関わる先行研究（論文･文献など）を予め読んでおく。

第11回：応用科学系（医学・生理学・栄養学など）研究遂行に必要な知識と手法（トレーニング・健康領域）

トレーニング・健康に関する研究を遂行するために必要な手法（器具の使用、データの解析方法など）を学び、自身の研究テーマについて具体的なイメージを持つ。

学修課題：授業の内容を踏まえて、応用科学系（医学・生理学・栄養学など）研究遂行に必要な知識と手法に関してノートにまとめておく。また､野外スポーツ研究に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第12回：野外スポーツ研究の概観（野外スポーツ領域）

野外スポーツの分野における様々な研究に触れ、どのような成果が得られているかを理解する。

自身の3大実習の体験と照らし合わし、理解を深める。

学修課題：授業の内容を踏まえて、野外スポーツ研究に関してノートにまとめておく。また、引き続き、野外スポーツ研究に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第13回：野外スポーツ研究の実際（野外スポーツ領域）

前回の野外スポーツ研究の概観から、実際に用いられている研究方法に着目し、研究テーマに即した方法の活用について理解する。自身の考えるテーマに適した研究方法について考える。

学修課題：授業の内容を踏まえて、野外スポーツ研究の実際に関してノートにまとめておく。また、スポーツ情報戦略領に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。

第14回：「研究の問い」の立て方（スポーツ情報戦略領）

研究をスタートするにあたって､スポーツ領域における「素朴な疑問」を抱くことは大切なことである。その「素朴な疑問」を学術的貢献へと加工していくためには、一定レベルの論理的思考と課題を解決することのできる方法論を熟知しておく必要がある。本授業は、そのため実現のために、「研究の問い」の立て方ににについて解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、スポーツ情報戦略領に関してノートにまとめておく。また、引き続き、スポーツ情報戦略領に関わる先行研究（論文･文献など）を予め読んでおく。

第15回：本授業のまとめ（学部長）

本授業は、各コースにおけるスポーツ学研究の具体的例示から、研究法について理解を深めてきた。本授業の集大成として、自身が関心を有する研究テーマを取り上げ、略式的な研究計画書をレポートとして作成する。これを本授業の最終レポートとする。

学修課題：本授業の最終課題レポートに向けて、これまで作成したノートを振替し、まとめておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート課題（50%）：各担当者から提示される小レポート課題を評価する。授業の内容を踏まえた論述が出来ている場合は10点とし、重大な誤りや不足がある場合は3点とする。全課題をまとめて50点満点とする。

最終レポート課題（50%）：最終レポート課題を評価する。提示された課題の内容を踏まえた論述が出来ている場合は50点とし、重大な誤りや不足がある場合は30点とする。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

各時間に必要な資料等を準備し、配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

毎回の授業の復習を蓄積していくことは､本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し､授業内容を具にメモし､学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。

特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

スポーツ指導論

【担当】北村　哲

■授業概要

本授業では、スポーツ指導者としての役割や心得について理解するとともに、「スポーツ技術」「運動観察」「運動学習」「スポーツ戦術」「トレーニング計画の原理と方法」等のスポーツ指導の際に必要となる基本的理論について、概論的に学習し、スポーツ指導の実践に役立てられる知見を身につける。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツ指導者としての重要な知識とスポーツ指導の実践に役立てられる知見

目標:国内におけるスポーツ指導者の在り方や各指導者の役割や心得について理解し、スポーツ指導の際に必要な基本的理論について解説できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ指導とは

本授業におけるスポーツ指導論の外観、位置づけについて理解し、スポーツ指導のイメージを明確にする。

学修課題：体育とスポーツの違いについて調査しまとめる。

第２回：スポーツの指導に必要な観念

スポーツ指導、コーチング、ティーチングの概念、スポーツ指導の歴史的変遷および形態、指導者の役割・関わり方（クラブのコーチ、課外活動の顧問、学校における保健体育の授業時におけるスポーツ指導等）について理解する。

学修課題：自身が受けた指導の中で各概念に当たるトピックについて振り返り各種まとめる。

第３回：スポーツの技術の理解①

スポーツ技術、運動技術について、その構造や特徴について理解する。

学修課題：自身の専門種目から一つ技術を取り上げ、その技術について詳細に文章で記述しまとめる。

第４回：スポーツの技術の理解②

スポーツ技術、運動技術について、運動技術、動作が持つ課題（戦術課題、目標課題等）の側面から理解する。

学修課題：自身の専門種目から一つ技術を取り上げ、その技術課題について詳細に文章で記述しまとめる。

第５回：スポーツ技術の指導について

技術トレーニングの原理や段階的指導法など指導方法について理解する。

学修課題：自身の技術向上の過程について振り返りまとめる。

第６回：スポーツにおける運動、技術の観察評価について　運動学的視点から

スポーツにおける運動や技術を観察し評価するための基礎的知見について運動学的視点から理解する。

学修課題：自身が取り上げた技術について運動学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。

第７回:スポーツにおける運動、技術の観察評価について　機能解剖、体力学の視点から

スポーツにおける運動や技術を観察し評価するための基礎的知見について機能解剖、体力学の視点から理解する。

学修課題：自身が取り上げた技術について体力学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。

第８回：運動学習について

スポーツにおける運動や技術の学習について、学習形態や学習方法、学習のプロセスや効果について理解する。

学修課題：これまで自身が経験した運動学習の過程について振り返りまとめる。

第９回：スポーツ戦術の指導について

スポーツ競技における戦術・戦略についての基礎知識の理解、またその指導法について理解する

学修課題：自身の専門種目のルールを再度見直し、戦術の考案を試みる。

第10回：指導対象者の心理について

指導対象である学習者の心理について、性格や言語、認知といった個人差について理解するとともに

学修課題：自身の経験から、どのような心理状態の際にどのような対処が望ましかったか振り返りまとめる。

第11回：個別指導とグループ指導について

個別指導やグループ指導といった指導形態の特徴と、その活用方法について理解する。

学修課題：個人指導とグループ指導のメリット、デメリットについて考え、まとえる。

第12回：スポーツ指導におけるトレーニング計画について

トレーニング計画の原理と方法について理解し、実際に自身のスポーツ種目における計画を立案する。

学修課題：自身の経験しているトレーニングの計画内容について分析する。

第13回：指導者の指導哲学について

競技スポーツ、レクリエーションスポーツといった各スポーツ観にけおける指導のあり方について、指導対象者の年代、また、人間教育（マナー、モラル、人格）を考慮しながら理解する。

学修課題：著名な指導者の自伝を１冊以上読む。

第14回：スポーツと体育、武道

スポーツ指導において重要となるスポーツの考え方について、レクリエーションスポーツ、競技スポーツ、体育、武道の各概念に触れながら、自身のスポーツ経験を振り返りながら理解する。

学修課題：中学・高校の部活動についての資料を読み、部活動のあり方について整理する。

第15回：理想のスポーツ指導とは

スポーツ指導についての考え方、実践方法について総括し、期末試験のレビューを行うとともに、自身の理想とするスポーツ指導の在り方について考える。

学修課題：これまでの授業内容について復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

期末テスト（60%）：授業で取り上げた専門的知識の理解度についてテストし、評価する。

中間レポート（40%）：運動観察に関するレポート（20点）とスポーツ指導に関する中間レポート（20点）を課し、実践的な授業内容の理解度および応用度（独自の意見をまとめられているか）について評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

日本体育協会編『公認スポーツ指導者養成テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ』

関岡康雄著『コーチと教師のためのスポーツ論』、道和書院、2006年

レイナー・マートン著『スポーツ・コーチング学―指導理念からフィジカルトレーニングまで』、大修館書店、1999年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

障害者スポーツ概論

【担当】中道　莉央

■授業概要

本科目は、障害者スポーツの定義・意義に関する知識を学び、障害者を含む多様な人を対象としたスポーツの指導者・支援者として活動する際に必要な基礎的知識について学びます。これを達成するために、授業では、①障害の定義や障害者スポーツの意義の理解、②アダプテッド・スポーツ科学に関する知識、③障害者を含む多様な人を対象とした「する・みる・ささえる」スポーツ振興に求められる柔軟な思考力、④障害者を含む多様な人に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度、以上の4つの力を身につけることを目的とします。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：障害者スポーツの定義・意義に関する知識を習得する。

目標：障害の定義や障害者スポーツの意義に関する知識を理解している。

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：障害者を含む多様な人を対象とした「する・みる・ささえる」スポーツ振興に求められる柔軟な思考力を習得する。

目標：アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、これをもとにした多様な人のスポーツのあり方を自分なりの言葉で説明できる。

3．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：アダプテッド・スポーツ科学に関する知識を習得する。

目標：医科学的な知見からみた3障害の特徴とスポーツの効用が説明できる。

4．DP11．忠恕の心

具体的内容：障害者を含む多様な人の立場に立って考え、行動する力を身につける。

目標：障害者を含む多様な人に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度を身につけている。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス／障害者スポーツの理念

障害者スポーツの理念をパラリンピック・デフリンピック・スペシャルオリンピックス等の各種国際大会が掲げる理念や日本障がい者スポーツ協会が掲げるビジョンから理解する。

学修課題：自分自身が無意識のうちに作り上げている「障害」「障害者」や「障害者スポーツ」に対するイメージを意識化しておく。

第２回：障害者福祉施策の変遷

ICIDHやICF等の障害モデルから多様な障害観について考え、国内の３障害(身体・知的・精神)に関わる福祉施策の変遷を理解する。

学修課題：ICIDHの特徴と問題点、ICFの特徴をおさえ、歴史的・社会的な視点からとらえた障害者の生活実態と福祉施策との関係を整理しておく。

第３回：障害者福祉施策と障害者スポーツ

３障害(身体・知的・精神)に関わる福祉施策と障害者スポーツ振興の関係性、健常者のスポーツと障害者スポーツの所管の違いについて理解する。

学修課題：スポーツ基本法が施行されてから、スポーツ政策としての障害者スポーツの普及・推進施策・事業等について調べ、理解しておく。

第４回：障害の理解とスポーツ（身体障害）

身体障害の種類・特徴の概要を学び、身体障害者にとってのスポーツの効用について理解する。

学修課題：身体障害の具体的な障害名と主な特徴、障害の原因となる主たる疾患例について理解しておく。

第５回：障害の理解とスポーツ（知的障害）

知的障害の分類・特徴の概要を学び、知的障害者にとってのスポーツの効用について理解する。

学修課題：知的障害の障害程度による判定区分を整理し、知的障害と原因疾患との関係について理解しておく。

第６回：障害の理解とスポーツ（精神障害）

精神障害の種類・特徴の概要を学び、精神障害者にとってのスポーツの効用について理解する。

学修課題：精神障害の具体的な障害名と主な特徴、スポーツによる治療効果について理解しておく。

第７回：障害各論（肢体不自由）

医科学的な知見から肢体不自由の特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。

学修課題：脊髄損傷、脳性麻痺、脳血管障害、切断・欠損の医科学的特性を理解しておく。

第８回：障害各論（視覚障害）

医科学的な知見から視覚障害の特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。

学修課題：眼の構造と名称、視覚障害をきたす疾患例を理解しておく。

第９回：障害各論（聴覚障害・内部障害）

医科学的な知見から聴覚・音声言語障害および内部障害の特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。

学修課題：耳の構造、音の伝わり方や難聴の種類、聴力レベルと障害等級について理解しておく。また、心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓、免疫の各機能障害の特徴や原因となる疾患例について理解しておく。

第10回：障害各論（知的障害）

医科学的な知見から知的障害の特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。

学修課題：知的能力障害の診断基準と診断における適応機能の重要性を理解しておく。

第11回：障害各論（発達障害）

医科学的な知見から発達障害の特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。

学修課題：ASD、ADHDの特徴と対応の考え方を整理しておく。

第12回：障害各論（精神障害）

医科学的な知見から精神障害の特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。

学修課題：統合失調症や気分障害の原因・誘因を理解しておく。

第13回：補装具の種類

補装具の種類とそれらが備えるべき条件を理解する。

学修課題：義肢・装具・車いす・杖の特性と競技前後における点検時の留意点について理解しておく。

第14回：補装具の特徴

補装具の適合や補装具が身体やパフォーマンスに与える影響について理解する。

学修課題：補装具の適合3条件（身体への適合、環境への適合、目的への適合）について整理しておく。

第15回：障害者スポーツの意義

障害者にとってのスポーツの意義を総合的に理解する。

学修課題：障害者にとってのスポーツの意義をについて、①障害者個人に対して、②スポーツ界に対して、③社会一般に対して、の３つの観点から自分の考えをまとめておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回の授業内ミニレポート（30%）：授業内容を踏まえた論述ができていれば１点とし、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば２点、重大な誤りや不足があれば０点とする。これを全15回実施する。

中間レポート（10%）：与えられたテーマに対し、障害者スポーツに関する基礎知識を用いて自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の3観点から総合的に評価する。

期末テスト（60%）：授業内容の理解度について、知識および思考力を問うペーパー試験を100点満点で実施し、評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

（公財）日本障がい者スポーツ協会編『新版　障がい者スポーツ指導教本』ぎょうせい. 2016

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

・授業は、事前に指定された座席で行います。

・成績評価に当たっては、期末テストだけでなく毎回の授業時の取り組みおよび中間レポートも重要です。毎回の授業には、積極的な姿勢で臨んでください。

・なお、本科目は、（公財）日本障がい者スポーツ協会「初級・中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業です。

テーピング・マッサージ法

【担当】田中　忍・片淵　建・森　宜裕

■授業概要

テーピングおよびスポーツマッサージの理論と実践を通して，スポーツ活動を継続する上で必要なコンディショニングの手法を習得することを目的とする．スポーツマッサージでは，解剖学的知識を活かし，部位に合わせた手技を習得する．また，互いに実施前後の感覚や動きを評価し，体感することで身体のケアの重要性を学ぶ．テーピングでは，スポーツに関連した外傷として多くみられる足関節内反捻挫を再発予防するための方法を習得する．練習を重ねることで，解剖学的知識を応用し，しわなくテーピングが巻けるようになる．

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：身体の解剖学的知識とスポーツ外傷・障害を応用し，コンディショニングに役立てる．

目標：負担がかかり，ケアが必要な筋がどの部位の何筋かわかる．

2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：部位に合わせたスポーツマッサージと足関節内反捻挫再発予防のテーピングの方法がわかる．

目標：適切なスポーツマッサージが出来ることと，テーピングが巻けるようになる．

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：相手の立場にたって，スポーツマッサージを行う強さを加減する．

目標：常に相手とコミュニケーションをとり，相手を思いやることができる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスとマッサージ理論

授業の進め方と到達目標および成績評価を確認する．

マッサージおよびスポーツマッサージの基礎理論について，目的，生理的作用，禁忌を理解する．また基本手技の名称と特徴についても理解する．

学修課題：マッサージの基礎理論および基本手技を復習する．

第２回：スポーツマッサージ実習（手部・下腿）

手部を用いて，基本手技および手順の確認と相手にとって最適な圧を学ぶ．次に，下腿の後面の柔軟性を評価し，筋がリラックスできる姿勢をとり，片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はまずストレッチをした後にスポーツマッサージをして比較する．続いて，下腿前面のマッサージを実施する．

学修課題：実習した手部および下腿のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．

第３回：スポーツマッサージ実習（大腿後面・外側面）

大腿後面の主要な筋の名称および付着部の確認と，柔軟性の評価を行った後，片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はストレッチをした後にスポーツマッサージをして比較する．続いて，同様に大腿外側面の評価およびマッサージを実施する．

学修課題：実習した大腿前面および外側面のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．

第４回：スポーツマッサージ実習（大腿前面・内側面）

大腿前面の主要な筋の名称および付着部の確認と，柔軟性の評価を行った後，片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はストレッチをした後にスポーツマッサージをして比較する．続いて，同様に大腿内側面の評価およびマッサージを実施する．

学修課題：実習した大腿前面および内側面のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．

第５回：スポーツマッサージ実習（股関節のペアストレッチ）

球関節である股関節は，柔軟性の評価をした後，ペアストレッチを行う．

学修課題：実習したペアストレッチを復習する．

第６回：スポーツマッサージ実習（腰背部）

腰背部は自分では手が届かないところであり，スポーツマッサージを受けることでリラックス効果も高い．解剖学的知識を応用し，疲労が蓄積しやすい部位に適切な手技を行う．

学修課題：実習した部位のスポーツマッサージを復習する．

第７回：スポーツマッサージ実習（上肢・体側）

上肢の主要な筋の名称および付着部の確認と，柔軟性の評価を行った後，仰臥位で片側はスポーツマッサージのみ実施，反対側はストレッチをした後にスポーツマッサージを行う．続いて，側臥位で同様にマッサージを実施し，上肢のペアストレッチを行った後柔軟性の評価を行う．

学修課題：実習した部位のスポーツマッサージおよびストレッチを復習する．

第８回：テーピング理論

テーピングの目的，効果，注意事項およびテーピングの種類や基本的な巻き方などの理論を学ぶ．購入したテーピングを配布し，ペアの腕を利用してしわ，たるみ，隙間がなく巻くコツを習得する． 実技試験のデモンストレーションを行う．

学修課題：テーピングの理論を復習する．

第９回：足関節のテーピング実習（アンダーラップ）

皮膚に直接テーピングがかからないように保護する役割であるアンダーラップの巻き方を習得する．薄く，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことを目指し，アンダーラップの持ち方，巻く順序，分量に注意して実施する．

学修課題：正確にアンダーラップが巻ける様に，持ち方，順序，分量に注意して繰り返し練習する．

第10回：足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（順序）

足関節内反捻挫で損傷されることが多い靭帯の名称と場所を確認する．最初にアンダーラップを巻いた後，コットンテープを用いて，足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを一通り行う．相手の姿勢に注意し，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことと方向に注意する巻き方を学ぶ．それぞれの名称であるアンカーテープ，スターアップ，ホースシューとスターアップの方向を学ぶ．

学修課題：正確にアンダーラップが巻ける様にし，授業で行ったコットンテープの順序を復習する．

第11回：足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（方向）

アンダーラップおよび前回に巻いたテーピングを復習し，フィギュアエイトをプラスする．フィギュアエイトをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために必要な解剖学的な要因を理解し，練習する．

学修課題：正確に美しくアンダーラップが巻ける様にし，授業で行ったコットンテープの順序と方向を復習する．

第12回：足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（完成）

アンダーラップおよびテーピングをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために練習する．

学修課題：正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．

第13回：足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（予行）

時間内にアンダーラップおよびテーピングをしわなく，たるみなく，隙間なく巻くために練習する．実技試験のポイントについて解説する．

学修課題：時間内に正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する．

第14回：足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実技試験

足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングの実技試験を行う．

学修課題：試験での完成度を自己評価し，良かった点および不足していた点を振り返る．

第15回：アーチおよび手関節のテーピング実習

足関節以外の部位の巻き方を練習する．アーチを支えるテーピングおよび手関節の背屈制限のためのテーピングを行う． 部位に合わせた幅のテーピングを用いることも学ぶ．

学修課題：理論試験に向けて準備をする．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

・理論試験またはテーピングの実技試験のいずれかが６割未満の場合は不可とする．

・原則として毎回出席すること．規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし，成績評価を「不可」とします．

理論試験（45%）：テーピングおよびスポーツマッサージの目的，効果，禁止事項等に関する理解度を評価する．

テーピング実技試験（50%）:足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを，所定の時間内に正しく巻くことが出来るかどうかについて評価する．

授業への取り組み状況（5%）：授業のルールを遵守し，実習を行う相手に対して愛護的に手技を実践しているかについて評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業に必要な物（タオルや半パンツ，テーピング等）は必ず各自で準備をする．忘れた場合は，実習に参加できなくなるため確認をして参加すること．

また，授業で使用するテーピングは，別途自費（￥2,000プラス必要に応じて)で購入する．実技試験では，テーピングの種類で評価に差が出ないよう，授業で指定したテーピングを使用すること．購入の時期および方法は，授業内およびポータルを用いて通達する．

健康教育・管理論

【担当】股村　美里

■授業概要

・人間の生きる姿と関連させて健康問題についてわかる。
・健康を人間の発達、社会、権利等の視点から捉えることの重要性がわかる。
・性・エイズ、国際保健・医療、喫煙と健康、薬物乱用と健康等がわかる。

■養うべき力と到達目標

1．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：健康教育あるいは健康管理を実践するために必要な知識理解
目標：個人のみならず学校・施設・地域など様々な場面・集団を対象とした健康教育や管理の担い手となるために必要な知識について説明できる

2．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：健康と教育の意味の再確認
目標：様々な健康教育の手法について理解し、健康であることの意味や健康であるよう支援することを提案することができる

3．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：健康危険行動の回避と保健行動の実施
目標：健康上好ましいとされる行動や健康を害する行動を回避するのに必要な情報の収集とそれを行動に移すことができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：健康教育の目標　健康教育および健康管理における目標とは
健康教育・管理論で学ぶ内容全体の概要を俯瞰します。また、健康教育における目標であるヘルスプロモーションの考え方について理解します。
学修課題：自分の身近なところにある健康問題について、情報収集をし、次回の授業に備えること。

第２回：健康教育の実施方法　個人を対象とした方法の工夫①
健康教育および健康管理において必要な身振り手振りの位置づけについて体験します（グループワークを実施）。
学修課題：グループワークを通じて感じ考えたことについて、実際の生活で活用する。

第３回：健康教育の実施方法　個人を対象とした方法の工夫②
健康教育および健康管理において必要な身振り手振りについて、体系的に整理します。
学修課題：個人を対象とした健康教育で工夫できる点について説明できるようになる。

第４回：健康教育の実施方法　集団を対象とした方法の工夫
集団を対象とした健康教育において必要な方法について、個人を対象とした健康教育とは異なる点を視聴覚教材から観察をします。
学修課題：個人を対象とした健康教育との違いを理解し、説明できるようになること。これまで自分が受けてきた健康教育や指導について振り返り、これからの健康教育・管理への応用について考える。

第５回：各発達段階の健康課題の違いについて（育つこと）
育つ過程における健康課題とその解決のための健康教育・健康管理について理解します。
学修課題：乳幼児期から学童期、思春期に至る子どもの発達課題について、列挙できる。

第６回：各発達段階の健康課題の違いについて（老い・障害①）
老い、あるいは障害･疾病とともに生きる上での健康課題と健康教育･管理の上で必要な点について理解します。
学修課題：老いおよび障害･疾病とともに生きる当事者の声について、視聴覚教材から考えた自らの考えをまとめる。

第７回：各発達段階の健康課題の違いについて（老い・障害②）
老い、あるいは障害・疾病とともに生きる上での健康課題を横断的な視点と縦断的な視点で理解します。
学修課題：老いを単なる喪失ととらえるのではなく、生涯発達の観点からとらえなおせるようになる。

第８回：健康教育の理論①　ストレスとコーピング理論
ストレスが単なる心身の健康問題につながるだけでなく、健康行動に関連することを理解します。
学修課題：自らの生活を振り返り、ストレスがかかったときの対処行動について健康行動理論を用いて考察できる。

第９回：健康教育の理論②　健康信念モデルと自己効力感
健康情報番組の構成要素について、健康信念モデルを基に理解します。また、単なる自信ではなく、健康行動につながる自己効力感を身に着けるためにはどんな情報源が有効か理解します。
学修課題：健康教育・健康管理を担うものとして、身近な情報番組がどのような枠組みで作られているかを理解する。

第10回：健康行動理論③　トランスセオレティカルモデル
対象者の興味関心の状態に応じた支援が重要であることを学びます。
学修課題：行動変容が起こり習慣化されるまでの過程について理解する。

第11回：健康教育の具体例③感染症の流行とその予防
感染症の流行とその予防についての健康教育の教材例について紹介します。
学修課題：感染症の流行のメカニズムや現在問題となっている感染症について情報収集をし、次回の講義に備える。

第12回：健康教育の具体例③　感染症の流行とその予防－STD、HIVを具体例として
生と性、STD（性行為感染症）、HIV・薬害AIDSに関する健康教育の教材例について紹介します。
学修課題：前回の講義を踏まえ、具体例としての性感染症についての健康教育の実施例やその課題について考察する。

第13回：健康教育の具体例④　障害・疾病と健康教育
バリアフリー、ユニバーサルデザインについての考え方および理論、教材例を学びます
学修課題：身近なバリアフリーの実施例やユニバーサルデザインについて、情報収集し、自らの意見をまとめる。

第14回：健康教育の具体例⑤　こころの健康
心の健康（メンタルヘルス）に関わる現代の課題や解決方法、メンタルヘルスリテラシーについて紹介します。
学修課題：身近な心の健康に関する健康教育の具体例について、情報収集し、自らの意見をまとめる。

第15回：総括ー健康教育・健康管理とは
健康教育における目標、方法、理論、そして具体例について振りかえります。
学修課題：自らの興味関心のあるトピックに基づいた、健康教育の実施例についてまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

授業内レポート（30%）：授業内レポートを10回実施する（３点×10回＝30点）。講義内容の理解と個人の見解を論理的にまとめていることを評価する。
中間レポート（20%）：中間レポート（20点）は与えられたテーマについて指定された形式に則り論理が展開されているかを評価する
定期試験（50%）：定期試験期間中に筆記試験（50点）を実施する。範囲は、講義内容全範囲とする。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

講義内に適宜、関連する書籍、映画、ホームページ等を紹介します。積極的に関連教材に触れ、理解を深めてください。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本講義は、実際の臨床の現場で生かせるような知識と技能を身につけることを目的とします。そのため、自らの体験や考えなどを出発点として講義形式だけでなく、ペアワークやグループワークを取り入れ、授業への主体的かつ積極的な聴講の姿勢を求めます。授業中の私語や他の受講者への妨害と判断されるような行為を行った場合、教室を退出してもらうことがあることを心に留めておいてください。

スポーツ医学概論

【担当】小松　猛

■授業概要

スポーツを効果的かつ安全に行うためには、スポーツによって起こる骨や関節、筋や腱、靭帯など運動器の外傷（急性に起こる怪我、捻挫や骨折など）や障害（慢性に起こる故障、疲労骨折や原因不明の腰痛症など）に関する知識は不可欠である。この授業では、身体構造を学びながら、スポーツによる外傷や障害がどのような状況で起こるのか，どのように傷害を診断して治療をするのかを学び、さらに、どうすれば予防できるかについても考える。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容:スポーツ外傷、障害の種類について、総論としてその原因や機序を学習し、各論としては各部位によく起こる傷害を具体的に挙げて、対処方法や予防方法まで学ぶ。

目標：スポーツ外傷・障害の病態を理解し、スポーツ復帰への過程における知識を得る

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：総論①　スポーツ医学の範囲と学び

「スポーツ医学（概論）とは？」をテーマに、本授業の範囲（運動器のスポーツ外傷・障害）と学び方について解説する。

学修課題：スポーツ医学に関する様々な情報を集めて理解する

第２回：総論②　スポーツ現場で発生するケガの病態　－スポーツ外傷とは？－

スポーツ現場の外傷と応急処置について解説。具体的には、解剖の基礎と外傷の発生原因、各病態（打撲、出血、筋肉痛（肉離れなども含めて）、腱や靭帯の損傷、関節の脱臼　骨折など）の処置について話を進めて行く。

学修課題：スポーツ外傷の病態と処置の理解を深める

第３回：総論③　スポーツ現場で発生する故障の病態　－スポーツ障害とは？－

スポーツ障害の定義、原因、障害の具体的な提示をしながら、スポーツ障害について理解を深めていく。

学修課題：スポーツ障害の知識の整理

第４回：総論④　スポーツ現場でのメディカルサポート

スポーツ現場での医事活動とトップレベルスポーツチームのメディカルサポート体制、実際の現場で起こるスポーツ傷害に対する対応方法の解説

学修課題：スポーツ現場でのメディカルスタッフの役割と対処方法について復習

第５回：各論①　上肢のスポーツ外傷・障害－肩関節

肩関節の解剖を再確認して、実際によくみられるスポーツ外傷・障害について解説する。

学修課題：肩関節の解剖、傷害の原因、対処方法について理解を深める

第６回：各論②　上肢のスポーツ外傷・障害－肘関節

肘のスポーツ外傷・障害（テニス肘、野球肘など）の病態を知り、解剖についても再確認する。

学修課題：スポーツの種目によって起こりやすい肘傷害について復習する

第７回：各論③　上肢のスポーツ外傷・障害－手関節・手の外傷・障害

手関節・手のスポーツ外傷・障害（突き指，手首や手指の骨折など）についての理解と、対策について解説する。

学修課題：手関節・手の傷害の特徴と正しい対処方法を調べて理解する

第８回：各論④　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害－頭部外傷

頭部のスポーツ外傷で、「頭をうったら何を考え、どうすべきか？」ということについて、解剖と考えられる病態を理解し、正しい対処方法を学ぶ。

学修課題：頭部外傷に関する授業内容を復習する

第９回：各論⑤　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害－頚部の外傷・障害

頚椎のスポーツ外傷・障害を解説し、病態の重症度の評価方法と対処方法を正しく理解する。

学修課題：神経症状を伴う頚椎のスポーツ傷害の再確認をする

第10回：各論⑥　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害－腰部の外傷・障害

腰部のスポーツ外傷・障害について　腰の痛みの考え方，腰椎分離症や椎間板ヘルニアなど、腰部のスポーツ障害の病態と対策について授業を進める。

学修課題：腰部の代表的スポーツ傷害と腰痛予防のリハビリテーションについて理解を深める

第11回：各論⑦　下肢のスポーツ外傷・障害－股関節・大腿

スポーツ現場でたびたび遭遇する股関節・大腿部のスポーツ外傷・障害（股関節の代表的な傷害、大腿部筋損傷など）について、解剖を再確認してから傷害の病態について解説する。

学修課題：授業で行った股関節・大腿部の傷害の知識を整理する

第12回：各論⑧　下肢のスポーツ外傷・障害－膝の外傷

膝の代表的なスポーツ外傷である前十字靭帯損傷，半月板損傷などの病態と対策を解説。膝関節の解剖についても再確認する。

学修課題：膝関節外傷の病態と対策について復習する

第13回：各論⑨　下肢のスポーツ外傷・障害－膝の障害・下腿の傷害

膝の代表的なスポーツ障害であるジャンパー膝、変形性関節症などを解説し、下腿で知っておくべき傷害となるシンスプリント、疲労骨折、コンパートメント症候群の病態とその対策について話を進める。

学修課題：膝・下腿のスポーツ傷害に関する知識を深める

第14回：各論⑩　下肢のスポーツ外傷・障害－足関節・足

足関節・足部のスポーツ外傷・障害について解説。特に、捻挫の処置と対策、スポーツに多い疲労骨折をについて詳細に行う。

学修課題：足関節・足部の傷害内容について再確認する

第15回：総まとめと達成度チェック

この授業で何を学び､何を考えたか。知識の整理と確認。具体的には、スポーツ医学の設問形式による課題を行い、その解説を行う。

学修課題：授業内容全般の復習

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

筆記試験（80%）：授業内容の理解を確認するため、80点満点で評価する。

レポート（20%）：授業で学習した、または自分で情報を収集したスポーツ外傷・障害について、十分に理解できているかを評価。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

現場で役立つスポーツ損傷ガイド　－診断、治療、復帰までー　鳥居　俊（監訳）「NAP limited」

新版　スポーツ整形外科学　中嶋寛之（監修）　福林　徹・史野根生（編集）「南江堂」

筋肉と関節のしくみがわかる事典　竹井　仁（監修）　「西東社」

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ栄養学概論

【担当】武田　哲子

■授業概要

アスリートの競技力向上にはトレーニングだけでなく適切な栄養管理も重要である。この講義では、競技パフォーマンスやコンディション調整と関連した栄養素の機能・代謝などの基礎的な理論を解説し、アスリートの競技力向上を目指した栄養管理法などについて考える。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：目標にあわせたスポーツ活動を効果的に行うことができるための栄養・運動・食事調整の知識を習得する

目標：スポーツ活動時の生理的変化を理解し，より効果的なスポーツ活動の実施および体づくりが実践できるために栄養を評価し実践できるようになる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：ガイダンスとスポーツ栄養に関する概説

授業の進め方，達成目標を確認する.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（エネルギー代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第２回：エネルギー産生のための食事

運動時におけるエネルギー代謝について理解し，運動特性に応じた糖質および脂質摂取方法について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（タンパク質代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第３回：身体づくりのための食事

運動時におけるタンパク質代謝について理解し，身体づくりに必要なタンパク質摂取方法について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（水分補給）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第４回：スポーツと水分補給

運動時の水分の役割，水分出納について理解し，環境に適した水分補給について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（骨，カルシウム代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第５回：骨づくりとカルシウム摂取

アスリートにおける骨の健康問題および骨代謝について理解し，効果的なカルシウムの摂取について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（スポーツ貧血）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第６回：スポーツ貧血

アスリートにおける貧血の問題について理解し，貧血予防の食事について学ぶ.

学修課題：前半授業の内容をまとめ，理解を深める

第７回：前半授業の達成度チェック

前半授業のまとめとして達成度をチェックする.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（体組成）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第８回：食事量の評価方法

競技や体格に応じたエネルギー消費量の推定について理解し，実践に向けた知識を習得する.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（体組成）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第９回：体格の評価方法

身体組成の計測方法とその意義について理解し，競技特性に合った体格について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（アスリートの減量）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第10回：アスリートの減量

アスリートにとっての減量の目的を理解し，その手法について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（アスリートの増量）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第11回：アスリートの増量

アスリートにとっての増量の目的を理解し，その手法について学ぶ.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（コンディショニング）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第12回：コンディショニング

試合期に向けたコンディショニングにおける食事調整の必要性を理解し，実践に向けた知識を習得する.

学修課題：授業内容に関して配布された資料の予習を行う．その中で次回キーワード（試合の時の食事）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく.

第13回：試合時の食事調整

試合（練習）時間に合わせた食事調整の意義と手法学ぶ.

学修課題：後半授業の内容を復習し，スポーツ現場における栄養摂取の課題を整理する.

第14回：トップアスリートから学ぶ

トップアスリートの経験から，競技のための生活に必要な知識，心構えを学ぶ.

学修課題：トップアスリートから学んだことをこれまでの知識と合わせて整理し，スポーツ現場における食生活の課題や指導について考察する.

第15回：後半授業のまとめと達成度チェック

後半授業のまとめとして達成度をチェックする.

学修課題：後半授業の内容を復習し，達成度チェックに向け不足している知識について再度学習する.

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間試験（40%）：学期の前半の内容の理解度について40点満点で評価する

期末試験（40%）：学期の後半の内容の理解度について40点満点で評価する

振り返りシートおよびレポート（20%）：毎回の講義内容に対する理解，関心度およびスポーツと栄養に関する知識を用い，指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」田口素子・樋口満編著（市村出版）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

身体発育発達論

【担当】秋武　寛

■授業概要

発育は組織・器官の増大と考えられ、発達は機能面からみた質的および量的成熟過程と考えられる。幼児期から高齢者までのライフステージにおける発育発達に関する経過を辿りながら、その特徴を解説する。特に幼児期から青年期までの時期においては、成長という因子を把握していない場合において、スポーツ障害を発生させる原因のひとつになるものと考えられる。各ライフステージにおける身体運動の最大の役割は、各諸器官の機能的向上と考えられる。これらのことから、加齢現象による健康・体力・スポーツとの関連性においても解説する。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：発育発達に関する基礎的な知識を学修する。

目標：発育発達に関する基礎的な知識を習得することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション

講義目的と評価および授業の進め方について解説する。

学修課題：発育発達の概念について学修する。

第２回：幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容

幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容について解説する。

学修課題：幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容について学修する。

第３回：健康とスキャモンの発育曲線

健康とスキャモンの発育曲線について解説する。

学修課題：健康とスキャモンの発育曲線について学修する。

第４回：運動の発達

各年代に合わせた運動発達について解説する。

学修課題：各年代に合わせた運動発達について学修する。

第５回：健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）

健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）について解説する。

学修課題：健康の要素及び身体の発育(機能的変化および形態的変化)について学修する。

第６回：骨の発育発達

骨の発育発達について解説する。

学修課題：骨の発育発達について学修する。

第７回：ホルモンと発育発達

ホルモンと発育発達について解説する。

学修課題：ホルモンと発育発達について理解する。

第８回：子どもの健康に関する問題（グループディスカッション）

子どもの健康に関する諸問題についてグループディスカッションを行う。

学修課題：子どもの健康に関する問題について学修する

第９回：体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成

体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成について解説する。

学修課題：体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成について学修する。

第10回：脳、身体の発育発達

脳、身体の発育発達について解説する。

学修課題：脳、身体の発育発達について学修する。

第11回：幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイント

幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイントについて解説する。

学修課題：幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイントについて学修する。

第12回：幼児期の運動に関する取組実践事例

幼児期の運動に関する取組実践事例について解説する。

学修課題：幼児期の運動に関する取組実践事例について学修する。

第13回：加齢にともなう運動動作の発達（走る）

加齢にともなう運動動作の発達（走る）について解説する。

学修課題：加齢にともなう運動動作の発達（走る）について学修する。

第14回：加齢にともなう運動動作の発達（跳ぶ、投げる）

加齢にともなう運動動作の発達（跳ぶ、投げる）について解説する。

学修課題：加齢にともなう運動動作の発達（跳ぶ、投げる）について学修する。

第15回：まとめ

振り返りを行い、半期間のまとめを行う。

学修課題：半期間の復習を行う。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

期末試験（60%）：授業で解説した発育・発達についての基礎知識の理解度を評価する。

授業内課題（20%）：授業内に提示した課題について、授業内容の理解度を評価する（10点×２回）。

発育発達に関するレポート（10%）：発育・発達についてのレポート課題の内容を評価する。

授業への参加度（10%）：取り組み状況（参加度、意欲、態度）

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

レジャー・レクリエーション論

【担当】佐藤　馨

■授業概要

日本政府は、『「働き方」は「暮らし方」そのものであり、働き方改革は日本の企業文化、日本人のライフスタイル、日本人の働くことに対する考え方そのものに手を付けていく改革である。』として「働き方改革」を積極的に推し進めている。このように、日本では経済活動だけでなく生活や人生を豊かにするレジャーやレクリエーション活動に目を向け、その重要性を再認識する時期と言える。本講義は、日常生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解するとともに、レクリエーション支援者として必要な基礎知識を習得する。

■養うべき力と到達目標

１．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：レジャー・レクリエーションの意義と価値

目標：時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値について理解する。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：レジャー・レクリエーションの変遷

目標：個人のライフスタイルの変化とその時々のレジャー・レクリエーションの意味を理解する。

３．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：レジャーレクリエーションの普及

目標：他者にレジャー・レクリエーションの重要性を説明する力を養う。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：レジャー・レクリエーション論：ガイダンスおよびレジャー・レクリエーション論の概説

レジャー・レクリエーション論で学習する全講義の概要と受講上の留意点

学修課題：授業計画、留意点等について資料を精読し、理解する

第２回：レジャー・レクリエーションの考え方①レジャー・レクリエーションとは何か

レジャー・レクリエーションの歴史的変遷における位置づけ

学修課題：レジャー、レクリエーションの語源について調べる

第３回：レジャー・レクリエーションの考え方②現代社会において、なぜレジャー・レクリエーションは必要か

現代社会におけるレジャー・レクリエーションは必要性および重要性を解説する

学修課題：人間にとって、なぜレジャーやレクリエーションが必要であるのか自分自身の意見をまとめる

第４回：日本人の余暇生活

日本人の余暇に対する考え方について戦後の変遷

学修課題：自分自身が考える日本人の余暇観についてまとめる

第５回：諸外国における余暇生活

余暇に対する考え方の諸外国と日本人との違い

学修課題：日本人と諸外国との余暇の捉え方の違いについてまとめる

第６回：前半までの授業のまとめと確認

前半までの講義について特に重要と指摘した内容を正確に理解しているか確認する

学修課題：前半の講義において重要な内容を理解し、まとめる

第７回：社会福祉とレクリエーション①福祉におけるレクリエーションの意味

福祉におけるレクリエーションの意味とその必要性

学修課題：福祉の場面におけるレクリエーションの必要性について理解し，まとめる

第８回：社会福祉とレクリエーション②セラピューティックレクリエーションの意味

セラピューティックレクリエーションの語源とその必要性

学修課題：セラピューティックレクリエーションの意味についてまとめる

第９回：セラピューティックレクリエーションの視点からみたサービスモデルの活用①余暇活用モデル、健康維持・増進モデル

セラピューティックレクリエーションのサービスモデルの活用方法

学修課題：各種モデルを用いたレクリエーションの活用について理解し、まとめる

第10回：セラピューティックレクリエーションの視点からみたレクリエーションサービスモデルの活用②楽しさ向上モデル、TRサービスモデル

セラピューティックレクリエーションのサービスモデルの活用事例

学修課題：各種モデルを用いたレクリエーションの活用事例について調べる

第11回：レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用①レクリエーション活用事例

モデルを用いた福祉の現場におけるレクリエーションの活用事例

学修課題：モデルを用いた福祉現場におけるレクリエーションの活用事例についてまとめる

第12回：レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用②プログラムの作成方法

モデルを用いて実際のレクリエーションプログラムを組み立てる方法

学修課題：モデルを用いてレクリエーションプログラムの作成方法を理解し，まとめる

第13回：現場におけるセラピューティックレクリエーションの活用

外部講師によるセラピューティックレクリエーションの活用実践

学修課題：福祉の実際の現場で活用されるモデルの実践例について理解し、まとめる

第14回：レジャー・レクリエーションとスポーツと健康の関わり①WHOの「健康」定義との関連について

WHOの「健康」定義からみたレジャー・レクリエーションの意義

学修課題：健康の観点からもレクリエーションの重要性について理解し，まとめる

第15回：レジャー・レクリエーションとスポーツと健康の関わり②21世紀のレジャー・レクリエーション

21世紀におけるレジャー・レクリエーションの意義と可能性

学修課題：これからのレジャー、レクリエーションのあり方について自分の意見をまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

優秀な提出課題については、講義中に全体に向けて内容をコメントします

■評価方法

授業内容に関する小レポート（５％）：授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する

講義中盤に実施する確認テスト（25%）：講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか25点満点で評価する

本試験（70%）：講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか70点満点で評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『現代人とレジャー・レクリエーション』余暇問題研究所編著　不昧堂　1997

『レクリエーション・マネジメント』（財）日本レクリエーション協会編　大修館書店　1994

『レクリエーション活動援助法』吉田圭一,茅野宏明編　ミネルヴァ書房　2007

『レクリエーション援助』千葉和夫編　メヂカルフレンド社　1997

『余暇学を学ぶ人のために』日本余暇学会監修　世界思想社　2004

『地域福祉論』市川一宏,牧里毎治編著　ミネルヴァ書房　2007

■履修上の注意・備考・メッセージ

履修上の注意

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本試験だけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。従って普段の授業で重要と指摘された点は確実に覚えること。

メッセージ

レジャー、レクリエーションという言葉は、実はとても奥深いものである。そうした奥深さを講義で理解出来るよう講義する。

衛生・公衆衛生学

【担当】上利　理代

■授業概要

本講座では、衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）について学習する。世界的な問題となっている環境問題や疫学的知識を得るだけでなく、いわゆる生活習慣病の予防についての知識も獲得できることを目的とする。環境因子がいかに生活習慣病をはじめとする疾患へ関与するかを理解する。また日本の人口動態や出生率、罹患率などの統計についても、各資料を読み取り、その内容を把握・理解できるようになることを目標とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：環境因子により発症リスクの上がる疾患について学ぶ

目標：環境因子がいかに生活習慣病や健康に影響を及ぼすか理解する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：公衆衛生の概念、疫学の概念

公衆衛生の概念、疫学の概念について学ぶ

学修課題：公衆衛生の概念、疫学の概念について整理する

第２回：社会と健康：予防医学

疾病予防、プライマリヘルスケア、公衆衛生活動などについて学ぶ

学修課題：予防医学の現状を厚生労働省ＨＰなどで確認する

第３回：環境と健康　環境アセスメント・地球環境

環境と健康　環境アセスメント・地球環境についての現在の知見を述べる。

学修課題：環境アセスメントについて調べてくる

第４回：環境と健康：環境衛生・暮らしの環境

環境衛生について現状を学ぶ

学修課題：暮らしの中での環境について整理する

第５回：健康・疾病に関する統計

疾病関連の人口・人口動態統計について学ぶ

学修課題：日本の人口動態について調べてくる

第６回：疫学

疫学の概念・指標・方法について学ぶ

学修課題：疫学の概念について調べてくる

第７回：生活習慣病：生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策

生活習慣の現状と予防対策について学ぶ

学修課題：身近な生活習慣病の特性を調べてくる

第８回：悪性新生物

悪性新生物の疫学と予防対策について学ぶ

学修課題：日本人の多くが罹患する疾患について整理しよう

第９回：循環器疾患の疫学と対策

循環器疾患の危険因子（肥満、高血圧、耐糖能異常と糖尿病、脂質代謝異常症、メタボリックシンドローム、食生活、ストレス）について学ぶ

学修課題：メタボリックシンドロームの問題を整理する

第10回：骨粗しょう症の疫学と対策

ＡＤＬ低下の危険因子である骨粗しょう症について学ぶ

学修課題：骨粗しょう症の問題点を調べてくる

第11回：精神保健

急増している精神疾患罹患者への保険対策について学ぶ

学修課題：精神疾患症についての社会的問題を調べてくる

第12回：学校保健

学校保健の目的・現状について学ぶ

学修課題：学校保健の役割を考えてくる

第13回：母子保健

母子保健事業・現状について学ぶ

学修課題：母子保健についての保健所の取組を調べてくる

第14回：高齢者保健・介護

高齢者保健の現状と対策について学ぶ

学修課題：身近な高齢者施設について調べてみよう

第15回：感染症について

感染症について疫学から予防対策について学ぶ

学修課題：身近な感染症について予防策を考えてみよう

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

公衆衛生学に関するレポート（40%）：公衆衛生に関する基礎知識を用いて自分の意見が主張できているかどうかを独自性、論理性の観点から総合的に評価する。

期末テスト（60%）：授業で解説した基礎知識の理解度をはかる。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

社会環境と健康ー公衆衛生学2017年度版（医歯薬出版）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

配布資料は必ず保存すること

体育・スポーツ史

【担当】黒須　朱莉

■授業概要

スポーツ文化は、各時代の社会的な影響を受けながらその時代に生きる人々によって育まれ、変化し、継承されてきたものである。この文化としてのスポーツを理解するためには、スポーツが各時代にどのような形で歴史を築きながら展開してきたのかを学ぶ必要がある。本講義は、現代スポーツの問題との連続性に自覚的になりながら、スポーツの歴史的な展開過程を理解し、今後のスポーツ文化の在り方を考えていくための教養を身に付けることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツ史に関する知識の習得。

目標：各時代のスポーツの特徴を歴史的な観点から説明できること。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツ史の視点から現代スポーツを考察する力を身に付ける。

目標：現代のスポーツの問題を、歴史的な視点から考察し、自身の意見として論理的に述べることができること。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス・スポーツ史を学ぶ意義

授業全体の概要と、スポーツを歴史的に学ぶ意義をスポーツ文化という視点から理解する。

学修課題：古代（ヨーロッパ）の歴史を復習しておく。

第２回：古代のスポーツ

古代ギリシャとローマにおける競技とその特徴について理解する。

学修課題：授業内容の復習及び中世（ヨーロッパ）の歴史を復習しておく。

第３回：中世のスポーツ

ヨーロッパ中世におけるスポーツとその特徴について理解する。

学修課題：授業内容の復習及び「フットボール」と「サッカー」の呼び方の違いについて調べておく。

第４回：民族スポーツと近代スポーツ

現代に継承されている民族フットボールの特徴を理解し、近代スポーツとの比較を行うための準備を行う。

学修課題：近代ヨーロッパとイギリスの関係について復習しておく。

第５回：近代スポーツの誕生と特徴①（時代背景）

近代スポーツの誕生とその特徴について理解する。

学修課題：競技スポーツが形成された時代背景とその特徴を復習する。

第６回：近代スポーツの誕生と特徴②（誕生と伝播）

映画「コッホ先生と僕らの革命」を教材とし、近代スポーツの特徴を復習と次回講義の予習を行う。

学修課題：経験してきたスポーツを3つ取り上げ、その競技の発祥の国を調べておく。

第７回：近代スポーツの伝播

近代スポーツの伝播を、競技の「母国」を通して理解する。

学修課題：授業で取りあげなかったスポーツの「母国」について調べる。

第８回：前半の授業のまとめと確認

前半までの講義内容を正確に理解しているか確認する。

学修課題：前半までの講義内容を復習し、各時代のスポーツの特徴について理解しておく。

第９回：日本における近代スポーツ①（日本的受容と変容）

日本における近代スポーツの日本的受容と変容の特徴について理解する。

学修課題：授業で取りあげなかったスポーツの日本への伝播の時期とその契機について調べる。

第10回：日本における近代スポーツ②（アメリカを「母国」とするスポーツ）

アメリカを「母国」とするスポーツの競技種目をいくつか取り上げ、その受容と変容の歴史について理解する。

学修課題：授業で取りあげなかったアメリカを「母国」とするスポーツ種目の歴史を辞典等で調べる。

第11回：日本における近代スポーツ③（体罰）

体罰をキーワードに、学生野球を事例としてその歴史的な背景について理解する。

学修課題：現在の体罰との連続性について、自身の経験を踏まえて考察する。

第12回：近代オリンピックの歴史①（オリンピズム）

近代オリンピックの誕生とその理念であるオリンピズムを、その創始者の思想的展開過程を踏まえながら理解する。

学修課題：日本オリンピック委員会のHPを利用し、授業内容を復習する。

第13回：近代オリンピックの歴史②（歴史と政治）

近代オリンピックの歴史を政治との関係から理解する。

学修課題：政治とスポーツに関する自身のスポーツ観を整理し、考察する。

第14回：近代オリンピックの歴史③（東京オリンピック）

1964年の東京オリンピックに焦点をあて、当時のオリンピックに求められた意味を社会的な背景を踏まえて理解する。

学修課題：2020年の東京オリンピックとの比較という視点から授業内容を復習する。

第15回：全講義のまとめ

講義内容の総復習を行い、全体の内容の要点を理解する。

学修課題：授業全体の内容を復習し、期末レポートの作成に取り組む。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題（40%）：授業後に提出する小レポートにおいて、授業の内容を正確に理解しているか、自身の考えを論理的に述べることができているか、以上の2点を独自のルーブリックに基づいて評価する。

確認テスト（30%）：授業内容を正確に理解できているか評価する。

期末レポート（30%）：レポートの体裁が整っているか、授業の内容を正確に理解しているか、自身の考えを論理的に述べことができているか、以上の３点を独自のルーブリックに基づいて評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜、授業資料のなかで参考文献を紹介します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

スポーツの歴史は、その時代（社会）の特徴と密接に関係しています。よって、授業外学修として高校までの世界史・日本史の内容を十分に復習しておいてください。

運動学概論

【担当】柴田　俊和・髙松　靖

■授業概要

保健体育教員や運動指導者を目指すのであれば、運動をどのようにして出来るようになるのか、またどのようにして人を出来るようにさせるのかということが問題になります。運動指導の現場で、我々は「運動を身体で理解する」ということの重要性を感じます。スポーツ運動を身体で理解し、感じることができ、更に伝えることができるというのは運動指導に関わる者として必須の能力です。保健体育教員やスポーツ指導者を目指す上で欠くことが出来ない運動学的な考え方が出来るようになることを目指します。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：各授業で提示する運動学習における身体知と運動発生論の考え方がどの程度まで理解できているか。

目標：運動場面を思い浮かべながらコツやカンという動感身体知を理解することができる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：運動を身につけたり教えたりする場面で、考えたり気を付けるべきことを、講義中の自身の身体の中で運動場面の想起して考えさせる。

目標：運動学習場面や運動指導場面において運動発生論的な考え方ができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：運動学で扱う「運動」とは

発生論的運動学で扱う運動というものについて講義する。

学修課題：運動ということについて調べてまとめる

第２回：自然科学的運動分析と人間学的運動分析の違いについて

自然科学的な運動分析と人間学的な運動分析の際について理解し、その用途について理解する。

学修課題：運動に関する自然科学的分析と人間学的分析の違いをまとめる

第３回：動感身体知とは

我々の運動実践の場面において感じられる動感身体知というものについて理解する。

学修課題：動感と身体知についてまとめておく

第４回：運動の発生について　（どのようにして運動が出来るようになるか）

運動発生場面において、どのようにして運動を習得していくのかについて講義する。

学修課題：自分がある運動を出来るようになった経過を思い出しまとめておく

第５回：運動の発生について　（コツとカンの理解について）

運動発生の場面におけるコツとカンというものに対し理解を深める。

学修課題：運動に関するコツとカンについて具体例をあげてまとめる

第６回：運動の習熟位相について

運動が習熟していく際の位相について理解する。

学修課題：ある運動を身につけるまでの経過を段階的に記述してみる

第７回:運動の指導について　（どのようにして運動を他人に伝えるか）

他者に対して運動指導を行うこととはどういったものであるのかについて講義する。

学修課題：他者に運動を指導するときに苦労した点をまとめる

第８回：運動の指導について　（他人の運動に共感できるか）

他人の運動を見て、どこが違うのか・どこが怖いのかということに気づくことについて理解する。

学修課題：人の運動を観察するときに何にポイントを置いているか思い出して記述しておく

第９回：運動の指導について　（道しるべの重要性）

運動指導における手順の構成の仕方について講義する。

学修課題：初心者の運動指導において大切にしている点をまとめておく

第10回：運動の構造について　（運動を見抜くということ）

指導対象となる運動の構造を理解し見抜くことの重要性について理解する。

学修課題：運動構造と運動分析について調べてまとめる

第11回：運動の構造について　（動きの価値と独自性について）

指導対象となる運動において求められる課題について、価値的な視点及び他の運動との区別という視点から明らかにすることについて理解する。

学修課題：自分が取り組んでいる運動の価値について考えをまとめておく

第12回：運動の構造について　（運動を支える経験について）

指導対象となる運動を支えている地平構造について理解する。

学修課題：ある運動の修得に必要な感覚的経験をまとめておく

第13回：運動指導者を目指すために必要なこと　（最適化を志向する領域について）

学校体育や幼児体育、リハビリテーションといった場面での出来ないことを出来るようにするということについて講義する。

学修課題：出来なかったことが出来るようになったきっかけを思い出して記述しておく

第14回：運動指導者を目指すために必要なこと　（最高化を志向する領域について）

競技スポーツやチャンピオンスポーツとしての極限化を狙う場面での運動指導について講義する。

学修課題：思うままに運動が出来るようになる条件について考えをまとめておく

第15回：まとめ

これまでの学習内容を総括し、全体の総復習を行う。

学修課題：学習した内容を復習し、まとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回の小レポート（60%）：授業内容やこれまでの運動経験を踏まえて独自の視点で書かれているか。４点満点×15回

最終レポート（40%）：指定の形式に沿って授業の内容を踏まえ、独自の視点で書かれているか。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

教師のための運動学（金子明友監修：大修館書店）

スポーツ運動学　金子明友著　明和出版

身体知の形成　上・下　金子明友著　明和出版

身体知の構造　金子明友著　明和出版

動きの感じを描く　森直幹著　明和出版

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

保健体育の教員免許状を取得希望する人には必修の科目です。スポーツ指導者の資格取得にも必修ですので、必ず履修してください。

頭だけで考えていてもなかなか理解できないと思います。始めの２～３回はなじみのない内容なので戸惑うと思いますが、自分のこれまでの運動経験をしっかりと思い出しながら、今にも体を動かしたくなるような、そんな気持ちで臨んでもらいたいと思います。

スポーツ政策論

【担当】石井　智

■授業概要

現在の日本のスポーツは、2011年に半世紀ぶりに改定された「スポーツ基本法」を元に政策展開されている。
本講義は、どのような方法により行政や企業がスポーツと関わりを持ちながら、現代社会に文化としてのスポーツを社会に定着させようとしているのかを考察する。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：我が国のスポーツ政策は何のために策定されたのか、その問題の本質をつきとめる学びを通じて、スポーツを巡る現代社会の課題についても考える
目標：我が国におけるスポーツ政策の現状を理解するとともに、政策科学の本質である問題意識や問題の本質をつきとめる技能を身に付ける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：講義のガイダンス・スポーツ政策とは
講義内容の紹介、進め方の説明
国内のスポーツ政策について概要を解説する
学修課題：政策論についての文献を購読し予習すること

第２回：日本のスポーツをめぐる政策の動向
日本において、なぜスポーツが政策に取り入れられたのか？スポーツの伝播と現代的課題の整理を通じてスポーツ政策の意義を考える
学修課題：受講内容をノートに整理すること

第３回：現代社会におけるスポーツの役割
スポーツの社会的価値とは何か？価値をもつためにはどんな政策が必要なのか？その意義について考える
学修課題：受講内容の要約と関連文献を購読すること

第４回：スポーツの関連法規
「スポーツ振興法」、「スポーツ振興基本計画法」、「スポーツ立国戦略」、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」の一連の施行について明らかにし、なぜこれらの法律や戦略が生まれたのかについて学ぶ
学修課題：スポーツ法規を理解をするために、それらの要約をすること

第５回：スポーツ基本法とスポーツ基本計画
なぜ、この法律が生まれたのか？その法規内容について理解する
学修課題：スポーツ法規の理解

第６回：スポーツの政策とその構造
スポーツ関係省庁はそれぞれの部署でどんな仕事をしているのか、その財源はどこから捻出しているのか、スポーツの財源（スポーツくじ・toto）ななぜ生まれたのかについて学ぶ
学修課題：スポーツ政策関連の文献を購読すること

第７回：スポーツ法規と政策
スポーツ法規の整理と国内スポーツ政策の現代的課題を検討する
学修課題：これまでの講義内容を整理し要点をまとめる

第８回：国内スポーツ政策の実際
総合型スポーツクラブ、生涯スポーツの施策、競技スポーツ、国際競技力向上の施策、競技統括団体の役割
学修課題：スポーツ行政関連の文献を購読すること

第９回：滋賀県を事例とした地方自治行政のしくみとスポーツ政策
行政組織のなかでのスポーツ政策意思決定のしくみ
学修課題：出身地でのスポーツ行政について調べておく

第10回：滋賀県のスポーツ政策の実際
県民が元気になるスポーツ振興と国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催について考える
学修課題：滋賀県のスポーツ振興策についてホームページで閲覧する

第11回：スポーツと文化のかかわりにどうアプローチするか？
新しい滋賀の魅力をつくる文化・スポーツ戦略の策定化について考える
学修課題：滋賀県のスポーツ振興策についてホームページで閲覧する

第12回：スポーツと企業
企業スポーツの概観、CSR経営とスポーツの関わり
広告媒体としての装置　スポーツビジネスとマネジメント
スポーツ用品産業とスポーツ競技団体
学修課題：企業スポーツの変遷についてまとめる

第13回：メガスポーツイベントの文化社会的意義
2020東京オリンピック・パラリンピックにおける社会的意義とは何か？そもそも東京オリパラは必要か？など自由にディスカッションを行い、メガスポーツイベントの光と影について学ぶ
学修課題：東京オリパラ開催にまつわる課題の整理をする

第14回：スポーツメガイベントの文化社会的意義
2020東京オリパラ以外にも多くの世界的なスポーツイベントが日本にやってくるが、それｒのイベントの意義とは何か（例えば、ソーシャルキャピタル醸成など）を考える。
2019ラグビーワールドカップ日本開催
2021関西ワールドマスターズゲーム開催
2024滋賀国民体育大会開催
学修課題：社会関係資本関連の文献を購読する

第15回：まとめと総評
講義内容の復習とまとめ
講義内容の要点を整理する
学修課題：本講義で学習したことの要点を整理する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題レポート（45%）：毎授業後、小レポートを課し（３点）、その得点を合計とする（３点×15回＝計45点）
期末課題レポート（もしくは考課テスト）（55%）：期末レポート（考課）基準
55点：自身の考えや新たな視点による意見が明確かつ論理的に書かれている。
40点：一般的な問題定義や課題に対する説明がなされている。
20点：一定の理解が理解がなされている。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

太田進一、石井智他「ビジネスモデルと企業政策」晃洋書房（2006）
横山勝彦、鳥羽賢二他「スポーツの経済と政策」晃洋書房（2011）
他

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義を受講することにより、日本のスポーツを取り巻く状況への理解が深められます。
今後のスポーツ文化の在り方についての課題発見力、創造力、論理的思考力を身につけられる講義にしようと思います。

学校保健　【担当】股村　美里

■授業概要

学齢期にある子どもたちのからだや健康を守り，育てるための基本的な知識を習得することをねらいとする。内容としては子どもの健康実態，学校保健の考え方，健康診断の内容とあり方、子どもの身体発育・発達やかかりやすい病気の知識，それを守り育てるための学校の仕組みや学校環境・組織等を取りあげる予定である。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学校保健に関する知識理解

目標：児童生徒の健康問題に関する知識とそれを保持増進するために実施されている学校保健の機能について説明できる

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：現代社会における学校保健の抱えている問題と改善策の提言

目標：現代社会における児童生徒の健康問題とそれを解決するための学校保健のありかたについて、考察することができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：学校保健における目標と課題①　学校保健概論

学校保健の全体の内容を俯瞰し、保健体育科教員としての職務とその役割の重要性について紹介する。

学修課題：学校保健の構造と関わる人々、機会など全体を把握し、その概要が説明できるようになる。

第２回：学校保健における目標と課題②　児童生徒の健康問題の実際

児童生徒の心身の健康問題の実態について、各調査結果を概略して紹介し、把握すること。

学修課題：児童生徒の健康問題の具体例について、新聞や文献などにあたりまとめること。

第３回：学校保健における目標と課題③　からだの発達発育、こころの発達における諸問題

からだの発育と発達、こころの発達の関連について概略を紹介する。さらに、いじめ問題などについても学ぶ。

学修課題：からだとこころの発達発育の関連について説明でき、さらに現在問題とされている課題について情報収集を行う。

第４回：学校保健における目標と課題④　現代社会における児童生徒特有の健康問題

現代社会における児童生徒の抱える健康問題について理解し、荒れる子どもの背景とその対応について意見交換を行う。

学修課題：現代社会における思春期の子どもたちの抱える健康課題について情報収集し、学校保健としてどのような対応が可能か自らの意見をまとめる。

第５回：保健教育の実施

保健学習・保健指導の違いについて理解する。またそれらの担い手についての特徴と利点・弊害について理解する。保健体育科教諭に期待される役割と課題について理解する。

学修課題：保健学習と保健指導の違いについて説明できるようにする。

第６回：保健管理の実施

健康診断や健康相談について理解し、その担い手としての保健体育科教諭、保健主事、養護教諭、学校三師などの学校保健関連職員の役割について学ぶ。

学修課題：学校健康診断の項目やその意義と活用について、調べまとめる。

第７回：学校保健の担い手「チーム学校保健」について考える

保健教育と保健管理の担い手について復習し、保健教育の担い手に必要な専門性とは何か意見交換を行う。

学修課題：保健教育の目的と方法について理解し、自らがその担当教員になるために必要な技能について考察する。

第８回：養護教諭と保健主事の仕事

養護教諭による保健室を中心とした活動の位置づけと役割、重要性について学ぶ。また、保健教育や保健管理について養護教諭および保健主事がどのようにかかわっているのかを理解する。

学修課題：養護教諭による保健室を中心とした役割について理解し、現在の課題と解決策について自らの意見をまとめる。自らの経験をもとに、保健教育、保健管理が誰によってどのように実施されていたか振り返る。

第９回：児童生徒の健康状態の把握

学校三師（学校医、学校歯科医、学校薬剤師）の役割と職務内容について理解する。

学修課題：学校健康診断の項目の変遷やその意義について学ぶ。 またそこから得られる情報が児童生徒の健康管理にどのように生かされているのか理解する。

第10回：学校保健のターゲットの具体例①－学校感染症とその対応

子どものかかりやすい疾患、特に学校感染症とその対応について、学校保健安全法施行規則などとの関連も含めて学ぶ。

学修課題：学童期にかかりやすい疾患についての症状の特徴と予防法に関する知識を確実なものにし、理解を深めておくこと。

第11回：学校保健のターゲットの具体例②－学校環境衛生

学校の環境（水道水、プールの水、明るさ、空気）について適切とされる状態について把握し、点検などについて学ぶ。

学修課題：学校環境衛生基準について調べまとめる。

第12回：学校保健のターゲットの具体例③学校安全（１）事故・災害の発生

学校管理下における事故や災害の発生機序とその防止について理解する。

学修課題：学校管理下の概念について理解するとともに、事故とは予防可能なものであることを理解する。

第13回：学校保健のターゲットの具体例③学校安全（２）学校における安全教育

安全教育のねらいと指導内容について理解する。また学習指導要領における安全教育の内容及び活用可能な資源は何かを理解する。

学修課題：具体的な安全教育について実例についての情報収集を行い、課題と解決策について考える。

第14回：教職員の健康－学校保健の担い手を支える

教職員の心身の健康課題について実態やその背景について学ぶ。

学修課題：教職員の職務の特徴とかかえやすい課題、その解決策について調べまとめる

第15回：学校保健及び学校安全と教育活動の関連

学校安全を含めた学校保健全体について振り返り、学校保健における学校保健の役割と課題について考える。

学修課題：関連講義の内容を含め、学校保健全体の実施についてその役割と課題、解決策についてまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内レポート（30%）：授業内レポートは、講義内容の理解と個人の見解を論理的にまとめていることを評価する（15回×２点＝30点）。

中間レポート（20%）：中間レポートは与えられたテーマについて指定された形式に則り論理が展開されているかを評価する。

筆記試験（50%）：定期試験期間中に筆記試験を実施する。範囲は、講義内容全範囲とする（50点）。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

教員養成系大学保健協議会（2009）：〔第5次改訂〕学校保健ハンドブック．ぎょうせい．

大津一義・門田新一郎編著（2016）：最新学校保健．大学教育出版．

日本学校保健会（2013）：学校保健の動向．日本学校保健会出版部．

いずれも学校保健に関する書籍として体系的にまとめられた良書です。１冊は購入しておくことを強く勧めます。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

共通科目「健康教育・管理論」の単位を予め修得したことを前提に講義を進めます。履修の際には注意してください。本講義は、実際の臨床の現場で生かせるような知識と技能を身につけることを目的とします。そのため、自らの体験や考えなどを出発点として講義形式だけでなく、ペアワークやグループワークを取り入れ、授業への主体的かつ積極的な聴講の姿勢を求めます。授業中の私語や他の受講者への妨害と判断されるような行為を行った場合、教室を退出してもらうことがあることを心に留めておいてください。

体力測定と評価

【担当】藤松　典子

■授業概要

生涯を通じての体力とは何かを学び、体力と運動能力について専門的な知識を深める。そのため学校保健、成人・中高年の体力評価の手法を講義、実習を通じて体得する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：体力の評価の仕方、体力測定の活用の仕方、体力測定と評価を今後の健康づくり、アスリートのパフォーマンス向上へつなげる方法等を習得し、介護予防に必要な体力、疾病予防に必要な体力や身体組成について学習する

目標：生涯を通じての体力とは何かを学び、体力と運動能力について専門的な知識を深める

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：学校保健、成人・中高年の体力評価の手法を講義、実習を通じて体得する

目標：集団の体力評価、個人の体力評価を測定条件を考慮しながら説明できる能力を養う

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：体力と運動能力（構成要素）・体力構成要素の測定法　（１）体力測定の目的、理論　（２）体力測定の形態、流れ、基礎運動能力（３）「新体力テスト」で測定される体力要素

体力と運動能力（構成要素）・体力構成要素の測定法　（１）体力測定の目的、理論　（２）体力測定の形態、流れ、基礎運動能力（３）「新体力テスト」で測定される体力要素について学習する。

学修課題：体力と運動能力についてまとめる。

第２回：年齢に伴う体力水準の変化及び性差

年齢に伴う体力水準の変化及び性差について、体力構成要素について理解する。

学修課題：各種体力測定とその項目、対象者、目的を調べて提出する。

第３回：身体組成の測定について

インピーダンス法などの身体組成の測定について講義する。

学修課題：体力測定と評価に関する文献を検索する。

第４回：全身持久性体力の測定及び評価法

全身持久性体力の測定及び評価法を講義する。

学修課題：体力測定と評価に関する検索した文献を読む。

第５回：高齢者の体力測定法

高齢者の体力測定法を講義する。

学修課題：体力測定と評価に関する読んだ文献をまとめる。

第６回：介護予防に関連する体力測定法とその評価

介護予防に関連する体力測定法とその評価を中心にガイドラインなどの説明をする。

学修課題：介護予防の観点から体力測定の必要性をまとめる。

第７回：運動指導と体力管理（まとめ）

運動指導と体力管理についてまとめ、知見を補足する。

学修課題：体力測定の必要性と利用方法についてまとめる。

第８回：健康づくりをすすめる施策のあらまし－健康日本21

健康づくりをすすめる施策のあらまし－健康日本21を講義する。

学修課題：健康づくりの観点で体力測定と評価をまとめる。

第９回：健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド2006)

健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)を講義する。

学修課題：日本人に必要な運動量と目的別の運動種目を整理する。

第10回：生活習慣病予防・肥満解消のための運動指導の原則

生活習慣病予防・肥満解消のための運動指導の原則をまとめる。

学修課題：生活習慣病とわが国の現状について調べてまとめる。

第11回：体力の評価の仕方（１）統計学上の指標

体力の評価の仕方（１）統計学上の指標について、エクセルでの計算法を解説する。体力テストの図示化演習

学修課題：体力テストの図示化をプレゼンする。

第12回：体力の評価の仕方（２）表現法

体力の評価の仕方（２）表現法について述べる。グループで体力測定の計画を立案する。各グループで記録用紙、評価基準の準備をする。

学修課題：メディカルチェックの概要を学んで運動中止の基準を学ぶ。

第13回：体力測定の実施

実際に体力測定を実施し、お互いに測定をする。自分たちの結果、自分の結果を他の集団と比較し、評価する。

学修課題：体力測定の目的、方法、結果、結果からの評価、改善点等をレポートにまとめる。

第14回：体力の評価の仕方（３）評価－偏差値

体力の評価の仕方：評価について偏差値の求め方を中心に講義する。

学修課題：三つの標準得点（Z,T,H）を調べ利用する。

第15回：目的に合わせた体力測定

対象者、目的、測定内容を設定し、測定結果の活用方法、評価の仕方をグループごとにまとめて発表す。

学修課題：授業全体のまとめ。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

小テスト（70%）：ほぼ毎回授業終了時にその授業の小テストを実施し、授業内容の理解度を評価する。

レポート（30%）：指導案や体力測定結果のコメント等レポートで提出させその習熟度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者用テキスト」

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

武道論

【担当】林　弘典

■授業概要

本授業は、武道、武術、スポーツの違いについて学習しながら、武道とは何かについて理解することを目指す。また、柔道、剣道、弓道、相撲、なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道の概要について理解することを目指す。そのために、グループにおいて各武道の概要について調べたり、実際に武道を見学することによって学習をする。次に、グループでまとめた内容について発表を行うことによって成果を確認する。さらに、質疑されたことについても、応答できるまで行うことによって相互理解を深める。

■養うべき力と到達目標

1．DP6．優れたスポーツマンシップ

具体的内容：武道の理念、武道憲章、こども武道憲章

目標：武道、武術、スポーツの目的を理解できる。

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：千日回峰行（比叡山）

目標：武道と修行の関係性について理解できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、武道とは？

シラバスを確認し、授業の進め方や取り組み方について理解する。また、現在の武道の種類や統括団体について学習する。

学修課題：シラバスを熟読する。現在の武道の種類や統括団体について調べる。

第２回：武道の目的

武道の理念、武道憲章、こども武道憲章を通して、武道の目的について学習する。

学修課題：武道の理念、武道憲章、こども武道憲章について調べる。

第３回：柔道とは？

柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）の学習を通して、具体的に武道の目的を理解する。

学修課題：柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について調べる。

第４回：武術とは？

武術の種類、武術と武道の関係や目的について学習する。

学修課題：武術の種類、武術と武道の関係について調べる。

第５回：スポーツの価値について

オトナの学校完全版　武井壮【オトナの！】を視聴し、武道とスポーツの価値について学習する。

学修課題：スポーツの価値について調べる。

第６回：武道の価値について

かんさい熱視線「極めて　なお磨く―剣道八段・最高峰の戦い―」を視聴し、武道とスポーツの価値について学習する。

学修課題：全日本剣道演武大会について調べる。

第７回：武道と修行について

NHK特集「行　比叡山　千日回峰」を視聴し、武道と修行の関係性について学習する。

学修課題：千日回峰行（比叡山）、酒井雄哉について調べる。

第８回：グループ発表準備（柔道、剣道、弓道、相撲）

柔道、剣道、弓道、相撲について発表資料を作成する。

学修課題：柔道、剣道、弓道、相撲について調べる。

第９回：グループ発表準備（なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道）

なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道について発表資料を作成する。

学修課題：なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道について調べる。

第10回：武道の見学（柔道、剣道、弓道）

武道（柔道、剣道、弓道）を見学し、各武道について理解を深める。

学修課題：作成した発表資料（柔道、剣道、弓道）を見直す。

第11回：武道の見学（相撲、なぎなた、空手）

武道（相撲、なぎなた、空手）を見学し、各武道について理解を深める。

学修課題：作成した発表資料（相撲、なぎなた、空手）を見直す。

第12回：武道の見学（合気道、少林寺拳法、銃剣道）

武道（合気道、少林寺拳法、銃剣道）を見学し、各武道について理解を深める。

学修課題：作成した発表資料（合気道、少林寺拳法、銃剣道）を見直す。

第13回：グループ発表（柔道、剣道、弓道、相撲）

柔道、剣道、弓道、相撲について発表する。

学修課題：グループ発表（柔道、剣道、弓道、相撲）の予行練習をする。

第14回：グループ発表（なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道）

なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道について発表する。

学修課題：グループ発表の予行練習をする。（なぎなた、空手、合気道、少林寺拳法、銃剣道）

第15回：質疑応答、まとめ

グループ発表における質疑に対して応答する。また、今までの授業を振り返り、まとめを行う。

学修課題：グループ発表における質疑について調べる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（50%）：内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価します。

発表（30%）：分量や分かりやすさについて、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価します。

発表資料（20%）：分量や体裁について、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

武道を知る：田中　守・藤堂良明・東　憲一・村田直樹（不昧堂出版）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる。

舞踊論

【担当】森川　みえこ

■授業概要

あなたが舞踊を考えたときに何を思い浮かべますか、日本舞踊？それともバレエ、モダンダンス、ストリートダンスでしょうか。実は、とっても身近に存在するもので、我々は言葉と身振りで自分の思いを伝えるという身体表現によって、コミュニケーションを取ろうとしているその行為が舞踊の原点です。ここでは、人と舞踊の関わりを歴史から学び、長い歴史の中で形を変えていった舞踊とは、また人はなぜ舞踊するのか、みなさんと一緒に探っていきましょう。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：人と舞踊の関わりを歴史から学ぶ。

目標：人と舞踊の関わりを理解できる。また舞踊の特性を説明できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション・舞踊とは

原始時代から現代までの歴史の流れを知る

舞踊の語源

日本の舞踊の歴史

学修課題：舞踊と日本舞踊の違いをまとめる

第２回：舞踊の歴史１　原始、古代時代の舞踊

原始、古代時代の舞踊はその形式が人間と密接なつながりがあることを知る

学修課題：原始、古代の舞踊をまとめる

第３回：舞踊の歴史２　西洋の舞踊

西洋の舞踊で代表的なものとして教育に使われたり、宗教的な儀式にまで使われた。

ギリシャ、ローマの文化と舞踊

学修課題：西洋舞踊をまとめる

第４回：舞踊の歴史３　中世の舞踊、宮廷舞踊

バレエの起原を知ることができ、舞踊が王を象徴するものであった時代

中世の舞踊、宮廷舞踊

学修課題：バレエの発生を歴史の流れからまとめる

第５回：舞踊の歴史４　国家と舞踊

①国家と舞踊のレポート

国家と舞踊

映画鑑賞から

学修課題：中世のフランスの歴史を調べる

第６回：舞踊の歴史５　近代舞踊革命と舞踊家

バレエの時代から新たな舞踊の時代へ貢献した舞踊家の思想を学ぶ

近代舞踊革命と舞踊家

学修課題：日本で存在する舞踊、ダンスを調べる

第７回：世界のダンス１　歌舞伎

日本の伝統文化の一つである歌舞伎についてその起源とその時代の政治的権力のあり方をみる

歌舞伎の歴史

学修課題：前半の授業内容をまとめる

第８回：世界のダンス２　バレエ

バレエは現在も消えることなく世界に通じる芸術舞踊の一つである

そのバレエの過去から現在に至るまで

バレエの歴史

バレエの映像を鑑賞

学修課題：スペインの歴史について調べる

第９回：世界のダンス３　スペイン舞踊

他国では自国の舞踊を持っている。その一つとしてスペイン舞踊の歴史を知る

スペイン舞踊歴史

学修課題：アメリカ、奴隷制度時代を調べる

第10回：世界のダンス４　タップダンス

他国では自国の舞踊を持っている。その一つとしてタップダンスの歴史を知る。

タップダンスの歴史

学修課題：学校におけるダンスの種類を調べる

第11回：学校におけるダンス

日本の学校ダンスの今までの流れを理解することによって、ダンスの重要な役割を考える。

日本の学校ダンスの変遷

学修課題：ダンスセラピーまた他のセラピーを調べる

第12回：現代のダンス事情

ダンスが人の心を癒し、閉ざされた心を開いていくダンスセラピーについて

全てのダンスといわれるものが、人の心と密接のつながっていることを知る。

日本で生まれた舞踏とのかかわり

学修課題：心を開放できるよう心掛ける

第13回：生涯学習におけるダンス

ダンスセラピーの実際を体験してみる。

実技　メインアリーナ

フォークダンス

学修課題：健康とはについて調べる

第14回：健康とダンス

長い歴史の中でダンスが人の心を癒してきた。結果他国のダンスを受け入れ、現在は数百というダンスが日本に存在している。健康に貢献できるダンスであること考える。

学修課題：全授業の内容をまとめておく

第15回：まとめと総評

舞踊の歴史を振り返り、いかに人と密接な関係にあったのか、宗教、政治、人の暮らしまでかかわっていたことから舞踊の重要な役割を理解する。人と舞踊の関係について歴史を踏まえて考えをまとめる

学修課題：生涯スポーツとしてダンスを取り入れてください。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

15回のうち授業内容レポート課題の提出を８回行う。指定された回数以上の出席がない場合、評価の対象としない。

各授業内容の課題レポート（85%）：授業内容の要点、自分の考え、また文章構成、文字の評価を行う。

全授業のまとめのレポート（15%）：舞踊の発生から人と舞踊のかかわりについて

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

20世紀舞踊の作家と作品の世界　片岡康子編　遊戯社舞踊と身体表現　日本学術会議文化人類学・民族学研究連絡委員会　財団法人　日本学術協力財団舞踊の世界を探る　小倉重夫訳　音楽之友社

■履修上の注意・備考・メッセージ

本授業は授業内容により９課題のレポート提出があるため、欠席することによりその授業の評価は０点となります。

指定された回数以上の出席がない場合、評価の対象としない。

その回の授業の内容を丁寧に復習し、最終のレポート向けて予習をしてください。

スポーツ法学

【担当】新井　喜代加

■授業概要

本講義では、スポーツ事故の法的責任に関わる基本的課題からスポーツ振興をはじめドーピング、暴力･体罰などに関わる現代的課題まで、スポーツと法に関するテーマを取り上げて検討します。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：体育及びスポーツに関する法的知識

目標：スポーツに関する事案・現象を法的側面から捉えることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよび「法学」の導入

授業のねらい、授業内容、評価方法、留意点等の説明

「法学」について導入部分を解説する

学修課題：事前にシラバス及び教科書第１編第１章を読む／事後に本授業のルールと配布資料の内容を確認する

第２回：スポーツ法の体系

スポーツ国家法、スポーツ固有法、スポーツ国際法

学修課題：事前に教科書第1編第2章を読む／事後に配布資料を復習する

第３回：スポーツ振興と法―基本的な情報の確認―

スポーツ振興法、スポーツ基本法、諸外国のスポーツ振興に関する法

学修課題：事前に教科書第２編第１章を読む／事後に配布資料を復習する

第４回：スポーツ振興と法―ワークシートの作成―

スポーツ振興法及びスポーツ基本法に関するワークシートを作成し、それをもとに討議する。

学修課題：事前に教科書第２編第２章６を読む／事後に配布資料を復習する

第５回：ドーピングと法―基本的な情報の確認―

世界アンチ・ドーピング条約、世界アンチ・ドーピング機構、日本アンチ・ドーピング機構

学修課題：事前に教科書第３編２の（１）（５）を読む／事後に配布資料を復習する

第６回：ドーピングと法―ワークシートの作成―

ドーピングに関する判例の内容を理解し、ワークシートを作成し、それをもとに討議する。

学修課題：事前に第５回講義で配布した資料の判例を読む／事後に配布資料を復習する

第７回：暴力・体罰とスポーツ法―基本的な情報の確認―

懲戒権、公務員上の責任、民事責任、刑事責任

学修課題：事前に第３編２の（１）（３）（４）を読む／事後に配布資料を復習する

第８回：暴力・体罰とスポーツ法―ペアワーク及びプレゼンテーション―

ペアごとにテーマを設定し、スポーツ指導に資するレポートを作成し、プレゼンテーションする。

学修課題：事前に第７回講義で配布した資料を読む／事後にクラスのプレゼンテーションを評価する

第９回：スポーツ事故と法的責任

道義的責任、法的責任、スポーツ指導者・管理者の注意義務

学修課題：事前に第３編２の（１）（２）及び第４編第１章を読む／事後に配布資料を復習する

第10回：スポーツ事故と免責

法的責任の減免、免責同意書

学修課題：事前に教科書第４編第２章を読む／事後に配布資料を復習する

第11回：スポーツのリスクマネジメント―基本的な情報の確認―

スポーツのリスクマネジメント、スポーツの安全管理、スポーツ判例研究

学修課題：事前に教科書第4編第3章を読む／事後に配布資料を読む

第12回：スポーツのリスクマネジメント―グループワーク―

グループごとに検討するスポーツ判例を選択する。

学修課題：事前に教科書第4編第4章を読む／事後に配布資料を読む

第13回：スポーツのリスクマネジメント―進捗状況の報告―

グループごとにスポーツ判例の内容を理解し、スポーツのリスクマネジメントの観点から評釈を考え、進捗状況を報告する。

学修課題：事前に教科書第5編を読む／事後に配布資料を読む

第14回：スポーツのリスクマネジメント―プレゼンテーションの準備―

グループごとにスポーツ判例の内容を理解し、スポーツのリスクマネジメントの観点から評釈を考え、パワーポイントのスライドを準備する。

学修課題：事前に判例1件を選択し理解を深める／事後に選択した判例を理解し、スポーツのリスクマネジメントの観点からコメントを考える

第15回：スポーツのリスクマネジメント―プレゼンテーション―

グループごとにスポーツ判例の内容を理解し、スポーツのリスクマネジメントの観点から評釈を考え、パワーポイントのスライドを準備し、プレゼンテーションする。

学修課題：事前に選択した判例の内容を理解し、スポーツのリスクマネジメントの観点からコメントを考える／事後にクラスのプレゼンテーションのを評価する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業レポート（25%）：授業の理解度を確認するために、５点満点採点の授業レポートを５回実施する。授業で用いた語句を適切に用いて意見を述べているか５段階で評価する。

クイズ（10%）：学期中に語句の理解度を確認するために、５点満点採点のクイズを２回実施する。

授業内ワーク（20%）：スポーツの振興およびドーピングの問題について法的側面から理解を深めるために、10点満点採点の授業内ワークを実施する。関連論文を正しく理解しているか10段階で評価する。

プレゼンテーション１（15%）：ペアになって暴力・体罰の問題・課題について討議し、内容をまとめて発表する。議論展開、発表内容、発表態度をそれぞれ5段階で評価する。

プレゼンテーション２（30%）：ペアになってスポーツ事故判例を理解し、リスクマネジメントの観点から評釈を行い、発表する。判例理解、リスクマネジメントの理解、議論展開、評釈内容、発表方法、発表態度をそれぞれ５段階で評価する。

■教科書

日本スポーツ法学会（監修）浦川道太郎他（編）　・標準テキストスポーツ法学　・エイデル研究所　・2016年

■参考文献等

菅原哲朗他（監修）『スポーツの法律相談』青林書院、2017年

小笠原正・諏訪伸夫（編著）『体育・部活のリスクマネジメント』信山社、2014年

小笠原正（監修）『導入対話によるスポーツ法学　第２版』不磨書房、2007年

小笠原正・諏訪伸夫（編著）『スポーツのリスクマネジメント』ぎょうせい、2009年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツボランティア実習

【担当】学部長

■授業概要

本授業は、様々なスポーツ現場においてニーズの高い「スポーツボランティア」としての個々の能力を向上させることをねらいとし、実習形式で開講される。

■養うべき力と到達目標

１．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツ現場にボランティアとして参加する

目標：スポーツを「支える」ことの意味を見出すことが出来る

２．DP6.優れたスポーツマンシップ

具体的内容：事前指導により、現場に参入する前の心構えについて学ぶ

目標：現場に参入する前の心構えを身につける

３．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：事後指導により、スポーツボランティアでの経験を日常生活へ汎化する

目標：スポーツボランティアとしての自覚を高める

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき1時間）

第１回：事前研修①：オリエンテーション（スポーツボランティア手帳の説明）

スポーツボランティア手帳の活用方法を中心に解説し、スポーツボランティアに求められる心構えについて理解を深める。

学修課題：スポーツボランティア手帳を受けとり、熟読すること。

第２回：事前研修②：スポーツボランティアに求められるもの

スポーツボランティアが現場で活動するために求められることを体系的に整理し、解説する。

学修課題：スポーツボランティア現場で、どのような学びを得たいのかについてマインドマップを作成し、レポートを作成する。

第３回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第４回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第５回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第６回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第７回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第８回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第９回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第10回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第11回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第12回：実習（スポーツボランティア手帳に定められたスポーツ団体で計24時間の実習を行う）

スポーツボランティア実習先での活動

学修課題：ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。

第13回：事後研修①：活動成果報告書の作成

スポーツボランティア手帳の記録をもとに、活動成果報告書を作成する。

学修課題：実習の成果を活動成果報告書にまとめる。

第14回：事後研修②：活動成果報告会の開催

スポーツボランティア実習で何を学んだのかについての報告会を開催し、情報を共有する。

学修課題：実習の成果をまとめた活動成果報告書を基にし、報告会の発表資料を作成する。

第15回：まとめ

授業のまとめとして、今後のスポーツボランティア活動の課題を整理し、発展継承可能な課題をまとめる。

学修課題：本実習の振り返りと、今後の課題についてまとめておくと良い。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

■評価方法

実習に際しては、事前および事後指導に必ず参加すること。

課題：事前指導（20%）：事前指導において提示される課題を評価する。指導の内容を踏まえて論述できているようであれば10点、自身の考えや主張を記述で切れ居れば10点を加算し、重大な誤りや不足を生じた場合は５点とする。

課題：現場実習（60%）：実習時間内のことを振り返り、詳細なる実習日誌を記述でき、尚且つ、現場での実習指導担当者の所見の内容を加味して60点満点で評価する。

課題：事後指導（20%）：実習後に授業担当者の確認を受け、実習報告を提出する。ボランティア活動の振り返りと、ボランティア活動から学んだことについてのレポートを20点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、実習に取り組んだ内容を丁寧に復習すること。

特に、事前および事後指導において、ボランティア現場でのルールやマナーを重要視し、社会の一員としてボランティアに参加することの意識を強めておく必要がある。

スポーツと安全管理

【担当】佃　文子

■授業概要

健康づくりや競技力の向上、趣味や生きがいなどスポーツを行う理由は何であっても、スポーツを行う上で「安全であること」は．絶対条件の一つです。救急処置法の授業では万一の際の実際の行動を学びましたが、その次の段階として、いかにリスクを予知し、その対応策を準備できるかが大切になります。この授業では生涯スポーツの環境管理体系・スキル及び予防・安全対策、健康づくりのための安全な運動プログラム、教育活動の中でのスポーツと安全管理、競技スポーツにおける安全管理体制について概説します。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：運動に伴う危険・リスクを概説する

目標：環境・安全管理の手法・スキルが理解でき、体育館・プール・野外施設・登山などの野外・冒険教育のシチュエーションで、リスクを列挙できる

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ活動に伴う安全管理体制を概説する

目標：事故発生の３要因を理解し、主要な予防対策を説明することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：生涯スポーツの必要性とそのリスク

厚生労働省ホームページ「健康づくりのための身体活動基準2013」をもとに、生涯スポーツの必要性とそのリスクについて説明する。

学修課題：健康づくりのための身体活動基準2013を復習する。

第２回：運動不足のリスクと生活習慣病

運動の効果について､運動不足がからだに与える影響について講義する。

学修課題：予習：生活習慣病の原因について予習する

復習：運動不足は身体にどのような影響を及ぼすのか身体的影響と心理的影響についてまとめる

第３回：運動の質とエネルギー代謝

運動の質（有酸素及び無酸素運動）と運動中のエネルギー代謝について講義する。

学修課題：予習：有酸素運動と無酸素運動の特徴とエネルギー代謝について予習する

復習：運動の効果について、エネルギー代謝の側面から復習する

第４回：中・高齢者と運動

中・高齢者におけるスポーツの有用性とそのリスクについて講義する。

学修課題：予習：中高齢者の運動のリスクについて列挙する

復習：中高齢者の運動のリスクに対する予防方策をまとめる

第５回：高温環境と運動

高温環境と運動について基本を学ぶ。温度の測定方法、評価方法を説明する。

学修課題：予習：環境温度の計測方法について可能な限り予習する

復習：環境温度と運動限界をまとめる

第６回：水分補給の原則　熱中症の発生機序・予防

水分補給の原則　熱中症の発生機序・予防を講義する。

学修課題：予習：脱水のリスクについて予習する

復習：熱中症の分類と症状について復習する

第７回：特殊環境と運動

水中、高所、低温など特殊環境と運動について講義する。

学修課題：特殊環境の運動効果についてまとめる

第８回：環境管理(プール管理)

プール管理のリスクマネジメントについて講義する

学修課題：予習：水泳の運動特性について予習する

復習：プールの衛生管理と水泳の運動時のリスクについて復習する

第９回：スポーツと内科的障害

スポーツを行う上で注意すべき疾患やスポーツで誘発されうる病態について、気をつけるべきものをまとめ講義する。

学修課題：予習：貧血、過換気症候群、ぜん息、オーバートレーニングの症状について予習する

復習：スポーツ時に誘発される内科的疾患について、対応法と予防法を復習する

第10回：スポーツと外傷

頭部打撲、脳震とうなど、リスクの高い外傷について講義する。

学修課題：予習：映画「concussion」を可能な限り視聴してくる

復習：脳振盪などスポーツにおける外傷についてまとめる

第11回：スポーツとメディカルチェック

メディカルチェックの目的と意義、運動を制限すべき状態にはどのようなものがあるかについて講義する。

学修課題：予習：これまで自身が受けたことのある健康診断またはスポーツに関係するメディカルチェック項目を書き出してくる

復習：自分の競技に必要なメディカルチェック項目をまとめる

第12回：大会救護と救急処置

スポーツ大会で必要となる救護体制、及び実際に必要な救急処置について講義する。

学修課題：予習：これまで自身が関係した事のあるスポーツの競技会の安全管理に体制についてわかる範囲で書き出してくる

復習：自分の競技に必要で理想的な安全管理体制を検討し、救護マニュアルとして作成してみる。

第13回：スポーツにおける感染症対策

スポーツ現場での感染症リスクと対策について講義する。

学修課題：予習：血液感染のリスクと対処法について復習する

復習：血液以外の感染のリスクをまとめる

第14回：危機管理・アンチドーピングの基礎

どのような方法、物質、行為がドーピングとなるのか講義する。

学修課題：予習：JADAのHP：http://www.realchampion.jp/start を可能な限り予習してくる

復習：ドーピングと判定される方法、物質、行為についてまとめる

第15回：アンチドーピングのための仕組み

ドーピング検査の仕組みを概説する。

アスリートをドーピングから守る仕組みについてディスカッションする。

学修課題：予習：ドーピング検査の方法について予習する

復習：授業中にディスカッションした内容をまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業ごとの課題レポート（50%）：内容の妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。ルーブリックについては授業の最初に説明します。

試験（50%）：講義内容について、基本的な知識と理解度について評価します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

厚生労働省安全衛生部編：衛生管理、中央防止協会

厚生労働省ホームページ

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修にあたっては、原則として救急処置法の単位を履修済みであること。

スポーツと環境

【担当】西野　麻知子

■授業概要

安全にスポーツやレクリエーションを楽しむためには、スポーツ等を行う場や環境の特性をよく理解することが大切です。本授業では、スポーツと環境との関係について、環境特性や過去の事故等の事例も参考にしつつ学ぶとともに、自ら調べ、理解し、自らの言葉で発表する力を身につけます。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：スポーツと環境の関係の知識の習得

目標：スポーツと環境の関係について幅広い知識をもつことができる。

2．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツと環境の関係についての調査発表能力の向上

目標：スポーツと環境の関係について文献を探して読み、結果をまとめて自らの言葉で発表することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：本授業の概説

本授業の概説を行うとともに、文献資料の探し方、読み方、発表のし方、レポートの書き方について学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、復習するとともに、次回授業までに提出するよう指示された課題レポートを作成すること。

第２回：スポーツと紫外線

スポーツに限らず、野外で活動すると、紫外線を浴びます。紫外線が人体に与える影響や紫外線インデックス等について学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと紫外線について復習するとともに、次回授業までに提出するよう指示された課題レポートを作成すること。

第３回：スポーツと熱中症

近年、野外だけでなく屋内でも熱中症が頻発しています。熱中症が起こるメカニズム、年齢と熱中症、スポーツと熱中症の関係について学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと熱中症について復習するとともに、次回授業までに提出するよう指示された課題レポートを作成すること。

第４回：スポーツと大気環境

大気環境の特性と陸上スポーツ、レクリエーションとの関係について学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと大気環境について復習するとともに、次回授業までに提出すべき課題レポートを作成すること。

第５回：スポーツと水環境

水辺、水上環境の特性、水中環境（屋内プールを含む）の特性とマリンスポーツ（水泳、スキューバダイビング等）との関係を学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと水環境について復習するとともに、次回授業までに提出するよう指示された課題レポートを作成すること。

第６回：スポーツと山地・高地環境

高地・山地環境の特性や高地トレーニングについて学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと山地・高地環境について復習するとともに、次回授業までに提出するよう指示された課題レポートを作成すること。

第７回：屋外・屋内運動場の環境

屋外・屋内運動場の環境について学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと屋外・屋内運動場の環境について復習するとともに、次回授業までに提出するよう指示された課題レポートを作成すること。

第８回：スポーツと環境問題

スポーツが環境に与える負荷と、スポーツが環境保全や持続可能社会の構築に貢献できることを学びます。

学修課題：配布資料をよく読み、スポーツと環境問題について復習するとともに、次回以降の参加型授業のアイデアをまとめ、発表用資料を作成すること。

第９回：参加型授業１：発表および最終レポートのまとめ方、およびスポーツと熱中症

発表の仕方や最終レポートのまとめ方について学ぶとともに、発表予定の学生は、これまでの学習とを参考に、スポーツと熱中症に関するテーマを設定し、１～４人のグループ（または個人）で実際に様々な資料をもとに調べたり、討論した後、その結果をまとめてパワーポイントを用いて発表します。

発表しない学生は、発表内容を理解し、発表内容へのアドバイスを行うとともに、自らの発表の参考にします。

学修課題：スポーツと熱中症および紫外線に関する参加型授業のアイデアをまとめ、自分たちで選んだテーマについて、図書館で本や論文、新聞記事等を調べたり、インターネットで検索して、その結果をまとめ、発表用資料を作成すること。

第10回：参加型授業２：スポーツと熱中症および紫外線

発表予定の学生は、これまでの学習をもとに、スポーツと熱中症および紫外線に関するテーマを自分たちで設定し、１～４人のグループ（または個人）で実際に様々な資料をもとに調べ、その結果をまとめてパワーポイントを用いて発表します。

発表しない学生は、発表内容を理解し、発表内容へのアドバイスを行うとともに、自らの発表の参考にします。

学修課題：スポーツと紫外線および水環境に関して、参加型授業のアイデアをまとめ、自分たちで選んだテーマについて、図書館で本や論文、新聞記事等を調べたり、インターネットで検索して、その結果をまとめ、発表用資料を作成すること。発表を終えたグループは、最終レポートをまとめること。

第11回：参加型授業３：スポーツと紫外線および水環境について

発表予定の学生は、これまでの学習をもとに、スポーツと紫外線および水環境に関するテーマを自分たちで設定し、１～４人のグループ（または個人）で実際に様々な資料をもとに調べ、その結果をまとめてパワーポイントを用いて発表します。

発表しない学生は、発表内容を理解し、発表内容へのアドバイスを行うとともに、自らの発表の参考にします。

学修課題：スポーツと水環境および山地・高地環境に関して参加型授業のアイデアをまとめ、自分たちで選んだテーマについて、図書館で本や論文、新聞記事等を調べたり、インターネットで検索して、その結果をまとめ、発表用資料を作成すること。発表を終えたグループは、最終レポートをまとめること。

第12回：参加型授業４：スポーツと水環境、山地・高地環境について

発表予定の学生は、これまでの学習とを参考に、スポーツと水環境、山地・高地環境に関するテーマを自分たちで設定し、１～４人のグループ（または個人）で実際に様々な資料をもとに調べたり、討論した後、その結果をまとめてパワーポイントを用いて発表します。

発表しない学生は、発表内容を理解し、発表内容へのアドバイスを行うとともに、自らの発表の参考にします。

学修課題：スポーツと水環境、山地・高地環境に関して参加型授業のアイデアをまとめ、資料を収集してその結果をまとめ、発表用資料を作成する。発表を終えたグループは、最終レポートをまとめること。

第13回：参加型授業５：スポーツと山地・高地環境および屋外・屋内運動場について

発表予定の学生は、これまでの学習をもとに、スポーツと山地・高地環境および屋外・屋内運動場に関するテーマを自分たちで設定し、１～４人のグループ（または個人）で実際に様々な資料をもとに調べ、その結果をまとめてパワーポイントを用いて発表します。

発表しない学生は、発表内容を理解し、発表内容へのアドバイスを行うとともに、自らの発表の参考にします。

学修課題：スポーツと山地・高地環境および屋外・屋内運動場に関して参加型授業のアイデアをまとめ、資料を収集してその結果をまとめ、発表用資料を作成すること。発表を終えたグループは、最終レポートをまとめること。

第14回：参加型授業６：スポーツと屋外・屋内運動場および環境問題について

発表予定の学生は、これまでの学習をもとに、スポーツと屋外・屋内運動場および環境問題に関するテーマを自分たちで設定し、１～４人のグループ（または個人）で実際に様々な資料をもとに調べたり、討論した後、その結果をまとめてパワーポイントを用いて発表します。

発表しない学生は、発表内容を理解し、発表内容へのアドバイスを行うとともに、自らの発表の参考にします。

学修課題：スポーツと環境問題について自分たちで選んだテーマについて、図書館で本や論文、新聞記事等を調べたり、インターネットで検索して、その結果をまとめること。発表を終えたグループは、最終レポートをまとめること。

第15回：本授業のまとめ

本授業のまとめを行うとともに、最終レポートのまとめ方について再度学びます。

学修課題：これまでの参加型授業の復習を行うとともに、発表内容および自らが学んだことを最終レポートにまとめること。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします。各グループの発表後に発表内容について個別にコメントします。

■評価方法

前半の授業では、授業時間の最後に理解度を判断するため小テスト等を行うが、小テストの回答を他の学生に見せたり、書き写した場合、書き写した学生はもちろんのこと、見せた学生の得点もゼロとする。授業時間中にインターネットからの書き写しをした場合も得点をゼロとし、場合によっては減点する。

また前半の授業では、毎回、授業内容に関連した論文等（１編）を要約するレポート課題を出すので、次回授業までにレポートを提出すること。

後半の授業では、数人のグループ（１人でも可）に分かれ、テーマを決めて文献調査を行い、その結果を口頭発表し、発表内容を最終レポートにまとめる。私語がひどい場合は、教室から退出させる。

優れた発表やコメントには加点する。

毎回の授業の復習小テストまたは授業内容の要約（28%）：各回４点ｘ７回

授業内容を正確に理解しているか、自分の考えを整理し、論理的に述べることができるかどうかで評価する。

毎回の課題レポート（24%）：各回4点x6回

課題文献を読み込んでいるか、読んだ課題文献の内容をきちんと理解した上で整理し、論理的にまとめられているかどうかで評価する。

発表の評価（18%）:発表内容について、①文献を読み込んでいるか、指示された量の文献を読んでいるかどうか：６点、②独創性（テーマ、発表内容、ストーリー）：６点。③プレゼンテーション技術（パワーポイントのレイアウト、発表姿勢

発表後の最終レポート（15%）：グループレポート12点、個人レポート３点（いずれも指示された量の文献を読んでいるかどうか、文献を読み込んでいるかどうか、文章の形式が正しいかどうか、内容の独創性、レポートの完成度で評価）。

発表者に対するコメント（15%）：他の発表者の発表内容について、過不足なく要約できているかどうか、発表者にとって有益なコメントが書けているかどうかで評価する。各回２～３点。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

発表テーマに迷ったり、各自で調べて不明の点があれば、いつでも研究室に聞きに来てください。

スポーツの場や環境の特性を知ることで、安全にスポーツやレクリエーションを楽しむことができます。さらに自分たちで調べることで、スポーツと環境の関係についてより深く理解することができます。一緒に考えていきましょう。

なおインターネット上には、信頼できる情報と怪しげな情報とが混在しています。この授業を通して信頼できる情報を見極める目をぜひ養ってください。

スポーツ生理学Ⅰ

【担当】禰屋　光男

■授業概要

この授業は、スポーツ生理学概論の基礎編からより詳細で専門的な運動生理学の知識を学びます。運動に不可欠な骨格筋や、それに必要なエネルギー供給系やそれを支える呼吸循環系、内分泌系、などについても詳しく学びます。競技者に対するパフォーマンス評価やトレーニング処方の際に専門的な運動生理学的な知識は不可欠です。また、競技スポーツのコーチングや指導だけでな、健康増進にかかわる生涯スポーツの推進においても生理学知識を基にして、処方を行えるような知識を養います。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：健康やスポーツパフォーマンス向上のため、身体活動を実施した場合に生じる身体の生理的反応を学ぶ

目標：健康増進やスポーツパフォーマンス向上のために自身で生理学的知識に基づき、計画を作成することができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよびスポーツ生理学の概説

授業の内容，進め方，予習･復習、評価方法などについて説明します．

学修課題：「スポーツ生理学概論」の内容を復習すること

第２回：身体組成、骨格筋の構造

運動生理学を学ぶのに必要な基本的な身体の構造（身体組成、骨格筋の仕組み）について学びます．

学修課題：配布資料を基に、身体組成、骨格筋の構造を復習すること

第３回：骨格筋の微細構造と神経支配

骨格筋の微細構造を説明し、骨格筋を構成する要素と収縮のための神経の支配を学びます．

学修課題：配布資料を基に、骨格筋の微細構造と神経支配を復習すること

第４回：筋活動時のエネルギー供給

骨格筋が運動するときのエネルギー供給について学びます．

学修課題：配布資料を基に、筋活動時のエネルギー供給系、３系を復習すること

第５回：筋線維タイプの特性

エネルギー供給系と筋収縮特性からみた筋線維タイプの特性を学びます．

学修課題：配布資料を基に、筋線維タイプとエネルギー供給系の関係を復習すること

第６回：内分泌系の生理学的基礎

運動時に分泌されるホルモンの概要について学びます．

学修課題：配布資料を基に、運動時の内分泌機能を復習すること

第７回：各種ホルモンの生理作用

運動時に分泌されるホルモンの分泌器官とその作用、運動との関係について学びます．

学修課題：配布資料を基に、各種ホルモンの生理作用を復習すること

第８回：筋活動の種類と特性

静的収縮と動的収縮の特性について学びます．

学修課題：配布資料を基に、筋活動の種類と特性、エネルギー供給系との関係を復習すること

第９回：性ホルモンの分泌

性ホルモンの分泌の機序と運動への影響について学びます．

学修課題：配布資料を基に、性ホルモンの分泌の機序を復習すること

第10回：免疫系の生理学的基礎

免疫系の生理学的機序を学びます．また、特異免疫、非特異免疫の特徴について学びます．

学修課題：配布資料を基に、免疫系の特徴を復習すること

第11回：運動時の免疫系

運動に関する免疫系の特徴について学びます．

学修課題：配布資料を基に、運動時の免疫系の役割について復習すること

第12回：運動時の呼吸循環系機能

運動時の呼吸循環系機能について、呼吸系と循環系のそれぞれの特徴について学びます．

学修課題：配布資料を基に、運動時の呼吸循環系の基本的機能を復習すること

第13回：運動時の呼吸循環系の反応

運動時の酸素摂取量の変化について学びます．

学修課題：配布資料を基に、授業内容を復習すること

第14回：トレーニングによる呼吸循環系応答の変化

トレーニングによって酸素摂取量など呼吸循環系機能がどのように変化するか学びます．

学修課題：配布資料を基に、酸素摂取量とエネルギー供給系の関係を復習すること

第15回：授業期間全体のまとめと復習

授業期間全体の内容の中で特に重要な点について復習します．

学修課題：配布資料を基に、授業内容を復習すること

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

学期末の試験により評価する

試験（80%）：授業期間全体の理解度について筆記試験により評価する

授業期間中の課題（レポート）（20%）：授業期間中、講義の終了した領域（全部で４領域）ごとのレポートにより評価する（５点×４回）

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識」村岡功編著　市村出版

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修には「スポーツ生理学概論」の単位を修得していることが必要となる。

スポーツバイオメカニクス

【担当】高橋　佳三

■授業概要

スポーツバイオメカニクスとは、「スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設のふるまいを力学的観点から研究するスポーツ科学の基礎的領域の一つ」である。この講義では、様々なスポーツの動作について「動作をバイオメカニクス的に考える」ことを学び、スポーツの動作についてより深く観察、考察できるようになることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツバイオメカニクスに関する知識

目標：スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設のふるまいをバイオメカニクス的視点から分析できる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：バイオメカニクス的原則に則った運動の実践または指導

目標：授業内で学んだバイオメカニクス的原則を、実際のスポーツフィールドで実践または指導できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツバイオメカニクスとは？（イントロダクション）

スポーツバイオメカニクスとはどのような学問かについて、実例（映像）をみながら理解する。

キーワード：スポーツ技術の最適化ループ

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第一回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第二回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第２回：スポーツ技術とはなにか？

「スポーツ技術」と「局面構造」についての理解する。

キーワード：スポーツ技術、局面構造

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第二回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第三回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第３回：運動を分解するための面と軸、立ち方

運動を分析する上で必要な３つの面、３つの軸、関節運動の方向とその名称について理解する。

キーワード：解剖学的正位、立ち方

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第三回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第四回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第４回：速度、ピッチ、ストライド

変位と移動距離、瞬間速度と平均速度、ピッチとストライドの関係などについて理解する。

キーワード：変位、移動距離、瞬間速度、平均速度、ピッチ、ストライド

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第四回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第五回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第５回：スポーツバイオメカニクスの基礎（１）：重心

「重心」という考え方と、その計算方法について理解する。

キーワード：重力、重心、基底面

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第五回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第六回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第６回：スポーツバイオメカニクスの基礎（２）：運動と力

運動（加減速）は力が加わることで生じることを理解し、運動方程式を用いて力を算出できるようになる。

キーワード：慣性の法則、運動方程式

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第六回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第七回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第７回：スポーツバイオメカニクスの基礎（３）：運動量と力積（Ⅰ）

運動量と力積の関係について理解する。

キーワード：運動量、力積

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第七回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第八回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第８回：スポーツバイオメカニクスの基礎（４）：運動量と力積（Ⅱ）

運動量を変化させる要因について理解し、運動との関係を考える。

キーワード：力積、質量、タイミング

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第八回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第九回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第９回：スポーツバイオメカニクスの基礎（５）：仕事と力学的エネルギー

仕事と力学的エネルギーとの関係について理解する。

キーワード：仕事、位置エネルギー、運動エネルギー

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第九回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第10回：スポーツバイオメカニクスの基礎（６）：回転運動と慣性モーメント

回転運動や慣性モーメントについて理解する。

キーワード：回転軸、回転半径、慣性モーメント

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第十回」に保存された資料に目を通し、理解できない内容について参考図書などを用いて調べておく。理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十一回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第11回：スポーツバイオメカニクスの基礎（７）：回転運動と角運動量

回転運動のおける角運動量について理解する。

キーワード：慣性モーメント、角速度、角運動量

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第十一回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十二回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第12回：スポーツバイオメカニクスの基礎（８）：流体力１（空気の流れと物体の形状、ボールの回転）

ボールの回転と空気の流れにより発生する力について理解を深める。

キーワード：空気抵抗、気圧、ベルヌーイの定理、回転、空気抵抗、マグヌス力

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第十二回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十三回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。

第13回：スポーツバイオメカニクスの基礎（９）：流体力２（水の流れと物体の動き）

水中での運動における身体の動きと水の抵抗および推進力の関係について理解を深める。

キーワード：姿勢、浮心、水の抵抗

学修課題：Lドライブ「スポーツバイオメカニクス⇒第十三回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、第一～七回の授業資料と小テストについて復習し、次週の総合解説の準備を行う。

第14回：まとめ１：前半の授業の総合解説

前半の授業（第１～７回）で授業ごとの小テストの正解率が低かった項目などについて解説を行い、知識の定着を図るとともに、スポーツバイオメカニクスについての理解を深める。

学修課題：第八～十三回の授業資料と小テストについて復習し、次週の総合解説の準備を行う。

第15回：まとめ２：後半の授業の総合解説

後半の授業（第８～ 13回）で授業ごとの小テストの正解率が低かった項目などについて解説を行い、知識の定着を図るとともに、スポーツバイオメカニクスについての理解を深める。

学修課題：全ての授業資料と小テストに目を通し、この授業で学んだ内容を復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回の小テスト（20%）：毎回４問の小テストを課し、その点数を元に評価する。

期末試験（80%）：期末試験の点数を元に評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「スポーツバイオメカニクス」深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良　編著、朝倉書店

「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良、藤井範久　著、朝倉書店

「バイオメカニクスで読み解く　スポーツ動作の科学」深代千之、川本竜史、石毛勇介、若山章信　著、東京大学出版会

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ統計学

【担当】山田　庸

■授業概要

卒業研究や課題レポート、種々の報告書では、データを統計的に検定し具体的な論拠（エビデンス）を挙げて説明する必要がある。統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深める。統計学の基本的立場を踏まえ、その基礎理論を概観する。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：統計解析に関する基礎的知識，データセットを作成する力，データ分析力，統計出力を理解する力

目標：統計解析の基礎知識を習得できる，データ処理に沿ったデータセットを作成できる，研究計画に沿ったデータ分析を行うことができる，出力した統計出力を読み解くことができる.

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス、統計学の基礎

卒業研究や課題レポート、種々の報告書では、データを統計的に検定し具体的な論拠（エビデンス）を挙げて説明する必要がある。統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深める。統計学の基本的立場を踏まえ、その基礎理論を概観する。

学修課題：参考図書の熟読

第２回：パス図と因果関係　ーモデルと分析手法の関係ー

統計解析は研究調査対象となる現象の関係性を確率的に明らかにする。ほとんどの現象の関係性は「パス図」と呼ばれる因果関係図でモデル表記が可能である。今回は、パス図の書き方（法則）を学習した上で、実験計画法について学び、種々のスポーツ現象をモデル表記することを学習する。

学修課題：研究計画をパス図にて作成する

第３回：変数と尺度　ー質的データと量的データー

計測されたデータは、質的データと量的データに大きく分類され、さらに名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度の４つに分類される。これらの分類ごとに適用できる統計解析手法は異なる。今回は、データの種類とその性質、適用する統計解析手法、データ計測の際のコツについて学習する。

学修課題：変数と尺度の理解を深める

第４回：基本統計量　ー平均値と中央値ー

集団の分布特性を示す平均値、標準偏差、最大値、最小値などの基本統計量について解説する。平均値の示す意味と落とし穴、平均値と中央値の違い、などについて学習する。

学修課題：基本統計量の理解

第５回：分散　ー正規分布と標準偏差ー

多くの統計解析手法が前提条件とする正規分布の特性について解説する。平均値と個々のデータの差である偏差、分布のばらつきを示す分散、標準偏差について学ぶ。一般によく用いられる偏差値についても解説する。

学修課題：分散や偏差値の理解

第６回：相関係数　ー散布図、相関、単回帰分析ー

散布図を用いて２つの変数の関連性について学習しながら、関連性の指標である相関係数について解説する。種々のスポーツ現象からデータを抽出し相関係数を求める方法を学習する。さらに、単回帰分析、回帰直線、決定係数について解説する。

学修課題：相関係数の理解

第７回：t検定①　対応のないt検定

２つのグループ間に平均値の差があるかを検定する「t検定」を学習する。特に､グループ間で対象の異なる際に用いる｢対応のないt検定｣を学習する。

学修課題：t検定の理解

第８回：t検定②　対応のあるt検定

前回に続き「t検定」を学習する。特に、グループ間で対象が同一である際に用いる「対応のないt検定」を学習する。

学修課題：t検定の理解

第９回：χ二乗検定　ークロス集計表と期待値ー

名義尺度のデータを対象に度数の差があるかを検定するχ二乗（カイジジョウ）検定について学習する。クロス集計表の作成手順､度数、期待値、残渣について学ぶ。

学修課題：χ２検定の理解

第10回:信頼性　ー再テスト信頼性、評価者間信頼性、内的一貫性ー

テストや測定では、測定の精度＝「信頼性」が重要である。何回測っても同じであるかの程度を示す再テスト信頼性、誰が測っても同じであるかを示す評価者間信頼性、どの項目で測っても同じかを示す内的一貫性について学習する。

学修課題：信頼性の理解

第11回：妥当性　ー内容妥当性、基準妥当性ー

テストや測定では、測りたいものをしっかり測定しているかという「妥当性」が求められる。テストが測るべき内容と合致しているかを示す内容妥当性、ある外的基準に対して測定が一致しているかを示す基準妥当性について学習する。

学修課題：妥当性の理解

第12回：アンケートの作成①　ー質的データと量的データー

卒業論文や消費者の動向を探る際によく用いられるアンケート（質問紙）調査について、その種類と手法を学習する。自由記述による非構造化アンケート、選択肢を用いる構造化アンケート、について解説する。また、その後の解析方法を踏まえ回答者の特性を問う必要性についても解説する。

学修課題：自由記述による非構造化アンケートを作成する

第13回：アンケートの作成②　ー信頼性と妥当性ー

特に間隔尺度を仮定する選択肢を用いた構造化アンケートを対象に、その作成手順と解析方法を学習する。想定する因子（構成概念）と項目の数、必要なデータ数、解析手法について解説する。

学修課題：間隔尺度を仮定する選択肢を用いた構造化アンケートを作成する

第14回：因子分析と構造方程式モデリング　ー潜在変数と観測変数の理解ー

心理学を中心に用いられる因子分析について、特に構成概念の定義と潜在変数および観測変数について解説する。さらに、因子分析を包含する構造方程式モデリングについても紹介する。

学修課題：構造方程式モデリングの理解

第15回：統計解析手法のまとめ

前回までに紹介した統計学の基礎と統計解析手法について復習し総括する。論文において、これまで学習した内容を実際に活用する方法と手順について整理する。

学修課題：これまでの授業内容を振り返りＡ４用紙１枚にまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

学習した知識を問う期末テストを実施し評価する。資料の持ち込みは、手書き資料Ａ４一枚のみ可（コピー不可）とする。

各回の課題（60%）：各回の確認テストにおいて，正しく入力できているか，計算式は妥当か，算出された数値があっているか，統計情報を正しく解釈できているか，を評価する.

期末テスト（40%）：統計解析の基礎知識，統計学の基礎理論、基本統計量・相関係数・t検定・χ二乗検定の理解と適用方法について，適切に回答しているか.

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

スポーツの統計学　大澤清二著　朝倉書店

生活統計の基礎知識　大澤清二著　家政教育社

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

海外研修実習

【担当】中野　友博

■授業概要

海外におけるスポーツ全般、スポーツビジネスおよびスポーツマネジメント等に関する実情について実地研修を展開する。スポーツビジネスにおける海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを通じて、その問題点や課題を議論する。海外渡航に向けて計画的に準備を進めるため、事前研修、実地研修、事後研修から学習を深める。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：海外におけるスポーツ全般、スポーツビジネスおよびスポーツマネジメント等に関する実情について体験する

目標：海外でのスポーツ体験を通じて、そのスポーツを取り巻く現状を説明できる

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツにおける海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを体験する

目標：多様な文化、民族に触れることで、国際感覚を養う

３．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：海外渡航に向けて計画的に準備を進めるため、事前研修、実地研修、事後研修の中でスポーツにおける海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを体験する

目標：日本のスポーツ文化と比較することで国際的な視野を持つ

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：事前研修①

海外研修実習についてのオリエンテーション

実習の目的、ねらいについて説明する

学修課題：興味関心のある国について調べる

第２回：事前研修②（国別のオリエンテーション）

行き先の別、具体的な実習内容・研修内容について説明する

学修課題：興味関心のある国のスポーツについて調べてみる

第３回：事前研修③

行き先国について、スポーツについて調べた内容について発表する

学修課題：事前研修報告書としてまとめる

第４回：実地研修

実地研修先で事前に計画した実習内容・研修内容を実施する。

学修課題：詳細な実習日誌を作成する

第５回：事後研修①

実地研修中の詳細な実習日誌をもとに、報告書を作成する

学修課題：実地研修中の実習日誌を整理しておく

第６回：事後研修②

実習の内容について、体験内容や学んだこと等について発表する

学修課題：作成した報告書をもとに、発表練習を積んでおく

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

事前研修（20%）：事前研修において提示される課題について評価する

実地研修（60%）：実習中の課題の達成度、振り返り、詳細な実習記録等について評価する

事後研修（20%）：事後研修において提示される課題について評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

各実習で提示します

■履修上の注意・備考・メッセージ

実習の詳細については事前のオリエンテーションで説明します。

オリエンテーションの日時については、掲示板等で連絡します。

器械運動　【担当】高松　靖

■授業概要

本授業では、体操・器械運動の技の習得をすることによって、技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮などを学ぶことを目的とする。特に、体操・器械運動の技の指導というものを、自らの身体で経験することによって指導する際の留意点やポイントを理解できるようになることを目指すものである。また、自らが経験し、出来るようになった「コツ」や「カン」を表現し、仲間と共感しあい、「教えること」への実践力も向上させる。

本授業は、小・中・高等学校学習指導要領に記載されている内容を行っていく。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：技のコツや指導法をレポートに記述する

目標：技の構造やつまずきを理解するとともに、運動が苦手な人への指導法を理解することができる。

2．DP4．高度なスポーツ技能

具体的内容：器械運動の技の指導法を自身が体験する。

目標：器械運動の技を習得し、実践することができる。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：仲間に技のコツを教え合う

目標：自身の経験を頼りに仲間と技について語ることができる。

4．DP11．忠恕の心

具体的内容：実習中の仲間への配慮、器具の準備などを行う。

目標：仲間と連携・協働し活動を行うことが出来る。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：マット運動　逆位について（倒立とそのバリエーション）

倒立とその予備的課題(様々な倒立や腕で身体を支えること）についての練習・指導法を学習する。

学修課題：授業内で理解した倒立等のポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第２回：マット運動　前転とその発展技の練習方法について

前転とその発展技の実践を通して、「順次接触」「運動伝導」技術について理解を深め、その練習方法・指導方法を学習する。

学修課題：授業内で理解した前転等のポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第３回：マット運動　後転とその発展技の練習方法について

後転とその発展技の実践を通して、「回転加速」「頭越しの対処」の練習方法・指導方法を学習する。

学修課題：授業内で理解した後転等のポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第４回：マット運動　側方倒立回転と前方倒立回転とびの練習方法について

様々な倒立回転系の技の実践を通し、そのポイントやコツの練習方法・指導方法を学習する。

学修課題：授業内で理解した倒立回転のポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第５回：マット運動　技の組み合わせと巧技系の練習方法について

マット運動の演技を構成するためのつなぎの動きや間の取り方などを学習し、演技を構成する。

学修課題：授業内で理解した技の組み合わせのポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと。

第６回：マット運動　実技課題の達成度チェック及びまとめ

前回までに学習した内容の総まとめと、一人ずつ演技を行い、達成度をチェックする。

学修課題：授業時間内だけでマット運動の課題が達成できない場合には、相談に来る等をして、練習をすること。

第７回：とび箱運動　きり返し系の技の練習方法について

開脚とび・閉脚とびといったきり返し系の技の構造を理解し、その練習方法・指導方法について学習する。

学修課題：授業内で理解したきり返し系の技のポイントやコツなどは忘れないように書きとめておくこと。

第８回：とび箱運動　回転系の技の練習方法について

前方倒立回転とびなど回転系の技の構造を理解し、その練習方法・指導方法について学習する。

学修課題：授業内で理解した回転系の技ポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第９回：とび箱運動　実技課題の達成度チェック及びまとめ

前回までに学習した内容の総まとめと、一人ずつ実際に演技を行い、達成度をチェックする。

学修課題：授業時間内だけでとび箱運動の課題が達成できない場合には、相談に来る等をして、練習をすること。

第10回：鉄棒運動　鉄棒に親しむこと（鉄棒遊びのバリエーション）

鉄棒に親しむための様々な運動を体験学習することで、鉄棒運動指導導入の学習をする。

学修課題：授業内で理解した鉄棒遊びのポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第11回：鉄棒運動　下り技の練習方法について

鉄棒運動における様々な下り技について、その構造を理解し、その練習方法・指導方法について学習する。

学修課題：授業内で理解した下り技のポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第12回：鉄棒運動　前方支持回転と後方支持回転の練習方法について

前方及び後方の支持回転、さらにそれに似た技の学習を通じ、構造を理解し、練習方法・指導方法について学習する。

学修課題：授業内で理解した前方支持回転と後方支持回転のポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第13回：鉄棒運動　足かけ回転技と足かけ上がりの練習方法について

足かけ技の上がりや回転、膝かけと腿かけ、片膝かけと両膝かけなどについての構造を理解し、練習方法について学習する。

学修課題：授業内で理解した足かけ回転技と足かけ上がりのポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第14回：鉄棒運動　懸垂振動とけ上がりの練習方法について

懸垂振動における「握り固定」「握りなおし」について実践を通しての理解と、け上がりの構造の理解と練習方法・指導方法について学習する。

学修課題：授業内で理解した懸垂振動とけ上がりのポイントやコツなどは忘れないように書き留めておくこと。

第15回：鉄棒運動　実技課題の達成度チェック及びまとめ

前回までに学習した内容の総まとめと、一人ずつ実際に演技を行い、達成度をチェックする。

学修課題：授業時間内だけで鉄棒運動の課題が達成できない場合には、相談に来る等をして、練習をすること。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

毎授業の小レポート（30%）：授業実技で行った技に関する「コツ」や練習方法を振り返り、記入する。

実技課題技能チェックテスト（70%）：学習指導要領に記載されている内容を理解し、マット運動、とび箱運動、鉄棒運動、倒立の技が実施できているかを評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、とび箱・平均台運動、鉄棒運動）：金子明友著　大修館書店

■履修上の注意・備考・メッセージ

逆さや回転などの運動を行うので、長髪の者はゴムなどで髪を縛り、運動の妨げにならないようにすること。また、他者と補助しあい、練習を行うこともありますので接触事故などを防ぐために腕時計、貴金属等は授業前に外しておくこと。

器械運動の授業を通して、新しい運動をどうやって覚えていくのか、運動学習ができる場になると思います。「新しい運動が出来るようになった喜び」を感じられる場になると思います。仲間同士で「こうやったらできるようになった」などと情報を共有しながら参加してください。

陸上競技

【担当】渋谷　俊浩・藤林　献明

■授業概要

陸上競技は、各種スポーツ・運動の基本的な要素である「走・跳・投」の技能で構成されています。本授業では、陸上競技に関する基礎的な知識と基礎的な実技能力を高めことで、「走・跳・投」を適切に実施できるようになることを目指します。また、「走・跳・投」の基礎的な運動を通して各種目の技術に関する基礎知識に触れることによって、運動技術の改善とパフォーマンスの向上との関係を体得します。同時に、陸上競技の記録測定方法・審判方法・安全管理などについても学習することで様々なスポーツ指導に必要な資質・能力を養います。

■養うべき力と到達目標

１．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：「走・跳・投」運動に含まれる運動機能を理解して、段階的に課題を克服する。

目標：「走・跳・投」の基礎技能を習得して、模倣を用いた指導ができるようになる。

２．DP6.優れたスポーツマンシップ

具体的内容：陸上競技のルールを理解して、適切なルールのもとに対戦相手を尊重しながら記録を競い合うとともに、相互指導によって記録の向上を目指す。

目標：陸上競技の基礎的なルールを理解して審判できるようになるとともに、他人の技能を評価して自他にフィードバックできるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ガイダンスおよび陸上競技の特性の理解

授業の進め方および、陸上競技の特性について解説する。また、体力トレーニング、動き作りなどを用い、現在の基礎的体力（走力など）・技術の確認を行う。

学修課題：陸上競技の起源、トレーニング方法について調査する。

第２回：陸上競技に必要な専門体力のテスト方法の理解と実践

陸上競技の要求される専門的な体力（疾走能力・跳躍能力・投擲能力）を評価するテストを実施する。

学修課題：陸上競技に必要な体力とそのテスト方法を調査する。

第３回：100m走：短距離走の特性の理解、習得、指導法の確認

短距離走の基礎的技能とその理論を学習し、100m走の目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：100m走のパフォーマンス構造（スタート・加速・速度維持局面）を調査する。クラウチングスタートの種類と技術ポイントを調査する。

第４回：100m走：100m走の記録計測、競技会運営方法・審判方法の確認

実際の競技会形式で100m走の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。

学修課題：陸上競技短距離種目の記録測定に必要な機器や施設を調査する。不正スタートに関するルールとその変遷を調査する。

第５回：ハードル走：ハードル走の特性の理解、習得、指導法の確認

ハードル走の基礎的技能とその理論を学習し、目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：ハードル走のパフォーマンス構造（踏切動作、ディップ動作、リードレッグ、抜き脚）について説明できるように調査する。

第６回：ハードル走：ハードル走の記録計測、競技会運営方法・審判方法の確認

実際の競技会形式で100mハードル走の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。

学修課題：ハードルを跳び越える動作を効率よく遂行するための方略を調査・考案する。

第７回：リレー：リレーの特性の理解、習得、指導法の確認、リレーの記録計測

リレーの基礎的技能とその理論を学習することに加え、指導方法、審判方法についても確認する。

学修課題：リレーのルールとバトンパスの種類および練習方法を調査する。

第８回：走幅跳：走幅跳の特性の理解、踏切技術の理解・習得、指導法の確認

走幅跳の踏切動作について基礎的技能とその理論を学習し、目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：走幅跳の踏切を行うために必要な要因（踏切のリズム）について調査する。

第９回：走幅跳：走幅跳の助走技術の理解

走幅跳の助走に関する基礎的実能と踏切動作との関連を学習し、目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：助走速度を利用して遠くに跳ぶための方略について調査するとともに、トレーニング方法を考案する。

第10回：走高跳：走高跳の特性の理解、踏切技術の理解・習得、指導法の確認

走高の踏切動作について基礎的技能とその理論を学習し、目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：走高跳の踏切を行うために必要な要因（内傾、後傾、自由四肢の振上）について調査して説明できるようにする。

第11回：走高跳：走高跳の特性の理解、助走・跳躍技術の理解・習得、指導法の確認

走高跳の助走に関する基礎的技能とその理論と踏切動作との関連を学習し、目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：助走を用いて高く跳ぶための方略について調査するとともに、トレーニング方法を考案する。

第12回：跳躍種目の記録測定：走幅跳/走高跳の記録計測、競技会運営方法・審判方法の確認

実際の競技会形式で走幅跳/走高跳の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。

学修課題：陸上競技跳躍種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。

第13回：投てき：投てき種目の特性の理解、習得、指導法の確認

投擲種目の基礎的実能とその理論を学習し、目標記録突破を目指すことで、指導方法についても確認する。

学修課題：陸上競技投てき種目の種類と相違（回転と助走、PutとThrowの違い）について調査する。

第14回：投てき：ターボジャブ（ジャベリックボール）の記録計測、競技会運営方法・審判方法の確認

実際の競技会形式でターボジャブ（ジャベリックボール）の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。

学修課題：陸上競技投てき種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。

第15回：達成度チェックおよびまとめ

各種目の達成度チェックを含め、競技会運営方法・審判方法の確認、および本授業の総括を行う。

学修課題：授業開始前後のパフォーマンスや動作の変化について客観的・主観的に観察して理解するとともに、その要因についてレポートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

十分に身体を動かすことができるウェア・シューズを準備・着用すること。また、日常から体調管理に留意しておくこと。

課題種目における記録の設定記録に対する達成度（80%）：80点：目標記録を大幅に突破して、特に優れた記録を達成している。

65点：目標記録を突破して、優れた記録を達成している。

50点：目標記録を突破している。

期末レポート（20%）：20点：各種目の特性や技術を理解した上で、記録向上のポイントとその指導方法について記述されている。

15点：各種目の特性や技術を理解した上で、自身の課題や改善点とその解決策が記述されている。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「陸上競技ルールブック」日本陸上競技連盟（あい出版）
「陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究」岡野　進（創文企画）
「スポーツ動作と身体のしくみ」長谷川　裕（ナツメ社）
その他随時紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

バスケットボール

【担当】吉川　文人

■授業概要
主にシュート技能に関連した調整力の向上を図り、自らシュートの調整ができるようになることを目指す。また、バスケットボールの専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践をとおして、自己の課題を解決できるようにするとともに、その取り組みの成果をゲーム形式の中で表現できるようにする。加えて、技術や技能の上達過程と指導法について実践的な知見の獲得を図るとともに、審判法、ゲーム運営の仕方についても学習する。

■養うべき力と到達目標
1．DP4．高度なスポーツ技能
具体的内容：ゲーム形式の対人プレイで発揮することが求められる攻守の個人技能及び集団戦術行動
目標：球技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにする。
2．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：バスケットボール競技の理解
目標：現在のルール、技術の構造及び技能の高め方、技術分析、指導法、審判法、ゲーム運営の仕方等を理解できる。
3．DP9．スポーツ学に関する優れた技能
具体的内容：スポーツ学の知見を踏まえた実践力、応用力
目標：技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的に実践を通して、自己の課題を解決できる。
4．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：バスケットボール競技に求められる個人技能と基本的な集団戦術行動
目標：ルールに則って攻守に取り組み、競技性を楽しむことができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）
第１回：ガイダンスおよびバスケットボールの競技特性と歴史
バスケットボールの授業構成や具体的な学習内容、方法を知る。バスケットボールのルールや競技特性、歴史を概観する。
トリプルスレッドポジション（ボール保持の基本姿勢）を知るとともに、ボールハンドリング、ドリブル、シュートの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。
学修課題：ルールの変遷を含め、バスケットボール競技の歴史について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第２回：ゴール下におけるジャンプシュート①
ゴール下におけるジャンプシュートのドリルを中心に、シュートの調整法を実践する。技術や技能の上達過程に関する運動学習・制御分野における知見を学ぶ。
フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。加えて、ボールを用いたコーディネーショントレーニングを実践する。
学修課題：運動連鎖という概念について文献調査を行ない、重要事項や関連事項についてまとめる。
第３回：ゴール下におけるジャンプシュート②
ゴール下においてボールにミートし、フットワークを駆使しながらジャンプシュートを行なうドリルを中心に、シュートの調整法を実践する。効率的に反復練習を繰り返すことができるドリルの種類とその運営の仕方を知る。
フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの反復練習に加え、ボールミート時のフットワーク技能の修得に資するドリルを実践する。
学修課題：アウトサイドシュート時の運動連鎖に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項についてまとめる。
第４回：実践および実技試験：ゴール下シュート
ゴール下におけるジャンプシュートの実技試験を行う。ディフェンスが対峙したときのシュート機会を含め、様々な状況判断が求められる対人プレイの実践を経験する。
学修課題：バスケットボールの競技特性について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第５回：ワンハンドシュートの習得および調整法①
ワンハンドシュートの基本を学ぶ。
１）ボールの持ち方、２）スピンのかけ方、３）シューティングライン、４）ワンハンドシューティングを行う。
フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。
学修課題：ワンハンドシュート動作について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第６回：ワンハンドシュートの習得および調整法②
前回の復習を行い、５）キャッチからのシュート、６）ジャンピングシュートの練習を行う。シュートの距離を伸ばしていくことを目的に、７）１ステップシュートを行う。また、リングに正対することを目的に、８）２人組正対シュートを行う。
ハーフコートにおける１on１の対人プレイをとおして、ディフェンスの状況に応じた個人技能を試行する。
学修課題：ワンハンドシュートの調整方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第７回：ワンハンドシュートの習得および調整法③
動きながらボールをレシーブしてシュートすることを目的に、９）セルフトスからのミートシュートを行う。10）２人組でのシュートドリルを行う。11）ストップ様式別ミートシュートドリルを行う。
ハーフコートにおける３on３の対人プレイをとおして、個人技能の発揮に加え、個人戦術行動、グループ戦術行動を試行する。
学修課題：ツーハンズシュートの動作について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第８回：ワンハンドシュートの習得および調整法④
12）ペイントエリアの頂点を用いて、３人組でのミートシュートの練習（エルボーシュート）を行う。13）２人組でのストップ様式別ミートシュートドリルを行う。エルボーシュートに加え、14）スイングの動きからのシュートを行う。15）ジグザグドリブルシュート、16）１ドリブルからのシュートを行う。
パス・キャッチ・フットワークの技能修得に資するドリルを実践する。
ハーフコートにおける３on３の対人プレイをとおして、個人技能の発揮に加え、個人戦術行動、グループ戦術行動を試行する。
学修課題：ツーハンズシュートの調整方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第９回：実践および実技試験：ドリブル及びパス・キャッチ・フットワーク複合
ウォーミングアップ後、ドリブル技能及びパス・キャッチ・フットワーク複合技能の到達度を測る実技試験を行う。ディフェンスが対峙したときのシュート機会を含め、様々な状況判断が求められる対人プレイの実践を経験する。
学修課題：バスケットボール競技の技能テストに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第10回：ワンハンドシュートの習得および調整法⑤
前回までの復習を行い、シュートドリルの実践を行なう。レイアップシュートの技能を知り、ドリルを実践する。シュートの構えからの攻撃のバリエーションについて知る。17）ボールレシーブ及びシュートフェイクから1ドリブルシュート、18）ボールレシーブ及びシュートフェイクから2ドリブルシュートを行う。オールコートにおける対人プレイを実践する。
学修課題：レイアップシュートの動作及びその習得法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第11回：ワンハンドシュートの習得および調整法⑥
スピン、ワンハンドシュート、ジャンピングシュート、キャッチ＆シュート（移動なし）、1ステップシュート、キャッチ＆シュート（１ステップで）、移動してキャッチ＆シュート、１ドリブルシュート、２ドリブルシュート、ドリブルからレイアップシュートなど、ディフェンスを想定したシュートドリルの実践を行なう。ゲーム形式の対人プレイを実践する。
学修課題：バスケットボール競技の基本技能とドリルに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第12回：実践および実技試験：フットワークのテスト及びゲームパフォーマンス評価
ウォーミングアップ後、ディフェンスにおけるサイドステップ及びクロスステップの到達度を測る実技試験を行う。ゲーム形式のオールコート５on５の対人プレイを行う。なお、このときのゲームパフォーマンスが評価対象となる。
学修課題：審判法及びゲームの運営、管理の仕方や留意点についてポイントをまとめる。
第13回：実践および実技試験：アウトサイドシュート及びレイアップシュート
アウトサイドシュート技能及びレイアップシュート技能の到達度を測る実技試験を行う。
学修課題：バスケットボールのパフォーマンス指標及び基準値について重要事項や関連事項をまとめる。
第14回：まとめの試合
グループ分けを行い、総当たりで試合を行う。バスケットボール競技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにする。
学修課題：バスケットボール競技におけるオフェンスの集団戦術について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。
第15回：まとめの試合・全体の振り返り
チーム分けを行い、バスケットボールの試合を行う。バスケットボール競技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにする。
学修課題：バスケットボール競技におけるディフェンスの集団戦術について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法
オフェンスに関する実技試験（60%）：ゴール下におけるシュート技能10点、パス＆キャッチ＆フットワークの複合技能10点、ドリブル技能10点、アウトサイドシュート技能15点、レイアップシュート技能15点から構成される。
ディフェンスに関する実技試験（10%）：サイドステップ技能５点、クロスステップ技能５点から構成される。
ゲームパフォーマンス評価（30%）：バスケットボール競技の特性とルールに対する理解とゲームパフォーマンスについて独自のルーブリックに基づいて30点満点で総合的に評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
「バスケットボール指導教本」日本バスケットボール協会編　大修館書店（2002）。その他各時間に必要な資料を準備し、配布する。また、必要に応じてビデオ教材を準備する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

バレーボール

【担当】今井　啓介

■授業概要

6人制バレーボールのゲームに必要な技術の習得とシステムの理解をする。ゲームを行うための各種の技術とシステムを基本的なレベルから段階的に学ぶ。個人の能力をできるだけ高めるとともに、チームとして最大限のレベルでゲームが出来るように授業を展開する。ルール、審判方法も併せて学修する。

■養うべき力と到達目標

1．DP6．優れたスポーツマンシップ

具体的内容：ルール、マナーを遵守し、同じスポーツを競技する仲間としての意識をもって授業に取り組む。

目標：専門種目の違う仲間で助け合ってチームを作る。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーション、バレーボール競技特性の理解、グルーピング

ガイダンス

競技特性の理解

チーム分けの実施

コミュニケーション

学修課題：プリントで配布した競技特性の理解をはかる。

第２回：バレーボールに必要な基本的ボールコントロール･ボディーコントロール（オーバーハンドパス基礎）

ボールタッチの感覚習得

オーバーハンドパス基礎

学修課題：オーバーハンドパスの反復練習を行う。

第３回：バレーボールに必要な基本的ボールコントロール･ボディーコントロール（オーバーハンドパス応用）

ボールタッチの感覚習得

オーバーハンドパス応用

学修課題：オーバーハンドパスの反復練習を行う。

第４回：守備　レベル１（アンダーパス基礎）

ボールタッチの感覚習得

アンダーハンドパス

学修課題：アンダーハンドパスの反復練習を行う。

第５回：守備　レベル1（レシーブパス基礎）

ボールタッチの感覚習得

レシーブパス

学修課題：レシーブの反復練習を行う。

第６回：守備　レベル２（サーブレシーブ基礎）

ボールタッチの感覚習得

サーブレシーブ、パス

学修課題：サーブレシーブの反復練習を行う。

第７回：守備　レベル３（パススキル＆システム）

レシーブ→トスまでの連続プレイの確立

学修課題：連続プレーの反復練習を行う。

第８回：攻撃　レベル１（オーバーハンドサーブ）

スパイクヒットの感覚習得

オーバーハンド（フローター）サーブ習得

学修課題：サーブの反復練習を行う。

第９回：攻撃　レベル２（スパイク技術と３段攻撃）

スパイクヒットの感覚習得

３段攻撃の組立

学修課題：スパイクの反復練習を行う。

第10回：ゲームを行うためのルール確認

６人制ルールに基づきチームゲーム実施を行うためのルール確認

学修課題：チームメンバー同士でルールの確認を行う

第11回：ゲーム

６人制ルールに基づきチームゲーム実施

学修課題：チームメンバー同士でアドバイスしあい、気づいた点をまとめる。

第12回：練習およびゲーム（上下位リーグに分けて）

６人制ルールに基づきチーム内で練習およびゲーム

学修課題：チームメンバー同士でアドバイスしあう。

第13回：ゲーム（上下位リーグに分けて）

６人制ルールに基づきチームゲーム実施

学修課題：チームメンバー同士でアドバイスしあい、気づいた点をまとめる。

第14回：ゲーム（上下位リーグに分けて）スキル習得度のチェック（パス、トス）

パス、トスの正確性を測定する

学修課題：バレーボール競技特性の理解と技術習得のための練習法を整理しておく。

第15回：ゲーム（上下位リーグに分けて）スキル習得度のチェック（サーブ、スパイク力）

サーブ、スパイク力の正確性を測定する

学修課題：バレーボール競技特性の理解と技術習得のための練習法を整理しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

実技習得のための授業展開となりますので、積極的な参加が望まれます。

授業展開のなかで、自ら身体を動かし、できる限り早い技術習得をしてください。

授業への参加度（20%）：授業への参加度（態度、意欲、技術）

オーバー・アンダーハンドパス課題（30%）：基本的なフォームで、正確にボール（方向・高さ・距離）が送れること。

スパイク課題（15%）：基本的なフォームで、ジャンプとボールヒットが、適度な協応性をもって完結されること。

サーブ課題（15%）：基本的なフォームで、サーブボールがターゲットされる方向に勢いよくヒットされること。

レポート（10%）：レポート課題が出た場合は提出すること。

授業態度、貢献度（10%）：授業態度、貢献度を評価対象とします。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

６人制ルールブック(日本バレーボール協会認定)。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

服装については、第１回目の授業で指示する。シューズは、動きやすい上履きを用意しておくこと。

個人実技の習得を基にチームメンバーとのコミュニケーションを大切にし、チームプレーを実践します。

サッカー

【担当】望月　聡・山田　庸

■授業概要

サッカーの専門的な技術はもとより、指導者として必要なプレゼンテーション能力やトレーニング法、コーチング法を修得し、チームワークや基本戦術などを学ぶ。またいかに楽しくトレーニングをして、うまくさせるかにポイントを置き、ゲームにその成果が出せる、試合⇒練習⇒試合(M-T-M)のシステムで、誰もが更にレベルを上げてサッカーが楽しめるようにすることを目標とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：サッカー競技の原理・原則について考えてみる。

目標：サッカー競技の特性や本質について理解を深める。

２．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：基本的スキルの質を高める、知識とテクニックを学ぶ。

目標：実践力ある選手について理解を深め、実践力をつける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーションおよびアイスブレイク、ミニゲーム

ガイダンス，チーム分け，アイスブレイク，ミニゲームを通して、全体の流れを理解する。またサッカー競技の楽しさを実感し、今後の授業に活かす。

学修課題：サッカー競技の文献、試合映像を見て、特性を掴んでおく。

第２回：テクニック①ボールフィーリング（ボールに慣れる）

チーム修正，リフティング，ドリブル，ミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：実際にサッカーボールに触れておき、足で扱う難しさを体験しておく。

第３回：テクニック②パス＆コントロール

パス＆コントロール（対面パス，ボール回し），ミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：サッカー競技の試合映像を見て、パスとコントロールの必要性を理解しておく。

第４回：個人戦術①パスをつなぐ（ボールポゼッション）

ボール回し，４vs ４+ターゲット，ミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：試合映像を見て、ボールポゼッションとはどのようなことか、理解しておく。

第５回：テクニック③ドリブル

ドリブル突破，ミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：実際に左右の足を使い、ドリブル練習をして難しさを体験しておく。

第６回：テクニック④ゴールキーパー（GK）の基礎

ＧＫの基礎（キャッチング，スローイング，ダイビング），ミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：試合映像を見て、ゴールキーパーの役割について、理解しておく。

第７回：個人戦術①パスを受ける（オフ・ザ・ボールの動き）

対面パス，１vs １+２サーバーミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：ボールを受ける前の動きとは何か、試合映像から分析しておく。

第８回：個人戦術②フィニッシュ（シュート）

シュート，２対１，ミニゲーム，振り返りミーティング

学修課題：ゴールシーンの映像から、シュートまでの動きやテクニックなど、分析しておく。

第９回：チーム戦術（攻撃）①ゴールを奪う

チーム分け，トレーニング（突破、フィニッシュ），５vs ５，チームミーテイング

学修課題：ゴールシーンの映像から、コンビネーションからうまれるシュートについて、分析しておく。

第10回：チーム別で戦術を考える（攻撃）②コンビネーション

コーチプレゼンテーション(選手が納得いく説明力)，トレーニング（コンビネーション），５vs ５，チームミーテイング

学修課題：コーチに必要なコミュニケーション能力について、考え整理しておく。

第11回：チーム戦術（守備）①組織的守備

コーチプレゼンテーション，トレーニング（守備のバランス），５vs ５，チームミーテイング

学修課題：組織的守備とはどのような守備なのか。調べて整理しておく。

第12回：チーム別で戦術を考える（守備）②前線からのプレス

コーチプレゼンテーション，トレーニング（プレッシング），５vs ５，チームミーテイング

学修課題：前線からの積極的な守備について、自分なりの戦術を考えておく。

第13回：チーム別で戦術を考える（攻から守）①素早いプレス

コーチプレゼンテーション，トレーニング（切り替え），５vs ５，チームミーテイング

学修課題：「攻撃から守備の切り替えの速さ」の重要性について分析しておく。

第14回：チーム別で戦術を考える（守から攻）①速攻

コーチプレゼンテーション，トレーニング（速攻），５vs ５，チームミーテイング

学修課題：「守備から攻撃の切り替えの速さ」重要性について考えておく。

第15回：チーム別で戦術仕上げ　攻撃と守備とセットプレー

コーチプレゼンテーション，トレーニング，５vs ５，チームミーテイング

学修課題：「試合中に起こるセットプレーとは」重要性や注意点等考えておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

指導実践において、指導計画案作成など、準備を重要視します。講義では積極的な意見交換(質問や発問)をして下さい。

指導実践（40%）：①テーマに焦点をあてたコーチング（10%）

②テーマにあったトレーニングメニュー（10%）

③成功と失敗の原因、解決法が分かり、伝わるコーチング（20%）

実技力（30%）：①選手としての実技力（15%）

②失敗を恐れない積極性あるプレー（15%）

指導実践・実技・講義でのディスカッション（30%）：①発問や質問に対しての意見交換（15%）

②コーチとして意見を引き出す言語スキル（15%）

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

DVD「インテリジェンスを育てる」サッカートレーニング(JLCジャパンライム)

21世紀のサッカー選手育成法　ゲロ・ビザンツ著　田島幸三監訳　大修館書店

小学校体育 全学年対応 サッカー指導の教科書　日本サッカー協会著　東洋館出版社

講義ノートとして，Ａ４ノートを１冊用意すること.

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

・実技が安全にできるよう、服装とともに、ネックレス・ブレスレット・ピアス等は外して受講するようにして下さい。

テニス

【担当】北村　哲・植田　実

■授業概要

テニスをプレーする上での基本技術習得、ルール、審判法などの知識を身につけ、テニスを楽しみを理解してプレーする資質を育む。その際、テニスの時事ネタも含めテニスの情報にも触れ、テニス対しての興味を深める。また、学生同士のグループ学習により初心者指導法を身につける。

■養うべき力と到達目標

１．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：世界的メジャースポーツであるテニスを実践できる技能

目標：ゲームを技術的だけでなく、駆け引きなどの戦術的心理戦も含め競い合い楽しむことができる。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：テニスの楽しさ、奥深さに関する知識

目標：はじめてテニスラケットを握る学生が多い中で、ボールを打つというシンプルな楽しさから心理戦溢れるゲームを楽しむまでの、様々な楽しさを感じ、説明することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：テニスの理解
授業の進め方およびテニス競技についての説明
学修課題：テニスの一般的イメージについて調査する。

第２回：テニス基礎技術（ラケッティング）
ラケットとボールを持っての遊び
簡易ゲーム
学修課題：テニスの初心者に対する指導法について各自調査する。

第３回：フォアハンドグラウンドストロークの動きの理解
ラケッティング
フォアハンドストロークの練習（フォアハンドグラウンドストロークの運動構造について理解する）
簡易ゲーム
学修課題：フォアハンドストロークのメカニズムおよび指導法について各自調査する。

第４回：フォアハンドグラウンドストロークのスキル向上
ラケッティング
フォアハンドストローク練習（フォアハンドグラウンドストロークによりボールコントロール能力の向上を図る）
簡易ゲーム
学修課題：フォアハンドストロークの応用的スキルおよび指導法について各自調査する。

第５回：バックハンドグラウンドストロークの動きの理解
ラケッティング
バックハンドストローク練習（バックハンドグラウンドストロークの運動構造について理解する）
簡易ゲーム
学修課題：バックハンドストロークのメカニズムおよび指導法について各自調査する。

第６回：バックハンドグラウンドストロークのスキル向上
ラケッティング
バックハンドストローク練習（バックハンドグラウンドストロークによりボールコントロール能力の向上を図る）
簡易ゲーム
学修課題：フォアハンドストロークの応用的スキルおよび指導法について各自調査する。

第７回：ボレー＆ネットプレー
ラケッティング
ボレー練習
スマッシュ練習
簡易ゲーム
学修課題：ボレーのメカニズムおよび指導法について各自調査する。

第８回：サービス＆リターン
サービス練習
リターン練習
簡易ゲーム
学修課題：サービスのメカニズムおよび指導法について各自調査する。

第９回：シングルスの試合形式での練習
グループによる練習実践
シングルス形式の簡易ゲーム
学修課題：シングルスのゲームの仕方およびルールについて調査する。

第10回：シングルスの試合
グループによる練習実践
シングルスのゲーム
学修課題：シングルスの効果的な戦術について調査する。

第11回：実践的練習Ⅰ　グラウンドストロークからネットプレーへの移行
グループによる指導実践
グラウンドストロークからネットプレーへの移行
簡易ゲーム
学修課題：ネットプレーを含んだ戦術について調査する。

第12回：実践的練習法Ⅱ　ネットプレーへの対処
グループによる指導実践
ネットプレーへの対処
簡易ゲーム
学修課題：ネットプレーの相手に対する戦術について調査する。

第13回：ダブルスの試合形式での練習
グループによる練習実践
ダブルス形式の簡易ゲーム
審判、ボールパーソンの実践
学修課題：ダブルスの試合の仕方およびルールについて調査する。

第14回：ダブルスの試合
グループによる練習実践
ダブルスの試合
審判、ボールパーソンの実践
学修課題：ダブルスの戦術について調査する。

第15回：テニスの面白さ・楽しさについての考察
テニスにおける各スキルや戦術の振り返りおよびテニスのゲームの面白さ・楽しさについての振り返り
学修課題：これまでの授業内容について復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

期末レポート（25%）：期末レポートを課し、授業理解度を25点で採点する。
毎回の授業振り返りシート（75%）：授業時毎回の振り返りシートにより、授業内容の理解や実践の達成具合について評価する。５点×15回。

■教科書

梅林薫他　・教師を目指す学生のためのテニス初心者指導　・大修館書店　・2018年

■参考文献等

授業内にて適宜指示する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

ソフトボール

【担当】高橋　佳三

■授業概要

ソフトボール競技のルール理解と技能を高め、中学・高校でのソフトボールの授業を円滑に行うことができる技能を身につける。

■養うべき力と到達目標

１．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：ソフトボールの授業に必要な技能の習得

目標：ソフトボールの授業に必要となる基礎技能をはじめ、ノックなど指導に必要な技能を習得する。

２．DP6.優れたスポーツマンシップ

具体的内容：リーグ戦を通してのスポーツマンシップの醸成

目標：リーグ戦の準備や円滑な運営、セルフジャッジなどを通して、スポーツマンシップを醸成する。

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：チームメイトや相手チームへの忠恕の心の醸成

目標：特別ルールの設定やセルフジャッジなどを通して、忠恕の心を醸成する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：イントロダクション：ソフトボール競技について

ソフトボールの授業を行うにあたっての注意事項、野球との違い、ルールその他の確認を行い、ペア分けやチームを編成する。

学修課題：特になし

第２回：基礎技術１：キャッチボール（オーバー、アンダー、ウインドミル）

ソフトボールの基礎となるボールの投げ方や捕球の仕方を身につける。また、ソフトボール独特の投法であるウインドミル投法を身につける。

学修課題：特になし

第３回：基礎技能２：ゴロ・フライの捕球

守備練習の基礎となる、ゴロやフライの捕球の仕方を身につける。

学修課題：特になし

第４回：基礎技術３：バッティングの基礎

バッティングの基礎となるバットの握り方、振り方やバント・トス・ペッパーの仕方を身につける。

学修課題：特になし

第５回：基礎技術４：バッティングの応用

フリーバッティング、レギュラーバッティング等で攻撃の仕方を身につける。

学修課題：特になし

第６回：基礎技術５：シートノック

守備練習の基礎となるシートノックの仕方を身につける。

学修課題：特になし

第７回：リーグ戦１：ティーソフトゲーム

ティーソフトによるリーグ戦を行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第８回：リーグ戦２：ゴロの捕球を意識して

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第９回：リーグ戦３：フライの捕球を意識して

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第10回：リーグ戦４：守備の連携を意識して（ケース守備）

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第11回：リーグ戦５：走塁を意識して

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第12回：リーグ戦６：状況に応じたバッティングを意識して（ケース攻撃）

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第13回：リーグ戦７：コーチングを意識して（サイン）

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第14回：リーグ戦８：試合の総括

リーグ戦を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。

学修課題：その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。

第15回：達成度チェックおよび総評

実技のテストやルールテストを通して、この授業で学んだことを確認する。

学修課題：特になし

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

授業への取り組み状況（15%）：授業でのルールを遵守し、積極的に授業に臨み活動できたかを評価する。自己評価カードを用いて行う。（１点×15回＝15点）

授業内での修得状況（30%）：自己の課題設定ができ、基本プレイやルールが身についたかを評価する。自己評価カードを用いて行う。（２点×15回＝30点）

確認テスト（ルール）（10%）：競技を安全に楽しくするうえでのルールが身についたかをペーパーテストにより評価する。（10点）

実技テスト（45%）：正確な技能が身についたかを評価する。①ウインドミル投法②オーバー③ゴロ処理④フライ処理⑤バント⑥トス⑦フリー⑧ノック⑨審判（５点×９＝45点）

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

・運動のできる服装・靴で来ること。（ジーパンやサンダルは不可。着帽が望ましい。）

・毎回の授業内容を丁寧に復習し、ソフトボールを学ぶ姿勢で参加してください。

柔道

【担当】林　弘典

■授業概要

柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である。

本授業は柔道の競技特性や楽しさを理解し、中学校や高校の授業で柔道を教える者に絶対不可欠な知識や技術の修得を目指す。具体的には、柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）を理解し、礼法、受け身、投げ技、固め技を学習する。また、乱取りや試合ができるようになる。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）

目標：柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）が暗唱できる。

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）

目標：受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：礼法（立礼、座礼）

目標：礼の意味を理解した上で、礼法（立礼、座礼）ができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーション、柔道の概要

シラバスを確認し、授業の進め方や取り組み方について理解する。柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学習する。

学修課題：シラバスを熟読し、柔道の概要について調べる。

第２回：柔道衣の着方、礼法（立礼、座礼）

柔道衣の着方について学習する。礼の意味を理解し、礼法（立礼、座礼）について学習する。

学修課題：柔道衣の着方、礼法の意味や礼法（立礼、座礼）について調べる。

第３回：後ろ受け身、横受け身、前受け身

受け身の目的を理解し、後ろ受け身、横受け身、前受け身について学習する。

学修課題：後ろ受け身、横受け身、前受け身について調べる。

第４回：前回り受け身（立ち上がらない）、横四方固め

前回り受け身（立ち上がらない）について学習する。抑え込み技の定義について理解し、横四方固めについて学習する。

学修課題：前回り受け身や横四方固めについて調べる。

第５回：前回り受け身（立ち上がる）、上四方固め

前回り受け身（立ち上がる）、上四方固めについて学習する。

学修課題：前回り受け身や上四方固めについて調べる。

第６回：袈裟固め、組み方、八方の崩し

袈裟固め、組み方、八方の崩しについて学習する。

学修課題：袈裟固め、組み方、八方の崩しについて調べる。

第７回：裸絞め、膝車

絞め技の定義を理解し、裸絞め、膝車について学習する。

学修課題：絞め技の定義、裸絞め、膝車について調べる。

第８回：送り襟絞め、支え釣り込み足

送り襟絞め、支え釣り込み足について学習する。

学修課題：送り襟絞め、支え釣り込み足について調べる。

第９回：片羽絞め、出足払い（燕返し）

片羽絞め、出足払い（燕返し）について学習する。

学修課題：片羽絞め、出足払い（燕返し）について調べる。

第10回：三角絞め、大外落とし

三角絞め、大外落としについて学習する。

学修課題：三角絞め、大外落としについて調べる。

第11回：腕緘、大内刈り

関節技の定義を理解し、腕緘、大内刈りについて学習する。

学修課題：関節技の定義、腕緘、大内刈りに調べる。

第12回：腕挫十字固め、体落とし

腕挫十字固め、体落としについて学習する。

学修課題：腕挫十字固め、体落としについて調べる。

第13回：柔道の概要チェック

柔柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について、名称を漢字で正しく記載できることをチェックする。また、暗唱できることをチェックする。

学修課題：柔道の概要についてレポートをまとめて暗唱できるようする。

第14回：審判法、試合

審判法（ルール）や試合の仕方を理解し、試合を行う。

学修課題：審判法について調べる。

第15回：習熟度チェック、まとめ

礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）の習熟度をチェックする。また、今までの授業を振り返り、まとめを行う。

学修課題：礼法と受け身について復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

レポート（20%）：柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を記載したレポートを提出し、暗唱できた者のみを評価する。

発表（30%）：授業中の質問に対して回答した者を30点（３点×10回）で評価します。15回の授業を通して必ず１人10回は質問する。

習熟度チェック（50%）：礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）の習熟度について、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

必要な者は相談しに来てください。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学習が求められる。単位を取得した者のうち希望者は、書類推薦によって初段に昇段することができます（費用は自己負担）。

１．事故防止や学習効果を高めるため、国際柔道連盟の規定に合ったゼッケン付きの柔道衣の着用を義務づけます。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください）。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はTシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、貸し借りはしないでください。また、使用した柔道衣はすぐに洗濯してください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください）。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

剣道　【担当】乙須　純一

■授業概要

剣道はわが国固有の伝統文化を継承している面を持つ、この点で他のスポーツには見られない特有な運動である。竹刀を用い剣道具を着装して行う対人的な運動であり、個人としては気剣体一致の高度な調整力を身につける必要がある。また、相互の動きの中での打突は、相手の心の変化をとらえ、相手と自分との心の争い（攻め合い）の結果として生じるものでなければならない。剣道の魅力や面白さは、充実した気勢・適正な姿勢・正確な打突を求めて心技を競い、一瞬にして勝敗が決まる競技の特徴にある。これらの特性を理解し、技術を修得する

■養うべき力と到達目標

１．DP4．高度なスポーツ技能

具体的内容：充実した気勢・正確な打突

目標：授業内実技を通した技術の習得

２．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容：礼儀作法の習得（「始まり」、「終わり」の挨拶、礼儀）

目標：礼に始まり礼に終わる。人間力の向上

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーション　剣道の歴史と変遷　剣道の理念と修行の心構え

・剣道着、袴の着方　剣道具の説明と着脱の仕方について説明
・剣道場内における諸注意
・剣道の概要説明
・実技全体の流れ、評価方法について説明

学修課題：配布資料を確認して理解すること

第２回：竹刀の使用方法、名称と礼法について

・竹刀の名称、使用方法について説明・理解
・年代別に竹刀の長さ、重さの違いを理解する
・礼法について「立礼と座礼」の所作の理解
・「左座右起」の説明・理解

学修課題：所作を理解し、身につけること

第３回：竹刀の持ち方、構え方、足さばき、竹刀の振り方

・持ち方ーー右手、左手の持つ位置および握り方の説明
・構え方ーー「五行の構え」上段、中段、下段、脇構え、八相について説明

中段での授業展開とする

・足さばきー送り足、開き足、歩み足について説明・理解

学修課題：正しい竹刀の持ち方、構えの練習をすること

第４回：基本打突の仕方（面・小手・胴・突）

・有効打突となる部位の説明

「気剣体の一致」と発声について説明

「物打ち」について説明

・実際の打突を行う

学修課題：打突部位を想定し、各自で練習すること

第５回：基本打突の仕方　二段打、三段打

・前時の学習を復習し単打が出来ること
・二段打、三段打の連続技の説明・理解
・手、足の移動および足の引きつけについて説明・理解

学修課題：打突部位を想定し、各自で練習すること

第６回：基本打突の仕方　しかけ技

・技の説明「しかけ技」「応じ技」「引き技
・しかけ技ーー自分から打ち込んで行く事

学修課題：打突部位を想定し、各自で練習すること

第７回：基本打突の仕方　応じ技　引き技

・前時に説明した技について復習
・小手に対しての応じ技　返し技、抜き技、すり上げ技の習得
・面に対しての応じ技　　返し技、抜き技、すり上げ技の習得
・引き胴・引き面・引き小手について説明

学修課題：打突部位を想定し、各自で練習すること

第８回：基本打突の練習　打ち込み稽古

・打ち込み稽古について説明

単打から連続打ちについて説明　足さばき・体さばき・打力について理解

「気剣体の一致」による打突の理解

学修課題：打突部位を想定し、各自で練習すること

第９回：基本打突の練習　打ち込み稽古　かかり稽古

・前時の学習を理解し展開

かかり稽古について説明

かかり稽古と打ち込み稽古の違いを理解

学修課題：打突部位を想定し、各自で練習すること

第10回：基本打突の練習　打ち込み稽古・掛り稽古・互角稽古

・前時の学習を理解し展開
・互角稽古について説明・理解

しかけ技、応じ技、引き技を用いて互角稽古の実施

正確に打突部位を捉えること、発声と一緒に行う

学修課題：技の出し方について、イメージトレーニングをすること

第11回：基本打突の練習　打ち込み稽古・掛り稽古・互角稽古

・前時の学習を理解し展開

身体の使い方・移動、打力、正確に打突部位を捉える、発声等「気剣体の一致」の完成

学修課題：技の出し方について、イメージトレーニングをすること

第12回：基本打突の練習　試合・審判法

・試合（個人戦・団体戦）の仕方について説明・理解
・審判法について説明・理解
・グループ学習で展開
・審判法の習得

学修課題：試合、審判法について要点を理解すること

第13回：基本打突の練習　日本剣道形

・日本剣道形について説明　木刀による剣道基本稽古法について説明

日本剣道形　　太刀ー太刀　７本　太刀ー小太刀　３本　計10本

剣道基本稽古法　太刀ー太刀　９本　計９本

学修課題：剣道形の順番を理解すること

第14回：基本打突の練習　　日本剣道形

・前時の学習を理解し展開

１級取得に必要な、木刀による剣道基本稽古法　９本を完全に覚える

初段取得に必要な、日本剣道形　３本目までを完全に覚える

学修課題：剣道形の順番を理解すること

第15回：総合練習（まとめ）

・まとめの学習とし、基本から打突から日本剣道形までの理解
・実技テスト「単打・連続技・剣道形」の実施
・確認小テストの実施

学修課題：授業内容を振り返り、要点を理解・修得すること

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

授業中の課題（50%）：毎時のパフォーマンスと課題に取り組む姿勢

技術の上達度（40%）：実技課題の達成度を評価する

レポート（10%）：実技事後レポートによる理解度を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

2011年　体育実技剣道（配布資料）

剣道試合・審判規則、審判細則　（全日本剣道連盟発行　付剣道試合・審判・運営要領の手引き）

木刀による剣道基本技稽古法・日本剣道形

剣道授業の展開

剣道指導要領（全日本剣道連盟発行）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

ダンス

【担当】大西　祐司

■授業概要

ダンスは、我が国の学校体育の一領域として位置づけられており、中学校第一学年及び第二学年では必修の領域となっている。本講座では、まずは受講生自身がダンスの魅力に触れながら、序盤では、学習指導要領に明記されている創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス（民踊を含む）の指導内容及び指導方法について学ぶ。ダンスを踊ったり、創ったり、観たりする活動の中で、自身の身体や動きと向き合い、同時に他者との関わりも深めていく。終盤では、これまでに学んだことを踏まえ、グループでダンス作品を制作し発表する。

■養うべき力と到達目標

1．DP4．高度なスポーツ技能

具体的内容：日常的な動きの振り付け、現代的なリズムのダンス、フォークダンス

目標：一連の踊りを覚えて踊ることができる。

2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：現代的なリズムのダンス、フォークダンス

目標：ダンスの文化や歴史を知り、動きとのつながりを理解できる。

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：創作ダンス

目標：仲間の意見に傾聴しつつ、積極的に意見を述べ、建設的かつ肯定的に仲間と関わることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ダンスの学び方

授業計画を知る。

到達目標を理解する。

学修課題：ダンスの動画を視聴し、イメージを持つ

第２回：日常的な動きによる振り付け

一連の振り付けを覚えて踊る。

学修課題：ウォーミングアップやストレッチの正しい行い方を習得する

第３回：現代的なリズムのダンス①（ヒップホップ導入編）

ヒップホップを教材にリズムに乗る。

学修課題：ヒップホップの動画を視聴し、イメージを持つ

第４回：現代的なリズムのダンス②（ヒップホップ理論編）

ヒップホップの文化的、歴史的な背景を知る。

学修課題：ヒップホップのジャンルについて調べる

第５回：フォークダンス①（外国の踊り）

アメリカ、イスラエルの代表的なフォークダンスを踊る。

諸外国のダンスの文化的、歴史的な背景を知る。

学修課題：これまで経験したフォークダンスを振り返る

第６回：フォークダンス②（民踊）

ソーラン節を踊る。

日本のダンスの文化的、歴史的な背景を知る。

学修課題：これまで経験した民踊を振り返る

第７回：創作ダンス①（ステップ）

ケンパの動きの組み合わせに空間や時間の要素を加え、振り付けを行う。

学修課題：さまざまなステップの動画を視聴し、イメージを持つ

第８回：創作ダンス②（コンタクト）

２人以上が直接的、間接的に関わる振り付けを行う。

学修課題：２人以上が関与している振り付けを見つけてくる

第９回：創作ダンス③（小道具）

ポンポンなどの教具を用いて振り付けを行う。

学修課題：小道具を用いているダンスを視聴し、イメージを持つ

第10回：創作ダンス④（言葉）

言葉の品詞を手掛かりに振り付けを行う。

学修課題：動きを説明するさまざまな言葉を見つけてくる

第11回：作品制作①（動き）

グループに分かれて、作品制作の手順を確認する。

振り付けのための動きづくりを行う。

学修課題：踊りたい動きや音楽をみつけておく

第12回：作品制作②（構成）

踊りを踊る位置や隊形を決める。

作品に「はじめ-なか-おわり」をつける。

学修課題：ダンスの映像からさまざまな構成を調べておく

第13回：プレ作品発表会

作品の発表及び鑑賞の仕方を知る。

学修課題：発表に向けて練習を行う

第14回：作品の修正

映像や評価シートを観ながら、自分たちの作品を修正する。

学修課題：自分たちの作品を視聴する

第15回：作品発表

グループの作品鑑賞と評価を行う。

学修課題：評価の観点をおさらいする

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

本講座では、毎時のダンスパフォーマンスを映像で記録することでポートフォリオを作成し、自身の振り返りの手立てや評価のための資料とする。

■評価方法

グループ作品の発表及び筆記テストを実施できなかった場合は、成績評価の対象としない。

授業内課題（45%）：毎時のパフォーマンスもしくは学習シートの到達度と課題に取り組む姿勢を45点満点で評価する。

作品発表（30%）：グループで制作したダンス作品を評価シートに沿って30点満点で評価する。

筆記テスト（25%）：授業内課題と合わせて説明するダンスの文化や歴史、指導方法について25点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

文部科学省(2018)中学校学習指導要領解説書　保健体育編。ネットからもダウンロード可。その他の参考文献及び映像については適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講座は最終の作品発表に向けて内容を積み重ねるように構成されています。また後半ではそれらの積み重ねを踏まえ、グループでダンスの作品を制作します。そのため、欠席は自身の学習のみならず、グループの仲間の学習を妨げることにもなります。心して取り組んでください。

エアロビックダンスⅠ

【担当】藤松　典子

■授業概要

エアロビックダンスエクサイズをトレーニング理論に基づきながら、特性、効果を理解し，安全に運動が行えるようにする。また，アクアエクササイズの基本的な理論と実技を習得する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：トレーニング理論に基づきながら、特性、効果を理解し，安全に運動が行えるようにする

目標：基本的なエアロビックダンスのプログラム構成を理解プログラミングできる能力を養う

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：指導者として見せ方、声の大きさ、キューイングのタイミングなどの実技の習得

目標：正しい姿勢を身につけ、明確な動きを体得し,作成したプログラムの指導法を学ぶ

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：フィットネス概論、エアロビクス理論・からだ慣らし

日本人の健康問題，生活習慣病予防のための有酸素運動の効果を理解する。

簡単なステップのプログラムで、エアロビックダンスを体験する。

学修課題：現代の日本人の健康問題、五大疾病について調べ、生活習慣病について知るとともに予防方法を上げまとめてくる。

第２回：基本ステップ（ローインパクトステップを中心に）

エアロビックダンスの各パートの目的について学習し、エアロビックダンスにおける基本ステップ（特にローインパクトステップ）を体得する。

学修課題：基本ステップの名称、運動強度について学習した内容を整理してまとめる。

第３回：ローインパクトステップとハイインパクトステップの組み合わせ

エアロビックダンスにおける基本ステップ（特にハイインパクトステップ）を体得する。

ローインパクトとハイインパクトの配分について学習する。

学修課題：ハイインパクトステップは運動強度が高いので日ごろよりトレーニングをしておく。

第４回：アクアビクス

有酸素運動の１つの種目である水中でのアクアビクスを行う。

水中と陸上の違い、水の抵抗を利用したダンス、筋の強化、ストレッチを学ぶ。

学修課題：水の特性について理解し、水抵抗、浮力を利用したプログラムを作成してくる。

第５回：運動強度コントロールの方法

運動強度の変化の仕方、させ方を体験する。

エアロビックダンスの特性のひとつとして、参加者に合わせて強度を変化させられることを理解し運動強度の調整手法を学ぶ。

学修課題：運動強度を変化させる要因の整理と具体例をまとめてくる。

第６回：基本姿勢を学ぶ

各種ステップを正しいアライメントで実施できるよう，理論と実技を行う。

日ごろの自分の癖が出たり，自分では気づかない姿勢に気づく場とする。

学修課題：姿勢について、特に自分の興味のあるスポーツの効率の良い姿勢を調べてまとめてくる

第７回：コンビネーションの組立て方と中間発表

ハイインパクトステップを中心にステップの組み合わせ方の基本を理解する。

前半は教員の作成したプログラムを受講してきたが、これまでの基本ステップが正しい姿勢で動けているのか、ステップの名称が理解できているか、の観点から中間発表を実施する。

学修課題：これまでの復習および課題のコンビネーションを十分練習しておく。

第８回：筋の強化プログラム

主な大筋群を正しい姿勢により自体重で強化する。

重力を考慮し、１つの筋に対して何種類かの方法を学習する。

学修課題：筋の名称と部位、働きについて復習しておく。

第９回：クールダウンプログラム

ストレッチを中心にしたプログラムで運動前に近い状態に戻し，気持ちよく運動を終了させるためのストレッチとリラクゼーション、呼吸法を学習する。

また、１つの筋に対して何種類かの方法を学習する。

学修課題：筋の名称と部位、働きについて復習しておく

第10回：ウォーミングアッププログラム

ウォーミングアップの目的を理解する。筋温､体温を徐々に上昇させ、心拍数を上げていくために、大筋群をリズミカルに動かす方法を習得する。

学修課題：いくつかのパターンのウォーミングアップのプログラムを作成する。

第11回：メインエクササイズプログラミング

エアロビックダンスのメインプログラムである有酸素運動パートです。足を止めることなく運動を持続する方法を学習する。徐々に心拍数を上昇させ、目標心拍数に到達したら運動を継続させる方法を学習する。

学修課題：学期末発表のための３分間のプログラムを完成させる。

第12回：コリオグラフィーの組み立て方

エアロビックダンスのメインプログラムである有酸素運動、足を止めることなく運動を持続するプログラムの作成をするに当たり、振り付けを考えつなぎ合わせていく。徐々に心拍数を上げていく３分間のメインパートのプログラムを作成、指導実習を行う。

学修課題：学期末発表のための３分間のプログラムを完成させる。

第13回：プログラムの指導法

作成したプログラムを指導する方法を学習する。

明確でタイミングの良いキューイング、指導者である本人の正しい動き方と見せ方、正しい姿勢を意識する。受講生同士で実施する。

学修課題：キューイングのタイミングを習熟し、暗記する。

第14回：指導実習

作成したプログラムを指導する方法を習熟する。ナンバーキューや方向キューなどのビジュアルキューイングと言葉がけのバーバルキューイングを適切に使い分け、受講者の立場で分りやすい指導の方法を学習する。

学修課題：キューイングのタイミングを習熟し、暗記する。

第15回：実技発表

プログラミング、指導、本人の動きが評価のポイントとなる。

指導者として明るく元気に明確な動きと声出しで指導できるよう技能を体得する。

学修課題：キューイングのタイミングを習熟し、暗記する。また作成したプログラムを清書し提出用にまとめてくる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間発表（40%）：学期前半の基本的な技能の習熟度を40点で評価する

学期末発表（50%）：学期末としてプログラムの作成、指導能力を50点で評価する

レポート作成物（10%）：プログラム、コリオグラフィーの作成、提出物で評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「エアロビックダンスの実技指導」（社）日本エアロビックフィットネス協会「最新　フィットネス基礎理論」（社）日本エアロビックフィットネス協会

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

レクリエーションスポーツ

【担当】橋本　和俊

■授業概要

近年、競技性の高いスポーツ種目に加え「レクリエーションスポーツ」と呼ばれる新しいスポーツ種目が行なわれている。レクリエーションスポーツとは、これまでスポーツに親しんできた者だけでなく、「いつでも・どこでも・誰でも、そしていつまでも」をキーワードに普及されてきている。授業では様々な種目を取り上げ、その歴史、ルールを学習・実践する。さらにはレクリエーションの指導計画、指導法の習得を目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：競技スポーツ生涯スポーツの価値を再考

目標：様々なニュースポーツの実技からスポーツの多様性を理解することができる

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：レクリエーションの定義に関する知識とスポーツの再創造

目標：遊びの要素をもとに多様なスポーツを生み出すことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：レクリエーションスポーツ　ガイダンス

レクリエーションスポーツについての概念・理念や、授業概要について学習する。

学修課題：レクリエーションスポーツに関する様々な競技について調べる

第２回：ディスクゴルフ①

具体的にはディスクゴルフを行う。ディスクゴルフの歴史やルール、技術などの基本動作を習得する。

学修課題：ディスクゴルフの歴史や発展について調べる

第３回：ディスクゴルフ②

ディスクゴルフのコース設定や独自のルールの設定など、ディスクゴルフを応用した実践を行う。

学修課題：独自のコースやルールの設定により、新たな観点からレクリエーションの要素を用いた実践について自身の考えをまとめる。

第４回：アルティメット①

アルティメットの歴史やルール、技術などの基本動作を習得する。

学修課題：アルティメットの歴史や発展、現状について調べる

第５回：アルティメット②

スポーツ競技としてのアルティメットの実践を行う。

学修課題：競技スポーツとレクリエーションスポーツとの違いについて自身の考えをレポートにまとめる。

第６回：ペタンク

ペタンクについて歴史やルールを学習し、実践する。

学修課題：ペタンクの歴史やルール、実践の応用、種目特性について調べる

第７回：キンボール①

キンボールの歴史やルール、技術などの基本動作を習得する。

学修課題：キンボールの歴史やルール、実践の応用、種目特性について調べる

第８回：キンボール②

グループによるゲームから、キンボールの種目特性や戦術について学習する。

学修課題：キンボールの種目特性からレクリエーションスポーツの競技性についてレポートにまとめる。

第９回：インディアカ①

インディアカの歴史やルール、技術などの基本動作を習得する。

学修課題：インディアカに関連するスポーツやその歴史やルールについて調べる。

第10回：インディアカ②

インディアカについて実践する。

学修課題：インディアカの種目特性についての自身の考えをレポートにまとめる

第11回：レクリエーションスポーツの指導計画①【指導案づくりの基礎】

指導案づくりについて学習する。

学修課題：指導案を作成する

第12回：レクリエーションスポーツの指導計画②【指導案の作成】

グループごとに指導案の作成、役割分担を行う。

学修課題：グループでの指導案を完成させ、指導実践の役割分担やリハーサルを行う。

第13回：レクリエーションスポーツの指導実践①

各グループによる指導実践を行う。また全体での評価およびふりかえりを行う。

学修課題：指導方法について調べる

第14回：レクリエーションスポーツの指導実践②

各グループによる指導実践を行う。また全体での評価およびふりかえりを行う。

学修課題：指導方法について調べる

第15回：レクリエーションスポーツの指導実践③

各グループによる指導実践を行う。また全体での評価およびふりかえりを行う。

レクリエーションスポーツの総括を行う。

学修課題：レクリエーションスポーツやその指導に関するレポート課題に取り組む。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

レポート（50%）：各種目（５種目）の種目特性や自身の考えによる理解度を評価する（５種目×10点＝50点）

指導案の作成（20%）：指導案の構成・内容・わかりやすさ等の観点から評価する

グループ別指導実践（30%）：指導実践での態度・指導・協働の観点から、教員および学生の相互評価から総合的な評価を行う

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

体づくり運動・健康体操

【担当】住本　純

■授業概要

「体づくり」と「動きづくり」を基礎とした体ほぐし運動・体の動きを高める運動について、実践を通して学習していく。
基本運動から様々な手具を使用した応用運動までの合理的で効果的な行い方を理解し、技能を高める。また生涯スポーツとして「健康体操」・「体づくり運動」を実施する様々な対象やねらい（民間スポーツクラブや公共の総合型スポーツクラブ、教育機関）に応じて運動を創意・工夫し、構成することのできる指導能力の修得をめざす。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：様々な対象やねらい（民間スポーツクラブや公共の総合型スポーツクラブ、教育機関）に応じて運動を創意・工夫し、構成することのできる指導能力
目標：基本運動から様々な手具を使用した応用運動までの合理的で効果的な行い方を理解できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：「健康体操」・「体づくり運動」を実施する様々な対象やねらい（民間スポーツクラブや公共の総合型スポーツクラブ、教育機関）に応じて運動を実践する力
目標：「体づくり」と「動きづくり」を基礎とした体ほぐし運動・体の動きを高める運動についての技能を高めていくことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーション・学習指導要領上の「体つくり運動」について・グループ分け
本授業方針や評価などのオリエンテーションの内容および文科省における「体つくり運動」の考え方や導入背景を知る。
学修課題：これまで自身が経験してきた体操を考える

第２回：体ほぐし運動(気付く・調整する)
気付く・調整するという課題を中心に自己の体について考える
学修課題：気付く・調整することを課題にした運動の展開例を考える

第３回：体ほぐし運動（交流する）
他者と交流するという課題を中心に自己の体について考える
学修課題：交流することを課題にした運動の展開例を考える

第４回：体力を高める運動（体の柔らかさ・巧みな動き）
体の柔らかさ・巧みな動きを高めるための運動を実践する
学修課題：体の柔らかさ・巧みな動きを高めることを課題にした運動の展開例を考える

第５回：体力を高める運動（力強い動き・動きを持続する能力）
力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動を実践する
学修課題：力強い動き・動きを持続する能力を高めることを課題にした運動の展開例を考える

第６回：音楽に合わせた体操（動きの基本）
音楽に合わせた体操について知り、実践する
学修課題：テンポよくリズミカルに動くための基礎的な技能を考える

第７回：音楽に合わせた体操（動きの発展）
音楽に合わせた体操をグループで作成する
学修課題：楽しく動きを継続するために必要なことを考える

第８回：実技課題小テスト（作成した体操について）
グループで作成した体操について、実施・評価を行う
学修課題：評価を元に振り返り、修正する

第９回：手具を用いた動き（短縄・長縄）
短縄や長縄の特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
学修課題：短縄や長縄の特性に応じた体つくり運動の展開例を考える

第10回：手具を用いた動き（輪・ボール）
輪やボールの特性に応じた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
学修課題：輪やボールの特性に応じた体つくり運動の展開例を考える

第11回：手具を用いた動き（Ｇボールの基本）
Ｇボールについて知り、特性に応じた体つくり運動の基本を学ぶ
学修課題：Ｇボールの特性に応じた動きを考える

第12回：手具を用いた動き（Ｇボールの発展）
Ｇボールの特性に応じた体つくり運動の発展方法を学ぶ
学修課題：Ｇボールの特性を利用した新しい動きを考える

第13回：手具を用いた動き（組み合わせ）
用具を組み合わせた体つくり運動の基本と発展方法を学ぶ
学修課題：用具を組み合わせた体つくり運動の展開例を考える

第14回：実技課題小テスト（作成したＧボール体操について）
各グループで発表する
学修課題：評価を元に振り返り、修正する

第15回：多様な対象やねらいに応じた運動指導方法
これまでを振り返りと指導方法をまとめる
学修課題：これまでの実践を評価し、フィードバックする

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

受講態度（50%）：授業参加度と授業中の積極性を独自のルーブリックに基づいて評価する。
小レポート（20%）：小レポート課題と合致している内容か、自分の意見を明確に述べているか等の独自のルーブリックに基づいて評価する。
実技課題に関する小テスト（30%）：実技課題の小テストを適宜行う（２～３回）。学生同士の相互評価と対象やねらいに合った運動かどうか等の独自のルーブリックに基づいて評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

これは簡単！表現運動・体つくり運動動きづくり；松本富子・長谷川聖修，学事出版
学校体育実技指導資料第７集 体つくり運動（改訂版）；文部科学省

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
履修上の注意事項について、第１回目の授業で説明する。

障害者スポーツ

【担当】中道　莉央

■授業概要

本科目では、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている種目である、アンプティサッカー、サウンドテーブルテニス、ゴールボール、シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、フライングディスク、ボッチャ等の実技を通し、基本的な技能を習得します。授業の中では、障害のある方との交流機会も設けており、障害者スポーツや障害のある人への理解を深めることを目的とします。また、各種目の競技規則を理解した上で、参加対象を広げられるようなルールや用具の工夫等についても考えていきます。

■養うべき力と到達目標

1．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている種目の基本的技能を習得する。

目標：視覚が遮断された状態や身体機能に制限がある状態等で身体を動かす感覚を体感しながら、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている種目の基本的な技能を身につけている。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：障害種類や程度に応じて、スポーツのルールや用具を修正・工夫する実践力を習得する。

目標：アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、これをもとにした多様なひとにスポーツを提供する柔軟な発想力と実践力を身につけている。

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：障害者を含む多様なひとの立場に立って考え、行動する力を身につける。

目標：障害者を含む多様なひとに身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度を身につけている。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ガイダンス／全国障害者スポーツ大会の概要

全国障害者スポーツ大会の歴史を振り返り、大会の目的や意義の理解を深める。

学修課題：全体の授業の流れを適切に把握しておく。全国障害者スポーツ大会の実施競技･種目について調べ、理解しておく。

第２回：障害に応じたスポーツの工夫・実施（アンプティサッカー）

ロフストランドクラッチの基本的な操作を確認した上で、下肢が使えない状態で運動する感覚を体感し、アンプティサッカーにおけるパス・シュートの基本練習とミニゲームを行う。

学修課題：アンプティサッカーの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第３回：障害に応じたスポーツの工夫・実施（サウンドテーブルテニス）

アイマスクを着用して視覚が遮断された状態で運動する感覚を体感し、サウンドテーブルテニスの基本練習とラリーを続けることを目的としたゲームを行う。

学修課題：サウンドテーブルテニスの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第４回：障害者との交流（ゴールボール）

ゴールボールの基本的動作を確認した上で、障害当事者（視覚障害）とゴールボールを通じた交流を行う。

学修課題：視覚障害者や視覚障害者のスポーツを理解するとともに、ゴールボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第５回：障害に応じたスポーツの工夫・実施（陸上競技）

車いすスラロームやアイマスクを着用した走幅跳等、競走競技と跳躍競技の基本練習とミニレースを行う。

学修課題：障害者スポーツとしての陸上競技の種目とそれらの基本的なルールについて調べ、理解しておく。

第６回:全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（陸上競技・競走／跳躍）

全国障害者スポーツ大会における陸上競技（競走／跳躍）の競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した競走および跳躍の基本的な指導法を体得する。

学修課題：全国障害者スポーツ大会における陸上競技（競走／跳躍）の競技規則について調べ、理解しておく。

第７回:障害に応じたスポーツの工夫･実施(シッティングバレーボール)

座位姿勢で運動する感覚を体感し、シッティングバレーボールのレシーブ・トス・アタックの基本練習とミニゲームを行う。

学修課題：シッティングバレーボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第８回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（バレーボール）

全国障害者スポーツ大会におけるバレーボールの競技規則を確認した上で、障害の特性に応じた基本的な指導法を体得する。

学修課題：全国障害者スポーツ大会におけるバレーボールの競技規則について調べ、理解しておく。

第９回：障害者との交流（車いすバスケットボール）

競技用車いすバスケットボールの基本操作を確認した上で、障害当事者（肢体不自由）と車いすバスケットボールを通じた交流を行う。

学修課題：肢体不自由者や肢体不自由者のスポーツを理解するとともに、車いすバスケットボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第10回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（車いすバスケットボール）

全国障害者スポーツ大会における車いすバスケットボールの競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した基本的な指導法を体得する。

学修課題：全国障害者スポーツ大会における車いすバスケットボールの競技規則について調べ、理解しておく。

第11回：障害に応じたスポーツの工夫・実施（フライングディスク）

アキュラシー・ディスタンスの２種目の基本的なディスクの投げ方を理解し、基本練習とミニゲームを行う。

学修課題：アキュラシー・ディスタンスの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第12回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（フライングディスク）

全国障害者スポーツ大会におけるフライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）の競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した基本的な指導法を体得する。

学修課題：全国障害者スポーツ大会におけるフライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）の競技規則について調べ、理解しておく。

第13回：最重度障害者のスポーツの実際（ボッチャ）

身体機能に重い制限がある状態で運動することを疑似的に体感し、ボッチャの基本的練習とミニゲームを行う。

学修課題：ボッチャの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。

第14回：最重度障害者のスポーツの実際（ボッチャランプ使用）

身体機能に重い制限がある状態で運動することを疑似的に体感し、ランプやヘッドポインター等の補助具を用いてミニゲームを行う。

学修課題：パラリンピック等においてボッチャを競技している人はどのような障害を有しているのか、ランプやヘッドポインターを用いる時に介助者にはどのようなことが求められるかについて調べ、理解しておく。

第15回：障害者スポーツ指導者制度の理解

障害者スポーツ指導員制度における資格の種類と役割を理解する。

学修課題：地域における障害者スポーツ団体の役割や活動について調べ、理解しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回の授業への取り組み状況（60%）：自他の安全に配慮しながら実技に参加していれば３点とし、積極的に参加していれば４点、重大な不足があれば０点とする。これを15回実施する。

中間レポート（15%）：与えられたテーマに対し、概要を適切に要約しながら自分の意見を主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の３観点から評価する。

最終レポート（25%）：与えられたテーマに対し、授業内容を踏まえながら自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の３観点から総合的に評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

(公財)日本障がい者スポーツ協会編『新版　障がい者スポーツ指導教本』ぎょうせい. 2016

(公財)日本障がい者スポーツ協会編『全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』日本障がい者スポーツ協会. 2017

■履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は１単位の授業であり、授業外に１時間程度の学習（予習・復習）をすることが求められます。
・ゴールボール、車いすバスケットボールの授業では、障害のある当事者の方に指導に来ていただくことを予定しています。
・なお、本科目は、(公財)日本障がい者スポーツ協会「初級・中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業です。

エアロビックエクササイズ　【担当】藤松　典子

■授業概要

深刻な生活習慣病、予備軍であるメタボリックシンドロームを改善する運動の一つとしてウォーキングやジョギングなどの有酸素運動を行う人が増加している。エアロビクス理論に基づき、ウォーキング、ジョギング、ストックウォーキングを行い理論と実技を修得する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：運動不足からなる疾病や生活習慣病や高齢化社会におけるスポーツの指導者の役割について理解する

目標：超高齢化社会の現状を見つめ社会に必要な健康づくりについてスポーツでアプローチできるような幅広い知識を身につける

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：エアロビクス理論に基づき、ウォーキング、ジョギング、ストックウォーキングを行い理論と実技を修得する

目標：様々な有酸素性運動を実施することで運動強度の違いを体験し、指導法を学ぶ。

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：各種運動から自分のデータを収集しデータ化しレポート作成に利用する。

目標：中高年のための健康づくり運動プログラムを作成し、それを指導のできる技能を修得する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ウォーキング理論と実技

現在、健康体力づくり運動の中で最も実施率の高いウォーキングについて理解する。

各自の歩行能力の測定を実施し、指導者として活用できるようにする。

学修課題：ウォーキングの特性、目的、効果について調べて小レポートにまとめてくる。

第２回：ウォーミングアップとクールダウン

準備運動としてのウォーミングアップ、整理運動としてのクールダウンを指導できるように、理論と実際を学習する。

学修課題：ウォーミングアップとクールダウンの目的とプログラムを小レポートとして作成してくる。

第３回：ウォーキングと目標心拍数の設定

心拍数の測定の仕方と目標運動強度の設定を知る。ゼロトゥピーク法と、カルボーネン法の違いを理解して活用できるように学習する。エクササイズとしてのウォーキングを体験する。

学修課題：心拍数、心拍出量、１回拍出量、酸素摂取量について小レポートにまとめる。

第４回：ウォーキングからジョギングへ

スピードの変化を体得しながら心拍数の変化にも着目し、自分のジョグの最適ペースを知る。

学修課題：ジョギングについて小レポートにまとめる。

第５回：12分間走テスト１

クーパー博士の考案した12分完走テストを体験し自分の運動能力を評価する。12分間走テストの実施の仕方を確認する。

学修課題：これまでの自分のデータをまとめておく。クーパー博士のエアロビクス理論を調べてまとめる。

第６回：ウォーキングとジョギングの強度設定と心拍数、RPE評価実技

RPE（主観的運動強度）の利用の仕方を理解し、ウォーキングとジョギングのペースとRPEの対応について実践する。

学修課題：正しいウォーキング指導方法を小レポートにまとめる。

第７回：ストックウォーキング

ストックを使用した歩き方を体験し、ストックの持ち方と使い方、長さのあわせ方や使いかた、ストックを利用したウォーミングアップの方法を学習する。

学修課題：ストックウォーキングの目的と特性を小レポートにまとめる。

第８回：ストックウォーキングで少し長い距離を歩く

景色を楽しみながらストックウォーキングを実施する。ウォーキングとの違いを体感し、ペース、心拍数、運動強度の違いを学習する。

学修課題：ウォーキングとストックウォーキングの比較を小レポートにまとめる。

第９回：ストックウォーキングで比良散策

自分の体力レベルを知りながら，指導法を学習する

傾斜の利用の仕方、ストックの有効活用を実際に山の傾斜を利用して学習する。

学修課題：毎時間の心拍数、RPE、歩数、距離、時間等のデータを整理しながらまとめる。

第10回：ジョギングの運動強度

対象者の年齢と運動経験や体力に合わせたジョギングの指導方法を学習する

学修課題：運動不足の人は日ごろから走っておく。

第11回：ジョギング

３～５kmのコースを探究する。自分のデータはきちんと測定する。

学修課題：各自の自宅近くのジョギングコースを設定する。

第12回：12分間走テスト２

走った距離、ペース、RPE、心拍数、歩数を記録し、運動強度設定を行う。

学修課題：１回目の12分間走との比較をする。

第13回：長い時間のジョギング

景色を楽しみながらニコニコペースで７～９km程度走る。

学修課題：ウォーキング、ジョギングの指導案を作成してくる。

第14回：２回目の12分間走

１回目の時と比較する。

走った距離、ペース、RPE、心拍数と運動強度設定など

学修課題：１回目と２回目のデータをまとめてレポートを作成する。

第15回：グループ別ジョギング

自分と同じペースの人とジョギングをする

各グループでウォーミングアップ～ジョギング、運動強度の確認をしながら一定のペースで、お互いに周りの人の様子も観察しながら走る。

学修課題：これまでのデータをまとめたものを表やグラフにして考察、まとめ、感想を書いておく。最終授業でそのレポートを提出する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

レポート（60%）：毎回の授業の各自のデーターを利用したレポートを有酸素運動の理解度の観点より評価する。

小レポート（40%）：各授業の課題の小レポートを課題について理解し、考察できているか評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成テキスト」

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スノースポーツ

【担当】橋本　和俊

■授業概要

初年次での雪上実習での体験を基礎に、その理論と実践から冬季の自然体験活動・スポーツについてのさらなる理解を深める。「雪」をフィールドとした特殊な環境に対する自分自身や仲間の安全管理を行いながら、自然への畏敬の念や、自然への忠恕の心を養う。さらには雪を教材とした魅力的なプログラムの企画・立案・実施を最終目標とする。実際にスノースポーツに関するプログラムを個人やグループで企画・立案しプログラムを実施する。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：スノースポーツを通したリスクの理解

目標：雪上活動を通した安全管理の知識・行動を身につける

2．DP11．忠恕の心

具体的内容：自己・他者・自然への配慮や行動

目標：様々な体験から自身・仲間・自然への畏敬への念を養う

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：授業の概要説明およびスノースポーツの多様性に関する講義（楽しみと安全配慮）

授業の概要の中で、講義とともに実技を伴うことの理解と、３－４日間にわたる実技についての概要を理解する。また、スノースポーツの多様性について学習を深める。また、生涯スポーツの観点からスノースポーツの多様性、楽しみについて概説する。また冬季の活動のリスクマネジメントについて概説する。

学修課題：各自でスノースポーツに関するプログラムを企画･立案し、企画書を作成する

第２回：個人の企画書発表とグループでの企画案の再考

前回の各自で作成した企画をチーム内（グループ）で発表、魅力的なプログラムを再考する。そして、次回のチームでのプログラムの企画を発表するための準備をおこなう。

チームでの協働や関わり方を学ぶ。

学修課題：グループの企画書案を作成する

第３回：プログラム企画案の発表

各グループが企画したプログラムについて評価する。また、全体での発表を通して、全員で実際に実践する予定となったプログラムの内容を精査する。

学修課題：必要な個人・団体装備を表にまとめる

第４回：スノースポーツ実習の最終確認と調整

実際の実習を行う前に確認作業を全体でおこなう。

学修課題：実習の準備をおこなう

第５回：スノースポーツ実習　　＊実習は４日間で行います。

チーム（グループ）で企画・立案されたプログラムを全体で見直し実際に４日程度の実習形式にて実施する。

学修課題：※本授業は集中授業であり、授業時間外の実習活動も実施する

第６回：評価とふりかえり

実習の自己評価やグループの評価のまとめを行うとともに、今後の自分自身のスノースポーツとの火関わりについてふりかえる。

学修課題：実習のレポートを作成する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

＊受講人数制限を設けます（上限30名）

グループの企画書作成（30%）：個人の企画案を基に、目的、指導、安全、内容に配慮されたプログラムの企画について評価する

安全管理関する知識や態度（20%）：実技での安全管理や自然への配慮・行動を評価する

実技レポート（まとめ）（50%）：プログラム企画の達成度およびスノースポーツの理解度を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

注１）実習費用が必要となる（期間や時期により変動します）。

注２）実習時期や期間に関しては未定です。

注３）人数制限科目です（抽選もある場合がある）

以上より、原則ですが指定の期間を過ぎてから履修辞退をすることはできません。

そのため十分注意して履修するようにしてください。

マリンスポーツ

【担当】黒澤　毅

■授業概要

本授業では、様々なマリンスポーツの理解と、実施に伴う安全管理や特有の自然環境への理解を深める。またマリンスポーツの代表的活動としてスクーバダイビングに取り組み、知識と理解を深める。さらに、スクーバダイビング実習時の「海洋実習」においては、主体性をもって、計画・運営・実施を行うため、グループディスカッションやプレゼンテーションを交えながら授業を展開する。特に、プログラム実施上の管理運営についても自主的に学びを深めることを目的として本授業は実施する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：マリンスポーツに対する安全と楽しみの知識を深め、スクーバダイビングを実施する。

目標：マリンスポーツに対する安全と楽しみを理解すると同時に、海への理解を深める。

２．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：スクーバダイビングにおける一連の技能を習得するとともに自然の中で安全に過ごすための知識と技能を高める。

目標：マリンスポーツ（スクーバダイビング）プログラムの計画・実施・評価が出来るようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーションおよびマリンスポーツの現状と課題

本授業における概要の説明を行い、実習日程の調整を実施。マリンスポーツにおける現状及び課題を学習する。

学修課題：マリンスポーツの現状や課題についての理解を深める。

第２回：琵琶湖におけるマリンスポーツ

琵琶湖におけるマリンスポーツについて、その現状と課題を学習する。

学修課題：琵琶湖についての理解を深める。

第３回：マリンスポーツプログラミング

ダイビングにおける海洋実習にあたる１泊２日のキャンププログラムについて学習する。

学修課題：キャンププログラムを計画する。

第４回：ダイビング実習　＊実習は４日間で行います

１日目：理論

２日目：プール実技

３日目：海洋実技

４日目：海洋実技

※本実習は集中授業で行う。

学修課題：グループミーティングによる実技課題の理解を深める。

第５回：評価とまとめ

受講生が計画したマリンスポーツプログラムの評価を実施するとともに、マリンスポーツ独自の楽しみや危険、安全への配慮についてまとめを行う。

学修課題：マリンスポーツの理解を深める。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

実技計画レポートおよびプレゼンテーション（10%）：実技計画レポートおよびプレゼンテーションの理解度を評価する。

実技における課題達成（80%）：実技課題の達成度を評価する。

実技事後レポート（10%）：実技事後レポートによる理解度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツ専門実習Ⅰ

【担当】黒澤　毅

■授業概要

本実習は、夏季の野外スポーツプログラムのキャンプである。実習では縦走登山や長距離ハイク、ソロビバークなど様々なアウトドアプログラムを直接体験することによって、野外スポーツスキルを獲得し、野外教育指導者としての資質・能力について学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：海といった自然環境の中で、人と人が関わる野外スポーツを通し自然・人・自分を学習する。

目標：自然環境の中で必要となる技能を習得するとともに、安全に過ごすための知識と実践力を身につける。

２．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：過酷な自然状況の中で安全かつ充実した生活を送る事のできる技術を身につけ、実践できる能力を磨く。

目標：山、海といった自然環境の中で安全に過ごす為の技術を身につける。

３．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：縦走登山、40KMハイク、シーカヤック、オーバーナイトハイクを通して自信と誇り、協力の重要性を学習する。

目標：６泊７日に及ぶ自然環境の中での野外スポーツプログラムを達成することによる自信と誇りの獲得。

４．DP11.忠恕の心

具体的内容：過酷な自然環境が予想される野外スポーツプログラムの中で他人に対する思いやりの心を育む。

目標：自然環境と野外スポーツプログラムによる思いやりの心を学習する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：事前オリエンテーション

実習の目的について理解するとともに、実習で利用するフィールドについての理解を深める。

学修課題：目的の理解を深めるとともに､フィールドの理解を深める。

第２回：実習の計画

実習における詳細プログラムの理解とともに､プログラムごと（登山、ハイク、サバイバルテクニック）の特性について学習を深め、全体の計画の理解を深める。

学修課題：プログラムに必要となるスキルについての理解を深める。

第３回：実習の装備と食料

野外プログラムを実施する上で欠かせない装備、食糧について理解を深める。

学修課題：装備、食料についての理解を深める。

第４回：サバイバルテクニックの実際

縦走登山時に実施するサバイバルテクニックについて、寝床の作り方、火の起こし方についての理解を深める。

学修課題：サバイバルテクニックについての理解を深める。

第５回：マップ＆コンパスの実際

マップの見方とコンパスの使い方についての理解を深める。

学修課題：マップ、コンパスについての理解を深める。

第６回：カヤックの組み立ての実際

組み立て式のカヤックの特性の理解および組み立て方の習得方法についての理解を深める。

学修課題：カヤックの仕組みについての理解を深める。

第７回：レスキューテクニックの実際

シーカヤックを用いたレスキューテクニックについての理解を深める。

学修課題：レスキューについての理解を深める。

第８回：実習

※期間：９月下旬の６泊７日、場所：滋賀県および近隣県

プログラム

１日目：縦走登山：山の中でキャンプをしながらいくつものピークを超える登山形態。また、宿泊形態として、ソロ活動（限られた装備を用いて山中にて一人で宿泊する）を行う。

２日目：縦走登山：山の中でキャンプをしながらいくつものピークを超える登山形態。

３日目：長距離ハイク：40kmの道のりを歩く。

４日目：シーカヤック：日本海でシーカヤックを用いたツアーを行う。

５日目：シーカヤック：日本海でシーカヤックを用いたツアーを行う。

6.7日目：長距離ハイク：90kmの道のりを歩く。

学修課題：グループミーティングによって活動の理解を深める。

第９回：ふりかえりと評価

実習で体験したことの振り返りと評価を実施する。

学修課題：実習の達成度をレポートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

準備段階におけるレポート（20%）：準備段階でのレポートによる実習の理解度を評価する。

実習における課題達成および実習日誌の提出（50%）：実習での課題達成度の評価と実習日誌による実習の目的理解度を評価する。

報告書作成のためのレポート（30%）：実習後の報告書による目的達成度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

事前講義等に必要な資料等は随時配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツ専門実習Ⅱ

【担当】黒澤　毅

■授業概要

本実習では特に冬季自然環境の中で、野外教育指導者に必要とされる資質・能力を向上するために必要な野外スポーツプログラムを体験する。具体的な活動として、雪中泊やスノーシューハイク、バックカントリースキーといった幅広い活動で展開する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：雪中泊、スノーシューハイク、クロスカントリースキー、アルペンスキーを通して人と自然、自分との関係を学習する。

目標：冬の自然環境の中で人と人が関わりながら野外スポーツを実践し、冬期野外スポーツに対する知識と技能を獲得する。

２．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：真冬の環境の中での２泊にわたる雪中泊を通して、安全に充実した生活を送るための野外スポーツスキルの獲得

目標：冬期野外スポーツプログラムを実践するために必要な技能の獲得

３．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：これまでにふれたことのない冬期の雪上での活動を通して、新たな価値を生み出し、自らの世界観を磨く。

目標：雪上活動における新しい価値を創造する能力を獲得する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：実習の目的理解と冬季スポーツ

授業のオリエンテーションを実施するとともに、実習の目的について学修するとともに、冬季スポーツについての現状と課題について理解を深める。

学修課題：冬季スポーツについての理解を深める。

第２回：実習の計画

実習における詳細プログラムの理解とともに、プログラムごとの特性について学修を深め、全体計画を行う上での理解を深める。

学修課題：プログラムごとの特性についての理解を深める。

第３回：実習の装備と食料

野外プログラムを実施する上で欠かせない、装備・食料について学修する。

学修課題：装備・食料計画を立てる。

第４回：バックカントリースキーについて

バックカントリースキー時に使用する専門的装備について学修を深める。

学修課題：バックカントリースキーについての理解を深める。

第５回：雪中泊について

雪中泊に必要な知識と技術、装備について概観し、その用途について学修を深める。

学修課題：雪中泊についての理解を深める。

第６回：専門プログラム（実習）

※期間：２月中旬の３泊４日、場所：新潟県赤倉温泉スキー場を予定）

プログラム

１日目：雪中泊（イグルー）

２日目：雪中泊（雪洞）

３日目：雪上ナビゲーション・アルペンスキー講習

４日目：バックカントリースキートレーニング

５日目：バックカントリースキーの実際

６日目：まとめ

第７回：ふりかえりと評価

実習で体験したことのふりかえりと評価を実施する。

学修課題：実習レポートを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

事前実習：レポートおよび班別計画表（20%）：事前実習でのレポートによる実習の理解度を評価する。

本実習における課題達成および実習日誌の提出（50%）：実習での課題達成度の評価と実習日誌による実習の目的理解度を評価する。

事後実習：レポートおよび班別活動記録（30%）：実習後の報告書による目的達成度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

事前講義等に必要な資料等は随時配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

キャンプカウンセリング

【担当】黒澤　毅

■授業概要

野外スポーツの教育現場で重要な役割を担うキャンプカウンセラー（指導者）について理解を深める。単なる野外スポーツの技術指導（ハードスキル）の理解にとどまらず、心理的側面からも対象者にアプローチするキャンプカウンセラーは可視化の困難なソフトスキルについても理解を深めなければならない。本授業では、野外スポーツ場面におけるキャンプカウンセリングについて、自然環境の中での自己の理解と他者の理解を含め、グループディスカッションやグループワークを交えながら展開する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：自然環境の中で人と人が関わる野外スポーツについて、指導者の資質・能力について理解する。

目標：野外スポーツを実施する中で重要な役割である指導者の指導方法としてのカウンセリングについて理解を深める。

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：様々なアクティブラーニングを通して人間関係能力を向上させ、指導者としての資質・能力を高める。

目標：キャンプカウンセラーとしての人間性を向上させるために新たな自分に気づき、他人を理解する能力を高める。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション・カウンセリングの定義

本授業の概要を説明すると同時に、受講生のこれまでの野外教育活動経験および指導経験、キャンプカウンセラーに対して持つイメージについてディスカッションしながら、本授業における学修目標の確認を行う。

学修課題：概要の確認と定義についての理解を深める。

第２回：キャンプ組織について

野外教育の中でも組織的に行われるキャンプに焦点を当て、その教育目標を確認するとともに、目標を達成するために必要とされるキャンプにかかわる指導者全体の組織とその役割について学修する。

学修課題：プログラム事例を挙げてキャンプ組織の理解を深める。

第３回：キャンプ指導者の資質

キャンプ指導場面における指導者の資質や能力について学修する。

学修課題：キャンプ指導者の資質についての理解を深める。

第４回：キャンプ指導者の役割

キャンプ指導場面における様々な役割の中で、指導者としての資質や能力について学修する。

学修課題：キャンプ指導者の役割についての理解を深める。

第５回：キャンプカウンセラーの役割

キャンプを行う上で最も対象者と近い存在であるキャンプカウンセラーの具体的役割について学修する。

学修課題：キャンプカウンセラーの役割についての理解を深める。

第６回：キャンプカウンセラーとしての指導法

キャンプ指導者の中でも直接的に対象者と寝食を共にし、プログラムを行うキャンプカウンセラーについて、その効果的な指導法について学修する。

学修課題：事例を挙げ、キャンプカウンセラーの指導法についての理解を深める。

第７回：キャンプにおけるキャンパーの成長

キャンプカウンセラーが直接指導を行うキャンパーの変化について理解を深めるとともに、効果的指導法について理解を深める。

学修課題：キャンパーの成長について理解を深める。

第８回：キャンプにおけるグループの成長

キャンプカウンセラーが直接指導を行うグループの変化について理解を深めるとともに、効果的指導法について理解を深める。

学修課題：グループの成長について理解を深める。

第９回：指導者の安全管理

自然の中での活動において、キャンプ指導者が最も注意を払わなければならない対象者の安全とその管理方法について理解を深める。

学修課題：安全管理について理解を深める。

第10回：プログラム別にみるカウンセリング

様々なプログラム事例を紹介しながら、その中でのキャンプカウンセリングのあり方について考え、より効果的な対象者への関わりについて理解を深める。

学修課題：プログラム別に見たカウンセリングについての理解を深める。

第11回：キャンパーの違いによるカウンセリング

対象者の違いによるカウンセリングの方法について様々なプログラム事例を紹介しながら理解を深める。

学修課題：様々なキャンパーの理解を深める。

第12回：キャンプカウンセリングに関する研究

キャンプカウンセリングに関する研究を紹介し、キャンプカウンセラーに必要とされる資質や能力について学修する。

学修課題：キャンプカウンセラーに関連した研究の理解を深める。

第13回：キャンプの指導要領作成

キャンプ実践の際のカウンセリングについて、プログラムごとに指導要領をまとめる方法について学修する。

学修課題：指導要領を作成する。

第14回：キャンプにおける指導者の関わり：グループディスカッション

効果的なキャンプ指導について、グループ別にディスカッションしながら、キャンプカウンセラー必要とされる資質や能力、また、受講生が今後野外における指導を行う際の課題を見つけることを目的に授業を展開する。

学修課題：ディスカッションした内容をレポートにまとめる。

第15回：野外におけるカウンセリングのまとめ及び総評

授業を通してキャンプ指導者について学習した事柄のまとめを行うと同時に、フレッシュマンキャンプにおけるカウンセリングの留意点についてまとめる。

学修課題：キャンプカウンセラーについてのレポートをまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内のレポート（40%）：レポートによる理解度を評価する。

グループ課題・個人別課題の発表（60%）：グループ課題・個人別課題の発表による理解度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

キャンプ・カウンセリング（A.V.ミッチェル・I.Bクロフォード共著　兼松保一訳）

自然体験活動指導者のための安全対策読本（(財）日本レクリエーション協会）

野外教育指導者読本（野外教育指導研究会）

その他、授業のなかで随時紹介します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

キャンプマネジメント

【担当】橋本　和俊

■授業概要

教育キャンプと呼ばれる組織キャンプについて、企画、運営、評価について学ぶ。キャンプを運営していく上での組織作りから指導者の役割、安全･健康管理でのリスクマネジメント、広報、事業評価、効果測定などが主な内容となる。

■養うべき力と到達目標

１．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：野外活動の企画・運営・評価

目標：キャンプなどの事例を取り上げ自身の考える企画やその際に必要な運営について学ぶ

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業のオリエンテーションおよびキャンプの発祥

キャンプの語源は？自然体験活動とキャンプの関係は？教育キャンプ・組織キャンプの歴史について、アメリカ合衆国、ヨーロッパ、日本について概説する。

学修課題：自身のキャンプ体験について、どんな内容であったかレポートにまとめる

第２回：キャンプ組織と指導者養成

教育キャンプ、組織キャンプについて、目的を達成するために必要な組織内の役割やシステムを知る。

民間の自然体験活動団体の役割に応じた指導者養成の内容を知る。

学修課題：キャンプ指導者の役割を確認し、自然体験活動の指導者養成団体について調べる

第３回：対象者理解

対象となる青少年、幼児、中高年、障害者（児）の特性を知ると共に、様々なキャンプの実践を紹介する

学修課題：幼児キャンプ、高齢者キャンプ、障害児キャンプなどの多様なの実践の取り組みについて学習する

第４回：キャンプの企画

企画に必要な６Ｗ２Ｈ１Ｓについて、フレッシュマンキャンプについて概説し、自分の興味関心のある目的、対象でデザインをしてみる。

学修課題：自身のキャンプ経験をの６Ｗ ２Ｈ １Ｓについてレポートにまとめる。

第５回：装備と食料

キャンプの企画の中でもマネジメントの大きな部分である装備、食料（食事）について、その内容と留意点を概説する。

学修課題：１泊２日のキャンプを想定し必要な個人装備、班装備、団体装備についてリストを作成する

第６回：キャンプの安全管理と健康管理

キャンプ、自然体験活動における安全管理、安全教育の観点の具体的な内容を概説する

キャンプの健康面、衛生面から事例を基に説明を加えていく。

学修課題：アウトドアでの事故が発生する環境要因、人的要因をまとめる。また、自然界に潜む危険要因について実体験や過去の事例を基にまとめる

第７回：キャンプでの危険、ＫＹＴ・ＲＭＥ

キャンプ、自然体験活動における指導者の危険予知責任、危険回避責任の内容を概説する

危険予知トレーニング、リスクマネジメントエキササイズから危険に対する能力をスキルアップする。

学修課題：今までのアウトドアでの体験でのヒヤリハット体験をまとめる

第８回：キャンプ中の事故と法的責任

キャンプ、自然体験活動における事故事例を概説する。

刑事判例、民事判例から指導者の責任能力、責任の具体的な内容を知る。

学修課題：アウトドアや野外スポーツ中の事故での判例を１事例について調べ、まとめる

第９回：キャンプと施設

キャンプ、自然体験活動で使用される施設について、民間、公立、国立の施設の現状を概説する。

学修課題：野外スポーツの種類と多様なフィールドを活用した施設について調べる

第10回：公立施設と民間施設、指定管理者制度

キャンプ、自然体験活動施設の現状として、指定管理制度の導入について、その事例から概説する。

学修課題：指定管理者制度を採用している青少年野外教育施設を調べ、どのように運営が行われているか調べる

第11回：キャンプの広報

ビジネスモデルとして民間で行われているキャンプ、自然体験活動の広報の実際を調べてみる

デザインしたキャンプの広報計画を作成する。

学修課題：１泊２日のキャンプの魅力ある参加者募集のパンフレットを作成する

第12回：キャンプの観察と記録

安全面からキャンプ、自然体験活動実施中に行われる指導者としての観察を、役職の観点から行ってみる。

学修課題：キャンプカウンセラー（指導者）としてキャンプの一日を記録する

第13回：キャンプの評価と効果

キャンプ、自然体験活動の事業としての評価測定の方法と教育目的からの効果測定の方法を知る。

学修課題：キャンプに関する研究について評価・測定方法、教育目的などを調べる

第14回：キャンプの臨機応変な対応

活動中での臨機応変な対応や、実際に起きてしまった事故についての対処法について学修する。

学修課題：活動中のあらゆるリスクの管理や事故が起きてしまった場合の対処法をまとめる

第15回：まとめ及び総評

各自でデザインをしたキャンプ、自然体験活動について、プログラムデザイン、マネジメントデザインを完成させる。

最終完成したデザインを発表する。

学修課題：自身の実践のに向けた準備について考えレポートにまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

プログラムデザイン（20%）：キャンプのプログラムを企画・立案し評価する

マネジメントデザイン（20%）：キャンプのマネジメントについて理解度を評価する

授業内小テスト（30%）：キャンプのマネジメントに関する知識について評価する

授業内もしくは授業外レポート課題（30%）：キャンプの運営やリスク管理に関するレポートをまとめ、評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「キャンプディレクター必携」日本キャンプ協会

「キャンプの積み木」日本キャンプ協会

「ザ・キャンプ　その理論と実際」：松田稔、創元社、1978年

「キャンプ指導者入門」日本キャンプ協会

その他、授業中に紹介します

■履修上の注意・備考・メッセージ

キャンプの基礎になる内容ばかりです。どのようにキャンプを企画し、運営していくかのノウハウを自身のスタッフ経験や指導経験を基に学びます。演習形式の授業も行います。

野外スポーツ理論と実践

【担当】林　綾子・橋本　和俊

■授業概要

文部科学省の報告によると、自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実していることが明らかになり、野外スポーツ・野外教育の重要性が叫ばれるようになった。本授業では野外スポーツ・野外教育の様々な活動について、その背景となっている理論の学習と、理論・目的を実現するための活動を体験する。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：自然環境を生かした野外スポーツ活動の実践と背景となる理論の学習

目標：効果的な展開のための野外教育活動と背景となる理論が理解できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：野外スポーツ活動に必要なスキルの獲得と、アクティビティデザイン・指導体験

目標:多様な野外スポーツ活動の基礎的なスキルを習得し、活動に活かすことができる。また、主体的にアクティビティを立案・指導することから、実践力を養う。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび野外スポーツの基本概念

授業の概要を説明し、主に実技での学習に向けたグループ編成を行う。野外スポーツの基本概念について理解する。

学修課題：野外スポーツの基礎理論についてのワークシートに取り組む。

第２回：アイスブレーキングアクティビティ（冒険教育プログラムI①）

野外活動の始まりとして多く活用されているアイスブレーキングアクティビティを体験し、その種類や意図を理解する。

学修課題：活動についてのふりかえりを行い、活動の意味を理解する。

第３回：仲間づくり野外ゲームの理論（冒険教育プログラムI②）

キャンプなどの野外活動におけるグループ形成や、チーム作りの一環として活用されている仲間づくり野外ゲームについて、その理論と実際を学習する。特にその要素と実際に指導する上での重要事項について理解し、グループにて指導案を作成する。

学修課題：グループにて次週の指導の準備を行う。

第４回：仲間づくり野外ゲームの実践（冒険教育プログラムI③）

各班が指導側と体験側を実践し、アクティビティ指導の評価を行う。それぞれのフィードバックから、指導の実践の理解を深める。

学修課題：実際に行った指導体験をふりかえり、活動と指導の理解を深める。

第５回：ネイチャーゲーム（環境教育プログラムⅠ）

自然の中で５感を用いた活動を行い、自然への感性を磨き、気づきや学習を促すプログラムを実際に体験する。ネイチャーゲームを通して環境学習について理解する。

学修課題：多様なネイチャーゲームについて調べ、理解を深める。

第６回：身近な環境を知るためのプログラム（環境教育プログラムⅡ）

身近な自然環境の中に入り、アクティビティを通して自然についての知識を深める体験を行う。体験から、直接体験の重要性・方法について理解する。環境教育についての理論的理解を深める。

学修課題：多様な環境教育のアクティビティとその効果について調べてくる。

第７回：ナビゲーションⅠ（読図）（冒険教育プログラムII①）

地形図と呼ばれる地図について理解し、地図に書かれた情報を読み取る力をつける。具体的に、距離や標高、地形などをよみとる。

学修課題：地図を読み取る課題に取り組む。

第８回：ナビゲーションⅡ（コンパスワーク）（冒険教育プログラムII②）

コンパスの機能・使い方を理解し、地図とコンパスを用いた現在地の確認や目的地の方向を読むことができるようになる。また、歩測にて距離を確認しながら、目的地の方向へ進む実践を行う。

学修課題：ナビゲーションについての復習を行い、次回の実践に備える。

第９回：オリエンテーリング（冒険教育プログラムⅡ③）

野外スポーツの競技の一つであるオリエンテーリングに、ナビゲーションスキルを用いて挑戦する。読図スキルやコンパスワークを駆使し、そのスキルを実践場面にて活用する。

学修課題：オリエンテーリング実践をふりかえり、ナビゲーションスキルを確認する。

第10回：ロープワーク（冒険教育プログラムⅢ①）

キャンプや冒険教育の現場で必要となるロープワークの種類について学習する。ロープの種類や構造、基本的なロープワークの方法について理解する。

学修課題：ロープワークの反復練習を行い、スキルを習得する。

第11回：ロッククライミング体験（冒険教育プログラムⅢ②）

前回学習したロープワークを活用し、またさらにハーネスなどのクライミング特有の装備を用い、人工壁を用いたロッククライミングに挑戦する。装備の使い方、安全管理の方法、コミュニケーションについて理解し、実際にクライミングに取り組む。

学修課題：クライミングに関するトピックのレポート作成する。

第12回：ロープワークの確認（環境教育プログラムⅢ③）

２週にわたって練習してきたロープワークについての確認テストを行う。

学修課題：すべてのロープワークテストに合格するまで、練習、再テストを受ける。

第13回：ネイチャークラフト（環境教育プログラムⅡ①）

自然物を用いたクラフトを実践する。自由な発想や感性を用い、ナイフなどの道具を用い、表現する。

学修課題：各自制作に取り組む。

第14回：ネイチャークラフト（環境教育プログラムⅡ②）

クラフトを完成させ、品評会を行い、それぞれの作品を評価する。

学修課題：多様な視点からの評価を行うことからネイチャークラフトの意義を理解する。

第15回：ミニマムインパクト（野外倫理）

自然環境へのインパクトを最低限に抑える活動であるミニマムインパクトの理論と実践（Leave No Trace）について学び、野外倫理を深める。それぞれの活動やスポーツ実践における展開方法を考える。

学修課題：自身の環境倫理とその実践についてレポートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

体験レポート（30%）：ふりかえりシートを使用し、体験の理解度を評価する

理論課題（30%）：ワークシートやレポートを用い、理論的理解についての評価を行う

期末試験（40%）：野外スポーツの基本的な理論と実践についての理解度をテスト形式にて評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

スポーツ学のすすめ（びわこ成蹊スポーツ大学編）

野外活動テキスト（日本野外教育研究会編）キャンプテキスト（日本野外教育研究会編）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

１年次に体験した様々な野外スポーツ活動を基礎に、その理論を学びます。また、知識として理解したものを実際の体験として学びます。体験することから発展させ、実践力を養います。野外教育のもつ特性を楽しみながら学んでいきましょう。

「実践」の日は基本的には屋外にて活動を行います。活動しやすい服装で来るようにしてください。集合場所など、内容によって異なるため、随時確認をすること。

キャンプ指導法

【担当】野外スポーツコース教員

■授業概要

本授業では、１年次に体験したフレッシュマンキャンプに指導者、スタッフとしてかかわる体験を通して、指導・運営の実際を学び、指導スキルの向上や指導方法について理解を深めることを目的とします。班担当の指導者としてキャンプの基本技術のインストラクションや班内の人間関係作りではカウンセラーとしての役割について指導体験する。本部担当スタッフとしては、キャンプ全体のマネジメントやプログラム補助スタッフとしての役割を体験する。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：フレッシュマンキャンプに指導者、スタッフとしてかかわる

目標：指導・運営の実際を学ぶ

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：フレッシュマンキャンプに指導者、スタッフとしてかかわる

目標：指導スキルの向上や指導方法について理解を深める

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき２時間）

事前学習：野外スポーツ指導者の心得、キャンプの目的確認、組織の説明

フレッシュマンキャンプに向けてスタッフとしての心得や目的を共有する。

事前準備として３月中に行なわれる（日程に注意のこと）。

学修課題：キャンプの目的および組織の理解を深める。

事前学習：プログラム詳細説明、役割分担決定

期間中の役割分担ならびに役割の具体的な内容について確認し、実際の準備に当たる。

登山のコース下見を行う。

３月末或いは４月のフレッシュマンキャンプ直前に行なわれる（日程に注意のこと）。

学修課題：プログラムについての理解を深める。

本実習：キャンプA

日程：2018年４月５日（木）～４月８日（日）

3泊4日のフレッシュマンキャンプに運営補助スタッフ（班担当、本部スタッフ）として参加する。

学修課題：実習日誌の作成。

本実習：キャンプB

日程：2018年４月８日（日）～４月11日（水）

３泊４日のフレッシュマンキャンプに運営補助スタッフ（班担当、本部スタッフ）として参加する。

学修課題：実習日誌の作成

事後学習：後片付け、本実習評価（参加者アンケートの分析を含む）

フレッシュマンキャンプの後片付け、評価としての学生アンケートの集計。報告書の作成。

学修課題：報告書の作成

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

役割理解と実践・レポート（80%）：キャンプに指導実践の課題達成度およびレポートによる目的達成度を評価する。

報告書作成（20%）：報告書による目的達成度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツ指導法

【担当】中野　友博

■授業概要

野外スポーツの指導は、自然環境をはじめ、目的や対象者によって様々なプログラムを構成・展開されている。その効果的な指導をするためには、個々に構成されたプログラムの特徴を理解し、指導にあたる必要がある。そこで、本授業では、野外スポーツの中で代表的なプログラムと代表的な対象を取り上げ、その指導法と実際について学ぶ。学外授業として民間自然学校で実施されている自然体験学習プログラムの現状を理解する。また、公立少年自然の家で実施される学校教育カリキュラムに基づいた自然体験学習プログラムを理解する。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：アイスブレイク、ASE、環境教育プログラムを知る

目標：アイスブレイク、ASE、環境教育プログラムを説明できる

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：目的と対象に応じたアクティビティの安全で効果的な指導方法を知る

目標：目的に応じたアクティビティの指導案を作成する

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：目的と対象に応じたアクティビティを指導する

目標：安全で効果的な指導方法を実践できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業の概要説明、野外スポーツプログラムにおける指導の実際

野外教育における指導の意味を確認するとともに、キャンプ指導法の授業の振り返りを行う。

学修課題：今までのキャンプ指導経験から、疑問、質問を考える

第２回：学校教育での自然体験学習プログラム

学校教育で展開されている自然体験学習プログラムを概説する。また具体的なプログラムを体験してみる。

学修課題：学校教育で展開されている興味ある自然体験学習プログラムをまとめてみる

第３回：アイスブレーキングの考え方

キャンプ、自然体験活動の一つであるアイスブレイクについて体験をしながら、その留意点について理解を深める。

学修課題：興味ある、自分にできそうなアイスブレイク活動を検索する

第４回：アイスブレイク指導の実際①（デザイン）

アイスブレイク活動をアクティビティデザインし、教室内で指導してみる

学修課題：自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第５回：アイスブレイク指導の実際②（トライアル）

アイスブレイク活動をアクティビティデザインし、屋外（アウトドアフィールド／野性の森）で指導してみる

学修課題：屋外でのアイスブレイクアクティビティについて自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第６回：アイスブレイク指導の実際③（実践）

アイスブレイク活動をアクティビティデザインし、林間で指導してみる

学修課題：林間でのアイスブレイクアクティビティについて自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第７回：ASEの指導の考え方

ASEについて活動の考え方、課題の設定について、指導法について学ぶと共に、指導上の留意点について理解を深める。

学修課題：興味あるアクティビティについて内容を確認する

第８回：ASE指導の実際②（ディインヒビタイザー、コミュニケーション）

ASE（ディインヒビタイザー、コミュニケーション）についてアクティビティデザインをし、指導案を作成し、指導実習を行う

学修課題：ディインヒビタイザー、コミュニケーションをテーマとするASEアクティビティについて自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第９回：ASE指導の実際③（トラスト）

ASE(トラスト）についてアクティビティデザインをし、指導案を作成し、指導実習を行う

学修課題：トラストをテーマとするASEアクティビティについて自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第10回：ネイチャーゲームの指導の考え方

環境教育プログラムについてその考え方を概説する

ネイチャーゲームについて活動の考え方、課題の設定について、指導法について学ぶと共に、指導上の留意点について理解を深める。

学修課題：自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第11回：ネイチャーゲームの指導の実際①（カラス・カワウソのゲーム）

ネイチャーゲームについてアクティビティデザインをし、指導案を作成し、指導実習を行う

学修課題：カラス・カワウソのネイチャーゲームを自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第12回：ネイチャーゲームの指導の実際②（クマ・イルカのゲーム）

ネイチャーゲームについてアクティビティデザインをし、指導案を作成し、指導実習を行う

学修課題：クマ・イルカのネイチャーゲームを自分で体験し、他者を観察しながら気づいた点をまとめる

第13回：幼児を対象とした野外スポーツ指導法

幼児を対象にした野外スポーツの指導の留意点について理解を深める

学修課題：幼児を対象とした興味あるアクティビティをデザインしてみる

第14回：民間自然学校の自然体験学習の理解

民間自然学校で実践されている自然体験学習プログラム、特にマリンスポーツの指導法、あるいは指導の留意点について概説する。外部講師として「BSCウォータースポーツセンター校長」を依頼する。

学修課題：民間自然学校で実践されているプログラムをまとめる

第15回：野外スポーツにおける指導法のまとめ

これまでの学習内容についてプログラム・対象別にその指導法をまとめる

学修課題：興味ある対象に、興味あるアクティビティをデザインする

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各アクティビティ指導実習（40%）：指導案の内容、指導実習、実習後のふりかえりの内容について評価する

授業ごとに提示される課題（40%）：授業のテーマについての理解度を評価する

現場での指導実習レポート（20%）：実際の指導実習の報告書の内容について、指導案、指導対象理解、指導の留意点等についての理解度を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

随時配布・紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツ特別講義

【担当】中野　友博

■授業概要

野外スポーツの今日的課題や動向について、野外スポーツの専門的な実践者による講義、実技、演習を取り入れて講義内容とする。民間の野外スポーツ産業に関わる企業人、実践者、冒険家・環境教育実践者などを特別講師とし、野外スポーツ界の現状と取り組むべき課題について、体験を通して具体的な視点から紹介する。

野性の森での里山整備作業を通して、里山の自然環境を理解するとともに自然環境に興味関心を持つだけでなく、保全の意識まで持てるように学修する。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：里山の自然について具体的な作業を通して理解を深める

目標：湖西地区の自然環境について説明できる

2．DP4．高度なスポーツ技能

具体的内容：自然体験活動技術を修得する

目標：リバーカヤックを安全に操作できる

3．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：アウトドアビジネスの現状と課題について体験を通して学修する

目標：アウトドアビジネスの現状と課題を説明できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業ガイダンス・野外スポーツの現状（講義）

特別講義の授業ガイダンス、ならびに集中で行われる授業の説明を行うとともに、野外スポーツ・野外教育・自然体験活動の現状を概観する。

学修課題：野外スポーツ産業について調べ、理解を深める。

第２回：民間自然学校の現状（講義）

民間の自然学校の現状について学習する。

JON（Japan Outdoor Network）の加盟する民間自然学校について理解を深める。

学修課題：全国の民間の自然学校について調べ、理解を深める。

第３回：学内の野外教育施設について

びわこ成蹊スポーツ大学の野外教育実習施設「野性の森」について、その自然環境を概説する。

学修課題：野性の森の自然環境について体感し、まとめる

第４回：湖西地域比良地区の里山の現状と野性の森の現状について知る

景観生態保全論の立場から「野性の森」周辺の里山について、その現状と「野性の森」整備活動のマスタープランについて、京都大学の深町加津枝先生を外部講師として招聘し、講義していただく。

学修課題：里山についてまとめる

第５回：野性の森の現状を知る

野性の森の具体的な現状を、グループで（個人で）自分の身体を用いて体感する。

学修課題：野性の森の担当区域について詳細に調べてみる

第６回：野性の森の整備の実践

各自、各グループが担当する野性の森の区域について、その林床の状態を確認し、整備を行う

学修課題：担当区域の林床について更に調べてみる

第７回：野性の森の安全管理

各自、各グループが担当する野性の森の区域内の倒木について整備を行う

学修課題：担当区域内の整備を進める

第８回：植生調査（樹木）

各自、各グループが担当する野性の森の区域内に生育する樹木について具体的に調べる。樹種、胸高直径、エリア内の位置など。

野性の森全体の樹木マップを作成する

学修課題：マップを完成させる

第９回：植生調査（草本）

各自、各グループが担当する野性の森の区域内に生育する草本について具体的に調べる。種名、エリア内の位置など。

野性の森全体の草本マップを作成する

学修課題：マップを完成させる

第10回：植林

野性の森のエリア内に、各グループごとに樹種を決めて植林を行うことを前提に、場所の選定、準備を行う。（実際の植林作業は後期の授業中、土日を利用して実施する）。利用する道具について安全な使用方法を知る。

学修課題：植林する樹種について調べてみる

第11回：アウトドアビジネスの実態（講義）

アウトドア産業・アウトドアビジネスの実態について理解を深める

学修課題：アウトドアビジネスの実態について具体的な現状と課題をまとめる

第12回：アウトドアビジネスの現場体験（リバーカヤック）（実習）①

本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技（リバーカヤック）を交えながら話を聞く機会を設ける。

リバーカヤックについて用具とフィールドについて理解を深める。

土曜日、あるいは日曜日を利用して、フィールドで行う。

実技に関わる実費が必要になる。

学修課題：リバーカヤックについて用具とフィールドについて理解を更に深めることで、現場体験に向けた準備を行う。

第13回：アウトドアビジネスの現場体験（リバーカヤック）（実習）②

本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技（リバーカヤック）を交えながら話を聞く機会を設ける。

リバーカヤックの基礎技術の理解を深める。

土曜日、あるいは日曜日を利用して、フィールドで行う。

実技に関わる実費が必要になる。

学修課題：リバーカヤックの基礎技術の理解を更に深めることで、現場体験に向けた準備を行う。

第14回：アウトドアビジネスの現場体験（リバーカヤック）（実習）③

本学客員教授であり、株式会社モンベル会長の辰野先生より、冒険家として、アウトドア産業界の代表として、フィールドで実技(スノーシュー)を交えながら話を聞く機会を設ける。

ホワイトウォーターツアーを体験する

土曜日、あるいは日曜日を利用して、フィールドで行う。

実技に関わる実費が必要になる。

学修課題：ホワイトウォーターツアーに向けた準備を行う。

第15回：まとめ及び総評（講義）

これまでの体験をまとめ、発表を行う。

学修課題：報告書を作成する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

講義内における課題(個人課題・グループ課題)（50%）：各講義ごとの内容について理解度を10点満点で評価する。課題５回×10点

実習後のレポート（50%）：各実習ごとにレポートテーマを設定し、その体験の具体的な内容と理解度についてのまとめ方によって10点満点で評価する。実習５回×10点

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業中に提示します。資料を配布します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツプログラム

【担当】林　綾子

■授業概要

野外スポーツプログラムは、目的・自然環境・対象者によって多様に展開されている。本授業では、野外スポーツ・野外教育の基本概念を理解し、代表的なプログラムとして、冒険教育、環境教育、アウトドアセラピューティックプログラムを取り上げ、その理論や実践例について学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：野外教育の代表的プログラムについての理論・知識の習得

目標：野外教育の代表的プログラムの背景となっている基本的な理論を理解する。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：自然環境を生かし、対象者に合わせてプログラム目的を達成するための知識の獲得

目標：多様な自然環境・対象者・目的によるプログラムの事例から理解を深める。

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：野外スポーツプログラムデザインの実践

目標：理論的理解を基に、効果的なプログラムデザインができるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業の概要説明および野外スポーツにおけるプログラムについての概説

「プログラム」とは何か理解し、野外スポーツの代表的なプログラムについて概要を学修する。

学修課題：授業の復習と、各自が興味のあるプログラムについて調べておく。

第２回：野外スポーツ概論・野外教育概論

野外スポーツの基本概念について理解する。特に野外教育の考え方の基本となっている体験学習、野外教育の歴史の理解から野外教育・野外スポーツの理論について学修する。

学修課題：授業の復習と､各自の体験からの学習についてふりかえり、理解する。

第３回：国内外の野外スポーツ・野外教育の現状

現在の国内外で行われている野外スポーツ、野外教育プログラムの現状を理解する。

学修課題：テキストを読み、課題に取り組み、理解を深める。

第４回：冒険教育プログラム-概要

野外スポーツにおける代表的なプログラムの一つとして冒険教育プログラムの基本的な考え方や対象、目的を理解し、その歴史や実践について学修する。

学修課題：授業の復習と、これまで行ってきた冒険活動についてふりかえり、理解をふかめる。

第５回：冒険教育プログラム - 実際

冒険教育プログラムの効果について、その種類と内容を理解する。冒険、あるいは教育のどのような要素と効果が関係あるのか、なぜそのような効果が生まれるのか理解する。

学修課題：テキストの該当部分を読み、ワークシートに沿って、自分の体験に照らし合わせて説明を行う。

第６回：冒険教育プログラム-リスクマネジメント

冒険教育プログラムにおけるリスクマネジメントについて理解する。

学修課題：リスクマネジメントエクササイズに取り組み、グループにてまとめる。

第７回：環境教育プログラム - 概要

二つ目の代表的なプログラムとして環境教育プログラムを取り上げる。その基本的な考え方と歴史、実践について理解する。

学修課題：テキストを用い、授業の復習を行う。

第８回：環境教育プログラム - 実際

さまざまな環境教育プログラムの実践紹介より、多様なプログラムとその実施方法について理解する。

学修課題：興味のある環境教育プログラムについて調べる。

第９回：環境教育プログラム-ワークショップ

アメリカを中心とし、世界各国に広まっているLeave No Trace(LNT)について学習し、環境への負荷を最小限に抑える野外での活動の方法と、環境倫理について理解する。十分な学習・理解が確認されると、LNTアウェアネスの認定証が授与される。

学修課題：ワークショップでの学びをレポートにまとめる。

第10回：アウトドアセラピューティックプログラム-概要

３つ目のプログラムとして、特別なニーズを持つ対象へのプログラムを取り上げる。対象の多様性と、プログラムの展開についての関係を理解する。

学修課題：授業の復習を行い、興味のあるプログラムについて調べる。

第11回：アウトドアセラピューティックプログラム-指導法

多様な事例を紹介し、アウトドアセラピューティックプログラムの多様性と可能性について理解する。またその目的を達成するための指導法について学修する。

学修課題：調べたことを事例として発表できるよう準備する。

第12回：アウトドアセラピューティックプログラム-実際

アウトドアセラピューティックプログラムの現状と課題について理解する。

学修課題：多様な事例発表から理解したことをまとめる。

第13回：野外スポーツプログラミング

野外スポーツのプログラミングにおける重要事項を理解し、各自興味のあるプログラミングに取り組む。

学修課題：プログラミングの重要事項に沿って、効果的なプログラミングを考える。

第14回：野外スポーツの課題

これまでの学習より、野外スポーツの抱える課題、今後の可能性について理解する。

学修課題：プログラミングの発表準備を行う。

第15回：まとめ及び総評

各自が考えたプログラムについて発表を行い、評価を行う。

学修課題：発表の評価を受け、ふりかえり、レポートを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内レポート（30%）：トピックに関わる課題を出し、理解の程度を評価する。

授業内課題発表（20%）：グループでトピックに関わる課題に取り組み、発表したものを、その理解や内容について評価する。

授業内小テスト（50%）：基本的知識について小テストにて理解を評価する。

■教科書

自然体験活動研究会　・野外教育の理論と実践　・杏林書院　・2011年

■参考文献等

随時配布・紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

多様な野外スポーツ・教育の背景となっている理論を理解することは、今後のより効果的・意味深い実践を行うための基盤となります。今後の実習や実践において「専門知識」を持って関わり、創っていけるよう自主的に学んでいきましょう。

地域スポーツ専門実習Ⅰ　【担当】地域スポーツコース教員

■授業概要

本科目は、第一に地域におけるスポーツ活動を推進するために、具体的に地域の人々がスポーツ活動に積極的に関われる環境を整備していくために必要な基礎的知識を習得するための講義と実習を行う。第二に、地域スポーツの諸問題に関する情報収集および得られた情報を活用する方法を学習する。受講生は本科目での演習を通して、地域スポーツに関する基本的な考えを理解し、各単元で実施される演習での実践的な取り組みをより充実させていくことが望まれる。

■養うべき力と到達目標

１．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：地域スポーツに関する知識の習得と実践力。

目標：地域スポーツの基礎的知識の習得とそれを活用する能力を身につける。

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：地域スポーツの現状把握に関する能力を養う。

目標：地域スポーツの諸問題に関連する情報を収集し、それをまとめて現状を理解する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ガイダンス・生涯スポーツとは

生涯スポーツの歴史と定義について解説する。

学修課題：関心のある事柄を取り上げ、それが地域スポーツのテーマとなり得るのか熟考し、まとめる。

第２回：日本における生涯スポーツ政策

日本における生涯スポーツ政策の変遷について説明する。

学修課題：授業の要点と疑問点を小レポートとしてまとめる。

第３回：生涯スポーツとビジネス

生涯スポーツのビジネス化とマーケティングについて説明する。

学修課題：生涯スポーツにおけるビジネスの可能性を理解し､まとめる。

第４回：生涯スポーツとヘルスプロモーション

ヘルスプロモーションと政策、健康づくりのマネジメントについて説明する。

学修課題：授業内で説明した各項目の要点と疑問点を小レポートとしてまとめる。

第５回：地域社会と生涯スポーツイベント

生涯スポーツイベントの動向と地域開発について説明する。

学修課題：出身地の地域スポーツイベントを調べ、まとめる。

第６回：生涯スポーツ指導者とボランティア

生涯スポーツ指導者と社会的制度、スポーツボランティアの現状と課題について説明する。

学修課題：日本体育協会のHPを参照し、指導者資格、ボランティア等について調べる。

第７回：生涯スポーツとニュースポーツ

ニュースポーツの特徴と魅力について解説し、生涯スポーツとの関わりを理解する。

学修課題：授業の要点をまとめ、小レポートを作成する。

第８回：前半までの講義内容の確認とまとめ

前半までに学習した内容について正確に理解しているか確認する。

学修課題：前半までに重要と指摘された箇所は、特に正確に理解しておく。

第９回：少子化とレクリエーション①個人への働きかけ

個人に向けたレクリエーション支援の実際と期待される効果について説明する。

学修課題：配布資料をもとに、個人へのレクリエーション支援の実際についてまとめる。

第10回：少子化とレクリエーション②集団への働きかけ

集団に向けたレクリエーション支援の実際と期待される効果について説明する。

学修課題：配布資料をもとに、集団へのレクリエーション支援の実際についてまとめる。

第11回：地域とレクリエーション

レクリエーションを通じた「つながり」の再生、創造について説明する。またコミュニティレベルとリージョンレベルでの事例について説明する。

学修課題：レクリエーションを通じたコミュニティのつながりについて事例を探し、まとめる。

第12回：スポーツクラブの現状と課題

スポーツクラブにおける現状と課題について説明する。

学修課題：配布資料を参考にスポーツクラブの課題をまとめる。

第13回：総合型地域スポーツクラブの現状

日本における総合型地域スポーツクラブの現状を説明する。

学修課題：総合型地域スポーツクラブについて身近な事例を調べる。

第14回：スポーツNPOの地域における役割

地域におけるスポーツNPOの位置づけと役割について説明する。

学修課題：出身地のスポーツNPOについて調べる。

第15回：本講義全体のまとめと確認

講義内容の総復習を行い、地域におけるスポーツの現状と課題について特に重要なキーワードについてその内容を確認する。

学修課題：講義であがった点を熟考し、各自のレポートを完成させて提出する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（50%）：各授業で提示されたレポート課題について適切な内容が記述されているか、授業内容の理解度について評価する。

最終レポート（50%）：地域スポーツの現状と課題について、適切な内容が記述されているか、理解度について評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業中に、逐次紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

地域スポーツ専門実習Ⅱ　【担当】地域スポーツコース教員

■授業概要

本科目は、地域の多様な人々を対象とした運動・スポーツ指導やイベント運営に必要な技術を修得するために、理論的アプローチと各種フィールドワークを実施するものである。また、以上の実践力のみならず、実践の中で浮かび上がってくる課題を抽出し分析するための手法についても学んでいく。

■養うべき力と到達目標

1．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：地域スポーツ指導とイベント運営に関する技術力を養う。

目標：地域における運動・スポーツ指導やイベント運営に必要な技術を修得する。

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：地域スポーツにおける問題解決のための方法論の習得。

目標：地域スポーツの諸課題を抽出し分析するための手法及び基礎的な分析手法を修得する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ガイダンス・スポーツにおける社会科学的調査手法

本授業の授業評価方法および量的研究・文献研究・質的研究の概要を説明する。

学修課題：量的・質的・文献それぞれの研究手法の概要および特徴を説明する。

第２回：統計学・統計手法の基礎

スポーツにおける各種統計や打率･勝率等の記録を例に、運動･スポーツにおける統計について概説する。

学修課題：自分の行なっている種目に関わる統計に着目し、疑問点を明確化しておく。

第３回：量的調査（質問紙調査）の基礎

量的調査の分類、質問紙調査の基礎的な枠組み等について概説する。

学修課題：これまで自分自身が協力したことのあるアンケート調査等について振り返っておく。

第４回：量的調査（質問紙調査）の設計と分析

量的調査を行う際の質問紙の設計方法およびEXCELを用いた集計方法について概説する。

学修課題：Excelの基本操作について復習しておく。

第５回：SPSSを用いた量的調査（質問紙調査）の分析

SPSSを用いた具体的な分析方法について演習を行う。

学修課題：SPSSによる基本的な記述統計およびクロス集計の方法を理解する。

第６回：質的調査（文献調査）の基礎

文献調査の分類、それらの基礎的な枠組み等について概説する。

学修課題：自分自身のスポーツにおける関心領域の基礎となる文献を各自収集する。

第７回：質的調査（文献調査）に関するレポート作成

各自の課題に沿った文献を収集しレポートを作成する。

学修課題：自分自身のスポーツにおける関心テーマを明確化し、文献を収集する。

第８回：質的調査（文献調査）に関するレポートの発表

前週作成したレポートを各自発表する。

学修課題：各自の発表の特徴、主張点についてまとめる。

第９回：質的調査（インタビュー調査）の基礎

質的調査の分類、質問紙調査の基礎的な枠組み等について概説する。インタビュー調査を行う際の基本的な質問設定や、聞き取りの基本的な手法について概説する。インタビュー実施に向けて、インタビューガイド（テーマ設定、質問項目作成等）作成を行う。

学修課題：自分のスポーツにおける関心領域であれば、どのような質的手法が合致するのかを検討する。

第10回：質的調査（インタビュー調査）の分析手法

インタビュー実施後の分析手法（逐語録作成、コード化等）について概説および演習を行う。グループごとに作成したインタビューレポートの発表を行う。

学修課題：各自の発表の特徴、主張点についてまとめる。

第11回：フィールドワークの説明

フィールドにおける調査実施について、概要の説明と注意点について説明をする。

学修課題：授業での説明を踏まえ、調査の概要をまとめる。

第12回：事前準備

各自の関心領域について調査可能なフィールドの選定、実施計画を立てる。また調査実施の準備をすすめる。

学修課題：次回までに準備を完成させておく。

第13回：フィールドワークの実施

前回の授業において計画した調査を実施する。

学修課題：実施後に、実施計画について振り返りをする。

第14回：フィールドワーク結果の発表

フィールドワークにおける調査結果、および結果に対する考察について発表する。

学修課題：各自発表内容についてまとめ、発表練習を行う。

第15回：講義全体のまとめ

本講義で学習した研究手法、フィールドワークにおける調査の方法・内容についてまとめを行う。

学修課題：これまでの学習内容全体について復習をしておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題（60%）：各授業で提示された授業内課題の内容について評価する。

調査内容・発表（40%）：地域における調査及び結果の内容について評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業中に、逐次紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業時間外の実習や演習を行なう場合があるので注意すること。

地域社会とスポーツ

【担当】佐藤　馨

■授業概要

現代社会におけるスポーツの果たす役割は、個人のスポーツへの積極的な取り組みを基本とし、それを支えるために①人々のニーズに適切に応える、②１人１人がスポーツ活動を継続的に実践できる、③競技力向上に繋がる、以上のようなスポーツ環境を整備することにある。例えば、そうした問題を解決する１つの方法として総合型地域スポーツクラブの存在がある。こうしたスポーツクラブのあり方や意義、また生涯スポーツとしての地域スポーツの役割等について学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：地域スポーツの意義と役割

目標：地域社会におけるスポーツの役割と意義を理解する。

２．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：総合型地域スポーツクラブの意義と役割

目標：スポーツを提供する場としての総合型地域スポーツクラブの役割と意義を理解する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：地域社会とスポーツ　地域におけるスポーツニーズを知る

地域社会とスポーツで学習する全講義内容の概略と受講上の留意点について説明する

学修課題：地域社会とスポーツで学習する講義の概要および受講上の留意点について書かれた資料を精読する

第２回：コミュニティとは何か

コミュニティの概念と定義について解説する

学修課題：「コミュニティ」、この言葉の意味を調べ、現在コミュニティで問題視されている課題について調べる

第３回:コミュニティの変容と21世紀のコミュニティ　コミュニティの崩壊と再生

日本社会において20世紀に存在したコミュニティが崩壊し、新しいコミュニティの創造が必要とされていることを解説する

学修課題：コミュニティの歴史的変遷について学習したことを踏まえ、現代のコミュニティとの相違点、相似点について考え、まとめる

第４回:コミュニティの変容と21世紀のコミュニティ　新しいコミュニティの形成

新しいコミュニティの形成として、自治体に依存しない住民主導型コミュニティについて解説する

学修課題：新しいコミュニティには「情報化」「グローバル化」は欠かせないが、それでは具体的にどのように実践するのか、その方法を考える

第５回：コミュニティ文化

コミュニティ形成には、コミュニティ文化の意義を理解することは重要と言える。その重要性について具体的な事例を用いて講義する。

学修課題：日本におけるコミュニティ文化を学習した上で、現代のコミュニティ文化をどのように創造するのか、その具体案についてまとめる

第６回：前半までの授業のまとめと講義内容の確認

前半の講義までの講義において内容を正確に理解しているか確認する

学修課題：前半までの講義において重要と指摘された箇所は特に正確に理解し、まとめる

第７回：日本のスポーツシステムと総合型地域スポーツクラブ　その意義と必要性

総合型地域スポーツクラブの意義と必要性について、既存のクラブ運営を事例に講義を行なう

学修課題：総合型地域スポーツクラブが現在の日本社会になぜ必要なのか、講義内容も踏まえて自分の意見をまとめる

第８回：日本のスポーツシステムと総合型地域スポーツクラブ　既存のスポーツクラブとの関連

民間スポーツクラブ、学校体育、スポーツ団体といった既存のスポーツクラブと総合型地域スポーツクラブとの位置づけや違いについて解説する

学修課題：総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、学校体育、各種スポーツ団体、それぞれの特性と違いを理解するため、配付資料を精読し、まとめる

第９回：日本のスポーツシステムと地域総合型スポーツクラブ　自治体におけるスポーツ振興のあり方

総合型地域スポーツクラブにとって地域住民のスポーツを促進しようとする自治体との関係は非常に重要である。その自治体の考えるスポーツ振興と総合型地域スポーツクラブのスポーツ振興のあり方の変遷について講義する

学修課題：これまでの自治体のスポーツ振興について学習したことを参考に、これからの自治体のスポーツ振興のあり方について考え、それをまとめる

第10回：総合型地域スポーツクラブの考え方

総合型地域スポーツクラブの現代における意義について講義する

学修課題：現在の総合型地域スポーツクラブの役割について理解するため、配付資料を熟読し、概要をまとめる

第11回：総合型地域スポーツクラブの考え方　多様な機能と範囲

総合型地域スポーツクラブの多様な機能と範囲について解説する

学修課題：現代における総合型地域スポーツクラブの役割について学習したことを踏まえ、自分の住む地域の総合型地域スポーツクラブのあり方について調べ、まとめる

第12回：総合型地域スポーツクラブの現状と問題　メリット・デメリット

総合型地域スポーツクラブ運営におけるメリット・デメリットの解説を事例を用いて行なう

学修課題：総合型地域スポーツクラブのメリット・デメリットを理解するため、配付資料をまとめる

第13回：総合型地域スポーツクラブの現状と問題　多様なクラブ体系

総合型地域スポーツクラブといっても多様な運営形態があるため、それを類型化しながら説明を行なう

学修課題：日本におけるスポーツクラブの分類を学習し、在住する地域の総合型地域スポーツクラブがどこに分類されるのか考え、意見をまとめる

第14回：スポーツ基本法と総合型地域スポーツクラブ

スポーツ基本法からみた総合型地域スポーツクラブの意味について講義をする

学修課題：「スポーツ基本法」の条文を調べ、地域社会におけるスポーツの位置づけをまとめる

第15回：総合型地域スポーツクラブのマネジメントと企業経営の共通点

総合型地域スポーツクラブをマネジメントするということは、一企業を経営することと同義である。したがって企業経営の視点から見たクラブマネジメントについて解説する。

学修課題：自分が総合型地域スポーツクラブを経営する立場についた場合、どのような総合型地域スポーツクラブを希望するのか記述する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

優秀な提出課題については、提出後の授業で概要をコメントします。

■評価方法

授業中に課す内容に関連する小レポート（５％）：地域社会とスポーツに関連したレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する

授業中盤に実施する確認テスト（25%）：講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているか25点満点で評価する

本試験（70%）：講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか70点満点で評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『地域福祉論』市川一宏・牧里毎治編著　ミネルヴァ書房　2007

『地域プロデューサーの時代』松野将宏著　東北大学出版会　2005

『地域を変えた　総合型地域スポーツクラブ』山口泰雄著　大修館書店　2006

『総合型地域スポーツクラブの時代１』黒須充編著　創文企画　2007

『総合型地域スポーツクラブの時代３』黒須充編著　創文企画　2009

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

本講義は「スポーツ社会学」「レジャー・レクリエーション論」の２科目を単位取得済みであること。

メッセージ

「総合型地域スポーツクラブ」を皆さんは知っていますか。本講義では、総合型地域スポーツクラブの意義や役割を学ぶだけでなく、総合型地域スポーツクラブが設置されている「コミュニティ（地域）」についても地域論を引用しながら学習していきます。

地域スポーツの理論と実際　【担当】村瀬　陽介・黒須　朱莉・中道　莉央

■授業概要

本科目は、地域スポーツにおける専門的な学びを理論と実践の往還を通して深めることを目的とする。よって、受講生はすでにある程度の地域スポーツに関する基本的な理論について理解していることが前提となる。本科目は、そうした基本的な理論をベースにしながら、実際に地域スポーツの現場に足を運び、学びを深めていく。具体的には、地域スポーツを取り巻く環境についてフィールドワーク調査を行うとともに、地域スポーツの現場にボランティアとして参加し、理論と実際の相違や新たな課題等を経験を通して学んでいく。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：地域スポーツに関する専門的な知識の習得。

目標：地域スポーツを捉えるために必要な具体的な理論や現状について理解する。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：地域スポーツの展望を考察する力を身に付ける。

目標：地域スポーツにおける課題と展望について、理論と自身の経験を踏まえながら自らの言葉で説明できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス：地域スポーツの理論と実際概説（村瀬・黒須・中道）

受講上の注意、授業の概要とスケジュール、評価方法を確認する。

学修課題：配布資料を熟読し、内容を再確認する。

第２回：実習に向けた準備（資料調査）

地域におけるスポーツイベントの実施例について調査し、グループで調査結果を確認し、メンバー相互で内容を共有する。

学修課題：授業で行なった各自の調査結果のまとめについて復習する。

第３回：実施に向けた準備（インタビュー調査）

スポーツイベント実施に向けて、地域の方のニーズをインタビューにより調査する。またその結果をグループでまとめる。さらにスポーツイベントの実施場所、日時について確認をする。

学修課題：２回にわたる調査の結果を発表できるようにまとめる

第４回：実習の準備状況発表

事前に行なった調査（資料・インタビュー）の結果から、求められるイベントとは何かをグループで議論しまとめる。またその結果を発表する。

学修課題：他グループの発表について評価をグループ内で確認する。

第５回：スポーツイベントの実施

前回の授業において決定した内容に沿って、地域のスポーツイベントを実施する。

学修課題：スポーツイベントに必要な物品の確認、各自の役割把握をしておく

第６回：実習後発表の準備

実施したスポーツイベントの成果をグループ内でまとめる。また、発表できるように準備を行なう。

学修課題：各グループで発表練習を行なう。

第７回：実習後の発表

前回の授業でまとめた内容を発表する。

学修課題：他グループの発表についてグループ内で評価を確認する。

第８回：実習に向けた準備（資料調査）

地域のスポーツ活動の実例とボランティア活動の実施状況を調査し、グループで調査結果を確認し、メンバー相互で内容を共有する。

学修課題：授業で行った各自の調査結果のまとめについて復習する。

第９回：実施に向けた準備（事前研修）

実際にボランティア活動に従事するにあたり、実習内容とボランティアに求められる資質、実際の仕事内容などについて確認し、準備すべきことや事前に調査すべきことをグループごとにまとめる。

学修課題：グループごとに調査をすすめ、実習までにまとめておく。

第10回：実習の準備状況発表

事前に行った調査（資料・研修）の結果から、求められるスポーツボランティアの資質や必要とされる学びなどをグループで議論しまとめる。またその結果を発表する。

学修課題：他グループの発表について評価をグループ内で確認する。

第11回：スポーツボランティアの実施

前回の授業において発表した内容に沿って、地域のスポーツ活動のボランティアに参加する。

学修課題：ボランティアとして参加するにあたり当日の段取りやサポート内容、注意事項などを確認しておく。

第12回：実習後発表の準備

実際に関わったスポーツボランティアでの経験や学び、課題をグループ内でまとめる。また、発表できるように準備を行う。

学修課題：各グループで発表練習を行う。

第13回：実習後の発表

前回の授業でまとめた内容を発表する。

学修課題：他グループの発表についてグループ内で評価を確認する。

第14回：授業の総括①（発表準備）

授業の総括として、２回にわたる実習を通して見えてきた課題や問題点についてグループごとにディスカッションし、グループ内でまとめる。また、発表できるように準備を行う。

学修課題：各グループで発表練習を行う。

第15回：授業の総括②（発表）

前回の授業でまとめた内容を発表する。また、地域スポーツの理論と実際における展望をレポートとしてまとめる。

学修課題：レポートの作成を行う。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

・実習（ボランティア活動）は、事前の準備を十分に行なった学生のみが参加できるものとする。

・実習（ボランティア活動）に参加できなかった場合は、評価対象外とする。

実習前準備（20%）：実習前準備へ積極的に取り組んでいるかを本科目のルーブリックに基づき評価する。

実習前発表（20%）：実習準備をまとめて発表し、その内容を本科目のルーブリックに基づき評価する。

実習中の取り組み（20%）：課題へ積極的に取り組んでいるかを本科目のルーブリックに基づき評価する。

実習後発表（20%）：実習での成果をまとめて発表し、その内容を本科目のルーブリックに基づき評価する。

学期末レポート（20%）：授業で取り組んだ内容全てについて触れられているか、地域スポーツにおける課題と展望について自らの言葉で述べられているかを本科目のルーブリックに基づき評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業時各教員が紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・地域スポーツコース専門科目（「地域社会とスポーツ」「生涯スポーツと地域保健」「中高齢者と生涯スポーツ」「障害者スポーツ指導法」「こどものあそびと運動」）のうち２科目について単位取得済みであることを履修の条件とする。

・授業概要でも述べたように、本科目は「実際に地域スポーツの現場に足を運び、学びを深めていく」ため、学外で取り組むボランティア活動を欠席した場合は単位認定の対象外となる。なお、ボランティア活動に参加するためには、学内で行う事前の準備を十分に行なった学生のみが参加でき、平常の取り組みが重要となる。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

生涯スポーツと地域保健

【担当】上利　理代

■授業概要

本講義では、生活習慣が発症に深く関与する生活習慣病について、概要・疫学的知識・その予防などを中心に学習するとともに、その予防に関してスポーツがどのように影響を与えるかを学ぶ。さらには1個人のライフステージ毎に対応したスポーツのあり方を学び、すべての国民が健康で幸せな人生を送ることができるように、健康寿命延伸にいかにスポーツが多角的に作用するかを学ぶ。また、生涯スポーツを理解し、予防医学・地域保健学について理解できるような学びを目指す。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：健康寿命延伸にスポーツがどのような側面で如何に効果が発揮できるかを学ぶ

目標：生涯を通じてスポーツに触れる意義を学ぶ

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：生涯スポーツとは

生涯スポーツの定義を理解する。文部科学省の提言、現在の日本の生活習慣病の疫学について学ぶ

学修課題：生活習慣病について調べてみる

第２回：健康日本21

厚生労働省ホームページから「健康日本21」の要旨と、平成23年における達成状況、および今後の課題をまとめる

学修課題：健康日本21の目標達成状況と、新たに設定された課題を理解する。

第３回：健康づくりのための身体活動基準2013　要旨

厚生労働省ホームページから「健康づくりのための身体活動基準2013」の要旨についてまとめる。

学修課題：＊厚生労働省ホームページの「健康づくりのための身体活動基準2013」をもとに、運動と健康づくりの関連について理解する。

第４回：健康づくりのための身体活動基準2013　身体活動量の評価

厚生労働省ホームページの「健康づくりのための身体活動基準2013」をもとに、身体活動量評価の基準と目標設定、およびその根拠についてまとめる。

学修課題：身体活動量評価の基準と目標設定、およびその根拠について理解する。

第５回：糖尿病、高血圧と運動

高血圧の基礎知識と、治療ガイドラインにおける運動療法の位置付けについてまとめる。

学修課題：糖尿病、高血圧の基礎知識と運動療法の基礎的事項を整理する。

第６回：肺の生活習慣病：COPD（慢性閉塞性肺疾患）

COPDの基礎的な病態と、生活習慣(喫煙)との関連について講義する。

学修課題：COPDの病態、喫煙と健康について理解する。

第７回：ロコモティブ・シンドローム

ロコモティブ・シンドロームの概念と予防対策について講義する。

学修課題：ロコモティブ・シンドロームについて知識を整理する。

第８回：特定健診とメタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームの概念、特定健診、保健指導についてまとめる。

学修課題：メタボリックシンドロームの概要を理解する。

第９回：高齢者の身体活動基準と介護予防

厚生労働省ホームページの「健康づくりのための身体活動基準2013」をもとに、高齢者の身体活動量の目標設定と介護予防について講義する。

学修課題：高齢者の特性と介護予防と健康寿命について考えよう

第10回：子供・学校生活での身体活動基準

子供の身体的特性とスポーツについて学ぶ

学修課題：小学校・中学校での身体活動基準について調べてみる

第11回：障がい者の身体活動基準

障がい者の身体活動基準について学ぶ

学修課題：障がいの種別について、身体活動基準の違いを調べる

第12回：地域保健・地域医療について

保健所・福祉事務所・児童相談所など地域保健システムについて学ぶ。地域の介護・医療システムについて学ぶ

学修課題：地域保健システム、地域医療・介護システムについて復習する

第13回：保健・医療・福祉介護関連法規

保健・医療・福祉介護関連法規をまとめる。

学修課題：保健・医療・福祉介護関連法規の概略を理解する。

第14回：医療保険と社会保障、国民医療費

社会保障のシステムについてまとめる。国民医療費の動向についても紹介する。

学修課題：社会保障システム、医療費の概要を理解し問題意識を持つ。

第15回：まとめと課題提示

これまでのまとめを行い、レポートの課題を提示する。

学修課題：提示されたテーマを自ら調べ、課題提出する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業ごとのミニテスト（25%）：授業の理解度を評価する

課題レポート（25%）：授業中に提示する課題について、授業の理解度を評価する

期末テスト（50%）：生涯スポーツとして取り扱われる地域保健の理解度を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

厚生労働省・文部科学省ホームページ

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

衛生・公衆衛生学を履修済みが望ましいが、わかりやすく講義を進める

こどものあそびと運動

【担当】秋武　寛

■授業概要

身体を巧みに操る動作は、幼児、児童期の運動体験に影響され家庭環境など個人差がみられる。運動習慣は、一生涯の健康維持や性格形成にも影響を及ぼし、生活習慣病にも繋がることが考えられる。子どもの身体活動や運動遊びの重要性を理解し、移動系、操作系、平衡系運動などを組み合わせたサーキット遊びを立案し、実践できるよう解説する。子どもの様々な運動遊びを学習し、身体を使って表現する力を身につけることを目的に行う。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：子どもの発育発達について学修する。発育発達に関する基礎的な知識を習得することができるようになる。

目標：発育発達に関する基礎的な知識を習得できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：それぞれの年代の発達段階に合わせた運動あそびが展開できるような実践力を養う。

目標：発達段階に合わせた運動あそびを理解し、実践できるようになる。

3．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容：身体表現、造形表現、児童文化財を活用した運動あそびとともに、他者との共生を考えることができる能力を身につける。

目標：児童文化財を活用した運動あそびを理解し、他者とのかかわりの中で、お互いを認め合い、協力することができるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：発育発達について

オリエンテーション（講義目的と評価および授業の進め方について解説する）

学修課題：発育発達について学修する。

第２回：様々な運動動作の発達

様々な運動動作の発達について解説する。

学修課題：様々な運動動作の発達について学修する。

第３回：加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）

加齢にともなう動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について解説する。

学修課題：加齢にともなう動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について学修する。

第４回：運動あそびの創造

様々な集団あそびを理解し、実践する。

学修課題：様々な集団あそびについて学修する。

第５回：ボールあそび①（ベースボール型ゲーム）

ベースボール型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。

学修課題：ベースボール型ゲームの運動あそびについて学修する。

第６回：ボールあそび②（ベースボール型ゲーム）

ベースボール型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。

学修課題：ベースボール型ゲームの運動あそびについて学修する。

第７回：ボールあそび③（ネット型ゲーム）

ネット型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。

学修課題：ネット型ゲームの運動あそびについて学修する。

第８回：身体表現

身体を使って様々な動作を実践する。

学修課題：身体を使って様々な動作の発達を学修する。

第９回：子どもと造形表現

児童文化財を活用したこどものあそびと運動を理解し、実践する。

学修課題：児童文化財を活用した子どものあそびと運動について学修する。

第10回：ボールあそび④（ネット型ゲーム）

ネット型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。

学修課題：ネット型ゲームの運動あそびについて学修する。

第11回：ボールあそび⑤（ゴール型ゲーム）

ゴール型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。

学修課題：ゴール型ゲームの運動あそびについて学修する。

第12回：運動あそび（ボールあそび、伝承あそび）

ボール遊びや伝承あそびについて理解し、実践する。

学修課題：ボール遊びや伝承あそびについて学修する。

第13回：ボールあそび⑥（ゴール型ゲーム）

ゴール型ゲームの運動あそびを理解し、実践する。

学修課題：ゴール型ゲームの運動あそびについて学修する。

第14回：サーキット運動あそび

移動系、操作系、平衡系動作を取り入れた、サーキット運動あそびの実践を行う。

学修課題：これまで学修した様々な運動動作を取り入れたプログラムを学修する。

第15回：まとめ

半期間のまとめを行い、子どものあそびと運動を正しく理解し、実践する。

学修課題：半期間の復習を行う。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

授業の取り組み状況（80%）：授業内の取り組み状況を評価する（意欲、態度）。

レポート（20%）：こどものあそびと運動について、レポート内容を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

実技は、運動できる服装、シューズ（室内用、屋外用）を持参のこと。

忘れ物は、授業の参加を認めない。更衣は、更衣室のみで行うこと。

障害者スポーツ指導法

【担当】中道　莉央

■授業概要
本科目は、受講者が主体となって、指導者、観察者、実践者の３役を経験する模擬指導を中心に展開します。全国スポーツ大会競技の指導法と競技規則について、実技実習（模擬指導）を通して知識と技術を身につけ、障害程度や種別等、多様な対象者に応じた指導・支援方法を習得することを目的とします。障害者を含む多様なひとに身体を動かす喜びや楽しさを伝える地域における障害者スポーツのリーダー的役割が担えるような実践的指導力を養います。

■養うべき力と到達目標
１．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：障害者を含む多様なひとを対象とした「する・みる・ささえる」スポーツ振興に求められる柔軟な思考力を習得する。
目標：アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、これをもとにした多様なひとのスポーツのあり方を自分なりの言葉で説明できる。
２．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：障害者スポーツに関する実践的指導力を習得する。
目標：障害程度や種別等、多様な対象者に応じた指導・支援方法を身につけている。
３．DP11.忠恕の心
具体的内容：障害者を含む多様なひとの立場に立って考え、行動する力を身につける。
目標：障害者を含む多様なひとに身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度を身につけている。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）
第１回：ガイダンス／ 全国障害者スポーツ大会の歴史的背景
我が国における障害者スポーツの始まりや全国障害者スポーツ大会の成り立ち、その歴史的背景について理解する。
学修課題：障害者スポーツ概論で学んだ「障害者福祉施策の変遷」および「障害者福祉施策とスポーツ」の内容を復習しておく。
第２回：全国障害者スポーツ大会の目的と意義
国内外の障害者スポーツの歴史と現状、パラリンピックに代表される競技大会の歴史と現状等を踏まえ、全国障害者スポーツ大会の目的と意義を理解する。
学修課題：障害者スポーツ概論の「障害者スポールの理念」で学んだパラリンピック・デブリンピック・スペシャルオリンピックス等の各種国際大会が掲げる理念を復習しておく。
第３回：全国障害者スポーツ大会の実施競技（個人競技）
全国障害者スポーツ大会における個人競技の競技概要、基本的な練習方法について理解する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会およびパラリンピックにおける個人競技を理解しておく。
第４回：全国障害者スポーツ大会の実施競技（団体競技）
全国障害者スポーツ大会における団体競技の競技概要、基本的な練習方法について理解する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会およびパラリンピックにおける団体競技を理解しておく。
第５回：全国障害者スポーツ大会の障害区分の考え方
障害区分の意義や目的について、障害者スポーツ特有のシステムである「クラス分け」「持ち点制」の成り立ち、その背景にある考え方から理解する。
学修課題：各種競技の「クラス分け」「持ち点制」を整理した上で、それぞれのメリットとデメリットを理解しておく。
第６回：全国障害者スポーツ大会の障害区分の実際
全国障害者スポーツ大会における個人競技と団体競技の障害区分について、適切な判定ポイントや判定時の注意点を理解する。
学修課題：各種競技の障害区分を整理しておく。
第７回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（陸上競技・投てき）
全国障害者スポーツ大会における陸上競技（投てき）の競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した投てきの基本的な指導法を体得する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会における陸上競技（投てき）の競技規則について調べ、理解しておく。
第８回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（水泳・自由形／平泳ぎ）
全国障害者スポーツ大会における水泳の競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した自由形および平泳ぎのi基本的な指導法を体得する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会における水泳（自由形／平泳ぎ）の競技規則について調べ、理解しておく。
第９回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（水泳・背泳ぎ／バタフライ）
全国障害者スポーツ大会における水泳の競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した背泳ぎおよびバタフライの基本的な指導法を体得する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会における水泳（背泳ぎ／バタフライ）の競技規則について調べ、理解しておく。
第10回：全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（サウンドテーブルテニス）
全国障害者スポーツ大会におけるサウンドテーブルテニスの競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した基本的な指導法を体得する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会におけるサウンドテーブルテニスの競技規則について調べ、理解しておく。
第11回:全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則(サッカー)
全国障害者スポーツ大会におけるサッカーの競技規則を確認した上で、障害の特性に考慮した基本的な指導法を体得する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会におけるサッカーの競技規則について調べ、理解しておく。
第12回：障害者のスポーツ指導における留意点（身体）
身体障害のある初心者を対象としたスポーツ指導の目的、内容、方法、評価について、具体的事例から理解する。
学修課題：身体障害のある初心者を対象としたスポーツ指導計画を作成しておく。
第13回：障害者のスポーツ指導における留意点（知的、精神）
知的障害および精神障害のある初心者を対象としたスポーツ指導の目的、内容、方法、評価について、具体的事例から理解する。
学修課題：知的障害または精神障害のある初心者を対象としたスポーツ指導計画を作成しておく。
第14回：全国障害者スポーツ大会選手団の編成
全国障害者スポーツ大会における選手団構成の人数と出場資格、選手選考の方法について理解する。
学修課題：全国障害者スポーツ大会競技規則集に記載されている開催基準要綱の内容を理解しておく。
第15回：全国障害者スポーツ大会に期待されるコーチの役割
障害者スポーツの指導者に求められる大会前、大会中、大会後のコーチの役割と留意点を理解する。
学修課題：障害者選手のコーチに求められる役割や資質について、自分なりの考えをまとめておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
毎回の授業への取り組み状況（45%）：自他の安全に配慮しながら実技に参加している（授業内容を踏まえた論述ができている）…２点、積極的に参加している（独自の見解や具体例等が示されている）…３点、重大な不足がある…０点とし、これを15回実施する。
指導計画のレポート（10%）：指導計画作成のポイントをおさえながら、目的・内容・方法が適切に述べられているかどうかを３段階で評価する。
指導の実践（20%）：指導計画にもとづき、適切に指導できているかを３段階で評価する。
観察フィードバック（５%）：観察者として、模擬指導で観察評価したことを適切に指導者にフィードバックできているかどうかを評価する。
最終レポート（20%）：与えられたテーマに対し、授業内容を踏まえながら自分の意見が主張できているかどうかを独自性・論理性・適切性の３観点から総合的に評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
(公財)日本障がい者スポーツ協会編『新版　障がい者スポーツ指導教本』ぎょうせい. 2016
(公財)日本障がい者スポーツ協会編『全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』日本障がい者スポーツ協会. 2017

■履修上の注意・備考・メッセージ
・授業は、受講者が主体となって、指導者、観察者、実践者の３役を経験する模擬指導を中心に展開します。
・本科目は、障害のある人に対するスポーツ指導技術の習得を目的としており、各種障害については既知のこととして展開します。このため、「障害者スポーツ概論」の単位を修得していなければ履修できません。また、実技科目「障害者スポーツ」の単位を修得済みであることが望ましいです。
・なお、本科目は、(公財)日本障がい者スポーツ協会「中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業です。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

中高齢者と生涯スポーツ

【担当】村瀬　陽介

■授業概要

本科目は、生涯スポーツについて、これまで学んだ基礎知識をさらに発展させ、自身の意見を述べられることを目標とする。加齢による身体の変化について、生理学的観点からもスポーツの重要性を理解できるように授業を展開する。また、運動実践について現状と課題を整理し、運動実施の阻害要因についても理解できるようにする。授業の中盤では、実技を実施することで、講義だけでは体験することのできないスポーツの楽しさを体験する。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

目標：具体的内容：スポーツの意義に関する知識

学生は生涯スポーツの観点から、スポーツの価値を考えられる。

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：加齢による身体の変化に関する知識

目標：学生は加齢による身体の変化について、生理学的観点から説明できる。

3．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：健康づくり施策に関する知識

目標：学生は健康づくりのための運動実践についてどのような課題があるのか、また関連する施策について知る。また、学生は中高齢者と生涯スポーツの関係や実態を、社会的な背景を踏まえて説明することができる。

4．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツの用語に関する知識

目標：学生は中高齢者と生涯スポーツを説明するために必要な概念や用語について説明することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよび生涯スポーツの現状と課題

（１）授業の予定、目標、成績の評価方法について説明する。また望まれる受講態度について説明する。

（２）本科目で学ぶ「老化」と「生涯スポーツの現状と課題」について概説する。

学修課題：生化学についてノートを見なおしておく。

第２回：加齢と老化

加齢による身体の変化について生理学的観点から解説する。また運動が高齢者の健康や寿命に与える影響について解説する。

学修課題：スポーツ生理学概論で学んだ内容(特にエネルギー代謝について)を復習しておく。

第３回：老化と運動～骨格筋、骨、脳～

第２回からさらに詳細な内容を扱う。骨格筋、骨、脳の加齢による変化について解説し、それぞれについて運動がどのような影響を与えるかについて解説する。

学修課題：スポーツ生理学概論で学んだ内容（特に骨格筋、骨、脳について）を復習しておく。

第４回：老化と運動～免疫、肥満、炎症～

第2回からさらに詳細な内容を扱う。免疫システムについて概説し、肥満、炎症についても老化の視点から解説をする。また、運動が免疫機能にどのような影響を与えるか、肥満や炎症にどのような効果があるか解説する。

学修課題：スポーツ生理学概論で学んだ内容（特に免疫について）を復習しておく。

第５回：老化と栄養

高齢者が健康を維持するために、運動とともに必要な栄養について解説する。また、次回授業の事前学習となる調査の方法について解説をする。

学修課題：運動と栄養についてこれまで学んだことを復習しておく。

第６回：運動実施の阻害要因について

これまで加齢による身体の変化と運動の効果について解説をしてきたが、運動の実践率は高くない。実際に身近な方の運動実施についての調査(事前課題)結果を分析し、運動の阻害要因について考察をし、レポート形式にまとめる。

学修課題：第５回で課した調査を実施する。

第７回：授業のまとめ（１）と到達度検証

これまでの授業内容のふりかえりを行ない、老化と運動についてまとめる。またこれまでの授業内容について記述試験を行なう。

学修課題：第１回から６回までの授業内容を復習しておく

第８回：中高齢者のスポーツと実際ーニュースポーツについて

ニュースポーツについて概説をする。また事例として木球を取り上げ、ニュースポーツの歴史、実践・普及についての課題を学ぶ。

学修課題：ニュースポーツについて、興味のある種目について調べておく。

第９回：中高齢者のスポーツと実際ー実技

ニュースポーツの実践として、木球を行なう。ルールや記録の取り方を説明し、グループ分けをした後実技に移る。運動のできる格好で参加すること。また各自防寒対策をすること。

学修課題：木球について、各自映像を見て予習をする。

第10回：レポートのふりかえり

第6回で作成したレポートについて、良いレポートの例を参考にしながらふりかえりを行なう。また受講生の調査結果と、関連した研究結果とを比較し、運動の阻害要因について詳細に解説する。

学修課題：授業内容をもとに自身のレポートに修正を加える。

第11回：生涯スポーツのはじまりと日本における現状

生涯スポーツについて､その概念および歴史について解説する。また、日本での現状についても解説する。

学修課題：授業内容について、関連する書籍を調べ、学期末レポート作成時の参考資料を作成する。

第12回：ヘルスプロモーションと行動変容ステージ

ヘルスプロモーションと行動変容ステージについて解説し、健康づくりのために実施されている方策について解説する。

学修課題：健康づくりのために、自身の自治体で実施されている方策について調べてくる。

第13回：スポーツの多様性

ニュースポーツをはじめ、世界各国のスポーツを紹介する。スポーツの多様性に触れ、生涯スポーツとしてのスポーツの価値を考え、これからの生涯スポーツのあり方について考える。

学修課題：授業で紹介したスポーツ以外に、日本では見かけないスポーツについて調べる。

第14回：グループワーク～スポーツのルールの工夫～

既存のスポーツにルールを加え、対象を限定しない新しいスポーツとなるよう工夫する。グループに分かれて検討を行ない、授業の後半でグループ毎に発表を行なう。準備についてはグループ内でのピア評価、発表についてはグループ関での評価を行なう。

学修課題：グループワークの課題について各自でルールの工夫について考えておく。

第15回：授業のまとめ（２）

これまでの授業についてまとめを行なう。また学期末レポートの課題について詳説する。

学修課題：学期末レポートの作成。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（40%）：授業内容について理解度を評価する

授業内テスト（20%）：授業中の知識の習得度について評価する

レポート課題（10%）：提示された条件が満たされているかどうかを評価する

グループワークへの取り組み（10%）：グループワークへの貢献度、プレゼンテーションの完成度について評価する

学期末レポート（20%）：授業内容の理解度および、生涯スポーツの今後の展望について自身の考えを述べられるかどうかを評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜レジュメで触れる。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

履修には「高齢化と家族」の単位を修得している必要がある。

受講態度の悪い学生には受講を認めない。第１回のガイダンス時に、受講態度についての説明をするので、本科目のルールを理解した上で以降の授業に参加すること。

学校スポーツ専門実習Ⅰ　【担当】学校スポーツコース教員

■授業概要

模擬授業は、教師役にとって実際に教師行動（説明や声かけなど）の実践を積むことができ、生徒役や観察役にとっても、「体育授業を学ぶ」という意味で価値が認められている。本講座では、学校体育の実技領域を対象に、グループで模擬授業を計画し実施する。その際、組織的観察法を用いて客観的に評価し、授業後には協同的な省察を行う。このPDCAサイクルを繰り返すことで、受講生が保健体育授業に関する専門的知識や実践的指導力を向上させるとともに、反省的実践家としての資質能力を高めることをねらいとしている。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：模擬授業の計画
目標：授業を構想し、指導案を正しく書くことができる。

2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：模擬授業の実施
目標：計画した指導案に沿って授業を展開することができる。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：模擬授業の振り返り（協同的な省察）
目標：客観的な事実に基づき、批判的かつ建設的に授業を振り返ることができる。

4．DP11．忠恕の心
具体的内容：模擬授業に関わる活動
目標：仲間と協同して活動することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：模擬授業の実施方法
模擬授業の担当領域及び種目と役割を確認する。
学修課題：模擬授業の意義について調べてくる。

第２回：授業計画の作成
グループに分かれて授業計画を立てる。
学修課題：担当領域の学習指導要領を読み込む。

第３回：授業計画の修正
担当教員の指摘をもとに、指導案を修正する。
学修課題：指導案を仕上げてくる。

第４回：プレ模擬授業の実施
各グループでマイクロティーチングを行い、授業計画を修正する。
学修課題：プレ模擬授業の準備を行う。

第５回：模擬授業（１）器械運動／体つくり運動
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：器械運動／体つくり運動の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第６回：模擬授業（２）球技（ゴール型）／球技（ネット型）
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：球技（ゴール型）／球技（ネット型）の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第７回：模擬授業（３）武道／ダンス
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：武道／ダンスの授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第８回：模擬授業（４）水泳／陸上競技
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：水泳／陸上競技の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第９回：前半の模擬授業の振り返り
ダイジェスト映像を用いて協同的に省察し、学びを共有する。
学修課題：後半のリフレクションシートを読み返す。

第10回：模擬授業（５）体つくり運動／器械運動
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：体つくり運動／器械運動の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第11回：模擬授業（６）球技（ネット型）／球技（ゴール型）
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：球技（ネット型）／球技（ゴール型）の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第12回：模擬授業（７）ダンス／武道
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：ダンス／武道の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第13回：模擬授業（８）陸上競技／水泳
模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。
学修課題：陸上競技／水泳の授業映像を再視聴し、授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる。

第14回：後半の模擬授業の振り返り
ダイジェスト映像を用いて協同的に省察し、学びを共有する。
学修課題：後半のリフレクションシートを読み返す。

第15回：振り返りとまとめ
模擬授業の計画と実施について振り返る。
学修課題：指導案やリフレクションシートをまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（45%）：授業内の課題または模擬授業のリフレクションシートを45点満点で評価する。
模擬授業の計画と実施（30%）：計画した指導案とその授業実践を30点満点で評価する。
模擬授業の振り返り（25%）：模擬授業の反省と改善策をレポートにまとめたものを25点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説　体育編（東山書房）
文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（未定）高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）
その他、教材づくりに必要な関連書籍

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
学校スポーツコース３年次生の必須科目です。この科目を履修済みでないと、専門実習Ⅱには参加できません。
本科目は、模擬授業を二箇所で同時に展開します。したがって、第５回～第８回と第10回～第13回では、領域・種目を入れ替えて行います。

学校スポーツ専門実習Ⅱ　【担当】学校スポーツコース教員

■授業概要
模擬授業を中核とした集中授業である。専門実習Ⅰからの発展として、体育実技だけでなく保健や体育理論の座学の模擬授業にも取り組む。集中授業による実習になるため、各グループでの資料作成、授業作り等に継続して取り組むことが目指される。保健体育授業（保健・体育理論・体育実技）に関する専門的知識、実践的な指導力を向上させる。多角的な視点から授業を検討し、授業を作る力、授業を観る力、授業を改善する力等を向上させる。

■養うべき力と到達目標
1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：模擬授業の計画
目標：保健・体育理論・体育実技の授業を計画でき、正しく指導案を書くことが出来る。
2．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：模擬授業の実践
目標：計画した指導案に沿った授業を展開することができる。
3．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：模擬授業の振り返り
目標：客観的な事実に基づいて授業を振り返り評価し、改善することができる。
4．DP11．忠恕の心
具体的内容：模擬授業に関わる活動
目標：仲間と連携・協働して活動することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）
第１回：授業展開の検討
授業会場における、細部にわたる授業展開の検討
学修課題：授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第２回：授業の展開（体育実技・体つくり運動）
体育実技の体つくり運動領域の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実施者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：体つくり運動の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第３回：授業の展開（体育実技・器械運動）
体育実技の器械運動領域の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：器械運動の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第４回：授業の検討（体育実技・体つくり運動及び器械運動）
体育実技の体つくり運動と器械運動領域のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。
体つくり運動や器械運動に関わる総括的な討議を行う。
学修課題：討議結果のまとめ
第５回：授業の展開（保健・心身の発達と心の健康）
保健の心身の発達と心の健康における授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：心身の発達と心の健康の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第６回：授業の展開（保健・健康と環境）
保健の健康と環境における授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：健康と環境の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第７回：授業の展開（保健・傷害の防止）
保健の傷害の防止における授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：傷害の防止の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第８回：保健授業の検討
保健授業のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。
保健授業に関わる総括的な討議を行う。
学修課題：討議結果のまとめ
第９回：授業の展開（体育実技・陸上競技）
体育実技の陸上競技領域の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：陸上競技の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第10回：授業の展開（体育実技・球技）
体育実技の球技領域の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：球技の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第11回：授業の検討（体育実技・陸上競技及び球技）
体育実技の陸上競技及び球技のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。
陸上競技及び球技の授業に関わる総括的な討議を行う。
学修課題：討議結果のまとめ
第12回：授業の展開（保健・健康な生活と疾病の予防）
保健の健康な生活と膝秒の予防における授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：健康な生活と疾病の予防の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第13回：授業の展開（体育理論）
体育理論における授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う。
また、授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う。
学修課題：体育理論の授業観察で得られたデータの整理・分析。授業計画の検討と授業準備。授業記録の作成
第14回：授業の検討（保健・健康な生活と疾病の予防及び体育理論）
保健授業及び体育理論のデータから授業実践者は自己評価を行う。また、相互評価や指導者評価を行う。
保健授業及び体育理論に関わる総括的な討議を行う。
学修課題：討議結果のまとめ
第15回：実習の総括
授業実践、授業参加、授業観察、授業分析の体験で得られた成果をレポートにまとめる。
学修課題：実習全体の反省とリフレクションシートの作成

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
模擬授業への実技・および講義への参加（30%）：授業の参加度は各回２点×15回とする。得点の基準は下記の通り。２点：自身の課題と役割を達成し、適切な評価とリフレクションができる。
模擬授業の計画と実施（40%）：40点：授業が綿密に計画され、確実に実施され、実態に応じて臨機応変に対応できている。30点：授業が綿密に計画され、それに基づき実施できている。20点：計画された授業が実施されている。
レポート（30%）：30点：一貫した単元計画と詳細な毎時の指導案が作成できている。20点：単元計画と毎時の指導案が作成できている。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
「体育授業を観察評価する」　高橋健夫　編著　（明和出版）
指導計画、指導資料に関わる文献・資料については、適宜相談に応じる。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
学校スポーツコース３年次生の必須科目です。専門実習Ⅰを修得していることが前提です。
保健体育科教員に必要な実践的力量としての知識や技能について検討し、体験し、修得することを目指した授業で学修模擬授業実践前のゼミ学生による授業以外の時間での話し合いや模擬模擬授業、リフレクションと内容検討が大切な学修になります。

保健体育科教育課程論

【担当】柴田　俊和

■授業概要

保健体育授業を担当する授業者としての基本的な能力の向上を目指した講義と討論を中心とした授業である。現行の小学校・中学校・高等学校学習指導要領と今回改訂された新学習指導要領の内容理解を深めるとともに、教育現場での教材研究や授業研究の実態を知り、これから学ぶべき方向を考える資料とする。また、学校全体の保健体育授業の年間計画を立てる際に工夫・配慮すべき項目や内容を検討し、各自で中学校の年間授業計画と授業内容一覧を作成する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：学校体育で行われている運動とスポーツとの違いを知り、体育の学習指導の難しさを考える。

目標：多角的な視点から保健体育授業を検討し、校種や学年等に応じた授業計画の作成したり授業を考え創り上げる力を向上させる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：体育実技、保健、体育理論で教えるべき内容を知ることで、保健体育で扱うべき領域の広さに気づく。

目標：保健体育を教えるために、自然環境や人、スポーツに関して学ぶべき内容が非常に多いことを理解する。

３．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：学習指導要領で求められて保健体育科の学習課題を理解し、どのように授業を計画し運営すべきかを考える。

目標：保健体育の授業計画や運営に必要なスポーツを教材化する力について理解する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：教育課程とカリキュラム
体育科教育課程論で何を学ぶのか
教育課程（カリキュラム）とは何か
学修課題：保健体育の教育課程について様々な事例を集める

第２回：学習指導要領にみるカリキュラム改革の動向①（現行について）
現行の学習指導要領について
今回の改訂の特徴について
学修課題：過去の学習指導要領の考え方や内容の変遷を調べ、発表資料を作る

第３回：学習指導要領にみるカリキュラム改革の動向②（改訂内容について）
各領域・種目の改訂内容の確認
学修課題：近年の学習指導要領の考え方や内容の変遷を調べ発表資料を作る

第４回:現行学習指導要領の特徴と問題点の検討・発表・討論①（実技）
現行学習指導要領における実施上の課題を検討する
体育実技の課題を検討する
学修課題：現行学習指導要領の特徴と実施上の問題点をまとめる

第５回:現行学習指導要領の特徴と問題点の検討・発表・討論②（理論）
現行学習指導要領における実施上の課題を検討する
体育理論の課題を検討する
学修課題：現行学習指導要領の特徴と実施上の問題点を発表する資料作り

第６回：運動領域や種目の決定とカリキュラム編成①（カリキュラムの編成）
現行の学習指導要領に対応した体育の年間計画を編成・検討する
年間計画作成上の留意事項を考える
学校体育の年間計画を構成する
学修課題：カリキュラムの編成について調べてまとめる

第７回：運動領域や種目の決定とカリキュラム編成②（年間授業計画表の作成）
新学習指導要領に対応した体育の年間計画を編成・検討する
年間計画作成上の留意事項を考える
学校体育の年間計画を構成する
学修課題：年間授業計画表を作成する

第８回：現行学習指導要領に基づいたカリキュラム例の発表・討論①（中学校）
作成した年間計画を発表し、問題点や課題を検討する
中学校の年間計画
学修課題：作成した年間授業計画を検討・改善する

第９回:現行学習指導要領に基づいたカリキュラム例の発表・討論②（高等学校）
作成した年間計画を発表し、問題点や課題を検討する
高等学校の年間計画
学修課題：再検討した年間授業計画の発表資料を作成する

第10回：体育授業における学習指導論
よい体育の授業とは何かについて検討する
学修課題：体育の学習指導論において、良い授業とは何かについて調べてまとめる

第11回：体育授業における学習形態論
よい体育授業を創るための学習形態について発表・検討する
学修課題：体育の学習形態論につて調べてまとめる

第12回：体育授業における学習評価論
体育における適切な学習評価について検討する
学修課題：体育における学習評価について調べてまとめる

第13回：体育授業における指導技術論
体育における指導技術とは何かを検討する
学修課題：体育の指導技術と指導方略の違いについて調べてまとめる

第14回：体育授業の運営に関わる検討事項の検討と発表・討論①（授業マネジメント）
体育授業におけるマネジメントについて検討する
学修課題：体育の単元作りや授業作りにおける問題点をまとめ発表資料を作る

第15回：体育授業の運営に関わる検討事項の検討と発表・討論②（研修・養成）
体育教師の研修と実践的力量の養成について検討する
学修課題：体育教師としての成長と教師教育について調べてまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎時のコメントカード（60%）：課題について十分に理解し、明確かつ論理的に説明ができているか。４点満点×15回
最終課題レポート（40%）：中学校における保健体育科の年間授業計画、学習内容一覧と指定種目の単元計画が、実現可能で分かりやすく書けているか。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

体育科教育学入門　高橋健夫　編著（大修館書店）
保健体育科教育法　杉山重利・園山和夫　編著（大修館書店）
小学校、中学校、高等学校学習指導要領解説　文部科学省

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツの理論と実際

【担当】川合　英之・黒澤　寛己

■授業概要

本講義・実習では、体育授業の計画、実践、振り返りという一連の流れを模擬授業形式で経験することを通して、授業づくり・授業運営に必要となる視点（授業の構成要素）を解説する。また、実習を通して授業を観察・分析する方法を体験し、反省的な授業実践の意義を検討する。
保健体育科教育法で学んだ、指導案作成の知識を活かして実践的な指導案を作成する。その後、教師役と生徒役に別れて、指導案をもとに模擬授業を行い、各グループで評価し合う。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：保健体育科授業の指導案作成。
目標：学校現場で授業を展開するために必要な指導案作成の知識を身に付ける。

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能
具体的内容：安全で効果的な保健体育授業の実践
目標：学校現場において、安全で効果的な授業が展開できる技能を身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション：講義計画、グループ分け、課題選択
授業計画の確認、グルーピング、模擬授業単元の決定
学習課題：各自が担当する模擬授業の構想を練る
学修課題：小・中・高校いずれかの学習指導要領解説の体育編・保健体育編の目標と内容を読んでおくこと。

第２回：指導計画および学習資料の作成
授業計画の立て方と学習指導案の書き方の確認
学習課題： 授業計画の立て方、学習指導案の書き方を理解し、学習指導案を作成する
学修課題：小・中・高校いずれかの学習指導要領解説の体育編・保健体育編の指導計画の作成と内容の取扱いを読んでおくこと。

第３回：授業観察法について
授業観察法について理解する
学習課題：授業観察法を理解し、学習指導案を作成する
学修課題：授業観察法について調べておく。

第４回：グループ活動（指導案の作成）
決定した単元の内容を理解し、指導案を作成する
学習課題：学習指導案の作成
学修課題：学習指導案作成にあたって学習指導要領の内容の取扱いを確認しておく。

第５回：作成した指導案の検討
作成した指導案をグループで検討する
学習課題：学習指導案の修正、及び検討
学修課題：作成した指導案で授業をシミュレーションしておく。

第６回：形成的授業評価・リフレクションシートを利用した授業のふりかえりについて
形成的授業評価の記入の方法
リフレクションシート記入の方法
学習課題： 形成的授業評価、リフレクションシート記入の方法について理解する
学修課題：よい体育授業とはどのようなものか調べておく。

第７回：模擬授業①：体つくり運動
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：体力つくり運動の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第８回：模擬授業②：器械運動
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：器械運動の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第９回：模擬授業③：陸上競技（トラック）
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：陸上競技(トラック)の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第10回：授業検討会①
前半の模擬授業のVTRや観察結果などを踏まえて授業改善の方法を検討する
学習課題：授業改善レポートの作成と指導案の再検討
学修課題：自グループが実施した模擬授業について振り返りを行い、発表できるようにしておく。

第11回：模擬授業④：陸上競技（フィールド）
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：陸上競技（フィールド）の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第12回：模擬授業⑤：球技（ゴール型）
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：球技(ゴール型)の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第13回：模擬授業⑥：球技（ネット型）
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：球技(ネット型)の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第14回：模擬授業⑦：武道・ダンス
授業実践と形成的授業評価・リフレクション
学習課題：リフレクションシートの作成と指導案の作成
学修課題：武道・ダンスの指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。

第15回：授業検討会②
後半の模擬授業のVTRや観察結果などを踏まえて授業改善の方法を検討する
学習課題：授業改善今後の学習課題のレポート作成
学修課題：自グループが実施した模擬授業について振り返りを行い、発表できるようにしておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内の小レポート、模擬授業の指導案作成・実践・観察、レポートで評価する。それぞれの点数と基準は以下の通り。
毎回の小レポート（30%）：２点×15回
２点：授業内容や他者の意見を踏まえて独自の視点で書かれている
１点：授業の内容を踏まえて書かれている
模擬授業の指導案作成・実践・観察（30%）：30点：詳細に計画された指導案の作成、作成した指導案に沿った模擬授業の実施、20点：計画された指導案の作成、作成した指導案に留意した模擬授業の実施、10点：指導案の作成、模擬授業の実施
レポート（40%）：40点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている
30点：指定の形式に沿って書かれている

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

・学習指導要領解説　保健体育編（小学校、中学校、高等学校）
・体育授業を観察評価する　　高橋　健夫　編著　（明和出版）
他にも、適宜紹介する。多くの資料を配布するのでストックし活用すること。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本科目では授業の準備、模擬授業・観察、振り返り等と、受講生には授業外においても相当な負荷を与える。明確な目的意識、教師を志望する自覚と責任を持って受講すること。
模擬授業で実技を伴う際には、必ずスポーツウエア類を着用し、アクセサリー類を身につけることは禁止する。
履修人数によっては、模擬授業の回数が増えるなど、シラバスに変更がある場合がある。

学校スポーツ指導法Ⅰ

【担当】谷川　尚己・川合　英之

■授業概要

体育の授業を進めるにあたって、ラジオ体操や集団行動の基本が身につき、指導できるようになることを目指す。また、授業における基礎内容、特に、集団種目における学習指導に関する要点の習得を目指す。中学校や高等学校での集団種目の導入や単元の技能の習得、授業を進めるにあたっての指導ポイント（苦手な生徒への指導方法など）を考える。

■養うべき力と到達目標

１．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：保健体育科の教員として、体育の実技指導を行うにあたっての実践力を習得する。指導方法はもちろん特に体育が苦手の生徒への対応について探究する。

目標：体育の多様な単元の指導方法について、個人はもちろんグループ活動を通して深め合い、高めあう。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション及び体育の授業の指導ポイントについて

中学校・高等学校の集団種目の球技の内容について、学習指導要領をもとに考える。

学修課題：中学校・高等学校の集団種目の球技の内容について校種別にまとめる

第２回：ラジオ体操第１・第２

ラジオ体操第１・第２が着実にでき、細部にわたって指導できるようにする。号令の掛け方も練習する。

学修課題：生徒に向かって逆方向からの動きで指導できる。

第３回：集団行動

姿勢、方向転換、集合と整頓、列の増減等がスムースに行えるよう練習する。

学修課題：グループで、生徒を動かせる練習をする

第４回：準備運動やゲーム

授業内容に即した準備運動やゲーム等が実践できる。

学修課題：実践したゲームをもとに新たなゲームを考案する

第５回：集団種目の球技（ゴール型）について①（ねらい）

中学校・高等学校の球技（ゴール型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。

学修課題：ゴール型の球技のねらいを整理しておく

第６回：集団種目の球技（ゴール型）について②（導入内容）

中学校・高等学校の球技（ゴール型）の指導内容とそれに関係づけた導入内容について考える。

学修課題：ゴール型の球技の導入内容を整理しておく

第７回：集団種目の球技（ゴール型）について③（指導内容）

中学校･高等学校の球技（ゴール型）の授業の進め方について考える。

学修課題：ゴール型の球技の指導内容を整理しておく

第８回：集団種目の球技（ネット型）について①（ねらい）

中学校・高等学校の球技（ネット型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。

学修課題：球技（ネット型）のねらいを整理しておく

第９回：集団種目の球技（ネット型）について②（導入内容）

ネット型のバレーボール、卓球、テニス、バドミントンの指導内容とそれに関係づけた導入内容について考える。

学修課題：ネット型の球技の導入内容を整理しておく

第10回：集団種目の球技（ネット型）について③（指導内容）

中学校･高等学校の球技（ネット型）の授業の進め方について考える。

学修課題：ネット型の球技の指導内容を整理しておく

第11回：集団種目の球技（ベースボール型）について①（ねらい）

中学校・高等学校の球技（ベースボール型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。

学修課題：ベースボール型のソフトボールのねらいを整理しておく

第12回：集団種目の球技（ベースボール型）について②（導入内容）

ベースボール型のソフトボールの指導内容とそれに関係づけた導入内容について考える。

学修課題：ベースボール型のソフトボールの導入内容を整理しておく

第13回：集団種目の球技（ベースボール型）について③（指導内容）

中学校・高等学校の球技（ベースボール型）の授業の進め方について考える。

学修課題：ベースボール型のソフトボールの指導内容を整理しておく

第14回：中学校・高等学校の集団種目の球技の苦手な生徒への指導について考える。

中学校･高等学校の集団種目の球技のゴール型、ネット型、ベースボール型の各内容についての苦手な生徒への指導方法についてグループごとに考え、発表する。

学修課題：集団種目の球技の内容について、課題や指導のポイントをまとめる

第15回：まとめ

中学校・高等学校の集団種目の球技の内容における、課題や指導のポイントについて各自の考えをまとめ発表する。

学修課題：発表した中学校・高等学校の集団種目の球技の内容すべてを参考に、要点をまとめレポートを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

集団行動やラジオ体操の指導力（30%）：集団行動とラジオ体操の指導ができる：30点

集団行動とラジオ体操の指導がまずまずできる：20点

集団行動とラジオ体操の指導があまりできない：10点

集団行動とラジオ体操の指導ができない：０点

集団種目の授業の導入や進め方（40%）：集団種目の授業の導入や進め方がしっかりできる：40点

集団種目の授業の導入や進め方がまずまずできる：30点

集団種目の授業の導入や進め方があまりできない：20点

集団種目の授業の導入や進め方ができない：10

レポート等の提出物（30%）：各回のレポートがしっかりできている：30点

各回のレポートがまずまずできている：20点

各回のレポートがあまりできていない：10点

各回のレポートができていない：０点

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

なし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ指導法Ⅱ

【担当】大西　祐司・髙松　靖

■授業概要

小学校・中学校・高等学校での体育授業を指導するにあたって、保健体育の教員が身に付けていなければならない基本的な指導法の習得を目指す授業です。本授業では、器械運動、陸上競技、ダンス、体つくり運動などの個人種目を中心に、比較的運動が苦手な子供への指導、補助運動、指導の導入から展開の仕方について学びます。

本授業では、指導の方法を学習するだけでなく、実際に体験活動を行うことで、指導法への理解を深めます。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：毎授業後の小レポート

目標：体育授業で指導する際の各種目における指導法を理解することができる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：実習活動

目標：指導法の体験活動によるスポーツ技能の習得と指導法の意味について理解を深めることが出来る。

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：実習に関わる活動

目標：仲間と連携・協働して活動することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：指導法の重要性

学習指導要領から指導内容を把握し、指導法の位置付けと重要性を理解する。

学修課題：学習指導要領の各領域の技能の指導内容を読む

第２回：体つくり運動（体ほぐしの運動）の指導法

体ほぐしや体への気づきを促す運動を理解し実践する

学修課題：学習指導要領解説書の体ほぐし運動分野を読む

第３回：体つくり運動（体力を高める運動）の指導法

ねらいとする体力の諸要素を理解し、児童生徒の実態に合わせた動きづくりを実践する

学修課題：学習指導要領解説書の体力を高める運動領域を読む

第４回：ダンス（フォークダンス）の指導法

フォークダンスの文化的・歴史的な背景を理解し、型のある踊りを覚えて実践する。

学修課題：学習指導要領解説書のフォークダンス分野を読む

第５回：ダンス（現代的なリズムのダンス）の指導法

音楽の構造を理解し、多様なステップや動きを実践する。

学修課題：学習指導要領解説書の現代的なリズムのダンス分野を読む

第６回：ダンス（創作ダンス）の指導法

典型教材（ワハハダンス、新聞紙）の特性を理解し実践する。

学修課題：学習指導要領解説書の創作ダンス分野を読む

第７回：陸上競技（ハードル走）の指導法

第一ハードルまでの助走、クリアランス、インターバルのリズミカルな疾走について理解し実践する。

学修課題：学習指導要領解説書のハードル走分野を読む

第８回：陸上競技（走り高跳び）の指導法

跳び方の種類や段階的な指導、運動局面に応じた助走、跳躍、着地の運動について理解し実践する。

学修課題：学習指導要領解説書の走り高跳び分野を読む

第９回：陸上競技（走り幅跳び）の指導法

運動局面に応じた助走、跳躍、着地の運動について理解し実践する。

学修課題：学習指導要領解説書の走り幅跳び分野を読む

第10回：器械運動（マット運動①）の指導法（前転系・後転系）

マット運動の前転系・後転系の基本的な考え方を理解し、系統性や発展性を踏まえた運動の指導法を実践する。

学修課題：学習指導要領解説書のマット運動（前転系・後転系）分野を読む

第11回：器械運動（マット運動②）の指導法（倒立回転技）

倒立回転技の基本的な考え方を理解し、系統性や発展性を踏まえた運動の指導法を実践する。

学修課題：学習指導要領解説書のマット運動（倒立回転技）分野を読む

第12回：器械運動（とび箱運動①）の指導法（きり返し跳び系）

とび箱運動の基本的な考え方を理解し、きり返し跳び系の系統性・発展性を踏まえた運動の指導法を実践する。

学修課題：学習指導要領解説書のとび箱運動（きり返し跳び系）分野を読む

第13回：器械運動（とび箱運動②）の指導法（回転跳び系）

回転跳び系の技の基本的な考え方を理解し、系統性・発展性を踏まえた運動の指導法を実践する。

学修課題：学習指導要領解説書の跳び箱運動（回転跳び系）分野を読む

第14回：器械運動（鉄棒運動・平均台運動）の指導法

鉄棒運動・平均台運動の基本的な考え方を理解し、系統性・発展性を踏まえた運動の指導法を実践する。

学修課題：学習指導要領解説書の鉄棒運動・平均台運動分野を読む

第15回：全体のまとめ及び総評

これまで学んだ領域の指導法のまとめ

学修課題：これまでに書いた振り返りシートを読み持参する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

毎授業後の小レポート（60%）：最大60点満点（各４点）で評価する。各授業内で得た指導の仕方や方法、意義についての振り返りを行い、小レポートに記述する。

指導法の理解度（40%）：領域ごと（器械運動、陸上競技、ダンス、体つくり運動）の指導法のまとめをレポートに記述し、40点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「小・中・高等学校学習指導要領解説　体育・保健体育編」（文部科学省）。ネットからもダウンロード可。その他の資料は適宜配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

よい教員や指導者になるためには、「何を」教えるかだけでなく「どのように」教えるかが、その方法を知っておく必要があります。その自覚を持って、主体的に取り組むこと。学校スポーツ指導法Ⅰを受講しておくことが望ましい。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

保健体育授業分析評価法

【担当】大西　祐司

■授業概要

昨今の教育情勢を踏まえれば、保健体育科に限らず授業のアカウンタビリティー（説明責任）が厳しく問われており、オーセンティックに評価し、授業の成果を示す必要がある。本講座では、学校スポーツ専門実習Ⅰの模擬授業の映像やデータと対応させながら、教師や児童生徒の行動、授業評価、並びに学習成果などを分析評価する方法について学ぶ。量的・質的なデータをもとに授業を省察し、効果的な授業実践に向け、具体的な授業の改善策を考えていく。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：昨今の国内外の教育情勢と体育科の現状

目標：授業を分析評価する意義を理解している。

２．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：教師行動、授業評価、並びにパフォーマンスの分析評価

目標：さまざまな分析評価法を駆使して、客観的なデータを示すことができる。

３．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：よい体育授業を成立させる条件

目標：得られたデータから授業の具体的な改善策を見出すことができる。

４．DP11.忠恕の心

具体的内容：授業の分析評価、改善策の提示

目標：主体的かつ協働的に仲間と活動することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：保健体育授業を分析評価するとは

本講義の進め方並びに留意事項の確認

体育授業を分析評価する意義を学ぶ

学修課題：これまで経験した授業を振り返る

第２回：よい体育の授業とは

授業の内容的条件、基礎的条件を知る

学修課題：よい体育の授業について自身の経験から考えてくる

第３回：授業場面の期間記録法

運動学習場面、認知学習場面、インストラクション場面、マネジメント場面を知る

学修課題：期間記録法の概要を調べてくる

第４回：教師の相互作用行動の観察法

相互作用（フォードバック、励まし）を知る

学修課題：相互作用行動の観察法の概要を調べてくる

第５回：簡易な組織的観察法

教師の言葉かけの記録、マネジメント時間の記録

学修課題：組織的観察法の現場での活用の仕方を考えてくる

第６回：体育科の目標

体育科の目標の変遷と評価の観点の関係について

学修課題：平成30改訂の学習指導要領の目標を調べてくる

第７回：体育授業の内容と方法

学習指導要領の指導内容と多様な指導方法について

学修課題：体験した指導方法について振り返る

第８回：運動有能感

運動有能感を調査する意義と方法

学修課題：自身が運動が得意・苦手だと感じる理由を考えてくる

第９回：体育授業と学級集団意識

学級集団意識を調査する意義と方法

学修課題：体育授業が学級に及ぼす影響を考えてくる

第10回：オフタスク（課題から離れた行動）

観察カテゴリーに応じてGTS法を用いる

学修課題：ALT-PE法の概要を調べてくる

第11回：ゲームパフォーマンス

心電図型とGPAIによるゲーム分析

学修課題：球技のよい授業について自身の考えをまとめてくる

第12回：戦術の理解度テスト

画像や質問紙による理解度テスト

学修課題：よい球技の授業について自身の考えをまとめてくる

第13回：保健科の授業分析①（質問紙）

質問紙による授業分析

学修課題：よい保健の授業について自身の経験を振り返る

第14回：保健科の授業分析②（映像）

映像による授業分析

学修課題：よい保健の授業について自身の経験を振り返る

第15回：全体のまとめおよび総評

保健体育授業分析評価法のまとめ

学修課題：これまでの講義の疑問点等をまとめてくる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（45%）：毎時間、授業内で課す課題を45点満点で評価する。

協働学習への取り組み（15%）：授業内で行われる取り組みへの態度を15点満点で評価する。

最終レポート（40%）：授業で学んだ分析評価法を用いて映像を分析し、その結果をもとに改善策を見出す課題を40点満点で評価する。

■教科書

高橋健夫　編著　・体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント　・明和出版　・2003年

■参考文献等

授業内容に応じて適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

学校スポーツ専門実習Ⅰを履修していることが望ましい。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

教材開発演習Ⅰ

【担当】黒澤　寛己・谷川　尚己

■授業概要

本授業ではまず、体育科の授業における既存の教材に触れその重要性を知ります。次に教材開発の視点や方法について理論的に学び、それらを踏まえ先行の実践を手がかりにグループに分かれて教材開発を行います。グループで作成した教材を発表し、その有効性を受講者間で振り返り、よりよい教材を再提案します。

各回の講義では、体育実技の各領域の内容を理解するとともに、複数種目について指導案を作成し模擬授業を行います。

■養うべき力と到達目標

１．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：体育科の授業における既存の教材の重要性を知り、教材開発の視点や方法をもとに、グループに分かれて教材開発を行う。さらには、グループで作成した教材を発表し、その有効性について議論を深める。

目標：体育科の授業における教材開発の理論と意義を理解し、教材開発の視点及び方法を探究し、各領域における有効な教材を開発することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：教材開発の重要性について
本講義の進め方並びに留意事項の確認、グループ編成と種目決め
学修課題：体育科教育学入門「Lecture 2 体育の教材・教具論」の内容理解

第２回：実践例の提示①（体ほぐし運動）
体ほぐしの運動の教材について学習する
学修課題：実践例に関する資料を作成する

第３回：実践例の紹介②（体つくり運動）
体力を高める運動の教材について学習する
学修課題：実践例に関する資料を作成する

第４回：教材づくりの基本的視点
教材づくりの内容的視点、方法的視点について学習する
学修課題：体育科教育学入門「Lecture 2 体育の教材・教具論」に掲載されている理論を整理する。

第５回：グループでの教材づくり①（先行研究の調査）
グループで担当する種目の先行教材を吟味する
学修課題：先行研究を調べる

第６回：グループでの教材づくり②（教材の開発）
グループで担当する種目の教材を開発する
教具を作成する
学修課題：教具作成のための材料を収集する

第７回：グループでの教材づくり③（指導案の作成）
教材の発表に向けて指導案やシナリオを作成する
学修課題：各自で指導案やシナリオを作成する

第８回：教材の発表①（マット運動）
マット運動の教材を検討する
学修課題：マット運動の教材に関する資料を作成する

第９回：教材の発表②（跳び箱運動）
跳び箱運動の教材を検討する
学修課題：跳び箱運動の教材に関する資料を作成する

第10回：教材の発表③（鉄棒運動）
鉄棒運動の教材を検討する
学修課題：鉄棒運動の教材に関する資料を作成する

第11回：教材の発表④（短距離走、ハードル走）
短距離走、ハードル走の教材を検討する
学修課題：短距離走、ハードル走の教材に関する資料を作成する

第12回：教材の発表⑤（走り幅跳び、走り高跳び）
走り幅跳び、走り高跳びの教材を検討する
学修課題：走り幅跳び、走り高跳びの教材に関する資料を作成する

第13回：教材の発表⑥（柔道）
柔道の教材を検討する
学修課題：柔道の教材に関する資料を作成する

第14回：教材の発表⑦（剣道）
剣道の教材を検討する
学修課題：剣道の教材に関する資料を作成する

第15回：教材開発のまとめ
グループでの反省と全体総括
学修課題：これまでの学習資料の整理、レポート提出

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

本講義では、毎時の小レポート、グループの教材発表（指導案含む）、課題レポートの合計100点満点で評価する。自身の担当グループの発表に欠席した場合は、グループ教材発表及び課題レポートについての評価点を失うことになるので注意すること。

毎時の小レポート（45%）：小レポートの評価基準
各回３点×15回
３点＝講義や演習の内容を十分理解している。
２点＝講義や演習の内容を理解している。
グループの教材発表（25%）：グループの教材発表の評価基準
25点＝教材開発の理論を踏まえ、教材が工夫されている。
20点＝教材が工夫されている。
課題レポート（30%）：課題レポートの評価基準
30点＝開発した教材に対し、理論を踏まえて批判的に検討できている。
25点＝開発した教材に対し、批判的に検討できている。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

体育の教材を創る－運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて－　岩田靖（大修館書店）
新版　体育科教育学入門　高橋健夫編著（大修館書店）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教材開発演習Ⅱ

【担当】柴田　俊和・股村　美里

■授業概要
中学校及び高等学校の保健と体育理論に関する理論に関する基本的な講義の後、受講者が主要な単元や題材に関する具体的な教材づくりを行います。グループ単位で自分たちが考案した教材や教具を活用した10分程度のマイクロティーチング（模擬授業）を行います。

■養うべき力と到達目標
１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：授業を計画するために必要な教材に関する知識
目標：中学校および高等学校の保健領域と体育理論についての教材についての知識を身につける
２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能
具体的内容：授業を計画する実践力
目標：教材研究を基に教科書を用いた授業展開を指導案としてまとめることができる
３．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：授業を実践する力
目標：計画した授業計画を基に、模擬授業として展開することができる。またその実践を振り返り、改善を図ることができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）
第１回：ガイダンス：保健および体育理論の授業で学ぶこととは
授業全体の計画に触れ、保健と体育理論の模擬授業へ向けた意識を高める。
保健および体育理論の授業で身に着けさせる知識について学ぶ
保健と体育理論の模擬授業を行うグループを決め、日程案を計画する。
学修課題：授業全体の計画を把握し、保健と体育理論で興味ある題材について調べる。
第２回：保健の学習指導案作成、保健の授業分析視点例
各グループで､保健の具体的で共有化できる学習指導案を作成する。また、保健の授業分析視点例に触れ、実際の保健の模擬授業の工夫につなげる。
学修課題：保健の具体的な学習指導案を作成し、保健授業の分析視点の例をまとめる。
第３回：保健の模擬授業（中学校）－心身の発達と心の健康－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、心身の発達と心の健康の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：中学生を対象とした心身の発達と心の健康の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。
第４回：保健の模擬授業（中学校）－傷害の防止－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、傷害の防止の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案についての評価・検討を行う。
学修課題：中学生を対象とした傷害の防止の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。
第５回：保健の模擬授業（中学校）－健康な生活と病気の予防－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、健康な生活と病気の予防の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：中学生を対象とした健康な生活と病気の予防の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。
第６回：保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康－とその検討①
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。
第７回：保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康－とその検討②
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした生活習慣病、感染症などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。
第８回：保健の模擬授業（高等学校）－生涯通じる健康－とその検討
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、性教育に関わる生涯通じる健康の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした性教育関連の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。
第９回：保健の模擬授業のリフレクション　まとめ
小学生、中学生、高校生対象を想定した保健の模擬授業全体を振り返り、保健教材・授業の工夫について検討する。
学修課題：小学生、中学生、高校生対象を想定した保健の模擬授業全体を振り返り、保健教材・授業の工夫をまとめる。
第10回：体育理論の学習指導案作成、体育理論の授業分析視点例
各グループで、体育理論の具体的で共有化できる学習指導案を作成する。また、体育理論の授業分析視点例に触れ、実際の体育理論の模擬授業の工夫につなげる。
学修課題：体育理論の具体的な学習指導案を作成し、体育理論の授業分析の視点例をまとめる。
第11回：体育理論の模擬授業－現代スポーツの諸問題－とその検討
中学生又は高校生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「現代スポーツの諸問題」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。
模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：現代スポーツの諸問題の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。
第12回：体育理論の模擬授業－運動技能を高め、実力を発揮する－とその検討
中学生又は高校生を想定して作成した教材･学習指導案に基づき、「運動技能を高め、実力を発揮する」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。
模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：運動技能を高め実力を発揮するの領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。
第13回：体育理論の模擬授業－体育・スポーツとフェアプレー－とその検討
中学生又は高校生を想定して作成した教材･学習指導案に基づき、「体育・スポーツとフェアプレー」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。
模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：体育・スポーツとフェアプレーの領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。
第14回：体育理論の模擬授業－オリンピックムーブメントと世界平和－とその検討
中学生又は高校生を想定して作成した教材･学習指導案に基づき、「オリンピックムーブメントと世界平和」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。
模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：オリンピックムーブメントと世界平和の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。
第15回：体育理論の模擬授業のリフレクション　まとめ
中学生、高校生を想定した体育理論の模擬授業全体を振り返り、形成的授業評価とリフレクションシートから得られた結果を参考に、教材の工夫や授業行動の改善の在り方について検討する。
学修課題：中学生、高校生対象を想定した体育理論の模擬授業全体を振り返り、授業改善の方策を考える。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
第１回目の授業で、模擬授業の担当の割り当てを行います。履修する学生は必ず出席してください。また欠席した場合は、第２回目の授業までに担当教員のところへ申し出て本演習の趣旨と模擬授業の担当についての指示を受けましょう。この指示を受けることができなかった場合、本演習の履修を認めないことがあります。本演習の円滑な運営に積極的に参加できることも評価の観点に含みます。
各回の小レポート（45%）：授業内容を踏まえて、独自の見解や具体例等が示された論述ができているか（３点満点×15回）。
担当授業後のリフレクション（15%）：作成した教材と授業計画に対する授業実践の成果と反省および改善策等が具体的に述べられているか。
まとめのレポート（40%）：授業を通して身につけた知識や経験を、今後の学習に具体的にどのように活かそうと考えているのか、反論を想定しながら自身の意見を提示できているか。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』
中学保健体育の教科書、高等学校保健体育の教科書は、図書館やラーニングコモンズ、さらには研究室等で所蔵しています。しかしながら、本演習では教科書を用いた授業づくりを重視しますので、単に学内にある教科書や書籍を閲覧するだけでなく個人で取り寄せるなどして、中学校・高等学校それぞれの保健体育科の教科書を購入することを前提として授業を進めます。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることとします。
様々な教具やICTを含む学習方法を活用した保健と体育理論の授業展開を目指して、グループで教材や教具の工夫や検討を行いながら、模擬授業（マイクロティーチング）を実践します。わかる・楽しい保健と体育理論の授業実践力を高めていきましょう。中学校や高等学校での学習だけでなく、小学校での学習も視野に入れて勉強しましょう。

身体開発専門実習Ⅰ

【担当】禰屋　光男・武田　哲子

■授業概要

運動・トレーニングによる生体への影響について，有酸素性・無酸素性と運動負荷の関係，形態計測，筋力・筋パワー・運動スピードの関係について実習を行う．また，種目特性に応じた献立作成，調理実習を行い，コンディショニングに必要な栄養サポートの基礎について習得する．　さらに，取得したデータの整理，基本的な統計学的検定，レポートの作成，プレゼンテーションの作成の手順を学習する．

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：トレーニング・健康に関する研究を実施するために必要な測定技術を習得する

目標：取得したデータに基づいて、結果を整理し、考察を行い、文章やプレゼンテーションを作成することができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：トレーニング科学・栄養学・医学の概説

授業の内容，進め方について説明する．

学修課題：配布された資料の内容を確認し，今後の実習の計画を理解しておくこと．

第２回：有酸素性運動のパフォーマンス評価

有酸素性運動中の酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度を測定し，有酸素運動時の運動強度評価の方法を解説する．

学修課題：取得したデータから酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度と運動負荷の関係を整理しておくこと．

第３回：無酸素性運動（スプリント運動）

無酸素性運動について，スプリントのパフォーマンス評価の方法を解説する．

学修課題：取得した無酸素性運動出力データを整理しておくこと．

第４回：パワーエクササイズの実践

スナッチ，クリーンなどのパワーエクササイズの正しいフォームを習得する．

学修課題：正しいフォームを確認しておくこと．

第５回：パワーエクササイズのパフォーマンス評価

映像データによりスナッチやクリーンのフォームの評価を行う．

学修課題：得られた評価結果から正しいフォームの習得の課題を整理すること．

第６回：関節可動域（ROM）の正確な計測と柔軟性の評価の実践

角度計（ゴニオメーター）を用いて各関節の正確なROMの計測方法を学び，それを実践する．また筋タイトネス，関節弛緩性の正しい評価方法を学び実践する．それぞれの測定結果を記録し，計測手技の習得状況の確認を最終的に行う．

学修課題：測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと．

第７回：正確な筋力評価と徒手検査の実践

徒手筋力テスト（MMT）による各筋肉の正確な計測方法を学び，それを実践する．また，代表的なスポーツ傷害の診断のために行う整形学的徒手検査についても実践する．測定結果を記録し，MMTおよび徒手検査手技の習得状況の確認を最終的に行う．

学修課題：測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと．

第８回：スポーツリハビリテーションの実践

実際にスポーツ現場で行われているリハビリテーションやトレーニングについて，正しいフォームを学びながら実践する．

学修課題：実習で行った正しいフォームの実践を復習しておくこと．

第９回：測定データの分析

５～６回目の実習でで得られた測定データを用いて，統計学的分析方法を学んで実践する．

学修課題：統計学的分析方法を復習しておくこと．

第10回：アスリートの食事計画

身体活動量，体格，競技特性を考慮した食事計画について学ぶ．栄養評価方法および献立立案の方法を習得し，実践（調理）計画を立てる．

学修課題：実習後レポートを作成する．

第11回：調理実習①

計画をもとに調理を行う。献立に基づいた調理実践のための基礎的な調理技術の習得を目指す．

学修課題：理論に基づき次回調理実習のための準備を行う．

第12回：調理実習②

計画された栄養評価に基づき，調理の際に配慮すべき点などアスリートのための調理の工夫を学ぶ．

学修課題：実習後レポートを作成する

第13回：データの分析

身体活動量，体格，栄養評価のデータの処理方法および分析方法を学ぶ．

学修課題：授業内容の復習と課題レポートを作成する．

第14回：実習のまとめとレポートプレゼンテーションの準備

グループごとに，この実習に関する課題に対するレポートとなるプレゼンテーションを準備する．

学修課題：次回のプレゼンテーションに向けて，各グループで準備を行うこと．

第15回：レポートプレゼンテーション

各グループに与えられた課題に基づくプレゼンテーションを実施する．

学修課題：プレゼンテーションに対してフィードバックされた課題を整理しておくこと．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

授業期間中の複数の実習ごとのレポートによる評価する

スポーツ生理学的テストに関するレポート（30%）：データ取得時の状況，データの分析，考察の充実度について30点満点で評価する

スポーツ栄養に関するレポート（30%）：データ整理の適切さ，分析の正確さ，分かりやすさについて30点満点で評価する

スポーツ医学に関するレポート（30%）：データ取得の状況，データの分析，考察の内容について30点満点で評価する

全体プレゼンテーション（10%）：実習に関する課題についてのグループプレゼンテーションを，その準備，完成度に対して10点満点で評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる．

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること．

履修には「スポーツ栄養学概論」および「スポーツ生理学概論」の単位を修得していることが必要となる．

実習にかかる諸費用（食材費等）は各自負担となる．

身体開発専門実習Ⅱ　【担当】田中　忍・佃　文子・藤松　典子

■授業概要

体力要素のうち，特にトレーニングや健康分野において重要である身体組成，等速性筋力測定装置を用いた筋力測定，ハートレートモニターを用いた心拍数測定，筋の柔軟性を評価するタイトネステストの項目について，測定し評価を行う．３つのグループに分かれて実施するため，測定を実際に行うなど主体的に学ぶことができる．また，それぞれの項目でレポートを作成し，測定結果のまとめかたやグラフ作成および参考文献を用いた考察を行うことで，卒業論文作成に向けた準備とする．

■養うべき力と到達目標

１．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：いくつかの体力要素を測定し，評価する．

目標：身体組成，筋力測定，心拍数測定，タイトネステストを測定し，結果を正しく評価することができる．

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：結果を表やグラフを用いてまとめる．

目標：効果的な図表を用いて結果をまとめることができる．

３．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：トレーニング・健康コースで特徴的な項目を測定し，評価する．

目標：卒業論文を作成するための材料となる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：ガイダンスとグループ分け

授業の進め方と到達目標および成績評価について確認する．特にレポート課題での評価の観点について詳しく説明する．

学修課題：レポートの書き方について，再度確認をしておく．

第２回：身体組成

身体組成はどのような指標を用いて評価するかを学ぶ．それぞれの測定でわかることと限界などの特徴を理解し，それぞれの標準値が示す内容を理解する．

学修課題：身体組成で評価できる項目を復習し，授業で行うインピーダンス法，キャリパー法およびBMIについて予習する．

第３回：身体組成の測定

インピーダンス法，キャリパー法を用いて身体組成をグループで測定し，結果をまとめる．

学修課題：結果を元に，考察をしてくる．

第４回：身体組成の評価

参考文献を元に，標準値を用いた比較を行う．参考文献をどのように探し，レポートに記載するかについても学ぶ．

学修課題：前回のレポートを修正して仕上げる．

第５回：身体組成の改善

改善したい身体組成の内容に合わせた運動プログラムを学ぶ．

学修課題：身体組成に合わせたプログラムを復習し，自身の身体組成の結果を元に運動プログラムを考える．

第６回：さまざまな筋力の評価

筋の張力を正確に測る方法があるのかや筋力測定で評価できることについて理解する．中でも，関節の回転運動を用いて筋力を測定できる方法について学ぶ．

学修課題：関節の回転運動を用いた筋力測定について復習する．

第７回：等速性筋力測定装置を用いた筋力測定

等速性筋力測定装置を用いて膝関節伸展および屈曲筋力を測定する．また，徒手筋力測定器を用いて膝関節伸展および屈曲筋力を測定する．

学修課題：項目に注意して，グループの結果をまとめる．

第８回：立ち上がりテストおよび２ステップ長測定

ロコモティブシンドロームのチェックとして用いられる立ち上がりテストと２ステップ長測定を行う．

学修課題：グループの結果をまとめる．

第９回：さまざまな筋力測定の評価

等速性筋力測定器を用いた測定結果の解釈を中心に，筋力測定の評価について学ぶ．

学修課題：授業で得た結果を用い，図や表を含めてレポートを作成する．

第10回：柔軟性の実際

代表的な上肢・下肢の柔軟性を測定し各自の柔軟度を知り，適切なトレーニング計画を立て実行する．

学修課題：パフォーマンスやケガの予防と柔軟性の関係について調べておく

第11回：心拍数とRPEを測定する

ハートレートモニターを装着してウォーキングからジョギングへ，ジョギングからランニングへ，そしてウォーキングまで戻すということをスピードによる運動強度の変化を体験しながら各自の心拍数を測定する．

学修課題：呼吸循環機能の仕組みや運動強度調節の仕方，データを整理しておく

第12回：測定した心拍数を使って図を作成する

前回測定した心拍のデータを使って運動強度で比較できるように図を作成する．RPEについても同様に比較する．これらのデータをもとにレポートを作成する．

学修課題：関連する文献を検索し，取り寄せ検討する

第13回：他者や集団と比較をする

前回より引き続き，集団の比較と集団の中での自分の運動能力を確認する．

また，第１回で測定した柔軟性トレーニングの成果を見るべく再度測定し結果をまとめる．

学修課題：心拍数，RPE，柔軟性をまとめてレポートにする

第14回：シナプソロジー

脳機能を高めるために開発されたシナプソロジーを体験する．

学修課題：シナプソロジーについて復習する．

第15回：まとめ

これまでの測定と評価やレポート作成を振り返り，卒業論文の作成につなげる．

学修課題：課題のレポートを作成する．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

課題レポート（90%）：レポート（身体組成，筋力測定，心拍数について各30点×３）で評価する．また，期限内に提出したかも評価する．

授業への取り組み状況（10%）：測定に積極的かつ主体的に参加しているかについて評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業内で適宜紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。欠席の場合は，所定の届を提出し，各自で課題を聞きに来ること．

スポーツリハビリテーション

【担当】小松　猛

■授業概要

この授業では、スポーツ外傷・障害で損なわれやすい運動器を中心とする解剖学的構造物とその機能を理解し、機能回復するための様々なリハビリテーション方法を紹介する。その上で、代表的なスポーツ外傷・障害を例に挙げながら、元のスポーツ活動に復帰するために、受傷した部位の解剖学的構造の回復とそれに合わせたリハビリテーション方法について、必要な知識や技術を学習する。また、中高年者や障害者におけるスポーツリハビリテーションについても学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツ外傷・障害で損なわれる機能と、その機能を回復するために必要なリハビリテーションの様々な方法について学習する。

目標：スポーツ選手・愛好家がスポーツ外傷・障害からスポーツ復帰するために必要な機能について具体的説明できる。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：実際のスポーツ傷害で行うリハビリテーションを示して、その具体的な方法や注意点について学ぶ。

目標：代表的なスポーツ外傷・障害の具体的リハビリテーションプログラムについて概略を説明できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：総論：スポーツリハビリテーションとは？

スポーツリハビリテーションとは？　本授業の目的と範囲　リハビリテーションの理念について考える

学修課題：スポーツリハビリテーションの果たす役割について情報を収集して理解する

第２回：総論：リハビリテーションの評価、治療（運動療法以外）

リハビリテーションにおける評価と治療はどのように行なわれるか？具体的には、関節可動域の測定、筋力評価などを正しく理解できるように進めていく。物理療法の方法と適応についても解説。

学修課題：関節の動き、筋肉の働きなどを再確認し、授業内容について理解を深める

第３回：総論：リハビリテーショントレーニング法（運動療法を中心に）

具体的なアスレティックリハビリテーション方法の実際。筋収縮の様々な方法、個々のトレーニングの解説と、そのメリット、デメリットの説明。

学修課題：適切なリハビリテーションの方法を再確認する

第４回：総論：リハビリテーショントレーニング法（最近のトピックを中心に）

具体的なアスレティックリハビリテーション方法、スポーツ用装具やテーピングの目的について説明。トピックとなってるトレーニングの効果と現状での評価についても話を進めて行く。

学修課題：授業で学習したトレーニング方法について、自分で情報収集して知識を整理する

第５回：各論：足関節のリハビリテーションに必要な解剖、傷害

足関節の病態を理解するための解剖をスケッチ。その後、具体的なスポーツ傷害についての特徴を解説。

学修課題：自分で書いた足関節解剖のスケッチを確認しながら、筋肉や靭帯の機能を理解する

第６回：各論：足関節靭帯損傷（捻挫）のリハビリテーション

足関節靭帯損傷（捻挫）の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）。受傷後の時期によって行うべきトレーニングと避けるべきトレーニングを理解する。

学修課題：足関節靭帯損傷のリハビリテーション方法、復帰のタイミングなどを復習する

第７回：各論：腰部障害のリハビリテーションに必要な解剖、傷害

腰部障害の病態を理解するための解剖、機能の解説とスケッチ。その後、代表的なスポーツ傷害別に特徴を解説する。

学修課題：自分で書いた腰椎・脊柱の解剖スケッチを確認しながら、筋肉の機能を再確認する

第８回：各論：腰部障害のリハビリテーション

腰部障害の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）。トレーニングの負荷をかけるタイミングと、その評価について詳しく話を進める。

学修課題：腰部・体幹のリハビリテーション方法について知識の整理をする

第９回：各論：膝関節のリハビリテーションに必要な解剖、傷害

膝関節の病態を理解するための解剖をスケッチして、具体的なスポーツ傷害別の特徴を説明する。合併しやすい傷害についても話をする。

学修課題：授業で書いた膝関節の解剖スケッチを確認しながら、それぞれの組織の役割について復習する

第10回：各論：膝関節前十字靭帯損傷のリハビリテーション

膝関節（前十字靭帯損傷）の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）。手術の方法を動画を用いて直接示しながら解説し、手術後に行うリハビリテーションの目的を理解しやすいように話を進める。

学修課題：膝関節前十字靭帯損傷の病態と、段階的に行うリハビリテーション方法について授業内容を再確認する

第11回：各論：肩関節のリハビリテーションに必要な解剖、傷害

肩関節の病態を理解するための解剖、機能の解説とスケッチ。その後、スポーツ傷害別の特徴について解説。

学修課題：肩関節の解剖スケッチを確認しながら、骨の位置関係、筋肉の機能を復習する

第12回：各論：投球障害肩のリハビリテーション

肩関節（投球傷害肩）の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）。リハビリテーションで改善するべき身体のコンディションを学び、投球フォームの問題についても解説する。

学修課題：投球フォームによって起こる肩関節障害の特徴を理解し、授業で学んだリハビリテーション方法を理解する

第13回：各論：傷害予防トレーニング

スポーツ外傷・障害予防のための具体的なトレーニング方法とその目的。どのタイミングでどのような人に対して行う必要があるかということも解説していく。

学修課題：方法だけでなく、適応となる対象についても調べて知識を整理する

第14回：各論：障害者、中高年のリハビリテーション

障害者、中高年者に対するスポーツリハビリテーションの方法と注意点。通常のアスレティックリハビリテーションと比較して、どのようなことに注意しなければいけないかを詳しく説明。

学修課題：障害者、中高年の特性と具体的なリハビリテーション方法について復習する

第15回：総まとめと達成度チェック

スポーツリハビリテーションについて何を学んだか？　自らの知識の整理と確認のために、授業を通して学んだことに対する課題を行い、それについて解説する。

学修課題：スポーツリハビリテーション全般に対する知識の整理

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

筆記試験（80%）：授業終了後の定期試験で授業の理解度を評価

レポート（20%）：総論終了時と、各論で行う解剖のスケッチや設問に対する回答から、授業の理解度を評価

■教科書

福林　徹（編）　・アスレティックリハビリテーションガイド　・文光堂

■参考文献等

現場で役立つスポーツ損傷ガイド　ー診断、治療、復帰までー　鳥居　俊（監訳）「NAP limited」

スポーツ医学（やさしいスチューデントトレーナーシリーズ４）　藤本繁夫・大久保　衛（編）「嵯峨野書院」

新版　スポーツ整形外科学　中嶋寛之（監修）　福林　徹・史野根生（編集）「南江堂」

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

運動処方と運動療法

【担当】上利　理代

■授業概要

本講義では、運動処方・運動療法とは何かを知り、処方の構成項目・指導内容・適応などについて学ぶ。特に、内科系疾患を中心に、運動療法が有効な疾患について学ぶ。生活習慣病、呼吸器疾患、脳血管障害、心筋梗塞、うつ病などに有効的な運動療法についても各論で学ぶ。さらにはケーススタデイにより、実際に運動処方によるプログラム作成ができるように学びを深める。そして運動を始めるやる気スイッチの入れ方についての基本を学び実践できるように導く。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：各疾患に対する運動の効果を学ぶ

目標：運動することが人体にどのような影響を及ぼすかを知る

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：運動療法・運動処方とは？

運動療法とは医師から出された運動処方を理解し、運動による治療プログラムを行うこと

学修課題：運動処方について理解する

第２回：高コレステロール血症の運動療法：血液中の脂肪を減らす

脂質代謝異常症の日本人は増加中。高コレステロール血症を理解し、適した運動療法を学ぶ

学修課題：自分の血液検査を再確認する

第３回：肥満症の運動療法：皮下脂肪を減らす

肥満の定義は？その種類を学ぶ

学修課題：自分や家族は当てはまらないか考える

第４回：糖尿病の運動療法：血糖を減らす

糖尿病の機序、種類、運動禁忌について学ぶ

学修課題：糖尿病の前段階について調べてみる

第５回：高血圧の運動療法：血圧を下げる

高血圧の運動療法：血圧を下げる診断基準、運動のコツや禁忌を学ぶ

学修課題：自分や家族の血圧を知る

第６回：メタボリックシンドロームの運動療法：内臓脂肪を減らす

現代病の代名詞であるメタボリックシンドロームについて学ぶ

学修課題：身近な人の危険度を知る

第７回：心臓リハビリテーション：Ｈｅａｒｔを強くする

心臓リハビリテーションについて学ぶ

学修課題：心臓リハビリテーションができる施設を調べる

第８回：脳血管障害の運動療法：新たな機能を呼び起こす

脳血管障害患者へのリハビリの有効性について学ぶ

学修課題：脳神経障害患者の新たな可能性について考える

第９回：癌の運動療法：筋肉を増やし、spirit/mindを強くする

日本人の半数が罹患する癌について学ぶ

学修課題：日本人に多い癌を調べる

第10回：呼吸器疾患の運動療法：筋肉量を増やしＡＤＬを高める

低酸素血症による筋肉減少が日常生活機能も低下させる。その病態と運動療法を学ぶ

学修課題：21世紀病：ＣＯＰＤを調べる

第11回：抑うつ状態とうつ病の運動療法：心を強くする

近年急増している「うつ」の運動療法について学ぶ。

学修課題：うつ・抑うつ状態の違いを調べる

第12回：動機付け面接と行動認知療法：行動変容を起こさせよう

やる気スイッチをいかに押すかを学ぶ

学修課題：動機付け面接と行動認知療法について調べる

第13回：運動処方の読み方、考え方

運動処方の重要項目（４項目）について学ぶ

学修課題：運動処方について調べる

第14回：運動プログラム立案

実際の症例について、自分で運動プログラムを立案してみる

学修課題：運動プログラム立案につて調べる

第15回：まとめ、理解度確認

理解不足部分を補う

学修課題：これまでの学習内容を振り返る

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

ミニテスト（25%）：授業ごとに最後にその日の授業内容で重要項目の確認テスト

レポート提出（25%）：指定または興味を持った内容について指定期日までにレポート提出

定期テスト（50%）：授業内容の理解度を筆記テストで評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

健康・運動の科学（介護と生活習慣病予防のための運動処方）田口貞善監修、

■履修上の注意・備考・メッセージ

トレーニング健康コースの学生、医療職を志す学生は履修する事が望ましい。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

スポーツ生理学Ⅱ

【担当】上利　理代

■授業概要

本講義は、十分な人体生理学・スポーツ生理学の基礎知識を得たうえで、最新の情報を身体機能向上・身体開発の場に実践的に応用・活用できるような学びを目指す。スポーツ生理学のトピックスを取り上げ、既知の知識を実践の場に活用できるように導いていく。また、世界的な問題となっているドーピング問題・アンチドーピングに関する学びを深め、今後のスポーツ人生に行かせるような学びを目指す。さらに、脳震盪を取り上げ、その機序と症状、対処法などについても学び実践へとつなげる。

■養うべき力と到達目標

1．DP6．優れたスポーツマンシップ

具体的内容：WADA ／ JADAの活動・世界的なアンチドーピング活動について学ぶ

目標：ドーピングについての正しい知識をえる

2．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：個々の属性により、身体的能力も変化することを理解する

目標：個々の身体的特徴にあったトレーニングを目指す

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：生理学とは、トレーナビリテイとは

身体を理解するうえで重要な生理学について概要を学ぶ

学修課題：履修するにあたり大まかな流れをシミュレーションする

第２回：心機能を学ぶ

スポーツ心臓、心拍を用いたトレーニング方法を学ぶ

学修課題：自分の心拍から運動強度計算ができるようにする

第３回：筋肉を学ぶ

筋肉分子構造を学び、最大限にトレーニング効果を上げる方法を学ぶ

学修課題：鍛えたい筋肉とトレーニングをマッチできるようにする

第４回：神経系を学ぶ

神経反射の基礎を学ぶ

神経細胞と反射機構の作用について学ぶ、実践する

学修課題：神経反射の基礎について予習してくる

第５回：脳震盪

脳震盪の機序・危険性について学ぶ

学修課題：脳震盪について予習する

第６回：呼吸器系を学ぶ

呼吸器系を学び、最適なトレーニングを考える

学修課題：呼吸器系について予習してくる

第７回：内分泌代謝系を学ぶ

内分泌代謝系を学び、最適なトレーニングを考える

学修課題：内分泌代謝系について予習してくる

第８回：前半のまとめ：人体生理学

これまで学んだ生理学についてまとめる、基本確認テスト

学修課題：前半の内容を振り返る

第９回：薬物・遺伝子を利用した身体開発

ドーピングコントロール、遺伝子ドーピングなど最新事情を含めて学ぶ

学修課題：ドーピングコントロールについて復習する

第10回：環境に適応した身体開発

高地トレーニング、水中トレーニング、暑熱・寒冷環境でのトレーニング

学修課題：環境に適応した身体開発について予習してくる

第11回：睡眠を利用した身体開発

睡眠の重要性について学ぶ

学修課題：自分の睡眠時間、質を記録してみる

第12回：ジュニアの身体開発

ジュニアの身体生理とその開発について学ぶ

学修課題：ジュニア育成について考える

第13回：女性のスポーツ生理学と身体開発

女性特有のスポーツ生理学を学び、身体機能開発について考える

学修課題：女性のスポーツ生理学について予習してくる

第14回：中高年の身体変化とスポーツ生理学

中高年の身体的変化とスポーツ生理学を学び、適したトレーニングを考える

学修課題：中高年の身体変化について予習してくる

第15回：総まとめ

講義内容を復習する。総まとめテスト

学修課題：これまでの学習内容を振り返る

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

出席レポート（30%）：毎回の講義で出席レポート課題を提出。（30点満点）で評価する

期末まとめ試験（70%）：学期後半の理解度を筆記テスト（70点満点）で評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

勝田茂・征矢英昭「運動生理学20講－第３版」朝倉書店　2015年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

内科領域での身体機能開発について生理学から学びます

実践スポーツ栄養学

【担当】武田　哲子

■授業概要

スポーツ現場における栄養に関する課題を抽出し、それを解決するための方法を実践的に学ぶことを目的とする。そのため各自のスポーツ現場における課題を題材として実践的に授業を展開する。グループ別に討論を重ね、設定したテーマに適した食生活の実践について考える。この講義を通して、アスリートや健康を目指す人のための食生活についてより深く考え実践する力を養うことを目標とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：スポーツ活動を行う人の栄養・食生活のサポートができるための知識を習得する

目標：スポーツ活動に合わせた栄養の評価ができるようになる．また，改善のためのサポートができるような実践的なスキルを身につける．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ栄養学に関する課題抽出・解決の概説

授業の進め方，達成目標を確認する．

スポーツ栄養学に関する課題抽出・解決について概説する．

学修課題：スポーツ現場における栄養に関する課題についての情報を各自収集しておく．

第２回：スポーツ現場における栄養に関する問題探索（グループワーク）

各自の競技現場における栄養に関する問題を探索する（データ収集）ための知識を習得する．

学修課題：各自割り当てた課題について必要な情報を収集しておく

第３回：スポーツ現場における栄養に関する問題探索と課題設定（発表準備）

競技現場における課題の整理、収集したデータを分析する

学修課題：次回発表に向けてデータを整理しプレゼンテーションできるよう準備を進める

第４回：グループ発表

競技現場における課題を共有する

学修課題：グループで課題としたテーマについて復習し，さらに知識を深める．

第５回：スポーツ現場における栄養の問題の事例紹介と改善方法の検討

事例紹介と改善に必要な知識の確認

学修課題：グループで課題としたテーマについての資料作りに必要な情報収取をしておく

第６回：改善に向けたアドバイス資料づくり

データをもとに改善点とその方法を検討し，アドバイスできるような資料を作成する．

学修課題：次回献立作成に向けて予習しておく

第７回：課題解決のための食事調整（献立作成）

献立作成の手法を学び，テーマに沿った献立作成を行う．

学修課題：献立作成について復習し，次回の栄養評価に向けて予習しておく

第８回：献立の栄養評価

栄養評価の手法を学び，作成した献立の栄養評価を行う．

学修課題：栄養評価方法について復習し，次回調理実習に向けて予習しておく

第９回：調理実習（１回目）

作成した献立をもとに調理実習を行う．

学修課題：実践した調理内容を振り返る．次回調理実習に向けた予習をしておく．

第10回：調理実習（２回目）

作成した献立をもとに調理実習を行う．

学修課題：実践した調理内容を振り返り，レポート作成の準備を行う．

第11回：献立作成から調理実践までの評価振り返り（１）

献立作成および調理実習を各グループで評価,発表し課題を共有する．

学修課題：これまでの内容を復習し,レポートを作成の下調べをしておく．

第12回：献立作成から調理実践までの評価振り返り（２）

前回に引き続き，献立作成および調理実習を各グループで評価，発表し課題を共有する．

学修課題：レポートを作成する．

第13回：成果発表準備（グループワーク）

課題設定から調理実習までの評価を行う

学修課題：グループワークに必要な資料の準備をする．

第14回：スポーツ現場における栄養サポートの現状を評価（グループ発表）

各テーマに沿って現状の調査から改善方法の検討を行ったことで，スポーツ現場における栄養サポートの現状についてどのように考えることができるか，また今後どうあるべきかを考察し発表する．

学修課題：授業内で共有したスポーツ現場の課題について考え，最終レポート作成の準備をする．

第15回：まとめと達成度チェック

授業のまとめを行う．

学修課題：最終レポートを作成する．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

グループによる制作物（40%）：課題の意図の理解度，データ整理の適切さ，表現の正確さ，分かりやすさにより評価する．

資料にもとづくプレゼンテーション（40%）：課題の意図の理解度，発表資料の表現の正確さ，分かりやすさにより評価する．

授業内のレポート（20%）：課題を踏まえた論述ができているか，そこに独自の見解が含まれているかという観点から評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

身体開発システム論

【担当】禰屋　光男

■授業概要

スポーツ生理学などをもとに、運動パフォーマンス向上につながる身体の開発を「リカバリー」の観点から学習します。近年、運動パフォーマンスの向上はトレーニングと合わせてリカバリーが大きな要素となっており、リカバリーの知識を習得することでほかのトレーニングに関する知識と合わせて運動パフォーマンスの向上につなげることが可能になります.

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：トレーニングと対をなすリカバリーのさまざまな手法を生理学的考察に基づいて学ぶ

目標：スポーツパフォーマンスの向上のため、トレーニングの計画とともに、自身でリカバリーの処方を作成することができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび運動生理学におけるリカバリーとは？

授業の内容，進め方，予習･復習、評価方法などについて説明します.

学修課題：配布する資料の内容を復習すること

第２回：疲労とリカバリーの基礎について

過負荷の原則やトレーニングの影響について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、過負荷の原則やリカバリーの基礎について復習すること

第３回：オーバートレーニング症候群

連続した疲労によるオーバートレーニングの機序について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、オーバートレーニングの特徴を復習すること

第４回：ピリオダイゼーションによるオーバートレーニング症候群の予防

ピリオダイゼーションのモデルと疲労に及ぼす影響について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、ピリオダイゼーションの特徴を復習すること

第５回：アクティブリカバリーの効果

アクティブリカバリーによるパフォーマンスの影響について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、アクティブリカバリーの特徴を復習すること

第６回：リカバリーの心理的効果

モチベーションやバーンアウトについて学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、リカバリーが心理的反応に及ぼす影響について復習すること

第７回：水分補給

運動中の適切な水分補給について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、水分補給の重要点を復習すること

第８回：栄養補給

リカバリーとしての栄養補給の有効性について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、リカバリー時の栄養補給の重要点を復習すること

第９回：睡眠のリカバリーとして効果

リカバリーのひとつとしての睡眠の効果や睡眠の機序について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、睡眠のリカバリーとしての効果を復習すること

第10回：コンプレッション衣類のリカバリー効果

コンプレッションガーメント（着圧衣類）のリカバリー効果について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、コンプレッション衣類の機能について復習すること

第11回：局所的な温熱および冷却によるリカバリー効果

アイシングなど、局所の温度変化によるリカバリー処方について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに､局所的な温熱および冷却リカバリーの効果について復習すること

第12回：全身的な温熱および冷却によるリカバリー効果

サウナやアイスバスなど全身的な温度変化によるリカバリー処方について学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、全身的な温熱および冷却リカバリーの効果について復習すること

第13回：リカバリー処方における考慮すべき課題　１．性差

リカバリー処方を実施する際、身体特性の性差について考慮するべき点を学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、リカバリー実施時の性差に関する特徴を復習すること

第14回：リカバリー処方における考慮すべき課題　２．温度と気候

リカバリー処方を実施する際、温度と気候について考慮するべき点を学びます.

学修課題：配布する資料をもとに、リカバリー実施時の温度や天候の影響を復習すること

第15回：まとめと達成度チェック

リカバリーに関して学んだ中で特に重要な点や、実践することが比較的容易な処方について学びます.

学修課題：配布する資料の内容を復習すること

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

学期末の試験により評価する

学期末の試験（80%）：授業期間全体の内容についての理解度を筆記試験で評価する

授業期間中の課題（レポート）（20%）：授業期間中に紹介するリカバリー処方についての実践例や実践時に予想される課題などについてのレポート

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「リカバリーの科学 ―スポーツパフォーマンス向上のための最新情報」長谷川博監訳　NAP社

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること.

受講には「スポーツ生理学概論」,「スポーツ生理学Ⅰ」の単位を修得していることが必要となる.

身体開発特別講義

【担当】小松　猛

■授業概要

身身体開発のための考え方を学ぶ。スポーツにおける外傷・障害のトピックス、傷害予防からの回復や予防、競技力向上のためのトレーニングに関するテーマについて、自分達で情報を収集してプレゼンテーションおよびレポートを作成する。テーマについて発表会形式でプレゼンテーションを行い、学生同士で相互に評価すると共に積極的にディスカッションを行う。また、調べたテーマに関する質疑応答を通して、身体開発に必要な知識を深める。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ外傷・障害に関するテーマから、必要な情報を収集してプレゼンテーションする。

目標：身体開発、特に運動器の外傷・障害の発生機序、治療、リハビリテーションおよび予防に関して理解を深める

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：イントロダクション、身体開発のために必要な医学の知識について

本講義の概要の説明、スポーツ種目と怪我の関係を自己体験から学ぶ

学修課題：自分が経験したスポーツ外傷について詳しく調べる

第２回：スポーツ医学的身体開発に関するテーマについてのグループワーク

競技種目やスポーツ傷害に関するテーマについて、グループ単位で必要なプレゼンテーションを行うための計画を立て、実行する。

学修課題：テーマごとのプレゼンテーションの具体的な計画

第３回：スポーツ医学的身体開発に関するテーマの情報収集とプレゼンテーションの作成

個々でプレゼンテーションのために集めた情報を集約し、どのようにプレゼンテーションを行うかをグループ内でディスカッションする。

学修課題：具体的なプレゼンテーションの方法を考える

第４回：スポーツ医学的身体開発に関するプレゼンテーション

テーマについてグループ単位で作成したプレゼンテーションを発表会形式で行う。それぞれのプレゼンテーションについて相互評価しながら、グループ間でディスカッションを行う。

学修課題：プレゼンテーション内容の振り返りをして、今後のプレゼンテーションに生かす

第５回：身体開発に関するテーマのトピックとプレゼンテーション内容のまとめ

テーマに関する外傷・障害およびトレーニングについて講義をし、その内容について全体でディスカッションを行う。

学修課題：テーマに関するスポーツ医学の知識を復習する

第６回：スポーツ医学的身体開発に関するテーマについてのグループワーク

第２～５回目とは異なる競技種目やスポーツ傷害に関するテーマについて、グループ単位で必要なプレゼンテーションを行うための計画を立て、実行する。

学修課題：テーマごとのプレゼンテーションの具体的な計画

第７回：スポーツ医学的身体開発に関するテーマの情報収集とプレゼンテーションの作成

前回のプレゼンテーションと比較してよりよい内容にするために、集める情報を適切に選択しどのようにプレゼンテーションを行うかを、グループ内でディスカッションする。

学修課題：身体の各部位で起こる傷害に対して、そのスポーツではどのような方針を取るのかを情報収集する

第８回：スポーツ医学的身体開発に関するプレゼンテーション

テーマについてグループ単位で作成したプレゼンテーションを発表会形式で行う。前回と同様にそれぞれのプレゼンテーションについて相互評価しながら、グループ間でディスカッションを活発に行う。

学修課題：プレゼンテーション内容の振り返りをして、今後のプレゼンテーションに生かす

第９回：身体開発に関するテーマのトピックとプレゼンテーション内容のまとめ

第６～８回までの中で調べたテーマに関する外傷・障害およびトレーニングについて講義をし、その内容について全体でディスカッションを行う。

学修課題：テーマに関するスポーツ医学の知識を復習する

第10回：身体開発に関するテーマとそれに関連したスポーツ医学の研究

第９回までにプレゼンテーションのために調べたスポーツ医学に関する内容について、現時点で行われている研究の例を紹介。学会でのプレゼンテーション、学術論文を紹介して、分かり易く研究報告を紹介する方法についても解説する。

学修課題：スポーツ医学に関して行われている研究内容について復習する

第11回：身体開発に関するテーマとそれに関連したスポーツ医学の実践

第９回までにプレゼンテーションのために調べたスポーツ医学に関する内容について、現時点で行われているスポーツ現場での実践例を、健康スポーツからプロスポーツまで具体例を紹介。

学修課題：スポーツ現場で行われている実践例を復習し、現場で生かせるように理解を深める

第12回：スポーツ医学に関わるテーマでのグループワーク（情報収集と資料作成）

第２～４回、６～８回のテーマとは異なるスポーツ医学に関するテーマで、数名単位のグループに分かれて前回までの授業、授業時間外の学習の成果をもとにプレゼンテーションの準備を行う

学修課題：グループのメンバー内で、プレゼンテーション作成のために資料を調べる

第13回：スポーツ医学に関わるテーマでのグループワーク（スライド作成とプレンテーション方法）

プレゼンテーションを充実させるためのグループ内でディスカッションを行うことで、自分自身の知識を高める。そのための資料を調べ、可能な限りの情報を集める。

学修課題：スライドの完成とプレゼンテーション内容の吟味をグループ内で行う

第14回：スポーツ医学に関わるテーマでのグループワーク発表会

テーマに対してグループワークによって作成したプレゼンテーションを行い、そのテーマについて質疑応答、グループ間での相互評価を行う。

学修課題：プレゼンテーションテーマに関するレポートの作成

第15回：身体開発に関するテーマのトピックとプレゼンテーション内容のまとめ、全体の講評

第12～14回までの中で調べたテーマに関する外傷・障害およびトレーニングについて講義をし、その内容について全体でディスカッションを行う。また、プレゼンによる報告、討論を通して本講義の全体的なまとめを行う。プレゼンテーションテーマに関するレポートの提出。

学修課題：本授業の内容全般を振り返り、知識の整理を行う

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内でのレポート課題（20%）：内容の妥当性と、課題の指示に対して十分な記載ができているかを評価する。

グループワークでのプレゼンテーション（80%）：テーマに対して資料を調査して、グループでのディスカッションに基づいたプレゼンテーションを行っているかを評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツコンディショニング論

【担当】田中　忍

■授業概要

一番強い姿で試合に臨むために必要なことを学ぶ．すなわち，コンディショニングの目的や要因を理解し，改善が必要な要因が何であるかについて根拠を持って説明をする．また，各要因の評価法およびそれぞれについて改善のためのトレーニング方法を学ぶ．着目すべきコンディショニングの要因をあげ，評価し，改善のための具体的なトレーニングプログラムを作成する．これにより，スポーツ実践者が，目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するために必要なことを見つけられるようになる．

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：コンディショニングに関わるさまざまな要因を広く深く理解する．

目標：コンディショニングの目的，要因を説明できる．

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：コンディショニングに関わる要因の評価および改善

目標：着目すべき要因の指標を用い，評価し改善法を計画する．

３．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：コンディションを高める計画を発表する．

目標：着目した理由，用いた指標と評価，改善方法を簡潔にまとめて発表することができる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスとコンディショニングの概説

授業の進め方，到達目標および成績評価について確認する．

コンディショニングの概念を学ぶ．

学修課題：コンディショニングの概念を復習する．

第２回：コンディショニングの要因

コンディショニングの身体的因子（代謝系,柔軟性,身体組成,免疫系,神経系，技術系，筋力系），環境的因子（シューズ，ウェア，用具），心因的因子について学ぶ．

学修課題：コンディショニングの身体的因子，環境的因子，心因的因子について復習する．自分がこれまでに最も影響を受けている要因をエピソードを添えて考えてくる．

第３回：着目する要因をみつける

自分がこれまでに最も影響を受けている要因をエピソードと共にグループで発表しあう．また，グループでの発表や学んださまざまな要因を含め，改善が必要である因子とその理由を複数考え，グループで発表する．

学修課題：改善が必要なコンディショニングの因子を複数考える．

第４回：身体的因子のコンディション評価と指標

コンディション評価の必要性と身体的因子の評価指標および評価法を学ぶ．評価指標と評価法を選び，想定した対象に対して実践するために必要なものを考えグループで発表する．

学修課題：身体的因子の評価指標および評価法を復習し，授業で取り上げなかった評価指標と評価法の必要なものを考える．

第５回：環境的因子および心因的因子のコンディション評価と指標

環境的および心因的因子の評価指標および評価法を学ぶ．評価指標と評価法を選び，想定した対象に対して実践するために必要なものを考えグループで発表する．

学修課題：環境的および心因的因子の評価指標および評価法を復習し，授業で取り上げなかった評価指標と評価法の必要なものを考える．

第６回：コンディションの改善

トレーニングを計画する際に必要な情報（トレーニングの基礎,原則,期分け，カテゴリー）について学ぶ．

学修課題：トレーニング計画に必要なことを復習し，着目した要因にはどのようなトレーニングが必要かを考える．

第７回：コンディションを改善するトレーニングプログラムの立案

トレーニングによってコンディションを改善するために必要なことを学ぶ．着目した要因の指標および評価を元に，改善のためのトレーニングプログラムを立案する．

学修課題：着目した要因の指標および評価を元に，改善のためのトレーニングプログラムを立案する．

第８回：目的別のコンディショニング（１）競技力向上

競技力向上のためのコンディショニング方法を学ぶ．グループで実践する課題を考える．

学修課題：競技力向上のためのコンディショニングを復習し，グループで考えた課題を実践する．

第９回：目的別のコンディショニング（２）傷害予防

傷害予防のためのコンディショニング方法を学ぶ．また，ウォーミングアップの目的，方法についても学ぶ．グループで実践する課題を考える．

学修課題：傷害予防のコンディショニングを復習し，グループで考えた課題を実践する．

第10回：目的別のコンディショニング（３）疲労回復

疲労回復を目的としたコンディショニング方法を学ぶ．また，クーリングダウンの目的，方法についても学ぶ．

学修課題：疲労回復のコンディショニングを復習し，グループで考えた課題を実践する．

第11回：競技種目特性とコンディショニング（１）冬季競技，記録系競技，球技競技

各種目の競技特性（ルール,傷害像,用具･道具,競技環境など）を学ぶ．

学修課題：他の種目についても考える．

第12回：競技種目特性とコンディショニング（２）採点系競技，格技系競技

各種目の競技特性（ルール,傷害像,用具･道具,競技環境など）を学ぶ．

学修課題：他の種目についても考える．

第13回：コンディションを高める計画の発表

着目した理由，用いる指標と評価，改善方法を簡潔にまとめて発表する．また互いに評価しあう．

学修課題：最も簡潔にまとまっていた発表の課題を実践し,評価する．

第14回：コンディション改善計画の振り返り

実践してきた計画の内容について，実際に実践できる内容であるかを踏まえ，良かった点および改善が必要な点を振り返る．

学修課題：改善が必要であった項目について，なぜそうなったのか原因を考える．

第15回：コンディショニングのまとめ及び総括

コンディショニングについて学んだことを整理する．

学修課題：コンディショニングについて学んだことを復習する．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

理論試験（30%）：コンディショニングの概要についての理解度を評価する．

レポート（30%）：着目すべき要因を選出した理由，用いた指標と評価について，内容の整合性，具体性，文章の正確さにより評価する．

プレゼンテーション（40%）:プレゼンテーションについて，内容の整合性，具体性，発表の態度，資料の見やすさ，時間を項目とするルーブリックを用いて評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

・『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング』 財団法人日本体育協会

・財団法人日本体育協会指導者育成委員会アスレティックトレーナー部会 『予防とコンディショニング公認アスレティックトレーナ専門科目テキストワークブック』文光堂（2011年）

・小山貴之『アスレティックケア　リハビリテーションとコンディショニング』NAP Limited（2016）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

受講の際は，次の全ての授業を履修済みであること．

「身体構造と機能」「体力トレーニング法」「スポーツ生理学概論」「スポーツ医学概論」「スポーツ栄養学概論」「テーピング・マッサージ法」「救急処置法」

日本体育協会公認アスレティックトレーナーの適応コース申請に必要な科目である．

参考図書（公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥）の購入希望者は，授業時に説明する．

スポーツコンディショニング特別講義　【担当】佃　文子

■授業概要

アスリートに起こるさまざまなコンディション変化への具体的な対応法について学ぶ。ストレッチングやトレーニングなどコンディショニングの具体的な効果について学習する。また運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスへの影響について学習し理解を深める。さらにアンチドーピングの仕組みについて学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：アスリートに起こるさまざまなコンディション変化への具体的な対応法について学ぶ

目標：運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスへの影響について説明できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：運動と疲労

運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスに与える影響について学ぶ

学修課題：ホメオスターシスを支える神経系・内分泌系・免疫系の仕組みについて予習する

復習：ホメオスターシスに係わる神経系と免疫系、内分泌系の調節のしくみを予習する　慢性疲労に至る過程を復習する

第２回：運動と免疫系機構

運動によるストレス反応と人の免疫機構の関係について詳しく学ぶ

特にアスリートが陥りやすい、オーバートレーニング症候について学ぶ

学修課題：細胞性免疫、体液性免疫について予習する　慢性的なストレスとホメオスターシスの破たんについてまとめる

第３回：運動ストレスとその他の内科的疾患

アスリートが陥りやすいその他の内科的疾患について学ぶ

また海外遠征など時差対策や睡眠に関する対応策についても学ぶ

学修課題：予習：一般的な時差対策を調べてくる

復習：講義内容をもとに身近な競技現場へフィードバックするためのポスターを作成する

第４回：ストレッチングの種類と効果

ストレッチングの目的、生理学的効果について学習する。

学修課題：反射の神経生理学を予習する　復習：ストレッチングの種類と運動絵hの影響についてまとめる

第５回：種目特性とストレッチング

種目特性を鑑みて必要なストレッチング部位と方法について討議する。

学修課題：授業を通じて得られたストレッチング方法を、身近な競技現場で導入するためのプレゼンテーション資料をまとめる

第６回：アイシングの理論

アイシングによる生理学的反応について学習する

学修課題：復習：経験的に理解しているアイシングの効果について身体内の現象と照らし合わせてまとめる。

第７回：運動連鎖

下肢の運動を中心に運動学的な身体活動のエネルギーの移行について理解する

学修課題：下肢の関節運動と運動連鎖について復習する

第８回：運動連鎖と運動の介入

前回の授業の理解をもとに、各関節運動の連鎖に影響を与える身体機能やトレーニング、各種のドリルについて討議する

学修課題：運動の観察結果をレポートにまとめる

第９回：補装具などによる運動連鎖への影響

サポーターやインソール、テーピングによる、アライメントへの影響や運動連鎖への影響を実際に観察し理解する

学修課題：足部、足関節、膝関節などに対する基本的なテーピングは予習しておくこと

第10回：スポーツにおける重傷事故

頭部外傷や脊椎損傷など、重傷事故につながりやすい外傷について学ぶ

学修課題：人の生命にかかわるすスポーツによる外傷についてまとめる

第11回：競技会における安全対策

スポーツ現場での安全対策について、緊急時対応計画やスポーつ外傷や障害を防ぐための組織的あ働きかけについて学ぶ

学修課題：授業で学んだことをもとに、身近な競技現場の安全対策を検討しレポートにまとめる

第12回：アンチ・ドーピング

ドーピングの定義と方法を理解する。また国内外におけるドーピングコントロールの組織的取組について学ぶ。

学修課題：予習：これまでの身近なスポーツ活動でアンチドーピング規定に抵触する行為がなかったか振り返り調べてくる

アンチドーピング機構、世界アンチドーピング機構について復習する

第13回：アンチ・ドーピングとトレーナーの役割

競技外検査、競技内検査の具体的な実施方法を学び、トレーナーとしてドーピングから選手を守る方法と役割を理解する。

学修課題：アスリートを支援するトレーナーが陥りやすいアンチドーピング規定についてまとめる

第14回：アンチ・ドーピング活動の実際

競技現場におけるアンチドーピングのための教育啓蒙活動について理解する。また自らがトレーナーとしてアンチドーピングに向けた指導プログラムを考え提案し、それらをもとに効果的なアンチ・ドーピングプログラムについて討議する

学修課題：予習：対象者を想定しアンチドーピングについての教育プログラムを企画してくる

復習：他者のプログラムを聞いて自分の企画に改良を加えたプレゼン資料をレポートとして提出する

第15回：外部講師特別講義

外部講師によるアスレティックトレーナーの現状についての講話

学修課題：復習：講義の内容をレポートにまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

課題ごとのレポート（20%）：内容の妥当性と理論構成について、独自のルーブリックを用いて評価します。

試験（60%）：授業内容の理解について、独自のルーブリックを用いて評価します。

指定された課題のプレゼンテーション（20%）:内容の妥当性と分かりやすさ、伝わりやすさについて、独自のルーブリックを用いて評価します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、４巻健康管理とスポーツ医学　￥2,800円、６巻予防とコンディショニング￥2,900円、第８巻救急処置￥2,900円』を公益財団法人日本体育協会から各自で購入します。購入方法は、授業開始時にお知らせします。

■履修上の注意・備考・メッセージ

履修は、救急処置法、スポーツ医学概論、スポーツリハビリテーション論、テーピングマッサージ法、を履修済みであること。またスポーツコンディショニング論の単位を修得済みであることが望ましい。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング専門実習Ⅰ　【担当】コーチングコース教員

■授業概要
個別のスポーツ競技の特性や魅力、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法の選択の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツを志向する組織を運営する上で把握しておくべき実践知を概観する。学内における個別スポーツ競技のスポーツ現場の視察やコーチング実習をとおして、コーチングの役割やコーチング行動をはじめ、コーチングやスポーツの運営、管理に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。実習をとおして学び得た内容や想起された問題点、疑問点について発表とディスカッションを行う。

■養うべき力と到達目標
１．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：コーチング行動に対する観察力、洞察力、分析力
目標：自らのコーチングに利活用が可能な観察レポートもしくは実習レポートを作成することができる。
２．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：コーチングを取り巻く問題や課題に対する分析力、発想力
目標：実態の把握を踏まえ、望ましい実践のあり方について自らの考えを表明できる。
３．DP6.優れたスポーツマンシップ
具体的内容：スポーツマンシップ
目標：コーチングのダブルゴールの一つである人間力向上に向けた実習を体現できる。
４．DP7.自覚、誇り、道徳心
具体的内容：BIWAKO PRIDE
目標：学内外を問わず自他ともに受容できる実習を体現できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）
第１回：ガイダンスおよびコーチングの現状と実践知
授業の進め方や内容について把握する。また、これまでの学修を振り返りながら、コーチング現場における実践的な学習の内容と方法について理解する。
学修課題：コーチングの現状認識と本実習に期待する学習内容についてノートにまとめる。
第２回：個人スポーツ競技のコーチングの概要
個人スポーツ競技を包括的に分類し、それぞれのカテゴリの競技の特性や魅力について概観する。個別のスポーツ競技の特性や魅力、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法の選択の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツを志向する組織を運営する上で把握しておくべき実践知を概観する。個人スポーツ競技のコーチの役割とコーチング行動についてブレインストーミングとディスカッションを行い、個人スポーツ競技に必要なコーチングについて考察する。
学修課題：興味・関心のある個人スポーツ競技において一般的に求められる基本的なコーチングの知識についてノートにまとめる。
第３回：集団スポーツ競技のコーチングの概要
集団スポーツ競技を包括的に分類し、それぞれのカテゴリの競技の特性や魅力について概観する。個別のスポーツ競技の特性や魅力、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法の選択の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツを志向する組織を運営する上で把握しておくべき実践知を概観する。集団スポーツ競技のコーチの役割とコーチング行動についてブレインストーミングとディスカッションを行い、集団スポーツ競技に必要なコーチングについて考察する。
学修課題：興味・関心のある集団スポーツ競技において一般的に求められる基本的なコーチングの知識についてノートにまとめる。
第４回：育成年代別のコーチングの概要
発育発達の段階を踏まえ、ライフステージや個人のライフスタイルに応じたスポーツライフの計画や実践の仕方、スポーツ指導者として求められる指導理論や健康や安全に関する事項について概観する。
学修課題：競技者の発達の段階や、体力・技能の程度等を踏まえた指導法の選択についてノートにまとめる。
第５回：スポーツ技能に関するコーチングの概要
スポーツにおける技術と技能の上達過程と指導法、スポーツの技能と体力の関係、スポーツ活動時の健康・安全の確保の仕方等を概観する。具体的に、個別のスポーツ競技に焦点をあて、スポーツ技能の効果的な指導法について理解を広げ､深める。加えて､練習やトレーニング、試合等のスポーツプログラムを適切に運営するための手順や施設の管理・運営の仕方についても概観する。
学修課題：スポーツ技能の効果的な指導方法や練習の組織化に関する留意点についてノートにまとめる。
第６回：個別スポーツ競技①のコーチング実習または現場視察の事前指導
個別のスポーツ競技①の特性や魅力、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法の選択の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツを志向する組織を運営する上で把握しておくべき実践知を概観する。
学修課題：個別スポーツ競技①に関する実習のポイントについてノートにまとめる。
第７回：個別スポーツ競技①のコーチング実習または現場視察
学内における個別スポーツ競技①のスポーツ現場の視察やコーチング実習をとおして、コーチングの役割やコーチング行動をはじめ、コーチングやスポーツの運営、管理に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。
学修課題：個別スポーツ競技①現場の観察レポートを作成する。
第８回：個別スポーツ競技①のコーチング実習または現場視察の事後指導
個別スポーツ競技①のコーチング実習または現場視察をとおして学び得た内容や想起された問題点、疑問点について発表とディスカッションを行う。
学修課題：個別スポーツ競技①の運営及び管理についての新たな気づきをノートにまとめる。
第９回：個別スポーツ競技②のコーチング実習または現場視察の事前指導
個別のスポーツ競技②の特性や魅力、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法の選択の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツを志向する組織を運営する上で把握しておくべき実践知を概観する。
学修課題：個別スポーツ競技②に関する実習のポイントについてノートにまとめる。
第10回：個別スポーツ競技②のコーチング実習または現場視察
学内における個別スポーツ競技②のスポーツ現場の視察やコーチング実習をとおして、コーチングの役割やコーチング行動をはじめ、コーチングやスポーツの運営、管理に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。
学修課題：個別スポーツ競技②現場の観察レポートを作成する。
第11回：個別スポーツ競技②のコーチング実習または現場視察の事後指導
個別スポーツ競技②のコーチング実習または現場視察をとおして学び得た内容や想起された問題点、疑問点について発表とディスカッションを行う。
学修課題：個別スポーツ競技②の運営及び管理についての新たな気づきをノートにまとめる。
第12回：個別スポーツ競技③のコーチング実習または現場視察の事前指導
個別のスポーツ競技③の特性や魅力、競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法の選択の手がかりについて概観するとともに、競技スポーツを志向する組織を運営する上で把握しておくべき実践知を概観する。
学修課題：個別スポーツ競技③に関する実習のポイントについてノートにまとめる。
第13回：個別スポーツ競技③のコーチング実習または現場視察
学内における個別スポーツ競技③のスポーツ現場の視察やコーチング実習をとおして、コーチングの役割やコーチング行動をはじめ、コーチングやスポーツの運営、管理に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。
学修課題：個別スポーツ競技③現場の観察レポートを作成する。
第14回：個別スポーツ競技③のコーチング実習または現場視察の事後指導
個別スポーツ競技③のコーチング実習または現場視察をとおして学び得た内容や想起された問題点、疑問点について発表とディスカッションを行う。
学修課題：個別スポーツ競技③の運営及び管理についての新たな気づきをノートにまとめる。
第15回：まとめおよび総評
実習を振り返り、学習のポイントを整理するとともに、コーチング実践についての理解を深める。
学修課題：教員及び他の専門家からのアドバイス・意見を踏まえて、今後の競技活動に本実習を活かせるようにポイントをノートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法
授業内観察レポート（60%）：個別の観察レポートの内容と論理構成について独自のルーブリックに基づいて60(20点×３回)点満点で評価する。
期末レポート（40%）：実習全体にかかるレポートの内容と論理構成について独自のルーブリックに基づいて40点満点で評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
授業ごとに必要な文献を紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング専門実習Ⅱ　【担当】コーチングコース教員

■授業概要
競技スポーツ集団の選手強化を目的としたトレーニングキャンプの企画・運営において必要とされる実践的な知識や観点について学び、受講生自身が具体的にトレーニングキャンプを計画・立案する実習を行う。実施計画書とプレゼンテーションの相互評価や計画改善プロセスをつうじて、コーチングの実践力向上を図る。また、学内外において個別スポーツ競技のコーチングやコーチング支援（スポーツ技術・戦術やシステム等の分析を含む）を視察し、競技機構や競技スポーツ集団のマネジメントの実態について見識を広げる。

■養うべき力と到達目標
１．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：コーチング行動に対する観察力、洞察力、分析力
目標：実施を想定できるトレーニングキャンプの計画書を作成することができる。自らのコーチングに利活用が可能な観察レポートを作成することができる。
２．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：コーチングを取り巻く問題や課題に対する分析力、発想力
目標：実態の把握を踏まえ、望ましい実践のあり方について自らの考えを表明できる。
３．DP6.優れたスポーツマンシップ
具体的内容：スポーツマンシップ
目標：コーチングのダブルゴールの一つである人間力向上に向けた実習を体現できる。
４．DP7.自覚、誇り、道徳心
具体的内容：BIWAKO PRIDE
目標：学内外を問わず自他ともに受容できる実習を体現できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）
第１回：ガイダンスおよびコーチングの現状の把握
授業の進め方や内容について把握する。また、これまでの学修を振り返りながらコーチング現場における実践的な学習方法について理解する。
学修課題：コーチングの現状をノートにまとめる。
第２回：コーチングに求められる知識とスキルの概観
コーチングの現状を踏まえ、コーチに求められる知識やスキルについてブレインストーミングとディスカッションをおこない、コーチング実践のための学びを広げ、深める。
学修課題：コーチングに求められる基本的な知識についてノートにまとめる。
第３回：スポーツを「支える人」の役割と機能
スポーツを「支える人」の役割と機能に関するブレインストーミングとディスカッションをおこない、コーチを含めそれぞれの役割の違いについて考える。
学修課題：コーチを含め、スポーツを支える人の役割と機能の差異を理解し、ノートにまとめる。
第４回：期分け（ピリオダイゼーション）
個別のスポーツ競技の年間スケジュールと期分け（ピリオダイゼーション）について理解を深め､スポーツ競技の強化策について考える。
学修課題：期分けをする上での観点についてノートにまとめる。
第５回：組織運営に求められる知識とスキルの概観
特定の競技機構の年間スケジュールや事業展開、競技スポーツ（チーム）のマネジメントについて情報収集をおこない、それらを関連付けながら組織運営に求められる知識とスキルについて理解を深める。
学修課題：組織運営に求められる知識やスキルの現状認識についてノートにまとめる。
第６回：トレーニングキャンプの関連事項
トレーニングキャンプの意義や位置づけ、内容についてブレインストーミングとディスカッションをおこない、トレーニングキャンプの計画立案の準備をする。
学修課題：計画立案に必要な情報を収集し、ノートにまとめる。
第７回：トレーニングキャンプの計画立案
トレーニングキャンプの計画を立案し、トレーニングキャンプのプロセス管理を実習する。
学修課題：トレーニングキャンプの実施計画書をブラッシュアップする。
第８回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。なお、受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を一つ取り上げ、それを詳細にノートにまとめる。
第９回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を新たに一つ取り上げ、それを詳細にノートにまとめる。
第10回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。なお、受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を新たに一つ取り上げ、それを詳細にノートにまとめる。
第11回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。なお、受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を新たに一つ取り上げ､それを詳細にノートにまとめる。
第12回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。なお、受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を新たに一つ取り上げ、それを詳細にノートにまとめる。
第13回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。なお、受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を新たに一つ取り上げ、それを詳細にノートにまとめる。
第14回：個別スポーツ競技のイベント視察またはコーチング支援実習：集中授業
スポーツ競技団体のトレーニングキャンプや競技会の運営を視察する。なお、受講生がコーチと選手、アナリストの役割を分担し、コーチング支援を実習する内容に変更する場合もある。
学修課題：視察対象のイベントを運営するために必要となる事項や観点を新たに一つ取り上げ、それを詳細にノートにまとめる。
第15回：まとめおよび総評
本実習を振り返り、学習のポイントを捕捉するとともに、コーチング実践についての理解を深める。
学修課題：実習先でのレポートをみて、経験から学んだことを整理しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
レポート提出が成績評価につながるので、実習先での学びを詳細にノートに書き記しておくこと。
授業内課題（50%）：内容と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート（50%）：内容と論理的構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
授業内で適宜紹介する。また、プリント等の資料を配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
実習先でチームの方と接するので、社会人してのルール・常識はもちろんのこと、チームの特性や事情を良く理解してから、実習に取り組んで下さい。

コーチング理論Ⅰ

【担当】渋谷　俊浩・白木　孝尚

■授業概要

近年、スポーツ界ではハラスメント等のさまざまな問題・課題が散見され、スポーツの現場では優れた指導者（コーチ等）の養成、加えてその指導者の資質向上が急務であるとされている。では、実際のスポーツ現場で求められているコーチ・コーチングとはどのようなものなのか？

本授業では、受講生諸君がスポーツ大学においてこれまでに学修してきた内容（概論・基礎理論・実技など）をベースとして、諸種のコーチング理論を現場で実践する力を身につけることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：これまでに学修してきた内容をベースに、コーチングの基礎理論（定義・意義、スキル・テクニック等）を学修する。

目標：コーチングの基礎理論を理解し、スポーツの現場で実践する。

２．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：コーチングの基礎理論を通じ、優れたアスリート・コーチになるための素養について学修する。

目標：アスリート・コーチに必要な正しい理論を理解し、自覚・誇り・道徳心を持って競技できるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよびコーチングの現状の概説（渋谷・白木）

授業の内容・進め方などについて解説する。また、自身がこれまでに受けてきたコーチングを振り返り、発表・ディスカッションを通じて、コーチングの現状や課題・問題点を把握する。

学修課題：授業で把握したコーチングの現状や課題･問題点を整理し、ノートにまとめておく。

第２回：コーチングの理論と実践（競技スポーツとは：渋谷）

競技スポーツの基礎的理論を理解し、設定されたテーマについてレポートの作成と発表・ディスカッションなどを通じて、スポーツ現場で実践できる能力を身につける。

学修課題：授業内容（競技スポーツとは）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。

第３回：コーチングの理論と実践（コーチ・コーチングとは：渋谷）

コーチングの基礎的理論（コーチ・コーチングとは）を理解し、設定されたテーマについてレポートの作成と発表・ディスカッションなどを通じて、スポーツ現場で実践できる能力を身につける。

学修課題：授業内容（コーチ・コーチングとは）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。

第４回：コーチングの理論と実践（コーチングスタイル：渋谷）

コーチングの基礎的理論（コーチングスタイル）を理解し、設定されたテーマについてレポートの作成と発表・ディスカッションなどを通じて、スポーツ現場で実践できる能力を身につける。

学修課題：授業内容（コーチングスタイル）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。

第５回：コーチングの理論と実践（コーチの使命・役割：渋谷）

コーチングの基礎的理論（コーチの使命・役割）を理解し、設定されたテーマについてレポートの作成と発表・ディスカッションなどを通じて、スポーツ現場で実践できる能力を身につける。

学修課題：授業内容（コーチの使命・役割）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。

第６回：コーチングの理論と実践（コーチングの現状と課題・これからのコーチング：渋谷）

コーチングの現状と課題を理解する。また、これまでの学修した内容をもとに、競技スポーツの現場で求められているコーチ・コーチングについて検討し、設定されたテーマについてレポートの作成と発表・ディスカッションなどを通じて、スポーツ現場で実践できる能力を身につける。

学修課題：授業内容（コーチングの現状と課題・これからのコーチング）を整理し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。

第７回：コーチングの理論と実践（理解度の確認：渋谷）

これまでに学修してきた内容の理解度を確認するために、記述式の確認テストを実施する。

学修課題：試験内容を整理・確認し、自身の見解を加えてノートにまとめておく。

第８回：コーチングの理論と実践（コーチ・コーチングとは：白木）

コーチングの意味を深く考え、コーチングによってもたらされる成果、コーチングの持つ役割、そしてコーチングの根本的な機能についての知識を獲得する。また、コーチングを実践していく上で必要となるコーチングの原則を理解する。

学修課題：授業内容（コーチ・コーチングとは）を整理し、参考図書「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。

第９回：コーチングの理論と実践（コーチングの基本原則：白木）

コーチングを実践していく上で重要な「人間の本質」について理解を深める。また、コーチングに欠かすことのできない３つの要素についての知識を獲得し、成功するコーチングの本質を理解する。

学修課題：授業内容(コーチングの基本原則)を整理し､参考図書｢コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。

第10回：コーチングの理論と実践（コーチングの人間関係：白木）

コーチングを実践する上で重要な「人間関係」について理解を深める。「人間関係」を構築する上で必要な要素についての知識を獲得し､コーチとして必要な素養を獲得する。

学修課題：授業内容（コーチングの人間関係）を整理し､参考図書「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。

第11回：コーチングの理論と実践（コーチングの開始：白木）

コーチングが開始される｢きっかけ」や｢状況｣について理解を深める。コーチング現場におけるコーチング機能や人間の本質を観察し、コーチングが開始される「きっかけ」や「状況」を見逃さない能力を身につける。

学修課題：授業内容（コーチングの開始）を整理し、参考図書「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。

第12回：コーチングの理論と実践（コーチングの核となる価値観と信念：白木）

コーチングを実践していく上で、コーチ自身が持つ価値観と信念は非常に重要な要素となる。特に競技スポーツに取り組む対象者をコーチングしていく上でポイントとなる価値観や信念についての理解を深め、より実践的なコーチング能力を獲得する。

学修課題：授業内容（コーチングの核となる価値観と信念）を整理し、参考図書「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。

第13回：コーチングの理論と実践（コーチング事例：白木）

競技スポーツにおけるコーチングの事例を紹介し、実践的なコーチングに関する理解を深める。コーチング現場で役に立つ方法や視点についての知識を獲得し、自身のコーチング能力を磨くためのヒントを得る。

学修課題：授業内容（コーチング事例）を整理し、参考図書「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）を熟読し、理解を深める。

第14回:授業のまとめ（学修した内容の復習と整理･確認:渋谷･白木）

授業で学修した内容を復習し、整理する。さらに、自身が実践してきた活動と比較・分析することで、実際のコーチ・コーチング現場の課題・問題点を明らかにする。

学修課題：学修した理論と実際との共通点・相違点を記録しておく。

第15回:授業のまとめ（現場へのフィードバックの検討:渋谷･白木）

本授業で学修したコーチングの基礎的理論の理解度と、実践における課題・問題点を確認する。

本講義のまとめ。

学修課題：学修した内容を実際のスポーツ現場へフィードバックし、その成果を記録しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

理解度確認テスト（40%）：講義内容についての知識と理解度を評価します

期末試験（40%）：講義内容についての知識と理解度を評価します

課題レポート（20%）：与えられた課題について、レポートの体裁が整っているか、授業の内容を正確に理解しているか、自身の考えを論理的に述べることができているか、を評価します

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

渋谷担当

「スポーツ・コーチ学」嶋田出雲著（不昧堂出版），「選手が育つポジティブ・コーチング」レイモンド.M.ナカムラ著（サイエンティスト社），「知的コーチングのすすめ」河野一郎監・勝田隆著（大修館書店），「コーチング学への招待」日本コーチング学会編（大修館書店），「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著（西村書店）

白木担当

「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著（西村書店），「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー），「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修条件

「スポーツ指導論」の単位を取得していることが望ましい

コーチング理論Ⅱ

【担当】北村　哲・植田　実

■授業概要

コーチが指導方針や指導方法を考える際、スポーツの社会的・文化的な価値を踏まえるとともに、現在のスポーツ界の情勢を把握することが重要である。本講義では、現在の国内外の社会におけるスポーツの価値、スポーツ界の現状について検討する。また、コーチが持つべきスポーツ社会学的知識について学習するとともに、これからのグッドコーチングについて考える。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：コーチが持つべきスポーツ社会学的知識

目標:現在のスポーツの価値を踏まえ、これからの指導者のあり方（指導観）について私見を述べることができると共に、指導者が持つべきスポーツ社会学的知識について解説できる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：学んだ知識を実践的知識化

目標：これからのグッドコーチングのあり方について私見を述べることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、コーチングとスポーツの価値について

本講義の進め方について確認する。自分にとってのスポーツの価値、スポーツの社会的価値について学習し、コーチングとの関連性について考える。

学修課題：シラバスを熟読する。スポーツの価値についての知見を集める。

第２回：競技スポーツの功罪①

アスリートのキャリアの実情について概観し、国内の競技スポーツの在り方について考える。

学修課題：プロアスリートやトップアスリートの経歴やセカンドキャリアについて調べる。

第３回：競技スポーツの功罪②

自身のこれまでのスポーツ活動を振り返り、師事した指導者の指導方針や指導方法について考える。

学修課題：自身のスポーツキャリアについて整理する。

第４回：指導現場におけるハラスメント、保護者との関わり

パワハラ、体罰、セクハラなど指導現場で起こり得るハラスメントや競技者の保護者のあり方や、その保護者との関わり方について学習し、より良いスポーツ活動の環境作りについて考える。

学修課題：各スポーツ種目におけるハラスメントの事例について整理する。

第５回：望ましいスポーツキャリアとは

レジャー、競技スポーツといった様々なスポーツ活動のあり方について確認するとともに、海外のスポーツ活動のキャリアの変遷を紹介しながら、一貫指導および望ましいスポーツ活動について考える。

学修課題：著名なスポーツ選手のキャリアについて調べ、整理する。

第６回：競技スポーツとドーピング

競技スポーツにはびこるドーピングやアンチ・ドーピングの意義や歴史について学ぶ他、アンチ・ドーピングの具体的施策について学習する。

学修課題：各スポーツ種目におけるドーピング事例について整理する。

第７回：指導現場におけるリスクマネジメント

スポーツ活動中の事故の事例学習から、事故の対処等やリスク回避するための知見について学習する。

学修課題：各スポーツ種目における指導中の事故事例について整理する。

第８回：競技スポーツの商業化①

競技スポーツの商業化の過程から、トップアスリートの社会化について学習する。

学修課題：各スポーツ種目における商業化について整理する。

第９回：競技スポーツの商業化②

競技スポーツの商業化の過程から、プロスポーツ選手とメディア、スポンサーとの関連性について学習する。

学修課題：各種ポーツ種目におけるスポンサーの関係について整

第10回：オリンピック・パラリンピックムーブメント

オリンピック・パラリンピックムーブメントについて触れ、国内のトップアスリート排出を目指した各種団体の活動について学習する。

学修課題：各スポーツ種目における2020オリパラへの取り組みについて整理する。

第11回：国内のスポーツ体制

スポーツ基本法やスポーツ振興に関わる政策等、基本的な国内のスポーツ体制について学習する。

学修課題：第２期スポーツ基本計画について学習する。

第12回：スポーツ統括団体について

JOCや日本体育協会、JSC、各種スポーツ連盟・協会の仕組みや普及や強化活動の施策について学習する。

学修課題：各スポーツ連盟・協会におけるスポーツ政策について整理する。

第13回：ジュニアユース世代のコーチングはどうあるべきか

これまでの学習内容を活用しながら、幼少期（幼～中学校期）における望ましいコーチングについてディスカッションする。

学修課題：これまでのジュニアユース期に関わる学習内容について振り返り整理する。

第14回：高校からシニア世代へのコーチングはどうあるべきか

これまでの学習内容を活用しながら、ジュニア・シニア期（高～シニア期）における望ましいコーチングについてディスカッションする。

学修課題：これまでのジュニアユース期に関わる学習内容について振り返り整理する。

第15回：本講義のまとめおよび総評

これまでの学習内容を総合し、各自グッドコーチングについて考える。

学修課題：望ましいコーチングについて自身の考えをまとめておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（60%）：小レポート15回分×４点＝60点。

レポートの評価基準は、理解度・論理性・分量が、非常に良い＝４点、良い＝３点、やや劣る＝２点、劣る＝１点で評価する。

まとめレポート（40%）：まとめレポート２回分×20点＝40点

レポートの評価基準は、独自性・論理性・分量等が、非常に良い＝80 ～ 100%、良い＝70 ～ 89%、普通＝60 ～ 69%、劣る＝59%以下で評価す

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

必要に応じて授業内で紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

履修について、「スポーツ指導論」を履修していること。３年次からの履修が望ましい。

サッカーコーチング理論と実践

【担当】望月　聡

■授業概要

サッカー競技において、キッズから発育発達に応じた一貫指導について学ぶ。またサッカー理論と技術，戦術，体力トレーニング方法一般を学ぶとともに、世界スタンダードの強く逞しいクリエィティブな個の育成、チームを運営するための理論とマネジメント法を学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：サッカーコーチングの実際について、様々なコーチの考え方について学ぶ。

目標：実践対応力あるコーチを目指す。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：特定の競技だけでなく、様々な競技について知識を深める。

目標：競技特性を考慮し、効果的なコーチングができる指導者を目指す。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：世界基準からサッカーについて考える

世界のメジャースポーツとしてのサッカーを知り，サッカー発祥の歴史を紐解く．サッカーの基本的なルールを確認するとともに，サッカーにおけるプレーの「原理原則」を理解する．

学修課題：海外の試合映像を見て、日本との違いなど分析しておく。

第２回：キッズ（U-6）年代の指導　①発育発達とコーディネーションに関する基礎知識

サッカー導入段階であるキッズ（U-6）年代の特徴を社会面，発育発達の面から理解し,実際に行われるメニューについての知識を習得する．また，キッズ年代に必要なコーディネーションの基礎知識を習得する．

学修課題：キッズ（U-6）この年代の身体的特徴を調べて理解しておく。

第３回：キッズ（U-6）年代の指導　②指導計画と実践準備

本学のびわスポキッズプログラムで行われている指導を例に，キッズ年代の指導計画，準備，実践，振り返りについて学習する．

学修課題：本学のびわスポキッズプログラムについて調べておく。

第４回：ジュニア（U-12）年代の指導　①基礎知識と指導の留意点

JFA公認C級コーチ講習会で用いられる指導教本を基に，サッカーの個人スキルが大きく成長するゴールデンエイジについて理解し，ジュニア（U-12）年代の指導について必要な知識を習得する．

学修課題：ジュニア（U-12）この年代の身体的特徴を理解しておく。

第５回：ジュニア（U-12）年代の指導　②実際の指導から分析

フットサル前日本代表監督であるロドリゴ監督が小学生サッカーチームを指導したVTRを視聴し，ジュニア年代の指導の要点，コーチングスキル，コーチのあるべき姿について学習し，議論する．

学修課題：選手に「主体性を持たせる」「考える力を持たせる」指導とはどんなことか。調べて考えて整理しておく。

第６回：ジュニア（U-12）年代の指導　③実技と実践から原理原則の理解

サッカーの個人戦術の原理原則と必要なキーファクターを学習する．スキル習得に必要なコツや指導に用いられるポイントについて理解を深める．

学修課題：サッカーにおける個人戦術や優先順位とは何か、理解しておく。

第７回：ジュニアユース（U-15）年代の指導　①特徴理解から評価と指導法

ジュニアユース年代におこる早熟や晩熟といった発育発達の差を理解し,個人差を判別する評価方法と個人差に対応した指導方法を学習する．

学修課題：ジュニアユース（U-15）この年代の特徴を理解しておく。

第８回：ジュニアユース（U-15）年代の指導　②選手に必要な能力

トップ選手のプレー VTRを視聴したうえで，グループ戦術を遂行するサッカー選手に必要な能力について学習する．

学修課題：選手に必要な資質・能力について分析しておく。

第９回：ゴールキーパーの指導

現代サッカーにおけるゴールキーパーの役割と必要な技能について理解し，各テーマごとのトレーニング方法を学習する．

学修課題：ゴールキーパーの役割､必要な能力について分析しておく。

第10回：ユース（U-18）年代の指導　①実践テクニックの習得

パーフェクトスキルの完成期であるユース年代における指導方法について学習する．

学修課題：ユース（U-18）この年代の身体的特徴について考えておく。

第11回：ユース（U-18）年代の指導　②女子サッカー選手のコーチング

女子サッカー選手の指導者の指導方法を視聴し，ユース年代に必要な戦術やスキルを育成するためのコーチングについて学習する．

学修課題：女子サッカーの映像を見て、男子との違いや特徴を分析しておく。

第12回：サッカー選手のための体力テストと体力トレーニング

逞しい個を育成するためのフィジカル強化について，日本人選手の課題と育成に必要なトレーニング方法を学習する．体力テストなどの評価方法およびフィードバック方法を学習する．

学修課題：サッカー選手に必要な身体的能力について整理しておく。

第13回：審判の役割　（審判と技術の協調）

日本サッカー協会が進める「審判と技術の協調」とは何か。どのようなことかを学び、必要性と実際についてディスカッションを通して、理解を深めていく。

学修課題：審判の役割、「ルールとは」について調べておく。

第14回：女子サッカー（なでしこジャパン）

なでしこジャパンの戦い方をもとに，男女の性差からくる競技面での違いを理解する．女子チームをコーチングする上で必要な知識について学習する．

学修課題：女子サッカーの現状・実際等について、調べておく。

第15回：一流監督の指導方法

世界トップクラスと言われる監督のVTRを視聴し，チームを統率する上で必要な条件やその指導方法について学習する．

学修課題：一流監督に関する文献を見て、資質や能力等について分析しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

意見交換やグループワーク、発表に積極的な参加を重要視します。レポートは内容とともに、読みやすい文字で記述して下さい。

複数の授業内課題（60%）：・振り返りレポート(３回)18点

・授業内小テスト（５回）30点

・授業内小レポート（２回）12点

発表・説明（20%）：・テーマに即していて、論理的である。10点

・テーマに対して、自分自身の意見や考えが明確にある。10点

発問・質問にたいして意見交換（20%）：・論理的で分かりやすい。10点

・意見交換を発展していくことができ、まとめる力がある。10点

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

日本サッカー協会キッズリーダーライセンステキスト（U- ６・８・10）

C級コーチライセンステキスト・ガイドライン

日本サッカー協会技術部強化指針

DVD「インテリジェンスを育てる」サッカートレーニング(JLCジャパンライム)

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

バレーボールコーチング理論と実践

【担当】鳥羽　賢二

■授業概要

バレーボール競技の歴史的背景とその普及過程を学習する。
また、バレーボール競技の世界スタンダードの指導法研究に関連させながら、その技術論・戦術論を通じ 専門的な分析方法やコーチング法を学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：バレーボール競技の生い立ち、形成、変遷の理解
目標：バレーボール競技の起源を理解する

２．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：チーム競技の戦術、戦略性と勝敗との兼ね合い
目標：詳細な戦術、戦略の構造理解

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：講義ガイダンスおよびバレーボール競技のコーチング概説
講義内容の説明と進め方
バレーボール競技コーチングについての総論を解説する
学修課題：授業内容について復習する。

第２回：バレーボール競技の形成
バレーボール競技の起源について学習する
学修課題：競技がどのように産出されたかを、ノートにまとめる。

第３回：バレーボール競技の伝播
バレーボール競技の世界と日本への伝播
学修課題：競技の発案者やそれを伝播した人物などを整理する。

第４回：バレーボール競技の普及
ルールの変遷
世界の潮流
学修課題：競技ルールの変遷について、年代とともに整理する。

第５回：国際統括組織
国際バレーボール連盟（FIVB）と世界オリンピック委員会（IOC）の組織について
学修課題：国際競技団体の役割について整理する。

第６回：国内統括組織
日本バレーボール協会（JVA）と日本オリンピック委員会（JOC）
学修課題：国内統括組織の役割について整理する。

第７回：世界大会の実際
世界3大大会とワールドグランドチャンピオンズカップ
学修課題：バレーボール競技の世界大会がどのように執り行われてきたかについて、整理する。

第８回：世界大会とメディアの関係
バレーボール競技と主にテレビ放映権の関連を概観する
学修課題：スポーツとメディアの望ましい関係性に把握する。

第９回：国内バレーボール競技の実際
9人制バレーボール、ソフトバレーボールの振興
地域スポーツ（家庭婦人バレーボール）の現状と今後
学修課題：国内バレーボール競技の種目について理解し、それを整理する。

第10回：国内バレーボール競技の強化策
タレント発掘事業、一貫教育
学修課題：国際競技力向上のための一貫教育がどのように執り行わらているかを整理する。

第11回：国際ゲームの実際
実際の国際大会のレギュレーション（規定）を理解する。
また、国際大会の運営がどのように執り行われれるかを学習する。
学修課題：国際競技の運営についてまとめる。

第12回：コーチングの実際
パス、レシーブ、スパイクの練習法
学修課題：実技習得法についてまとめる。

第13回：国内トップリーグチームのコーチングの実際
トップリーグの現状と今後
アナリストの役割
国際競技力向上の基盤
学修課題：競技力向上のための支える役割についてまとめる。

第14回：学校現場のバレーボール競技の現状
学校スポーツの現状と課題
学修課題：学校の課外活動について、その問題を整理する。

第15回：まとめおよび総評
講義内容の理解度のチェック
要点整理とレポート課題について解説する
学修課題：本講義の要点を整理する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題レポート（40%）：授業内で「小レポート」課題を与える。40点満点で評価する。
期末課題レポート（60%）：期末課題（60点満点）については、本講義の理解度をはかる。
60点：本講義の内容をよく把握し理解されている。
50点：本講義の内容をおおよそ理解されている。
40点：本講義内容の一定の理解が見受けられる。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

その都度プリント等を配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

集中講義で実施します。
講義実施期日については、教務課より事前に連絡します。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

バスケットボールコーチング理論と実践

【担当】吉川　文人

■授業概要

バスケットボール競技のコーチングを取り巻く諸課題やコーチング実践の事例を取り上げながら、バスケットボールの技術や技能、個人、グループ、集団それぞれの戦術行動を知り、それらの指導法について学ぶ。バスケットボール競技及び各競技・種目に通底するコーチングの実践力向上を目指し、バスケットボール競技を題材とした競技力向上の方略を裏付けるスポーツ科学の知見について学びを深める。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：バスケットボール・コーチングに関する実践知

目標：バスケットボール競技を題材とした競技力向上の方略を裏付けるスポーツ科学の知見について多角的に論述することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション及びバスケットボールコーチング論の概説

学習内容や到達目標、評価基準等について把握する。バスケットボール競技の競技特性を概観し、バスケットボール競技とコーチングに関連した話題の内容や検討課題について把握する。

学修課題：バスケットボール競技をテーマとして、自らが既に知り得ている概念のマインドマップを作成する。

第２回：バスケットボール競技の特性と魅力

バスケットボール競技の競技特性とルールを概観し、専門用語とそれらが示す実態との関連付けを行ないながら、コーチの養成課程で求められている知識やスキルについて把握する。

学修課題：バスケットボール競技の試合映像を閲覧する。

第３回：育成年代別のコーチングの概要

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。発育発達の段階を踏まえ、ライフステージや個人のライフスタイルに応じたスポーツライフの計画や実践の仕方、スポーツ指導者として求められる指導理論や健康、安全に関する事項について概観する。

学修課題：競技者の発育の段階や、体力・技能の程度等を踏まえた指導法の選択にかかる留意事項をノートにまとめる。

第４回：バスケットボールコーチングと状況判断能力

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。バスケットボール競技における戦略及び戦術に関する研究の知見や事例を概観し、付加的情報の利用法と練習の組織化について把握する。

学修課題：バスケットボール競技における情報判断能力に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第５回：バスケットボールコーチングと付加的情報フィードバック

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。バスケットボール競技における基礎的技術に関する研究の知見や事例を概観し、効果的な運動学習を目指した付加的情報の利用法と練習内容について把握する。

学修課題：付加的情報フィードバックに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第６回：バスケットボールコーチングと行動体力

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。バスケットボール競技に必要な体力的要素に関する研究の知見や事例を概観し、スポーツ医科学的な見地から、発育・発達段階や技術レベルに応じた様々なトレーニング・コーチング方法について把握する。

学修課題：バスケットボール競技の特性上、選手に要求される行動体力について重要事項や関連事項をまとめる。

第７回：バスケットボールコーチングと運動学習

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。バスケットボール競技における戦略及び戦術に関する研究の知見や事例を概観し、付加的情報の利用法と練習の組織化について把握する。

学修課題：運動学習とりわけ技能の獲得過程について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第８回：バスケットボールコーチングの事例紹介（国内）

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。著名なコーチのコーチングスタイルやエピソード、指導方針について知り、自らのコーチングのあり方について考える。

学修課題：バスケットボールコーチ論の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第９回：バスケットボールコーチングの事例紹介（国外）

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。著名なコーチのコーチングスタイルやエピソード、指導方針について知り、自らのコーチングのあり方について考える。

学修課題：バスケットボールコーチ論の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第10回：バスケットボールコーチングの事例紹介（オフェンス）

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。バスケットボールの指導例を概観し、その裏付けとなる資料について理解を深める。

学修課題：オフェンスのチーム戦術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第11回：バスケットボールコーチングの事例紹介（ディフェンス）

バスケットボール競技に関する概念の復習をする。バスケットボールの指導例を概観し、その裏付けとなる資料について理解を深める。

学修課題：ディフェンスのチーム戦術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第12回：バスケットボールのゲーム分析（データ収集）

バスケットボールの競技力の分析・評価に必要となるデータの収集方法について実習する。加えて、バスケットボールのパフォーマンス指標について理解を深める。

学修課題：バスケットボール競技の試合映像を収集する。

第13回：バスケットボールのゲーム分析（データ処理・分析）

バスケットボールの競技力の分析・評価に必要となる統計的データ解析の基礎を理解する。

学修課題：ゲーム分析レポートを作成する。

第14回：ゲーム分析レポートの発表

各自が作成したゲーム分析レポートを発表する。

学修課題：バスケットボール競技におけるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第15回：まとめ及び総括

講義の内容を振り返り、学習内容について再確認する。

学修課題：理想的なバスケットボール・コーチングについて自らの考えをまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題（70%）：授業で取り扱った内容の理解度について、独自のルーブリックに基づいて70点満点（10点×７回）で評価する。

レポート評価（30%）：内容や論理構成について、独自のルーブリックに基づいて30点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業の中で、適時、紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

テニスコーチング理論と実践

【担当】植田　実

■授業概要

テニスのコーチングに必要な専門的知識や指導スキルの習得を目的とした授業を展開する。
授業はオンコートや講義形式で行い、オンコートでの指導から選手やチームのコーチング計画の管理といったマネジメントまで、競技選手のコーチングについて実践的なモデルを捉えられるようになることが目的である。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：テニスコーチとしての幅広く深い知識
目標：オンコートでの指導から選手やチームのコーチング計画の管理といったマネジメントまで、競技選手のコーチングについて実践的なモデルを捉えられるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：テニスコーチングの概観
全授業のレジメ配布し、テニスコーチングの全体像について理解する
学修課題：授業終了時に配布するテニスコーチングに関する追加資料について理解を深める。

第２回：テニスの理解①　現代テニス界の理解
現代テニス界の現状について（プロスポーツ、アマチュアスポーツ、学生スポーツ、生涯スポーツetc…）
学修課題：授業終了時に配布するテニス界の現状に関する追加資料について理解を深める。

第３回：テニスの理解②　現代テニスにいたるまでのテニスの歴史の理解
テニスの歴史について（テニスの起源、テニスの普及、日本におけるテニス）
学修課題：授業終了時に配布するテニスの歴史に関する追加資料について理解を深める。

第４回：テニスの競技力
テニスのパフォーマンスを構成している要素等について
学修課題：授業終了時に配布するテニスパフォーマンスの実態に関する追加資料について理解を深める。

第５回：テニスの戦略・戦術
戦略、戦術、作戦能力について
学修課題：授業終了時に配布するテニスの作戦行動に関する追加資料について理解を深める。

第６回：テニスの技術についての理解
技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について
学修課題：授業終了時に配布するテニス技術と科学に関する追加資料について理解を深める。

第７回：テニスの体力についての理解
テニスにおける一般的体力、専門的体力の関係、体力についての科学的知見について
学修課題：授業終了時に配布するテニスの体力と科学に関する追加資料について理解を深める。

第８回：テニスの心理についての理解
テニス選手の性格、心理特性、心理状態、競技的心理能力について
学修課題：授業終了時に配布するテニス競技の動機づけに関する追加資料について理解を深める。

第９回：テニスの競技力に関わる外的要因の理解
競技力に影響する様々な要因について
学修課題：授業終了時に配布するテニス競技と保護者の関わりに関する追加資料について理解を深める。

第10回：テニスの戦略・戦術の分析評価
戦略、戦術の分析評価について（ゲームパフォーマンス分析の実践）
学修課題：授業終了時に配布するテニスのゲーム分析的研究に関する追加資料について理解を深める。

第11回：テニスの技術の分析評価
技術の分析評価について（スキルテストや科学的分析の実践）
学修課題：授業終了時に配布するテニスのスキルテストに関する追加資料について理解を深める。

第12回：テニスの体力の測定評価
体力の分析評価について（体力テストの実践）
学修課題：授業終了時に配布するテニスの体力テストに関する追加資料について理解を深める。

第13回：テニスの心理の分析評価
心理の分析評価について
学修課題：授業終了時に配布するテニスの心理テストに関する追加資料について理解を深める。

第14回：テニスのトレーニング計画
競技力向上のためのトレーニング計画について
学修課題：授業終了時に配布するトレーニング計画に関する追加資料について理解を深める。

第15回：テニスのオンコート指導のためのスキル
ヒッティングやフィーディング、言葉がけ等オンコート指導に必要なスキルについて
学修課題：これまでの授業を振り返り復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（40%）：授業で取り上げた内容を適切にまとめられていれば４点、独自の意見やアイディアを見出していれば４点かについて評価する。これを５回実施する。８点×５回=40点
期末レポート（60%）：課題に対して、授業内容を理解し、総合的にバランス良く述べることができていれば30点とし、また独自の意見を見出していれば15点、実践の場に利用または応用できるようなアイディアを盛り込めていれば15点とする。

■教科書

公益財団法人日本テニス協会　・テニス指導教本Ⅰ　・大修館書店　・2015年

■参考文献等

・井山夏生（著）『テニスプロはつらいよ 世界を飛び、超格差社会を闘う』光文社新書、2016年
・ノエル・ブランデル（著）『テニス―トップ・プレーヤーへの道』大修館書店、1999年
・その他授業内で適宜指示する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・本科目はテニス部やテニス経験者、または「テニス」科目の単位を習得した者を対象とする。

陸上競技コーチング理論と実践

【担当】渋谷　俊浩

■授業概要

本授業では、個人競技である陸上競技の特性を理解し、競技スポーツにおけるコーチングの基礎理論をふまえながら、各自の専門種目の競技力向上を目指したコーチング理論および方法論について理解する。
具体的には、陸上競技において適切なコーチングを行うために理解しておくべき関連分野（体力、技術、バイオメカニクス、生理、心理学、トレーニング、戦術、ルール、審判等）を、事例・先行研究・文献・ディスカッション等を通して実践的に学修する。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：陸上競技のコーチングを実践するために必要な基礎的諸理論および関連分野の諸理論を学修し、自身の知見を深めていく。
目標：陸上競技の特性を理解し、各自の専門種目の競技力向上に適切なコーチングを身につける。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：学修した内容をレポートにまとめて発表（プレゼンテーション・ディスカッション含む）することに加え、競技の現場で自らが実践する。
目標：学修した内容を競技現場で実践し、競技力向上に結び付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよび概説：コーチング・陸上競技とは
授業内容・スケジュール等について、自身の競技スケジュールとあわせて理解・把握する。
また、コーチング・陸上競技の基礎的な理論について理解する。
学修課題：自身の競技スケジュールを確認しておく。競技スポーツおよび陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）

第２回：2020東京オリンピック・パラリンピックへ向けた取り組み
2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向け、日本陸上競技連盟がどのような取り組みをしているのかをはじめ、陸上競技会の動向を理解する。
そのうえで、自身の競技カレンダーとの整合性を検討する。
学修課題：日本陸上競技連盟HPおよび発刊誌を閲覧し、東京オリンピック・パラリンピックへ向けた取り組みの概要をまとめておく。

第３回：コーチングおよび陸上競技の基礎理論
コーチングについての基礎理論を理解する。競技スポーツのコーチングについて、文献・先行研究等を参考に検討を加える。
陸上競技の基礎理論について理解する。陸上競技および「走・跳・投」各種目の特性について理解する。自身の専門種目の特性について理解する。
学修課題：競技スポーツおよび陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）各特性についてまとめ、資料を作成しておく。競技現場で実践（コーチング･トレーニング）し、記録しておく。

第４回：陸上競技のコーチング理論（トラック種目）
「走・歩」種目の特性に応じたコーチングについて検討を加え、理解する。
学修課題：自身が検討したトラック種目（走・歩）のコーチングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第５回：陸上競技のコーチング理論（フィールド種目）
「跳・投」種目の特性に応じたコーチングについて検討を加え、理解する。
学修課題：自身が検討したフィールド種目（跳・投）のコーチングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第６回：陸上競技のコーチングの実際
陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なコーチングについて検討する。
陸上競技のコーチングの現状について理解する。
学修課題：事例についてまとめ、そこから得た知見を競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第７回：陸上競技のコーチングの現状と課題
陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なコーチングについて検討する。
陸上競技のコーチングの課題を明らかにし、改善方策を検討する。
自身のコーチングポリシーについて検討する。
学修課題：改善方策についてまとめ、自身が確立したコーチングポリシーを競技現場で実践（コーチング･トレーニング）し、記録しておく。

第８回：トレーニングの基礎理論
トレーニングについての基礎理論を理解する。
競技スポーツのトレーニングについて、文献・先行研究等を参考に検討を加える。
学修課題：競技スポーツおよび陸上競技のトレーニングに関する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第９回：陸上競技のトレーニング理論（トラック種目）
「走・歩」種目の競技力向上を目指したトレーニングについて検討を加え、理解する。
学修課題：自身が検討したトラック種目（走・歩）のトレーニングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第10回：陸上競技のトレーニング理論（フィールド種目）
「跳・投」種目の競技力向上を目指したトレーニングについて検討を加え、理解する。
学修課題：自身が検討したフィールド種目（跳・投）のトレーニングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第11回：トレーニングの実際
陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なトレーニングについて検討する。
陸上競技のトレーニングの現状について理解する。
学修課題：事例についてまとめ、そこから得た知見を競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第12回：トレーニングの現状と課題
陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なトレーニングについて検討する。
陸上競技のトレーニングの課題を明らかにし、改善方策を検討する。
自身の競技力向上を目指したトレーニングについて検討する。
学修課題：改善方策についてまとめ、自身が考案したトを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第13回：競技力向上方策（競技者育成システム）
陸上競技におけるタレントの発掘・育成について理解し、アスリートの競技力向上を目指した強化プログラムを検討する。
学修課題：競技者育成プログラムを熟読し､その内容を理解しておく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第14回：競技力向上方策（指導者育成システム）
陸上競技において、アスリートの競技力向上に不可欠なサポート体制について理解し、競技環境の整備および指導者育成システムを検討する。
学修課題：指導者育成システムについてまとめておく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。

第15回：まとめおよび総評
「陸上競技」「コーチング」をキーワードに、自身の競技現場における実践内容について発表し、ディスカッションすることで、「陸上競技のコーチング」に関してさらに理解を深める。
今期の陸上競技会の動向について検討を加え、今後のコーチングに活かす方策を検討する。
学修課題：発表・ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめ、再度自身のコーチングポリシーについて検討を加えておく。競技現場で実践(コーチング･トレーニング)し、記録しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

規定回数以上の出席がなければ評価対象としない。
陸上競技のコーチング論に関するレポート（30%）：関連分野の知見をふまえ、適切なコーチングについて理解できているかどうかを30点満点で評価する。
陸上競技のトレーニング論に関するレポート（30%）：関連分野の知見をふまえ、適切なトレーニングについて理解できているかどうかを30点満点で評価する。
まとめのレポート（40%）：授業で学修した内容の理解度と、それらの知見をふまえた実戦に基づく自身のコーチングポリシーが提示できているかどうかを40点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

陸上競技を科学する：関岡康雄編著（道和書院）
走る科学：小林寛道編著（大修館書店）
跳ぶ化学：深代千之編著（大修館書店）
投げる科学：桜井伸二編著（大修館書店）
基礎からの陸上競技バイオメカニクス：トム・エッカー著（ベースボール・マガジン社）
スポーツ・トレーニング理論：村木征人著（ブックハウス・エイチディ）
競技者育成プログラム：日本陸上競技連盟監修

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

柔道コーチング理論と実践

【担当】林　弘典

■授業概要

柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である。

本授業では、柔道の弐段に必要な投の形（浮落とし、背負い投げ、肩車、浮き腰、払い腰、釣り込み腰、送り足払い、支え釣り込み足、内股、巴投、裏投げ、隅返し、横掛け、横車、浮き技)ができるようになることを目指す。また、全日本柔道連盟公認C指導員になるための必要な知識と技能を学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓)、投の形

目標：柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓)、投の形を暗唱できる。

２．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容:投の形（浮落とし、背負い投げ、肩車、浮き腰、払い腰、釣り込み腰、送り足払い、支え釣り込み足、内股、巴投、裏投げ、隅返し、横掛け、横車、浮き技）

目標:投の形（浮落とし、背負い投げ、肩車、浮き腰、払い腰、釣り込み腰、送り足払い、支え釣り込み足、内股、巴投、裏投げ、隅返し、横掛け、横車、浮き技)ができる。

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：礼法（立礼、座礼）

目標：礼法（立礼、座礼）できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、柔道の概要について

シラバスを確認し、授業の進め方や取り組み方について理解する。柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念･原理、遺訓）について学習する。

学修課題：シラバスを熟読し、柔道の概要について調べる。

第２回：柔道指導者の資格の必要性や安全指導について

柔道指導者の資格の必要性や安全指導について学習する。

学修課題：柔道指導者の資格や安全指導について調べる。

第３回：礼法（立礼、座礼)、浮き落とし（うきおとし）

礼法（立礼、座礼)、浮き落とし（うきおとし）について学習する。

学修課題：礼法（立礼、座礼)、浮き落とし（うきおとし）について調べる。

第４回：背負い投げ（せおいなげ)、肩車（かたぐるま）

背負い投げ（せおいなげ)、肩車（かたぐるま）について学習する。

学修課題：背負い投げ（せおいなげ)、肩車（かたぐるま）について調べる。

第５回：浮き腰（うきごし)、払い腰（はらいごし）

浮き腰（うきごし)、払い腰（はらいごし）について学習する。

学修課題：浮き腰（うきごし)､払い腰（はらいごし）について調べる。

第６回:釣り込み腰（つりこみごし)､送り足払い（おくりあしはらい）

釣り込み腰（つりこみごし)、送り足払い（おくりあしはらい）について学習する。

学修課題：釣り込み腰（つりこみごし)、送り足払い（おくりあしはらい）について調べる。

第７回：支え釣り込み足（ささえつりこみあし)、内股（うちまた）

支え釣り込み足（ささえつりこみあし)、内股（うちまた）について学習する。

学修課題：支え釣り込み足（ささえつりこみあし)、内股（うちまた）ついて調べる。

第８回：巴投（ともえなげ)、裏投げ（うらなげ)、

巴投（ともえなげ)、裏投げ（うらなげ）について学習する。

学修課題：巴投（ともえなげ)、裏投げ（うらなげ）について調べる。

第９回：隅返し（すみがえし)、横掛け（よこがけ）

隅返し（すみがえし)、横掛け（よこがけ）について学習する。

学修課題：隅返し(すみがえし)､横掛け(よこがけ)について学習する。

第10回：横車（よこぐるま)、浮き技（うきわざ）

横車（よこぐるま)、浮き技（うきわざ）について学習する。

学修課題：横車（よこぐるま)、浮き技（うきわざ）について調べる。

第11回：柔道の概要、投の形のチェック

柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓)、投の形について、名称を漢字で正しく記載できることをチェックする。また、暗唱できることをチェックする。

学修課題：柔道の概要、投の形についてレポートをまとめて暗唱できるようする。

第12回:礼法（立礼、座礼)、投の形（浮落とし、背負い投げ、肩車）の習熟度チェック

礼法（立礼、座礼)、投の形（浮落とし、背負い投げ、肩車）の習熟度をチェックする。

学修課題：礼法（立礼､座礼)､投の形（浮落とし､背負い投げ､肩車）について復習する。

第13回：投の形（浮き腰、払い腰、釣り込み腰、送り足払い、支え釣り込み足、内股）の習熟度チェック

投の形（浮き腰、払い腰、釣り込み腰、送り足払い、支え釣り込み足、内股)の習熟度をチェックする。

学修課題：投の形（浮き腰、払い腰、釣り込み腰、送り足払い、支え釣り込み足、内股）について復習する。

第14回:投の形（送り足払い、支え釣り込み足、内股、巴投、裏投げ、隅返し)の習熟度チェック

投の形（送り足払い、支え釣り込み足、内股、巴投、裏投げ、隅返し）の習熟度をチェックする。

学修課題：投の形（送り足払い､支え釣り込み足､内股､巴投､裏投げ､隅返し)について復習する。

第15回：投の形（横掛け、横車、浮き技)、礼法（立礼、座礼）の習熟度チェック、まとめ

投の形（横掛け､横車､浮き技)､礼法（立礼､座礼）の習熟度をチェックする。また、今までの授業を振り返り、まとめを行う。

学修課題：投の形（横掛け、横車、浮き技)、礼法（立礼、座礼）について復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

レポート（20%)：柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念･原理、遺訓）と投の形の名称を記載したレポートを提出する。誤字脱字なく、暗唱できた者のみ20点で評価する。

発表（30%)：授業中の質問に対して回答した者を30点（３点×10回）で評価する。15回の授業を通して必ず１人10回を質問する。

技能チェック（50%)：礼法（立礼、座礼)、投の形（浮落、背負投、肩車、浮腰、払腰、釣込腰、送足払、支釣込足、内股、巴投、裏投、隅返、横掛、横車、浮技)の習熟度について、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

１．公認柔道指導者養成テキストA・B・C指導員：全日本柔道連盟（全日本柔道連盟）
２．講道館DVDシリーズ第３作「投の形」：講道館（講道館）
３．昇段審査のための柔道の形入門［投の形］［柔の形］：小俣幸嗣（大泉書店）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる。本授業は柔道の単位を取得したもので初段以上の者が履修してください。あるいは、柔道有段者の者に限ります。以下に主な注意点を記します。

１．事故防止や学習効果を高めるため、国際柔道連盟の規定に合ったゼッケン付きの柔道衣の着用を義務づけます。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はTシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、貸し借りはしないでください。また、使用した柔道衣はすぐに洗濯してください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。

水泳コーチング理論と実践

【担当】白木　孝尚

■授業概要

本授業では、主に水泳（競泳）の実践・指導に必要な知識・技術・能力・態度の理解・習得を目指す。講義と実技から構成され、講義では水泳（競泳）に必要なバイオメカニクス的・生理学的・医学的知識、トレーニングに関わる専門的な知識、さらにコーチングに必要なコミュニケーション能力やマネジメントについて深く理解する。また、実際に水泳（競泳）のトレーニングを計画・実行することを通して、指導者としての実践を経験する。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：水泳（競泳）の実践・指導に必要な知識・技術・能力・態度の理解・習得

目標：水泳（競泳）の実践・指導現場において獲得した知識・指導技術を応用できる。

2．DP6．優れたスポーツマンシップ

具体的内容：コーチングに必要なコミュニケーション能力やマネジメントについての深い理解

目標：水泳（競泳）の実践・指導現場においてリーダーシップを発揮できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション・水泳競技解説

本授業の趣旨や到達目標を理解し、本授業を受講するうえで必要な姿勢や心構えを説明する。また、水泳競技（競技・ルール）について解説する。

学修課題：学部共通必修科目「水中運動法」内で展開された講義「水の特性」について復習し、深く理解する。水泳コーチ教本２～15ページを予習する。次回からの小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第２回：水泳コーチ基礎理論①「水泳競技解説」

水泳競技（水泳競技の特性，水泳競技の歴史，日本水泳界の現状と課題など）について理解する。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳の生理学」25～45ページを予習する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第３回：水泳コーチ基礎理論②「水泳の生理学」

水泳の生理学（水泳の基礎生理学，水泳の実践生理学，トレーニングと生理学など）について理解する。

トレーニングを計画する上で、必要な生理学的知識についての理解を深め、トレーニングならびに選手育成に応用する能力を身につける。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳の栄養学」66 ～ 158ページを予習する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第４回：水泳コーチ基礎理論③「水泳の医学・栄養学」

水泳の医学（水泳に伴う疾病と障害，競技種目に特有な医学問題，特殊環境他など）、

水泳の栄養学（スポーツと栄養の関係，食事・サプリメント，目的別栄養摂取など）、

水泳に関わるトレーナー（役割，基礎知識など）について理解する。

水泳の医学・栄養学についての理解を深め、トレーニングならびに選手育成に応用する能力を身につける。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページを予習する。配布物「抵抗」（スイミングファステストp.61-84）を熟読する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第５回：水泳コーチ基礎理論④「水泳のバイオメカニクス」

水泳のバイオメカニクス（水中環境の特性，抵抗と推進（推進力・推進効率）など）について理解する。

水泳のバイオメカニクス、ならびに泳ぎ（動き）について理解を深め、トレーニングならびに選手育成に応用する能力を身につける。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページを予習する。配布物「推進力増加・減少のガイドライン」（スイミングファステストp.85-118）を熟読する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第６回：競泳の動き①「基礎的な技術」

競泳４種目（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）に共通する「動き」について理解する。

また、速く泳ぐ、効率良く泳ぐために重要な基礎的姿勢・技術に関する理解を深めるとともに、水泳技術を観察する能力を磨き、トレーニング・技術指導ならびに選手育成に応用する。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24、「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する。配布物「クロール」（スイミングファステストp.119-164）「背泳ぎ」（スイミングファステストp.213-244）を熟読する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第７回：競泳の動き②「クロール・背泳ぎ」

競泳４種目（クロール・背泳ぎ）の「動き」について理解する。

クロール・背泳ぎの技術向上を目的としたトレーニングに関する理解を深める。

その際に、実際に指導現場で用いられているトレーニング方法についても情報を得る。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16 ～ 24、「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する。配布物「バタフライ」（スイミングファステストp.173-209）「平泳ぎ」（スイミングファステストp.253-297）を熟読する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第８回：競泳の動き③「平泳ぎ・バタフライ」

競泳４種目（平泳ぎ・バタフライ）の「動き」について理解する。

平泳ぎ・バタフライの技術向上を目的としたトレーニングに関する理解を深める。

その際に、実際に指導現場で用いられているトレーニング方法についても情報を得る。

学修課題：水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24、「競泳のトレーニング」194 ～ 217ページを予習する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第９回：競泳の動き④「上級者の技術について」

競泳４種目（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の高度な「動き」について理解する。

国際的に活躍する選手の動きを分析し、速く泳ぐ・効率よく泳ぐ動きの要素を深く理解し、それらの動きを習得するためのトレーニングを考える。

また、実際に指導現場で用いられているトレーニング方法についても情報を共有し、技術指導ならびに選手育成に応用する能力を養成する。

学修課題：水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する。配布物「新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチ」（私たちは未来から「スポーツ」を託されているp.20-42）を熟読する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第10回：水泳のコーチング①「コーチの心得」

コーチの心得，コーチの役割，コーチに必要な資質などについて理解する。

コーチとしての心得、コーチの役割、コーチに必要な資質についての理解を深め、職業「コーチ」として現場で実践・応用できる能力を身につける。

学修課題：水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する。配布物「コーチング及びコーチの現状と課題」（私たちは未来から「スポーツ」を託されているp.44-83）を熟読する。次回の小テストに向けて、各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する。

第11回：水泳のコーチング②「コーチに必要な資質」

コーチに必要な資質について深く理解する。

コーチに必要な資質について、実際の水泳・スポーツコーチ現場以外の分野からも深く考察し、選手の成長や社会的な適応につながるコーチング能力を身につける。

学修課題：水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する。配布物「新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチの確率に向けて」（私たちは未来から「スポーツ」を託されているp.85-110）を熟読する。

第12回：水泳のコーチング③「コミュニケーション」

コーチに必要なコミュニケーション能力について理解する。

コーチにとって重要なコミュニケーションについての理解を深め、スポーツ現場だけでなく、あらゆる場面で実践・活用できる能力を身につける。

学修課題：水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する。

第13回：水泳のコーチング④「チームビルディング」

コーチに必要な資質（チームビルディングなど）について理解する。

コーチング現場で活用できるチームビルディングについての理解を深め、実際の現場で実践・応用できる能力を身につける。

学修課題：これまでの授業内容を振り返り、水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する。

第14回：水泳のコーチング⑤「セルフコーチングを考える」

自分自身を対象者とし、コーチング（手法、ポイントなど）を考える。

自分自身を対象にコーチングを考え、コーチングの手法やポイントを明確にし、トレーニング計画を立案する。

その際に、シーズン計画（学期・月・週・日）を明確に示し、強化のポイントや内容についてわかりやすく整理し、練習内容（メニュー）を提示できるように準備する。

学修課題：これまでの授業内容を振り返り、水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する。セルフコーチングで考えた内容をレポートにまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。

第15回：水泳のコーチング⑥「セルフコーチングの紹介」

セルフコーチングの内容を発表する。

自分自身を対象にコーチングを考え、コーチングの手法やポイントを明確にし、トレーニング計画を立案する。

その際に、シーズン計画（学期・月・週・日）を明確に示し、強化のポイントや内容についてわかりやすく整理し、練習内容（メニュー）を提示できるように準備する。

また、準備したものを授業内で発表する。

学修課題：これまでの授業内容を振り返り、水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する。セルフコーチングで考えた内容をレポートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内課題（40点）ならびに期末レポート（60点）の合計100点で評価する。

授業内課題（40%）：授業内で競泳競技規則など競技運営に関する知識についての「小テスト」を10回（各４点）実施し、その得点の合計とする（合計40点）。

期末レポート（60%）：テーマに対して、授業内で学んだことにとどまらず、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に説明されていることを評価する。

■教科書

公益財団法人日本水泳連盟　・水泳コーチ教本　第3版　・大修館書店　・2014年

■参考文献等

・スイミングファステスト（EW. マグリシオ，ベースボールマガジン社，2005）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修条件

①「水中運動法」ならびに「スポーツ指導論」の単位を修得していなければ履修できません。

②水泳部所属学生及び水泳競技経験者が受講することが望ましい。

③将来的に学校の教員あるいは水泳(競泳)の指導者になる可能性のある学生が受講することが望ましい

トップアスリート論　【担当】コーチングコース教員

■授業概要

世界基準で活躍するトップアスリートたちは、何をもってトップアスリートに成り得たのか？トップアスリートとして認められているのか？本授業は、コーチングコース各教員の考え方・価値観・コーチング法とともに、トップアスリートに関るさまざまなスポーツ事象を切り口に、競技力向上のノウハウを探り出すことを目指す。また、受講生がスポーツ大学生・競技スポーツの実践者として、有意義なアスリートライフを創造する能力を身につけることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：様々なスポーツ事象を切り口に競技力向上のノウハウを探り出す。

目標：競技スポーツ実践者として、有意義なアスリートライフを創造する能力を身につける。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：各競技のトップアスリートが、どのように学び、育っていったのかを考える。

目標：様々なスポーツの特性を理解して、競技力向上に活かす。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよびトップアスリートの現状（望月　聡）

授業の概要説明および、導入を図る。トップアスリートの現状について、総論的に解説する。

学修課題：ノートに自分のトップアスリートに関する考えをまとめておく。

第２回：トップアスリートは違う！いや同じ！（望月　聡）

トップアスリートは何が違うのか。実はあまり変わらないのでは。様々な視点からトップアスリートについて組織化して分析してみる。

学修課題：アスリートがテーマの文献を読み、必要とされる資質・能力を調べて、自分自身と比較してみる。

第３回：クリーンアスリートを目指して（渋谷俊浩）

近年のトップアスリートを取り巻く課題・問題点について、事例を紹介しながら解説する。

特に、競技スポーツの現場で大きな問題となっているドーピングに焦点を当てる。

学修課題：WADAおよびJADAのHPを閲覧し、ドーピングについての見識を深めておく。

第４回：トップアスリートとは、競技スポーツの持つ力とは何か（渋谷俊浩）

トップアスリートとは、競技スポーツの持つ力とは何か。2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けての中央競技団体の取り組み・事例を挙げて解説する。

学修課題：文部科学省およびスポーツ庁のHPを閲覧し、スポーツの持つ力・競技スポーツのあるべき姿について、自身でまとめておく。

第５回：柔道のトップアスリートについて（林　弘典）

挑戦　岡田弘隆（DVD）を視聴し､トップアスリートについて考える。

学修課題：元全日本柔道代表の岡田弘隆氏について調べる。

第６回：柔道のトップアスリートについて（林　弘典）

プロジェクトX挑戦者　宿命の最強決戦～柔道金メダル・師弟の絆～（DVD）を視聴し、トップアスリートについて考える。

学修課題：元全日本柔道代表の上村春樹氏について調べる。

第７回：トップアスリートの競技力向上に資するためのデータ利用について（吉川文人）

スポーツ競技の事象を定量的に評価するために収集されたデータの活用事例について知り、競技力向上を意図したデータ利用について理解を深める。

学修課題：重要度が高いと考えるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第８回：トップアスリートの競技力向上に資するための情報通信技術について（吉川文人）

スポーツ競技の競技力向上を意図して利活用されている情報通信技術の活用事例を概観し、データを利用した選手強化及び指導者育成の展望について考える。

学修課題：情報通信技術の活用事例を文献調査し、ユーザの視座から重要事項や関連事項をまとめる。

第９回：トップアスリートの考え方（白木孝尚）

トップアスリートの著書や資料から、アリートとしての資質や素養を学ぶ。また、自身のアスリートとしての活動を振り返り、今後のアスリートとしての姿勢を考える。

学修課題：図書館蔵書「覚悟のすすめ」（金本知憲，角川書店，2008）を熟読し、授業の復習を行う。

第10回：アスリート教育（白木孝尚）

アスリートをコーチングする上で考慮しなければならないことや、アスリート兼人間としてどのような教育を展開していくべきかについて、トップアスリートの事例を参考に考える。

学修課題：図書館蔵書「トップアスリート」（小松成美，扶桑社，2008）を熟読し、授業の復習を行う。

第11回：チャンピオンでありつづけるトップアスリート（北村　哲）

チャンピオンとして君臨し続けるトップアスリートの競技生活について触れ、成功者であり続けるためのポイントについて考える。

学修課題：自身の専門競技種目におけるトップアスリートや他競技種目の著名なチャンピオン選手について調べる。

第12回：トップアスリートの失敗（北村　哲）

トップアスリートの失敗事例から競技生活での苦難を克服するための考え方や方法について考える。

学修課題：自身の競技生活の振り返りやトップアスリートの自伝書等から事例について知見を広げる。

第13回：大学アスリートと世界的アスリート（植田　実）

本学在学のトップアスリートに焦点をあて、その環境、素養について概観する。

また、世界で活躍するアスリートが、メダリストになるまでの過程を観察し、その成功事例のポイントを探る。

学修課題：学生経験のあるトップアスリートについて調べる。

第14回：アスリートのセルフマネジメントと社会的影響（植田　実）

アスリートが、頂点を目指すための内発的動機付けについて議論を展開する。

くわえて、トップアスリートが社会に及ぼす影響について検討する。

学修課題：トップアスリートが社会に与える影響について、調べておく。

第15回：授業のまとめ：これからのトップアスリートについて考えてみる(望月　聡)

スポーツが科学される時代になって、誰もが理解しやすくなり、また誰もが競技成績を高めやすくなった。そのような時代のトップアスリートについて、新しい視点から考えてみる。

授業まとめ。

学修課題：「トップアスリート」を育てるコーチという立場で、プログラムを考えてみる。参考図書：一流になるのは才能か努力か？（アンダース・エリクソン)文藝春秋

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

発問に対しての意見、考えの提示など積極的な参加をして下さい。レポートは内容とともに、読みやすい文字で記述して下さい。

小レポート（84%）：14点×６部＝84点満点で評価する。内容の妥当性や論理的構成、分量について、独自のルーブリックに基づいて５段階で評価する。

まとめレポート（16%）：16点×１部＝16点満点で評価する。内容の妥当性や論理的構成、分量について、独自のルーブリックに基づいて５段階で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

必要に応じて授業内で紹介する。スポーツ選手の伝記、ニュース・新聞記事などに注目しておくこと。（＊キーワード：トップアスリート）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる。

自分の競技に活かすため、トップアスリートを育てる指導者を目指すために、必要な知識・実践力を得ることができる授業となります。そのためにも授業外学習を必ず行って下さい。

コーチング理論Ⅲ

【担当】望月　聡・林　弘典

■授業概要

スポーツコーチングを実践する代表・トップコーチの実際について学習する。トップアスリートや代表選手の強化や管理、チームの統率について学び、強い組織・勝つチームつくりを考える。

男性や女性の特性（能力）や考え方（価値観）の違いを正しく理解することによって、両者のコーチングについて学習する。また、自分自身の性別による特性（能力）や考え方（価値観）の違いを認識することによって、前述した知識をより深く理解する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：トップアスリート養成について学ぶ。

目標：選手を変えることができる指導者になる。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：男女それぞれに合ったコーチング能力

目標：男女の特性や考え方の違いを理解できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス(トップコーチとトップアスリートについて常識を破り考えてみる)

授業の内容や進め方について解説する。全体像を把握して、今後の準備と計画をイメージを持って進みやすくする。

学修課題：トップコーチとトップアスリートについて分析しておく。

第２回：トップコーチの考え方・価値観・発信の重要性

トップアスリートを最高の環境で強化していくために必要な考え方、お互いにリスペクトし合える価値観について映像や資料をもとに考える。

学修課題：トップコーチ関係の本を読んで、考え方や価値観について自分自身でも考えてみる。

第３回：トップコーチの仕事・役割

勝つことが絶対使命のトップコーチの仕事や役割について、世界大会報告書や資料を分析しながら考える。また新たに将来必要になる仕事についても考えてみる。

学修課題：トップコーチの役割・仕事について考えて整理しておく。

第４回：チームの統率と管理

トップコーチが実際に、個性豊かなトップアスリート集団をどのように統率して闘うチームにしていくのか。またまとめて管理しているのかを考える。

学修課題：チームの統率・管理とはどのようなことか、考えて整理しておく。

第５回：チームの強化と継続性

トップアスリートを統率して闘う集団にするだけではない。より強い進化する集団にしなければならない。そして継続することから”進化し続ける集団”にしていかなけれならない。その方法を考えてみる。

学修課題：チーム強化の実際について調べておく。

第６回：男子サッカー代表監督の統率と管理

代表監督は代表トップアスリートをどのように統率して、どのように管理していくのか。普通のチームとは違い、集まるに日数・時間は極端に少ない。チームを作る時間の制限のある中での統率と管理について考えてみる。

学修課題：男子サッカー代表監督関係の本を読んでおく。

第７回：女子サッカー代表監督の統率と管理

なでしこジャパンの選手をどのように統率・また管理していたのか。そしてどのようにしてワールドカップを優勝に導いたのか。強いチームを作ったのか。現場で直接サポートしたコーチの立場から分析して考えてみる。

学修課題：女子サッカー代表関係の本を読んでおく。

第８回：トップコーチとトップアスリートの関係

「元々トップアスリートであったトップコーチ」と「トップアスリート」お互いに価値観や哲学も大きく違う。そのような関係であっても、監督としてアスリートとしてチームが結果を出すことが絶対であり、至上命令である。どのような関係で協働しているのか考えてみる。

学修課題：コーチとアスリートの関係について、自分の考えを整理しておく。

第９回：同じ種なのにここまでちがう？

男性と女性の根本的に違う理由について学習し、異性や同性に対する一般的なコーチングについて考える。

学修課題：「話を聞かない男、地図を読まない女」の21 ～ 38ページまで熟読し、今まで受けたきた異性あるいは同性からのコーチングについてまとめる。

第10回：そうだったのか！

女性の特性について学習し、女性に対するコーチングについて考える。

学修課題：「話を聞かない男、地図を読まない女」の39 ～ 66ページまで熟読すし、女性に対するコーチングについてまとめる。

第11回：すべては頭の中に

男性の特性について学習し、男性に対するコーチングについて考える。

学修課題：「話を聞かない男、地図を読まない女」の67 ～ 94ページまで熟読し、男性に対するコーチングについてまとめる。

第12回：話すことと、聞くこと

男性と女性の話すこと、聞くとことの意味について学習し、コーチングについて考える。

学修課題：「話を聞かない男、地図を読まない女」の95 ～ 133ページまで熟読し、女性の話すことと聞くことに関するコーチングについてまとめる。

第13回：空間能力

男性と女性の先天的能力差について学習し、コーチングについて考える。

学修課題：「話を聞かない男、地図を読まない女」の134 ～ 170ページまで熟読し、男性と女性の空間能力を考慮したコーチングについてまとめる。

第14回：思考、態度、感情

男性と女性の思考、態度、感情について学習し、コーチングについて考える。

学修課題：「話を聞かない男、地図を読まない女」の171 ～ 206ページまで熟読し、異性と同性に対するコーチングの違いについてまとめる。

第15回：まとめ及び総評

本講義のまとめと、ディスカッションとレポートを通して理解度の確認。

学修課題：ノートを見て振り返り、復習しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

複数の授業内課題（60%）：・振り返りレポート(３回)18点・授業内小テスト(５回)30点・授業内小レポート(２回)12点

発表・説明（20%）：・テーマに即していて、論理的である。10点・テーマに対して、自分の意見や考えが明確である。10点

発問・質問に対しての意見交換（20%）：・論理的で分かりやすい。10点・意見交換を発展していくことができ、まとめる力がある。10点

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業内で敵宣紹介する。またプリント等の資料を配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

様々な価値観のもとコーチングがあることや、答えは一つではないこと。常識を超えた考えを受け入れる素養を持ち、授業に取り組んで欲しいので、多くの予備知識を身に着けておいてください。またオープンマインドの心構えで取り組んで下さい。

スポーツビジネス専門実習Ⅰ

【担当】山本　達三

■授業概要

スポーツビジネス専門実習Iでは，４名程度のグループ単位で学外の「スポーツ組織」や「スポーツ消費者」を対象とした，インタビュー調査を中心に行って，スポーツビジネスを取り巻く研究課題・研究目的・研究仮説を演繹的に検証することを通じ，スポーツ学における専門的な知識，技能，実践力を養うことを目的とするものである．また，インタビュー調査に基づいたアンケート調査の作成も合わせて行う．

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツマネジメントの先行研究を調べ，先行研究でなされてきた理論や仮説を学ぶ．

目標：自分たちで研究仮説を立てられるようになる．

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：アンケート調査の基礎と，統計学に関する基礎知識を学ぶ．

目標：調査票を自分たちで作成できるようになる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：前期オリエンテーション

年間スケジュール説明，　興味の有る研究テーマによるグループ分け．具体的な研究対象とするスポーツ組織や消費者は，Jリーグクラブ観戦者，Bリーグクラブ観戦者，プロ野球チーム観戦者，独立リーグ観戦者，自転車レース参加者・マラソン大会参加者・草テニストーナメント参加者や，自発的な運動実施者（ビワイチサイクリスト，バスフィッシャー）などである．

学修課題：配布物をよく読んで翌週の研究の種類・研究デザインを予習しておく．

第２回：研究の種類，研究デザインを学習する

スポーツビジネスの調査研究に必要な基礎知識（先行研究）を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，研究の種類，研究デザインに関して復習しておく．

第３回：尺度について学ぶ

名義尺度，順序尺度，間隔尺度，比例尺度，スケールについて学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，尺度に関して復習しておく．

第４回：消費者心理・消費者行動変数を学ぶ

消費者心理の測定（観測変数と潜在変数），概念の定義，変数の処理，調査項目への変換，標本抽出，サンプル数について学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，消費者心理・消費者行動変数に関して復習しておく．

第５回：調査における注意事項

個人情報，研究倫理，依頼文，お礼状などを学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，個人情報，研究倫理に関して復習しておく．

第６回：研究課題の発表（１）

先行研究に基づき各グループ毎にディスカッションし研究仮説を作成して発表する（１）．

学修課題：配布資料を読み返し，研究課題に関する探索を行う．

第７回：研究目的の発表（２）

先行研究に基づき各グループ毎にディスカッションし研究仮説を作成して研究目的を発表する（２）．

学修課題：配布資料を読み返し，研究目的に関する探索を行う．

第８回：研究仮説の発表（３）

先行研究に基づき各グループ毎にディスカッションし研究仮説を作成して研究目的を発表する（３）．

学修課題：配布資料を読み返し,研究仮説の発表に関する探索を行う．

第９回：調査対象へのインタビューおよび調査内容の精査

先行研究や研究課題・目的・仮説に基づいた調査対象へのインタビューおよび調査内容の精査を行う．

学修課題：調査対象者へのインタビュー調査票を完成させておく．

第10回：調査対象へのインタビューおよび調査内容の調整およびインタビューの実施．

先行研究や研究課題・目的・仮説に基づいた調査対象へのインタビュー内容の調整およびインタビューの実施．

学修課題：調査対象者へのインタビュー内容の書き起こしをし，発表準備を整えておく．

第11回：グループ毎にインタビュー報告

各グループごとにインタビュー内容の報告をおこなう．

学修課題：先行研究・インタビュー報告をもとに調査票作りを開始しておく．

第12回：調査票の作成（１）

先行研究・インタビューを元にグループ毎にアンケート調査票を作成する（１）．

学修課題：今までの配布資料を参考に，アンケート調査票の作成準備を行う．

第13回：調査票の作成（２）

先行研究・インタビューを元にグループ毎にアンケート調査票を作成する（２）．

学修課題：今までの配布資料を参考に，アンケート調査票を完成させる．

第14回：調査対象者にアンケート調査票を提示する．

アンケート調査項目最終調整

学修課題：アンケート調査項目，個人情報，研究倫理，依頼状に不備がないか確認する．

第15回：アンケート調査の実施

グループ毎にアンケート調査を実施し，16回目の夏期休暇明けまでに調査を終了しておく．

学修課題：夏期休業期間終了までにアンケート調査を実施しておく．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

発表・プレゼンテーション内容，アンケート調査毎にコメントします．

■評価方法

研究課題・研究目的・研究仮説の発表（30%）：学外のスポーツ組織・スポーツ消費者に対して，先行研究に基づいた研究課題・研究目的・研究仮説を設定し，発表する．

インタビュー調査報告書（20%）：先行研究に基づいた研究課題・研究目的・研究仮説に関して，調査対象にインタビューを実施し演繹的考え方により調査報告書を作成する．文書体裁，独自の視点などにより加点する．

インタビュープレゼンテーション（30%）：学外のスポーツ組織に対して実施したインタビュー調査のプレゼンテーションを独自の視点を加えて課題・問題点を示した説得力のあるプレゼンテーションがのぞまれる．

アンケート調査票作成（20%）：質的調査及び先行研究を踏まえたアンケート調査票を作成する．調査票の完成度を基に評価を行う．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業の中で適宜紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツビジネス専門実習Ⅱ

【担当】山本　達三

■授業概要

スポーツビジネス専門実習IIでは，４名程度のグループ単位で学外の「スポーツ組織」や「スポーツ消費者」を対象とした，アンケート調査を行って，スポーツビジネスを取り巻く研究課題・研究目的・研究仮説を帰納的に検証することを通じて，スポーツ学における専門的な知識，技能，実践力を養うことを目的とするものである．

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：先行研究の知見と自分たちで実施した調査結果で得られた知見との相違点・共通点を学ぶ．

目標：先行研究と対比して，自分たちの調査結果との相違点・共通点を自分たちで導き出せる．

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：統計的基礎知識の学習と，SPSSを駆使して調査データの解析方法，解釈の仕方を学ぶ．

目標：SPSSを駆使して統計的検定，因果関係などの分析ができるようになる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：後期オリエンテーションおよびSPSSへのデータの入力

後期の授業スケジュールとSPSSへのデータの入力

学修課題：配布資料を参考に，調査データをSPSSファイルに入力しておく．

第２回：SPSSへのデータの入力

SPSSへのデータの入力，ラベル作成，値の入力，欠損値，尺度の設定

学修課題：配布資料を参考に，調査データをSPSSファイルに入力しておく．

第３回：統計解析　カテゴリーデータの分析・相関分析

χ２乗検定，残差分析，相関分析，偏相関分析

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，χ２乗検定，残差分析，相関分析，偏相関分析に関して復習しておく．

第４回：統計解析　因子分析

因子分析，信頼性分析，項目分析

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，因子分析，信頼性分析，項目分析に関して復習しておく．

第５回：統計解析　正規性の検定，適切なサンプルサイズ

コルゴモロフ・スミルノフ検定，効果量，検定力，有意水準，等分散を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，コルゴモロフ･スミルノフ検定，効果量，検定力，有意水準，等分散に関して復習しておく．

第６回：統計解析　２群間の平均値の差の検定

t検定，マン・ホイットニーのU検定を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え,配布資料を読み返し,t検定，マン・ホイットニーのU検定に関して復習しておく．

第７回：統計解析　３群間以上の平均値の差の検定（１）

一元配置分散分析，二元配置分散分析，多重比較検定，交互作用を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，一元配置分散分析，二元配置分散分析，多重比較検定，交互作用に関して復習しておく．

第８回：統計解析　３群間以上の平均値の差の検定（２）

クラスカル・ウォリス順位和検定，中央値検定，信頼区間の推定を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，クラスカル・ウォリス順位和検定，中央値検定，信頼区間の推定に関して復習しておく．

第９回：統計解析　重回帰分析

ステップワイズ法，強制投入法，最低サンプル数について学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，重回帰分析（ステップワイズ法, 強制投入, 最低サンプル数）に関して復習しておく．

第10回：統計解析　重回帰分析

多重共線性，パス解析を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，重回帰分析の多重共線性，パス解析に関して復習しておく．

第11回：分析結果の考察：効果的な図表の作成

図表の正しい記述と統計結果の読み取り（第１種の過誤，第２種の過誤）を学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，第１種の過誤，第２種の過誤に関して復習しておく．

第12回：分析結果の考察：統計図表の解釈

統計結果の書き方, 形式, 図表のまとめ方, 引用参考文献に関するルールを学ぶ．

学修課題：前回授業の復習テストに備え，配布資料を読み返し，統計図表の解釈に関して復習しておく．

第13回：プレゼンテーション作成

効果的なプレゼンテーション・抄録の作成，効果的なシナリオの示し方を学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，事前にプレゼンテーションと抄録を作成しておく．

第14回：調査研究プレゼンテーション（１）

各グループの調査結果を発表する（１）

学修課題：他グループの抄録内容に目を通し，他グループに質問できるようにしておく．

第15回：調査研究プレゼンテーション（２）

各グループの調査結果を発表する（２）

学修課題：他グループの抄録内容に目を通し，他グループに質問できるようにしておく

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

前回授業の復習テスト（30%）：２回目以降の授業では，前回授業の復習テストを毎回行い，帰納法の実践力を身につける．

調査研究プレゼンテーション（40%）：グループ単位で調査研究に関する発表を行う．研究目的・研究仮説と研究方法・研究結果・考察の一貫性や妥当性を評価する．

調査研究に関する抄録（30%）：調査研究に関する抄録を発表時に提出する．研究の背景・目的・方法・結果・考察の一貫性・ストーリー性・妥当性を評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業の中で適宜紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツマーケティング

【担当】石井　智

■授業概要

スポーツマーケティングには価値あるスポーツ製品、サービスの提供によって顧客を獲得するスポーツのマーケティング(marketing of sports)と、スポンサーシップのように企業がスポーツを通じてプロモーション、広告を行うスポーツによるマーケティング(marketing through sports)の２種類がある。本講義では前者を取り上げ、スポーツ関連市場の消費者を対象にスポーツマーケティングの論理について学習する。特に現代社会における課題の解決が新たなマーケット拡大につながることから、スポーツの新たな価値を受講者とともに考えていきたい

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツを事例としてマーケティング理論を学ぶことによって、スポーツの価値を最大化するためにはどのような製品、サービスの提供が必要かを学ぶ。

目標：スポーツはどのような価値をもち、それを最大化するための製品化やサービス提供を考えることによって、スポーツの本質について深く考える構えを身につける

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツの消費者はなぜ、その製品やサービスを欲するのかを考えること、また、さらにスポーツの価値を最大化するマーケティング戦略を考えることで、スポーツは社会課題の解決につながる可能性を知る

目標：スポーツはマーケティング理論によってさらにその社会的価値が高まることを実感する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよびスポーツマーケティングの概説

スポーツとは何か、マーケティングとは何か、さらにはスポーツの価値を最大化するマーケティング戦略とはなにか。定義、特徴、現代社会における重要性について学習する

学修課題：授業後、初回の配布資料をよく読み、復習しておくこと

第２回：スポーツマーケティング

スポーツが初めてマーケティングの対象となった事例を学習し、スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特徴など学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツマーケティングという領域について復習しておくこと

第３回：消費者行動の分析

スポーツの消費者について、ニーズ、ウォンツ、需要等の社会心理的特性や、性別、年齢、居住地等の人口動態性特性、さらには購買頻度、購買額、購買歴などの行動的特性等も併せて学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツの消費者について復習しておくこと

第４回：マーケティング意思決定：製品政策（顧客価値のデザイン）

スポーツ製品とは何か。単にスポーツをするための製品ではなく、それによって消費者はどんなウォンツを満たそうとしているのかについて学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、マーケティングやスポーツプロダクトについて復習しておくこと

第５回：マーケティング意思決定：ブランド政策

商品はそのものの信頼感のみならず企業の信頼感も併せて評価される。それを「ブランド」と呼ぶが、ブランド価値をいかにして向上させるかについて学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポーツプロダクトのブランディングについて復習しておくこと

第６回：マーケティング意思決定：価格政策

顧客が購入の意思決定を行う際のポイントとしての価格設定について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、価格戦略について復習しておくこと

第７回：マーケティング意思決定：プロモーション

顧客が購入の意思決定を行う際のポイントとしてのプロモーション戦略について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、プロモーションについて復習しておくこと

第８回：マーケティング戦略：サプライチェーン・マネジメント

製品やブランド価値を向上させるための流通戦略について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、流通戦略について復習しておくこと

第９回：マーケティング戦略：関係性マーケティング

顧客との継続的かつ良好な関係性を構築するにはどのような戦略が必要かについて学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、関係性マーケティングについて復習しておくこと

第10回：マーケティング戦略：ビジネス・マーケティング

企業は実際どのようなのマーケティング戦略をとっているのか、その事例について学習し、マーケティング戦略についての理解を深める。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、企業のマーケティング戦略について復習しておくこと

第11回：マーケティング戦略：サービス・マーケティング

顧客満足度を向上させるための戦略について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、CSなど顧客サービスについて復習しておくこと

第12回：マーケティング戦略：マーケティングにおける社会性と倫理性

近年、企業は製品の品質のみならず、「企業の社会的責任論（CSR)」などの社会戦略についても評価される傾向にある。その状況を学習し、企業活動の多様性についても学習する。

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、コンプライアンスの重要性などについて復習しておくこと

第13回：マーケティングプランの発表：第一グループ

グループプロジェクトとしてマーケティングプランを発表する（１週目）

学修課題：グループプレゼンテーションの準備を進め、発表内容だけでなく、適切なプレゼンテーション方法（言語、非言語コミュニケーション）およびグループワークについて実践的に学習すること

第14回：マーケティングプランの発表：第二グループ

グループプロジェクトとしてマーケティングプランを発表する（２週目）

学修課題：グループプレゼンテーションの準備を進め、発表内容だけでなく、適切なプレゼンテーション方法（言語、非言語コミュニケーション）およびグループワークについて実践的に学習すること

第15回：まとめ

スポーツマネジメントの基礎の復習と期末試験の説明

学修課題：スポーツマーケティングの考え方、実践方法について総括するとともに、期末試験のレビューを行う

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間テスト（30%）：学期前半の内容の理解度を筆記テスト（30点満点）で評価する。

期末テスト（30%）：学期後半の内容の理解度を筆記テスト（30点満点）で評価する。

マーケティングプランの発表（40%）：興味・関心のあるテーマについて発表した内容を40点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年

スポーツマーケティング（原田宗彦編著　大修館書店）2015年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「スポーツマネジメント概論」および、「スポーツ産業論」を履修していること。

スポーツマーケティングとは、顧客価値をいかに最大化するか（お客さま本位の）スポーツ経営を実践するための企業哲学です。お客さまが求める価値（製品やサービスなど）を提供するにはどうすべきか、さらに、お客さまへの価値提供が、スポーツ企業にとってどのような効果をもたらすのかについて、講義に加えて、プレゼンテーション、筆記試験を通して理解しましょう。

スポーツ・メディア論

【担当】後藤　英文

■授業概要

スポーツの世界は政治や経済の動きと表裏一体をなすもので、スポーツのニュースは社会的にも大きな影響を及ぼしています。まずメディアについて学び、スポーツとメディアの関係を理解する。そして2020年に東京開催が決まった夏季五輪・パラリンピックなどのテーマをメディアがどう伝えているかを学ぶ。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツとメディアの関連性についての知識

目標：スポーツ事象をもとに、スポーツとメディアの関わりを理解できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよびスポーツ・メディア論の概説

スケジュール、評価方法などの説明した後、講義概要を説明し、メディアに関する小レポートを課します。

学修課題：本講義の概要を復習し、スポーツとメディアの関係について調べる。

第２回：スポーツとメディア

スポーツとメディアの関係を歴史的、社会的に理解する。

学修課題：スポーツとメディアの関係について復習し、メディア主催のスポーツイベントについて調べる。

第３回：スポーツ・イベント

メディアが主催するスポーツイベントの構造について学ぶ。

学修課題：スポーツイベントの構造について復習し、スポーツ・コンテンツについて調べる。

第４回：スポーツ・コンテンツ

テレビを中心としたスポーツ・コンテンツ獲得競争について理解を深める。

学修課題：スポーツ･コンテンツ獲得競争について復習し､次回のキーワード（放映権料）について調べる。

第５回：スポーツ・コンテンツの具体例

サッカーワールドカップ、オリンピックに見られる放映権料の高騰を歴史的にみていく。

学修課題：オリンピックなどの放映権料高騰について復習し、次回のキーワード（メディア・スポーツ）について調べる。

第６回：メディア・スポーツ

メディア化するスポーツについて考察する。

学修課題：メディア･スポーツについて復習し､次回のキーワード（インターネットとスポーツ）について調べる。

第７回：インターネットとスポーツ

インターネットの出現からスポーツのソーシャルメディア活用までを理解する。

学修課題：インターネットとスポーツの関係について復習し、次回のキーワード（スポーツと新聞）について調べる。

第８回：スポーツと新聞

スポーツを取り上げる新聞の状況を見ていく。

学修課題：スポーツと新聞の状況について復習し、次回のキーワード（柔道女子の暴力問題）について調べてくる。

第９回：柔道女子の暴力問題

柔道女子のトップ選手が、ナショナルチームでの指導者の暴力を告発した。メディアでの取り上げ方をみていく。

学修課題：柔道女子の暴力問題について復習し､次回のキーワード（体罰問題）について調べてくる。

第10回：体罰問題

大阪・桜宮高校バスケットボール部での体罰自殺をきっかけに、部活の体罰が大きな社会問題となった。その背景を探る。

学修課題：体罰問題について復習し、次回のキーワード（2020年五輪招致）について調べてくる。

第11回：2020年五輪招致

成功した東京の2020年夏季五輪パラリンピックの招致に関する報道を振り返り、考える。

学修課題：2020年五輪招致について復習し、次回のキーワード（五輪招致の歴史）について調べてくる。

第12回：五輪招致の歴史

日本の夏季、冬季五輪招致の歴史を振り返り、メディアがどう報じたかをみる。

学修課題：五輪招致の歴史について復習し、次回のキーワード（東京五輪）について調べてくる。

第13回：2020年東京五輪パラリンピックについて考える

1964年以来、２度目となる２年後の東京五輪パラリンピックのメディアでの取り上げ方について考える。

学修課題：2020年東京五輪のメディアでの取り上げ方について復習し、次回のキーワード（ワールドカップ・サッカー）について調べる。

第14回：ワールドカップ・サッカー

メディアが世界で最も注目を集める国際大会、W杯サッカーをどう伝えたかを理解する。

学修課題：ワールドカップ・サッカーのメディアの伝え方について復習し、これまでの講義内容をまとめる。

第15回：まとめおよび総評

今まで学んできた講義内容を振り返り、理解度を高める。

学修課題：講義内容を本当に理解できたか考える。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート（30%）：講義内容の理解度について毎回評価する（２点×15回）。独自視点を加えて問題点を論じることができていれば２点。

課題（70%）：講義内容を踏まえ、メディアとスポーツの関連性を理解しているかを小論文形式の課題（35点×２回）で評価する。講義内容を十分に理解して課題を論じることができていれば35点、ほぼ理解して課題を論じていれば25点。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

テーマに沿った新聞報道の切り抜きなどを準備します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ施設イベントマネジメント

【担当】吉倉　秀和

■授業概要

本授業では、スポーツ施設の現状やマネジメント手法に加え、国内外におけるスポーツイベントの現状やそのビジネスモデルについて理解し、また、実際のスポーツイベントを視察することによって、参加者や観戦者が求めるスポーツイベントのあるべき姿について考察を行うことを本授業の目的とする。

スポーツ施設やスタジアムのマネジメントを中心に、スポーツイベントやトップスポーツチームによる興行と施設マネジメントとの関連に着目し、スポーツイベントに関する知識の集約や理解、マネジメント手法の学習をおこなう。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ施設マネジメントに関する知識

目標：スポーツ施設運営に関する基本的知識について理解できる。

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツイベントマネジメントに関する提案

目標：魅力あるスポーツイベントに関する提案をプレゼンテーションを通じて発表することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：施設をマネジメントするとは？

この授業におけるミッションとビジョンについて解説する。

学修課題：施設マネジメント概論について復習しておくこと。

第２回：スポーツ施設の現状

スポーツ施設の現状を数量的データから明らかにする。

学修課題：配布資料をもとに、現状に関する論点整理をしておくこと。

第３回：スポーツチームとスポーツ施設

スポーツチームにおける施設利用について、プロチームとトップチームの比較を行い、解説する。

学修課題：スポーツチームにおける施設利用に関する問題点を復習しておくこと。

第４回：公共スポーツ施設整備の可能性①

公共スポーツ施設における整備に関する法律や問題点について、施設管理制度の中から指定管理者制度、管理許可制度について解説する。

学修課題：各制度に関する用語について、その意味も含めながら復習しておくこと。

第５回：公共スポーツ施設整備の可能性②

公共スポーツ施設における整備に関する法律や問題点について、施設管理制度の中からPFIについて解説する。

学修課題：PFIに関する一連の流れについて、配布資料を参考にしながら復習しておくこと。

第６回：プロおよびトップスポーツチームによる興行

スポーツ興行における施設利用について、特にチームと行政との連携の視点から解説する。

学修課題：スポーツ興行における問題点について、再度整理しておくこと。

第７回：公共スポーツ施設と地域との関係性

地域における公共スポーツ施設の役割やその関係性について、総合型地域SCの利用やスポーツ施設の建設や改築が周辺地域に及ぼす地域イノベーションの観点から解説する。

学修課題：地域イノベーションがもたらす効果について、配布資料をもとに復習しておくこと。

第８回：スポーツ施設（スタジアム）と都市の関係性

スタジアムの隆盛が都市の発展に影響を及ぼすことについて、いくつかの事例を用いて解説する。また、施設における代表的な権利の一つであるネーミングライツについて、その定義と効果について解説する。

学修課題：ネーミングライツに関する問題点と将来展望について、自身の考えをまとめておくこと。

第９回：スポーツイベントの現状

スポーツイベントの現状について、資料をもとに解説する。

学修課題：スポーツイベント概論について、キーワードの意味も踏まえながら復習しておくこと。

第10回：スポーツイベントのミッション・ビジョン

スポーツイベントのミッション・ビジョンについて、資料をもとに解説する。

学修課題：ミッション・ビジョンの定義について、配布資料をもとに理解しておくこと。

第11回：スポーツイベントのビジネスモデル

スポーツイベントのビジネスモデルについて、全体像の把握、収入面、支出面から解説する。

学修課題：ビジネスモデルを復習しながら、規模の違いによる問題点などを復習すること。

第12回：スポーツイベントにおける様々な契約

スポーツイベントにおけるさまざまな契約におけるスポンサーや放映権について解説する。

学修課題：スポンサー契約について、各種メリット・デメリットを確認しておくこと。

第13回：スポーツイベントの集客戦略

スポーツイベントの集客戦略について、全体像の把握や様々なアイデアによる成功例を呈示し、その戦略について解説する。

学修課題：集客戦略における効率性について、自身の見解をまとめること。

第14回：継続的なスポーツイベントの開催の重要性

求められるスポーツイベントの理想とは何かについて、ディスカッションを行う。

学修課題：スポーツイベントの理想の現実のギャップについて、自身の考えをレポートすること。

第15回：プレゼンテーション

これまでの授業内容を踏まえ、未来のスポーツ施設イベントマネジメントに関するプレゼンテーションを行う。

学修課題：スポーツ施設とスポーツイベントの効果的な使い方について、配布資料をもとに、自身の考えをレポートすること。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内小レポート（30%）：講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。

中間レポート（30%）：講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。

プレゼンテーション（40%）：講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に構成されたプレゼンテーションが出来ているか。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「公共スポーツ施設のマネジメント」間野義之，体育施設出版

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

2014年度以前入学生は「スポーツビジネス論」を履修済（単位修得済）であること。

2015年度以降入学生は「スポーツ産業論」を履修済（単位修得済）であること。

スポーツ産業論

【担当】吉倉　秀和

■授業概要

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス情報産業、スポーツ施設空間産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。これらのセグメントの代表的な事象を取り上げながら、これまでのスポーツ産業の成長過程と現在の市場規模を把握し、今後の課題や将来性について考察する。また、スポーツ産業と地域との関連性についても解説し、スポーツを通じた地域活性化の可能性についても検討する。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ産業に関する理解

目標：スポーツ産業について説明することが出来、現状について自身の見解を明らかにすることができる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツ産業の将来に関する提案

目標：スポーツ産業における成長戦略について、自身の意見を具体的に述べることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ産業の全体像把握

スポーツ産業の全体像について、これまでの発展過程をもとに解説する。

学修課題：スポーツ産業の全体像を把握できるように復習すること。

第２回：スポーツ産業の現状①（スポーツ産業とは）

スポーツ産業とは何か？定義付けを中心に解説する。

学修課題：定義付けされた用語について、復習しながら完全理解に努めること。

第３回：スポーツ産業の現状②（スポーツ用品）

スポーツ用品産業を歴史的背景から解説する。

学修課題：歴史的背景を鑑みながら、自身の考えを将来展望すること。

第４回:スポーツ産業の現状③（プロおよびトップスポーツビジネス）

プロおよびトップスポーツビジネスについて経営規模別に解説する。

学修課題：配布資料をもとに自身の見解をまとめること。

第５回：スポーツ産業の現状④（スポーツ施設）

スポーツ施設の現状について、「見る」「する」「支える」の観点から解説する。

学修課題：配布資料をもとに、スポーツ施設に関する問題点について、理解と考察に努めること。

第６回：スポーツ産業の現状⑤（スポーツサービス）

スポーツ産業におけるサービスとは何か？を解説する。

学修課題：サービスとは何か、スポーツサービスとは何かを配布資料をもとに復習しておくこと。

第７回：スポーツ消費者を知る①（参加者）

スポーツ消費者における参加者について、イベント規模別に解説する。

学修課題：スポーツ参加者のニーズとウォンツについて、配布資料をもとに復習しておくこと。

第８回：スポーツ消費者を知る②（観戦者）

スポーツ消費者における観戦者について、イベント規模別に解説する。

学修課題：観戦者はなぜスポーツを見に来るのか？について、自身の考えをレポートすること。

第９回：スポーツ消費者を知る③（まとめ）

スポーツ消費者拡大にむけたさまざまな取り組みについて解説する。

学修課題：スポーツ消費者を増やす方策について、自身の考えをレポートすること。

第10回：スポーツをマネジメントする①（施設）

施設マネジメントにおける重要な制度設計について解説する。

学修課題：制度設計に関するメリット・デメリットを配布資料を参考に完全理解しておくこと。

第11回：スポーツをマネジメントする②（クラブチーム）

クラブチームマネジメントについて、特に損益の観点から解説する。

学修課題：クラブチームが抱える問題点を整理しながら、規模の違いによる問題点などを復習すること。

第12回：スポーツをマネジメントする③（イベント）

イベントマネジメントの重要性をいくつかの事例をもとに解説する。

学修課題：イベントマネジメントに求められる要因について、配布資料を参考にまとめておくこと。

第13回：スポーツ産業の将来

スポーツ産業の10年後について、ディスカッションを行う。

学修課題：スポーツ産業の将来予測をレポートすること。

第14回：スポーツ産業への就職を考える

スポーツ産業への就職について、様々な資料をもとに考察を行う。

学修課題：スポーツ産業で勤めることと一般企業で勤めることの違いについて、自身の見解をまとめておくこと。

第15回：まとめ及び総評

スポーツ産業における全体像について、再度確認を行う。

学修課題：スポーツ産業の今後について、自身の考察をしておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業内小レポート（30%）：講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。

中間レポート（30%）：講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。

期末試験（40%）：講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「スポーツ産業論」原田宗彦編著，杏林書院

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

2014年度以前入学生は「スポーツ施設イベントマネジメント」を履修すること。

2015年度以降入学生は「スポーツマネジメント概論」を履修済（単位修得済）であること。

スポーツスポンサーシップ

【担当】石井　智

■授業概要

本授業は、スポーツとスポンサーシップの密接な関係性の分析およびスポンサーシップの戦略的販売方法の理解を主な目的とする。扱うトピックスは、スポンサーシップの合理性、スポンサーシップによる戦略的コミュニケーション、スポンサーシップのパッケージ販売、そしてスポンサーシップの評価などである。さらに、学期末に予定されているスポンサーシップ・プロポーザルの作成および、発表を通して、スポーツ組織がスポンサーを獲得するプロセスについて実践的な理解を深める。

■養うべき力と到達目標

１．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツビジネスの継続には、優良な企業から継続的にスポンサードを受ける必要がある。スポーツビジネスのスタッフとして必要な戦略策定からプレゼンまでのスキルを身に付けるトレーニングを行う

目標：企業からスポンサーシップを獲得するために必要な戦略策定能力とプレゼン能力を身に付ける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよびスポンサーシップの概説

授業の目的や方法などの紹介とシラバスの確認。

学修課題：授業後、初回の配布資料をよく読み、復習しておくこと

第２回：スポンサーシップの基礎的理解

スポンサーシップの概要をはじめ、スポーツスポンサーシップ研究の範疇、定義、発展の背景など基礎的な理解を深める

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップの基本的な仕組みについて復習しておくこと

第３回：スポンサーシップを通じたマーケティング活動

マーケティング戦略の一環であるスポンサーシップ獲得戦略の概要や、スポーツ組織がスポンサーシップを通じてできるマーケティング活動について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップを通じたマーケティング活動について復習しておくこと

第４回：「スポンサーシップ」対「広告」

「スポンサーシップ」と「広告」を比べながら、それぞれの強みと弱みを明示し、企業としてその違いをどう認識し、それをどう使い分ければ良いかについて理解する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップと広告の違いについて復習しておくこと

第５回：スポンサーシップ・パートナーシップ

スポーツ組織にとって協賛企業は友好的で有益なパートナーであることは当然だが、協賛企業にとってもスポーツ組織が有益なパートナーシップを構築する存在でなければならない。そのための考え方と具体論について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップ・パートナーシップについて復習しておくこと

第６回：スポンサーシップ・プロポーザル

スポンサーシップの企画書となるプロポーザルの内容と構成について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み､スポンサーシップ･プロポーザルについて復習しておくこと

第７回：スポンサーシップの販売戦略

スポンサーシップの販売戦略について、アメリカのメジャーリーグの事例を学習しながら理解を深める

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップの販売戦略について復習しておくこと

第８回：スポンサーシップの評価

スポンサーシッププランを実行した結果をどのように評価するかという点について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシップの評価について復習しておくこと

第９回：スポンサーシップにおける留意点

スポンサーシッププランを立案し、販売し、実行し、評価する際の留意点について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、スポンサーシッププランにおける留意点について復習しておくこと

第10回：アンブッシュ・マーケティング

スポンサー契約を結びスポーツに協賛する企業のスポンサー活動を妨害するアンブッシュ・マーケティングの存在について学習する

学修課題：授業後に配布資料をよく読み、アンブッシュマーケティングについて復習しておくこと

第11回：スポンサーシップ・プロポーザルの作成

グループごとにスポンサーシップ・プロポーザルを作成する

学修課題：グループメンバーと議論するとともに、協力してプロジェクトを進めることで、企画力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション能力を鍛えるように努めること

第12回：プロポーザルのプレゼンテーションの準備

グループごとにスポンサーシップ・プロポーザルのプレゼンテーションの準備を行う

学修課題：グループメンバーと議論するとともに、協力してプロジェクトを進めることで、企画力に加え、協調性、リーダーシップ、コミュニケーション能力を鍛えるように努めること

第13回：スポンサーシップ・プロポーザルの発表：第一グループ

グループプロジェクトとしてスポンサーシップ・プロポーザルを発表する（１週目）

学修課題：グループプレゼンテーションに向け、発表内容だけでなく、適切なプレゼンテーション方法（言語、非言語コミュニケーション）およびグループワークについて実践的に学習すること

第14回：スポンサーシップ・プロポーザルの発表：第二グループ

グループプロジェクトとしてスポンサーシップ・プロポーザルを発表する（２週目）

学修課題：グループプレゼンテーションに向け、発表内容だけでなく、適切なプレゼンテーション方法（言語、非言語コミュニケーション）およびグループワークについて実践的に学習すること

第15回：まとめおよび総評

スポーツスポンサーシップの総括および期末試験のレビュー

学修課題：スポーツスポンサーシップの考え方、特徴、実践方法を総括するとともに、期末試験のレビューを行う

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

中間テスト（30%）：学期前半の内容の理解度を筆記テスト（30点満点）で評価する。

期末テスト（30%）：学期後半の内容の理解度を筆記テスト（30点満点）で評価する。

スポンサーシッププランの発表（40%）：興味・関心のあるテーマについて発表した内容を40点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

「スポーツマネジメント概論」、「スポーツ産業論」、「スポーツマーケティング論」を履修していること。

世界全体のスポンサーシップ市場の約70%がスポーツによって占められているといわれています。スポーツ関連のスポンサーシップ市場の成長は、企業がスポーツを通じたコミュニケーション戦略の効果を認めていることに他なりません。スポーツビジネスの独自性を語る上で欠かせないスポンサーシップを、是非この機会に学んでください。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

スポーツマネジメント特別講義

【担当】山本　達三

■授業概要

本授業では，プロスポーツクラブマネジメント及びリーグマネジメントに関して総合的な学習をおこなう．具体的には，前半ではプロスポーツクラブチームを想定したチームマネジメントに関する解説を行い，後半は，トップスポーツにおけるリーグマネジメントに着目し，スポーツ統括団体におけるガバナンスについて学ぶ．また，学習成果報告の機会として，特定のチームあるいはリーグマネジメントに関するグループ学習を行い，その成果を報告する．

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：プロスポーツクラブのマネジメント，リーグのマネジメントに関する基礎的な知識，専門的な知識を学ぶ．

目標：プロスポーツクラブのマネジメント，リーグのマネジメントに関する問題点や課題を理解出来るようになる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション及び特別講義の概説

スポーツマネジメントの概説および国内外のチームマネジメント・リーグマネジメントの現状を理解する。

学修課題：配布資料を読み返し，国内外のチームマネジメント・リーグマネジメントの現状について復習しておく．

第２回：チームマネジメント①（キーワード：法人格）

クラブチームにおける法人格について解説を行う。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，クラブチームにおける法人格について復習しておく．

第３回：チームマネジメント②（チームにおけるステークホルダー）

ステークホルダーの種類とその役割、チームとの関わり方についての理解を深める。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，ステークホルダーの種類とその役割、チームとの関わり方について復習しておく．

第４回：チームマネジメント③（チケット収入、物販収入）

クラブチームにおける主な収入源であるチケットおよび物販に関する理解を深める。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，クラブチームにおける主な収入源であるチケットおよび物販について復習しておく．

第５回：チームマネジメント④（スクール事業、人的資源管理）

チームにおけるスクール事業と組織としての人的資源管理に関する解説を行う。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，チームにおけるスクール事業と組織としての人的資源管理について復習しておく．

第６回：チームマネジメント⑤（協賛，広告・スポンサー収入、ファンクラブ）

クラブチームにおける広告およびスポンサー、ファンクラブなどに関する管理方法について理解を深める。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，クラブチームにおける広告およびスポンサー、ファンクラブについて復習しておく．

第７回：チームマネジメント⑥（チームオペレーション）

チームマネジメントにおけるGMの仕事について理解を深める。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，チームマネジメントにおけるGMの仕事について復習しておく．

第８回：チームマネジメント⑦（チームオペレーション）

チームマネジメントにおけるGMの仕事について理解を深める。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，チームマネジメントにおけるGMの仕事について復習しておく．

第９回：リーグマネジメント①（リーグにおけるステークホルダー）

ステークホルダーの種類とその役割、リーグとの関わり方についての理解を深める。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，ステークホルダーの種類とその役割、リーグとの関わり方について復習しておく．

第10回：リーグマネジメント②（ガバナンス）

リーグによるガバナンス統治（競争・協働・収益性）について学ぶ。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，リーグによるガバナンス統治（競争・協働・収益性）ついて復習しておく．

第11回：リーグマネジメント③国内リーグの現状を理解する．

国内プロリーグ(NPB,Jリーグ,実業団,独立リーグ）のガバナンスを学ぶ。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，国内プロリーグのガバナンス(NPB,Jリーグ，実業団，独立リーグ）のガバナンスについて復習しておく．

第12回：海外プロリーグのガバナンス①

北米プロスポーツリーグ（MLB，NFL，NBA）のガバナンスを学ぶ。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，北米プロスポーツリーグのガバナンスについて復習しておく．

第13回：海外プロリーグのガバナンス②

ヨーロッパのスポーツビジネスにおけるプロリーグのガバナンスを学ぶ。

学修課題：授業の冒頭で前回授業の復習テストを実施するので，配布資料をよく読み返し，ヨーロッパのスポーツビジネスにおけるプロリーグのガバナンスについて復習しておく。

第14回：グループ学習報告①

これまで学習した事を中心にグループ学習の成果を報告する。

学修課題：グループ学習の成果を，抄録とプレゼンテーションにまとめておく．

第15回：グループ学習報告②

これまで学習した事を中心にグループ学習の成果を報告する。

学修課題：グループ学習の成果を，抄録とプレゼンテーションにまとめておく．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

前回授業復習テスト（30%）：前回授業の復習テストを毎授業の冒頭で実施し，到達目標と関連させて30点満点で評価する．

グループ学習報告（30%）：学期全体の講義の中から，興味関心のあるテーマについて発表・報告を行った内容を30点満点で評価する．

期末テスト（40%）：学期全体を通じた内容の理解度・知識について40点満点で評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業中に適宜紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ情報戦略専門実習Ⅰ　【担当】スポーツ情報戦略コース教員

■授業概要
スポーツ情報戦略において求められるのは、スポーツ現象を観察し、正しく解釈するための「視点」を養うことである。また、そこから導き出されるいくつかの特徴を整理し、的確に表現できる「表現力」を有し、そして、再びスポーツ現場にわかりやすくフィードバックする「実践力」を有することであるといえる。

■養うべき力と到達目標
１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：スポーツ情報戦略の意義・意味の理解
目標：スポーツ情報戦略の意義・意味について理解する。
２．DP8.スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：スポーツにおける情報戦略（インテリジェンス）活動の理解
目標：スポーツにおける情報戦略（インテリジェンス）活動の内容とその手法について理解する。
３．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：スポーツフィールドへの有意義なフィードバック法の理解と実践
目標：情報戦略活動により得られた内容をスポーツフィールドに有意義にフィードバックする手法を理解し、実践できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）
第１回:スポーツ情報戦略とは？（スポーツインテリジェンスの構築）
本授業のオリエンテーションを行う。特に、具体的な研究方法の取得を目指す授業であることの解説を行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略の基礎的知識について、ノートにまとめておく。また、スポーツインテリジェンスについて、関連図書を利用して、予習しておく。
第２回：グループ分けとグループ毎のテーマ設定
グループ学習を中心的に行う。また、グループ毎にテーマを設定し、それを実現するための課題をいくつか特定する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツインテリジェンス構築について、ノートにまとめておく。また、グループ学習を促進する手法について、関連図書を利用して、予習しておく。
第３回：スポーツ情報戦略における「目」とは？
研究テーマを設定する場合、スポーツフィールドで実際に生じている現象のどの部分に着目すべきかについて解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略における「目」について、ノートにまとめておく。また、VTR・観察法・インタビューなどのデータ収集法について、関連図書を利用して、予習しておく。
第４回：様々なデータ収集法（VTR・観察法・インタビューなど）
スポーツフィールドをより良く変えて行くためのデータ収集法について解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、VTR・観察法・インタビューなどのデータ収集法について、ノートにまとめておく。また、スポーツデータの解釈について、関連図書を利用して、予習しておく。
第５回：スポーツデータの解釈
スポーツデータを解釈するための方法を解説する。特に、質的研究の立場から、有益な仮説を導きだすための手法を解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツデータの解釈について、ノートにまとめておく。また、スポーツ現場を正しく理解するための基礎的知識について、関連図書を利用して、予習しておく。
第６回：スポーツ現場を正しく理解するために
スポーツ現場を正しく理解するためには、スポーツを捉える観点、すなわち認識論が問われることになる。どのような観点からスポーツ事象を捉えるべきかについて解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ現場を正しく理解することについて、ノートにまとめておく。また、スポーツ情報戦略における「口」について、関連図書を利用して、予習しておく。
第７回：スポーツ情報戦略における「口」とは？
スポーツデータを高次の情報として加工し、それをスポーツ現場に正しくフィードバックするためには、得られた成果をどのように伝えるのかといった観点からのアプローチが求められる。これについて詳しく解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略における「口」について、ノートにまとめておく。また、様々な知識形成法（特に、ブレインストーミング）について、関連図書を利用して、予習しておく。
第８回：様々な知識形成法（ブレインストーミング）
優れた知見を構造的に解釈するために、ブレインストーミングは有効な思考法といえる。これについて詳しく解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、様々な知識形成法（ブレインストーミング）について、ノートにまとめておく。また、２水準分析法について、関連図書を利用して、予習しておく。
第９回：２水準分析法
データを分析する際、グローバルな視点からのアプローチを書かすことはできない。ここでは、両面価値的な観点から分析をする方法論について解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、２水準分析法について、ノートにまとめておく。また、スポーツデータを有益に構成することについて、関連図書を利用して、予習しておく。
第10回：スポーツデータを有益に構成するために
研究成果をフィードバックするために、プレゼンテーションは不可欠といえる。その際、どのような構成によって伝えるのかは重要な要素となる。これについて詳しく解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツデータを有益に構成することについて、ノートにまとめておく。また、スポーツ情報戦略における「手」について、関連図書を利用して、予習しておく。
第11回：スポーツ情報戦略における「手」とは
スポーツフィールドをより良く変えていくために、スポーツ指導支援の立場から解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ情報戦略における「手」について、ノートにまとめておく。また、様々なフィードバックの方法（映像や図示によるフィードバック）について、関連図書を利用して、予習しておく。
第12回：様々なフィードバックの方法（映像や図示によるフィードバック）
様々なフィードバックの方法について解説する。また、映像や図示など、アトラクティブな方法の具体例を紹介する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、様々なフィードバックの方法（映像や図示によるフィードバック）について、ノートにまとめておく。また、情報のわかりやすい提示の仕方について、関連図書を利用して、予習しておく。
第13回：わかりやすさを求めて
スポーツ指導支援を展開する場合、伝えたい有益な情報をいかにわかりやすく提示するかは大きな課題といえる。実際の事例を紹介しながら、詳しく解説する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、情報のわかりやすい提示の仕方について、ノートにまとめておく。また、スポーツインテリジェンスについて、関連図書を利用して、予習しておく。
第14回：スポーツインテリジェンスを形成するために
スポーツインテリジェンスを形成するためには、様々な情報をひとつのストーリーとして構成し、伝える必要がある。本授業における具体的な作業は最終段階になるため、受講生の学修の進捗状況をチェックし、必要でれば軌道修正を行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツインテリジェンスについて、ノートにまとめておく。また、これまでに作成したノートを振り返り、予習しておく。
第15回：まとめ（各グループの成果発表）
本授業のまとめとして、各グループの成果発表を行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、グループ発表から学んだことについて、ノートにまとめておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
成果報告書（50%）：授業内容を踏まえた論述ができていれば50点とし、重大な誤りや不足があれば10点とする。
プレゼンテーション（50%）：成果報告書を踏まえた発表であれば30点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば20点を加え、重大な誤りや不足があれば10点とする。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
また、スポーツ情報戦略専門実習Ⅱとの連結についても配慮しなければならない。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

スポーツ情報戦略専門実習Ⅱ　【担当】スポーツ情報戦略コース教員

■授業概要

スポーツ情報戦略において求められるのは、スポーツ現象を観察し、正しく解釈するための「視点」を養うことである。また、そこから導き出されるいくつかの特徴を整理し、的確に表現できる「表現力」を有し、そして、再びスポーツ現場にわかりやすくフィードバックする「実践力」を有することであるといえる。スポーツ情報戦略専門実習IIでは、専門実習Ⅰで学修した上記能力を実際にスポーツフィールドで活かすことができるよう、フィードバック能力を高めるための実習を行う。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：スポーツ情報戦略の意義・意味の理解
目標：情報戦略（インテリジェンス）活動の意義・意味について理解する。

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：スポーツにおける情報戦略（インテリジェンス）活動の理解
目標：情報戦略（インテリジェンス）活動の内容とその手法について理解する。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：スポーツフィールドへの有意義なフィードバック法の理解と実践
目標：情報戦略（インテリジェンス）活動により得られた内容をスポーツフィールドに有意義にフィードバックする手法を理解し、実践できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーション（科学的分析とフィードバックの方法）
本授業のオリエンテーションを行う。本授業の特質から、スポーツ情報戦略専門実習Iとの兼ね合いが重視されることを解説する。
学修課題：科学的分析とフィードバックの方法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第２回：グループ分けとテーマ設定
グループ学習を重視することから、グループ活動を通じて研究テーマを設定し、研究調査活動を展開することを解説する。
学修課題：課題研究のテーマを自らが選定し、具体的な研究が遂行できるよう、予め関連図書を利用して、予習しておく。

第３回：実験・調査の実施（１）：実験・調査の企画
グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を企画する。
学修課題：スポーツフィールドをより良く変えるための基礎的資料となるような研究を企画するために、関連図書を利用して、予習しておく。

第４回：実験・調査の実施（２）：実験・調査の実施
グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行する。
学修課題：授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別に指導を受ける。特に、スターチアップの段階では、実験・調査のマイナーチェンジを立案することも必要となる。

第５回：実験・調査の実施（３）：実験・調査の改善と再実施
グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行し、必要であれば、方法の改善などの軌道修正を行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、、実験・調査においてデータの分析・解析方法について、関連図書を活用し、予習しておく。

第６回：スポーツデータの分析・解釈法（１）：方法論の理解
得られたデータを分析／解析するための方法論を学ぶ。
学修課題：授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の指導を受ける。特に、分析・解釈方法については、データの序列や優位性に配慮しつつ進める必要がある。

第７回：スポーツデータの分析・解釈法（２）：データ分析の実施
得られたデータを分析／解析するための方法論を駆使し、実際にデータの分析手順や注意事項を学ぶ。
学修課題：授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、分析・解釈方法には、しっかりとした方法論が背景にあることから、関連図書を利用して、予習しておく。

第８回：スポーツデータの分析・解釈法（３）：データ分析の改善と再実施
得られたデータを分析／解析するための方法論を駆使し、必要であれば、分析方法の変更や改善をはかる。
学修課題：授業の内容を踏まえ、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、有益な知見を導き出すために、関連図書を利用し、予め予習しておく。

第９回：スポーツインテリジェンスの形成法（１）：情報の加工
分析結果を有益な情報へと加工する。
学修課題：研究成果を見える化するために、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、分析結果を有益な情報へと加工するために、アドバイスを受ける。

第10回：スポーツインテリジェンスの形成法（２）：ディスカッション
分析結果を有益な情報へと加工し、グループ内外での意見交換を行い、改善をはかる。
学修課題：研究成果を見える化するために、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、導き出された知見については、常に再考する立場を採ることが重要であり、オープンエンドな思考を心がける。

第11回：スポーツインテリジェンスの形成法（３）：発表と質疑応答
スポーツ現場への提言を行うため、分析結果を発表し、質疑応答を展開する。
学修課題：研究成果を見える化するために、必要であれば授業担当者の個別指導を受ける。特に、オープンエンドな発想から生まれた知見を有益な知見として加工するために、関連図書を利用し、予習しておく。

第12回：スポーツインテリジェンスのフィードバック（１）：精緻化と提言
スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行う。
学修課題：スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行うために、授業担当者の個別指導を受ける。特に、フィードバックの内容を点検しておく。

第13回：スポーツインテリジェンスのフィードバック（２）：実践場面の議論と理解
実際のスポーツ現場での有効性、機動性など、本授業で学んだことが実践場面でどのように活用される可能性があるのかを議論し、理解を深める。
学修課題：スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行うために、授業担当者の個別指導を受ける。特に、スポーツフィールドへのフィードバックは、多くの知見を提供するよりも、焦点を絞った形でのフィードバックが求められるため、導き出された知見を項目化してく。

第14回：スポーツインテリジェンスのフィードバック（３）：理解の深化
既存の研究成果を概観し、本授業で学んだことについて、さらに理解を深める。
学修課題：スポーツ指導支援の立場から、研究成果を精緻化し、有効な提言を行うために、授業担当者の個別指導を受ける。特に、現場へのフィードバックを形成すると同時に、今後の課題や展望についても検討しておく。

第15回：スポーツ情報戦略活動の成果発表
本授業のまとめとして、研究成果を発表し、その是非を問う機会を設け、本授業の学びを深める。
学修課題：授業の内容を踏まえ、研究成果発表から学んだことについて、ノートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

成果報告書（50%）：授業内容を踏まえた論述ができていれば50点とし、重大な誤りや不足があれば10点とする。
プレゼンテーション（50%）：成果報告書を踏まえた発表であれば30点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば20点を加え、重大な誤りや不足があれば10点とする。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
また、スポーツ情報戦略専門実習Ⅰとの連結についても配慮しなければならない。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

身体操作法

【担当】高橋　佳三・藤林　献明

■授業概要

スポーツの指導や動作分析を行う時に，「自身の身体を動かす感覚」が優れていることは，「目の付け所を探す」時に必ず必要となる．本授業では，普段何気なく動かしている身体の部位（肩甲骨，股関節，体幹）などの動かし方に始まり，スポーツの中で重要となる動きを学び，さらにそれらの指導ができるようになることを目的とする．

■養うべき力と到達目標

１．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：スポーツパフォーマンスを向上させるための身体の動きや姿勢についての知識

目標：動きや姿勢によりパフォーマンスが変化することを理解し、実践できる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツパフォーマンスを向上させるための身体の動きや姿勢の指導

目標：パフォーマンスの変化を引き出すことのできる動きや姿勢を指導することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、身体の特徴の確認（担当：藤林）

本授業の計画、評価方法などについて説明する。

股関節や肩甲骨の可動域などについての計測を行う。

学修課題：自身の身体の特徴を理解し、股関節と肩甲骨の構造について解剖学の本などで調べる。

第２回：身体を緩める運動について（担当：藤林）

受講者自身の身体がどの程度緩み、強張っているか、身体を緩めることで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで毎日身体を緩める運動を行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第３回：体幹の動きについて（担当：藤林）

受講者自身の体幹がどの程度動くか、体幹を動かすで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで毎日体幹を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第４回：足の指の動きについて（担当：高橋）

受講者自身の足の指がどの程度動くか、足の指を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで毎日足指の動きのトレーニングを行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第５回：股関節の動きについて（担当：高橋）

受講者自身の股関節がどの程度動くか、股関節を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで毎日股関節を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第６回：肩甲骨の動きについて（担当：高橋）

受講者自身の肩甲骨がどの程度動くか、肩甲骨を動かすで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで毎日肩甲骨を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第７回：立ち方、座り方、しゃがみ方について（担当：高橋）

受講者自身が立った時やしゃがんだ時に身体にどのようなねじれやつまりが生じるか、そのねじれやつまりをほどくことで感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで立ち方、座り方、しゃがみ方に気をつけながら日常生活や運動を行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第８回：歩き方、走り方について（担当：藤林）

受講者自身の歩き方や走り方にはどのような特徴があるかを感じ、立ち方や地面を踏む感じを変えることで感覚がどのように変化するかを感じ取り、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで歩き方や走り方に気をつけながら日常生活や運動を行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第９回：膝の抜きについて（担当：高橋）

「膝の抜き」動作を習得する前後で、自身の動作にどのような変化が生じたかを感じ、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで毎日膝の抜きのトレーニングを行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第10回：大きな力を発揮する動きについて（担当：高橋）

「力を発揮しようとすると力が発揮されない」感じを理解し、大きな力を発揮するためにはどのような動きと感覚が必要かを感じ、その内容を小レポートにまとめる。

学修課題：授業内容を参考に、次週の授業まで大きな力を発揮できる動きや感覚に気をつけながら日常生活や運動を行い、その変化と感想をノートにまとめる。

第11回：プレゼンテーションの準備（担当：藤林、高橋）

プレゼンテーションのグループ分けを行い、第２～10回の授業で学んだ中からプレゼンテーションを行う身体操作法を選択する（６～９班程度）。

プレゼンテーションは、２名がペアとなり、一つの身体操作法についてグループのメンバーに対して行う。

グループに分かれた後、プレゼンテーションする内容について身体操作法ごとに集まり、内容の復習とプレゼンテーションの練習を行う。

学修課題：グループでプレゼンテーションを行う内容についてディスカッションし、プレゼンテーションの準備を行う。

第12回：プレゼンテーション（１）（担当：藤林、高橋）

前半グループがプレゼンテーションを行い、その内容について全員でディスカッションする。また、受講者はプレゼンテーションについての評価を行う。

学修課題：プレゼンテーションでの質問や評価に対して、コメントをノートに記し、内容についての理解を深める。

第13回：プレゼンテーション（２）（担当：藤林、高橋）

中盤グループがプレゼンテーションを行い、その内容について全員でディスカッションする。また、受講者はプレゼンテーションについての評価を行う。

学修課題：プレゼンテーションでの質問やディスカッションに対して、コメントをノートに記し、内容についての理解を深める。

第14回：プレゼンテーション（３）（担当：藤林、高橋）

後半グループがプレゼンテーションを行い、その内容について全員でディスカッションする。また、受講者はプレゼンテーションについての評価を行う。

学修課題：プレゼンテーションでの質問やディスカッションに対して、コメントをノートに記し、内容についての理解を深める。

第15回：まとめおよび総評（担当：藤林、高橋）

本講義のまとめを行い、第一回の授業で計測した内容と同じ計測を行う、そして自身のパフォーマンスや日常生活での感覚が変化したかどうかを考えさせ、その内容をレポート課題として提示する。

学修課題：授業内容や自身の動き、感覚の変化についてレポートをまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

授業への参加度（30%）：実技に対しての積極的な取組みを評価する。

プレゼンテーション（50%）：プレゼンテーションとしてグループでのミニ講義を行う。その時に受講生にフィードバックシートを書かせ、その内容から評価する。

提出物（20%）：授業ごとのミニレポートや、１課と15課の身体の変化に関するレポートを評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

パフォーマンス分析論

【担当】藤林　献明

■授業概要

スポーツパフォーマンスを向上させるためには，スポーツのパフォーマンス構造を理解して，運動を力学や運動学的な観点で捉えることが必要不可欠です．そして，スポーツを通して発見した問題点を改善するためには，専門的なスキルが要求されます．
本授業では，科学的知見からパフォーマンスを分析して，パフォーマンスがを構成する要因や，各要因相互の関係などを整理する方法を習得します．
さらに，映像を中心として個人技能を評価することで，トレーニングに必要な課題を導き出し，トレーニングを計画・実践する方法を学習します．

■養うべき力と到達目標

１．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：パフォーマンスを科学的な視点から分析・評価うる方法を学ぶ．
目標：自身の経験してきたスポーツや現在指導しているスポーツのパフォーマンスを分析して，トレーニングを計画・実践・評価・再考できるようになる．

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：映像を加工・分析して動作を客観と主観に分類して把握する方法を学ぶ．
目標：パフォーマンスを客観的に捉えながら，主観と客観の相違を理解できるようになる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：パフォーマンス分析とは？
授業の評価や今後の授業内容について確認をする．
学修課題：スポーツのパフォーマンスに関連する内容を調査しては発表できるように準備する．

第２回：力，速度，パワーに関するパフォーマンス分析のための基礎知識
スポーツパフォーマンスを分析して，トレーニングを考えるために必要な基礎知識を学習する．
学修課題：「力が強い」ことと「パワーがある」ことの相違について調査する．

第３回：パフォーマンスを客観的に分析する：連続写真の作り方
映像を取り出して，連続写真を作成する方法について学習する．作成した連続写真を利用して，スポーツ動作（パフォーマンス）を客観的に評価する方法について学習する．
学修課題：疾走動作・投擲動作に重要とされる動きを調査する．連続写真を観察して，”よい”動きと”悪い”動きを導き出してレポートにまとめる．

第４回：パフォーマンスの変化を客観的に分析してトレーニング課題を導き出す
スポーツの動作を複数の局面に分類して理解して，トレーニングを考える方法について学習する．
学修課題：運動の局面構造について予習と復習を行う．

第５回：スポーツにおける主観と客観の理解
運動の曲面構造に対応した課題について，主観的な要因と客観的な要因に分類して考える方法を学習する．
学修課題：主観と客観について研究や雑誌で述べられることについて予習を行う．

第６回：パフォーマンス分析の着眼点
走る，投げる，蹴るなどの動作について，専門家と非専門家がどのような部位のどのような動作を重視しているかについて評価して，その相違についてディスカッションする．
学修課題：運動の”コツ”に関して，トップアスリートが述べている内容をインターネット，雑誌，新聞などから調査する．

第７回：スポーツの運動構造を理解する
スポーツの動作を複数の局面に分類して理解して，トレーニングを考える方法について学習する．
学修課題：運動の局面構造，局面融合のキーワードについて調査して説明できるようにしておく．

第８回：パフォーマンスの変化を分析する
パフォーマンスが変化する転機について考えることで，運動の“こつ”について理解を深める．自身の転機についてグループ発表を行う．
学修課題：事例研究，実践研究といったキーワードについて調査して，説明できるようにしておく．

第９回：各種データを応用したトレーニングの指導方法映像分析の基礎
各種の科学的データを利用して，トレーニングの成果を評価して，トレーニングを構築する能力を身につける．
学修課題：トレーニングの計画方法について予習と復習を行う．

第10回：パフォーマンスの基礎となる運動能力包括的を評価する
パフォーマンス構造に基づき．パフォーマンスを構成する要因を個別に評価する方法について学習する．実際の動作を測定して，必要なトレーニングについて考える．
学修課題：自身の専門種目に関するトレーニング手段を調査･収集する．

第11回：パフォーマンス分析を用いたトレーニングの計画法
パフォーマンス分析に基づいてトレーニングを実践・計画する方法を学習する．
学修課題：グループで決定したトレーニング課題を解決するための中期的なトレーニング計画を作成して発表する準備を行う．

第12回：パフォーマンス分析を用いたトレーニングの実践法
過去と現在，２つの映像を利用して，トレーニングの実施内容を評価して，新たなトレーニングを計画する方法を学習する．
学修課題：トレーニングを実践した結果生じた変化を評価して，前回作成したトレーニング計画に修正を加える．

第13回：パフォーマンス分析を用いたトレーニングの評価法
中期的なトレーニングによる変化を収集してトレーニングの効果を評価する方法を学習する．
学修課題：実践したトレーニングの結果，動作がどのように変化したかを評価してトレーニング対する改善点を考案・レポートにまとめる．

第14回：パフォーマンス分析を利用したパフォーマンス(動作）分析の手法に触れる
映像を利用したパフォーマンス(動作）分析がどのような手順で行われるかについて理解して，実際にEXCELを使った分析を体験する．
学修課題：動作分析の方法と種類について調査する．

第15回：映像分析の応用
全15回のまとめとして，総合的な映像の加工や理解についてレポート課題を与える．
学修課題：15回の学習内容についてレポートにまとめる．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回の講義では、学習内容に関するレポート課題の提出を求めます。
また，授業の復習・予習を目的とした自宅学習課題の提出を求めることから、自宅での学習・調査が必須となります。
プレゼンテーションやグループ課題の準備のために、授業時間外での学習・調査・発表準備が必要になります。
各講義におけるレポート課題（50%）：50点満点に対する評価の比率。
学習内容を適切に反映している：50%
個人やグループの意見が述べられているか？：40%
自らの活動に応用するための内容が述べられているか？：10%
未提出は１回につき10%減点。
授業内プレゼンテーション（40%）：40点満点に対する評価の比率。
プレゼンテーション作成と発表に参加しているか？：40%
学習内容を適切に反映している：30%
個人やグループの意見が述べられているか？：25%
発表に対するリーダシップ：５%
予習・復習課題（10%）：全ての課題が提出されおり、全ての回答が適切になされている場合は10点。提出状況、回答内容に応じ、10点満点で採点する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

筋力トレーニングの理論と実践（大修館書店）
スポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）
動きの質的分析入門（ナップ）
リカバリーの科学（ナップ）
走る科学（大修館書店）
跳ぶ科学（大修館書店）
投げる科学（大修館書店）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義を受講するに際して、スポーツバイオメカニクス、運動学概論、スポーツ生理学Ⅰ、スポーツ指導論を履修していることが望ましい。

スポーツメンタルサポート論

【担当】豊田　則成

■授業概要

スポーツメンタルサポート（ＳＭＳ）には、①スポーツメンタルトレーニング（ＳＭＴ：メンタルスキルの獲得を目指した計画的・教育的な取り組み）、②スポーツメンタルマネジメント（ＳＭＭ：セルフマネジメント能力の向上を目指した気づきと制御の鍛錬）、③スポーツカウンセリング（ＳＣ：徹底した対話による治療的人間関係から人格の成熟を目指す）といった３つの領域があり、本授業では、これらについて詳細なる実例を挙げながら解説していく。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツメンタルサポートにおいて基本となる学術的背景を知る

目標：スポーツメンタルサポートの基礎理論を理解することができる

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：実際にどのような実践がなされているのかを知る

目標：スポーツメンタルサポートにおける研究方法について理解を深めることができる

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：アスリートの実力発揮のための心の在り方について知る

目標：具体的な事例の検討からアスリートの心理面について理解を深めることができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：スポーツメンタルサポートとは？

本授業の最初に「スポーツメンタルサポート」について概観し、学習内容や到達目標、評価基準等について解説する。

学修課題：「スポーツ心理学」で学んだ内容について、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第２回：こころの健康と地域におけるスポーツの現状

昨今は、こころの病める時代といえる。こころの健康とはどういうことか？また、地域社会で生じているこころの問題について概観し、スポーツに関わってのカウンセリングの果たす役割について概観する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、こころの健康と地域におけるスポーツの現状について、ノートにまとめておく。また、こころとからだのつながりについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第３回：こころ と からだ のつながり

こころとからだはつながっている。おおよそ漠然とした表現であるが、スポーツに関わる以上、身体がらみの心理的訴えを生じていくことが想定される。こころとからだの関係について解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、こころとからだのつながりについて、ノートにまとめておく。また、「自己を語る」ことについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第４回：「自己を語る」ということ

こころの中を知ろうとするとき、自己を語ることは免れ得ない。実際、自己についてどれだけの語りが、どのように生じているのだろうか。前例を提示し、わかりやすく「自己を語る」ことについて解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、「自己を語る」ことについて、ノートにまとめておく。また、ライフストーリー分析について、関連図書を利用して、予習しておく。

第５回：ライフストーリー分析

ライフストーリー分析を実際に体験する。これを通じて、自己についての新たな気づきや理解の深化を期待することができる。

学修課題：授業の内容を踏まえ、ライフストーリー分析について、ノートにまとめておく。また、スポーツと「こころの世界」について、関連図書を利用して、予習しておく。

第６回：スポーツと「こころの世界」

スポーツにおける「うごき」には、個人の「こころ」が映し出される。そういったことの事例を提示し、「こころ」と「うごき」がつながっていることを解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツと「こころの世界」について、ノートにまとめておく。また、実践的なスポーツ心理学について、関連図書を利用して、予習しておく。

第７回：実践的なスポーツ心理学

スポーツカウンセリングの事象に、スポーツ心理学の研究成果は寄与している。スポーツ場面における心理臨床問題を例示し、解説する上で、スポーツ心理学的成果が役に立っていることの解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、実践的なスポーツ心理学について、ノートにまとめておく。また、メンタルトレーニングとメンタルマネジメントについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第８回：メンタルトレーニングとメンタルマネジメント

「トレーニング」と「マネジメント」のニュアンスの異なりから、その位置づけについての解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、メンタルトレーニングとメンタルマネジメントについて、ノートにまとめておく。また、アスリートの「こころを強くする」ことについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第９回：アスリートの「こころを強くする」こと

精神力の強化は、アスリートにとって大きな課題でもある。しかしながら、どのようにすれば「こころを強くする」ことが実現するのだろうか。ここでは、スポーツメンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの立場から解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、アスリートの「こころを強くする」ことについて、ノートにまとめておく。また、アスリートの転機と生涯発達について、関連図書を利用して、予習しておく。

第10回：アスリートの転機と生涯発達

アスリートにとって、怪我や引退は大きなライフイベントでもある。そこで、アスリートはどのような心理的成長を体験しているのだろうか。実例を挙げつつ、解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、アスリートの転機と生涯発達について、ノートにまとめておく。また、スポーツへの取り組みと自己の成長・成熟について、関連図書を利用して、予習しておく。

第11回：スポーツへの取り組みと自己の成長・成熟

スポーツへの取り組みは、競技力向上を目指すことと共通する。しかし、それと同時に人格的な成熟も期待される。そういったことの理論的背景や実践例を解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツへの取り組みと自己の成長・成熟について、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第12回：スポーツカウンセリングとは何か

これまでの授業を概観し、スポーツカウンセリングの位置づけと理論、実践を体系的に整理する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングについて、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングの歴史について、関連図書を利用して、予習しておく。

第13回：スポーツカウンセリングの歴史

スポーツカウンセリングが歩んできた歴史を概観する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングの歴史について、ノートにまとめておく。また、スポーツカウンセリングの背景について、関連図書を利用して、予習しておく。

第14回：スポーツカウンセリングの背景

スポーツにおける心理的問題は、どのような社会的、心理的背景から生じてきているのかについて、スポーツカウンセリングの実践例を提示しながら解説を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングの背景について、ノートにまとめておくと良い。また、スポーツカウンセリングに関する諸問題について、関連図書を利用して、予習しておくと良い。

第15回：スポーツカウンセリングに関する諸問題

本授業のまとめとして、スポーツカウンセリングを展開していく上で考慮しなければならない問題点を整理し、概観する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツカウンセリングに関する諸問題について、ノートにまとめておくと良い。また、最終レポート課題の作成に向けて、ノートを振り返り、まとめておくと良い。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート課題（75%）：毎回の授業の中で、授業内容を踏まえたレポート課題を課す。授業の内容を踏また論述であれば５点とし、重大な誤りや不足があれば１点とする。毎時間の最後に、課題に取り組む時間を設定し、時間内に提出を求める。

最終レポート課題（25%）：ルーブリックを利用し、評価する。ルーブリックについては、予め授業内で説明を行う。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

１）スポーツと心理臨床（鈴木壮　創元社）

２）スポーツカウンセリング入門（内田直　講談社）

３）スポーツメンタルトレーニング教本（日本スポーツ心理学会編　大修館書店）

４）白鳳のメンタル（内田堅志　講談社+α新書）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。

特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

スポーツ指導支援

【担当】山田　庸

■授業概要

スポーツの指導体系を学び、アシスタントや支援スタッフの役割を理解する。指導体制と役割，スポーツの体系化，技術、戦術指導、体力の構造，指導計画，メディカルスタッフの役割，アナリストの役割，について学習する.

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：コーチング体制に関する知識，指導に必要な周辺の科学的知識

目標：コーチング体制と指導するために必要な周辺の知識を理解できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス、スポーツ指導支援とは

「スポーツ指導に必要な支援とは何か」を定義する。指導を支援する役割、方法、効果について概略を紹介し、全15回の流れを確認する。

学修課題：スポーツ指導支援についてまとめる

第２回：指導の支援　ーフィードバックとはー

コーチングとは何かを定義する。コーチングの効果的方法について学習する。フィードバックについて、自己観察と他者観察および動機付けの観点から理論的背景を学習する

学修課題：フィードバックについて理解する

第３回：指導体制　ー役割とオーガナイズ（組織化）ー

指導者には様々な役割があり、大きな指導チームでは様々な担当スタッフがいる。また､指導を行う上で必要な環境を整える必要がある。各種スポーツにおける指導体制を紹介するなかで、指導者の役割と必要な環境について学習する。

学修課題：これまでの指導体制についてまとめてみる

第４回：スポーツの体系化　ー技術、戦術、体力の構造を明らかにするー

スポーツに必要な技術、戦術、体力には「基礎から専門」「準備局面、主要局面、終末局面」などの一連の流れの中で、幾つかの要因からなる構造を仮定することができる。各種スポーツにおける構造を紹介し、要因の分類、集約する方法を学習する。

学修課題：スポーツの体系化について理解する

第５回：指導計画の作成

スポーツチームの活動及び指導は計画的に行われる必要がある。年間計画、週間計画、１日の指導計画の立案を紹介し、目標から逆算したチーム運営、PDCAサイクルに基づく計画の修正について学習する。

学修課題：指導計画を作成する

第６回：フィジカルコーチの役割①　ー体力測定ー

これまで定義されてきた体力の分類、体力測定の方法について学習する。競技に専門的な体力領域、測定手法を紹介する。

学修課題：体力測定について理解する

第７回：フィジカルコーチの役割②　ー体力測定のフィードバックー

体系化された体力構造に基づく体力測定項目の選定、年間計画に基づく体力測定の日時決定、実行とフィードバックについて紹介する。測定データの加工、偏差値を用いたチーム内での比較、散布図を利用した回帰面評価など２項目の比較による体力要因分析を学習する。

学修課題：体力測定のフィードバックについて理解する

第８回：フィジカルコーチの役割③　トレーニング負荷（強度と量）の計測

トレーニング強度を計測する手法として、心拍数、主観的運動強度、加速度計による走行速度、加速度などについて学習する。運動量として、運動時間、GPSを用いた走行距離などについて学習する。

学修課題：心拍数を用いてトレーニング強度を計測する

第９回：フィジカルコーチの役割④　コンディションの把握

スポーツ選手にとって、日々の体調＝コンディションを知り、コントロールすることは重要である。身体的、心理的、競技的コンディションを左右する要因、コンディションを計測する方法について学習する。

学修課題：コンディション調査を行う

第10回：メディカルスタッフの役割

コンディション維持にスポーツドクターやトレーナーなどメディカルスタッフのサポートは欠かせない。シーズン前のメディカルチェック、傷害予防、受傷後の治療、リハビリテーションなどの役割を学習する。メディカルスタッフの支援を得るためのコンディション情報の共有、適切なトレーニング立案と調整について紹介する。

学修課題：メディカルスタッフの役割を理解する

第11回:アナリストの役割①　データを活用した分析　ー記述分析ー

スポーツのパフォーマンスはプレー回数を記録、分類することで記述することができる。記述分析によるデータを用いたフィードバックのなかでも、近年広がりを見せる球技スポーツを中心にデータ活用方法を学習する。

学修課題：記述分析について理解する

第12回：アナリストの役割②　映像を用いた分析　ー戦術の質的分析ー

スポーツのパフォーマンスは自己観察、他者観察によって評価されフィードバックされる。映像による他者観察は有効であり、近年スポーツアナリストの役割が着目されている。今回は特に球技スポーツを題材に、戦術のゲーム分析を取り上げ、その手法について学習する。

学修課題：戦術の質的分析を実施する

第13回：アナリストの役割③　映像を用いた分析　ー動作分析ー

特に個人のパフォーマンスにおいて、スポーツの動作分析を評価しフィードバックすることは重要である。映像を持ちいた個人の動作分析を取り上げ、その手法について学習する。

学修課題：動作分析を実施する

第14回：指導支援ツール

PCやタブレット、スマートフォンなどの機器が発達する中、指導をサポートするツールが多く開発されている。旧来から用いられている各種のリストやモデル図などとともに、最新のソフトやアプリを紹介する。

学修課題：指導支援ツールのアプリを調査する

第15回：指導支援の今後

指導を支援する立場のアシスタントコーチ、フィジカルコーチ、データアナリスト、トレーナーなどの職業の今後について考える。将来、スポーツがどのように発展するのか、どのような壁に直面するのかを予測し、将来必要とされる人材を明らかにする。

学修課題：指導支援についてまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各回の確認テストおよび課題（45%）：授業内容に即して設問に正しく回答しているか，内容は質・量とも十分か

期末レポート（55%）：指導体制と役割，スポーツの体系化，技術戦術指導、体力の構造，指導計画，メディカルスタッフの役割，アナリストの役割，について設問に正しく回答しているか，内容は質・量とも十分か

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業の中で紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

ゲーム分析法

【担当】山田　庸

■授業概要

スポーツのなかでも特に球技において著しい発展を遂げるゲームパフォーマンス分析を対象に、その手法を学習する。質的データを収集する質的分析法と，量的データを収集する記述分析を学習する。また、その知識をもとに各種スポーツを対象にゲーム分析を行い、発表と議論を通じてゲーム分析の実践力を高める。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：ゲーム，質的分析法，ゲームパフォーマンス分析の知識

目標：ゲーム，質的分析法，ゲームパフォーマンス分析の知識を習得する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス、ゲーム分析法の基礎

ゲーム分析の手法は、情報技術の発達により大きく変革してきている。これまでのコーチの観点からの質的分析法に合わせて、客観的データに基づく記述分析をもちいたゲーム分析法について基礎知識を解説する。

学修課題：ゲーム分析法について図書やサイトを調べる

第２回：ゲーム分析とは

各種目におけるゲームの仕組み＝構造を理解しゲームパフォーマンスを観察することで、勝敗を分ける重要な要因を評価することができる。各スポーツの仕組みと観察のポイント、その手法について解説する。

学修課題：身の回りの「ゲーム」について調べる

第３回：質的分析①（構造モデル）

ゲームを分析するために必要な仕組み＝構造の理解について掘り下げる。樹状図や因果構造モデルをもちいて各競技の構造を整理する方法を学習する。

学修課題：ゲームの構造モデルを記述する

第４回：質的分析②（チェックリスト）

評価する要因を定め実際に観察する際には、状況を素早くチェックするシートが必要である。主に映像を観察する際に、必要な準備と方法について解説する。

学修課題：質的評価のチェックリストを作成する

第５回：質的分析③（質的統合法）

質的に得られた情報を収集し集約していく必要がある。質的統合法（KJ法）など、質的な情報集約の方法について解説する。また、監督や選手に情報をフィードバックする際の留意点について解説する。

学修課題：質的統合法（KJ法）を実践する

第６回：質的分析④（分析に基づくトレーニング案）

得られた情報を試合に活かすためには、いかにトレーニングに落とし込んでいくかが重要である。ゲーム分析で得られた情報をトレーニングに還元する手順と方法について解説する。

学修課題：質的分析に基づきトレーニング案を作成する

第７回：記述分析①（概観）

記述分析（Notational Analysis）のこれまでの発展を振り返り、どのようなことが行われてきたのかを概観する。また、現在メディアを通じて発表されているデータがどのようなものかを紹介する。

学修課題：これまでの記述分析についてまとめる

第８回：記述分析②（ビッグデータ）

現在社会に用いられているビッグデータについて学習する．コンビニエンスストアの商品管理，ポイントカードの分析，AIと機械学習，自動運転技術を例示し，そのメリットとデメリットについて学習する．

学修課題：身の回りのビッグデータについて調査する

第９回：各種スポーツにおける分析①（野球：スコアブック）

球技の中でも、特に野球についてどのように分析しているのかを解説する。実際に野球のゲーム映像を見ながらスコアブックなどのデータを記述を実践する。スコアブックから明らかとなる指標（Key Performance Indicator: KPI）について，学習する．

学修課題：記述分析データを加工し出力する

第10回：各種スポーツにおける分析②（野球：トラッキングデータ）

球技の中でも、特に野球についてトラッキングデータに基づくゲーム分析指標を学習する．PITCH f/x，SWATCAST，ピッチフレーミングについて学習する．

学修課題：記述分析結果に基づきトレーニング案を作成する

第11回：各種スポーツにおける分析③（ゴルフ、バスケットボール）

球技の中でも、ゴルフ，バスケットボールのゲーム分析について学習する．ゴルフにおけるSG指標によるデータ革命について，Strokes Gainedを中心に学習する．また，バスケットボールにおけるトラッキングデータについて，Sport VUを中心に学習する．

学修課題：プロ野球のデータを調査する

第12回：各種スポーツにおける分析④（バレーボール）

球技の中でも特にバレーボールについてどのように分析しているかを解説する。実際にバレーボールのゲーム映像を見ながらデータを記述を実践する。

学修課題：バレーボールの分析について調査する

第13回：各種スポーツにおける分析⑤（サッカー：分析方法）

球技の中でも特にサッカーについてどのように分析しているかを解説する。プレー数を集計したゲームパフォーマンス分析，トラッキングデータ，スカウトへのデータの活用について実例を紹介しながら解説する．

学修課題：サッカーの分析について調査する

第14回：各種スポーツにおける分析⑥（サッカー：データを活用した指導法）

サッカーにおけるデータを活用した指導法について学習する．GPSによるトラッキングデータの活用，ドイツブンデスリーガのホッフェンハイムにおける先進的コーチングについて解説する．

学修課題：データ活用と指導法について広く調査する

第15回：ゲーム分析の発展

今後の情報技術の発展を予測し、今後どのような分析が可能になるかを解説する。受講生の対象スポーツでどのような発展が可能かを議論する。

学修課題：これまでの授業を振り返りまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

期末テスト（100%）：設問に正しく回答しているか，キーワードについて正しく論述できているか

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業の中で紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ動作分析法

【担当】高橋　佳三

■授業概要

本授業では、動作分析に用いられる機材（高速度VTRカメラ、地面反力計、筋電図）の使用方法やキネマティクス、キネティクス的データの算出方法などについて学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：動作分析の手法に関する理解

目標：動作分析の流れを理解し、機材の使用方法が理解できる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：動作分析を行うことができる技能習得

目標：研究計画を立て、実験、データ算出、考察を行い、内容をプレゼンテーションできる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：イントロダクション：動作分析について

動作分析の流れについて理解する。グループ分けを行い、翌週から行う研究計画策定と実験についてミーティングを行う。

学修課題：グループごとに実験試技に関する先行研究を検索し、内容をまとめておく。

第２回：２次元動作分析（１）：研究計画の策定

グループごとに、用意した先行研究から研究課題を抽出し、その課題を解決するための研究計画書を作成する。

学修課題：研究計画書を作成し、全員で共有、実験の準備を行う。

第３回：２次元動作分析（２）：撮影

研究計画に沿って、２次元的な動作（垂直跳び、立ち幅跳び、歩行、ランニングなど）を撮影する。

学修課題：撮影した映像を、次週のデジタイズの作業が行えるように変換しておく。

第４回：２次元動作分析（３）：デジタイズ

デジタイズの手法を学び、撮影した動画をデジタイズする。

学修課題：次週までにデジタイズを終えておく。

第５回：２次元動作分析（４）：実長換算、平滑化、キネマティクスデータ算出

デジタイズしたデータを元に、実長換算、平滑化、キネマティクスデータの算出を行う。

学修課題：スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，実長換算、平滑化、微分、三角関数について理解する。

第６回：２次元動作分析（５）：データの考察、プレゼンテーション作成

データから動作について考察を行い、PowerPointを用いてプレゼンテーションを作成する。

学修課題：翌週までにプレゼンテーションを作成し、プレゼンテーションの練習をする。

第７回：２次元動作分析（６）：プレゼンテーション

グループごとにプレゼンテーションを行い、発表内容についてディスカッションを行う。

授業の最後に、３次元動作分析についての説明を行い、３次元動作分析を行う実験試技をグループごとに考える。

学修課題：グループごとに実験試技に関する先行研究を検索し、内容をまとめておく。

第８回：３次元動作分析（１）：研究計画策定

グループごとに、用意した先行研究から研究課題を抽出し、その課題を解決するための研究計画書を作成する。

学修課題：スポーツバイオメカニクスの参考書を読み、DLT法について理解する。

第９回：３次元動作分析（２）：撮影

３次元的な動作（投げる，打つなど）の撮影を行う、２台以上のカメラでの撮影、キャリブレーション法などについて理解する。

学修課題：３次元の速度や角度について理解する。

第10回：３次元動作分析（３）：デジタイズ、カメラ定数算出

２台以上のカメラにより撮影された画像のデジタイズ法を理解し、キャリブレーションポールをデジタイズし、カメラ定数を算出する。

学修課題：次週までにキャリブレーションポールのデジタイズを終え、カメラ定数を算出しておく。

第11回：３次元動作分析（４）：身体分析点のデジタイズ、DLT法

２台以上のカメラにより撮影された画像から、身体分析点のデジタイズを行い、第10回で算出されたカメラ定数を用いて、DLTを行う。

学修課題：次週までに身体分析点のデジタイズをDLTを終えておく。

第12回：３次元動作分析（５）：平滑化、キネマティクスデータ算出、考察

３次元座標値から速度、角度などのキネマティクスデータを算出し、データを並べ替え、考察する。

まとめた内容から、PowerPointを用いてプレゼンテーションを作成する。

学修課題：翌週までにプレゼンテーションを作成し、プレゼンテーションの練習をする。

第13回：３次元動作分析（６）：プレゼンテーション

グループごとにプレゼンテーションを行い、発表内容についてディスカッションを行う。

学修課題：翌週からの地面反力、筋電図の計測について、参考図書などを読んで理解しておく。

第14回：地面反力：地面反力の計測

地面反力計の使用法を理解し、地面反力を計測する。データを見て、データの意味を理解する。

学修課題：地面反力を計測した文献を読み、地面反力についての理解を深める。

第15回：筋電図：筋電図の計測、分析、考察

筋電図の計測法を理解し、筋電図を計測する。データを見て、データの意味を理解する。

学修課題：筋電位を計測した文献を読み、筋電位についての理解を深める。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

レポート１（２次元動作分析）（50%）：２次元動作分析を行い、それについて作成したレポートを評価する.

レポート２（３次元動作分析）（50%）：３次元動作分析を行い，それについて作成したレポートを評価する.

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

スポーツバイオメカニクス20講（阿江通良，藤井範久　著，朝倉書店）

スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良　著，朝倉書店）

バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫　著，杏林書院）

表面筋電図（バイオメカニズム・ライブラリー）（木塚朝博，木竜徹，増田正　著，東京電機大学出版局）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

卒業研究

【担当】ゼミ担当教員

■授業概要

指導教員の指導のもと、学部、学科、専門コースでの学習活動の総まとめとして、各学生がそれぞれの専門分野における研究論文を作成し、卒業論文発表会において各自の研究成果を発表する。スポーツ学に関する研究課題に対して計画的に取り組むことで、知識や考え方を統合的に発揮する力を身につける。卒業研究をとおして、課題発見力、情報収集・分析力、発想、探求を含め論理的思考力、プレゼンテーション力、チームワークなど、社会から求められる力を育成するとともに、教わる学びから探求する研究を体現する。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ学における各自の専門分野の知識や考え方を統合的に発揮する力

目標：スポーツ学における各自の専門能力を発揮し、卒業研究論文とその要旨の作成、研究成果の口頭発表を適切に完遂することができる。

2．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：スポーツ学における各自の専門分野に関する課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

目標:社会から求められる力も含め、優れた技能を発揮し、卒業研究論文とその要旨の作成、研究成果の口頭発表を適切に完遂することができる。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツ学における各自の専門分野に関する研究推進力

目標：指導教員の指導のもと、主体的に探究する研究を体現する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

詳細な内容は、別途配付する「卒業研究の概要と作成の手引き」を確認してください。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

「これまでの取り組み」「発表会」「卒業研究論文」（100%）：

「これまでの取り組み」、「発表会」、「卒業研究論文」の３点を総合し、主査と副査が協議の上、評価する。

■教科書

特に指定しない

エアロビックダンスⅡ

【担当】藤松　典子

■授業概要

エアロビックダンスⅠの授業に基づきながら、さらに深くエアロビックダンスプログラムの特性、効果を理解し、安全に運動が行えるようなプログラム作成の方法を学習する。より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を実践、提供できる能力を養う。この授業は、実技だけではなく講義も行う。これまで学んできたフィットネス理論、スポーツ生理学、機能解剖学、バイオメカニクス、トレーニング理論、スポーツ栄養学などについても復習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：エアロビックダンスⅠの授業に基づきながら、さらに深くエアロビックダンスプログラムの特性、効果を理解し、安全に運動が行えるようなプログラム作成の方法を学習する

目標：対象者に応じてプログラムを作成できるようにする

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を実践、提供できる能力を養う

目標：対象者の目的も考慮し適切な運動指導ができるようにする

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：フィットネス概論

日本人の健康問題について理解し，生活習慣病の予防と生活習慣の改善を検討する

学修課題：日本人の健康問題と運動療法の関係について小レポートにまとめる。

第２回：エアロビクス理論

エアロビクス，エアロビックダンスの歴史，日本への流れとその後の日本での歴史を整理し理解する

学修課題：有酸素運動について、また健康づくりの中高年の有酸素運動指導について小レポートにまとめる。

第３回：基本ステップ

エアロビックダンスⅠで学んだことを復習しながらステップアップする

学修課題：運動生理学の骨と筋肉の復習をする。

第４回：基本ステップのステップアップ

基本ステップを組み合わせる方法を学習する

学修課題：機能解剖学の復習をする。

第５回：コンビネーションドリル

コンビネーションパターンをいくつか作成する

学修課題：体力学について復習する。

第６回：筋コンディショニング

大筋群の強化，プログラムに合わせた筋の強化部位を選択

学修課題：栄養学について復習する。

第７回：筋の強化のプログラミング

対象者の目的に合わせた筋の強化部位を選択し、プログラミングできるようにする

学修課題：グループエクササイズについて小レポートにまとめる。

第８回：レイヤリングの作成方法

レイヤリングのスムーズな作成方法を理解する，またパターンを数種類考案する

学修課題：運動強度の設定の仕方、変化のさせ方をまとめて小レポートにする。

第９回：ウォーミングアッププログラミング

様々な対象者の目的に合わせたプログラム作成をする

エアロビックダンスⅠで作成したが，よりリズミカルに大筋群を動かし、関節を滑らかにし可動域が広がるように工夫する

学修課題：各パート目的をまとめてくる。

第10回：ストレッチのプログラミング

様々な対象者の目的に合わせたプログラム作成をする

目的やエクササイズで使用した筋のストレッチが、効率よく実施できるようなプログラミングを考案する

学修課題：プログラム作成のポイントを調べまとめてくる。

第11回：メインエクササイズプログラミング　ーコンビネーションー

有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップとハイインパクトクトステップの配分と移行方法を実施できるようにする

学修課題：ローインパクトステップとハイインパクトステップを整理するとともに、スムーズな以降の仕方をまとめてくる。

第12回：メインエクササイズプログラミング　ー空間形成ー

有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップからハイインパクトクトステップの空間や軌跡の描き方等でステップを変化させる手法を習得する。

学修課題：筋の強化エクササイズのプログラミングを作成してくる。

第13回：メインエクササイズプログラミング　ーリズムの変化ー

各種ステップをリズム変化によるオリジナルステップを作成する。あらゆる方向から考慮し、なおかつ健康体力づくりに効果的なプログラムを作成する。

学修課題：ストレッチエクササイズの指導案を作成してくる。

第14回：５分間のメインエクササイズプログラム

有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップからハイインパクトクトステップの配分と移行方法を実施できるようにする。心拍数を２分間で徐々にアップし、ターゲットゾーンで１分間キープ、２分間でダウンのプログラムを作成する。

学修課題：授業で作成したコリオグラフィーを清書する。

第15回：実技発表

これまでのまとめとして作成したものをお互いに発表し評価する。

学修課題：すべてのレポートをまとめて提出する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

中間発表（30%）：徐々に心拍数を上げて一定の強度でキープできているプログラムが作成できているか評価する

学期末発表（50%）：５分間の、徐々に心拍数を上げて一定の強度でキープでき、徐々に強度を落とすプログラムになっているか実技評価

レポート（20%）：授業中の課題レポートのまとめから理解度を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導

指導理論のAtoZ(改訂版)

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

エアロビックダンスⅢ

【担当】藤松　典子

■授業概要

エアロビックダンスⅠ、Ⅱの授業に基づきながら、さらに深くエアロビックダンスの特性、効果を理解し、安全に運動が行えるような指導方法を学習する。より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を実践、提供できる能力を養うための指導理論と実践を行う。これまで学んできたフィットネス理論、スポーツ生理学、機能解剖学、バイオメカニクス、トレーニング理論、スポーツ栄養学なども復習する

■養うべき力と到達目標

１．DP4.高度なスポーツ技能

具体的内容：エアロビックダンスⅠ、Ⅱの授業に基づきながら、さらに深くエアロビックダンスの特性、効果を理解し、安全に運動が行えるような指導方法を学習する

目標：運動の特性や効果を理解し、対象者に応じた指導ができるようにする

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を実践、提供できる能力を養うための指導理論と実践を行う

目標：対象者の目的に応じた運動を指導できるようにする

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：筋の強化エクササイズ

筋の強化エクササイズにおいて、主な大筋群の強化の指導方法と、見本となる動きを習得し、正しい姿勢で指導できるように学習する。

学修課題：指導の循環について調べ、特に観察・賞賛の仕方を調べまとめる。

第２回：筋の強化指導法

筋の強化エクササイズの主な大筋群の強化の指導方法と、見本となる動きを数種類習得し、その時の状況でどの動きが適しているか選択できる能力を養成する。

学修課題：フィットネス理論をまとめる。

第３回：クールダウンエクササイズ

主な大筋群のストレッチングの指導方法と、見本となる動きを習得する。観察･賞賛等も使いながら指導する。

学修課題：バイオメカニクスについて復習する。

第４回：クールダウン指導法

筋のストレッチングの指導方法と、見本となる動きを数種類習得し、その時の状況でどの動きが適しているか選択できる能力を養成する。

学修課題：スポーツ栄養学について復習する。

第５回：メインエクササイズのプログラミング

５分間のメインエクササイズのプログラミングとその指導，そして本人の正しい動きが課題です。プログラムは２分間の徐々に運動強度を上げていく，１分間ターゲットゾーンでキープして２分間っで徐々に強度を落とすプログラムを作成、指導する。

学修課題：運動強度等に関する計算方法をまとめる。

第６回：メインエクササイズのプログラミングと評価

５分間のプログラムを作成し指導の練習を実施する

自分で作成したプログラムを覚え，ベルカーブを描くプログラムになっているか確認し、立ち位置、見せ方を工夫出来るの魚力を養う。

学修課題：運動処方について復習する。

第７回：メインエクササイズのプログラミングと伝え方

指導法，特に効果的な見本の見せ方，受講者にわかりやすい言葉がけや、指導者としてふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いや受け答えが出来ているか確認する。

学修課題：救急処置法について復習する。

第８回：メインエクササイズのプログラミングと指導法

前期に作成したプログラムを修正し、明確な指導ができるように練習をする。

学修課題：スポーツ障害や外傷について復習する。

第９回：メインエクササイズのプログラミング指導法と観察

他の受講生とお互いのプログラムを指導し合い最終チェックを実施

学修課題：指導時のクラスの雰囲気づくりを考察する。

第10回：発表

メインエクササイズ，筋の強化，ストレッチングのグループ指導をお互いに発表し、評価しあう。良いところは賞賛し、足りないところは修正しよりよいものとなるよう学習する。

学修課題：指導のタイミングと言葉がけをコリオグラフィーに合わせて作成する。

第11回：発表準備　ープログラミングー

実技試験に向けて作成した５分間のプログラムを45分間に組み立てなおす

本検定で指摘された個所を修正し，充分練習をする

学修課題：エクササイズに使用する音楽をパートごとに選曲する。

第12回：発表準備　ー指導ー

修正した45分間プログラムを流れるように指導する。

本検定で指摘された個所を修正し，見せ方の確認、さらに充分練習をする

学修課題：発表会の宣伝チラシの作成をしてくる。

第13回：実技発表会

45分のプログラムを完成させ，授業の受講生以外の者を参加させ発表する。

学修課題：グループエクササイズについて調べてまとめる。

第14回：実技発表会

45分のプログラムを完成させ、授業の受講生以外の者を参加させ発表する。

学修課題：パーソナル指導について調べてまとめる。

第15回：まとめおよび総評

プログラム作成方法と指導についてレポート作成と発表（プレゼンテーション）

学修課題：これまでの授業を振り返り学んだことを小レポートとしてまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

発表（40%）：指導テクニックのキューイングのタイミング、内容、声の出し方等で習熟度を評価する。

レポート（40%）：課題レポートの内容から理解度を評価する。

筆記テスト（20%）：授業内容の理解度を筆記テストで評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

健康運動指導者のための最新フィットネス基礎理論　JAFA

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

レクリエーション指導法

【担当】中野　友博

■授業概要

レクリエーション指導者に必要とされるプログラム立案、指導、評価能力、ならびに企画運営能力を修得することを目的としています。実際の地域のイベントなどに直接参画するとこで、その能力を高めます。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：プログラムの指導案の内容についてアイスブレイクの考え方の理解を深める

目標：アイスブレイクの企画、立案ができる

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：企画立案したレクリエーションプログラム（アイスブレイク、ウォークラリー）の指導法を知る

目標：レクリエーションプログラムを指導できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき2時間）

第１回：授業概要およびレクリエーション資格について

レクリエーション指導法としての実技の授業内容の説明だけでなく、日本レクリエーション協会認定資格のレクリエーションインストラクター、レクリエーションコーディネーターについて理解を深める。びわこ成蹊スポーツ大学が日本レクリエーション協会の課程認定校であることも含めて理解する。

学修課題：レクリエーション資格について深く調べる

第２回：レクリエーションプログラムの立案、指導、評価

レクリエーションプログラムデザインに必要な理論を確認しながら、様々なレクリエーション活動について理解を深める。

学修課題：理論としてデザインに必要な項目を整理する

第３回：レクリエーションと安全管理

レクリエーション活動中の安全について、安全管理、安全教育、リスクマネジメントの観点から概説する

学修課題：理論としてデザインに必要な項目を整理する

第４回：アイスブレイクの体験

レクリエーション活動の一つであるアイスブレイク活動を体験する

学修課題：興味あるアイスブレイク活動を検索し、指導案を作成

第５回：プログラムデザイン（アイスブレイク）と指導

アイスブレイク活動についてアクティビティデザインを行い、指導実習する

学修課題：興味あるレク活動を選び、自分なりの改善・工夫を考える

第６回：ウォークラリーの体験

日本レクリエーション協会が普及を進めている、レクリエーション活動の一つである「ウォークラリー（ＷＲ）」を体験する

学修課題：ウォークラリーの楽しさについて確認し、振り返る

第７回：ウォークラリーマップの作成

ＷＲ体験をいかして、大学周辺の地域や文化、自然を活かしたオリジナリティあふれるＷＲコースマップを作成する。

学修課題：オリジナリティのあるコースマップを作成する

第８回：ウォークラリーの指導実習、運営

各自で作成したＷＲコースマップを使用して、ＷＲ指導実習を行う

学修課題：良いマップにするためのアイデア、チェックポイントについて再考する

第９回：レクリエーション指導の実際（ネイチャーゲームを中心に）

地元幼稚園の親子対象プログラムの指導を行う。あるいは幼児を対象とした自然体験学習の指導者研修会を受講し、理解を深める。

学修課題：指導報告書を作成する

第10回：レクリエーション指導の実際（幼児を対象とした活動を中心に）

地元幼稚園の親子対象プログラムの指導を行う。あるいは幼児を対象とした自然体験学習の指導者研修会を受講する

学修課題：興味ある活動の指導案を作成する

第11回：レクリエーション指導の実際（幼児を対象とした活動を中心に）

地元幼稚園の親子対象プログラムの指導を行う。あるいは幼児を対象とした自然体験学習の指導者研修会を受講する

学修課題：興味ある活動の指導案を作成する

第12回：レクリエーションスポーツ体験Ⅰ

MTBの理論、メインテナンスと修理について理解を深める。

学修課題：実際に自分のMTBをメインテナンスする

第13回：レクリエーションスポーツ体験Ⅱ

MTB実際、走行技術の獲得

学修課題：サイクリングマップを作成する

第14回：レクリエーションコーディネーター試験に向けて

コーディネーター試験に向けて、理論、デザイン、リスクマネジメントについてまとめる

学修課題：コーディネーター試験の受験準備をする

第15回：まとめおよび総評

新しいレクリエーションスポーツを考案してみる

学修課題：興味あるレクリエーションスポーツを検索する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

アイスブレイクプログラムデザイン（20%）：プログラムの指導案の内容についてアイスブレイクの考え方の理解について評価する

ウォークラリーマップ（20%）：ウォークラリーマップ（サイクリングマップ）の作成について、マップの様式の理解について評価する

指導実習（40%）：指導内容について対象の理解、指導内容の理解について評価する

最終レポート（20%）：レクリエーションの指導についての理解をレポートの内容から評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

レクリエーション支援の基礎（2007）財団法人日本レクリエーション協会

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

アスレティックトレーナー特別講座（1）

【担当】佃　文子

■授業概要

スポーツ現場で求められる医科学的支援について、アスレティックトレーナーの役割と業務の内容を理解する。
講義では、スポーツ指導者として安全なスポーツ指導の在り方について思考とディスカッションを繰返し、実践するために必要なモラルと行動力、リーダーシップについて学ぶ。
またスポーツ現場を取り巻く監督・コーチ、スポーツドクター、栄養サポートや各種分析専門家らとの協働について、各専門性とアスレティックトレーナーとの関係性を学ぶとともに、協同に必要な信頼関係の構築方法について議論する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：アスレティックトレーナーの役割について学ぶ
目標：アスレティックトレーナーの役割を理解する

２．DP6.優れたスポーツマンシップ
具体的内容：スポーツを支える人のモラルと、スポーツ指導に必要なリーダーシップを学ぶ
目標：スポーツの実践者を尊敬し、安全に配慮した行動をとれるようになる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス、アスレティックトレーナー特別講座の概説
授業の概要を理解し、アスリートの支援者としての基本的姿勢を理解する
学修課題：予習：これまで自身がスポーツに関連してサポートを受けたりかかわったことのあるトレーナー的仕事をしてきた人の、トレーナーとしての仕事、その方の職業、自分が受けた影響について、調べて書き出してくる。 復習：授業時に他者が発表したトレーナー像をまとめる

第２回：アスレティックトレーナーの歴史
世界各国の医療の仕組みとスポーツトレーナー制度について、また日本のアスレティックトレーナー制度ができるまでの歴史的変遷について理解する
学修課題：予習：日本のトレーナーはいつごろから始まったのか調べてくる 復習：日本のトレーナーの発生について、他の関連他業種との関わりも含めてまとめる

第３回：アスレティックトレーナーの役割と業務内容
アスレティックトレーナーの役割と業務内容の基礎を学ぶ
学修課題：予習：アスレティックトレーナーとして最も大事と思われる役割の主なもの２つについてその活動場面を考えてくる 復習:役割を書きだしこれまでかかわったトレーナーがどの役割を重点的に行っていたのかまとめる

第４回：競技特性に応じたアスレティックトレーナーの役割
活動現場の特性、競技特性、アマチュアスポーツとプロスポーツなど競技レベル別に求められる、アスレティックトレーナーの役割について理解する。
学修課題：予習:自身に関係の深い競技を想定し､特徴的なトレーナーの役割を見つけ出す(かかわりのあまりない競技について)トレーナーの役割を対比させながら考えてくる)。 復習：競技レベルや競技の違いによってトレーナーの役割がそのようにあるべきかまとめる

第５回：スポーツ指導者としてのアスレティックトレーナーの役割
指導する世代別に注意する事項や、効果的な指導法について理解する
学修課題：予習：スポーツ指導者はどのような姿勢でスポーツ指導に取り組むべきか、理想と現実を考えてくる 復習:スポーツ指導者としてのトレーナーとコーチの共通点と相違点をまとめる

第６回：スポーツ現場の支援スタッフについての理解
スポーツ現場を取りまく各種のスタッフの専門性と協働について学ぶ。特にストレングスコーチやフィジカルコーチ、栄養指導やメンタルトレーニング指導者等、支援スタッフの役割の重なりと責任の範囲について討議する。
学修課題：予習：スポーツ現場における他の支援スタッフについて、専門性と役割を書き出してくる 復習：スポーツ指導の現場での他の支援スタッフの役割をまとめる

第７回：トレーナー組織の管理運営
医科学スタッフとの各種情報の取扱いと管理方法について、特に個人情報の取り扱いについて守秘義務と倫理的配慮を学ぶ
学修課題：予習：身近なスポーツ現場にどのような種類の情報があるかを書き出してくる 復習：情報管理とトレーナー組織のマネジメントに必要な要件をまとめる。

第８回：他者支援と倫理
支援する際の心構えを学ぶとともに、トラブルになりやすい支援者や被支援者の関係について討議する
学修課題：予習：支援者(トレーナー)と選手の関係について理想的な関係を考えて書き出してくる 復習:支援者(トレーナー)と選手の関係について理想的な関係と、よくない関係の条件を整理する。

第９回：コミュニケーションの取り方と工夫
さまざまなコミュニケーションの方法を学ぶ
学修課題：予習：支援者(トレーナー)と選手の関係について理想的な関係を考えて書き出してくる 復習:支援者(トレーナー)と選手の関係について理想的な関係と、よくない関係の条件を整理する。

第10回：医科学関係者との連携
医科学スタッフとの連携として、特にスポーツドクターや医療機関、との連携方法、研究者らとの連携方法や注意点について学ぶ
学修課題：予習：スポーツドクターや理学療法士、各種の治療家、研究者とアスリートのケガやパフォーマンスの話をする時に必要な知識について、書き出してくる。 復習：具体的な専門家との連携の事例に触れ、自己の身近なスポーツ環境での連携方策についてまとめる

第11回：コーチとの連携
コーチングスタッフとの連携として、特にチーム指揮者（監督・コーチ）との連携方法と注意点について学ぶ
学修課題：予習：スポーツ指導者（監督・コーチ）とアスリートのケガやパフォーマンスの話をする時に必要な知識について、書き出してくる。 復習：具体的なスポーツ指導者（監督・コーチ）との連携の事例に触れ、自己の身近なスポーツ環境での連携方策についてまとめる。

第12回：アスリートのメディカルチェック
集団的健康診断とアスリートのためのメディカルチェックの仕組みを学ぶ
学修課題：予習：アスリートに必要なメディカルチェックの項目を書き出して調べてくる 復習：スクリーニングとしてのメディカルチェックと運営の仕組みを復習し、自身の身近なスポーツ現場のメディカルチェックの計画を立てる。

第13回：メディカルチェック後の管理とフィードバック
メディカルチェックで扱ったデータの管理と、フィードバック方法について演習する
学修課題：予習：メディカルチェック後のフィードバックについて、方法と時間的スケジュールを検討し、前週の計画と合わせて作成する。 復習：メディカルチェックの計画とフィードバック方法についての改善点をまとめてレポートを作成する

第14回：アスレティックトレーナーの社会的立場
日本における医療保険制度内での制約と、アスレティックトレーナーとして求められる行動規範と範囲について討議する。
学修課題：予習：日本の社会保険の仕組みを予習する。 復習：スポーツ指導者であることを踏まえ、アスレティックトレーナーとしての強みをまとめる

第15回：まとめ及び総括
スポーツ指導者としてのアスレティックトレーナーはどうあるべきか、授業で学んだ内容から考えをまとめる
学修課題：予習：今後の自身の発展性について考えてプレゼンテーションの準備をする。発表は一人10分以内とする。 復習：プレゼンテーションに基づき現時点での自分自身の課題についてまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業ごとの小レポート（50%）：内容の妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。独自のルーブリックについては、授業の最初に説明する。
見学レポート（20%）：見学を通じた課題の理解度について、記載された内容をもとに10点満点で評価する。
課題レポート（30%）：内容の妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価する。独自のルーブリックについては、授業の最初に説明する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第一巻アスレティックトレーナーの役割　¥2900円　購入方法は授業開始時に指示します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
この科目は、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの過程認定を受けるために必要な科目です。

アスレティックトレーナー特別講座（2）

【担当】佃　文子

■授業概要

アスレティックトレーナーの役割に準じて、スポーツ現場で求められる問題解決のために、メディカルチェックやスクリーニングなどの対応策を計画し、実践のための企画書を作成する。
さらに評価に伴う改善策についての指導案を作成し、フィードバックプレゼンテーションを作成する。
様々な種目と競技特性、競技のレベル、性別、専門的指導者の有無などを想定し、企画書とプレゼンテーションの妥当性を受講者同士で討議しながら、スポーツの現場に求められるスポーツの安全管理体制について理解を深める。

■養うべき力と到達目標

1．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツ現場におけるスポーツ医科学的な問題に対して、アスレティックトレーナーとしてアスレティックトレーニング等のコンディショニング指導法を学び実践する
目標：スポーツ現場に求められるアスレティックトレーナーとして、基本的な役割のすべてを実践できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ現場の医科学的問題に対する対応
各種スポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷やコンディショニングに係る医科学的問題と対応策について概説する。これらの問題の対応方法と個人情報の取り扱いや評価とフィードバック際の倫理的配慮についても学ぶ。
学修課題：個人競技･チーム競技､球技系･記録競技系･格技系のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニングに関する問題点を抽出する 復習：個人情報の取り扱いや評価とフィードバックに関する注意事項をまとめる

第２回：個人競技・記録系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる
個人競技・記録系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する
学修課題：予習：個人競技・記録競技系の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する

第３回：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案
個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する。
学修課題：予習：個人競技・チーム競技、球技系・記録競技系・格技系のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する

第４回：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック
個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。
学修課題：予習：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる

第５回：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ
これまで計画した個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。
最終的に個人競技・記録系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。
学修課題：復習：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる

第６回：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる
チーム競技・球技系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する
学修課題：予習：チーム競技・球技系競技の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する

第７回：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案
チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する
学修課題：予習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する

第８回：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック
チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。
学修課題：予習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる

第９回：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ
これまで計画したチーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。
最終的にチーム競技・球技系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。
学修課題：復習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる

第10回：格技系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる
格技系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害･外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する
学修課題：予習：格技系競技の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する

第11回：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案
格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する
学修課題：予習：格技系競技のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する

第12回：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック
格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。
授業外学修（～ 500字）
学修課題：予習:格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング･メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる

第13回：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ
これまで計画した格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。
最終的に格技系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。
学修課題：復習:格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング･メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる

第14回：ジュニア世代に必要なスポーツ医科学的問題とスクリーニング
発育発達が盛んなジュニア世代のアスリートに多いスポーツ医科学的問題への効果的なスクリーニングを検討し、メディカルチェックを立案する
学修課題：予習：ジュニア世代に多いスポーツ医科学的問題を調べる

第15回：スポーツ医科学的問題と予防とまとめ
様々なスポーツ医科学的問題の疫学について学ぶ
これまで学んだ内容を振り返り、スポーツ障害・外傷の発症を効果的に予防する方法についてまとめる
学修課題：予習：これまで取り組まれてきたスポーツ医科学的問題に対する予防方策の介入効果について調べる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

アスレティックトレーニングの指導案作成（50%）：内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価する。独自のルーブリックについては授業の最初に説明する。
コンディショニングのプレゼンテーション（50%）：内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価する。独自のルーブリックについては授業の最初に説明する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第３巻、５巻、６巻、７巻、８巻を購入すること。購入方法は授業開始時に指示します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
この科目は、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの過程認定を受けるために必要な科目です。

アスレティックトレーナー実習Ⅰ

【担当】片淵　建

■授業概要

アスレティックリハビリテーションの基礎知識をもとに実践能力を高め、「怪我からの安全で効率良い復帰」のための運動指導ができるように、主要なプログラムについて学び、具体的なリハビリテーションメニューについて実習します。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：アスレティックリハビリテーションの基礎知識を学ぶ

目標：アスレティックリハビリテーションの基礎知識を理解する

2．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：基本的なアスレティックトレーニングとアスレティックリハビリテーションを実習する

目標：目的に応じたアスレティックトレーニングととアスレティックリハビリテーションの基本が実践できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：イントロダクション、アスレティックリハビリテーション概説

授業内容、スケジュールなどを説明し、アスレティックリハビリテーションについて概説する。

学修課題：アスレティックリハビリテーションの概要をまとめる。

第２回：アスレティックリハビリテーションの考え方

アスレティックリハビリテーション総論を学習する。

学修課題：総論のポイントをまとめる。

第３回：アスレティックリハビリテーションの基礎知識　関節可動域　柔軟性

アスレティックリハビリテーションにおける関節可動域および柔軟性の獲得について学習する。

学修課題：主要な関節の可動域について、図式化し影響を与えうる筋のタイトネスについてまとめる。

第４回：アスレティックリハビリテーションの基礎知識　筋力

アスレティックリハビリテーションにおける筋力トレーニングの段階的プログラミングを学習する。

学修課題：筋力の評価方法をまとめる。

第５回：アスレティックリハビリテーションの基礎知識　協調性　加速・減速　ステップ

アスレティックリハビリテーションにおける協調性トレーニングの段階的プログラミングを学習する。

学修課題：運動スピードの調整について、関係する体力要素をまとめる。

第６回：アスレティックリハビリテーションの基礎知識　再発予防

アスレティックリハビリテーションにおけるリスク管理について学習する。

学修課題：一般的なスポーツ傷害の再発予防について要点をまとめる。

第７回：アスレティックリハビリテーション上肢

上肢におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。

学修課題：上肢の基本運動（投げる・つかむ・押す）について、構成される運動の順序性についてまとめる

第８回：アスレティックリハビリテーション体幹

体幹部におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。

学修課題：体幹の基本運動（屈曲・伸展・回旋）について、構成される運動の順序性についてまとめる。

第９回：アスレティックリハビリテーション下肢　第一、第二段階

下肢におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。

学修課題：下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、構成すされる運動の順序性についてまとめる。

第10回：アスレティックリハビリテーション下肢　第三、第四、第五段階

下肢におけるアスレティックリハビリテーションの段階的プログラミングを総合的に学習する。

学修課題：下肢の基本運動（立つ･しゃがむ･ける･移動する）について、素早く力強い運動のためのプログラムの順序性についてまとめる。

第11回：下肢の運動機能と運動連鎖

足部のアライメントについて学習し、装具や足底板などの対処療法と効果を学ぶ。また足底の観察･評価と合わせて、足底板を作成する。

学修課題：下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、関係し合う複合関節運動をまとめる。

第12回：競技種目に基づいたアスレティックリハビリテーション上肢

特に投球種目や上肢の運動に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。

学修課題：上肢の基本運動（投げる・つかむ・押す）について、構成される運動の順序性についてまとめる。

第13回：競技種目に基づいたアスレティックリハビリテーション体幹

特に腰部や体幹の回旋運動に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。

学修課題：体幹の基本運動（屈曲・伸展・回旋）について、構成される運動の順序性についてまとめる。

第14回：競技種目に基づいたアスレティックリハビリテーション下肢

特にジャンプ・ストップ・切り返し運動に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。

学修課題：下肢の基本運動（立つ・しゃがむ・ける・移動する）について、構成される運動の順序性についてまとめる。

第15回：症例検討（まとめ及び総括）

特に競技種目の復帰に特化したアスレティックリハビリテーションを総合的に学習する。

学修課題：競技復帰に関して課題となる難度の高い運動について、プログラムの順序性をまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

理論に基づき実習を行います。

実習課題への取り組み（40%）：毎時とりあげる実習について、取り組み意欲と内容の理解度、実習内容の修得度について、独自のルーブリックを用いて評価します。

複数の課題レポート（60%）：全体で３つ程度の課題レポートを課します。それぞれ内容の妥当性と論理性について独自のルーブリックを用いて評価します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、７巻アスレティックリハビリテーション￥3,200円、を公益財団法人日本体育協会から各自で購入します。購入方法は、授業開始時にお知らせします。

■履修上の注意・備考・メッセージ

履修は、救急処置法、スポーツ医学概論、スポーツリハビリテーション論、テーピングマッサージ法、アスレティックトレーナー特別講座の単位を修得済みであること。

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

実習時に足部と足底の観察・評価を行い、それらをもとにインソールを作成します。実習実費として8000円程度かかる見込みです。授業のガイダンス時にあらためて説明します。

アスレティックトレーナー実習Ⅱ　【担当】小松　猛・武内　孝祐

■授業概要

運動器に正確な計測方法を講義で学び、実際に計測しながら測定手技についても理解を深める。さらに、スポーツ外傷･障害の予防対策の基礎データとしてのアライメントチェックのポイントなど、メディカルチェックを行う際に必要とされる具体的なの方法を学ぶと共に、スポーツ外傷・障害の初期評価やリハビリテーション中の運動器の評価について理解を深め、自身のスポーツ活動や活動支援（トレーナーなど）に必要な具体的な身体開発手法を学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：関節可動域や筋力、柔軟性を評価するために必要な解剖学の知識、運動機能の正常と異常について学習する。

目標：運動器の状態を正確に評価するための測定方法を理解する。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容:関節可動域の計測、筋力の評価、整形外科的徒手検査の手技を実践しながら、手技を正確に行うためのチェックポイントを学習する。

目標：運動器の評価を角度計やメジャーを用いて正確に計測でき、スポーツ傷害の重症度を正しく評価できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：オリエンテーションおよびアスレティックトレーナーが必要な知識・手技について

講義　アスレティックトレーナー実習Ⅱの目的と範囲についての説明と､実際のスポーツ現場でのメディカルサポート内容について話をする。

学修課題：トレーナーに必要な知識と仕事内容について、自分でも情報を収集しながら復習をする

第２回：整形外科系メディカルチェックの基礎知識①

講義　具体的な身体計測の方法を解説する。例として、四肢の長さ、太さの計測、四肢アライメント計測。そして、その計測の記録方法なども学ぶ。

特に、筋力の評価（MMT)、関節可動域（ROM)については集中講義で実践してもらうため、各筋肉、各関節ごとに解説。

学修課題：身体計測のポイントを教科書などで確認しながら理解を深める

第３回：整形外科系メディカルチェックの基礎知識②

講義　身体各部の機能と障害の評価　脊柱･体幹（頚椎､胸椎､腰椎)､上肢、下肢それぞれの整形外科的な徒手検査手技の方法と評価について学ぶ。

学修課題：徒手検査の評価方法とその意義について再確認し、集中講義に備える

第４回：実習　計測と評価（肢長、周径など）

講義で学んだ身体計測方法を実践する。メジャーなどを用いて体幹や四肢の長さを計測。その際に、正しい評価のためにどの部分を計測しなければいけないかという具体的な解剖学的な指標も説明。

学修課題：解剖を改めて復習し、計測方法を再確認する

第５回：実習　計測と評価（整形外科的徒手検査など）

スポーツ傷害の評価として非常に重要な整形外科的徒手検査の方法とコツを実践することによって学ぶ。

学修課題：様々な徒手検査の方法と意義を理解し、自分でも情報を収集する

第６回：実習　計測と評価（アライメントなど）

講義で学んだ人体の四肢・体幹のアライメントなどの見方を具体的に学ぶ。お互いの身体を評価することで理解を深める。

学修課題：異常なアライメントとはどういうものかを授業内容、著書などで情報収集する

第７回：実習　計測と評価（筋力など）

講義で学んだ筋力の評価をMMTを用いて計測。MMTの指標となる測定手技についても実践する。

学修課題：MMTの具体的な内容を理解し、個々の筋力評価方法を復習する

第８回：実習　計測と評価（関節可動域など）

講義で学んだ四肢の関節可動域（ROM)測定を実践する。正確な評価のために必要な解剖学的指標となる部分についても測定手技を通して学ぶ。

学修課題：どこを目安に測定すれば正確なROM測定ができるのかを再確認する

第９回：実習　計測と評価（頚椎）

頚椎の機能と障害の評価。いままで学習した測定手技を使って、頚椎の状態をお互いの身体を使いながら実践して評価する。

学修課題：頚椎の評価方法とスポーツ傷害について復習する

第10回：実習　計測と評価（胸腰椎）

胸腰椎の機能と障害の評価。胸腰椎の状態をお互いの身体を計測することで評価する。

学修課題：胸腰椎の測定手技を再確認する

第11回：実習　計測と評価（上肢）

いままで学習した測定方法を用いて上肢の機能と障害の評価する。お互いの身体を測定して機能異常の有無をチェックする。

学修課題：上肢のスポーツ傷害と、その時に起こる身体計測の異常について理解を深める

第12回：実習　計測と評価（下肢）

下肢の機能と障害の評価。いままで学習した下肢の様々な評価方法を駆使して、機能障害の有無を確認する。

学修課題：下肢のスポーツ傷害で見られる身体特性を、授業内容や著書などを用いて復習する

第13回：実習　実技発表（計測方法）

各個人に課題を与えて、その課題についてどのような測定手技を用いて評価するのか実技発表する

学修課題：自分に与えられた課題についての正しい評価方法を再確認する

第14回：実習　実技発表（傷害別の評価）

各個人にそれぞれ異なる傷害に関する評価方法のテーマを与え、どのような評価方法を用いて行うべきか実技発表する

学修課題：テーマに与えられたスポーツ傷害全体に関すること、その評価方法について復習する

第15回：まとめと実習達成度チェック

身体計測の評価を総復習し、与えられた課題については更にレポート形式に纏めることで理解を深める。

学修課題：レポートにいままで実践を通して学んだことを正しく記載する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

実習試験（80%)：アスレティックトレーナーとして必要とされる評価と対処方法に関して、与えられたテーマを実践する。その内容を評価する。

実習内容に関するレポート（20%)：実習を通して学んだ評価や対策について、十分理解したと言える内容であるかを評価する。

■教科書

・公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③　スポーツ外傷・障害の基礎知識　・日本体育協会
・公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤　検査・測定と評価　・日本体育協会

■参考文献等

●整形外科・スポーツ傷害診察ハンドブック　別府諸兄（監訳）（NAP limited）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

４月に実習に向けた総論的な講義を行い、９月に集中講義形式にて実践を伴う実習を行う。

アスレティックトレーナー実習Ⅲ

【担当】片淵　建

■授業概要

「怪我からの安全で効率良い復帰」「より良いperformance発揮」のための、アスレティックトレーニングとコンディショニングについて総合的に実習し、個人の実践能力だけでなく指導者として他者のリスク管理と競技力向上のために指導者として貢献できるように実習します。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ外傷・障害に影響する主な身体機能を理解する

目標：主なスポーツ外傷・障害に影響する身体機能を説明できる

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：主なスポーツ外傷・障害に影響する身体機能を修正するための適切なアスレティックトレーニングを学ぶ

目標：問題修正に必要なアスレティックトレーニングを適切に選択し指導プログラムを計画できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：イントロダクション、アスレティックリハビリテーション総論・各論

アスレティックリハビリテーション指導上のポイントとリスク管理についてまとめる

学修課題：復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。

第２回：アスレティックリハビリテーション指導法①運動学習と難易度

運動要素と運動難度について学習する

学修課題：予習：体力の要素、基本運動、エネルギー供給様式、筋の収縮形態について予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。

第３回：アスレティックリハビリテーション指導法②リスク管理

リスク管理のポイントを学習する

学修課題：予習：アスレティックリハビリテーションをすすめるうえでの一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。

第４回：アスレティックリハビリテーション指導法③記録競技のリスク管理

競技種目別のリスク管理：記録競技を学ぶ

学修課題：個人記録競技で競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション時の一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。

第５回：アスレティックリハビリテーション指導法④球技種目のリスク管理

競技種目別のリスク管理：球技競技を学ぶ

学修課題：チームボール競技で競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション時の一般的なリスクについて予習する。復習:テキスト該当ページを要約し､内容を図や表にまとめる。

第６回：アスレティックリハビリテーション指導法⑤格闘技種目のリスク管理

競技種目別のリスク管理：格闘技競技を学ぶ

学修課題：武道等で競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション時の一般的なリスクについて予習する。復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。

第７回：アスレティックリハビリテーション指導法⑥情報管理とサポート連携

情報の管理と周囲のサポートスタッフとの連携による、より効果的な指導法を学ぶ

学修課題：チーム指導について、円滑にサポートが進むための要点をまとめる

第８回：テーピング実技　部位別テーピング基礎①足部

足部のスポーツ外傷・障害に効果的なテーピングを理解する

学修課題：予習：基礎的な足部のテーピング、復習：より手早く機能的に巻けるように練習する

第９回：テーピング実技　部位別テーピング基礎②足関節

足関節のスポーツ外傷・障害に効果的なテーピングを理解する

学修課題：予習：基礎的な足関節のテーピング、復習：より手早く機能的に巻けるように練習する

第10回：テーピング実技　部位別テーピング基礎③膝関節他

膝関節のスポーツ外傷・障害や肉離れに効果的なテーピングを理解する

学修課題：予習：基礎的な膝関節のテーピング、復習：より手早く機能的に巻けるように練習する

第11回：テーピング実技　競技種目別の応用

競技種目に応じたテーピングの方法を理解する

学修課題：競技種目のテーピングに関係するルールなどについて調べてくる。復習：より手早く機能的に巻けるように練習する

第12回：スポーツ外傷と障害の予防　理論

運動連鎖を理解し、患部と関連する他部位の運動特性を理解する

学修課題：スポーツ外傷と障害を予防するために、指定する文献を読み要約してくる。復習：より手早く機能的に巻けるように練習する

第13回：チームスポーツ現場におけるスポーツ外傷と障害の予防

集団競技種目のトレーナーサポートについて学習する

学修課題：チーム競技におけるチーム全体の健康管理システムについてまとめ、自身の身近なスポーツ現場におけるより良い健康管理システムの提案を予習し、授業の課題を反映させてより完成の高いものをまとめて提出する。

第14回：個人競技スポーツ現場におけるスポーツ外傷と障害の予防

個人競技種目のトレーナーサポートについて学習する

学修課題：個人記録競技の健康管理システムについてまとめ、自身の身近なスポーツ現場におけるより良い健康管理システムの提案を予習し、授業の課題を反映させてより完成の高いものをまとめて提出する。

第15回：まとめ　症例検討会

実際の症例を想定し、アスレティックリハビリテーションとコンディショニングの一連のプログラムを立案する

学修課題：テーマに沿ってスポーツ外傷･障害からの復帰と再発予防、また発生を予防するプログラムをまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業ごとの課題レポート（50%）：内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づき評価します。

課題に対するプレゼンテーション（50%）：課題に対するプログラムやトレーニングメニューの提案について、実技のデモンストレーションの正確さ30%、運動指導のリスクマネジメント力40%、指導時のプログラムの妥当性30%で得点化します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、６巻予防とコンディショニング￥2,900円、第７巻アスレティックリハビリテーション』￥3,200円を公益財団法人日本体育協会から各自で購入します。購入方法は、授業開始時にお知らせします。

■履修上の注意・備考・メッセージ

履修は、AT実習Ⅰ及びⅡを修得済みであること。

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

健康運動指導士特別講座（１）

【担当】藤松　典子

■授業概要

健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者である。健康運動指導士養成テキストを使って講義や小テストを実施し、健康運動指導士に必要な基本的知識を身につける。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担えるような学びを深める

目標：幅広い年齢の人の健康づくりに関われるよう基本的な知識を身につける

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：ハイリスク者に対して効果的な運動指導プログラム作成のための運動強度、運動頻度、運動内容を学習する。

目標：安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムを作成し、指導できるようにする

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：健康づくり施策概論

健康づくりとはなにかを総説する

グループに別れ今後の授業の項目を分担する。

学修課題：自分の担当項目について調べ、まとめ、発表の準備をする。

第２回：社会環境の変化と健康課題

人口の変遷、死亡原因の傾向を解説する。メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームの理解を深める。

学修課題：自分の担当項目について調べ、まとめ、発表の準備をする。

第３回：各自の調べてきたことの発表

①健康概念と制度について　②生活習慣病　③介護予防概論　④健康づくり施策　⑤健康運動指導士の社会的役割　について発表し、発表者でないものは発表されたことをノートにまとめる。

学修課題：生活習慣病とメタボリックシンドロームについて調べてまとめてくる。

第４回：生活習慣病とメタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームの診断についてまた、肥満が誘発する疾病に関して現状と予防について解説する。

学修課題：生活習慣病の予防の重要性について調べ、考察してくる。

第５回：生活習慣病とその予防

予防対策ー運動・栄養・休養の関係とその重要性を理解する。

学修課題：生活習慣予防のための運動プログラムの指導案を作成してくる。

第６回：健康運動指導士とは

健康増進施設などの法律用語を解説、社会環境の整備について現状と課題を見つける。

学修課題：高血圧の定義とわが国の現状について調べ、考察してくる。

第７回：中間試験と解説

前半の授業の範囲で中間試験を実施する。試験は選択問題である。その後、試験の正否を解説する。

学修課題：試験で出来なかった不得意な分野を確認し、もう一度分らない点を調べなおし、解決する。

第８回：耐糖能異常・糖尿病

糖尿病が心血管を合併するリスクを高めることから、糖尿病の定義と分類、診断基準と予防・治療における運動の意義、注意点を理解する。

学修課題：虚血性心疾患とリハビリテーションについて調べ、まとめてくる。

第９回：運動の基礎生理学（循環・呼吸）

循環系及び呼吸器系と運動の機能を理解する。

学修課題：既に取得しているスポーツ生理学等の復習を含めてまとめてくる。

第10回：運動の基礎生理学（神経・筋）

神経系及び筋肉の構造と運動の機能を理解する

学修課題：既に取得しているスポーツ生理学等の復習を含めてまとめてくる。

第11回：運動とエネルギー代謝・内分泌と運動

グルコースの代謝を理解する。また、ホルモンの定義と作用の特性・仕組みについて理解する。

学修課題：運動･トレーニングに伴うホルモンの分泌変化について調べ、まとめてくる。

第12回：高血圧

血圧の生理学的特性を理解し、運動と血圧の関係、運動の効果また、禁忌について理解する。

学修課題：高血圧における運動実施上の注意点を調べ、説明できる要のまとめてくる。

第13回：環境と運動

環境が体温調節機構を中心とする身体諸機能に与える影響について学習し、高温、寒冷、低酸素水中環境下における運動に関する専門知識を習得する。

学修課題：バイオメカニクス、力学の基礎について調べ、まとめてくる。

第14回：健康運動づくりの理論

運動条件と反応、トレーニングの減速、運動強度について学習し、具体的な運動種目について理解する。また、成長期や発育の関係、女性の特性等について学習する。

学修課題：内科的障害と予防について調べ、まとめてくる。

第15回：生活習慣病と運動効果のまとめ

学期後半の授業内容の小テストを実施。その後解説を行う。

学修課題：前期に学習したテキストをすべて読んでくる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

■評価方法

小レポート（30%）：自分で調べたことをまとめ発表し、他者の発表を聞きまとめたものを毎回提出し、その内容で評価する。

中間テスト（30%）：授業の前半の内容から筆記テスト（選択問題）の正解率で評価する。

学期末テスト（40%）：授業の全般の内容から筆記テスト（選択問題）の正解率で評価する。

■教科書

・健康指導士養成講習会テキスト上　・公益財団法人　健康･体力づくり事業財団　・2017年

■参考文献等

問題集を適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

健康運動指導士特別講座（２）

【担当】藤松　典子

■授業概要

前期の健康運動指導士特別講座（１）を受講していること。健康運動指導士養成の講座で、健康運動指導の知識・技能を身につける。一次予防のみならず、二次予防も含めた健康づくり運動を指導できる専門家に必要な幅広い知識を修得し、平成20年度から実施の特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担えるように学習をする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：一次予防のみならず、二次予防も含めた健康づくり運動を指導できる専門家に必要な幅広い知識を修得し、平成20年度から実施の特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担えるように学習をする

目標：健康運動指導の知識・技能を身につける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：体力測定と評価

体力の構成要素や、体力測定の意義と活用法について、体力の必要性について学習する。

後半の課題とグループ分け、担当の分担を行い、各自の課題を明確にする。

学修課題：体力測定について、実施する項目と測定する体力、実施方法などをまとめておく。

第２回：健康運動づくりの実際（ウォーキング・ジョギング）

ウォームアップとクールダウン定義、目的と意義について理解する。ストレッチングの目的や効果、ジョギングや走り方のトレーニング方法などを理解する。

学修課題：わが国における運動実施者の割合、実施種目など現状を把握する。

第３回：健康運動づくりの実際（エアロビックダンスと水泳･水中運動）

エアロビックダンス、水泳･水中運動の目的と意義を理解する。

学修課題：レジスタンス運動の種類や方法について調べ、まとめておく。

第４回：各自の担当課題の発表

各グループにおいて担当課題を発表する。お互いに質問をし、学んだことをレポートにまとめる。

学修課題：救急処置、救急蘇生法など一次救命処置を理解し、実践できるよう調べてまとめてくる。

第５回：運動プログラム

運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムが作成できるようになる。

学修課題：健康づくりのための適切なプログラムとは何か。運動実践の手順を示すプログラム案の作成。

第６回：検診結果の読み方

特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値を理解する。安静時心電図の基本を理解し、電極装着の補助が出来るようになる。

学修課題：運動プログラムの継続性について提案する。

第７回：中間試験と解説

後期前半授業の内容を試験する。試験は選択問題である。その後正否を解説する。

学修課題：試験で自分の不得意分野があればそこを集中して学習する。

第８回：メディカルチェック

運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、健康運動指導士としてメディカルチェックの内容が説明できるようにする。

学修課題：スポーツ当日のセルフチェックの内容を説明できるようにする。

第９回：服薬者、生活習慣病に対する運動療法プログラム

包括的な運動プログラムの基本例が作成できるようになる。運動プログラムの効果判定と、再運動プログラムの内容を作成できるように理解を深める。

学修課題：運動負荷試験のプロトコルを理解し説明ができるようにまとめる。

第10回：模擬試験（前半課題より）

練習問題を各自の担当より作成しお互いに練習問題を実施する。その後、出題者による解説を行う。

学修課題：自分の不得意な課題を見つけ補うように学習する。

第11回：行動変容理論

運動の成果をもたらすためには行動の継続が重要である。行動変容の目的と行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得する。

学修課題：行動変容に伴うカウンセリングに関して調べてまとめる。

第12回：こころと運動

人と環境の係わり合いの中で生じるストレスとその生体への影響（健康障害）を理解する。また、こころの健康(メンタルヘルス)に関する国の対策を理解し、進退活動･運動の意義について説明できるようにする。

学修課題：ストレスマネジメントとカウンセリングについて調べてまとめる。

第13回：食生活と健康運動

健康の保持増進における栄養・食事の役割、食事摂取基準の概念を理解する。からだと栄養について、健康増進と食生活の原則を理解する。

学修課題：身体活動量と食事摂取基準について調べてまとめる

第14回：栄養素の機能と代謝

栄養素、および水の機能をりかいし、主要な栄養素の体内代謝と食事摂取基準について理解し、炭水化物、たんぱく質の代謝について理解する。ビタミン、ミネラルの役割について、水、運動時の代謝の特徴について理解する。

学修課題：食生活指針と栄養・食事指導について考え方並びに指導方法を理解し、まとめる。

第15回：模擬問題（後半課題より）

模擬問題実施・正否解説

学修課題：前期、後期のテキストをすべて章ごとに整理する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

小レポート（30%）：自分で調べたことを発表しまとめたり、他者の発表を聞きまとめたものを毎回提出物し、その内容で評価する。

中間テスト（30%）：授業の前半の内容から筆記テスト（選択問題）で理解度を正解率で評価する。

学期末テスト（40%）：授業の後半の内容から筆記テスト（選択問題）で理解度を正解率で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

問題集などその都度、紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

キャリア英語Ⅰ

【担当】衣川　二三

■授業概要

入門レベルの学習者を対象に基礎的な英語力の強化を図る。まず、これまで学習してきた英語の知識を復習、整理することでTOEICに応用できる基盤を固める。授業では実践形式の問題を通じて、実用的な英語力の養成を目指すと同時に、テスト構成や問題形式への理解を深める。また、入門レベルの学習者に見られる、英語を日本語に逐語訳する癖を矯正するために、音読を取り入れてリスニング・リーディングセクションへの対応力を強化する。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：TOEICテスト対策

目標：TOEIC400点取得

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、TOEICテストの概要、テキストの使い方

授業概要の説明、TOEICテストの概要、テキストの使い方

学修課題：シラバスを読んでおく。TOEICテストの概要を調べておく。

第２回：Unit１：予定ー動詞・５文型

「予定ー動詞・５文型」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit１：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit１：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第３回：Unit２：数量を尋ねるー名詞

「数量を尋ねるー名詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit２：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit２：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第４回：命令・依頼ー形容詞・副詞

「命令・依頼ー形容詞・副詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit３：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit３：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第５回：Unit４：広告・宣伝ーフレーズ・リーディング

「広告・宣伝ーフレーズ・リーディング」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit４：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit４：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第６回：Unit５：時間を尋ねるー動名詞

「時間を尋ねるー動名詞」に関する語彙を更に強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit５：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit５：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第７回：Unit６：場所を尋ねるー to不定詞

「場所を尋ねるー to不定詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit６：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit６：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第８回：振り返りと中間テスト

前半の授業のポイントを確認し、理解度を評価する

学修課題：Unit １－６で学習した内容を総復習し、授業に臨むこと。不正解の問題は本番のTOEICテストで間違えないように徹底的に復習すること。

第９回：Unit７：確認ー分詞

「確認ー分詞」に関する語彙を更に強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit７：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit７：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第10回：Unit８：留守電ースキャニング

「留守電ースキャニング」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit８：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit８：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第11回：Unit９：アドバイスー受動態

「アドバイスー受動態」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit９：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit９：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第12回：Unit10：誘いー比較

「誘いー比較」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit10：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit10：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第13回：Unit11：申し出ー関係詞

「申し出ー関係詞」に関する語彙を更に強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit11：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit11：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第14回：Unit12：講演者紹介ースキミング

「講演者紹介ースキミング」に関する語彙を更に強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習：Unit12：Vocabulary（単語を調べて記号を記入しておく）/ Training Point: Listening Section/Reading Section（読んで理解しておく。練習問題を解いてくる。）
復習: Unit12：Vocabulary(英単語を聞いて日本語が書けるようにしておく。）

第15回：Review：TOEIC模試

ここまで学んだことを、実践形式で確認する。

学修課題：予習：これまで学んだ内容を再確認しておく復習：実践した内容を、本番のTOEICテストに向けて再確認しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします　・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間テスト（20%）：TOEICテスト模擬問題、単語・熟語の総復習を行い、修得度で評価する。

学期末テスト（25%）：TOEICテスト模擬問題、単語・熟語の総復習を行い、修得度で評価する。

小テスト（25%）：毎回の授業開始直後に前週に学んだ知識に関する小テストを行い、修得度で評価する。

授業内発表および課題（30%）：練習問題の答え、ならびに答えを選んだ根拠を発表する。

■教科書

Masahiko Yamaguchi, George W. Pifer　・TOEIC TEST Trainer Target 470, Revised Edition　・センゲージ　・2017年

■参考文献等

公式TOEIC Listening＆Reading 問題集　一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会

■履修上の注意・備考・メッセージ

テキストの"Vocabulary"およびListening Section / Reading Sectionの"Training Point"を毎回予習すること。又、翌週の授業で小テストを行うため、必ず復習して授業に臨むこと。授業内ではペアワーク、口頭練習を取り入れるため、受講生は積極的に参加することが求められる。本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

キャリア英語Ⅱ

【担当】衣川　二三

■授業概要

初級レベルの学習者を対象に、TOEICスコアアップのための実践的な英語力を伸ばすことを目的とする。テスト受験の日に最大限の力が発揮できるよう、英語力の強化と共にテスト構成や問題形式、基本的な頻出事項を確認し認識を深めて行く。授業では学習方法も紹介し、自立学習の方法も学ぶ。学生はこの授業でテストのポイントを理解しながら自分で学習する方法を習得することによって、前回の自己スコアより点数を上げることを目指す。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：TOEICテスト対策

目標：TOEIC500点取得

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、TOEICテストの概要、テキストの使い方

授業概要の説明、TOEICテストの概要、テキストの使い方

学修課題：シラバスを読んでくる。TOEICテストの概要を調べておく。

第２回：Unit01：Part１「人物の動作と状態」・Part７「表・用紙」

Part１「人物の動作と状態」・Part７「表・用紙」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容:Unit01:Part１「人物の動作と状態」・Part７「表・用紙」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit01の内容を復習する。

第３回：Unit02：Part２「疑問詞を使った疑問文」・Part７「広告」

Part２「疑問詞を使った疑問文」・Part７「広告」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容：Unit02：Part２「疑問詞を使った疑問文」・Part７「広告」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit02の内容を復習する。

第４回：Unit03：Part３「日常場面での会話」・Part５「品詞」

Part３「日常場面での会話」・Part５「品詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容：Unit03：?Part３「日常場面での会話」・Part５「品詞」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit 03の内容を復習する。

第５回：Unit04：Part4「アナウンス・ツアー」・Part５「動詞」

Part４「アナウンス・ツアー」・Part５「動詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：Unit04：Part４「アナウンス・ツアー」・Part５「動詞」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit04の内容を復習する。

第６回：Unit05：Part１「物の状態と位置」・Part７「チャット」

Part１「物の状態と位置」・Part７「チャット」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：Unit05：Part１「物の状態と位置」・Part７「チャット」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit05の内容を復習する。

第７回:Unit06:Part２「基本構文と応答の決まり文句」・Part７「手紙・Ｅメール」

Part２「基本構文と応答の決まり文句」・Part７「手紙・Eメール」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：Unit06：Part?２「基本構文と応答の決まり文句」・Part７「手紙・Eメール」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit06の内容を復習する。

第８回：振り返りと中間テスト

前半の授業のポイントを確認し、理解度を評価する

学修課題：Unit１-６で学習した内容を総復習し、授業に臨むこと。不正解の問題は本番で間違えないように徹底的に復習すること。

第９回:Unit07:Part３「電話での会話」・Part５「代名詞・関係代名詞」

Part３「電話での会話」・Part５「代名詞・関係代名詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：Unit07：Part３「電話での会話」・Part５「代名詞・関係代名詞」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit07の内容を復習する。

第10回：Unit08：Part４「ラジオ放送・宣伝」・Part５「接続詞・前置詞」

Part４「ラジオ放送・宣伝」・Part５「接続詞・前置詞」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：Unit08：Part４「ラジオ放送・宣伝」・Part５「接続詞・前置詞」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit 08の内容を復習する。

第11回:Unit09:Part２「Yes/No疑問文」・Part７「ダブルパッセージ(２つの文書)」

Part２「Yes/No疑問文」・Part７「ダブルパッセージ（２つの文書）」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容：Unit 09：Part２「Yes/No疑問文」・Part７「ダブルパッセージ（２つの文書）」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit09の内容を復習するUnit10：Part５の復讐を自宅学習する。

第12回：Unit11：Part４「留守番電話」・Part７「トリプルパッセージ(３つの文書)」

Part４「留守番電話」・Part７「トリプルパッセージ（３つの文書）」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容：Unit11：Part４「留守番電話」・Part７「トリプルパッセージ（３つの文書）」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit11の内容を復習するUnit12：Part７の復習を自宅学習する。

第13回：Unit13：Part１,２「Part１と２の復習」・Part６「時制・代名詞・語い問題」

Part１，２「Part１と２の復習」・Part６「時制・代名詞・語い問題」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：Unit１,２,５,６,９：Part１,２の内容を再確認Unit13：Part６「時制・代名詞・語い問題」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit 13の内容を復習する。

第14回:Unit14:Part４「トーク・スピーチ・会議の一部」・Part６「つなぎ言葉・文の挿入」

Part４「トーク・スピーチ・会議の一部」・Part６「つなぎ言葉・文の挿入」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容：Unit14：Part４「トーク・スピーチ・会議の一部」・Part６「つなぎ言葉・文の挿入」Brush Upを自宅で確認/記入してくる。復習内容：授業内の指示に従い、Unit 14の内容を復習する。

第15回：Unit15：Part３,４「Part３と４の復習」・Part６「Part６の復習」

Part３,４「Part３と４の復習」・Part６「Part６の復習」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習内容：Unit３,４,７,８,11,14：Part３,４の内容を再確認Unit13,14：Part６の内容を再確認。復習内容：授業内の指示に従い、Unit15の内容を復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします　・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間テスト（20%）：TOEICテスト模擬問題、単語・熟語の総復習を行い、修得度で評価する。

学期末テスト（25%）：TOEICテスト模擬問題、単語・熟語の総復習を行い、修得度で評価する。

小テスト（25%）：毎回の授業開始直後に前週に学んだ知識に関する小テストを行い、修得度で評価する。

授業内発表および課題（30%）：練習問題の答え、ならびに答えを選んだ根拠を発表する。

■教科書

早川幸治　・『TOEIC L&Rテスト　マスタリードリル［全パート編］』Mastery Drills for the TOEIC L&R Test All in One [New Edition]　・桐原書店　・2017年

■参考文献等

公式TOEIC Listening & Reading 問題集　一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会

■履修上の注意・備考・メッセージ

テキストの「Brush Up」を毎回予習すること。又、翌週の授業で小テストを行うため、必ず復習して授業に臨むこと。授業内ではペアワーク、口頭練習を取り入れるため、受講生は積極的に参加することが求められる。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

キャリア英語Ⅲ

【担当】衣川　二三

■授業概要

初中級レベルの学習者を対象に、TOEICスコアアップを目指した実践的な英語力を強化する。テスト構成や問題形式、頻出事項を確認し実践することで、広範囲に渡る問題へ瞬発的に反応できる英語力と対応力を養う。解答時間を意識しTOEICの時間配分の体得を目指す。学生は毎回各セクションの正解率を管理し、得意分野と弱点を自己分析する。現状の力を発展させ、弱点を補強することで、総合的な英語力を強化しながらスコアアップを図る。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：TOEICテスト対策

目標：TOEIC600点

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、TOEICテストの概要

授業概要の説明、TOEICテストの概要

学修課題：シラバスを読んでおく。TOEICテストの概要を調べておく。これまでのテストスコアを把握し、弱点、得意分野、目標スコアを整理しておく。

第２回：Unit?１：Travel

「Travel」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit１「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習:授業内の指示に従って、Unit１の復習をしておく。

第３回：Unit２：Dining?Out

「Dining?Out」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit２「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習:授業内の指示に従って、Unit２の復習をしておく。

第４回：Unit３：Media

「Media」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit３「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit３の復習をしておく。

第５回：Unit４：Entertainment

「Entertainment」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit４「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit４の復習をしておく。

第６回：Unit５：Purchasing

「Purchasing」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit５「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit５の復習をしておく。

第７回：Unit６：Clients

「Clients」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit６「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit６の復習をしておく。

第８回：Unit７：Recruiting

「Recruiting」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit７「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit７の復習をしておく。

第９回：振り返りと中間テスト

前半の授業のポイントを確認し、理解度を評価する

学修課題：Unit１－７で学習した内容を総復習し、授業に臨むこと。不正解の問題は本番で間違えないように徹底的に復習すること。

第10回：Unit８：Personnel

「Personnel」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit８「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part １－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit８の復習をしておく。

第11回：Unit９：Advertising

「Advertising」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit９「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－ ７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit９の復習をしておく。

第12回：Unit10：Meetings

「Meetings」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit10「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit10の復習をしておく。

第13回：Unit11：Finance

「Finance」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit11「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit11の復習をしておく。

第14回：Unit12：Offices

「Offices」に関する語彙強化、演習問題の解答と解説

学修課題：予習:Unit12「TOEIC Vocabulary」の単語を覚えてくる。Part１－７のポイントに目を通して理解しておく。復習：授業内の指示に従って、Unit12の復習をしておく。

第15回：Review：TOEIC模試

学習成果を、TOEICテスト模試で確認する

学修課題：テキスト内外学習した内容を総復習し、授業に臨むこと。不正解の問題は本番で間違えないように徹底的に復習すること。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

中間テスト（20%）：TOEICテスト模擬問題、単語・熟語の総復習を行い、修得度で評価する。

学期末テスト（25%）：TOEICテスト模擬問題、単語・熟語の総復習を行い、修得度で評価する。

小テスト（25%）：毎回の授業開始直後に前週に学んだ知識に関する小テストを行い、修得度で評価する。

授業内発表および課題（30%）：練習問題の答え、ならびに答えを選んだ根拠を発表する.毎回の授業後、学習の振り返りを記録して提出する

■教科書

早川幸治他　・『The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test　全パート横断型TOEIC Listening and Readingテスト総合対策』

・金星堂　・2017年

■参考文献等

公式TOEIC Listening & Reading 問題集　一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会

■履修上の注意・備考・メッセージ

テキストの「TOEIC Vocabulary」とPart１－７のポイントを毎回予習すること。又、翌週の授業で小テストを行うため、必ず復習して授業に臨むこと。授業内ではペアワーク、口頭練習を取り入れるため、受講生は積極的に参加することが求められる。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

教職入門

【担当】黒澤　寛己

■授業概要

本講義は、教員を目指す学生にとって最初に受講する入門科目です。具体的な講義内容は教員の役割、教員の職務内容、児童生徒への指導に関する内容となっています。15回の講義を通じて、教員に必要な知識や理論、実際の指導方法について学びます。また、様々な教育課題について各自が調査し、グループで話し合いながら教師にとって必要な知識や技能の定着を図ります。

■養うべき力と到達目標

１．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：教員に必要な知識・技能などの能力

目標：教員に必要な知識・技能などの能力を身に付ける。

２．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：教員としての自覚・規範意識

目標：教員としての自覚・規範意識を身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：「教職」とは何か？

「教職」に就くことの意味・意義とは何か、考察を加える。

学修課題：「教職」に就くことの意味・意義について、自分の考えを整理する。

第２回：教育の役割とは何か？

教員に求められる職務の内容を理解し、その役割について考察を加える。

学修課題：教員に求められる役割とは何か、整理する。

第３回：教員に求められる職務の現状

教員に求められる役割が多様化しつつある現状について、考察を加える。

学修課題：教員に求められる役割がなぜ多様化しつつあるのか、その理由について考察を加える。

第４回：教員養成制度の現状とキャリアの選択

教員養成制度の基本的枠組みを学んだうえで、「教職」に就くための今後の課題について各自で考察を行う。

学修課題：「 教職」に就くために、今後、身に付けるべきことを整理する。

第５回：教員採用制度の現状

教員採用制度とその実態について分析する。

学修課題：各自が受験する都道府県で求める教師像を調べ、身に付けるべき資質・能力について整理する。

第６回：教員採用制度の課題

教職に付くということが困難になっている状況を確認したうえで、非正規の教員が増加することに伴う課題を考察する。

学修課題：非正規の教師が増えることに伴う課題について、講義の復習を合わせて意見を整理する。

第７回：教員研修制度の現状と教員免許更新制

教員研修の種類･体系、法制度および教員免許更新制の現状について、整理する。

学修課題：教員研修制度の現状および教員免許更新制の概要について整理する。

第８回：教職の意義、教員の役割

ここまでの講義で扱った教職の意義や教員の役割について、再度確認を行う。

各自の理想的な教員像について、項目を整理する。

学修課題：これまでの講義で扱った項目について、整理する。

第９回：教員の服務規程と身分保障

教員が守らなければならない服務規程と、その身分保障の実態について、考察する。

学修課題：教員の服務規程と身分保障について、関連する法規の内容をまとめる。

第10回：教員の専門性とその発達

教員に求められる専門性とは何か、その発達を促すためには何が重要となるのか、考察を加える。

学修課題：教員に求められる専門性について、考察を加える。

第11回：新たな教育課題への対応と教員の専門性

新たな教育課題に対応するうえで、教員にはどのような専門性が求められるのか、特別支援教育の導入を事例として、検討を加える。

学修課題：新たな教育課題に対応するために、教員には何が求められているかをまとめる。

第12回：福祉的な課題への対応と教員の専門性

「子どもの貧困」をはじめとする福祉的な課題に対応するために、教員にはどのような専門性が求められるのか、検討を加える。

学修課題：福祉的な課題に対応するために、教員には何が求められているかをまとめる。

第13回：「組織としての学校」と教員に求められる役割

学校組織の一員として教員が果たすべき役割について、考察を加える。

学修課題：日本の学校組織が持つ特徴について、まとめておくこと。

第14回：日本の教員文化

日本の教員文化にはどのような特徴があるのか、検討を行う。

学修課題：日本の教員文化の特質について、まとめておくこと。

第15回：「学習指導要領」について

「学習指導要領」の内容について、検討を行う。

「学習指導要領」と教員が果たすべき役割について検討を行う。

学修課題：新しい「学習指導要領」の目指すべき方向性について理解する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

成績評価については、毎時の教職に関する課題レポート、講義中に実施する確認テスト、期末テストにより総合的に評価する。

毎時の課題レポート（30%）：毎時の「教職に関する課題レポート」を２点満点×15回で評価する。

講義中に実施する提出課題（20%）：提出課題については、講義内容の理解と学修に対する意欲について評価する。

期末テスト（50%）：期末テストは、教員となるために必要な「教職」全般に関する基礎知識について出題し、評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

勝野正章・庄井良信(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣

■履修上の注意・備考・メッセージ

受講者は、将来「教職」に就くという強い意思を持って履修すること。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

また、毎時の学修課題以外に、各自で「教職」に関する資料を収集して知識習得に励むこと。

教師論

【担当】黒澤　寛己

■授業概要

本講義は、教職の意義、教員の役割、教員の職務内容などを学びます。そして、それらの学修内容をもとに、教師の日常世界、教師の専門性と力量、学校づくりと学校経営などの内容を加えた講義を行います。さらに、学校現場で教師が実際に対応する様々な問題について、事例研究（ケースメソッド）を通じて具体的な理論や指導方法を身に付けます。

■養うべき力と到達目標

１．DP7.自覚、誇り、道徳心

具体的内容：教師としての責任感と自覚。教育問題に対する知識と指導方法。

目標：教師としての責任感と自覚を身に付け、学校現場で直面する教育問題への指導方法を身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：教師になることの意味
教師論で何を学ぶのか
教師になることの意味
教員の資質とは
学修課題：教師に求められる力量について調べてまとめる

第２回：大学における教師養成教育
教師教育の意味
大学における教員養成の原則
学修課題：配付資料「教員をめざそう！」を読む

第３回：教員養成教育のカリキュラムの基本枠組み
教員養成カリキュラムの基本的枠組み
学修課題：教員養成教育の概略と現状の問題点を検討しまとめる

第４回：教師像の変遷と教師論
教師像の変遷について
学修課題：教師像を示す典型的な書物を一冊読み、感想文を書く

第５回：教員養成制度
現行制度化の教員養成
文部科学省パンフレットにおける教員への期待
改訂された教員養成カリキュラム・教員養成制度
教育実習の位置づけと内容
学修課題：配付資料「魅力ある教員を求めて」を読む

第６回：教員採用制度
選考としての教員採用制度のその実態
学修課題：各自が受験する都道府県が求める教師像を調べ、自分に不足している力を検討する

第７回：教員研修の意義と制度
教員研修の意義と法制度
教員研修の種類と体系
初任者研修制度
教員免許更新講習制度
学修課題：教員研修制度の実態を調べてまとめる

第８回：学校における教職員の多様化と協働
学校における教職員の多様化と協働
「教諭」の多様化
多様な職員の配置
事例研究（生徒指導）
学修課題：学校における教員の仕事について調べてまとめる

第９回：教師の職務
教師の職務の多面性
「個業」としての教師の仕事
学級担任としての教師
「分業－協業」としての教師の仕事
事例研究（学級担任・学級経営）
学修課題：公務員としての教師の仕事を調べてまとめる

第10回：教師の日常世界
保護者との関係作り
教師のキャリアプロセス
新任教師が１年間で学ぶこと
教師文化とは
事例研究（進路指導）
学修課題：教師の日常的業務の多様性について調べてまとめる

第11回：教師の葛藤と発達
教師の葛藤
教師の成長・発達とは何か
教師の発達と学校組織としての取り組み
事例研究（主任業務）
学修課題：教師のキャリアプロセスについて調べてまとめる

第12回：教師の専門性と力量①
教師であるとは
教師の資質
教師の専門性とは
事例研究（部活動指導）
学修課題：教師の専門性について調べてまとめる

第13回：教師の専門性と力量②
教育実践の協働と専門性の変容
事例研究（管理職業務）
学修課題：体育教師の専門性と求められる力量について調べてまとめる

第14回：学校づくりと学校経営①
学校教育の変化
学校づくりと学校力の構築
事例研究（教育目標）
学修課題：学級づくりと担任業務について調べてまとめる

第15回：学校づくりと学校経営②
学校づくりと経営（マネジメント）の役割
学校の意思形成と組織運営
事例研究（学校経営）
学修課題：学校経営と学校力について調べてまとめる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎時のコメントペーパー（45%）：講義内で学習した概念や理論を基に、独自の視点で課題に対する論述が行われているか評価します。　３点満点×15回

まとめの課題レポート（30%）：15回の授業を通して学んだことを踏まえ、課題に対応した論述が独自の視点で行われているか評価します。

事例研究発表（25%）：各課題について、調査した内容をグループで発表する。その発表内容について評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜、資料を配付します。

横山勝彦・来田宣幸・黒澤寛己他「ライフスキル教育-スポーツを通して伝える「生きる力」」昭和堂

小笹大道「教師道を磨く「二人の師」から学んだ思いと実践」PHP研究所

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習して下さい。

将来、教師になるという強い意志を持って取り組んで下さい。

教育心理学

【担当】多賀谷　智子

■授業概要

この授業では、教師が行う学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で知っておくことが求められる、子どもの心身の発達や学習に関するさまざまな知見について学んでいく。子どもの知的、社会的発達の特徴や、学習過程に関する事項や概念について、また、発達障害を含む障害をもつ子どもの特徴や指導・援助のあり方についての理解を深めることを目標とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論、発達の概念及び教育における発達理解の意義について学ぶ。

目標：生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について学ぶ。

目標：乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学習の形態や概念及び代表的理論の基礎を学ぶ。

目標：様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。

４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：動機づけ・集団づくり・学習評価について学ぶ。

目標：主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。

５．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：生徒の心身の発達、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。

目標：生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：はじめに　子どもの育ちの多様性（発達の心理学）

授業の概要及び到達目標、評価基準についての説明

発達の定義と発達の特徴、発達の規定要因（学習説、成熟説、輻輳説）

学修課題：１章　人と関わる心の育ち―他者理解の発達―を読み、発達の特徴と疑問点をまとめましょう。

第２回：人と関わる心の育ち―他者理解の発達―

親子関係、仲間関係、社会性の発達、コールバーグの道徳性発達理論

「心の理論」、共感的知性の発達

学修課題：２章　身のまわりの事象を理解する心の育ち―能動的で協同的な学習の心理的基盤―を読み、それぞれの発達段階の特徴と疑問点をまとめましょう。

第３回：身のまわりの事象を理解する心の育ち―能動的で協同的な学習の心理的基盤―

ピアジェの認知発達理論、ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」

学修課題：３章　身体と認知を読み、学習に対しての身体の役割の特徴と疑問点をまとめましょう。

第４回：身体と認知

学習における身体の役割、数理解と身体

運動発達、ボディイメージ

学修課題：４章　多様性の時代のアイデンティティとは―自己の発達と心理的適応―を読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第５回：多様性の時代のアイデンティティとは―自己の発達と心理的適応―

自己概念、エリクソンの心理－社会的発達理論、適応

学修課題：５章　学習のメカニズム（１）行動主義的学習観を読み、その特徴と疑問点をまとめましょう。

第６回：学習のメカニズム（１）　行動主義的学習観

学習とは、レスポンデント条件付け、オペラント条件づけ、モデリング

学修課題：５章　学習のメカニズム（１）　認知主義的学習観を読み、その特徴と疑問点をまとめましょう。

第７回：学習のメカニズム（２）　認知主義的学習観

記憶の多重貯蔵モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）

学修課題：６章　学習のメカニズム（２）を読み、どのように学ぶかという視点からそれぞれの特徴をまとめましょうましょう。

第８回：学習のメカニズム（３）

構成主義的学習観、社会主義的学習観、状況論的学習観、学習観の変遷

学修課題：７章　参加による学習を読み、それぞれの教育の特徴と疑問点をまとめましょう。

第９回：参加による学習

知識詰め込み型教育の問題点、ゆとり教育の問題点、参加による学習と「知」の理論

学修課題：８章　誰のための学習指導・評価かを読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第10回：誰のための学習指導・評価か

教育評価とその目的、学習評価の分類（規準・基準、相対評価・絶対評価、評価の役目、評価者）、学習過程を評価する方法、学習者のための学習指導・評価

学修課題：９章　主体的な学びにつながる学習意欲を読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第11回：主体的な学びにつながる学習意欲

日本の子どもの課題、動機づけ理論

学修課題：10章　学びの基盤を作る遊び経験を読み、考えたことと疑問点をまとめましょう。

第12回：学びの基盤を作る遊び経験

幼児期の経験がその後の学習活動にいかに影響するか、遊びが育む学びの基盤

学修課題：11章　コンピテンシー・ベースの教育に向けて－自己調整のできる学習者を育てる－を読み、考えたことと疑問点をまとめましょう。

第13回：コンピテンシー・ベースの教育に向けて－自己調整のできる学習者を育てる－

コンピテンシー、メタ認知能力、自己調整学習

学修課題：12章　インクルーシブ教育への現状と課題－発達障害の子どもとどう向き合うか－を読み、考えたことと疑問点をまとめましょう。

第14回：インクルーシブ教育への現状と課題－発達障害の子どもとどう向き合うか－

インクルーシブ教育と特別支援教育、障害の理解、

発達障害、特別な教育的ニーズのある子どもへの支援

学修課題：13章　ケアリングと共感を読み、考えたことと疑問点をまとめましょう。

第15回：学級集団という関係性の中での学び　課題とまとめ

生徒－教師関係、教師からの働きかけ環境調整、学級集団作り

これまで学んだことが教育実践にどのようにつながっていくのか、考察を深める。

学修課題：教育現場においてどのように活用できるかを中心にまとめましょう。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、学生にとっては論理的文章を書く練習にもなる。そして次回の授業の最初に、その中から適切なものを紹介しコメントすることで、前回授業の振り返りを行う。

■評価方法

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

各回の授業内小レポート・ミニテスト（45%）：各回３点×15回　課題内容を理解し、適切に論じることができている。

授業への参加度（15%）：積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。

期末テスト（40%）：課題内容を理解し、適切に論じることができている。

■教科書

羽野ゆつ子・倉盛美穂子・梶井芳明　・あなたと創る教育心理学　・ナカニシヤ出版　・2017年

■参考文献等

文部科学省「学習指導要領」

講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は教職必修科目なので、教員免許状取得希望者は必ず受講すること。

「介護等体験」、「教育実習」を履修するためには、この科目が履修済みであること(ゲート科目)

受講生へのメッセージ

この授業では、学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で理解しておくことが必要な子どもの成長・発達および学習に関するさまざまな知見について提供します。内容は、教育心理学や発達心理学、学習心理学、障害児教育学等多岐にわたっています。これまでの経験や、教育、子どもに対する関心をベースに、今後の教育実践に役立つ心理学知識を一つ一つ確実に身に着けていきましょう。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

教育制度論

【担当】田村　徳子

■授業概要

私たちはこれまで、その場所、その学校によってさまざまな学校教育を受けてきた。しかし一方で、どの学校にも共通する内容もある。それは、学校教育がその国・地域の教育制度に基づいて展開されているからである。本講義では、こうした公教育を支える諸制度の仕組みを扱うとともに、学校と地域の連携や、学校安全に関する理解を深める。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：公教育制度の意義や原理、構造について、その法的、制度的仕組み関する知識を身につけるとともに、その課題について理解する。

目標：公教育制度の法的、制度的仕組みについて説明することができる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学校と地域の連携の意義や、協働のあり方について理解する。

目標：学校と地域の連携の事例について具体的に説明することができる。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学校安全の目的と具体的な取組みを理解する。

目標：学校安全の取り組みを具体的に説明することができる。

４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：他者との意見交流をとおし、教育制度に関して、多角的に捉え直し、自分の意見を構築する力を身につける。

目標：特定のテーマに対し、客観的理由および自分なりの理由を挙げて意見を述べることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション：教育制度とは何か？

教育制度とは何なのか、その意味を考える。あわせて、講義の進め方や評価の方法について理解する。

学修課題：他者の学校教育制度と、自身が受けてきた学校教育制度との類似点と相違点を、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第２回：現代の公教育制度

日本の教育制度の特徴について、諸外国の教育制度と比較することで理解する。

学修課題：諸外国の教育制度と比較をとおして認識できた日本の教育制度の特殊性について、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第３回：教育制度を支える法規と学校教育

学校とは何か、学校の意義について考える。

学修課題：学校の意義について講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第４回：教育制度を支える法規と教育課程

学校の教育内容について規定する制度について理解する。

学修課題：教育課程を支える制度にはどのようなものがあるのか、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第５回：学習権と就学義務

子どもの学習権を保障することと保護者が就学義務を履行することの間にどのような関係性があるのかを学ぶ。

学修課題：「子どもの教育権」や「保護者の就学義務」とはなにか、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第６回：就学義務と不登校

保護者に就学義務が課される中にあって、不登校の子どもはどのような立場に置かれてきたのかを学ぶ。

学修課題：不登校の子どもがこれまでどのような立場に置かれていたのか、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第７回：就学義務と特別な配慮を必要とする子どもの就学

保護者に就学義務が課される中にあって、特別な配慮を必要とする子どもはどのような立場に置かれてきたのかを学ぶ。

学修課題：特別な配慮を必要とする子どもがこれまでどのような立場に置かれていたのか、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第８回：学校・地域・家庭との連携

学校・地域・家庭の連携の具体的な取り組みの例について調べ、まとめておくこと。

学修課題：教育課程を支える制度にはどのうなものがあるのか、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第９回：学校の安全への対応

近年必要とされている学校の安全への対応について学ぶ。

学修課題：学校の安全への対応について、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第10回：統計的データからみる教育制度と社会的・経済的問題との関係

学校教育制度と社会的・経済的問題との関係について、統計的データから理解を深める。

学修課題：学校教育制度と社会的・経済的問題の現状について、講義の復習とあわせてまとめておくこと。

第11回：体験学習からみる教育制度と社会的・経済的問題との関係

学校教育制度社会的・経済的問題との関係について、体験型学習から理解を深める。

学修課題：学校教育制度と社会的・経済的問題の関係について、体験学習から知り得たことをまとめておくこと。

第12回：学校教育制度と諸問題に関する調べ学習

学校教育制度に関して、自身が興味を持ったテーマについて調べる。

学修課題：発表会に向けた資料を作成すること。

第13回：学校教育制度と諸問題に関する発表会（前半）

学校教育制度に関して調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。

学修課題：発表内容に関する教育制度とその諸問題、それに対する自身の意見をまとめておくこと。

第14回：学校教育制度と諸問題に関する発表会（後半）

学校教育制度に関して調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。

学修課題：発表内容に関する教育制度とその諸問題、それに対する自身の意見をまとめておくこと。

第15回：授業の総まとめ

これまでの授業全体のまとめを行う。

学修課題：これまでの授業全体の配布資料を整理し、復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業への参加状況（50%）：毎回提出するリフレクションペーパーおよびディスカッション等への参加で評価する。

発表（発表資料・発表内容）（50%）：教育制度に対する理解を深める内容となっているか、わかりやすい発表資料を作成できているか、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

高見茂他編著『教育法規スタートアップver．３．０　教育行政・政策入門』昭和堂、2015年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

生涯教育論

【担当】田村　徳子

■授業概要

今日、私たちを取り巻く社会はめまぐるしく変化している。そうした変化に対応するためにも、私たちは常に学び続けることが求められている。本講義では、生涯学習についての理論を学ぶとともに、私たちの「生涯にわたる学び」を充実させるより良い生涯学習社会のあり方について、諸外国の事例を踏まえながら検討する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：近年の社会状況の変化から生じる学校教育の問題点と、それをカバーする学校外教育のあり方について理解する。

目標：学校教育の問題点を具体的に指摘し、それをカバーする学校外教育の事例を説明することができる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学校と地域の連携の意義や、協働のあり方について理解する。

目標：学校と地域の連携の事例について、具体的に説明することができる。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学校安全の目的と具体的な取組みを理解する。

目標：学校安全の取り組みを具体的に説明することができる。

４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：他者との意見交流をとおし、教育制度に関して、多角的に捉え直し、自分の意見を構築する力を身につける。

目標：特定のテーマに対し、客観的理由および自分なりの理由を挙げて意見を述べることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション：生涯学習とは何か

生涯学習の意義について概説する。あわせて、講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。

学修課題：生涯学習と聞いて何をイメージするか考えておく。

第２回：日本における生涯学習の展開

日本における生涯学習に関する政策の展開について学ぶ。

学修課題：日本における生涯学習について、配布資料をもとに復習する。

第３回：生涯学習論の国際的展開：ユネスコの動向

ユネスコにおける生涯学習論について学ぶ。

学修課題：ユネスコにおける生涯学習論の展開について、配布資料をもとに復習する。

第４回：生涯学習論の国際的展開：OECDの動向

OECDにおける生涯学習論について学ぶ。

学修課題：OECDにおける生涯学習論の展開について、配布資料をもとに復習する。

第５回：学校教育と生涯学習

学校教育と生涯学習との関連について学ぶ。

学修課題：学校教育と生涯学習との関連について、配布資料をもとに復習する。

第６回：生涯学習における社会教育施設の役割：図書館

図書館の役割について学ぶ。

学修課題：生涯学習における図書館の役割について、配布資料をもとに復習する。

第７回：生涯教育に関する学校・地域・家庭との連携

生涯教育に関する学校・地域・家庭との連携について学ぶ。

学修課題：生涯教育に関する学校・地域・家庭との連携について、配布資料をもとに復習する。

第８回：生涯学習と社会教育

生涯学習と社会教育との関連について学ぶ。

学修課題：生涯学習と社会教育との関連について、配布資料をもとに復習する。

第９回：生涯学習と家庭教育

生涯学習と家庭教育との関連について学ぶ。

学修課題：生涯学習と家庭教育との関連について、配布資料をもとに復習する。

第10回：生涯教育と学校の安全への対応

近年必要とされている学校の安全への対応と生涯教育との関係について理解を深める。

学修課題：学校の安全への対応における生涯教育の役割について、配布資料をもとに復習する。

第11回：生涯教育とNGO

生涯教育におけるNGOの役割について理解する。

学修課題：生涯教育におけるNGOの役割について、配布資料をもとに復習する。

第12回：生涯学習に関する調べ学習

生涯学習に関して、自身が興味を持ったテーマについて調べる。

学修課題：発表会に向けた発表資料を作成する。

第13回：生涯教育に関する発表会（前半）

生涯教育に関して、各自の関心に基づいて調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。

学修課題：発表内容（生涯教育）に対する自身の意見をまとめておく。

第14回：生涯教育に関する発表会（後半）

生涯教育に関して各自の関心に基づいて調べたことを発表し、その内容について他の受講者と意見を交わし、多角的な理解を深める。

学修課題：生発表内容（生涯教育）に対する自身の意見をまとめておく。

第15回：授業の総まとめ

これまでの授業全体のまとめを行う。

学修課題：これまでの授業全体の配布資料を整理し、復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業への参加状況（50%）：毎回提出するリフレクションペーパーおよびディスカッション等への参加で評価する。

発表（発表資料・発表内容）（50%）：生涯学習に対する理解を深める内容となっているか、わかりやすい発表資料を作成できているか、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

渡邊洋子編著(2014)『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教育課程論

【担当】全　京和

■授業概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。

目標：教育課程が社会において果たしている役割や機能を例示できる。

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。

目標：長期的な視野から学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することができる。

3．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

目標：カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解し、説明することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション　―「教育課程」と「カリキュラム」

教育課程について学ぶ意義を考え、教育課程とカリキュラムの概念を整理する。併せて、講義の進め方や評価の方法、その他の留意事項について詳細を説明する。

学修課題：シラバスを読んでおく。「教育課程」と「カリキュラム」の概念についてまとめる。

第２回：「教育課程」と「学習指導要領」

教育課程を編成する際の基準となる学習指導要領について学ぶ。

学修課題：教育課程と学習指導要領について、配布資料をもとに復習する。

第３回：学習指導要領の変遷

学習指導要領の改訂がどのように行われてきたのかについて時代的背景とともに学ぶ。

学修課題：学習指導要領の各改訂の要点をまとめる。

第４回：新しい学習指導要領

平成29年公示の新しい学習指導要領について、改訂ポイントを中心に学ぶ。

学修課題：新しい学習指導要領と現行の学習指導要領との共通・相違についてまとめる。

第５回：教育課程編成の思想

教育課程の編成にかかわる様々な教育観（主義）について学ぶ。

学修課題：各教育観の関係性や特徴について、配布資料をもとに復習する。

第６回：学力調査の教育課程改革への影響

国際学力調査（PISAやTIMSS）や、国内学力調査（全国学力・学習状況調査）の結果がどのように学力観の形成に影響を及ぼしてきたのかについて学ぶ。

学修課題：最新の国際学力調査と国内学力調査の結果について調べ、成果と課題をそれぞれまとめる。

第７回：教育課程の行政

教育課程にかかわる行政の構造、法体系、教科書検定制度などについて学ぶ。

学修課題：教育課程に関する法の原文にあたる。

第８回：教育課程の編成

教育課程の構成要件と基本原則について学ぶ。

学修課題：教育課程の編成主体、方法･手順、留意すべき点について、配布資料をもとに復習する。

第９回：教育課程編成の実際

小・中・高と特別支援教育の学習指導要領と教育課程について学ぶ。

学修課題：各教育段階の学習指導要領と教育課程について要点をまとめ、特徴について理解する。

第10回：教育課程と評価

教育課程における評価の意義と役割を理解し、方法としての量的な評価と質的な評価について学ぶ。

学修課題：量的・質的評価の可能性と限界について、配布資料をもとに復習する。

第11回：教科外活動の教育課程

教科外活動の教育課程に関する内容と新しいかたちについて学ぶ。

学修課題：教科外活動の教育課程について、配布資料をもとに復習する。

第12回：学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関係

教育課程との関連性から、日本型学級経営の特徴や生徒指導の機能などについて学ぶ。

学修課題：教育課程と学校・学級経営について、配布資料をもとに復習する。

第13回：教育課程とカリキュラム・マネジメント

特色のある学校づくりとカリキュラム・マネジメントの考え方と進め方について学ぶ。

学修課題：関連の取り組みが行われている事例校について調べる。

第14回：諸外国の教育課程改革

諸外国ではどのような観点から教育改革が進められているのかを学び、日本における改革の特徴についてさらに深く理解する。

学修課題：事例として取り上げた諸外国の改革の特徴と日本との共通・相違についてまとめる。

第15回：総括と教育課程をめぐる現代的な課題

授業の総括を行い、学力問題、キャリア教育、一貫教育、外部資源活用のような教育課程をめぐる現代的な課題について理解する。

学修課題：授業の配布資料を整理し、全体的な流れを意識しながら復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

期末試験（50%）：教育課程の意義や学習指導要領の歴史的変遷等、教育課程に関する事項を修得しているかについて評価する。

中間レポート（30%）：授業内容の理解度や問題意識などについて評価する。

授業参加度（20%）:グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーション、小テストなど授業での活躍や取り組む姿勢などについて評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

文部科学省『学習指導要領』（平成29年３月公示）

田中耕治ほか編著（2011）『新しい時代の教育課程 第３版』有斐閣

その他の参考文献については、毎回紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・第１回にて、講義の進め方や評価の方法について詳しく説明する。受講を希望する場合は必ず出席すること。

・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。詳細は毎回指示する。

・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

保健体育科教育法Ⅰ（体育）

【担当】黒澤　寛己・大西　祐司

■授業概要

これまで受けてきた体育授業の経験（被授業経験）を出発点にして、「体育授業を学ぶ」視点に転換し、よい体育授業とは何かについて考えていきます。体育科の基本的性格や歴史的な変遷、制度的条件について学ぶとともに、学習指導要領に基づいて教科目標や学習内容、学習評価などについて講義します。理論的な内容を踏まえた上で、体育授業の実践を見通し、単元計画や授業計画（学習指導案）の立て方を理解し、実際に指導案を作成します。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：体育科の基本的性格、歴史的な変遷、制度的条件

目標：体育科教育学の理論的な背景を理解する。

２．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：学習指導要領に則した教科目標や学習内容、学習評価の理解

目標：体育授業の構想・計画ができる。

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：単元計画や授業計画（学習指導案）の作成

目標：仲間と協同して課題に意欲的に取り組むことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：保健体育科の基本的性格

体育科教育学を学ぶことの意義

学修課題：被授業経験を振り返る。

第２回：保健体育科の歴史的変遷

体育科の歴史（目標の変遷）

学修課題：楽しい体育について調べてくる。

第３回：保健体育科に関わる制度的条件

学校や授業を取り巻く制度

学修課題：教育基本法、学校教育法について調べてくる。

第４回：学習指導要領の性格と読み方

学習指導要領の位置付けと性格、その読み取方

学修課題：学習指導要領の総則を読んでくる。

第５回：改訂版学習指導要領の要点

学習指導要領が改訂された背景とその要点

学修課題：改訂版学習指導要領を読んでくる。

第６回：保健体育科の目標と学習内容

学習指導要領に記された目標と指導内容

学修課題：自分の専門種目に関する学習指導要領の記載内容を確認してくる。

第７回：保健体育科における学習評価

単元の評価規準と各授業における観点別評価規準及び基準

学修課題：国立教育政策研究所が示している「評価規準の作成のための参考資料」を読んでくる。

第８回：保健体育における教材観

体育授業における教材と教材観

学修課題：これまでの体育授業の経験から教材に該当するものをまとめる。

第９回：保健体育科における指導観

体育授業における指導観と生徒観

学修課題：高校までの自分や自分のクラスの特徴を考えてくる。

第10回：体つくり運動の理論と実際

体つくり運動の授業づくり

学修課題：体つくり運動に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。

第11回：武道の理論と実際

武道の授業づくり

学修課題：武道に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。

第12回：体育理論の理論と実際

体育理論の授業づくり

学修課題：体育理論に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。

第13回：指導計画の立て方

単元計画、授業計画の重要性と立て方

学修課題：書籍や論文から指導案を探し、読んでくる。

第14回：指導計画の作成

学習指導案の作成

学修課題：自分が担当する領域・種目の学習指導要領の記載内容を読んでくる。

第15回：指導計画の修正

単元計画、学習指導案の修正

学修課題：指導案の修正に必要となる資料を集めてくる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎時の課題（40%）：講義内容について、正確な理解に基づく論述ができているか。正しく指導案が作成できているか。

期末試験（60%）：体育科教育学に関する専門的知識、保健体育科の学習指導要領に関する知識が十分に修得できているか。

■教科書

高橋健夫　・新版　体育科教育学入門　・大修館書店　・2010年

文部科学省　・中学校学習指導要領解説　保健体育編　・東山書房　・2018年

文部科学省　・高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育編　・東山書房　・2018年

■参考文献等

教科書に加え、適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

２年次の早い段階から教職に対する使命感や学習意欲を持って授業に臨んでください。本講座を２年次に単位修得済でないと、４年次に教育実習に行くことができません。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

保健体育科教育法Ⅱ（保健）

【担当】川合　英之

■授業概要

学習指導要領に基づき、教育課程における保健の位置づけや今日的課題について学ぶとともに、児童生徒の①知識、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等を育むための主体的・対話的で深い学びについて理解する。

保健の授業を実践するための基礎的力量を身に付けるために、保健学習のねらい、内容、方法について学び、実践のための指導案を作成し模擬授業を行う。模擬授業は中学校・高等学校の単元とし、グループごとに効果的な授業展開とはどのようなものかを検討し授業を作っていく。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：各校種の学習指導要領

目標：学習指導要領に基づく小中高等学校の保健学習の内容が理解できる。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：保健学習の指導法

目標：保健学習の様々な指導法を習得し実践できる。

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：保健の指導案の作成とその実践

目標：実際の学習指導案が作成でき、その指導案に基づき授業が展開できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：保健授業をめぐる今日的課題

教育課程における保健授業の位置づけ、保健授業における今日的課題について理解する。

学修課題：保健の授業をめぐる今日的課題について整理してまとめる。

第２回：保健授業の果たす役割と動向

今日の健康問題と関連させた保健授業の重要性について理解する。

学修課題：保健授業の役割と動向についてまとめる。

第３回：保健学習と保健指導

保健学習（授業）と保健教育（学校教育全体を通した健康教育）の役割と内容について理解する。

学修課題：保健学習と特別活動・保健室を通した健康教育の構造を把握してまとめる。

第４回：小学校学習指導要領と保健学習

学習指導要領における小学校体育科保健領域の内容について理解する。

学修課題：小学校学習指導要領における体育科保健領域の内容の概要を調べてまとめる。

第５回：中学校学習指導要領と保健学習

学習指導要領における中学校保健体育科「保健分野」の内容について理解する。

学修課題：中学校学習指導要領における保健体育科「保健分野」の内容の概要を調べてまとめる。

第６回：高等学校学習指導要領と保健学習

学習指導要領における高等学校保健体育科「科目保健」の内容について理解する。

学修課題：高等学校学習指導要領における保健体育科「保健」の内容の概要を調べてまとめる。

第７回：保健学習における「主体的・対話的で深い学び」

児童生徒の①知識、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等を育むための主体的・対話的で深い学びについて理解する。

学修課題：「主体的・対話的で深い学び」について調べる。

第８回：保健学習における多様な学習方法

ICT活用、グループワーク、課題学習、ブレインストーミング、フィールドワーク、実験など多様な学習方法について理解する。

学修課題：様々な学習方法の種類と実践方法について調べる。

第９回：中学校保健体育科「保健分野」、高等学校「科目保健」の指導計画と評価

教育課程に基づく年間指導計画、単元計画、時間計画（指導案）及び評価について理解する。

学修課題：過去に実践されている学習指導案を調べる。

第10回：学習指導案作成の実際

中学校または高等学校の保健授業の指導案を作成する。

学修課題：中学校または高等学校の保健授業の学習指導案を作成する。

第11回：中学校の保健「健康な生活と疾病の予防」、「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業実践

「健康な生活と疾病の予防」、「心身の機能の発達と心の健康」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。

学修課題：模擬授業の課題と反省をまとめる。

第12回：中学校の保健「傷害の防止」、「健康と環境」の模擬授業実践

「傷害の防止」、「健康と環境」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。

学修課題：模擬授業の課題と反省をまとめる。

第13回：高等学校の保健「現代社会と健康」の模擬授業実践

「現代社会と健康」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。

学修課題：模擬授業の課題と反省をまとめる。

第14回：高等学校の保健「生涯を通じる健康」、「社会生活と健康」の模擬授業実践

「生涯を通じる健康」、「社会生活と健康」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。

学修課題：模擬授業の課題と反省をまとめる。

第15回：模擬授業の振り返り及び発展的な授業に向けてのまとめ

模擬授業で学んだこと、反省をまとめるとともに、今後の発展的な授業について検討する。

学修課題：模擬授業で学んだこと、反省をまとめてレポートする。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各回の授業内の小レポート（60%）：・各回１～４点で評価し合計60点満点とする。

・授業内容を踏まえた論述ができていれば３点、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば４点、重大な誤りや不足があれば１点。

模擬授業（20%）：・指導内容に添った教材で授業が展開できている。

・効果的な教材づくりができている。

・指導案に基づいて円滑に授業が展開できている。

まとめのレポート（20%）：・授業を通して得られた内容をもとに、反論を想定しながら自身の意見を提示できている。

・授業で身に付けた知識や経験を今後の学習に具体的にどのように活かそうか考えられる。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし。適宜資料を配布します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教材研究Ⅰ（体育）　【担当】柴田　俊和・大西　祐司

■授業概要

よい体育授業の実現に向けては、教材づくりの視点は欠かせない。本講座では、体育授業における教材研究の意義と方法について学ぶ。各運動領域・種目の運動特性に触れながら、教材づくりの基本的視点（内容的視点、方法的視点）を理解する。学習指導要領に示されている各運動領域・種目の指導内容を確認し、典型教材への理解を深める。また、教材に関わる教具の開発や工夫、教師の働きかけの重要性についても学ぶ。典型教材を踏まえ、個人またはペア、グループで協議しながらよりよい教材の創出に努める。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：体育授業における教材の位置付け

目標：教材研究の意義と方法を理解する。

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：各領域・種目の典型教材

目標：典型教材について深く理解することができる。

3．DP11．忠恕の心

具体的内容：教材研究に関するディスカッション

目標：仲間と協同して課題に意欲的に取り組むことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：教材研究の意義と方法

授業の進め方と成績評価について

教材研究の意義と方法を理解する。

学修課題：これまで経験したよい教材について振り返っておく。

第２回：教材づくりの基本的視点（内容的視点）

教材づくりの内容的視点について理解する。

学習指導要領の内容領域との関係性

学修課題：学習指導要領の内容領域ついて調べてまとめる。

第３回：教材づくりの基本的視点（方法的視点）

教材づくりの方法的視点について理解する。

学習指導要領の目標との関係性

学修課題：体つくり運動の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第４回：「体つくり運動」の教材

「体つくり運動」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：器械運動（マット運動）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第５回：「器械運動（マット運動）」の教材

「器械運動（マット運動）」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：器械運動（跳び箱運動）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第６回：「器械運動（跳び箱運動）」の教材

「器械運動」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：陸上競技の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第７回：「陸上競技」の教材

「陸上競技」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：水泳の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第８回：「水泳」の教材

「水泳」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：球技（ゴール型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第９回：「球技（ゴール型）」の教材

「球技（ゴール型）」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：球技（ネット型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第10回：「球技（ネット型）」の教材

「球技（ネット型）」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：球技（ベースボール型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第11回：「球技（ベースボール型）」の教材

「球技（ベースボール型）」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：ダンスの教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第12回：「ダンス」の教材

「ダンス」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：武道の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第13回：「武道」の教材

「武道」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：体育理論の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。

第14回：「体育理論」の教材

「体育理論」領域の教材について、具体例を示し解説する。

学修課題：グループで教材案を作成する。

第15回：教材案の検討と改善

グループに分かれて、指定した運動領域・体育理論の教材案について検討する。

学修課題：各グループで改善した教材案を完成させる

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回の小レポート（60%）：授業内で扱われた理論や典型教材の紹介を踏まえて、課題に対して適切に論述しているか60点満点で評価する。

まとめのレポート（40%）：15回の授業を通して学んだことをもとに、新たな教材提案の試みを40点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

岩田靖（2012）体育の教材を創る－運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて－（大修館書店）

文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説　体育編　（東山書房）

文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

講義だけでなく、教室内でできる実技を通してさまざまな典型教材に触れます。それらの典型教材を踏まえて、ペアやグループで教材の検討を行います。教育実習前に子どもを誘い込む教材について学びたい人は是非受講してください。

教材研究Ⅱ（保健）

【担当】川合　英之・股村　美里

■授業概要

保健の授業を実施するための基礎的力量を養うために、学習指導要領に基づく保健学習のねらい、内容、方法などについて学ぶとともに、教材づくりや授業づくりの学修を通して、効果的な保健授業の展開について具体的に検討する。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：保健の教育課程における位置づけ
目標：教育課程における保健の位置づけがわかる。

２．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：保健に関する各校種の学習指導指導要領
目標：小学校・中学校・高等学校の学習指導要領における保健学習の目標・内容がわかる。

３．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：保健の授業実践
目標：保健における具体的教材づくり及びその教材を活用した授業実践ができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：保健授業を実施するに当たって学ぶこととは
授業全体の計画に触れ、保健の授業実践に向けた意識を高める。
教育課程における保健の位置づけを理解する。
保健の授業を通して、児童生徒に身に着けさせたい能力について理解する。
模擬授業や討議を行うグループを決め、授業日程を計画する。
学修課題：小学校・中学校・高校学習指導要領解説体育編、保健体育編「保健」を読んでおく。

第２回：学習指導要領と保健学習
学習指導要領の保健の目標、内容、指導計画の作成及び内容の取り扱い等について学習する。
学修課題：小学校・中学校・高校学習指導要領解説体育編、保健体育編「指導計画の作成と内容の取り扱い」を読んでおく。

第３回：「保健の教科書」教材の検討
小・中・高等学校の保健の教科書の記述を教材という視点から検討し、保健に関する今日的課題、地域特性を踏まえるとともに、児童生徒の実態に応じた学習指導案の構成を検討する。
学修課題：良い指導案の作成について調べておく。

第４回：多様な保健の教材
教材としてのICT活用、発問、文章教材、学習活動、教具の工夫について、具体的な例に基づき学ぶとともに、模擬授業に向け効果的な教材を活用した学習指導案を作成する。
学修課題：身近なICT機材を活用できるようにしておく。

第５回：保健学習における「主体的・対話的で深い学び」
児童生徒の①知識、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等を育むための保健学習について検討する。
学修課題：「主体的・対話的で深い学び」について調べておく。

第６回：小学校における保健の授業
中学校・高等学校への学習に接続させるため、小学校における保健授業について、その単元・内容を理解する。「健康な生活」、「体の発育・発達」、「心の健康」、「けがの防止」、「病気の予防」の各単元の授業や教材・学習指導案を検討する。
学修課題：児童を対象とした保健授業について、教材・授業の工夫を考える。

第７回：保健の模擬授業（中学校）－健康な生活と疾病の予防－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「健康な生活と疾病の予防」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：中学生を対象とした「健康な生活と疾病の予防」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第８回：保健の模擬授業（中学校）－心身の機能の発達と心の健康－とその検討
保健の模擬授業（中学校）－心身の機能の発達と心の健康－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「心身の機能の発達と心の健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案についての評価・検討を行う。
学修課題：中学生を対象とした「心身の機能の発達と心の健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第９回：保健の模擬授業（中学校）－傷害の防止－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「傷害の防止」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案についての評価・検討を行う。
学修課題：中学生を対象とした「傷害の防止」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第10回：保健の模擬授業（中学校）－健康と環境－とその検討
中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「健康と環境」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：中学生を対象とした「健康と環境」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第11回：保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康－とその検討①
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第12回：保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康－とその検討②
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第13回：保健の模擬授業（高等学校）－生涯を通じる健康－とその検討
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「生涯を通じる健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした「生涯を通じる健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第14回：保健の模擬授業（高等学校）－社会生活と健康－とその検討
高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「社会生活と健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。
学修課題：高校生を対象とした「社会生活と健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。

第15回：模擬授業のリフレクション　まとめ
小学生、中学生、高校生を想定した保健の模擬授業全体を振り返り、教材の工夫や授業行動の改善の在り方について検討する。
学修課題：小学生、中学生、高校生対象を想定した保健の模擬授業全体を振り返り、授業改善の方策を考える。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各回の授業内の小レポート（60%）：・各回１～４点で評価し合計60点満点とする。
・授業内容を踏まえた論述ができていれば３点、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば４点、重大な誤りや不足があれば１点。
模擬授業（30%）：・指導内容に沿った教材で授業が展開できている。
・効果的な教材づくりができている。
・指導案に基づいて円滑に授業が展開できている。
まとめのレポート（10%）：・授業を通して得られた内容をもとに、反論を想定しながら自身の意見を提示できている。
・授業で身に付けた知識や経験を今後の学習に具体的にどのように活かそうかと考えられている。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
中学保健体育の教科書、高等学校保健体育の教科書

■履修上の注意・備考・メッセージ

様々な教具やICTを含む学習方法を活用した保健の授業展開をめざして、グループで教材の工夫や検討を行いながら模擬授業を実践する。中学校や高等学校だけでなく小学校での授業も視野に入れる。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
保健体育科教員を目指すための科目であり、授業の準備、模擬授業・観察、振り返り等と、受講生には授業外においても相当な負荷を与える。明確な目的意識、教師を志望する自覚と責任を持って受講すること。

道徳の指導法

【担当】園田　雅春

■授業概要

本科目では、学校における道徳教育の今日的なあり方について考察し、「特別の教科 道徳」の目標と内容の把握、さらには具体的な指導法について理論と方法の両面にわたって学修する。そして、教育現場で実際に担当することをめざす学生に、必要とされる実践的な指導に関する基礎的力量を培う。とりわけ、道徳教育の要としての「特別の教科 道徳」の目標と内容について検討した上で、子どもが「考え、議論する」質の高い授業を展開するための方法を多面的・多角的に追究する。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：「道徳科」の授業の実践的な力量を養う

目標：「道徳科」の授業を創造し、展開することができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション　道徳教育に関する教育体験の省察

授業の目標、学習内容、評価について確認する。

自己の道徳教育に関する教育体験を振り返り、道徳性を育む教育活動全体のあり方を考える。

学修課題：専用ノートを用意し、学修内容について整理する。

第２回：道徳教育の課題と展望（１）　自己省察からめざす道徳科の授業を構想する

道徳教育の体験についてグループ内で意見交換し、めざす道徳科の授業を構想する。

学修課題：本時のグループ協議を想い起こし､学修内容を整理すること。

第３回：道徳教育の課題と展望（２）　授業構想の提案と検討

グループで構想した道徳の授業内容を全体に提案し、相互に批判・検討をおこない授業のあり方を追究する。

学修課題：発表内容を再整理して、自己のめざしたい授業について構想を具体的に記述しておく。

第４回：道徳科の授業　　教材研究と授業展開の実際

代表的な読み物教材を手がかりに、教材研究と授業展開の実際を体験する。

学修課題：本時の学修内容を振り返り、自己のめざしたい授業について修正を加えながら、より質の高い授業構想を確立する。

第５回：学習指導要領と道徳教育（１）　歴史的変遷の理解

道徳教育の歴史を概観し、学習指導要領における道徳教育の変遷について学修する。

学修課題：歴史的変遷について整理し、次回の学修に備えて中学校学習指導要領の「総則」「特別の教科　道徳」を精読しておくこと。

第６回：学習指導要領と道徳教育（２）　要としての「特別の教科 道徳」

「教科化」の背景を把握し、学習指導要領「総則」､「特別の教科 道徳」の目標と内容について考察する。

学修課題：学修内容を振り返り、学習指導要領に記されている内容を読み込んで、いっそうの理解を深める。

第７回：道徳教育と人権教育　いじめ問題などの人権課題と「考え、議論する」道徳科授業の関係性

いじめ問題などの人権課題について、道徳教育とその授業のなかで「考え、議論する」実践方法を探究する。

学修課題：いじめの定義、実態、自己体験について、事前に整理し、課題解決の条件と方法を自分なりに考えておくこと。

第８回：道徳科の授業デザイン

「モデル教材」を手がかりにして、「多面的・多角的に考える」道徳科の授業をデザインする。

学修課題：模擬授業づくりに備えて適切な教材を選択し、教材研究をしておくこと。

第９回：道徳科の授業方法　内容と展開（１）　学習指導案の作成を中心に

読み物教材を元にして学習指導案の作成をおこない、授業づくりの方法について体験的に学修する。

学修課題：模擬授業の構想を具体化するために学習指導案作成の準備を進めておくこと。

第10回：道徳科の授業方法　内容と展開（２）「導入」の工夫を中心に

教材を選んで、作成した指導案を元に模擬授業を展開する。特に「導入」の工夫とその意味を理解する。

学修課題：グループ全員で作成した学習指導案を検討し、模擬授業の具体的な展開についてリハーサルを重ねておくこと。

第11回：道徳科の授業方法　内容と展開（３）「展開・中心発問」の工夫を中心に

教材を選んで、作成した指導案を元に模擬授業をおこなう。特に「展開・中心発問」の工夫とその意味を理解する。

学修課題：授業における「展開・中心発問」の重要性について整理をおこない、授業が成功するための要件について記述する。

第12回：道徳科の授業方法　内容と展開（４）「終末」の工夫を中心に

教材を選んで、作成した指導案を元に模擬授業を展開する。特に「終末」の工夫とその意味を理解する。

学修課題：自他の模擬授業を通じて「考え、議論する道徳」の授業が成立する要件を整理する。

第13回：道徳科の授業方法　内容と展開（５）「評価」のあり方を中心に

専用ノートに整理した授業内容に基づいて「道徳科」における「評価」の望ましいあり方について具体的に理解する。

学修課題：道徳科における「評価」のあり方と具体的な方法について、学修したことを元にして専用ノートに箇条書きで再整理をおこなう。

第14回：「道徳科」の授業と授業者の省察

道徳科の授業展開について総合的に省察して、子どもがアクティブに深く学ぶ授業のあり方を追究する。

学修課題：自他の模擬授業の展開・観察などから学修したことを振り返り、望ましい道徳科の授業のあり方について包括的に整理する。

第15回：まとめ―道徳科の授業実践に求められるもの

これからめざすべき道徳の授業とはどのような質とスタイルを有するものなのかについて総括し、成果と自己課題を整理する。

学修課題：これまでの学修内容全般を振り返り、本時の授業内容について客観的に整理しておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

授業における意欲･関心･態度（20%）:「問いかけに対する応答」「意見表明」「グループワークにおける能動性」などについて質的･量的に評価する。

授業における課題の達成（30%）:提示した課題､学習指導案作成､模擬授業の展開､授業観察記録などの理解度と達成度について質的に評価する。

小論文（50%）：一定のテーマに基づく小論文について論述内容を質的･量的に評価する。

■教科書

園田雅春・『道徳科の「授業革命」』・解放出版社・2018年

■参考文献等

『中学校学習指導要領（平成29年3月告示)』文部科学省　東山書房　2018年

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年３月告示)』　文部科学省　教育出版 2018年

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

また、新学習指導要領に関する情報を把握し、とくに「道徳教育」にかかわる内容について自主的な学習をおこなうこと。

毎授業においては主体的な参加の姿勢を持ち、グループ学習・作業にも積極的な態度で挑み、「教師性」を発揮することが重要である。

特別活動論

【担当】園田　雅春

■授業概要

学習指導要領「特別活動」の目標と内容を理解し各内容や学年の特性に応じた諸活動の推進に必要な知識・技能を修得することを目的とする。また他教科、道徳科、総合的な学習の時間などとの関連についても実践的に理解できることをめざす。「学級活動（ホームルーム活動）」の推進についてその重要性から「学級づくり」「集団づくり」と併せて中心的に探求する。「生徒会活動」「学校行事」の内容について教育現場の特色ある実践を調べ、学び、実践力を身につけることを目的とする。その中で、いじめ問題克服の課題についても考察を深める。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：特別活動とくに「学級活動（ホームルーム活動）」の重要性について実践的な理解を深める。

目標：特別活動の実践について自分の創造的な考えが表明できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション　　教育課程における「特別活動」の特質と意義

授業の目標、学習内容、評価について確認する。

教育課程における「特別活動」の特質と意義について、自己の教育体験を省察する。

学修課題：専用ノートを用意し、学修内容を自己体験を踏まえて整理すること。

第２回：「特別活動」の変遷と学習指導要領

「特別活動」の変遷と学習指導要領「特別活動」の目標・内容について把握する。

学修課題：学習指導要領「特別活動」について精読し、本時の学修内容を整理すること。

第３回：「学級活動（ホームルーム活動）」と集団づくり（１）　集団づくりの意味と「学級びらき」

学級づくりの意味を理解し「学級びらき」について実践的に学ぶ。

学修課題：「学級びらき」をイメージしながら、その意味と学級担任の役割を整理すること。

第４回：「学級活動（ホームルーム活動）」と集団づくり（２）　生徒がつながる学級集団づくり

教師と生徒、生徒同士の望ましい関係性を形成する意味と方法について考え合う。

学修課題：本時において学修した学級集団の三類型を中心に内容を整理しておくこと。

第５回：「学級活動（ホームルーム活動）」と集団づくり（３）　生徒の「多様性」と集団づくり

生徒理解としての「多様性」について、その把握と深い共通理解をどのようにおこなうかについて考察する。

学修課題：自己体験を踏まえて、生徒の「多様性」について理解したことを専用ノートに整理する。

第６回：「学級活動（ホームルーム活動）」と集団づくり（４）　仲間意識の形成とその方法論

生徒の良好な仲間意識はどのように高まっていくのかを考え合う。

学修課題：学修内容を整理し、自分がめざしたい集団像について具体的な構想を考え、記述しておくこと。

第７回：「学級活動（ホームルーム活動）」と集団づくり（５）　生徒観と学級像

めざす学級像を考え、学級形成の多様な方法についてグループ内で整理する。

学修課題：効果的な発表になるよう、グループでリハーサルも重ね、吟味を加えておくこと。

第８回：「学級活動（ホームルーム活動）」と集団づくり（６）　学級像の発表

めざす学級像と学級形成の方法についてプレゼンテーションを行う。

学修課題：自他の発表内容を振り返り、自己のめざす学級像と方法論について具体的に再整理すること。

第９回：「いじめ」を許さない集団を形成するために

「いじめ」の定義を理解し、「いじめ」を許さない集団をつくるための諸条件について考察する。

「いじめ」事案が発覚した場合の適切な対処法についても追究する。

学修課題：学修内容を整理し、「いじめ」を許さない集団とその形成方法について自分の構想を具体的に記述すること。

第10回：「生徒会活動」の今日的意義と指導法　自発的・自治的活動推進のために

自発的・自治的な「生徒会活動」の展開について、教育現場の特色ある取組を調査し、教育的意義を明らかにする。

学修課題：特色ある「生徒会活動」の実践校を調べ、成果と課題の整理をおこなって発表に備えること。

第11回：特色ある「生徒会活動」の実践校についてグループ発表をおこなう。

今日の教育現場における「生徒会活動」の取組に学び、「特別活動」の可能性と課題を明らかにする。

学修課題：効果のあるグループ発表となるために内容の検討を深め、事前に入念なリハーサルもおこなって発表に臨むこと。

第12回：「学校行事」の今日的意義と指導法　学校生活の充実と発展のために

「学校行事」の実施について、教育現場の特色ある取組を調査し、教育的意義を明らかにする。

学修課題：特色ある「学校行事」の実践校を調べて、成果と課題の整理をおこなって発表に備えること。

第13回：特色のある「学校行事」の実践校についてグループ発表をおこなう。

今日の教育現場における特色ある「学校行事」の取組に学び、「特別活動」の可能性と課題を明らかにする。

学修課題：効果のあるグループ発表となるために内容の検討を深め、事前に入念なリハーサルもおこなって発表に臨むこと。

第14回：「特別活動」と市民性教育

アクティブな主権者として学校・地域・社会で活躍するために「特別活動」でどのような力をはぐくむべきか。各教科や他領域と関連づけながら考える。

学修課題：学修内容を振り返り、「社会参加」について自己体験や自分の意見を整理すること。

第15回：まとめ－「特別活動」の今日的意義と課題

生徒にとって意味ある「特別活動」を展開するため、教師に求められる指導力とは何かを整理する。

学修課題：「特別活動」の特質と存在意義を整理した上で、自己の指導力の強みと課題について省察しておくこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない

授業における意欲･関心･態度（30%）:「問いかけに対する応答」「意見表明」「グループワークにおける能動性」などについて質的･量的に評価する。

授業における課題の達成（20%）：提示された課題、調査活動、観察記録などについて、理解度や達成度について質的評価をする。

小論文（50%）：一定のテーマに基づく小論文について論述内容を質的･量的に評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『自尊感情が育つ元気教室』園田雅春　解放出版社　2016年

『自尊感情が高まる学級づくりと授業』園田雅春　雲母書房　2013年

『いま『学級革命』から得られるもの－小西健二郎の実践思想とスキル』園田雅春　明治図書　2010年

『中学校学習指導要領』文部科学省　東山書房 2018年

『中学校学習指導要領解説　特別活動編』 文部科学省　東山書房　2018年

『高等学校学習指導要領』に関しては改定に伴う資料を随時配付。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教育方法論

【担当】全　京和

■授業概要

これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

目標：教育方法の基礎的理論と実践を理解し、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

目標：話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。

3．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

目標：子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション　―教育方法を学ぶ意義と授業の目標

教育方法について学ぶ意義を考える。併せて、講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。

学修課題：シラバスを読んでおく。

第２回：様々な学びのとらえ方

「教える」と「学ぶ」の関係を考える。そのうえ、行動論、認知論、構成主義、社会的構成主義などについて学ぶ。

学修課題：各とらえ方の例示を調べるとともに、配布資料をもとに十分に復習しておく。

第３回：教育方法の基本原理

教育には系統学習と経験学習という二つの大きな流れがあることを理解し、学力を向上させるための方法について理解を深める。

学修課題：教育方法の基本原理について､配布資料をもとに復習する。

第４回：教育方法の歴史的変遷

教授スタイル（一斉指導､チームティーチング等）と学習スタイル（発見学習、協同学習等）について学ぶ。

学修課題：それぞれの教育方法の特徴について、配布資料をもとに復習する。

第５回：学びのメカニズムとモデル

学習転移、経験学習、批判的学習、正統的周辺参加などについて学ぶ。

学修課題：各メカニズムとモデルについて､配布資料をもとに復習する。

第６回：こどもの知能観と学びへの動機付け

児童生徒の学習意欲の状況、動機づけ理論、学習意欲と関連する要因について学ぶ。

学修課題：動機付け理論の可能性と限界について、配布資料をもとに復習する。

第７回：教育方法の現代的テーマ

主体的・対話的で深い学び（アクティブ･ラーニング)、「生きる力」の育成と21世紀型能力について学ぶ。

学修課題：新しい学習指導要領を読み、「主体的・対話的で深い学び」と「生きる力」に対する理解を深める。

第８回：ICT活用の基本的考え方と実践

ICT活用の諸形態（教えるツール、学ぶツール、協同の学びのツールとしての利用）について学ぶ。

学修課題：学校現場におけるICT活用の事例について調べる。

第９回：教育評価をどうするか

形成的評価、パフォーマンス評価、ルーブリック、真性の評価などについて学ぶ。

学修課題：評価方法のメリットとデメリットについて、配布資料をもとに復習する。

第10回：マイクロ・ティーチングにむけた課題の整理

自身の模擬授業の構想を練る。

学修課題：講義の復習、次回発表者は準備を行う。

第11回：マイクロ・ティーチング①

全員必須の模擬授業を行う。模擬授業後の学生間の相互評価と授業者自身の振り返りなどを実施する。

学修課題：終了者は振り返りシート作成、次回発表者は準備を行う。

第12回：マイクロ・ティーチング②

全員必須の模擬授業を行う。模擬授業後の学生間の相互評価と授業者自身の振り返りなどを実施する。

学修課題：終了者は振り返りシート作成、次回発表者は準備を行う。

第13回：マイクロ・ティーチング③

全員必須の模擬授業を行う。模擬授業後の学生間の相互評価と授業者自身の振り返りなどを実施する。

学修課題：終了者は振り返りシート作成する。

第14回：新しい学びのスタイル：コンピテンシーを育てる授業のデザイン

発問・教材の検討を中心として、アクティブ・ラーニングや学びの共同体・学び合いの特徴をもった授業をデザインする。

学修課題：自身の教科における先進的な取り組みを調べる。

第15回：総括と新たな学びの形を引き出す教育方法の可能性

授業の総括を行い、これからの教育方法の在り方について考える。

学修課題：授業の配布資料を整理し、全体的な流れを意識しながら復習する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

原則として毎回出席すること。

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

期末試験（50%）：教育方法の理論、構成要件、学習評価の基礎的な知識を修得しているかについて評価する。

マイクロ・ティーチング（30%）：模擬授業を実施し、自分にとって意味のある振り返りができているかについて評価する。

授業参加度（20%）：グループでの作業やディスカッション、小テストなど授業での活躍や取り組む姿勢などについて評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

田中耕治ほか編著（2012）『新しい時代の教育方法』有斐閣

松下佳代編著（2015）『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房

その他の参考文献については、毎回紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・第１回にて、講義の進め方や評価の方法について詳しく説明する。受講を希望する場合は必ず出席すること。
・本科目は２単位の科目であり、授業外学修は毎回平均４時間求められる。詳細は毎回指示する。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

生徒・進路指導論

【担当】高柳　真人

■授業概要

この授業では、「ガイダンス」の考え方に基づき、子どもの社会的自己実現を支援する生徒指導及び進路指導に関する理論と方法について学んでいく。消極的生徒指導ともいわれる、暴力行為、いじめ、不登校といった生徒指導上の諸問題への対応について理解するとともに、子どもの社会的自己実現を支援する進路指導も含んだ積極的生徒指導の理論と進め方について理解することを目標とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP7．自覚、誇り、道徳心

具体的内容：教師に求められる資質・能力

目標：教職の重要性を理解し、学び続ける教師であろうとする自覚を持つことができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：生徒指導の意義と課題１

生徒指導の現状と課題

学修課題：生徒指導の現状と課題について復習する

第２回：生徒指導の意義と課題２

機能としての生徒指導、ガイダンスの考え方

学修課題：機能としての生徒指導、ガイダンスの考え方について復習する

第３回：生徒指導の意義と課題３

積極的生徒指導（社会的自己実現、自己指導能力の育成）と消極的生徒指導（不適応支援）

学修課題：積極的生徒指導（社会的自己実現、自己指導能力の育成）と消極的生徒指導（不適応支援）について復習する

第４回：生徒指導の推進体制

校務分掌と生徒指導部、担任の役割、カウンセリング・マインド

学修課題：校務分掌と生徒指導部、担任の役割、カウンセリング・マインドについて復習する

第５回：生徒理解の視点と方法

生徒理解の視点、生徒理解の方法

学修課題：生徒理解の視点、生徒理解の方法について復習する

第６回：生徒指導上の諸問題１（暴力行為）

攻撃性の理解と対応

学修課題：攻撃性の理解と対応について復習する

第７回：生徒指導上の諸問題２（いじめ）

いじめの定義、いじめと教師、いじめの理解と対応

学修課題：いじめの定義、いじめと教師、いじめの理解と対応について復習する

第８回：生徒指導上の諸問題３(不登校)

不登校の定義、学校と子どものそれぞれに焦点を当てた理解と対応

学修課題：生徒指導上の諸問題３（不登校）について復習する

第９回：懲戒と体罰、校則

懲戒の理解、体罰の理解、校則の理解

学修課題：懲戒の理解、体罰の理解、校則の理解について復習する

第10回：居場所としての学校

居場所の構造と機能、居場所と自己実現

学修課題：居場所の構造と機能、居場所と自己実現について復習する

第11回：教師と子ども、子ども相互の人間関係

教師の関わり、子ども相互の人間関係

学修課題：教師の関わり、子ども相互の人間関係について復習する

第12回：進路指導の意義と課題１

進路指導の現状と課題

学修課題：進路指導の現状と課題について復習する

第13回：進路指導の意義と課題２

進路指導の意義、キャリア教育、キャリア発達

学修課題：進路指導の意義、キャリア教育、キャリア発達について復習する

第14回：進路指導の進め方１

自己理解と職業理解

学修課題：自己理解と職業理解について復習する

第15回：進路指導の進め方２

職業観・勤労観の育成、進路相談

学修課題：職業観・勤労観の育成、進路相談について復習する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎時間実施するミニレポート（30%）：毎回の授業内容の理解度

試験（70%）：到達目標に対する到達度

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

文部科学省　生徒指導提要

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

教育相談基礎論

【担当】多賀谷　智子

■授業概要

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。

この授業では、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む、教育相談に関する理論と方法を学ぶ。教育相談の基本的な考え方や進め方、その教育的な意義、学校内外のスタッフや専門機関等の連携も含めた、組織的な教育相談体制の構築、カウンセリングの諸理論について理解することを目標とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：学校における教育相談の意義と課題について学ぶ。
目標：学校における教育相談の意義と課題を理解している。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念に関して学ぶ。
目標：教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：生徒の不適応や問題行動の意味、及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法について学ぶ。
目標：生徒の不適応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。

４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：学校教育におけるカウンセリングマインド、及びその必要性について学ぶ。
目標：学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。

５．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：生徒理解や支援につながるカウンセリングの諸理論について学ぶ。
目標：生徒理解や支援につながるカウンセリングの諸理論を理解している。

６．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：職種や校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について具体的な事例から学ぶ。
目標：職種や校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。

７．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：いじめ、不登校、虐待、非行等の課題、及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方について学ぶ。
目標：いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。

８．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みについて学ぶ。
目標：教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解している。

９．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義、及びその必要性について学ぶ。
目標：地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：教育相談を学ぶ意味
授業の概要及び到達目標、評価基準についての説明
教育相談とは、学校における教育相談、教育相談の特質
カウンセリングの基礎（受容・傾聴・共感的理解）
ワーク：上手な聞き方
学修課題：１章　生徒理解のための心理学を読み、その特徴と疑問点をまとめましょう。

第２回：生徒理解のための心理学
生徒理解における心理学の重要性、学校心理学に基づく生徒理解、発達心理学に基づく生徒理解、臨床心理学に基づく生徒理解
ワーク：言語メッセージと非言語メッセージ
学修課題：２章　アセスメント　―多面的に生徒を理解する視点と方法―を読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第３回：アセスメント　―多面的に生徒を理解する視点と方法―
生徒理解とは、アセスメントの方法
ワーク：観察
学修課題：生徒指導提要の教育相談の体制づくりを読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第４回：教育相談の進め方１　教育相談の体制づくり
教育相談の体制づくりと組織的な教育相談、教育相談の対象、実施者及び場面、学校管理職の役割
ワーク：繰り返しスキル、質問スキル
学修課題：生徒指導提要の教育相談担当が行う教育相談、養護教諭が行う教育相談を読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第５回：教育相談の進め方２　校内連携
教育相談担当が行う教育相談、養護教諭が行う教育相談
ワーク：アサーショントレーニング
学修課題：３章　カウンセリング，５章　ソーシャルスキル教育，生徒指導提要　担任が行う教育相談に関する資料を読み、特徴と疑問点をまとめましょう。資料を読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第６回：教育相談の進め方３　カウンセリングマインド
担任が行う教育相談、カウンセリングマインド（受容・共感・自己一致）
ワーク：ソーシャルスキル教育
学修課題：４章　コンサルテーション，８章　不登校・中途退学を読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第７回：教育相談の進め方４　コンサルテーション
コンサルテーションとは、コンサルテーションの実際
スクールカウンセラーの活用、関係機関との連携、チーム学校
ワーク：不登校事例
学修課題：６章　ストレスマネジメント教育，７章　キャリア教育を読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第８回：教育相談の進め方５　キャリア教育―自分らしい生き方を作り上げるために―
キャリア教育の基礎理論、青少年の現状とキャリア教育の今後
ワーク：ストレスマネジメント（リラクゼーション）
学修課題：９章　いじめを読み、特徴と疑問点をまとめましょう。

第９回：教育相談の進め方６　いじめ　―適切な実態把握と予防・対応に向けて―
「いじめ」の意味と学校における実態・様相
いじめ予防・対応の実践例
ワーク：アンガーマネジメント
学修課題：生徒指導提要の専門機関との連携を読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第10回：教育相談の進め方７　発達障害　専門機関との連携
発達障害とは、発達障害の支援と工夫、特別支援教育の実践例
地域の医療・福祉・心理等の専門機関の役割、連携とその意義
発表及び評価：地域の専門機関の役割及び連携
学修課題：11章　学校の危機管理を読み、感想と疑問点をまとめましょう。

第11回：教育相談の進め方８　学校の危機管理
学校危機とは、学校危機への対応と実際、児童虐待、非行等
ワーク：問題解決法
学修課題：12章　学級経営による援助を読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第12回：学級経営による援助　―問題行動と学級崩壊を予防する―
学級」とは、教師における相反する二つの役割、教育相談を活かした学級づくり
ワーク：グループエンカウンター
学修課題：精神分析、交流分析、動作法に関する資料を読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第13回：カウンセリングの理論１
発表及び評価：精神分析、交流分析、動作法
ワーク：動作法
学修課題：自己理論、来談者中心療法、実存主義的アプローチ、論理療法に関する資料を読み、それぞれの特徴と疑問点をまとめましょう。

第14回：カウンセリングの理論２
発表及び評価：自己理論、来談者中心療法、実存主義的アプローチ、論理療法
ワーク：ストレスマネジメント（コーピング）
学修課題：認知療法、行動療法、認知行動療法、応用行動分析学に関する資料を読み、感想と疑問点をまとめましょう。

第15回：カウンセリングの理論３
発表及び評価：認知療法、行動療法、認知行動療法、応用行動分析学
ワーク：授業全体の振り返り、ミニテスト作り、ファイル完成
学修課題：教育現場においてどのように活かすことができるかを中心にまとめましょう。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、学生にとっては論理的文章を書く練習にもなる。そして次回の授業の最初に、その中から適切なものを紹介しコメントすることで、前回授業の振り返りを行う。

■評価方法

この授業では自分の学び、気づきをその都度文章にまとめ、ファイルに綴じていくポートフォリオ形式で行う。したがって、Ａ４ファイルを用意し、最後にはファイルの提出を求め、ファイルの内容も評価する。
学修課題レポート・ミニテスト作り・ファイルの完成（40%）：課題内容を正しく理解しているか、具体例を交え、自分の意見を述べているか、授業内容について発展的に取り組めているかで評価する。
各回の授業内小レポート（30%）：各回２点×15回　ワークに積極的に参加し、課題内容を理解し、適切に論じることができているかで評価する。
授業内の積極的な発言（10%）：自発的、論理的、積極的な発言を評価する。
関係機関調べ、文献購読、まとめ、発表（20%）：ピア評価及び教員評価。課題内容を正しく理解し、わかりやすく伝えられているかで評価する。

■教科書

文部科学省　・生徒指導提要　・教育図書
水野治久・本田真大・串崎真志　・絶対に役立つ教育相談　・ミネルヴァ書房　・2017年

■参考文献等

会沢信彦・安齊順子編著「教師のたまごのための教育相談」北樹出版
講義中に適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は教職の必修科目なので、教員免許状取得希望者は必ず受講すること。
教育を効果的に進めていく上で、児童生徒と児童生徒を取り巻く環境との相互作用を理解し、実践的な力を養うことが大切です。この授業では、毎回、ワークを取り入れる予定です。教育相談の理論や技法を知り、学校生活において活用できるようになりましょう。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

教育相談と学校カウンセリング

【担当】金子　真理子

■授業概要

この授業では、学校教育相談の意義と理論と方法について学校現場の実際に照らしながら学習する。学校現場で現在起こっていることについて幅広く紹介するとともに、興味・関心を自ら深めていく考え方も学ぶ。教育相談をすべての教師が行う教育活動の一環と捉え、「子どもを育てるカウンセリング」のための態度を学び「自分も育てる」ことを目標とする。またカウンセリングについての基礎的な知識、カウンセリングの諸理論について理解することも目標とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：教育相談の意義・理論・方法を理解する。

目標：実際の教育現場で使える技法を習得し、教育相談を有効利用できるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：教育相談の意義

受講内容について説明する。

教育相談の意義を学ぶ。

学修課題：教育相談の意義について復習しまとめておく。

第２回：教育相談の種類

学校組織における教育相談について理解を深める。

教育相談・カウンセリング・生徒指導の異同について学ぶ。

学修課題：教育相談の種類について復習しまとめておく。

第３回：教育相談の理論と技法

教育相談において必要となる理論を学ぶ。

治療的・予防的・開発的カウンセリングについて学ぶ。

学修課題：教育相談の理論と技法・カウンセリングについて復習しまとめておく。

第４回：教育相談とカウンセリング

教育相談で活用できるカウンセリング技術について学ぶ。

学修課題：カウンセリング技術について復習しまとめておく。

第５回：スクールカウンセラー・校内及び関係機関との連携

スクールカウンセラーの活用、校内・関係機関との連携の際に方法などについて学ぶ。

学修課題：スクールカウンセリングについて復習しまとめておく。

第６回：学級経営に生かす学校教育相談

教育相談的な個及び学級へのアプローチを学ぶ。

学修課題：学級経営に有効な教育相談について復習しまとめておく。

第７回：教師の自己理解

指導・支援につなげる自己理解を学ぶ。

学修課題：自己理解について復習しまとめておく。他に自己理解する方法について調べておく。

第８回：小学校における子どもの問題

小学校における発達の特徴と課題について学び、問題行動について検討する。

学修課題：小学生における子どもの問題について復習しまとめておく。他に起こり得る問題について調べておく。

第９回：中学校・高等学校における子どもの問題

中学校・高等学校における発達の特徴と課題について学び、問題行動について検討する。

学修課題：中学校・高等学校における子どもの問題について復習しまとめておく。他に起こり得る問題について調べておく。

第10回：虐待の理解と支援

虐待の理解と支援について学ぶ。

学修課題：虐待の理解と支援について復習しまとめておく。

第11回：発達障害の理解と支援

発達障害の特徴と支援の方法を学ぶ。

学修課題：発達障害の理解と支援について復習しまとめておく。

第12回：精神疾患の理解と支援

学校現場で遭遇しやすい精神疾患について学ぶ。

学修課題：精神疾患の理解と支援について復習しまとめておく。他の精神疾患についても調べておく。

第13回：保護者への理解と対応

保護者支援という観点から保護者への対応を学ぶ。

学修課題：保護者への理解と対応について復習しまとめておく。

第14回：いじめの問題の理解と対応

学校で起こっているいじめの問題について学ぶ。

学修課題：いじめの問題の理解と対応について復習しまとめておく。

第15回：学校で使えるアセスメント

生徒個別及び学級アセスメントについて学ぶ。

学修課題：学校で使えるアセスメントについて復習しまとめておく。他のアセスメントについても調べておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

学習内容に関するミニレポート（30%）：学習内容についての理解度を評価する。

レポート（70%）：レポート課題について、授業内容を踏まえ、論理的に記述できているか評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

会沢信彦・安齋順子(編著)　2010　教師のたまごのための教育相談

吉本武史(編著)　2000　教師だからできる5分間カウンセリング　学陽書房

「月刊学校教育相談」編集部編　2009　相談活動に生かせる15の心理技法　ほんの森出版

黒沢幸子　2002　指導援助に役立つ　スクールカウンセリング・ワークブック　金子書房

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教育実習指導

【担当】川合　英之・黒澤　寛己

■授業概要

３年次の事前指導において、教職の意義や役割、実習の目的や内容、実習までのスケジュール、保健体育の学習指導案作成についての理解を深め、実際に作成した指導案を基に模擬授業を行う事により各自の学習指導における問題点を明らかにして、教育実習までの学習課題を理解する。４年次の直前指導においては、教育実習に向けての心得や直前の準備等について理解する。事後指導においては、教育実習受け入れ校の教員による講話を伺い、教育実習を振り返り、自らの達成点や今後の課題を明らかにする。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：教育実習の展望　　目標：教育実習の意義、内容、スケジュールなどについて理解できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：保健体育科の指導の実際　　目標：保健体育科の指導の実際保健体育科の指導案づくりや実際の指導法について理解し習熟する。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：学校における教育活動の実際　　目標：教育実習に向けて心得ておかなければならない事項について理解できる。

4．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：教育実践力の理解　　目標：教育職員として求められる資質能力をふまえながら、自分自身が身に付けるべき課題を明確にする。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

第１回：教育職員について
学校教育において教師が果たす役割、教員に求められる資質･能力
学修課題：これまで教職課程で学んできたことを再確認する。

第２回：教育実習の意義
教育実習の意義と目的　教育実習で学ぶこと
教育実習までのスケジュールとやっておくべきこと
学修課題：教育実習ハンドブックを活用し、教育実習に対するイメージや心構えを涵養する。

第３回：指導案の作成について①
体育実技の授業の設計
体育実技の指導案の実際例
指導案の作成における留意点
学修課題：体育実技の指導案の作成法についてまとめておく。

第４回：指導案の作成について②
保健や体育理論の指導案の実際例
指導案の作成における留意点
学修課題：保健と体育理論の指導案の作成法についてまとめておく。

第５回：授業構想と指導案の作成
各自が担当する模擬授業の学習指導案を作成する
学修課題：担当する授業の構想を立て、指導案を作成する。

第６回：模擬授業の実践と省察①
６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。
体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。
学修課題：形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。

第７回：模擬授業の実践と省察②
６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。
体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。
学修課題：形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。

第８回：模擬授業の実践と省察③
６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。
体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。
学修課題：形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。

第９回：模擬授業の実践と省察④
６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。
体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。
学修課題：形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。

第10回：模擬授業の実践と省察⑤
６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。
体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。
学修課題：形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。

第11回：模擬授業の実践と省察⑥
６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。
体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。
学修課題：形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。

第12回：模擬授業のまとめ
６回の模擬授業参加体験で学んだことのまとめと反省
実習までの各自の課題をまとめる
学修課題：反省で明らかになった課題を解決する手立てを考えてまとめておく。

第13回：教育実習に向けての心構え①
教育実習の意義と目的の再確認
教育実習までにやっておくべきことについて
学修課題：実習までにやるべきことをまとめる。

第14回：教育実習に向けての心構え②
直前に準備すること、心構え、事務的な連絡など
学修課題：事前の準備や連絡について再確認しておく。

第15回：教育実習を振り返り、教師の資質について考える
実習生受け入れ校の教員を講師に招き、講話を伺い、考えをまとめる
学修課題：これまでの学びを振り返り、レポートを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします　・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

模擬授業のための指導案（30%）：指導案の完成度について評価する。
模擬授業実施に関するレポート（20%）：模擬授業を行い、学んだことについて、自らの考えを記述できているか評価する。
形成的授業評価とリフレクション（30%）：適切に授業評価とリフレクションができているか評価する。
教育実習指導全体のレポート（20%）：教育実習指導を通して学んだことを振り返り、自らの達成点や今後の課題について記述できているか評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

各学校種の「学習指導要領」「学習指導要領解説　保健体育編・体育編」（文部科学省）
各学校種の保健教科書・各学校種の体育実技テキスト

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
授業の日時、場所については、別途連絡（掲示等）する。
教育実習に関する記録等、指示された提出物を必ず提出すること。
教育実習指導をきちんと受講したと認定された者（出席や提出部の条件を満たしている者）以外は、教育実習に参加することができない。

教育実習Ⅰ（実習期間　3週間以上）

【担当】川合　英之・黒澤　寛己

■授業概要

教育実習校における現場実習を通して、教員になるために求められる資質・能力の習得、向上を図る。保健体育科の授業の設計と教材研究、計画立案、教材開発、学習指導と学習評価、授業観察および授業省察、授業改善を実際の生徒を対象として学ぶとともに、学級（ホームルーム）活動、学校行事、生徒指導、部活動等の指導、生徒理解の方法等に関する実践的な知識や技能の向上を図ることを通して、教職意識の高揚を図り、教職を目指すことの意義について実際体験を通して学ぶ。

■養うべき力と到達目標

１．DP7.自覚、誇り、道徳心
具体的内容：教師の職責の理解
目標：教職の重要性を理解できる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：教師の具体的業務の理解
目標：教師の仕事や役割を理解できる。

３．DP8.スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：生徒指導力・学習指導力
目標：生徒の特性や行動の背景にある思いを理解できる。

４．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：授業実践力
目標：一定水準の授業ができる。

５．DP10.スポーツ学に関する実践力
具体的内容：学級経営力
目標：一定水準の学級経営ができる。

６．DP8.スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：生徒理解力
目標：生徒とよい人間関係を形成できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき１時間）

実習校で３週間以上行われる。
観察・参加・実習という展開過程で行われる。
具体的な内容については、授業や学級経営等の実践が、実習校の指導教員との緊密な連携･協力のもとに計画され、実施される。

学修課題：これまでの教職課程での学びを再確認しておくこと。実習校や生徒に関する情報収集、指導案の作成等、実習を円滑に遂行するために必要なことに取り組むこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

教育実習校による評価（80%）：教育実習に対する取り組みについて、各実習校が評価を行う。
教育実習日誌（10%）：実習内容について適切にまとめられているか評価する。
作成した指導案の達成度（10%）：指導案の達成度について評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

校種別の学習指導要領・学習指導要領解説保健体育編(文部科学省)

■履修上の注意・備考・メッセージ

中学校教員免許状と高等学校教員免許状を取得しようとする者が履修する。
「教育実習指導」（１単位）に出席していない学生は、教育実習に参加することはできない。

教育実習Ⅱ（実習期間　2週間）

【担当】川合　英之・黒澤　寛己

■授業概要

教育実習校における現場実習を通して、教員になるために求められる資質・能力の習得、向上を図る。保健体育科の授業の設計と教材研究、計画立案、教材開発、学習指導と学習評価、授業観察および授業省察、授業改善を実際の生徒を対象として学ぶとともに、学級（ホームルーム）活動、学校行事、生徒指導、部活動等の指導、生徒理解の方法等に関する実践的な知識や技能の向上を図ることを通して、教職意識の高揚を図り、教職を目指すことの意義について実際体験を通して学ぶ。

■養うべき力と到達目標

1．DP7．自覚、誇り、道徳心
具体的内容：教師の職責の理解
目標：教職の重要性を理解できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：教師の具体的業務の理解
目標：教師の仕事や役割を理解できる。

3．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：生徒指導力・学習指導力
目標：生徒指導力・学習指導力生徒の特性や行動の背景にある思いを理解できる。

4．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：授業実践力
目標：一定水準の授業ができる。

5．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：学級経営力
目標：一定水準の学級経営ができる。

6．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：生徒理解力
目標：生徒とよい人間関係を形成できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

各実習校で２週間行われる。
観察・参加・実習という展開過程で行われる。
具体的な内容については、授業や学級経営の実践について、実習校との緊密な協力･連携のもとに、計画され、実施される。

学修課題：これまでの教職課程での学びを再確認しておくこと。実習校や生徒に関する情報収集、指導案の作成等、実習を円滑に遂行するために必要なことに取り組むこと。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

■評価方法

教育実習校による評価（80%）：教育実習に対する取り組み方について、各実習校が評価を行う。
教育実習日誌（10%）：実習内容について適切にまとめられているか評価する。
作成した指導案の達成度（10%）：指導案の達成度について評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編」（文部科学省）

■履修上の注意・備考・メッセージ

「教育実習Ⅱ」（２単位）は高等学校教員免許状のみの取得を目指す者が履修する。
中学校教員免許状を取得しようとする者は「教育実習Ⅰ」（４単位）を履修しなければならない。
「教育実習指導」（１単位）に出席していない学生は、教育実習に参加することはできない。
教育現場での実習であり、実習生活そのものが学修となる。

教職実践演習（中・高）

【担当】川合　英之・黒澤　寛己

■授業概要

第１回目の授業で、履修カルテや教育実習体験の振り返りを通し、今後の学習課題を確認する。第２～７回の授業では、人権教育、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒指導、特別活動、自然体験学習について、その意義や実際、教育の方法等を理解し、課題解決に向けた実際的な対応について学ぶ。第８～14回では、教員としての反省的実践者に必要な資質能力を育むため、教育実習事前指導の保健や体育理論、体育実技の模擬授業に生徒役として参加し、授業観察と授業評価を行う。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：教職に関する知識

目標：生徒指導、人権教育、特別支援教育等の今日的教育課題の現状と対応について理解できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：教職の実践力

目標：保健体育科授業における反省的実践者に必要な資質能力を高めることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：教職実践演習について

授業オリエンテーション、学習カルテや教育実習体験の振り返りにより、各自の学習課題を確認する。

学修課題：各自の学習課題をまとめてレポートを作成する。

第２回：人権教育について

教員経験者による人権教育に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、人権教育に関する課題を明らかにし理解を深める。

学修課題：人権教育についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。

第３回：特別支援教育について

教員経験者による特別支援教育に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、特別支援教育に関する課題を明らかにし理解を深める。

学修課題：特別支援教育についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。

第４回：総合的な学習の時間について

現場教員による総合的な学習の時間に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、総合的な学習の時間に関する課題を明らかにし理解を深める。

学修課題：総合的な学習の時間についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。

第５回：生徒指導について

現場教員による生徒指導に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、生徒指導に関する課題を明らかにし理解を深める。

学修課題：生徒指導についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。

第６回：特別活動について

教員経験者による特別活動に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、特別活動に関する課題を明らかにし理解を深める。

学修課題：特別活動についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。

第７回：自然体験学習について

教員経験者による自然体験学習に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、自然体験学習に関する課題を明らかにして理解を深める。

学修課題：自然な体験学習についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。

第８回：授業演習のためのオリエンテーション

授業演習に関する説明

６班のグルーピングと授業観察評価の役割分担を理解する。

学修課題：授業観察評価法について復習しておく。

第９回：授業演習①

６つの班に分かれて３年生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と観察者として参加する。

体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業観察評価の結果を発表し、検討会を運営する。

学修課題：授業観察記録をまとめ、授業評価の報告書を作成する。

第10回：授業演習②

６つの班に分かれて３年生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と観察者として参加する。

体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業観察評価の結果を発表し、検討会を運営する。

学修課題：授業観察記録をまとめ、授業評価の報告書を作成する。

第11回：授業演習③

６つの班に分かれて３年生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と観察者として参加する。

体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業観察評価の結果を発表し、検討会を運営する。

学修課題：授業観察記録をまとめ、授業評価の報告書を作成する。

第12回：授業演習④

６つの班に分かれて３年生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と観察者として参加する。

体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業観察評価の結果を発表し、検討会を運営する。

学修課題：授業観察記録をまとめ、授業評価の報告書を作成する。

第13回：授業演習⑤

６つの班に分かれて３年生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と観察者として参加する。

体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業観察評価の結果を発表し、検討会を運営する。

学修課題：授業観察記録をまとめ、授業評価の報告書を作成する。

第14回：授業演習⑥

６つの班に分かれて３年生の教育実習事前指導の模擬授業に生徒役と観察者として参加する。

体つくり運動、陸上競技、器械運動、ダンス、保健・体育理論、柔道の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業観察評価の結果を発表し、検討会を運営する。

学修課題：授業観察記録をまとめ、授業評価の報告書を作成する。

第15回：まとめと履修カルテの作成

15回の授業を振り返り、各自の課題を明らかにするとともに、履修カルテを含む大学における教職関連の学びに関するポートフォリオを完成させる。

学修課題：教職実践演習での学びの振り返りをまとめたレポートを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

授業演習での評価シート（30%）：授業内容の理解度を評価シートで評価する。

小レポート（30%）：教育の諸課題に関する研究に参加して身につけた知識をレポートで評価する。

まとめ（40%）：学びの振り返りとしてまとめレポートを用いて、全体的な理解度を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

特になし。適宜資料を配付します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、２単位の科目であるため、平均すると毎４時間の授業外学修が求められる。

１年次から記録している教職ハンドブックの履修カルテに記録した内容を読み返して、自分が４年間に学んできたことを再確認しておくこと。

保健体育科教員としての資格を取るための総まとめの授業である。また、今までに学んできたことの再確認と身につけたことを試す授業でもある。

４年後期の授業となるが、教員免許状取得者としてふさわしい態度で、最後まで気を抜かずに真剣に取り組むこと。

福祉と介護

【担当】森本　創

■授業概要

教員免許取得において社会福祉施設での介護等体験実習は必須であり、そのために必要な福祉と介護に関する基礎的知識を身につけると共に、教師として重要な児童生徒一人ひとりをより深く理解しようとする福祉的態度を養うことを目的とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：社会福祉の歴史と制度、多様性への理解、共生社会

目標：福祉と介護に関する基礎的知識と教師として必要な福祉的態度を身につける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、授業概要および導入（到達目標・評価方法・その他注意点）

・学生自身の社会福祉に関する知識や理解を確認する。
・学生自身の将来の目標とそれに向けての意識を確認する。
・授業の目的と意義を理解し、本授業への動機づけとする。

学修課題：本授業受講の目標を明確にする。

第２回：現代社会における社会福祉の意義と目的

・社会福祉とは何かについて考え、その意義を理解する。
・社会福祉の概念と理念を理解する。
・教師を目指す学生が社会福祉を学ぶことの意義を理解する。

学修課題：社会福祉の概念と理念に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第３回：社会福祉のあゆみ１

・我が国の社会福祉の歩みと到達点を理解する。
・滋賀県の社会福祉の現状と課題への理解を深める。

学修課題：我が国の社会福祉の歩みに関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第４回：社会福祉のあゆみ２

・ヨーロッパの社会福祉の歩みと到達点を理解する。
・我が国と諸外国の社会福祉の特徴を比較し、その違いについて考える。

学修課題：ヨーロッパの社会福祉の歩みに関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第５回：社会福祉の法制度と行財政

・社会福祉の法制度と行政機関を理解する。
・社会福祉財政の現状と課題への理解を深める。

学修課題：社会福祉の法制度と行政機関に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第６回：セーフティネットと生活保護

・生活保護の意義と目的を理解する。
・生活保護の現状と課題についての理解を深める。

学修課題：生活保護の意義と目的に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第７回：子ども家庭福祉と現代社会の課題１

・子ども家庭福祉の法制度と行政機関を理解する。
・子ども家庭福祉の相談機関と施設を理解する。

学修課題：事前に児童福祉施設の種別と役割について調べる。

第８回：子ども家庭福祉と現代社会の課題２

・子ども家庭福祉の現状と課題について理解を深める。
・少子化問題についての理解を深め、その対策を考える。

学修課題：事前に子ども家庭福祉をめぐる問題について調べる。

第９回：高齢者福祉と現代社会の課題１

・高齢者福祉の法制度と行政機関を理解する。
・高齢者福祉の相談機関と施設を理解する。

学修課題：事前に高齢者福祉施設の種別と役割について調べる。

第10回：高齢者福祉と現代社会の課題２

・高齢者福祉の現状と課題について理解を深める。
・高齢化問題についての理解を深め、その対策を考える。

学修課題：事前に高齢者福祉をめぐる問題について調べる。

第11回：障害者福祉と現代社会の課題１

・障害者福祉の法制度と行政機関を理解する。
・障害者福祉の相談機関と施設を理解する。
・主な障害とその特徴を理解する。

学修課題：事前に障害者福祉施設の種別と役割について調べる。

第12回：障害者福祉と現代社会の課題２

・障害者福祉の現状と課題についての理解を深める。
・「障害者権利条約」について学び、その意義や目的を理解する。

学修課題：事前に障害者福祉をめぐる問題について調べる。

第13回：これからの社会福祉のあり方

・これまでの授業を振り返り、我が国の現状と課題への理解を深める。
・「インクルーシブな共生社会」の実現に向けた取り組みについて考える。

学修課題：事前に興味関心のある福祉課題について調べてまとめる。

第14回：介護等体験実習の概要と意義

・介護等体験実習の意義と目的を理解し、実習への動機づけとする。
・介護等体験実習の実習目標について考える。

学修課題：事前に介護等体験実習への思いや目標についてまとめる。

第15回：介護等体験実習の心構えと注意点

・介護等体験実習の基本的心構えと注意点を理解する。
・介護等体験実習における記録の取り方や支援計画の作成について学ぶ。

学修課題：事前に介護等体験実習に対する疑問や質問についてまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、学生にとっては論理的文章を書く練習にもなる。そして次回の授業の最初に、その中から適切なものを紹介しコメントすることで、前回授業の振り返りを行う。

■評価方法

本科目ではすべての授業を受講することを原則とし、原則公休は認めていない。

授業への参加（15%）：積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。

毎回の課題シートの提出による授業理解（45%）：講義内容を理解し、自分の考えを論理的に文章表現できる。

筆記試験またはレポート提出（40%）：課題に対して論考するために必要な基礎的知識を身につけると共に、自分の考えを論理的に述べる。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

『新　社会福祉とは何か』（大久保秀子著　中央法規）

『教師を目指す人の介護等体験ハンドブック』（現代教師養成研究会編　大修館書籍）

『よくわかる社会福祉施設』（社会福祉法人全国社会福祉協議会　図書印刷）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は社会福祉全般についての基礎的知識理解と教師として重要な福祉的態度を養うことを目的としており、常に社会の事象や動向に関心を持つことが大切である。また、与えられた事前課題や次回の授業に向けた予習に取り組むと共に、授業中は自分の意見を発表するなど、積極的に授業に参加することにより、到達目標の達成を目指している。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

特別支援教育論

【担当】多賀谷　智子

■授業概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法あり方についての理解を深めることを目標とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念や仕組みを学ぶ。
目標：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念や仕組みを理解している。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を学ぶ。
目標：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。

３．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を学ぶ。
目標：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につけている。

４．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする生徒に対する支援の方法について具体的な事例から学ぶ。
目標：発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする生徒に対する支援の方法について例示することができる。

５．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について学ぶ。
目標：「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。

６．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：特別支援教育に関する教育課程の枠組み、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を学ぶ。
目標：特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。

７．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携、及び支援体制の構築に関して学ぶ。
目標：特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。

８．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難、及び組織的な対応に関して学ぶ
目標：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション（授業概要と到達目標・評価方法・その他注意点）
・授業概要と到達目標・評価方法について説明する。
・学生自身の障害に対する知識や理解度を確認する。
・本授業の目的と意義を理解し、授業への動機づけとする。
学修課題：事前にシラバスを読んで、本科目の目的と意義について考える。

第２回：特別支援教育の理念と基本的な考え
・特別支援教育とは何かについて考え、その理念と基本的な考え方を理解する。
・教師を目指す学生が特別支援教育を学ぶことの意義を理解する。
・特別支援教育の対象となる児童についての理解を深める。
学修課題：自前に滋賀県の特別支援教育の現状について調べる。

第３回：特別支援教育のあゆみ
・我が国の特別支援教育の歩みと到達点を理解する。
・滋賀県の特別支援教育の現状と課題への理解を深める。
学修課題：資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第４回：特別支援教育の制度と支援システム
・特別支援教育の現行制度を理解する。
・インクルーシブ教育システムについての理解を深める。
学修課題：資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第５回：特別支援教育コーディネーターと個別の指導計画・個別の教育支援計画
・特別支援教育コーディネーターの役割と意義を理解する。
・国際機能分類（ICF)モデルによる障害構造のアセスメントについて学ぶ。
・個別の指導計画・個別の教育支援計画についての理解を深める。
学修課題：事前にLD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)の特性について調べる。

第６回:LD（学習障害)･ADHD（注意欠陥多動性障害）の理解と指導･支援
・LD（学習障害）の特性を理解し、指導・支援方法について学ぶ。
・ADHD（注意欠陥多動性障害）の特性を理解し、指導・支援方法について学ぶ。
・ユニバーサルデザイン化のための環境づくり・授業づくりについて学ぶ。
学修課題：事前に自閉症スペクトラムの特性について調べる。

第７回：自閉症スペクトラムの理解と指導・支援
・自閉症スペクトラムの概念と特性を理解する。
・自閉症スペクトラムの指導・支援方法について学ぶ。
・不適切な行動への対応方法を学ぶ。
学修課題：事前に情緒障害・言語障害の特性について調べる。

第８回：情緒障害・言語障害の理解と指導・支援
・情緒障害の特性を理解し、指導・支援方法について学ぶ。
・言語障害の特性を理解し、指導・支援方法について学ぶ。
・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容について学ぶ。
学修課題：事前に知的障害の特性について調べる。

第９回：知的障害の理解と指導・支援
・知的障害の特性を理解し、指導・支援方法について学ぶ。
・アセスメントの方法及びアセスメントに基づく支援方法について学ぶ。
学修課題：事前に視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱・身体虚弱の特性について調べる。

第10回：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の理解・支援
・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害の特性を理解し、指導・支援方法について学ぶ。
・障害の原因となる主な病気への理解を深める。
学修課題：事前にいじめによる事件について調べる。

第11回：その他特別に支援を必要とする生徒の理解と指導・支援
・不登校やいじめの原因について考え、その対応方法についての理解を深める。
・母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難についての理解を深める。
学修課題：資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第12回：校内支援体制の実際と課題
・特別の教育的ニーズのある生徒への組織的な対応について学ぶ。
学修課題：資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第13回：障害児の発達と心理および保護者との連携
・保護者の障害受容とストレスについての理解を深める。
・保護者支援についての理解を深める。
・家族との連携についての理解を深める。
学修課題：資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第14回：専門機関や地域との連携
・各専門機関の役割と意義を理解する。
・専門機関や地域との連携についての理解を深める。
学修課題：資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。

第15回：進学支援・就労支援と連携
・高等教育機関への進学支援についての理解を深める。
・就労支援についての理解を深める。
・成人・高齢者への支援についての理解を深める。
学修課題：教育現場においてどのように活用できるかを中心にまとめましょう。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
本科目では毎回授業の最後に、講義内容に関する課題シートを提出しなければならない。これは、授業者が授業内容の理解度を把握すると共に、学生にとっては論理的文章を書く練習にもなる。そして次回の授業の最初に、その中から適切なものを紹介しコメントすることで、前回授業の振り返りを行う。

■評価方法

本科目ではすべての授業を受講することを原則としている。したがって、15回の小レポートは必修課題である。規定回数以上の出席および、小レポートの提出がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。
授業への参加（５％）：積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。
各回の授業内小レポート（45％）：各回３点×15回　講義内容を理解し、自分の考えを論理的に文章表現できる。
期末テスト（40％）：課題に対して論考するために必要な知識を身につけると共に、自分の考えを論理的に述べる。
発表（10％）：ピア評価を取り入れる。調べた内容を理解し、わかりやすく伝えられているかで評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

柘植雅義他編「はじめての特別支援教育」　有斐閣アルマ
柘植雅義監修「キーワードでわかるはじめての特別支援教育」学研
辻　誠一著「学生・若手教師のための実践特別支援教育テキストブック」教育開発研究所
文部科学省「学習指導要領」

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は特別支援教育全般についての知識理解と教師として重要な「インクルーシブな共生社会」の実現を積極的に担う人材を育成することを目的としており、常に教育をめぐる事象や動向に関心を持つことが大切である。また、与えられた事前課題や次回の授業に向けた予習に取り組むと共に、授業中は自分の考えを発表するなど、積極的に授業に参加することにより、到達目標の達成を目指している。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

英語Ⅰ　【担当】亀本　真朱・堀　まとか・三木　訓子

■授業概要

英語Ⅰ－communication and writing courseでは、スピーキング・リーディング・ライティング・リスニングを通して、自己表現力の向上と異文化の理解を目指します。
テキストを使って、自分自身について話したりクラスメートとの会話や身近な話題についての英作文をしたりしながら、語彙力と文法力を固めます。
また、テキスト以外にもコラムや映像などの教材を使い、日本文化を英語で紹介したり、世界の文化や時事問題において自分の意見を述べ、議論につなげる練習をします。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：英語コミュニケーション能力
目標:文章を読んだり聞いたりできる語彙力･文法力をつける。読んだり聞いたりした内容に対して自分の意見を口頭･文面で述べることができる。日常的な話題に関して短い英作文ができる。異文化意識を高める。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：Course Introduction / Self Introduction
授業概況、評価方法、使用テキストなどの説明、自己紹介
学修課題：英語での自己紹介を完成させ、練習する。テキストの目次に目を通し、学習項目を確認。

第２回：Unit１
Unit１：Welcome to L.A.
初対面の挨拶
学修課題：初対面の挨拶について復習する

第３回：Unit２
Unit２：I love Fruit!
好きな食べものについて話そう
学修課題：好きな食べものについて復習する

第４回：Unit３
Unit３：Campus Life
キャンパスライフ
学修課題：キャンパスライフについて復習する

第５回：Unit４
Unit４：Lunchtime
ランチタイムの会話
学修課題：ランチタイムの会話について復習する

第６回：Topic１
Topic１：Activities based on a sport related topic
学修課題：Activities based on a sport related topicについて復習する

第７回：Toppic２
Topic２：Activities based on a culture related topic
学修課題：Activities based on a culture related topicについて復習する

第８回：Unit５
Unit５：First Date
デートについて話そう
学修課題：デートについて復習する

第９回：Unit６
Unit６：Where's Linda?
居場所を尋ねる
学修課題：居場所を尋ねる方法について復習する

第10回：Unit７
Unit７：Andy's News
いいことがあった時
学修課題：いいことがあった時の会話について復習する

第11回：Unit８
Unit８：Shopping in Santa Monica
ショッピングに行こう！
学修課題：ショッピングについて復習する

第12回：Topic３
Topic３：Activities based on a culture related topic
学修課題：Activities based on a culture related topicについて復習する

第13回：振り返りと確認テスト
授業のポイントを確認し、理解度を評価する
学修課題：これまでの学修内容を復習する

第14回：Presentation Ⅰ
presentation Ⅰ
前期プレゼンテーション
学修課題：プレゼンテーションの準備

第15回：確認テストのふりかえり、前期まとめ、夏休み課題の提示
確認テストのふりかえり、前期の学習内容をまとめるとともに、夏休み期間中に取り組む課題を提示する
学修課題：夏休みの課題

第16回：Review / Warm up
Review：Unit１～８
Talking about your summer vacation
学修課題：Unit１～８の音声を使って発声練習

第17回：Unit９
Unit９：Moving Day
引越しの日
学修課題：引越しの日について復習する

第18回：Unit10
Unit10：A Beautiful View
来たことがある？
学修課題：来たことがある？について復習する

第19回：Unit11
Unit11：Sunday Fun
遊園地で
学修課題：遊園地でについて復習する

第20回：Topic４
Topic４：Activities based on a sport related topic
学修課題：Activities based on a sport related topicについて復習する

第21回：Topic５
Topic５：Activities based on a culture related topic
学修課題：Activities based on a culture related topicについて復習する

第22回：Unit12
Unit 12：Seeing Stars
ハリウッド！
学修課題：ハリウッド！について復習する

第23回：Unit13
Unit13：Buying Food for a BBQ
バーベキューの買い物
学修課題：バーベキューの買い物について復習する

第24回：Unit14
Unit14：Putting on a New Face
メイクアップ
学修課題：メイクアップについて復習する

第25回：Unit15
Unit15：Nice Surprises
選ばれたよ！
学修課題：選ばれたよ！について復習する

第26回：Topic６
Topic６：Activities based on a sport related topic
学修課題：Activities based on a sport related topicについて復習する

第27回：Topic７
Topic７：Activities based on a culture related topic
学修課題：Activities based on a culture related topicについて復習する

第28回：Presentation Ⅱ
Presentation Ⅱ
後期プレゼンテーション
学修課題：について復習する

第29回：振り返りと確認テスト
後期の内容の総復習および評価
学修課題：後期の内容の総復習する

第30回：後期まとめ、一年間の復習
後期（Weeks16～29）のまとめと前週の確認テストの内容を受けて、一年間の英語学習の復習を行う
学修課題：一年間を総復習する

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
原則として毎回出席すること。
授業中に提示する複数の課題（40%）：授業内でのワークへの積極的参加と提出物の完成度における評価
スピーキング・プレゼンテーション（40%）：授業内で指摘した注意点に留意してスピーキングができているか、また積極的に発話できているか
確認テスト（20%）：授業内容の理解度

■教科書
Robert Hickling, Misato Usukura　・We Love L.A.!　・金星堂　・2018年
英和辞典（電子辞書可）

■参考文献等
特になし

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
辞書は、毎回の授業に必ず持参して下さい。

英語Ⅱ　【担当】Steve Jugovic, Kieran Green, シルバ 寿子

■授業概要

受講生は、ペアやグループなどで日常的な話題についてクラスメートとコミュニケーションします。自ら話し、書き、読むことが求められます。授業を通して、英語でのコミュニケーション能力を向上させます。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：英語でのコミュニケーションスキルの習得

目標：英語での基本的な会話力、基本的な読解力を身につけること。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション　授業におけるコミュニケーション活動の紹介

オリエンテーション

学修課題：Introductions- questions and answers about your classmate

自己紹介 - クラスメートに関する質問と回答

第２回：「あなたと私」：テキストp.６-９

自己紹介

学修課題：vocabulary and questions about you

あなたに関する質問とボキャブラリー

第３回：「あなたと私」：テキストp.10-13

日々のいろいろな場面について英語で表現する。

学修課題：vocabulary and questions about your family

あなたの家族に関する質問とボキャブラリー

第４回：「よい仕事」：テキストp.14-17

「仕事」に関する言葉を学ぶ。

学修課題：vocabulary and questions about jobs

仕事に関する質問とボキャブラリー

第５回：「よい仕事」：テキストp.20-21

時間に関する表現を用い、仕事について話す。

学修課題：questions about jobs and your future job

仕事や将来の仕事に関する質問

第６回：「よく学びよく遊べ」：テキストp.24-25,29

when, what, why, who, howを用いて状況を説明する。

学修課題：questions about time

時間についての質問

第７回：「E-mail入門：挨拶」

E-mail:趣味やスポーツなどをこれまでに学んだことをもとに説明する。

学修課題：writing short sentences about yourself

自分自身についての短い文章を書く

第８回：「E-mailの読み書き課題」

これまでに学んだ内容についてテストを行う。

学修課題：review notes and the textbook from week 2

2週目のノートと教科書を復習

第９回：「どこに住むのか」

“There is…”, “There are…” などの場所をあらわす言葉を用いて文章を作る。

学修課題：think of some questions and practice saying numbers

いくつかの質問を考え、数字を練習する

第10回：「自分を乗り越える」：テキストp.38-40,44-45

can, can’t, could, and couldn’t などの言葉を用いて文章を作る。

学修課題：think of some questions in the past and future, and polite requests

過去と未来についてのいくつかの質問と丁寧な要望の伝え方を考える

第11回：「人生山あり谷あり」：テキストp.48-49

短文を読み、課題を完成させる。

学修課題：practice-　What did you do? questions

練習 - あなたは何をしましたか？ の質問

第12回：「人生山あり谷あり」：テキストp.52-53

日付や月に関する言葉を用いて文章を作成する。

学修課題：make a list of vocabulary for feelings

感情を表現するための語彙のリストを作る

第13回：「E-mail：夏休みの計画を述べる」

E-mail：夏休みの計画を文章にする。

学修課題：review for test

テストの復習

第14回：「E-mail：教師の課題に回答する」

E-mail：課題に回答する

学修課題：practice writing sentences

文章を書く練習

第15回：まとめ

前期のまとめを行う

学修課題：practice writing sentences for a short diary

短い日記のための文章を書く練習

第16回：「夏休みの報告」：会話

夏休みの出来事を英語で表現する。

学修課題：check your homework diary and summer vacation questions

宿題の日記や夏休みについての質問をチェックする

第17回：「E-mail：夏休みの報告」：テキストp.55-56,61

E-mail：夏休みの出来事を文章で表現する。

学修課題：think about special occasions and make a list

特別な機会を考えてリストを作る

第18回：「食べること」：テキストp.62-64

食に関する言葉を用いて文章を作成する。

学修課題：research about ordering food in other countries

他の国での料理の注文の仕方に関する調査をする

第19回：「食べること」：テキストp.65,68-69

料理に関する言葉や、買い物時に使う言葉について学ぶ。

学修課題：research daily item vocabulary

日用品に関する語彙を調べる

第20回：「町住まい」：テキストp.71,73,76

E-mail：食に関することを文章にする。

学修課題：practice vocabulary for comparring and search for information about your favorite sportsperson

自分の好きなスポーツ関係者の情報を比較、検索するための語彙を練習する

第21回：「E-mail学習の復習」

E-mail：これまでに作成したE-mailを用いて質問等を行う。

学修課題：check important points of your email and sentences

自分のEメールと文章の重要な点を確認する

第22回：「会話（第16回から第20回の授業を踏まえて）」

E-mail：E-mailに関する質問に答える。

学修課題：speaking practice

スピーキングの練習

第23回：「あなたは誰」：テキストp.80-81

誰が何をしているのか、を聞きとり、また表現する。

学修課題：write questions and answers like the ones in the textbook

教科書にあるような質問と回答を書く

第24回：「あなたは誰」：テキストp.84-85

服に関する言葉を用いて、外見等を表現する。

学修課題：think of many questions to ask about people

人々について尋ねる多くの質問を考える

第25回：「将来の計画」：テキストp.86-87

E-mail：現在や将来の計画について表現する。

学修課題：write about your future plans

自分の将来の計画について書く

第26回：「天候あれこれ」：テキストp.92

天候に関する言葉を使って文章を作成する。

学修課題：research weather vocabulary for asking questions

天候について質問するために必要な語彙を調べる

第27回：「どこまでも」：テキストp.94-95

E-mail：海外旅行について文章を作成する。

学修課題：research travel vocabulary and think of questions

旅行に関する語彙を調べて、質問を考える

第28回：「E-mailの受け取りと発信のまとめ」

E-mailの受け取りと発信のまとめを行う

学修課題：review writing worksheets and textbook

ワークシートと教科書の復習

第29回：「E-mailのまとめ（第23回から第27回の授業を踏まえて）」
E-mailのまとめを行う
学修課題：review writing worksheets and textbook for speaking
スピーキングのためにワークシートと教科書を復習する

第30回：まとめおよび総評
１年間のまとめを行う
学修課題：practice speaking and writing, plus reading and listening to English for enjoyment
英語を楽しんで、話すこと、書くこと、読むこと、聞くことを練習する

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
participation and effort　参加と努力（40%）：コース全体の継続的な評価。課題の成果、ライティング、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ホームワーク、テキストの持参
speaking tests　スピーキングテスト（20%）：テスト×２　各10%：ペアになってさまざまなトピックや状況の受け答えをする　ボキャブラリー、グラマー、スピーキング力、アイコンタクト、ジェスチャー。
presentation/s　プレゼンテーション（20%）：プレゼンテーション×２　各10%：内容、長さ、パワーポイントとポスターを使った努力、スピーキング能力、コミュニケーション力
short paper test/s 小テスト（20%）：授業内容に沿った小テスト（筆記）

■教科書
John Soars & Liz Soars Steve Jugovic　・New Headway Elementary　・Oxford University Press　・2007年
materials designed by the teacher

■参考文献等
英語のスキル、特にリスニングスキルを向上させるため、以下のサイトを使います。
www.er-central.com. 簡単な物語の読解
http://www.eigotown.com/eigocollege/ 5分間のTOEIC練習
http://esl-lab.com/ リスニング
www.manythings.org
http://a4esl.org
http://www.eslcafe.com/students/

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。
生徒は授業にテキストブックを持参してください。
授業ではアクティビティに尽力してクラスメートと英語でコミュニケーションする努力をしてください。
英語でのコミュニケーション力は、将来のあなたにとってとても強い力になります。通常の英語の勉強に加え、できるだけ英語の映画や音楽を見たり聴いたり、興味のある内容の英語のウェブサイトを見たりして、自分が楽しめる内容の英語に触れてください。ぜひ英語サークルに参加して、気軽に私に話しかけたり、アドバイスを受けたりしてください！

スポーツ学入門Ⅱ（各論）

【担当】学部長／他

■授業概要

この授業は、本学における「スポーツ学科各コース」に関する教育研究の入門的な授業である。コースの特徴に基づいたスポーツの位置づけを、コースを超えてクロスオーバーさせて理解させることを目的とし、全コース教員の専門的立場から、各コースにおけるスポーツの課題や問題点・現代的動向とトピックなどをテーマとして講義する。この授業は、学生が明確化を図る糸口となる役割も担う。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：全コース教員の専門的立場から、各コースにおけるスポーツの課題や問題点・現代的動向とトピックなどをテーマとして講義する。

目標：各コースの特徴を理解し、今後専門分野の絞り込みに向けた自己の学問的指向性を明確にし、専門的な研究の準備を始めることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：学科・コースガイダンス　学科長、教務担当者

総論：各コースの特徴を概説し次回からの各論の展開に向け、概念の理解と相互の関連について解説する。また次回からの担当者とスケジュールについて告知する。

学修課題：スポーツに関する自己の志向性とその理由についてまとめる

第２回：野外スポーツの考え方

各論：野外スポーツの見地から、野外スポーツの教育や社会的役割を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（野外スポーツの社会的役割）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第３回：野外スポーツの実践

各論：野外スポーツの見地から、野外スポーツの研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（野外スポーツの研究動向）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第４回：野外スポーツの研究

各論：野外スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（野外スポーツ理論の活用）について、指定の書式に従ってレポートを作成する

第５回：人はなぜスポーツに取り組むのか、生涯スポーツの考え方

各論：地域スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（生涯スポーツ）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第６回：地域コミニティにおけるスポーツの役割

各論：地域スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（地域コミュニティとスポーツの関係）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第７回：年齢に応じた生涯スポーツ

各論：地域スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（高齢者のスポーツ）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第８回：「障害」と「スポーツ」

各論：地域スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（障がい者のスポーツの現状）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第９回：人の健康とスポーツ

各論：地域スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（スポーツによる健康障害）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第10回：教育現場における運動指導とは

各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（学校教育における運動指導）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第11回：保健体育教員と学校における役割

各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（保健体育科教員の任務）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第12回：運動学と体操競技

各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（運動学の動向）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第13回：保健の授業づくり

各論：学校スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（保健の授業案）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第14回：健康づくりのトレーニング

各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（トレーニングの必要性）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第15回：アスリート支援におけるトレーニングと医科学の役割

各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（トレーニングに果たす医科学）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第16回：食事から始まるアスリートの体作り

各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（アスリートを支える食事・栄養）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第17回：運動ストレスとリカバリー

各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（運動ストレスからの脱却）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第18回：スポーツにおけるコーチングとは

各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（コーチの役割）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第19回：コーチングの理論

各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（コーチの手法）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第20回：コーチングの実際

各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題:授業時に提示されたキーワード（コーチと競技）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第21回：アスリートのコーチング

各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（アスリートの指導）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第22回：スポーツにおけるコーチングの現状と課題

各論：スポーツコーチングの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（コーチングの課題）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第23回：パフォーマンス分析ことはじめ

各論：スポーツ情報戦略の見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（パフォーマンス研究）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第24回：スポーツバイオメカニクスを用いた情報分析

各論：スポーツ情報戦略見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。

学修課題：授業時に提示されたキーワード（スポーツバイオメカニクス）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する

第25回：情報の収集とフィードバック
各論：スポーツ情報戦略の見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。
学修課題：授業時に提示されたキーワード（スポーツ情報戦略）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する
第26回：スポーツマーケティング
各論：スポーツビジネスおよびマネジメントの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。
学修課題:授業時に提示されたキーワード（スポーツマーケティング）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する
第27回：スポーツジャーナリズム
各論：スポーツビジネスおよびマネジメントの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。
学修課題：授業時に提示されたキーワード（スポーツジャーナリズムの機能）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する
第28回：スポーツ需要とスポーツ市場
各論：スポーツビジネスおよびマネジメントの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。
学修課題：授業時に提示されたキーワード（スポーツマーケット）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する
第29回：その他のスポーツ関連分野に関する各論（特別講義）
本学客員教授による特別講義を聞き、コース関連分野の新たな知見や取り組みについて学ぶ。
学修課題：授業時に提示されたキーワードを用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する
第30回：まとめ
すべての講義を受け全体を振り返り、自身の学問的志向性をまとめる。コース選択の手続きについて確認し、コース選択を行う。
学修課題：指定の書式に従って授業内容を総括してレポートを作成する

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
■評価方法
授業ごとの課題レポート（100%）：内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づいて評価します
■教科書
特に指定しない
■参考文献等
スポーツ学のすすめ　大修館書店
■履修上の注意・備考・メッセージ
この授業の成績は、２年次から所属するコース選択のためにとても重要です。
現在興味が無い分野でも、毎時登壇される教員の専門分野にも目を向け、スポーツ分野の視点を広げ、自身が専門として学ぶ領域や学際的領域について理解を深めましょう。
本講義の単位の修得が出来なければ、２年次からのコース所属と３年次以降のコース専門科目の履修が認められなくなります。
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツ基礎演習　【担当】野外スポーツコース教員

■授業概要

学生が、野外スポーツ・野外教育の基礎的な知識を身につけることを目的とする。具体的には、野外スポーツとは何かが包括的に述べられ、野外スポーツコース専門科目での学修・スキルの到達目標がイメージできると同時に、野外スポーツの専門的知識の習得およびスキルの獲得を目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：野外スポーツに関する基礎的な知識

目標：インターネットや書籍などの情報をもとに、野外スポーツについての概念や知識を理解できる

２．DP11.忠恕の心

具体的内容：野外活動を通したコース内での一体感の醸成

目標：キャンプや登山活動を通して集団の帰属意識や規範を学ぶ

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業の概要・野外スポーツの定義の確認

本授業の概要について説明するとともに、野外スポーツに関連する定義を確認する。

学修課題:野外スポーツに関連した定義の復習を行い、理解を深める。

第２回：野外スポーツと野外活動、野外教育

野外スポーツに関連する領域を理解し、野外スポーツの位置づけについて学修する。

学修課題：学生が野外スポーツにおける基礎的知識及び技術を身につけられるようになり、特に教育的意義としての野外スポーツについて理解を深める。

第３回：野外スポーツのプログラム

野外スポーツのプログラムはどのように構成されているのか、その教育的意義や背景について学修する。

学修課題:教育的意義とその背景についての復習を行い、理解を深める。

第４回：野外スポーツの指導者、指導者養成

野外スポーツ、とりわけ教育的効果を狙ったプログラムに関わる指導者に焦点を当て、指導者の役割と、その養成現場の現状や課題について触れる。

学修課題：野外教育のプログラム例を調べ、課題に沿った観点から理解を深める。

第５回：野外スポーツの場（施設、自然環境）

野外スポーツが実施される場について、公的施設をはじめ、それが実施される自然環境について学修する。

学修課題：野外教育のプログラム例を調べ、課題に沿った観点から理解を深める。

第６回：仲間づくり野外ゲームの理論

スポーツチーム作りや企業研修など多様な場面で活用される仲間づくり野外ゲーム（ASE)についての理論を学修する。

学修課題：野外教育のプログラム例を調べ、課題に沿った観点から理解を深める。

第７回：仲間づくり野外ゲームの導入

仲間づくり野外ゲームの導入として行われるアイスブレーキングアクティビティを実践し、その効果や指導法について学修する。

学修課題:アクティビティの内容についてグループごとで評価を行う。

第８回：仲間づくり野外ゲームの展開

仲間づくり野外ゲームの展開として、コミュニケーション・信頼・問題解決能力に焦点を当てた活動を実践し、その効果や指導法について学修する。

学修課題：仲間づくり野外ゲームの内容についてグループごとで評価を行う。

第９回：仲間づくり野外ゲームの応用

多様な目的やフィールド・対象に即して仲間づくり野外ゲームを応用できるように、アクティビティデザインについて学修する。

学修課題：アクティビティデザインしたものについて評価を行う

第10回：仲間づくり野外ゲームの評価

仲間づくり野外ゲームの効果を測定する評価方法について学修する。

学修課題：仲間づくり野外ゲームについての評価を行う。

第11回：ベーシックキャンプスキルの理解

キャンプ活動を行う上で必ず必要となるスキルについて学修する。

学修課題：プログラム実施に向けた準備を行う。

第12回：キャンプ計画・準備

安全で楽しく、環境に配慮したキャンプの計画について学修し、実践に向けた準備を行う。

学修課題：必要な装備の計画を立てる

第13回：キャンプ実践-テント設営

キャンプ活動を行うためのテントや食事場所の設営を実践を通して学修する。

学修課題：必要な食事についての計画を立てる

第14回：キャンプ実践-食事作り

環境に配慮した火の管理方法を学び、キャンプ用具を用いた食事つくりを実践を通して学修する。

学修課題：調理した食事のグループ間評価を行う。

第15回：キャンプ実践-ナイトプログラム

夜の自然環境を活かしたナイトプログラムについて実践を通して学修する。

学修課題：ナイトプログラムの評価を行う。

第16回：キャンプ評価

キャンプの効果を測定する評価方法について学修する。

学修課題：報告書を作成する

第17回：環境教育プログラムの理論

環境教育の目的や理論・歴史について学修する。

学修課題：環境教育に関する理解を深める。

第18回：スポーツ現場についてのパネルディスカッション

スポーツ現場についてのパネルディスカッションを聴き、自身の選択に役立てる。

学修課題：自身の興味のあるスポーツ現場の業種や仕事内容についてまとめる。

第19回：ネイチャーゲームの実践

代表的な環境教育プログラムであるネイチャーゲームについてその実践から学修する。

学修課題：ネイチャーゲームについての理解を深める

第20回：森のプログラムの実践

森について理解を深める環境教育プログラムについてその実践から学修する。

学修課題：森のプログラム実施に向けた準備を行う。

第21回：環境教育プログラムの評価

環境教育プログラムの効果を測定するための評価方法について学修する。

学修課題：環境教育プログラムについての報告書を作成する。

第22回：スポーツ現場の専門性を活かせる業種や業務

大学で学修した専門性を活かせるような業種や業務には、どのようなものがあるのか学ぶ。

学修課題：特定のスポーツ現場を希望する理由や、そこで活かせる自身の強み（自己PR）についてまとめる。

第23回：冒険教育プログラムの理論

冒険教育プログラムの目的や理論・歴史について学修する。

学修課題：冒険教育プログラムについて調べ、理解を深める。

第24回：冒険教育プログラムの計画・準備

冒険教育プログラムの代表的な活動である登山をとりあげ、安全で効果的な活動計画について学修し、準備を実践する。

学修課題：冒険教育プログラム実施に向けた準備を行う。

第25回：冒険教育プログラム実践・リスクマネジメント

登山の基礎技術（パッキング、歩き方、ナビゲーションなど）について、実践から学習する。

安全で楽しい実践を行い、また緊急時にも対応できるように、冒険教育プログラムにおけるリスクマネジメントについて実践を通して学修する。

学修課題：リスクマネジメントの理解を深める。

第26回：冒険教育プログラムの評価

冒険教育プログラムの効果を測定する評価方法について学修する。

学修課題：冒険教育プログラムについての報告書を作成する。

第27回：スポーツ現場における社会人マナー、ＳＮＳについて

社会人としてのマナーやＳＮＳ使用上の注意点などを学ぶ。

学修課題：学習内容を基に、スポーツ現場での対応方法をまとめる。

第28回：個人別課題の提示と取り組み
多様な体験を経て、自分と野外との関係について考え、エッセイ（レポート）にまとめる。
学修課題：エッセイ（レポート）を完成させる。

第29回：個人別課題の発表
各自のエッセイ（レポート）を発表し、多様な価値観を分かち合う。
学修課題：エッセイの発表の準備を行う。

第30回：まとめ
多様な野外体験から得られた学習をまとめ、今後の各自の課題を明確にする。
学修課題：野外スポーツに関連した各自の課題をレポートにまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
課題（野外プログラムに関するレポート）および発表（40%）：レポートの内容や発表を通し、野外スポーツの理解度を評価する。
実践課題の達成度および報告書の提出とその内容評価（40%）：実践課題の達成度や報告書の内容について、野外スポーツの理解度を評価する。
グループ課題（20%）：個人での課題とその課題をもとにグループでの課題についての取り組みを評価する

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
授業中に適時、紹介していきます

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

野外スポーツ演習

【担当】中野　友博

■授業概要

本演習は、野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：野外スポーツに関する先行研究の概観

目標：野外スポーツに関する学術的理解を深める

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習

目標:研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究実践のスキルを身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業概要説明および「研究」とは

授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。

学修課題：卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。

第２回：野外スポーツ関連研究の概観

各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。

学修課題：抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。

第３回：個人別課題発表-前半

各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。

学修課題:発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第４回：個人別課題発表-後半

前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。課題遂行と他の発表を聞き、理解することから、野外スポーツ関連研究の動向を理解する。

学修課題：発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第５回：研究とは？変数とは？

これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。

学修課題：授業の復習を行い、理解を深める

第６回：データ分析における基本知識の習得-尺度

データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。

学修課題:尺度について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第７回：データ分析における基本知識の習得-検定

データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。

学修課題：検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第８回：データの分析方法－データ入力

実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。

学修課題：授業の復習を行い、データ入力を完成させる。

第９回：データの分析方法－分析の実際

入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。

学修課題：授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。

第10回：データの分析方法-分析の種類

多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。

学修課題：例題に取り組む。

第11回：結果のまとめ方－結果の理解

分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。

学修課題：課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。

第12回：結果のまとめ方－結果の考察

考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。

学修課題：各自の分析結果を考察と共にまとめる。

第13回：結果のまとめ方－結果と考察のまとめ

各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。

学修課題：課題の発表に対する評価を受け、ふりかえる。

第14回：データ分析法のまとめ

データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。

学修課題：課題を各自で完成させる。

第15回：前期の学習のまとめ

前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。

学修課題：各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。

第16回：研究方法①観察法

研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。

学修課題：まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。

第17回：研究方法②質問紙法

野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。

学修課題：授業の復習、例題に取り組む。

第18回：研究方法③面接法

質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。

学修課題：インタビューデータを整理し、まとめる。

第19回：研究方法④実験研究

実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。

第20回：研究方法⑤文献研究

文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。

第21回：文献検索の方法

インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。

学修課題：学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。

第22回：論文構成

例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。

学修課題：構成を理解し、選んだ論文を読み進める。

第23回：先行研究のまとめ①

各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。

学修課題：各自課題に取り組む。

第24回：先行研究のまとめ②

ゼミ毎にて指導を受け、各自の文献レビューをまとめる。

学修課題：レビュー結果から、仮説や課題を考える。

第25回：信頼性・妥当性

研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。

学修課題：授業を復習し、例題に取り組む。

第26回：研究デザイン
これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。
学修課題：自分のテーマに即したデザインを考える。

第27回：研究プロポーザル考案
プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。
学修課題：テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。

第28回：研究プロポーザル作成
フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。
学修課題:研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。

第29回：個人発表－前半
各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

第30回：個人発表－後半
前回に引き続き、プロポーザルの発表を行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
課題・レポート（30%）：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表（40%）：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト（30%）：研究法についての知識の理解を評価する。

■教科書
田中敏・山際勇一郎　・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法　・教育出版　・1989年

■参考文献等
随時配布・紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本実習をとして、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

野外スポーツ演習

【担当】黒澤　毅

■授業概要

本演習は、野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：野外スポーツに関する先行研究の概観

目標：野外スポーツに関する学術的理解を深める

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習

目標:研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究実践のスキルを身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業概要説明および「研究」とは

授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。

学修課題：卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。

第２回：野外スポーツ関連研究の概観

各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。

学修課題：抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。

第３回：個人別課題発表-前半

各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。

学修課題:発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第４回：個人別課題発表-後半

前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。課題遂行と他の発表を聞き、理解することから、野外スポーツ関連研究の動向を理解する。

学修課題：発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第５回：研究とは？変数とは？

これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。

学修課題：授業の復習を行い、理解を深める

第６回：データ分析における基本知識の習得-尺度

データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。

学修課題:尺度について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第７回：データ分析における基本知識の習得-検定

データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。

学修課題：検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第８回：データの分析方法－データ入力

実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。

学修課題：授業の復習を行い、データ入力を完成させる。

第９回：データの分析方法－分析の実際

入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。

学修課題：授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。

第10回：データの分析方法-分析の種類

多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。

学修課題：例題に取り組む。

第11回：結果のまとめ方－結果の理解

分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。

学修課題：課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。

第12回：結果のまとめ方－結果の考察

考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。

学修課題：各自の分析結果を考察と共にまとめる。

第13回：結果のまとめ方－結果と考察のまとめ

各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。

学修課題：課題の発表に対する評価を受け、ふりかえる。

第14回：データ分析法のまとめ

データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。

学修課題：課題を各自で完成させる。

第15回：前期の学習のまとめ

前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。

学修課題：各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。

第16回：研究方法①観察法

研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。

学修課題：まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。

第17回：研究方法②質問紙法

野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。

学修課題：授業の復習、例題に取り組む。

第18回：研究方法③面接法

質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。

学修課題：インタビューデータを整理し、まとめる。

第19回：研究方法④実験研究

実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。

第20回：研究方法⑤文献研究

文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。

第21回：文献検索の方法

インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。

学修課題：学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。

第22回：論文構成

例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。

学修課題：構成を理解し、選んだ論文を読み進める。

第23回：先行研究のまとめ①

各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。

学修課題：各自課題に取り組む。

第24回：先行研究のまとめ②

ゼミ毎にて指導を受け、各自の文献レビューをまとめる。

学修課題：レビュー結果から、仮説や課題を考える。

第25回：信頼性・妥当性

研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。

学修課題：授業を復習し、例題に取り組む。

第26回：研究デザイン
これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。
学修課題：自分のテーマに即したデザインを考える。

第27回：研究プロポーザル考案
プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。
学修課題：テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。

第28回：研究プロポーザル作成
フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。
学修課題:研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。

第29回：個人発表－前半
各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

第30回：個人発表－後半
前回に引き続き、プロポーザルの発表を行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
課題・レポート（30%）：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表（40%）：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト（30%）：研究法についての知識の理解を評価する。

■教科書
田中敏・山際勇一郎　・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法　・教育出版　・1989年

■参考文献等
随時配布・紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本実習をとして、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

野外スポーツ演習

【担当】林　綾子

■授業概要

本演習は、野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：野外スポーツに関する先行研究の概観

目標：野外スポーツに関する学術的理解を深める

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習

目標:研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値・知識を生み出す研究実践のスキルを身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業概要説明および「研究」とは

授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。

学修課題：卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。

第２回：野外スポーツ関連研究の概観

各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。

学修課題：抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。

第３回：個人別課題発表-前半

各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。

学修課題:発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第４回：個人別課題発表-後半

前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。課題遂行と他の発表を聞き、理解することから、野外スポーツ関連研究の動向を理解する。

学修課題：発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第５回：研究とは？変数とは？

これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。

学修課題：授業の復習を行い、理解を深める

第６回：データ分析における基本知識の習得-尺度

データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。

学修課題:尺度について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第７回：データ分析における基本知識の習得-検定

データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。

学修課題：検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第８回：データの分析方法－データ入力

実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。

学修課題：授業の復習を行い、データ入力を完成させる。

第９回：データの分析方法－分析の実際

入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。

学修課題：授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。

第10回：データの分析方法-分析の種類

多用な分析方法について学び、適した分析が用いられるよう学修する。

学修課題：例題に取り組む。

第11回：結果のまとめ方－結果の理解

分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。

学修課題：課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。

第12回：結果のまとめ方－結果の考察

考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。

学修課題：各自の分析結果を考察と共にまとめる。

第13回：結果のまとめ方－結果と考察のまとめ

各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。

学修課題：課題の発表に対する評価を受け、ふりかえる。

第14回：データ分析法のまとめ

データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。

学修課題：課題を各自で完成させる。

第15回：前期の学習のまとめ

前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。

学修課題：各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。

第16回：研究方法①観察法

研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。

学修課題：まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。

第17回：研究方法②質問紙法

野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。

学修課題：授業の復習、例題に取り組む。

第18回：研究方法③面接法

質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。

学修課題：インタビューデータを整理し、まとめる。

第19回：研究方法④実験研究

実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。

第20回：研究方法⑤文献研究

文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。

第21回：文献検索の方法

インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。

学修課題：学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。

第22回：論文構成

例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。

学修課題：構成を理解し、選んだ論文を読み進める。

第23回：先行研究のまとめ①

各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。

学修課題：各自課題に取り組む。

第24回：先行研究のまとめ②

ゼミ毎にて指導を受け、各自の文献レビューをまとめる。

学修課題：レビュー結果から、仮説や課題を考える。

第25回：信頼性・妥当性

研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。

学修課題：授業を復習し、例題に取り組む。

第26回：研究デザイン
これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。
学修課題：自分のテーマに即したデザインを考える。

第27回：研究プロポーザル考案
プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。
学修課題：テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。

第28回：研究プロポーザル作成
フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。
学修課題:研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。

第29回：個人発表－前半
各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

第30回：個人発表－後半
前回に引き続き、プロポーザルの発表を行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
課題・レポート（30%）：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表（40%）：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト（30%）：研究法についての知識の理解を評価する。

■教科書
田中敏・山際勇一郎　・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法　・教育出版　・1989年

■参考文献等
随時配布・紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本実習をとして、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

野外スポーツ演習

【担当】橋本　和俊

■授業概要

本演習は、野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：野外スポーツに関する先行研究の概観

目標：野外スポーツに関する学術的理解を深める

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：野外スポーツ研究の実践に必要な手法の学習

目標:研究遂行に必要なデータ処理能力を付け、研究デザインに必要な知識を付け、新たな価値･知識を生み出す研究実践のスキルを身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：授業概要説明および「研究」とは

授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。

学修課題：卒業生の論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。

第２回：野外スポーツ関連研究の概観

各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。

学修課題：抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。

第３回：個人別課題発表-前半

各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。

学修課題:発表練習を行う、あるいは発表が終わっていれば評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第４回：個人別課題発表-後半

前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。課題遂行と他の発表を聞き、理解することから、野外スポーツ関連研究の動向を理解する。

学修課題：発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる。

第５回：研究とは？変数とは？

これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。

学修課題：授業の復習を行い、理解を深める

第６回：データ分析における基本知識の習得-尺度

データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。

学修課題:尺度について復習を行い､理解を深める｡次回の予習を行う。

第７回：データ分析における基本知識の習得-検定

データ分析における基本的知識として､数値の検定について学習する。

学修課題：検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。

第８回：データの分析方法－データ入力

実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。

学修課題：授業の復習を行い、データ入力を完成させる。

第９回：データの分析方法－分析の実際

入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。

学修課題：授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。

第10回：データの分析方法-分析の種類

多用な分析方法について学び､適した分析が用いられるよう学修する。

学修課題：例題に取り組む。

第11回：結果のまとめ方－結果の理解

分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。

学修課題：課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。

第12回：結果のまとめ方－結果の考察

考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。

学修課題：各自の分析結果を考察と共にまとめる。

第13回：結果のまとめ方－結果と考察のまとめ

各自のまとめた結果、考察について発表し、理解を深める。

学修課題：課題の発表に対する評価を受け、ふりかえる。

第14回：データ分析法のまとめ

データ分析における基本知識とデータ分析方法に関する理解を確認するための課題に取り組む。

学修課題：課題を各自で完成させる。

第15回：前期の学習のまとめ

前回の課題を確認し、前期での学習の評価を行う。

学修課題：各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。

第16回：研究方法①観察法

研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。

学修課題：まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。

第17回：研究方法②質問紙法

野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。

学修課題：授業の復習、例題に取り組む。

第18回：研究方法③面接法

質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。

学修課題：インタビューデータを整理し、まとめる。

第19回：研究方法④実験研究

実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。

第20回：研究方法⑤文献研究

文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。

学修課題：授業の復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。

第21回：文献検索の方法

インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。

学修課題：学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。

第22回：論文構成

例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。

学修課題：構成を理解し、選んだ論文を読み進める。

第23回：先行研究のまとめ①

各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。

学修課題：各自課題に取り組む。

第24回：先行研究のまとめ②

ゼミ毎にて指導を受け、各自の文献レビューをまとめる。

学修課題：レビュー結果から、仮説や課題を考える。

第25回：信頼性・妥当性

研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。

学修課題：授業を復習し、例題に取り組む。

第26回：研究デザイン
これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。
学修課題：自分のテーマに即したデザインを考える。

第27回：研究プロポーザル考案
プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行う。変数の決定、方法の決定を目指す。
学修課題：テーマ設定のための文献検索・読み込みを行う。

第28回：研究プロポーザル作成
フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。
学修課題:研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。

第29回：個人発表－前半
各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

第30回：個人発表－後半
前回に引き続き、プロポーザルの発表を行う。実際に研究を行う上で、何が意義なのか、何が問題なのか、よりよい研究を行うための視点などについて理解する。
学修課題：プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
課題・レポート（30%）：トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。
課題発表（40%）：各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。
授業内小テスト（30%）：研究法についての知識の理解を評価する。

■教科書
田中敏・山際勇一郎　・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法　・教育出版　・1989年

■参考文献等
随時配布・紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
本実習をとして、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

地域スポーツ基礎演習　【担当】地域スポーツコース教員

■授業概要

今日、年齢・性別・障害の有無に関わらずスポーツを楽しめる環境、すなわち「生涯スポーツ社会」の実現を目指して様々な施策や取組みが講じられている。本授業では地域における生涯スポーツ振興に関わる諸課題について学習する。具体的には、地域における様々なスポーツ課題への理解を深めるため、地域の情報収集（人口動態、文化的特性、気候等）から特性を把握し、それを踏まえてスポーツ振興を図るためのイベント企画と運営を行う。それらを通じてより地域スポーツの専門的な学びを深めていくことを目標とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：生涯スポーツ振興に関する理解

目標：生涯スポーツ振興に関わる諸施策・制度、その現状について理解することができる。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：地域住民に対する理解

目標：地域における対象別（子ども・高齢者・障害者・女性等）のスポーツの現状・課題を理解することができる。

３．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：地域におけるスポーツ企画の展開

目標：地域スポーツに関する知識を活用し、それを地域に還元するための企画等を展開することができる。

4．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：他者との協働

目標：課題達成に向け、他者と協力および協働することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス①（地域とスポーツの関係性）

本授業の目的および到達目標、各教員の講義概要について概説する。

学修課題：配付資料を読み、授業概要と教員の研究領域について理解する

第２回：地域におけるスポーツの重要性と課題①

地域スポーツの歴史的変遷、総合型スポーツクラブの設立とその影響等、生涯スポーツの振興に向けた現状と課題を概説する。

学修課題：総合型地域スポーツクラブに関する資料にあたり、その成立ちや機能について理解しておく。

第３回：地域スポーツの現状と課題②

スポーツ基本法の制定や東京オリンピック・パラリンピック開催等の話題から、これからの生涯スポーツ振興の方向性やその課題について概説する。

学修課題:スポーツ基本法とのスポーツ法制の現状について把握する。

第４回：地域における健康づくり

地域における健康づくりの重要性、特に高齢者におけるスポーツの役割を概説する。

学修課題：配布資料を読み、健康づくり特に高齢者におけるスポーツの重要性を理解する。

第５回：子どもとスポーツ

子どもの運動・スポーツ実施の現状および課題について概説する。

学修課題：配布資料からこどもの体力低下やその対策、学校体育の現状を把握する。

第６回：地域保健とスポーツ

ライフステージ別のライフスタイルと生活習慣病の関連性および、運動・スポーツがそれらに及ぼす影響について概説する。

学修課題：運動・スポーツと生活習慣病との関係性適切に理解する。

第７回：障害者とスポーツ

生涯スポーツ」としての障害者スポーツの現状および課題について概説する。

学修課題：障害をもつ人のスポーツ環境（施設・プログラム等）について適切に理解する。

第８回：地域の調べ学習ガイダンスとグループ分け

地域においてスポーツ振興を図るうえで、その地域の特性（人口動態、気候、地域性等）を学習することは非常に重要である。ガイダンスでは地域の調べ学習として資料の入手方法等について説明する。

学修課題：調べ学習に必要な情報入手方法等について理解する。

第９回：地域の調べ学習①

グループごとに調べるテーマを設定し、それについて各自資料の探索、収集を行う。

学修課題：書籍、テレビや新聞、ネット上情報等を取り上げ、各自の情報をまとめる。

第10回：地域の調べ学習②

グループごとに前回授業「地域の調べ学習①」で収集した資料を持ち寄り、不足している情報や資料を探索、収集する。

学修課題：書籍、テレビや新聞、ネット上情報等を取り上げ、各自の情報をまとめる。

第11回：地域の調べ学習③

グループごとに前回授業「地域の調べ学習②」で収集した資料を持ち寄り、不足している情報や資料、さらに地域を深堀する際に必要な情報を探索、収集する。

学修課題：地域の特性等を的確に伝えるため、発表資料を適切にまとめる。

第12回：地域の調べ学習④

グループごとに前回授業「地域の調べ学習③」で収集した資料を持ち寄り、地域を深掘する際に必要な情報を探索、収集する。さらに、集めた資料を発表するための資料づくりを行う。

学修課題：これまで調べた内容をわかりやすく伝えるための発表準備をおこなう。

第13回：地域の調べ学習（グループ発表）

地域の調べ学習①～④までに収集した資料を用いて、グループ発表を行う。

学修課題：各グループ発表を聞き、その地域の特性等について深く理解する。

第14回：地域イベントのガイダンスとグループ分け

地域においてスポーツ振興を図るうえで、イベントの実施は有効な手段といえる。ガイダンスでは地域イベントの企画と運営について説明し、以後の授業内容について説明する。

学修課題：地域のスポーツ振興におけるイベントの重要性について理解する。

第15回：地域イベントの実施①

後期授業において実施する地域イベントについて、各グループで企画の概要を決めるためのディスカッションを行う。

学修課題：地域に必要なイベントとは何か地域の課題を踏まえて理解する。

第16回：地域イベント実施・運営に関するガイダンス

地域イベントを実際に企画・運営するために必要な事項（費用、イベント場所の設定、日程等）について説明し、具体的なイベント企画の説明等を行う。

学修課題：前期中に探索した情報を集め、グループで企画の概要を考える。

第17回：地域スポーツコース教員によるスポーツ専門領域の紹介①

地域スポーツコース各教員による専門領域に関する講義を行う。

学修課題:地域スポーツを理解する上で重要な専門的知識を習得する。

第18回：スポーツ現場における社会人マナー

社会人としてのマナーやＳＮＳ使用上の注意点などを学ぶ。

学修課題:学習内容をもとに、スポーツ現場での対応方法をまとめる。

第19回：地域スポーツ教員によるスポーツ専門領域の紹介②

地域スポーツコース各教員による専門領域に関する講義を行う。

学修課題：地域に山積する運動・スポーツの課題を理解し、運動・スポーツの重要性を理解する。

第20回：地域イベントの実施②

前期授業の地域スポーツの現状と課題について振り返りを行ったうえで、地域のスポーツ振興に寄与するイベントを実際に学生が企画する。

学修課題：実際のイベント企画について企画書を作成する。

第21回：地域イベントの実施③

前期授業の地域スポーツの現状と課題について振り返りを行ったうえで、地域のスポーツ振興に寄与するイベントを実際に企画する。

学修課題:地域イベントの企画書をもとに実際の運営について考える。

第22回：地域イベントの実施④
これまでの「地域イベントの実施①～③」で学習した内容を活用し、地域のスポーツ振興を目的とした企画を実際に運営するための準備を行う。
学修課題：これまで準備した地域イベントを実施するための準備を行う。
第23回：地域イベントの実施⑤
これまでの「地域イベントの実施①～④」で学習した内容を活用し、地域のスポーツ振興を目的とした企画を実際に運営する。
学修課題：これまでの講義で企画した地域イベントを実際に運営し、地域イベントから地域スポーツの課題を探る。
第24回：地域イベントの事業報告会および発表会の準備
これまでの「地域イベントの実施①～⑤」で学習した内容、および実際の地域イベント事業について各グループで報告を兼ねた発表会の準備を行う。
学修課題：地域イベントを1つの事業として報告書を作成し、さらにその内容を発表する準備を行う。
第25回：スポーツ現場についてのパネルディスカッション
スポーツ現場についてのパネルディスカッションを聴き、自身の選択に役立てる。
学修課題：自身の興味のあるスポーツ現場の業種や仕事内容についてまとめる。
第26回：地域イベント事業報告発表会
これまでの「地域イベントの実施①～⑤」で学習した内容、および実際の地域イベント事業について各グループで報告を兼ねた発表会を行う。
学修課題：地域イベントを1つの事業として報告書を作成し、さらにその内容を発表する。
第27回：スポーツ現場の専門性を活かせる業種や業務
大学で学修した専門性を活かせるような業種や業務には、どのようなものがあるのか学ぶ。
学修課題：特定のスポーツ現場を希望する理由や、そこで活かせる自身の強み（自己PR）についてまとめる。
第28回：ゼミ選考ガイダンス
これまでの授業のまとめを行うと同時に、来年度の地域スポーツ演習のゼミ決定方法に関わる説明を行う。
学修課題：これまでの講義内容を整理し、自分自身が学びたい領域を明確にする。
第29回：ゼミ志望理由書作成
自分が希望する領域の授業内容および、その領域でどのようなことを学びたいのかを記述する。
学修課題：これまでの授業でどのような領域に関心を持ち、具体的にどのようなことを研究したいのかを明確にしておく。
第30回：卒業研究発表会準備、卒業研究発表会に関する課題説明
4年次生の卒業研究発表会に参加することにより、次年度から始まる卒業研究に向けた取り組みについて概説する。また卒業研究発表会への参加を必須とし、発表会の準備を行う。
学修課題：次年度の卒業研究に向けて、各自の研究課題に取り組む。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。
地域学習および地域イベント企画実施に関する取り組み（40%）：地域学習および地域イベント企画実施について、その内容に沿ったレポート課題および発表を各20点（40点満点）で評価する
各教員担当授業における評価（60%）：各教員の最終回に課すレポート課題、各10点×6人（60点満点）で評価する

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
各教員から提示する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
「地域スポーツとは何か？」ということに関する基礎を学ぶことになる。幅広い領域の専門教員がいるが、それぞれの専門性について理解を深めたうえで、自分自身の関心領域を発見し今後の学習へのつなげていってもらいたい。
また、本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。さらに地域学習あるいは地域イベント企画については、課題達成に向け学生の協働作業を積極的に行ってもらいたい。

地域スポーツ演習

【担当】上利　理代

■授業概要

この講義では、スポーツに関する問題に関して①すでにある事実をまとめ、統計学的処理によって関連性を推論する方法②アンケートによって得られた結果から解析し、原因を推論する方法などを学ぶ。また個々に関心のある項目に関して、さらに文献的知識を深め、そこから今後に生かせる提言を導けるように研究を深める。その中で、基本的な統計学についても学び、各側面で適切な統計処理を行うことができるように学習することを目標とする。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツに関する障害・オーバートレーニングについて①すでにある事実をまとめ統計学によって関連性を推論する方法②アンケートによって得られた結果から解析し原因を推論する方法を学ぶ

目標：正規分布を理解する。Ｘ２検定など保健統計学に必要な知識を身につけ実際に解析結果を導き出す。興味のあるテーマについてアンケート作成し結果を導き出せるよう練習する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：統計学についてしろう
統計学について、概要を学ぶ。推論の立て方など基本を学ぶ
学修課題：統計学の概論について復習する

第２回：疫学について知ろう
疫学について、その方法などを学ぶ
学修課題：疫学について復習する

第３回：統計学基礎：度数分布表
度数分布表を作成してみよう
学修課題：度数分布表の作成について復習する

第４回：統計学基礎：平均値
平均値と中央値の違いを学ぶ
学修課題：平均値と中央値の違いについて復習する

第５回：統計学基礎：標準偏差と誤差
標準偏差や誤差を学ぶ。実際に計算してみる
学修課題：標準偏差や誤差について復習する

第６回：統計学基礎：分布
正規分布をはじめ、様々な分布について学ぶ
学修課題：正規分布等の様々な分布について復習する

第７回：統計学基礎：偏差値
実際に標準偏差（ｔ－score）を計算する
学修課題：標準偏差の計算について復習する

第８回：統計学検定
χ2検定、ｔ検定の区別を学ぶ
学修課題：χ2検定、ｔ検定の違いについて復習する

第９回：ｔ－検定
ｔ－検定を学ぶ。平均値、標準偏差からｔ－分布のｔ－valueを計算する
学修課題：ｔ－検定について復習する

第10回：χ２検定
χ２検定を学び、クロス表から期待値などを求める
学修課題：χ2検定について復習する

第11回：コンピューター実習①
量的変数データをエクセル入力し、平均値の求め方を学ぶ
学修課題：平均値の求め方について復習する

第12回：コンピューター実習②
量的変数データをエクセル入力し、標準偏差の求め方を学ぶ
学修課題：標準偏差の求め方について復習する

第13回：コンピューター実習③データマイニング
欠損データや間違い点検について学ぶ
量的変数データをエクセル入力し、平均値や標準偏差の求め方を学ぶ
学修課題：欠損データや間違い点検の方法について復習する

第14回：コンピューター実習④
実際のアンケート結果から平均値・標準偏差を求めロス表を作成する
学修課題：ロス表の作成方法について復習する

第15回：まとめ
前半授業の理解を深める.
学修課題：後半の授業で自分が解析したい課題をきめる

第16回：アンケート調査①
質問作成方法について学ぶ。調べたいことに関する設問の作り方
学修課題：質問作成方法について復習する

第17回：アンケート調査②
質問回答方法について学ぶ
学修課題：質問回答方法について復習する

第18回:アンケート調査③設問の立て方
課題に対する設問の作り方
学修課題：設問の作り方について復習する

第19回：アンケート調査用紙の作り方
自分の立てた設問からアンケート用紙作成
学修課題：調査用紙の作り方について復習する

第20回：アンケート調査用紙作成
自分の立てた設問からアンケート用紙を完成させる
学修課題：完成させた調査用紙をチェックする

第21回：アンケート調査用紙発表①
完成したアンケート調査用紙を発表
学修課題：発表に向け、パワーポイントを作成する

第22回：アンケート調査用紙発表②
完成したアンケート調査用紙を発表
学修課題：発表に向け、パワーポイントを完成させる

第23回：アンケート調査用紙修正
アンケート調査用紙を修正し完成させる
学修課題：指摘等を受け、調査用紙を完成させる

第24回：プレテスト実施
実際に完成したアンケート調査用紙を用いてプレテスト実施
学修課題：プレテスト実施に向けた準備を行う

第25回：プレテスト結果評価
プレテストで得られた結果を評価し、再度点検する。アンケートを再構成する。
学修課題：プレテストの結果をデータにまとめておく

第26回：相互討論
再構成されたアンケートを用いてプレテストを実施し、再度検討する
学修課題：再構成した調査用紙を用いてプレテストを実施しておく

第27回：課題解決①教室内
前回得られた結果考察を相互討論しアンケート再検する
学修課題：結果をデータにまとめておく

第28回：課題解決②学校内
前回得られた結果考察を相互討論しアンケート再検する
学修課題：結果をデータにまとめ、討論できる準備をしておく

第29回：最終発表：相互討論
最終発表：相互討論
学修課題：指摘箇所を列挙し、改善点をまとめる

第30回：最終発表：相互討論；報告書作成
パワーポイントで作成し発表。報告書の作成
学修課題：指摘箇所への対応方法をまとめ報告書を作成する

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

各自、課題など真面目に取り組むことを望む
レポート課題（50%）：独自のルーブリックを用いて到達目標の達成度について評価する
各自研究に対する取り組み姿勢（50%）：自分の研究に関して、積極的・自主的に学びを進めているか、適切な進め方ができているか目標に対する達成度を評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

統計学　（金森雅夫　　医学書院）：指定はしないが持参し参考にするのが望ましい。

やさしい医療系の統計学（佐藤敏雄　　医歯薬出版株式会社）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

地域スポーツ演習

【担当】佐藤　馨

■授業概要

本講義では、卒業研究にむけ論文の書き方を基礎から学ぶため、論文の書式や形式について学習する。さらに具体的な研究手法についても習得する。また、これまで習得したスポーツに関する知識を用いて、各自、卒業研究になり得る研究テーマの探索を１年かけて行なう。卒業研究テーマについては、「健康」「地域」「スポーツ振興」「こども」「高齢者」「障害者」「女性」「生涯スポーツ」「福祉」等のキーワードに関連するものを探索する。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：スポーツに関する研究課題の探索

目標：各単元終了後、その内容に沿ったレポート課題を達成する。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツに関する研究課題の専門知識習得

目標：レポート課題に取り組むことにより、授業終了後に卒業研究に必要な知識および技術を理解する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：地域スポーツ演習：ガイダンスおよび本演習の概説

卒業論文作成に必要な基礎知識を学び、また学習計画について説明する

学修課題：卒業研究に関する学習計画について熟読する

第２回：文献および資料の集め方

辞書、百科事典、Webでの下調べ方法

学修課題：与えられたキーワードについて下調べをする

第３回：文献検索の方法①インターネットを活用した文献検索

国立情報学研究所GeNii・CiNii検索、国立国会図書館OPAC検索、Web検索を利用した文献入手方法

学修課題：興味のあるキーワードを用いて文献を入手し、熟読する

第４回：文献検索の方法②図書館を活用した文献検索

図書館を利用した文献入手の方法

学修課題：図書館を活用して興味のあるキーワードをから文献を入手し、まとめる

第５回：論文・レポートのルール①基本的な書式について

論文・レポートの基本的な書式について解説する

学修課題：入手した文献を参考に基本的な書式について理解し、まとめる

第６回：論文・レポートのルール②実際にレポートを作成する

前回授業で収集した資料を用いてレポートを作成する

学修課題：収集した文献を熟読し、まとめる

第７回：論文・レポートのルール③インターネットによる資料の利用方法について

インターネットを利用した資料の利用方法について

学修課題：インターネットによる資料を熟読し、まとめる

第８回：論文・レポートのルール④引用・参考文献について

引用文献、参考文献、注釈を理解し、盗用と引用・参考との違いについてに解説する

学修課題：前回授業でまとめた資料を参考に引用・参考文献についてまとめる

第９回：レポート作成の方法①アンケート調査型レポートの作成方法

アンケート調査型レポート作成の手順について説明する

学修課題：データによる資料を収集する

第10回：レポート作成の方法②アンケート調査型レポートの作成

アンケート調査型のレポートを収集したデータ資料を用いて作成する

学修課題：収集したデータ資料を用いてレポートを作成する

第11回：レポート作成の方法③資料総括型レポートの作成方法

資料総括型レポート作成の手順について説明する

学修課題：レポート作成に必要な資料を収集する

第12回：レポート作成の方法④資料総括型レポートの作成

資料総括型レポートを収集した資料を用いて作成する

学修課題：収集した資料を用いてレポートを作成する

第13回：レポート作成の方法⑤二次データ型レポートの作成方法

二次データ型レポート作成の手順について説明する

学修課題：二次データ資料を収集する

第14回：レポート作成の方法⑥二次データ型レポートの作成

二次データ型レポートを収集した資料を用いて作成する

学修課題：二次データ資料を用いてレポートを作成する

第15回：レポート作成の方法⑦パワーポイントによるプレゼンテーションについて

パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法および資料作成を説明する

学修課題：プレゼンテーションに必要な基礎知識を理解する

第16回：レポート作成の方法⑧アンケート調査型レポートのプレゼンテーション資料作成

第10回授業で作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する

学修課題：作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する

第17回：レポート作成の方法⑨アンケート調査型レポートのプレゼンテーション

前回作成したパワーポイント資料を用いて実際にプレゼンテーションをする

学修課題：作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする

第18回：レポート作成の方法⑩資料総括型レポートのプレゼンテーション資料作成

第12回で作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する

学修課題：策したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する

第19回：レポート作成の方法⑪資料総括型レポートのプレゼンテーション

前回作成したパワーポイント資料を用いて実際にプレゼンテーションをする

学修課題：作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする

第20回：レポート作成の方法⑫二次データ型レポートのプレゼンテーション資料作成

第14回で作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する

学修課題：作成したレポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する

第21回：レポート作成の方法⑬二次データ型レポートのプレゼンテーション

前回作成したパワーポイント資料を用いて実際にプレゼンテーションをする

学修課題：作成したパワーポイント資料を用いて発表準備をする

第22回：卒業研究のテーマを見つける①卒業研究に関するキーワード探索と文献収集

卒業研究のテーマに関連するキーワードから文献を検索・収集する

学修課題：卒業研究として使用するキーワードを用いて文献を収集し、精読する

第23回：卒業研究のテーマを見つける②卒業研究に関する文献をまとめる

卒業論文のテーマに関連する文献を熟読し、まとめる

学修課題：前回収集した文献を要約する

第24回：卒業研究のテーマを見つける③文献の要約を発表し、議論する

第23回「卒業研究のテーマを見つける　卒業研究に関する文献をまとめる」卒業研究のテーマに関連する文献を熟読し、まとめ、議論する

学修課題：前回収集した文献を熟読し、まとめる

第25回：卒業論文のテーマを決める

前回収集した文献を用いて卒業研究のテーマを絞り込む

学修課題：収集した文献を用いて、研究テーマを絞り、課題をまとめる

第26回：卒業研究の研究方法を決める

研究の目的、研究対象、研究方法を決定する

学修課題：研究テーマにそった研究の目的、対象、方法を調べ、まとめる

第27回：卒業論文のテーマと方法論のプレゼンテーション資料の作成

研究テーマ、研究目的、研究対象、研究方法をプレゼンテーション用の資料にまとめる

学修課題：前回授業で決まった内容に沿って、プレゼンテーション資料にまとめる

第28回：卒業論文のテーマと方法論の発表①アンケート調査研究について
前回作成した資料を用いて、プレゼンテーションを行なう（アンケート調査研究について）
学修課題：作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする
第29回：卒業論文のテーマと方法論の発表②文献研究について
前々回作成した資料をもとにプレゼンテーションを行なう（文献研究について）
学修課題：作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする
第30回：卒業論文のテーマと方法論の発表③二次データ研究について
前回使用した資料をもとにプレゼンテーションを行なう（二次データ研究について）
学修課題：作成したプレゼンテーション資料を用いて発表準備をする

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
レポート課題（20%）：各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、それを評価する。
卒業研究計画書（50%）：授業の内容を踏まえ、卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する。
卒業研究計画発表（30%）：作成した卒業研究計画書を用いて、研究計画を発表し、その発表について評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年
『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

■履修上の注意・備考・メッセージ
履修上の注意
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また毎回課される課題を授業中に発表したり、それを使って授業を展開する。
メッセージ
学生本人の講義に対する理解度を推し測り、それを評価します。学生には、指示された課題、レポート等を確実に提出することを希望する。

地域スポーツ演習

【担当】黒須　朱莉

■授業概要

卒業研究における基本的な知識と技術を習得し、卒業研究計画書（問題関心、先行研究の検討、研究の目的と課題、研究の方法）を完成させることを本演習の目的とする。そのために、まずはスポーツ文化に関する文献の輪読を行う。その際、文献講読の方法、レジュメの書き方、議論の方法などを学ぶ。次に、各自でブレーンストーミングを行い、個々の問題意識を明確にするとともに、関連する文献や先行研究を読み進めていく。その際、先行研究の収集方法や論文の読み方を学び、文献研究の基礎を固めていく。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ文化に関する知識を習得する。

目標：スポーツ文化における多様な対象・テーマについて理解できる。

2．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：質的研究の研究方法を習得する。

目標：文献資料調査、インタビュー調査等の質的研究の研究方法を用いて調査し、レポートが書ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス（卒業論文作成の流れ）

演習全体の流れを説明すると同時に、受講者が本演習を選んだ理由、関心のある事柄について発表する。

学修課題：関心のある事象について、まずはインターネットを用いて調査し、その内容をまとめる。

第２回：「論文」とは何か

「論文」と「感想文」との違いについて理解する。

学修課題：授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎①）を読む。

第３回：論文・レポート作成の基礎①文章表現

論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について理解する。

学修課題：授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎②）を読む。

第４回：論文・レポート作成の基礎②章立て・構成

論文・レポート作成時の基本的な章立て・構成について理解する。

学修課題：授業の復習と、指定された章を中心に課題文献を読む。

第５回：文献講読①読み方の手法

指定された課題文献をもとに、文献の読み方のテクニックを理解する。

学修課題：授業で学んだ読み方を用いて、課題文献を再度読み、疑問点もまとめる。

第６回：文献講読②議論の手法

指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、ディスカッションの方法について理解する。

学修課題：授業の復習、課題文献の疑問点をレポートにまとめる。

第７回：文献講読③議論の展開

指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、第6回の内容を踏まえてディスカッションを行う。

学修課題：授業の復習、ディスカッションの内容の振り返りと、疑問点をレポートにまとめる。

第８回：文献講読④議論の発展

第7回のディスカッションで挙がった論点について、補足資料を用いて再度議論する。

学修課題：関心のあるテーマについて、その理由を踏まえてまとめる。

第９回：卒論の仮テーマ設定に向けたプレ発表

卒論の仮テーマ設定に向けて、各自が関心のある事象について主観的な理由と客観的な理由の両者を踏まえて発表する。

学修課題：発表時にあがったアドバイスや、他の受講生からのコメントをまとめる。

第10回：先行研究の検討①論文検索

資料検索の方法として、図書館データベースの使用方法やCINIIによる論文検索の方法を理解する。

学修課題：テーマに関する文献及び先行研究一覧を完成させる。

第11回：先行研究の検討②研究の基礎知識

配布した論文をもとに、研究手法や調査対象、全体の構成について理解する。

学修課題：授業の復習と、先行研究を２点程度取り上げて読んでくる。

第12回：先行研究の検討③論文の読み方

各自収集した先行研究をもとに、論文の読み方を理解する。

学修課題：先行研究を２件程度取り上げ、レポートの形でまとめる。

第13回：先行研究の検討④論文レビュー

先行研究のレビューの方法を理解する。

学修課題：レポートをもとにパワーポイント資料を作成する。

第14回：先行研究の検討⑤レビュー発表会

先行研究のレポートを発表する。

学修課題：発表時にあがったアドバイスや他の受講生からのコメントを踏まえて、今後更に必要となる文献や論文をまとめる。

第15回：まとめ・振り返り

これまでの演習を踏まえて、卒論の仮テーマを設定・調査対象等についてまとめる。

学修課題：第15回までの内容をレポートとしてまとめ、発表できるように準備する。

第16回：論文の本テーマ設定①文献資料検索

仮テーマから本テーマの設定へ進むために、必要文献の検索方法、収集方法について理解する。

学修課題：追加で必要だと考えられる必要文献や論文をまとめる。

第17回：論文の本テーマ設定②質的研究概論

仮テーマから本テーマの設定へ進むために、質的研究について概説する。

学修課題：17回発表者は、追加で必要だと考えられる必要文献や論文をまとめる。

第18回：論文の本テーマ設定③文献研究

仮テーマから本テーマの設定へ進むために、文献研究について概説する。

学修課題：授業の復習と、配布資料を読んでくる。

第19回：論文の本テーマ設定④インタビュー調査

仮テーマから本テーマの設定へ進むために、インタビュー調査の方法について概説する。

学修課題：本テーマ設定に向けて、20回発表者は発表レジュメを作成する。

第20回：論文の本テーマ設定⑤発表

各自の本テーマと、その研究手法について発表を行う。

学修課題：第20回の各自の発表内容に対するコメントをまとめてくる。

第21回：論文の本テーマ設定⑥議論

第20回の発表内容をもとに、各自が設定した研究テーマ、研究手法についてディスカッションを行う。

学修課題：発表回のディスカッションの内容を踏まえて、各自本テーマに関する改善点をまとめる。

第22回：卒業論文計画書の作成①計画書の基礎

先行研究をもとに、論文の構成と各自のテーマに合致した形式を理解する。

学修課題：授業内容を踏まえて、各自卒論計画書の下書きを執筆する。

第23回：卒業論文計画書の作成②仮説の立て方

各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定する。

学修課題：授業内容を踏まえて、卒論計画書の下書きを執筆、発表の準備を行う。

第24回：卒業論文計画書の作成③発表

各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定し、計画書として発表する。

学修課題：第24回の各自の発表に対するコメントをまとめてくる。

第25回：卒業論文計画書の作成④議論

第24回に発表を行った計画書の内容についてディスカッションする。

学修課題：授業内容を踏まえて、卒論計画書の下書きを完成させる。

第26回：プレゼンテーションの方法

パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について理解する。

学修課題：授業の復習と参考にしたいプレゼンテーションの事例を調査する

第27回：プレゼンテーション資料の作成

卒業論文計画書の発表用資料のアウトラインを作成する。

学修課題：発表の準備として、28回発表者はパワーポイントを作成する。

第28回：卒業論文計画書仕上げ①発表
作成したパワーポイントのスライドをもとに修正した卒論計画書の発表を行う。
学修課題：第28回の発表内容に対するコメントをまとめてくる。

第29回：卒業論文計画書仕上げ②議論
第28回の発表に対する質疑応答とディスカッションを行う。
学修課題：議論の中であがった論点をまとめてくる。

第30回：卒業論文計画書仕上げ③と総括
次年度に向けて必要な資料と論文の更なるピックアップを行う。
学修課題：次年度に向けて補足資料と論文収集を行う。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
授業内課題（30%）：事前調査とレポートの内容（質および量）を評価する。
発表（40%）:事前調査の内容、発表時のレジュメの構成、論定的思考にもとづく説明が行われているかを独自のルーブリックによって評価する。
受講態度（30%）：教員との授業中のやりとり、議論への参加度を独自のルーブリックによって評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
井上俊・菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房、2012年。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
日頃からスポーツに関する事象についてアンテナを張り、自身の問題関心を育てること。
そして、「本気で取り組みたいテーマ」を根気強く探そう。

地域スポーツ演習

【担当】村瀬　陽介

■授業概要

本講義では、４年次に実施する卒業研究に向けて、レポート・論文の書き方を基礎から学ぶ。レポート・論文には一定の形式があり、論理的飛躍や書いている本人しか理解できない内容は避けなければならない。本講義では、形式に沿った論文執筆方法を習得する。また自身の研究テーマ探索および決定を行うため、文献資料の調査方法を解説し実践する。具体的な研究手法についても、それぞれが選択した研究テーマに沿った手法を実技形式で学習する。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ学に関する知識

目標：自身が選択したテーマについて深い知識を身につける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：地域スポーツ演習ガイダンス

卒業論文作成に必要な基礎知識の概要を学び、また学習計画について説明する。

学修課題：シラバスを読み、授業の到達目標、評価方法を理解しておく

第２回：研究における文献、資料について

研究における文献、資料とは何か、また辞書、百科事典、インターネットを用いた文献検索方法の概要を説明する。

学修課題：授業内において「キーワード」提示し、それについて下調べをする

第３回：文献検索の方法（データベース・サービスの利用）

学術情報検索用のデータベース・サービスCiNii等を用いた文献検索方法を説明する。

学修課題：第２回「研究における文献、資料について」で提示された「キーワード」を用いて、CiNii等により興味のある文献を入手する。

第４回：文献検索の方法（図書館の利用）

図書館を利用した文献入手の方法を説明する。

学修課題：第２回「研究における文献、資料について」で提示された「キーワード」を用いて、実際に図書館を利用して興味のある文献を入手する。

第５回：レポート・論文の形式

レポート・論文の基本的な形式について概要を説明する。

学修課題：授業内で配布された資料をよく読み、レポート・論文の形式についてポイントをまとめる。

第６回：レポート・論文執筆のルール（概要の説明）

レポート・論文の基本的な書き方について概要を説明する。レポート・論文にふさわしい文言の選択、客観的な文章の書き方を練習する。

学修課題：第２回～第４回で収集した文献について、講義中に練習した書き方を応用しミニレポートを作成する。

第７回：レポート・論文執筆のルール（文献表記方法）

レポート・論文の基本的な引用文献、参考文献、注釈の基本的な表記方法について説明する。

学修課題：第６回の課題で作成したミニレポートに参考文献を付け加える。

第８回：レポート・論文中に用いる図表の作成方法

レポート・論文中に用いる図表の作成方法を説明する。

学修課題：授業中に提示する練習用データを使用し、レポート・論文にふさわしい形式の図表を作成する。

第９回：アンケート調査報告型のレポート作成（概要説明）

アンケート調査報告型のレポート作成方法について概要を説明する。

学修課題：アンケート調査報告書を作成するための資料として、各自でアンケート調査資料を収集する。

第10回：アンケート調査報告型のレポート作成（演習）

アンケート調査報告型のレポートを実際に作成する。

学修課題：他の学生が授業中に作成したレポートを、授業中に提示する基準に沿って評価する。

第11回：現地調査報告型のレポート作成方法（概要説明）

現地調査報告型のレポート作成方法について概要を説明する。

学修課題：現地調査報告書を作成するための資料として、各自で現地調査資料を収集しておく。

第12回：現地調査報告型のレポート作成（演習）

現地調査報告型のレポートを実際に作成する。

学修課題：他の学生が授業中に作成したレポートを、授業中に提示する基準に沿って評価する。

第13回：文献調査報告型のレポート作成方法（概要説明）

文献調査報告型のレポート作成方法について概要を説明する。

学修課題：文献調査報告書を作成するための資料として、各自で文献資料を収集しておく。

第14回：文献調査報告型のレポート作成（演習）

文献調査報告型のレポートを実際に作成する。

学修課題：他の学生が授業中に作成したレポートを、授業中に提示する基準に沿って評価する。

第15回：発表スライドについて（概要説明）

調査・研究内容を発表するために使用するスライドについて、作成のポイントを解説する。

学修課題：授業中に配布する資料をよく読み、スライド作成のポイントについて整理する。

第16回：発表スライドの作成

第９回～第14回で作成したレポートを用いて、スライド作成ソフトを用いて発表用スライドを作成する。

学修課題：授業中に作成したスライドを、次回授業時までに完成させておく。

第17回：スライドを用いた発表方法について

作成したスライドの発表方法についてポイントを説明する。

学修課題：授業での説明に従って、発表原稿の作成、発表練習を各自で行う。

第18回：スライドを用いた発表

第16回で作成したスライドを用いて発表をする。

学修課題：自身の発表について反省点をまとめる

第19回：スライドを用いた発表の聴講

発表を聴講する時の注意点を説明し、他の学生の発表を聴講する。発表終了時には質問をする。

学修課題：授業中に聴講した発表について内容、疑問点、全ての学生が行った質問をまとめる。

第20回：研究テーマに関わるキーワードの選定

研究分野に関わるキーワードのうち、興味関心のあるものを3つ選定する。

学修課題：興味のある研究分野に関わる資料を各自持参する。

第21回：キーワード１に関する資料の要約

キーワード1に関する資料を収集し要約を作成する。

学修課題：キーワード１に関する要約について、次回授業時までに完成させておく。

第22回：キーワード２に関する資料の要約

キーワード２に関する資料を収集し要約を作成する。

学修課題：キーワード２に関する要約について、次回授業時までに完成させておく。

第23回：キーワード３に関する資料の要約

キーワード３に関する資料を収集し要約を作成する。

学修課題：キーワード３に関する要約について、次回授業時までに完成させておく。

第24回：テーマの決定

第20回で選定した３つのキーワードから一つを選定し研究テーマを決定する。

学修課題：授業までに第21回～第23回で作成した要約を読み返す

第25回：決定したテーマに沿った資料の収集

第24回で決定した各自の研究テーマに関連した資料を収集する。

学修課題：授業までに第２回～第４回の授業内容を十分復習しておく

第26回：資料を基にした問題点の明確化

第25回で収集した資料を基に、決定したテーマに関する問題点を明確化する。

学修課題：第25回で収集した資料の内容を把握する

第27回：研究手法の選定

第26回でまとめた問題点について、第10回～第14回の授業内容を基にてその解決にふさいわしい研究手法を選定する。

学修課題：授業までに第10回～第14回の授業内容を十分に復習する

第28回：研究テーマおよび研究手法に関するスライドの作成

第25回～第27回の内容をまとめ、スライド作成ソフトを用いて発表用スライドを作成する。

学修課題：授業中に作成したスライドを、次回授業時までに完成させておく。

第29回：研究テーマおよび研究手法に関する発表
第28回で作成したスライドを発表する。
学修課題：授業までに十分に発表の練習をする

第30回：卒業論文発表会の聴講
４年生の卒業論文発表会を聴講する
学修課題：聴講した発表について、自身の研究テーマと関連した発表についてその内容をまとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします

■評価方法
授業参加度（30%）：授業内での積極的な発言を評価する。
レポート（35%）：形式に沿っていること、論理的な主張ができていることを評価する。
発表（35%）：形式に沿っていること、プレゼンテーション技術を評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年
『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

地域スポーツ演習

【担当】中道　莉央

■授業概要

本科目では、４年次の卒業論文作成に向けて、レポート作成や論文執筆の基本的な手法を学びます。具体的には、障害者スポーツに関わる書籍や論文の講読やグループでの議論や各種フィールドワークを通じて、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、卒業研究に向けた準備を進めていきます。各自関心のあるテーマに対する問題意識を明確にし、その領域の現状や課題を理解し、研究計画を立案することを目標とします。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：各自関心のあるテーマに対する問題意識を明確にし、その領域の現状や課題を理解する。

目標：関心のあるテーマの先行研究の成果と課題を整理し、それを踏まえて自分の卒業研究をどのように進めていくか（目的、方法、予想される成果）を説明することができる。

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：アダプテッド・スポーツ科学に関する知識を習得する。

目標：歴史的・社会的文脈の中で、多角的な視点からアダプテッド・スポーツ科学の基礎的知識を理解している。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス（卒業論文作成の流れ）

演習全体の流れを説明すると同時に、受講者それぞれに本演習を選んだ理由、関心のある事柄等について発表してもらう。

学修課題：演習全体の流れを把握すると同時に、自分自身の関心について再確認する。

第２回：「論文」とは何か

「論文」と「感想文」との違い、相手に納得してもらうための文章づくり等について概説する。

学修課題:配布資料を参考に、論文全体の基本的な流れについて学ぶ。

第３回：論文・レポート作成の基礎①　文章表現

論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について学ぶ。

学修課題：論文・レポートに共通する言葉遣いや表現方法を適切に理解する。

第４回：論文・レポート作成の基礎②　章立て・構成

論文・レポートの構成について学ぶ。

学修課題：配布資料をしっかりと読み込み、全体の構成について理解する。

第５回：文献講読①　レポート作成・発表準備

課題図書を指定し、それに対するレポート作成・発表準備を行う。

学修課題：レポート作成の手順、発表方法について理解をしておく。

第６回：文献講読②　レポート発表（身体障害者のスポーツ）

課題図書（身体障害者のスポーツ）をもとにして作成したレポートを発表する。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（身体障害者のスポーツに関わる内容）を読み込んでおく。

第７回：文献講読③　レポート発表（知的障害者のスポーツ）

課題図書（知的障害者のスポーツ）をもとにして作成したレポートを発表する。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（知的障害者のスポーツに関わる内容）を読み込んでおく。

第８回：文献講読④　レポート発表（精神障害者のスポーツ）

課題図書（精神障害者のスポーツ）をもとにして作成したレポートを発表する。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（精神障害者のスポーツに関わる内容）を読み込んでおく。

第９回：資料検索の方法

図書館データベースの使用方法、CiNiiによる論文検索の方法を学ぶ。

学修課題：関心のあるテーマに関わる資料を数件探し出す。

第10回：先行研究の検討①　論文の構成

配布した論文をもとに、研究手法(質的・量的手法)や調査対象者、全体の構成について学ぶ。

学修課題：自分自身の関心のあるテーマに対して、どのような手法が合致するのかをしっかりと考える。

第11回：先行研究の検討②　レポート作成

第10回の授業を踏まえて、各自先行研究を２件程度収集し、レポートの形でまとめる。

学修課題：論文テーマのみで決めるのではなく、研究手法や対象者の違いについても留意しながら先行研究を収集する。

第12回：先行研究の検討③　レポート発表（身体障害者のスポーツ）

前回授業で収集した先行研究（身体障害者のスポーツ）のレポートを発表する。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（身体障害者のスポーツに関わる内容）を読み込んでおく。

第13回：先行研究の検討④　レポート発表（知的障害者のスポーツ）

前回授業で収集した先行研究（知的障害者のスポーツ）のレポートを発表する。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（知的障害者のスポーツに関わる内容）を読み込んでおく。

第14回：先行研究の検討⑤　レポート発表（精神障害者のスポーツ）

前回授業で収集した先行研究（精神障害者のスポーツ）のレポートを発表する。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（精神障害者のスポーツに関わる内容）を読み込んでおく。

第15回：まとめ・振り返り

これまでの演習を踏まえて、大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。

学修課題：自分自身が発表したレポート課題、先行研究レポートについて事前に振り返りをしておくこと。

第16回：論文のテーマ作成①　テーマの設定

各自収集した先行研究、その他資料を参照しながら論文のテーマを作成していく。

学修課題：どのような障害があるのか、どのような種目に関わっているのか等、関心のあるテーマに対するイメージを具体化していく。

第17回：論文のテーマ作成②　ディスカッション

第16回の授業を踏まえて、各自設定したテーマを選んだ理由や問題関心についてディスカッションを行う。

学修課題：それぞれのテーマに対する問題関心を明確にする。

第18回：研究手法の検討①　質的研究について

配布した資料をもとに、質的研究(インタビュー・参与観察等)の手法および調査対象者の設定について学ぶ。

学修課題：質的研究について自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。

第19回：研究手法の検討②　量的研究について

配布した資料をもとに、量的研究(質問紙調査等)の手法および調査対象者の設定について学ぶ。

学修課題：量的研究について自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。

第20回:研究手法の検討③　発表およびディスカッション(量的調査)

自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行う。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（量的調査）を読み込んでおく。

第21回:研究手法の検討④　発表およびディスカッション(質的調査)

自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行う。

学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメ（質的調査）を読み込んでおく。

第22回：卒業論文計画書の作成①　テーマ設定

先行研究をもとに、論文の構成と各自のテーマに合致した形式を学ぶ。

学修課題：自分自身の研究テーマを意識しながら、論文の構成について理解する。

第23回：卒業論文計画書の作成②　仮説の設定

各自が収集した先行研究、その他資料を参考に論文の仮説を設定する。

学修課題：先行研究をすべて踏襲するのではなく、仮説の中に自分なりの視点を加味すること。

第24回：卒業論文計画書の作成③　先行研究の精査

第22回・第23回の作業を踏まえて、計画書を作成する。

学修課題：研究目的に沿った手法を選択しているか、仮説に飛躍はないか等、全体の構成を考える。

第25回：卒業論文計画書の作成④　最終まとめ

第22回・第23回の作業を踏まえて、計画書を完成させる。

学修課題：研究目的に沿った手法を選択しているか、仮説に飛躍は

ないか等、全体の構成を考え、完成させる。

第26回：プレゼンテーションの手法

パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について学ぶ

学修課題：見やすい資料の作成や、発表方法の基本的な技術を身につける。

第27回：プレゼンテーション資料の作成

第26回の授業を踏まえて、卒業論文計画書の発表用資料を作成する。

学修課題：各自作成した計画書をもとに、資料を作成していく。

第28回：卒業論文計画書の発表①　身体障害者のスポーツに関わる研究

各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書（身体障害者のスポーツに関わる内容）の発表を行う。

学修課題：事前に配布される発表資料（身体障害者のスポーツに関わる研究）をしっかりと読み込んでおく。

第29回：卒業論文計画書の発表②　知的障害者のスポーツに関わる研究

各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行う。

学修課題：事前に配布される発表資料（知的障害者のスポーツに関わる研究）をしっかりと読み込んでおく。

第30回：卒業論文計画書の発表③　精神障害者のスポーツに関わる研究

各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行う。

学修課題：事前に配布される発表資料（精神障害者のスポーツに関わる研究）をしっかりと読み込んでおく。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他(以下に概要を記述)

発表やディスカッションの後、個別または全体に向けてコメントします。

■評価方法

先行研究に関するレポート（40%）：論文としての体裁を保ちながら、先行研究を適切に要約し、それに対する自分の意見が主張できているかどうかを評価する。

卒業論文作成計画書（35%）：学士請求論文として適切な論理性のある計画書が作成できているかどうかを３観点で評価する。

卒業論文作成計画書発表（25%）：卒業論文作成計画書にもとづき、パワーポイントを有効的に使った発表を行い、質疑に対する適切な応答ができているかどうかを３観点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

必要に応じ、適宜紹介します。

■履修上の注意・備考・メッセージ

・本科目は４単位の授業であり、１回の授業に対して４時間程度の授業外学習（予習・復習）が求められます。

・授業は、状況に応じて座学だけではなく、さまざまな現場でのフィールドワークも行われます。「現場から学ぶ姿勢」を大事にしていきましょう。

地域スポーツ演習

【担当】秋武　寛

■授業概要

地域のスポーツにかかわり、その運営・管理ができる立場の人材をはじめ、子どもを対象にした健康増進・余暇活動の充実に貢献できるような研究を行う。この授業科目は、子どもの運動能力の向上に向けた卒業論文作成に向けての知識を習得する。文献研究の方法、先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、データの整理、統計手法を用いた分析、プレゼンテーション能力（特に伝える力）等を学び、最終的に卒業論文に結び付けることとする。

■養うべき力と到達目標

1．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容:卒業論文作成に向けて、文献研究の方法、先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、プレゼンテーション能力（特に伝える力）等を行う。

目標：卒業論文作成に向けて、文献研究の方法、先行研究との関係、フィールド調査の企画、フィールド調査、分析、研究論文の執筆する能力を身につける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス（卒業論文作成の流れ）
演習全体の流れを説明すると同時に、受講者それぞれに本演習を選んだ理由、関心のある事柄等について発表してもらう。
学修課題：演習全体の流れを把握すると同時に、自分自身の関心について再確認する。

第２回：「論文」とは何か
「論文」と「感想文」との違い、相手に納得してもらうための文章づくり等について概説する。
学修課題:配布資料を参考に、論文全体の基本的な流れについて学ぶ。

第３回：論文・レポート作成の基礎① － 文章表現
論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について学ぶ
学修課題：論文・レポートに共通する言葉遣いや表現方法を適切に理解する。

第４回：論文・レポート作成の基礎② － 章立て・構成
論文・レポートの構成について学ぶ
学修課題：配布資料をしっかりと読み込み、全体の構成について理解する。

第５回：文献講読① － レポート作成・発表準備
課題図書を指定し、それに対するレポート作成・発表準備を行う。
学修課題：レポート作成の手順、発表方法について理解をしておく。

第６回：文献講読② － レポート発表準備
課題図書をもとにして作成したレポートを発表する。
学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。

第７回：文献講読③ － レポート発表
課題図書をもとにして作成したレポートを発表する。
学修課題：発表者は、発表するための準備を行う。発表者以外の受講生は、発表者の評価を行う。

第８回：文献講読④ － レポート発表およびまとめ
課題図書をもとにして作成したレポートを発表する。
学修課題：第７回授業と同様

第９回：資料検索の方法
図書館データベースの使用方法、CINIIによる論文検索の方法を学ぶ。
学修課題：関心のあるテーマに関わる資料を数件探し出すこと。

第10回：先行研究の検討① － 論文の構成
配布した論文をもとに、研究手法（質的・量的手法）や調査対象者、全体の構成について学ぶ。
学修課題：自分自身の関心のあるテーマに対して、どのような手法が合致するのかをしっかりと考える。

第11回：先行研究の検討② － レポート作成
第10回の授業を踏まえて、各自先行研究を２件程度収集し、レポートの形でまとめる。
学修課題：論文テーマのみで決めるのではなく、研究手法や対象者の違いについても留意しながら先行研究を収集する。

第12回：先行研究の検討③ － レポート発表準備
前回授業で収集した先行研究のレポートを発表する。
学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。

第13回：先行研究の検討④ － レポート発表
前回授業で収集した先行研究のレポートを発表する。
学修課題：第12回と同様

第14回：先行研究の検討⑤ － レポート発表およびまとめ
前回授業で収集した先行研究のレポートを発表する。
学修課題：第13回と同様

第15回：まとめ・振り返り
これまでの演習を踏まえて、大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。
学修課題：自分自身が発表したレポート課題、先行研究レポートについて事前に振りかえりをしておくこと。

第16回：論文のテーマ作成①
各自収集した先行研究、その他資料を参照しながら論文のテーマを作成していく。
学修課題：どのような障害をもっているのか、どのような種目に関わっているのか等、関心のあるテーマに対するイメージを具体化していく。

第17回：論文のテーマ作成② － ディスカッション
第16回の授業を踏まえて、各自設定したテーマを選んだ理由や問題関心についてディスカッションを行う。
学修課題：それぞれのテーマに対する問題関心を明確にする。

第18回：研究手法の検討① － 質的研究について
配布した資料をもとに、質的研究（インタビュー・参与観察等）の手法および調査対象者の設定について学ぶ。
学修課題：自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。

第19回：研究手法の検討② － 量的研究について
配布した資料をもとに、量的研究（質問紙調査等）の手法および調査対象者の設定について学ぶ。
学修課題：自分自身の研究テーマであればどのような研究手法および対象者が適しているのかを理解する。

第20回：研究手法の検討③ － 発表およびディスカッション（１）
自分自身が設定した研究テーマ、研究手法について発表およびディスカッションを行う。
学修課題：発表者以外の受講者も事前に配布した発表者のレジュメを読み込んでおく。

第21回：研究手法の検討④ － 発表およびディスカッション（２）
第20回と同様
学修課題：第20回と同様

第22回：卒業論文計画書の作成① － テーマ設定
先行研究をもとに､論文の構成と各自のテーマに合致した形式を学ぶ。
学修課題：自分自身の研究テーマを意識しながら、論文の構成について理解する。

第23回：卒業論文計画書の作成② － 仮説の設定
各自が収集した先行研究､その他資料を参考に論文の仮説を設定する。
学修課題：先行研究をすべて踏襲するのではなく、仮説の中に自分なりの視点を加味すること。

第24回：卒業論文計画書の作成③
第22回・第23回の作業を踏まえて、計画書を作成する。
学修課題：研究目的に沿った手法を選択しているか、仮説に飛躍はないか等、全体の構成を考える。

第25回：卒業論文計画書の作成④
第24回と同様
学修課題：第24回と同様

第26回：プレゼンテーションの方法
パワーポイントの基本的な操作方法および、プレゼンテーションの基本的な手法について学ぶ
学修課題：見やすい資料の作成や、発表方法の基本的な技術を身につける。

第27回：プレゼンテーション資料の作成
第26回の授業を踏まえて、卒業論文計画書の発表用資料を作成する。
学修課題：各自作成した計画書をもとに、資料を作成していく。

第28回：卒業論文計画書の発表の準備
各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行う。
学修課題：発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料をしっかりと読み込んでおく。

第29回：卒業論文計画書の発表
各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行う。
学修課題：発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料をしっかりと読み込んでおく。

第30回：卒業論文計画書の発表およびまとめ
各自作成したパワーポイントのスライドをもとに計画書の発表を行う。
学修課題：発表後にディスカッションを行うため、事前に配布する発表資料をしっかりと読み込んでおく。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
レポート課題（20%）：各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、その理解度を評価する。
卒業論文計画書発表（30%）：作成した計画書を用いて、研究計画を発表し、その発表について評価する。
卒業論文計画書（50%）：授業内容を踏まえ、卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
資料を適宜配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ基礎演習　【担当】学校スポーツコース教員

■授業概要

本講義では、小・中・高等学校の保健体育授業を計画・運営する際の多様な方法について理解を深めます。具体的には、担当教員から保健体育科教員に必要な理論や授業実践について学びます。また、近隣の小・中学校の現場で、実際に保健や体育実技の授業を観察し、児童・生徒の運動学習の実態を理解する体験もします。さらに、授業分析や授業改善に関わる内容や方法を学びます。本講義で学んだ知識や技能をもとに、グループディスカッションやグループで発表を行い理解を深めます。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：保健体育授業を計画・運営する多様な知識

目標：保健体育授業を計画・運営する多様な知識を身に付ける。

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：保健体育授業を行う技能

目標：保健体育科授業を行う技能及び実践力を身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：学校スポーツコースでの学びの概要（全員）
学校スポーツコースで学ぶべき科目と学校スポーツコースでの学びの方向性を理解する
学修課題：学校スポーツコースで学ぶべき科目や内容についてシラバス等で調べる

第２回：保健体育の学習で形成する能力について（柴田）
求められる教師像と身に付けるべき実践的力量
保健体育の授業で学ぶべき内容と形成される学力とは
学修課題：体育の学習で身につく能力について自分なりにまとめてみる

第３回：よい体育授業とは何か（柴田）
よい体育授業とはどのようなものなのなを考える
優れた授業の要素とは
授業に求められる条件とは
学修課題：自分が考えるよい体育授業の要素や具体的姿を考えてまとめる

第４回：児童生徒にとっての保健体育授業とは（川合）
児童生徒にとっての体育授業について考える
児童生徒にとっての保健授業について考える
体育理論で何をどう教えるのか
学修課題：保健や体育実技を学ぶ意義について自分の考えをまとめてみる

第５回：保健体育授業観察評価法のトレーニング（大西）
保健体育授業の観察法と授業評価の意義
学修課題：保健体育授業の観察法や評価法を調べる

第６回：模擬授業のリフレクション（大西）
授業実践とリフレクションの関係について
リフレクションと授業改善の視点について
学修課題：授業の観察視点と評価視点や授業改善の具体例を調べる

第７回：小学校の体育授業を観察する（全員）
近隣の小学校の体育授業を参観する
観察の視点を確認し、授業を評価する
学修課題：授業を観察する視点についてきちんと復習しておく

第８回：子どもが評価する保健体育授業（大西）
良い体育授業と形成的授業評価の関係について
形成的授業評価と授業改善の視点について
リフレクションシートをどう活かすのか
学修課題：形成的授業評価について調べる

第９回：体育授業の運営に必要な力量について①（川合）
学校体育の授業運営とは
体育の授業運営で求められる力とは
学修課題：授業運営に必要な力量について調べて授業で発表する

第10回：体育授業の運営に必要な力量について②（川合）
現場で求められる力量と大学で身に付けることのできる力の違いについて
授業に必要な力量を高めるためにどのような努力が必要か
学修課題：自分が今後身につけるべき力量を明らかにし、対策を考える

第11回：体育理論の授業づくりについて考える（川合）
体育理論の授業で学ぶべきこととは
どのようにして体育理論の授業を構成するか
体育理論の授業実践で必要な力量とは
学修課題：中学校や高等学校での体育理論の授業実態について調査してみる

第12回：中学校の体育授業を観察する（全員）
近隣の中学校の体育授業を参観する
観察の視点を確認し、授業を評価する
学修課題：授業を観察する視点についてきちんと復習しておく

第13回：学校教育現場における保健体育指導の実状（谷川）
学校現場での保健体育指導の実状から見える課題について
学修課題：学校現場での保健体育授業の実態を各自で調査し、報告資料を作成する

第14回：体育授業と教材開発の現状①（谷川）
体育授業における教材開発の重要性と実態について
優れた教材開発の実践例と課題について
学修課題：体育の授業研究と教材開発の必要性を、研究会等で発表された資料を参考に、調べてまとめる

第15回：保健授業と教材開発の現状②（谷川）
保健授業における教材開発の重要性と実態について
優れた教材開発の実践例と課題について
学修課題：保健の授業研究と教材開発の必要性を、研究会等で発表された資料を参考に、調べてまとめる

第16回：学校教育における部活動の意義について（黒澤）
学校教育における特別活動の位置付け
特別活動と部活動
生徒指導と部活動の問題
学修課題：学校教育における部活動の意義について調べてまとめる

第17回：学習指導要領の改訂における武道教育の位置付け（黒澤）
なぜ武道が中学校で必修化されたのか
武道指導における問題点を考える
体育授業での武道と部活動での武道の違いについて
学修課題：武道教育における種目の実態について調べて発表しよう

第18回：スポーツ現場についてのパネルディスカッション（全員）
スポーツ現場についてのパネルディスカッションを聴き、自身の選択に役立てる。
学修課題：自身の興味のあるスポーツ現場の業種や仕事内容についてまとめる

第19回：保健の授業で形成する能力について（股村）
保健学習で求められる学力とは
保健の授業で学ぶべき事柄について
学修課題：保健の授業で身につけさせる学力について調べてまとめる

第20回：課題学習による保健の授業（股村）
小・中・高等学校の保健学習における実際の展開例
課題学習を用いた授業実践例の紹介と体験
学修課題：保険学習における課題学習の実際的なテーマを調べてまとめる

第21回：中学校の保健授業を観察する（全員）
近隣の中学校の保健授業を参観する
観察の視点を確認し、授業を評価する
学修課題：観察・評価の結果をまとめ、リフレクションシートを完成しておく

第22回：スポーツ現場の専門性を活かせる業種や業務（全員）
大学で学修した専門性を活かせるような業種や業務には、どのようなものがあるのか学ぶ。
学修課題：特定のスポーツ現場を希望する理由や、そこで生かせる自信の強み（自己ＰＲ）についてまとめる

第23回：保健授業に必要な実践的指導力を再確認する（股村）
保健授業の参観結果から、実践的指導力を考える
観察評価結果の考察と授業改善ディスカッション
学修課題：中学校の保健授業の観察結果をまとめておく

第24回：保健体育教師に求められる独自な役割について（高松）
教師に求められる力とは
保健体育教師に求められる役割、他教科と間違いとは
学修課題：保健体育科教師の指導力と問題点について調べてまとめる

第25回：保健体育授業における指導力とは（高松）
保健体育授業において求められるべき指導力について
保健体育教師の研修において教えるべき内容
学修課題：実際に行われている体育教師の実技研修について調べてまとめる
第26回：体育授業における観察とは（高松）
体育授業における観察と指導（前期の中学校の授業参観の結果から）
保健体育科の教員に求められる独自の役割についての再確認
学修課題：中学校の体育実技授業参観の結果をまとめておく
第27回:スポーツ現場における社会人マナー、ＳＮＳについて（全員）
社会人としてのマナーやＳＮＳ使用上の注意点などを学ぶ。
学修課題：学修内容を基に、スポーツ現場での対応方法をまとめる
第28回：新学習指導要領の内容と改定に向けた対応策（柴田）
新学習指導要領で保健体育科に求められていること
現行学習指導要領からの改訂内容と実施上の課題
現行学習指導要領の問題点と今回の指導要領改訂の方向性について
学修課題：中央教育審議会答申と改訂学習指導要領について調べる
第29回：保健体育科の存在意義（柴田）
保健体育の学習展開における様々な実践例と今後の課題について
これからの保健体育の授業はどうあるべきか
学修課題：学校教育における保健体育の存在意義を考え、これからの保健体育授業の在り方について発表したいテーマをグループで話し合う
第30回：これからの保健体育を考える（全員）
新学習指導要領を受けて、これからの保健体育の授業の在り方について、グループごとにまとめた内容を発表する
学修課題：グループ毎にテーマを決定し、検討してまとめた内容の発表準備を行う

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
毎回の授業後の小レポート（90%）：授業内容を踏まえた論述に独自の見解や具体例等が示されているか。３点満点×30回
まとめのレポート（10%）：30回の授業を経験して、授業で身につけた知識や経験を今後の学習にどのように活かそうと考えているのかを、反論を想定しながら自身の意見を具体的に提示できているか。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
随時、授業内容に関連した資料を配付します。
体育授業を観察評価する　高橋健夫　編著（明和出版）
保健体育科教育法　杉山重利　編著（大修館書店）
小、中、高等学校学習指導要領解説書　保健体育編

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
学校スポーツコースの学修の方向性を知ることにより、今後の学修の目安にしてください。また、初めてのコース専門科目であり、コースに所属する接する機会となるので、各教員の専門領域を理解して、ゼミ選択の一助としてください。

学校スポーツ演習

【担当】川合　英之

■授業概要

本講義では、保健体育科教育学について深く学ぼうとするゼミ学生が基本的に習得しなければならない内容を中心に扱う。受講生が課題・論文等を要約した資料を作成して発表を行い、他の受講生の質疑を受けるスタイルで授業を進め、学習者が相互に理解を深め合う。

また、研究についての理解を深めるため、先行研究、各種文献などを調べ、研究の進め方、視点、具体的方法の検討、結論の導き方などについて理解するとともに、その発表方法についても習得できるようにする。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：保健体育科教育学の理解

目標：保健体育科教育学領域で学ぶべき内容を理解し説明できる。

２．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：研究論文の理解

目標：保健体育科教育学や学校教育に関する研究論文等を検討し、内容の要約と問題点の指摘ができる。

３．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：卒業論文の概観策定

目標：卒業研究のテーマがほぼ確定できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：保健体育科教育学の性格と領域
保健体育科教育学とはどのような学問か
保健体育科教育学ではどのような研究が行われるのか
保健体育科教育学で何を学ぶのか
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：保健体育科教育の領域について発表の準備を行う。

第２回：保健体育の基本的性格
社会的に構成され続ける多様な体育概念
体育概念の多様化現象を生み出す仕組み
スタンダードベースのカリキュラムへの志向
学校とスポーツの教育的機能再生に向けて
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：多様な体育概念について発表の準備を行う。

第３回：保健体育科教育を取り巻く制度的条件
教育制度とは何か
教育課程に関連する法令
教師教育に関する法令
スポーツの振興、子どもの体力向上に関する施策
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：教育制度について発表の準備を行う。

第４回：保健体育と学習者
子どもの運動に対する欲求とその変化
子どもの運動に対する態度とパーソナリティの関係
子どもの体力と運動技能の発達
体育授業を計画するために
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：子どもの運動について発表の準備を行う。

第５回：保健体育の目標と内容
保健体育の目標の設定構造
学習指導要領における目標の変遷
先進諸国における保健体育の目標
保健体育の目標と内容領域
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：学習指導要領について発表の準備を行う。

第６回：保健体育のカリキュラムの構成
カリキュラムと教育課程
カリキュラム構成法
学校体育のカリキュラムの基準としての学習指導要領
新学習指導要領における保健体育のカリキュラム
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：保健体育科のカリキュラムについて発表の準備を行う。

第７回：よい体育授業の条件
よい体育授業とは
二重構造で成り立つよい体育授業の条件
よい体育授業のための基礎的条件
よい体育授業のための内容的条件
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：よい体育授業とはどのようなものか、発表の準備を行う。

第８回：保健体育の教材・教具論
教材・教具とはなにか
教材づくりの基本的視点
単元教材と海峡材群の創出ーー教材のサイズ
教材の機能を高める「教具づくり」
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：教材・教具について発表の準備を行う。

第９回：保健体育の学習指導論
学習指導論の問題領域
学習指導の多様性
ストラテジーとしての学習指導
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：学習指導の多様性について発表の準備を行う。

第10回：保健体育の学習形態論
学習形態の考え方
保健体育の学習形態論
これからの学習形態の考え方
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：保健体育授業の学習形態について発表の準備を行う。

第11回：保健体育の学習評価
保健体育の学習評価をめぐる課題
学習評価の考え方
体育における目標に準拠した学習評価の視点
学習指導があっての学習評価
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：保健体育科の学習評価について発表の準備を行う。

第12回：保健体育の授業評価
保健体育の授業評価とは
授業評価の具体的な方法
授業評価を活用した研修の進め方
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：保健体育科の授業評価について発表の準備を行う。

第13回：モニタリングと相互作用技術
モニタリングとは
相互作用技術とは
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：モニタリングと相互作用について発表の準備を行う。

第14回：マネジメント方略
学習の勢いとマネジメント
授業で問題になるマネジメント場面
子どものマネジメント行動
マネジメント方略とは
効果的なマネジメント技術
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：授業のマネジメントについて発表の準備を行う。

第15回：インストラクション方略
インストラクション（学習指導）とは
「はじめ」の場面におけるインストラクション
「なか」の場面におけるインストラクション
「まとめ」の場面におけるインストラクション
効果的なインストラクションに必要な教師の技量
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：インストラクションについて発表の準備を行う。

第16回：運動有能感を高める指導方略
何故運動有能感なのか
運動有能感を高める指導方略の考え方
運動有能感を高める指導方略の具体例
生涯スポーツをめざす体育と運動有能感を高める指導方略

学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：運動有能感について発表の準備を行う。
第17回：単元計画（ユニットプラン）の作成
学習指導計画を作成することの意義
単元計画を作成する際のポイント
単元計画の基盤となる学習指導過程の工夫
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：単元計画を作成し発表の準備を行う。
第18回：授業計画（デイリープラン）の作成
授業計画（デイリープラン）とは
授業計画の作成手順
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：授業計画を作成し発表の準備を行う。
第19回：選択制授業の授業づくり
選択制授業とは
選択制授業の具体化
選択制授業の留意点
選択制授業の例
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：選択制授業の具体例を調べ発表の準備を行う。
第20回：体ほぐしの運動の教材づくり・授業づくり
体ほぐしの運動
体ほぐしの運動の授業づくりの視点
体ほぐしの運動で取り扱われている教材例
体ほぐしの単元計画・学習指導案と授業のシナリオ
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：体ほぐし運動の指導案を作成し発表の準備を行う。
第21回：体力を高める運動の教材づくり・授業づくり
子どもの体力低下と体育授業
体力を高める運動の運動例と展開例
体力を高める運動の単元計画例と実施にあたっての留意点
学習指導案例とシナリオ
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：体力を高める運動の指導案を作成し発表の準備を行う。
第22回：器械運動の教材づくり・授業づくり
器械運動の授業とは
器械運動の学習指導のポイント
器械運動の単元づくり
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：器械運動の指導案を作成し発表の準備を行う。
第23回：陸上運動（競技）の教材づくり・授業づくり
新学習指導要領における陸上運動系領域の内容
陸上運動系の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：陸上運動（競技）の指導案を作成し発表の準備を行う。
第24回：武道の教材づくり・授業づくり
武道とはどんな運動なのか
剣道の授業づくりの視点
剣道の授業づくり（中学１・２年）
剣道の単元づくり
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：武道の指導案を作成し発表の準備を行う。
第25回：ダンスの教材づくり・授業づくり
表現運動・ダンスとは
運動の特性と学習指導
表現・創作ダンスの学年別指導内容と計画
学習の進め方
指導案とシナリオ
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：ダンスの指導案を作成し発表の準備を行う。
第26回：体育理論の教材づくり・授業づくり
体育理論の学習内容
体育理論の単元づくり
体育理論の題材設定と発問づくり
体育理論の発展
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：体育理論の指導案を作成し発表の準備を行う。
第27回：人間関係を培う体育の授業づくり
人間関係を培う体育の特性
人間関係を培う教材づくり
人間関係を培うグループづくり
人間関係を培う授業のデザイン
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：人間関係を培う授業について発表の準備を行う。
第28回：支援を必要とする児童・生徒の体育の授業づくり
支援を必要とする児童・生徒に対する教育の意味と意義
授業準備段階で求められる配慮
授業実践段階で必要な配慮
学習課題：各自の発表領域の要約と発表資料作成
学修課題：支援を必要とする児童・生徒の体育の授業づくりについて発表の準備を行う。
第29回：卒業研究の領域と課題設定・研究方法に関して
各自が興味を持った過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する
学習課題：過去の卒業研究を読んで内容の要約と評価を行い、発表用の資料を作成する。
学修課題：過去の卒業研究を調べ課題設定について発表の準備を行う。
第30回：卒業研究課題の発表と検討
各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表する
効果的なプレゼンテーション方法の検討
学習課題：各自の卒業研究テーマと課題意識を発表するための資料を作成する。
学修課題：卒業研究テーマと動機・目的・方法について発表の準備を行う。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
■評価方法
毎時のコメントカード（30%）：１点×30回
講義内容及び意見・感想をまとめている。
課題発表（50%）：５点×10回
４・５点：内容・発表がよく理解できる。３点：内容・発表が理解できる。２点以下：内容・発表を行った。
課題レポート（20%）：20点～ 15点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている。
14点以下：指定の形式に沿って書かれている。
■教科書
高橋健夫　・新版体育科教育学入門　・大修館書店　・2010年
■参考文献等
学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。
■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
保健体育科教員を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を中心に学習していくため、主体的に取り組むこと。

学校スポーツ演習

【担当】柴田　俊和

■授業概要

保健体育科教育学のテキストから、各ゼミ生に割り当てられた部分を要約したプリント資料やパワーポイント資料を作成してプレゼンテーションを行う。発表後に、他のゼミ生の質疑に答えたりディスカッションするスタイルで授業を進め、発表された内容についてゼミ生全員の理解を深め合い知識を共有する。後半では、卒業論文のテーマ設定に向けて、各自で選択した過去の卒業論文の内容検討と発表会行い、やってみたい研究の方向を検討する。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：保健体育科教育学のテキストから、各ゼミ生に割り当てられた部分を要約した資料やパワーポイント作成してプレゼンテーションを行う。

目標：保健体育科教育学領域で学ぶべき最低限の内容を理解し、説明できることを目指す。

2．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：各ゼミ生に割り当てられた部分を要約したプリント資料やパワーポイント資料を作成してプレゼンテーションを行う

目標：わかりやすい紙資料やプレゼンテーション資料を作成する力をつける。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：学校体育におけるスポーツの解釈や活用法を知ることにより、学ぶべきスポーツ学の領域を考える。

目標：保健体育科において活用すべきスポーツ学の領域と知識を理解する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：保健体育科教育学の性格と領域
保健体育科教育学とはどのような学問か
保健体育科教育学ではどのような研究が行われるのか
保健体育科教育学で何を学ぶのか
学修課題：保健体育科教育学の性格と領域について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第２回：保健体育の基本的性格
社会的に構成され続ける多様な体育概念
体育概念の多様化現象を生み出す仕組み
スタンダードベースのカリキュラムへの志向
学校とスポーツの教育的機能再生に向けて
学修課題：保健体育の基本的性格について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第３回：保健体育科教育を取り巻く制度的条件
教育制度とは何か
教育課程に関連する法令
教師教育に関する法令
スポーツの振興、子どもの体力向上に関する施策
学修課題：保健体育科教育を取り巻く制度的条件について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第４回：保健体育と学習者
子どもの運動に対する欲求とその変化
子どもの運動に対する態度とパーソナリティの関係
子どもの体力と運動技能の発達
体育授業を計画するために
学修課題：保健体育と学習者について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第５回：保健体育の目標と内容
保健体育の目標の設定構造
学習指導要領における目標の変遷
先進諸国における保健体育の目標
保健体育の目標と内容領域
学修課題：保健体育の目標と内容について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第６回：保健体育のカリキュラムの構成
カリキュラムと教育課程
カリキュラム構成法
学校体育のカリキュラムの基準としての学習指導要領
新学習指導要領における保健体育のカリキュラム
学修課題：保健体育のカリキュラムの構成について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第７回：よい体育授業の条件
よい体育授業とは
二重構造で成り立つよい体育授業の条件
よい体育授業のための基礎的条件
よい体育授業のための内容的条件
学修課題：よい体育授業の条件について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第８回：保健体育の教材・教具論
教材・教具とはなにか
教材づくりの基本的視点
単元教材と海峡材群の創出ーー教材のサイズ
教材の機能を高める「教具づくり」
学修課題：保健体育の教材・教具論について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第９回：保健体育の学習指導論
学習指導論の問題領域
学習指導の多様性
ストラテジーとしての学習指導
学修課題：保健体育の学習指導論について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第10回：保健体育の学習形態論
学習形態の考え方
保健体育の学習形態論
これからの学習形態の考え方
学修課題：保健体育の学習形態論について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第11回：保健体育の学習評価
保健体育の学習評価をめぐる課題
学習評価の考え方
大意における目標に準拠した学習評価の視点
学習指導があっての学習評価
学修課題：保健体育の学習評価について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第12回：保健体育の授業評価
保健体育の授業評価とは
授業評価の具体的な方法
授業評価を活用した研修の進め方
学修課題：保健体育の授業評価について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第13回：モニタリングと相互作用技術
モニタリングとは
相互作用技術とは
学修課題：各モニタリングと相互作用技術について自の発表領域の要約と発表資料の作成

第14回：マネジメント方略
学習の勢いとマネジメント
授業で問題になるマネジメント場面
子どものマネジメント行動
マネジメント方略とは
学修課題：マネジメント方略について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第15回：インストラクション方略
インストラクション（学習指導）とは
「はじめ」の場面におけるインストラクション
「なか」の場面におけるインストラクション
「まとめ」の場面におけるインストラクション
学修課題：インストラクション方略について各自の発表領域の要約と発表資料の作成

第16回：運動有能感を高める指導方略
何故運動有能感なのか
運動有能感を高める指導方略の考え方
運動有能感を高める指導方略の具体例
生涯スポーツをめざす体育と運動有能感を高める指導方略

学修課題：運動有能感を高める指導方略について各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第17回：単元計画（ユニットプラン）の作成
学習指導計画を作成することの意義
単元計画を作成する際のポイント
単元計画の基盤となる学習指導過程の工夫
学修課題：単元計画（ユニットプラン）の作成について各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第18回：授業計画（デイリープラン）の作成
授業計画（デイリープラン）とは
授業計画の作成手順
学修課題：授業計画（デイリープラン）の作成について各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第19回：選択制授業の授業づくり
選択制授業とは
選択制授業の具体化
選択制授業の留意点
選択制授業の例
学修課題：選択制授業の授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第20回：体ほぐしの運動の教材づくり・授業づくり
体ほぐしの運動
体ほぐしの運動の授業づくり
体ほぐしの運動で取り扱われている教材例
体ほぐしの単元計画・学習指導案と授業のシナリオ
学修課題：体ほぐしの運動の教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第21回：体力を高める運動の教材づくり・授業づくり
子どもの体力低下と体育授業
体力を高める運動の運動例と展開例
体力を高める運動の単元計画例
学習指導案例とシナリオ
学修課題：体力を高める運動の教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第22回：器械運動の教材づくり・授業づくり
器械運動の授業とは
器械運動の学習指導のポイント
器械運動の単元づくり
学修課題：器械運動の教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第23回：陸上運動（競技）の教材づくり・授業づくり
新学習指導要領における陸上運動系領域の内容
陸上運動系の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：陸上運動（競技）の教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第24回：武道の教材づくり・授業づくり
武道とはどんな運動なのか
剣道の授業づくりの視点
剣道の授業づくり（中学１・２年）
剣道の単元づくり
学修課題：武道の教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第25回：ダンスの教材づくり・授業づくり
表現運動・ダンスとは
運動の特性と学習指導
表現・創作ダンスの学年別指導内容と計画
学習の進め方
学修課題：ダンスの教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第26回：体育理論の教材づくり・授業づくり
体育理論の学習内容
体育理論の単元づくり
体育理論の題材設定と発問づくり
体育理論の発展
学修課題：体育理論の教材づくり・授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第27回：人間関係を培う体育の授業づくり
人間関係を培う体育の特性
人間関係を培う教材づくり
人間関係を培うグループ作り
人間関係を培う授業のデザイン
学修課題：人間関係を培う体育の授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第28回：特別支援学級の体育の授業づくり
特別支援教育の意味と意義
授業準備段階で求められる配慮
授業実践段階で必要な配慮
学修課題：特別支援学級の体育の授業づくりについて各自の発表領域の要約と発表資料の作成
第29回：卒業研究の領域と課題設定・研究方法に関して
各自が興味を持った過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する。
学修課題：過去の卒業研究を読んで内容の要約と評価を行い、発表用の資料を作成する
第30回：卒業研究課題の発表と検討
各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表する。
効果的なプレゼンテーション方法の検討
学修課題：各自の卒業研究テーマと課題意識を発表するための資料を作成する

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
毎時のコメントカード（60%）：発表内容や検討意見を踏まえて、独自の視点で意見を述べているか。２点満点×30回
担当課題発表（20%）：担当領域の要約が適切で、わかりやすくプレゼンテーションできたか。
最終課題レポート（20%）：授業全体を通した学修成果を基に、卒業論文に向けたテーマ設定や作成計画を前向きに検討する意思を自分の視点で述べているか。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。
高橋健夫（2010）体育科教育学入門，大修館書店
高橋健夫（2003）体育授業を観察評価する，明和出版

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ演習

【担当】谷川　尚己

■授業概要

体育学習について深く学ぼうとするゼミ学生が、習得すべき基礎内容を学ぶものである。受講生がテーマを決定し、要約発表し、他の受講生の質疑を受けるスタイルをとり、当該内容について共に理解を深めていくようにする。特に、活発な議論を展開し、自分の考えをまとめ発表できるようにする。

■養うべき力と到達目標

1．DP5．新しい価値を創造する能力

具体的内容：将来の教員として現場で活用することのできるテーマを学会誌の論文や卒業論文等を広く検索し、自分の取り組む内容の方向性を大筋で決定する。

目標：論文を検索する力をつけ、卒業論文のテーマを決定する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション及び卒業論文の作成に向けて
本演習についての概要を説明し、各自が目標を設定し、意欲的に取り組めるようにする
学修課題：保健体育科の教員を目指すにあたっての意欲を、ミニ論文として作成する

第２回：体育科教育学とは
体育科教育学について書籍等を使って調べ、その本質を理解する。まとめた内容を基に意見交換を行う。
学修課題：体育教育学についての議論を整理し、まとめておく。

第３回：体育科の授業の進め方
体育の授業を進めるにあたっての重要ポイントについて話し合う。特にできない子どもを中心にその対策を話し合う。
学修課題：できないことを克服するための指導ポイントについてまとめる。

第４回：できない子をできるようにする
できない子をできるようにするための方策を提示し、グループごとに話し合う
学修課題：グループの発表をもとにさらに、追究する

第５回：保健の授業の進め方
体育の授業を進めるにあたっての重要ポイントについて話し合う。特に「健康」をキーワードに話し合う。
学修課題：「健康」についての発表内容をパワーポイントで作成する

第６回：健康とは
「健康」についての具体案を発表し、意見交換を行う
学修課題：自分の健康の概念をもとに子どもの健康について見直す。

第７回：体育の授業づくり
単元の指導計画の作成の手順について理解する
学修課題：学習指導要領を下にその手順について予習する。

第８回：指導案作成のポイント
指導案作成に向けての注意点についてまとめる
学修課題：体育の授業における活動時間の確保についてまとめる

第９回：保健体育の授業づくり　－指導計画作成①－
体つくり運動、器械運動についての指導案を作成する
学修課題：各自、体つくり運動、器械運動について指導案を作成する

第10回：保健体育の模擬授業①
体つくり運動、器械運動についての模擬授業を実践する
学修課題：模擬授業についての反省課題を整理する。

第11回：保健体育の授業づくり　－指導計画作成②－
陸上競技、水泳についての指導案を作成する
学修課題：各自、陸上競技、水泳についての指導案を作成する

第12回：保健体育の模擬授業②
陸上競技、水泳についての模擬授業を実践する
学修課題：模擬授業についての反省課題を整理する。

第13回：保健体育の授業づくり　－指導計画作成③－
球技、武道についての指導案を作成する
学修課題：各自、球技、武道について指導案を作成する

第14回：保健体育の模擬授業③
球技、武道についての模擬授業を実践する
学修課題：模擬授業についての反省課題を整理する。

第15回：保健体育の授業づくり　－指導案作成④－
ダンス、体育理論についての指導案を作成する
学修課題：各自、ダンス、体育理論について指導案を作成する

第16回：保健体育の模擬授業④
ダンス、体育理論についての模擬授業を実践する
学修課題：模擬授業についての反省課題を整理する。

第17回：保健体育の授業づくり　－指導計画作成⑤
保健分野についての、各自単元を選択し、指導案を作成する
学修課題：各自、保健分野について選択した単元の指導案を作成する

第18回：保健体育の模擬授業⑤
保健分野についての、模擬授業を実践する
学修課題：模擬授業についての反省課題を整理する。

第19回：論文を読み取る①
10例の論文を読み、興味を持った１例を選択し、論文の緒言、目的、方法について整理する。
学修課題：各自の興味を持った論文について緒言や目的・方法についてまとめる

第20回：論文を読み取る②
選択した１例をより深く読み取り、結果、考察、結論の書き方について探究する
学修課題：各自選択した論文について、結果、考察、結論について整理する。

第21回：ミニ論文を書く
テーマを決定し、論文の概要について骨子をまとめる
学修課題：選択したテーマの概要をまとめる。

第22回：緒言について
先行研究を基に緒言を書き始める
学修課題：先行研究を検索する

第23回：研究方法、先行研究、文献研究
先行研究等を基に研究方法を考える
学修課題：文献をファイリングしておく

第24回：調査と実験研究について
アンケート等により調査するのか、実験によるものかを決定する
学修課題：アンケート項目または実験内容を作成する。

第25回：論文の作成①
アンケート調査または実験を行う
学修課題：作成した内容をもとに実践する。

第26回：論文の作成②
データを基に、緒言、結果、考察を行い、書き始める
学修課題：書き始めた文章を継続し完成させる。

第27回：論文の作成③
結果と考察を書く
学修課題：文章の確認を行う。

第28回：論文の作成④
結論をまとめる
学修課題：緒言からけ論に至るまでの整合性について確認する

第29回：論文の発表と討議
ミニ論文の発表会を行い、意見交換を行う。
学修課題：意見交換の内容を踏まえ、再度確認を行う。

第30回：まとめ及び総評
卒業論文に向けて
学修課題：ミニ論文をいかに卒業論文に結び付けるかについて整理する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎回、各自の課題を持って出席し、その解決に向けて主体的に取り組むこと。
予習・復習のレポート等（30%）：レポート内容について、ABCの３段階で評価する
ミニ論文や学習指導案の内容（50%）：論文の内容や指導案の計画性について、ABCの３段階で評価する
まとめのレポート（20%）：卒業論文作成に向けての方向性が定着したかを確認する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

学習内容に即した資料を適宜配布する

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ演習

【担当】黒澤　寛己

■授業概要

本講義では、学校現場（小・中・高等学校）における体育・スポーツ指導に関する事項について理解を深めることを目的とする。具体的には「保健体育科教育」に関する基礎的な理論、特別活動「健康安全・体育的行事」や「運動部活動」についての現状の課題を理解し、効果的な指導方法について検討する。また、学校現場での課題や実際の指導方法について事例研究を行う。そして、その結果についてグループディスカッションを行ったり、グループ発表を行うことによって知識及び技能の定着を図る。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：学校現場における体育・スポーツ指導に関する知識

目標：保健体育科教員に必要な知識を身に付ける。

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：学校現場における体育・スポーツ指導に関する技能

目標：保健体育科教員に必要な技能及び実践力を身に付ける。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：学校スポーツ演習での学びについて考える
本講義の概要説明
本講義の年間計画
各自の卒業までの研究計画作成
学修課題：各自の研究計画作成、関連資料の収集

第２回：保健体育科教員に求められる資質・能力
学校経営の基本概念
学校における保健体育科教員の果たすべき役割
現行の教員研修制度
学修課題：保健体育科教員に関する事例調査

第３回：保健体育科教育学の性格と領域
保健体育科教育学の概要
保健体育科教育学の先行研究
学修課題：保健体育科教育に関する文献の要約と発表資料作成

第４回：保健体育科教育の歴史
戦前の保健体育科教育
戦後の保健体育科教育
学習指導要領の変遷
学修課題：保健体育科教育の歴史に関する文献の要約と発表資料作成

第５回：保健体育科教育の目標と内容
保健体育の目標の設定構造
学習指導要領における目標の変遷
先進諸国における保健体育の目標
保健体育の目標と内容領域
学修課題：保健体育科教育の目標・内容についての要約と発表資料作成

第６回：保健体育科教育のカリキュラムの構成
カリキュラムと教育課程
カリキュラム構成法
学校体育のカリキュラムと学習指導要領
学習指導要領における保健体育のカリキュラム
学修課題：保健体育科教育のカリキュラム構成の要約と発表資料作成

第７回：年間指導計画の作成
年間指導計画
学期の指導計画
指導計画と評価
学修課題：保健体育科年間指導計画案の事例収集と作成

第８回：単元指導計画の作成
評価の観点及び単元の評価規準
具体的評価規準
指導と評価の計画
学修課題：保健体育科単元指導計画案の事例収集と作成

第９回：体つくり運動
体つくり運動の授業とは
体つくり運動の学習指導のポイント
体つくり運動の単元づくり
学修課題：体つくり運動の先行研究要約と発表資料作成

第10回：器械運動
学習指導要領における器械運動の内容
器械運動の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：器械運動の先行研究要約と発表資料作成

第11回：陸上競技
学習指導要領における陸上競技の内容
陸上競技の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：陸上競技の先行研究要約と発表資料作成

第12回：水泳
学習指導要領における水泳の内容
水泳の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：水泳の先行研究要約と発表資料作成

第13回：球技
学習指導要領における球技の内容
球技の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：球技の先行研究要約と発表資料作成

第14回：武道
学習指導要領における武道の内容
武道の授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：武道の先行研究要約と発表資料作成

第15回：ダンス
学習指導要領におけるダンスの内容
ダンスの授業づくり・教材づくり
授業実践例
学修課題：ダンスの先行研究要約と発表資料作成

第16回：保健体育科各領域の特長
前期の振り返り（保健体育科の各領域の特長）
後期の講義計画について
研究計画の修正
学修課題：研究計画の修正案作成

第17回：運動部活動の歴史
運動部活動の始まり
運動部活動の変遷
学習指導要領の位置づけ
学修課題：運動部活動に関する資料の収集

第18回：運動部活動の課題
指導面の課題
運営面の課題
制度面の課題
学修課題：運動部活動の先行研究要約と発表資料作成

第19回：運動部活動の指導計画
運動部活動の指導内容
運動部活動の評価規準
運動部活動の指導計画案
学修課題：運動部活動指導の先行事例の要約と指導計画案作成

第20回：特別活動の歴史と現状の課題
特別活動の変遷
学習指導要領の位置づけ
現状の課題
学修課題：特別活動の先行研究要約と発表資料作成

第21回：特別活動の指導計画
運動会の指導計画
体育・スポーツ大会の指導計画
宿泊行事の指導計画
学修課題：特別活動の指導計画案作成

第22回：論文の書き方
先行研究を読み取る
論文の構成
論文のタイプ
学修課題：論文作成に関する文献調査

第23回：文献研究
引用文献の示し方・引用文の作成
文献リストの記載方法
先行研究の提示
学修課題：論文執筆要項に関する先行事例調査
第24回：各自の研究課題設定（保健体育の授業研究）
研究課題の設定
研究の方向性
文献調査
学修課題：保健体育の授業に関する資料収集
第25回：各自の研究課題設定（特別活動・運動部活動研究）
研究課題の設定
研究の方向性
文献調査
学修課題：特別活動・運動部活動に関する資料収集
第26回：卒業研究論文に向けたレポート作成（授業研究）
論文の章立て
キーワード
リード文
学修課題：授業研究に関する小レポート作成
第27回：卒業研究論文に向けたレポート作成（特別活動・運動部活動研究）
論文の章立て
キーワード
リード文
学修課題：特別活動・運動部活動に関する小レポート作成
第28回：プレゼンテーションと討議①
卒業研究論文の方向性
研究計画
グループで討議
学修課題：授業研究に関するプレゼンテーション資料作成
第29回：プレゼンテーションと討議②
卒業研究論文の方向性
研究計画
グループで討議
学修課題：特別活動・運動部活動に関するプレゼンテーション資料作成
第30回：１年間の学びの振り返りと卒業研究計画
本講義の振り返り
卒業研究論文の方向性の確認
卒業研究論文の作成計画
学修課題：各自の卒業研究論文の作成計画を完成させる

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
本講義では、毎時の小レポート、担当課題発表、最終課題レポートによって評価する。
毎時の小レポート（45%）：毎時の課題に対して、適切な内容の文章が書けているかについて評価する。各回３点×15回
担当課題発表（35%）：体育・スポーツの理論や先行研究を踏まえた発表が出来ているかについて評価する。
最終課題レポート（20%）：最終的に提出されたレポートについて、体育・スポーツに関する課題を理解し、効果的な指導方法について具体的に記述されているかについて評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は通年４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ演習

【担当】大西　祐司

■授業概要

１年間をかけて、自身のスポーツに関する興味関心や疑問を手掛かりに、教師に求められる専門的知識や実践的指導力の基礎を培っていく。前期では、教師に求められる実践的指導力を向上させるために、それぞれの専門種目に関するマイクロティーチングを中心とした活動を行う。後期では、４年次の卒業研究に向け、興味のある論文や書籍を読み進め、周辺的知識を蓄え、仲間と共有する。最終的には、ミニ卒論として研究テーマを定め、卒業研究に向けた論文の作成し、発表を行う。

■養うべき力と到達目標

1．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：マイクロティーチング
目標：一人で体育授業を計画・実施することができる。

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：関連書籍や論文の検索と閲読
目標：興味関心のある領域の知識を有している。

3．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：ミニ卒論、関連論文の紹介
目標：論文作成や研究発表のための基礎的な力を身につける。

4．DP11．忠恕の心
具体的内容：マイクロティーチング、ミニ卒論
目標：主体的かつ協働的に活動に取り組むことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション：目標の設定、役割分担
本講座（前期）の目標と計画
学修課題：なりたい教師像について考えてくる

第２回：マイクロティーチングの実施計画①
自身の専門種目の資料の読み込み
学修課題：該当する専門種目の資料収集

第３回：マイクロティーチングの実施計画②
マイクロティーチングの単元計画の作成
学修課題：学習指導要領の確認

第４回：マイクロティーチングの実施計画③
マイクロティーチングの指導案の作成
学修課題：マイクロティーチングの指導内容の立案

第５回：マイクロティーチングの実施計画④
マイクロティーチングのシナリオ作成
学修課題：シナリオを考える

第６回：マイクロティーチングの実施とリフレクション⑤
マイクロティーチングを実施し、リフレクションを行う
学修課題：リフレクションの観点の確認

第７回：体育の教材・教具論
教材・教具の必要性
学修課題：既存の教材・教具に関する情報収集

第８回：体育の学習指導論
学習指導の多様性
学修課題：経験した学習指導の振り返り

第９回：体育の学習評価
学習評価の現状と課題
学修課題：自身の学習評価の振り返り

第10回：体育の授業評価
授業評価の意義
学修課題：組織的観察法について復習する

第11回：器械運動の教材・授業づくり
器械運動の教材を知る
学修課題：器械運動の典型教材を調べる

第12回：陸上運動の教材・授業づくり
陸上運動の教材を知る
学修課題：陸上運動の典型教材を調べる

第13回：ダンスの教材・授業づくり
ダンスの教材を知る
学修課題：ダンスの典型教材を調べる

第14回：球技の教材・授業づくり
球技の教材を知る
学修課題：球技の典型教材を調べる

第15回：前期のまとめ：マイクロティーチング、教材・教具
よい体育授業の条件について考える
学修課題：これまでに書いた指導計画を読み持参する。

第16回：オリエンテーション：目標の設定、役割分担
本講座（後期）の目標と計画の説明
学修課題：過去の卒業論文を読んでくる

第17回：卒業論文について①
文献の収集方法を知り、関連論文を収集する
学修課題：興味のある研究キーワードを考える

第18回：卒業論文について②
あるキーワードにそって関連論文の抄録を作成し、紹介する
学修課題：文献をファイリングする

第19回：卒業論文について③
別のキーワードで関連論文の抄録を作成し、紹介する
学修課題：文献をカテゴリー分けする

第20回：卒業論文について④
関連論文をまとめ文献リストを作成する
学修課題：文献リストを完成させる

第21回：卒業論文について⑤
収集した関連論文をもとにミニ卒論のテーマを設定する
学修課題：必要に応じて文献を追加する

第22回：卒業論文について⑥
ミニ卒論の研究計画を立てる
学修課題：研究計画の完成

第23回：卒業論文について⑦
論文の書き方を知る
学修課題：論文の書き方についてまとめる

第24回：卒業論文について⑧
ミニ卒論の作成
学修課題：必要に応じて文献を追加する

第25回：卒業論文について⑨
ミニ卒論の読み合わせ
学修課題：ミニ卒論を修正する

第26回：卒業論文について⑩
ミニ論文の完成
学修課題：ミニ論文の遂行

第27回：ミニ卒論発表会に向けて①
発表のためのシナリオづくり
学修課題：シナリオの完成

第28回：ミニ卒論発表会に向けて②
発表のためのプレゼンテーションづくり
学修課題：プレゼンテーションの完成

第29回：ミニ卒論発表会に向けて③
前半のミニ卒論発表会の実施と振り返り
学修課題：前半の発表の振り返り

第30回：ミニ卒論発表会に向けて④
後半のミニ卒論発表会の実施と振り返り
学修課題：後半の発表の振り返り

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

マイクロティーチング（30%）：マイクロティーチングの計画と実施を30点満点で評価する。

ミニ卒論（40%）：ミニ卒論の作成と発表を40点満点で評価する。
活動への取り組み（30%）：主体的かつ協働的な取り組みを30点満点で評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

高橋建夫編著（2003）新版　体育科教育学入門（大修館書店）

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
教師は専門的な知識や実践力はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間やチームに対応する力も求められます。
教師を目指す仲間とともに切磋琢磨して学びましょう。

学校スポーツ演習

【担当】髙松　靖

■授業概要

本講義では、スポーツ運動学の視点から体育授業について深く学ぼうとするゼミ学生を対象として、基本的に習得すべき内容を学び考える。基本的には、教員からの講義を聴講し受講生がそれぞれの考えを発表し、他の受講生の質疑を受けながら授業を進め、当該のニアようについて学習者が共通して理解を深めていくようにする。後期の途中から、卒業研究への取組に関する学習と各自の研究テーマについての検討も行う。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：運動学習の構造理解

目標：運動学習における位相構造や運動の構造について理解することができる。

２．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：運動学習の実践

目標：新しい運動を覚えるための学習方法を実践できる。

３．DP11.忠恕の心

具体的内容：演習・実習活動

目標：仲間と連携・協働し、活動することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ運動学の性格と領域

スポーツ運動学とはどのような学問か、どのような研究が行われるのかを学習する。

学修課題：各自、スポーツ運動学の要約

第２回：始原論的構造分析

鋳型化資源分析とは、モザイク化始原分析とは、構築化始原分析とは

学修課題：各自、始原論的構造分析の要約

第３回：体系論的構造分析①

類化形態体系分析とは、類型化形態体系分析とは、構造化形態体系分析とは

学修課題：各自、体系論的構造分析の要約

第４回：体系論的構造分析②

動感言語の体系論、体系論の縁取り分析とその方法

学修課題：各自、体系論的構造分析の要約

第５回：地平論的構造分析

動感創発地平分析とは、動感促発地平分析とは

学修課題：各自、地平論的構造分析の要約

第６回：動感創発地平分析

形態化地平分析とは、修正化地平分析とは、自在化地平分析とは

学修課題：各自、動感創発分析の要約

第７回：動感促発地平分析①素材化地平分析

観察地平分析とは、交信地平分析とは、代行地平分析とは

学修課題：各自、素材化地平分析の要約

第８回：動感促発地平分析②処方化地平分析

道しるべ地平分析とは、動感提示地平分析とは、促発起点地平分析とは

学修課題：各自、処方化地平の要約

第９回：スポーツ運動学の性格と領域役割と課題

スポーツ運動学の役割、身体知分析論の問題性、指導者養成の諸問題

学修課題：各自、スポーツ運動学の役割と課題について要約

第10回：運動学習の意味について

体育で何を学習するのか、活動内容としての運動学習、運動学習とその基礎理論、運動学習指導に求められるもの

学修課題：各自、運動学習の意味について要約

第11回：運動学習と授業研究を考える

授業研究で問題となること、運動学習指導のあり方

学修課題：各自、運動学習と授業研究について要約

第12回：動きに構造を見つける

動きの先取りを見つける、動きに系統性を見つける、動きの違いを見つける、修正の仕方を見つける

学修課題：各自、動きの構造について要約

第13回：動きかたを覚えさせる①

動きかたはどのように覚えるのか、覚えるのにどんな情報が必要か、指導ポイントをどうとらえるか

学修課題：各自、動き方の指導について要約

第14回：動きかたを覚えさせる②

意欲的に覚えさせるにはどうするか、新しい動きかたにどう取り組ませるか、子どもの動きの可能性をどう引き出し伸ばすか

学修課題：各自、動き方への取り組み方について要約

第15回：学習指導案を考える

スポーツ運動学の考え方を基に学習指導計画について考える、単元計画を作成する際のポイント、単元計画の基盤となる学習指導過程についての要約

学修課題：各自、学習指導案について検討する

第16回：授業計画の作成

スポーツ運動学の考え方を基に計画を考える、授業計画の作成手順

学修課題：各自、授業計画を作成する

第17回：スポーツ運動学の考え方を基にした体ほぐしの運動

体ほぐし運動とは、体ほぐしの運動の授業づくり

学修課題：各自、体ほぐし運動についての要約

第18回：スポーツ運動学の考え方を基にした器械運動(マット運動)

器械運動の学習指導に必要な情報、マット運動の特性、前転ファミリー、後転ファミリーの指導について

学修課題：各自、器械運動についての要約

第19回：スポーツ運動学の考え方を基にした器械運動（とび箱運動）

とび箱の特性、きり返し系、回転系の指導について

学修課題：各自、とび箱運動についての要約

第20回：スポーツ運動学の考え方を基にした器械運動(鉄棒運動)

鉄棒運動の特性、鉄棒指導のポイント、技の系統性・段階性について

学修課題：各自、鉄棒運動についての要約

第21回：スポーツ運動学の考え方を基にした陸上運動（短距離走）

短距離走の目標、個に応じた学習指導の実践例

学修課題：各自、陸上運動（短距離走）についての要約

第22回：スポーツ運動学の考え方を基にした陸上運動（走り幅跳び）

走り幅跳びの指導、走り幅跳びの局面構造と学習者がもつ運動感

学修課題：各自、陸上運動（走り幅跳び）についての要約

第23回：スポーツ運動学の考え方を基にした陸上運動（投運動）

投運動の指導について、初心者指導の実践例

学修課題：各自、陸上運動（投運動）についての要約

第24回：スポーツ運動学の考え方を基にした武道

武道とはどんな運動なのか、武道の授業視点

学修課題：各自、武道についての要約

第25回：スポーツ運動学の考え方を基にしたダンス

ダンスとは、ダンス学習指導のあり方

学修課題：各自、ダンスについての要約

第26回：先行研究を読む

自身が興味を持っている分野についての先行研究となる文献を読む

学修課題：先行研究を読む、各自の発表領域の要約と発表資料作成

第27回：卒業研究における先行研究の検討

自身が読んだ先行研究の批判的検討

学修課題：先行研究の批判的検討、各自の発表領域の要約と発表資料作成

第28回：卒業研究における研究方法について

卒業研究を行うにあたっての研究方法を学ぶ、スポーツ運動学の考え方を改めて確認

学修課題：発表資料作成

第29回：卒業研究の領域と課題設定

各自が興味をもった過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する。

学修課題：過去の卒業研究を読んで内容の要約と評価を行い、発表用のしりょうを作成

第30回：卒業研究課題の発表と検討

各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表、効果的なプレゼンテーション方法の検討

学修課題：各自の卒業研究テーマと課題意識をはっぴょうするための資料を作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

毎時のコメントカード（３点満点×15回）（45%）：授業の要約したコメントカードを評価する。
担当課題発表（35%）：過去の卒業研究から、その概要と問題点の発表を行い、評価する。
最終レポート（20%）：各自の卒業研究テーマの課題意識を発表するための資料を評価する。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

マイネル．K　著　スポーツ運動学（大修館書店）
金子明友　著　身体知の形成上・下（明和出版）
高橋健夫　編著　体育科教育学入門（大修館書店）
金子明友　著　身体知の構造(明和出版)
金子明友　著　スポーツ運動学（明和出版）

■履修上の注意・備考・メッセージ

保健体育科教員を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を中心に学習していく予定ですので、主体的に取り組んで欲しいと思っています。

学校スポーツ演習

【担当】股村　美里

■授業概要

卒業研究に向けた基礎的力量を養う。基本的な研究方法を学ぶとともに、各自の研究テーマを定め、関連する先行研究を適切に探索し、レビュー・レポートする。

その作業に基づいて、卒業研究として論文にまとめる準備を進めていくこととする。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：学校保健に関する知識

目標：現代社会における児童生徒の健康課題についての知識を身につける

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：中学校・高等学校における保健体育科に関する知識

目標：発達発育段階に応じた教育的支援と環境的支援のあり方についての知識を身につける

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：自身の問題関心について研究計画を立てる力

目標：学校スポーツ、特に保健体育科や学校保健の抱える問題について、その所在を明らかにし研究計画を立てることができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：（前半）［第１部］学校保健における研究とは①ガイダンスと未来予想図の策定

本演習の全体の内容を把握し、年間を通じた長期目標および半年の中期目標、１か月ごとの目標を立てる

学修課題：自らの関心のあるテーマについて、なぜ関心があるのか説明できるように準備をして次回の演習に臨むこと

第２回：②各自の研究課題の方向性の探索

各自の興味のある研究課題について発表し、方向性を探る

学修課題：各自の興味のある研究課題について発表し、受講者相互で議論されたものを記録しておくこと。

第３回：③卒業研究論文例の紹介

ゼミにおける過年度生の卒業論文のテーマやその内容についてレビューする

学修課題：過去の卒業論文について検索し、紹介できるように準備する。さらにそこで得られた疑問やアイデアを記録しておく。

第４回：［第２部］文献購読の実施①文献検索の方法

具体的な文献（日本語論文）検索方法について、演習形式で学ぶ。

学修課題：自らの興味関心のあるテーマについて、適切な文献の検索ができるようになること。

第５回：②学校保健領域における先行研究のレビュー

学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。

学修課題：文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。

第６回：③学校保健領域における先行研究のレビュー

学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。

学修課題：文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。

第７回：④学校保健領域における先行研究のレビュー

学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。

学修課題：文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。

第８回：⑤学校保健領域における先行研究のレビュー

学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。

学修課題：文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。

第９回：⑥学校保健領域における先行研究のレビュー

学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。

学修課題：文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。

第10回：［第３部］各自の研究課題構想①文献収集の準備

自ら調べたいテーマを確定させ、検索ワードをいくつか定めること。

学修課題：先行研究に徹底的にあたることによって、これまで何が明らかにされていて何がわかっていないのか明文化すること。

第11回：②文献収集の実施

自らの調べたいテーマにおける検索ワードをもとに、文献検索を行い、文献収集を進める。

学修課題：収集した文献は、適宜整理しながら、知見をまとめ、先行研究のリストとしてまとめる

第12回：③各自の研究課題構想の文章化

先行研究の知見をもとに、自らが明らかにしたいテーマについての問題の所在を明文化するとともに、発表準備を行う。

学修課題：先行研究の知見を履修者内で共有できるようにプレゼンテーションの準備を行う。またプレゼンテーションの準備として、複数の他者と議論し、意見交換を行うこと。

第13回：［第４部］文献研究の共有　成果発表（１回目）

各自の興味関心をもとに実施してきた文献レビューをもとに、その領域における研究の全体像を俯瞰する

学修課題：文献レビューに基づく先行研究の知見を履修者内で共有する。発表の仕方や構成についても互いに評価を行う。

第14回：［第４部］文献研究の共有　成果発表（２回目）

各自の興味関心をもとに実施してきた文献レビューをもとに、その領域における研究の全体像を俯瞰する

学修課題：文献レビューに基づく先行研究の知見を履修者内で共有する。発表の仕方や構成についても互いに評価を行う。

第15回：中期課題の見直し－これまでの自分とこれからの自分－

半年間の文献に基づいた先行研究の探索を振り返って、達成できたこと、まだ不足していることを明確にする

学修課題：本演習を通して学んだことを振り返り、第16回目の授業に向けた課題を自ら立てる

第16回：（後半）［第１部］学校保健における研究とは　ガイダンスと卒業論文に向けた研究計画の立案

第15回までの文献購読で得られた知識をもとに、自らの研究テーマについて明確化する

学修課題：自らの研究テーマについて履修者内で共有できるよう、レジュメの作成を行う

第17回：［第２部］研究手法のいろいろ　①質的研究とは

質的研究の特徴と実施にあたり必要なことを先行研究に基づいて学ぶ

学修課題：質的研究を用いた先行研究について、共有できるよう準備しておくこと

第18回：②量的研究とは

量的研究の特徴と実施にあたり必要なことを先行研究に基づいて学ぶ

学修課題：質的研究を用いた先行研究について、共有できるよう準備しておくこと

第19回：③介入研究とは

介入研究の特徴と実施にあたり必要なことを先行研究に基づいて学ぶ

学修課題：介入研究を用いた先行研究について、共有できるよう準備しておくこと

第20回：［第３部］各自の研究課題の設定①リサーチクエッションと用いるべき研究手法（１回目）

自ら設定した研究テーマとその問題の所在を明確にして、問いを立てる。またその問いに答えるための方法について検討する。

学修課題：各自の研究課題の問いを明文化すること。また、複数の人と議論を交わし、修正や改善を図ること

第21回：②リサーチクエッションと用いるべき研究手法（２回目）

自ら設定した研究テーマとその問題の所在を明確にして、問いを立てる。またその問いに答えるための方法について検討する。

学修課題：自ら設定した研究テーマとその問題の所在を明確にして、問いを立てる。またその問いに答えるための方法について検討する。

第22回：［第４部］卒業論文に向けた研究計画作成①仮説の立案

「（前半）【第２部】文献購読」における先行研究の知見をもとに、仮説を立てる

学修課題：卒業研究で明らかにしたい問題の「問い」について、履修者内で共有し、相互に議論検討する。

第23回：②研究手法の決定

「（後半）【第２部】研究手法のいろいろ」で学んだ研究手法の中から、立てた「問い」に答えるのに適切な手法を選ぶ

学修課題：卒業研究で用いる研究手法について明確にし、履修者内で共有し、相互に議論検討する。

第24回：③研究計画の策定（研究対象の決定）
卒業研究を実施するに当たり、どのような対象に協力を依頼するべきか検討する。
学修課題：実際に研究を実施するに当たって、実現可能な研究対象を明文化すること。またそれに当たって、必要な倫理的配慮や手順を適切に理解すること。
第25回：④研究計画の策定（全体の振り返り）
研究の問い、方法、対象、仮説について振り返るとともに、論理的に実現可能な研究計画が立てられているか確認する
学修課題：研究計画の作成を行う。また次回以降のプレゼンテーションに向けた準備を実施する
第26回：［第５部］研究計画の共有－プレゼンテーションの方法①
プレゼンテーションができるようパワーポイントの作成方法について学ぶ。
学修課題：多数の他者にむけて研究計画が共有できるようパワーポイントの作成方法について学ぶ。見やすいわかりやすいパワーポイントの作成方法についての工夫を調べる
第27回：研究計画の共有－プレゼンテーションの方法②
研究計画が共有できるよう発表用パワーポイントを作成する。また、より伝わるプレゼンテーションの方法について学ぶ。
学修課題：次回のパワーポイントの作成と発表のリハーサルを必ず行い、規定された時間内で発表が行えるよう準備しておくこと
第28回：研究計画の共有－プレゼンテーションの実施①
卒業論文作成へ向けて、履修者内で共有できるようにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施する
学修課題：あらかじめパワーポイントの作成と発表のリハーサルを必ず行い、規定された時間内で発表が行えるよう準備しておくこと。また質疑応答に対応できるよう準備しておくこと
第29回：研究計画の共有－プレゼンテーションの実施②
卒業論文作成へ向けて、履修者内で共有できるようにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを実施する
学修課題：あらかじめパワーポイントの作成と発表のリハーサルを必ず行い、規定された時間内で発表が行えるよう準備しておくこと。また質疑応答に対応できるよう準備しておくこと
第30回：卒業研究に向けて
本演習で学んだことを振り返り、卒業研究に向けた準備について卒業研究の実施と論文作成の方向性をまとめる
学修課題：１年間の演習について振り返るとともに、自らの達成目標及びタイムマネージメントが計画通り実施できたか、改善できる点があるとすれば何か、明文化しておくこと

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法
小レポート課題（25%）：授業内容を踏まえた記述ができているか評価する
担当課題発表（25%）：与えられたテーマに基づいて、文献レビューあるいは研究を進め、プレゼンテーションを行う。教員を含めた相互評価により評価する。
最終レポート（25%）：与えられたテーマに基づいて、指定された形式で論理的な文章が書けているか、評価する。
研究計画書（25%）：一連の学修を踏まえ、卒業研究に向けた研究計画書が実現可能な形で記述できているかどうか評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
その都度、書物、論文、視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）、ホームページなど適宜紹介します。

■履修上の注意・備考・メッセージ
ガイダンスの時に、１年後の自分の達成目標について明記してもらいます。この講義を通じて、その各々の達成目標がどの程度実現できているか。それは皆さんの主体的な参加にかかっています。それにあたり、指導者としてのサポートをしていきますので、オフィスアワー等を活用し、次年度の卒業研究に向けて準備を進めてください。

トレーニング・健康基礎演習　【担当】トレーニング・健康コース教員

■授業概要

本科目では，トレーニング・健康コースで学ぶ基礎的知識や技能を習得することを目的とする．前半は，グループに分かれて所属教員それぞれより医学，運動生理学，栄養学，トレーニング学領域の知識や技能を習得する．後半は，卒業論文の作成に必要な学術論文の要約や代表的な統計処理の手法等を学ぶ．

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：卒業論文の作成に向けた，課題設定やその解決方法を考えることができるための知識や技能を習得する

目標：医学，運動生理学，栄養学，トレーニング学領域における基礎的な知識や技能を習得し，卒業論文のための課題設定ができるようになる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスとグループ分け

授業の進め方および到達目標や成績評価等について確認する．

前半授業では，第2回目～ 13回目までは，6つのグループに分かれて，各教員の授業を受ける．翌週からのグループ分けと実施場所，準備物等を確認する．

学修課題：次週から始まる内容のうち，興味深いことについて予習をする．

第２回：外傷・障害，身体計測の評価（１）

人体の解剖学的ランドマークの確認と身体計測（可動域測定）について

学修課題：解剖学的ランドマークを復習する．

第３回：外傷・障害，身体計測の評価（２）

医療機器（エコー）を用いた傷害評価と計測の実践

学修課題：エコー画像の見方を復習する．

第４回：アスレティックトレーニング概要（１）

トレーニング再考とアスレティックリハビリテーションの概論

学修課題：アスレティックリハビリテーションについて復習する．

第５回：アスレティックトレーニング概要（２）

トレーニング実習

学修課題：実習で行ったトレーニングの効果を復習する．

第６回：有酸素トレーニングにおける指導理論，有酸素運動トレーニングの評価（１）

有酸素トレーニングにおける指導理論

学修課題：有酸素トレーニングの指導理論を復習する．

第７回：有酸素トレーニングにおける指導理論，有酸素運動トレーニングの評価（２）

有酸素運動トレーニングの評価（実技）

学修課題：有酸素トレーニングの評価について復習する．

第８回：活動量と食事の調査

生活活動および運動によるエネルギー消費量の推定を実践する．また同時期の食事調査を実践する．そのために必要な知識について確認し方法を習得する．

学修課題：活動および食事を記録する．

第９回：活動量と食事の評価

得られたデータの処理，分析を行い運動量に見合った食事について考察する．

学修課題：活動と食事について復習し，今後への活かし方を考える．

第10回：トレーニングの考案と実践

グループ別にトレーニングを考案し，全員が小グループを対象に実践を行う．学生同士で評価し，良かった点を中心に振り返りの作業を行う．

学修課題：トレーニング指導の実践に必要なことを復習し，今後身につけることを具体的に考える．

第11回：サポート業務を考える

アスレティックトレーナー，ストレングスコーチ等，サポート業務を行ううえで大切なことについてグループで考える．

学修課題：サポートをする立場で大切なことを復習し，今後身につけることを具体的に考える．

第12回：エネルギー供給系と運動パフォーマンス向上のためのトレーニング（１）

運動時のエネルギー供給系の評価

学修課題：エネルギー供給系について復習する．

第13回：エネルギー供給系と運動パフォーマンス向上のためのトレーニング（２）

エネルギー供給系からみたトレーニング計画の設定

学修課題:エネルギー供給系を考慮したトレーニングを計画してみる．

第14回：文化講演会参加

今年度開催の文化講演会に出席する．

学修課題：講演内容を復習し，どのようにいかしていくか具体的に考える．

第15回：前半授業のまとめ

前半授業のまとめを行う．

学修課題：前半授業を受けて，興味を持った分野の書籍を読む．

第16回：ガイダンスとグループ分け

後半授業では，卒業論文作成の準備等を行っていくことを確認する．

学修課題：興味のある分野を見つけていくため，授業の復習をする．

第17回：トレーニング・健康コース　卒業論文中間発表会参加

卒業論文中間発表会に参加する．

学修課題：興味を持った演題について，自分で調べる．

第18回：インターンシップ事前研修

3年次で実施するインターンシップの事前研修に参加する．

学修課題：インターンシップの目的について復習する．

第19回：トレーニング・健康コース　インターンシップ報告会

代表的なインターンシップ先で実習をしてきた3年生による報告会を実施する．

学修課題:インターンシップをどのような場で行うかについて考える．

第20回：教員によるゼミナール紹介

各教員よりゼミでの活動の紹介を行う．

学修課題：興味のある分野を考え，コース面談表を完成させる．

第21回：体力測定（１）

統計授業で用いるため，身長，体重，垂直跳び等の体力テストを実施する．

学修課題：測定した体力要素を復習し，他の測定方法があるかについて調べる．

第22回：体力測定（２）

統計授業で用いるため，体力測定で得られたデータの入力・整理を行う．

学修課題：測定した体力要素を復習し，他の体力要素の測定について調べる．

第23回：統計（１）差の検定

体力テストで測定したデータを利用し，T検定についてパソコンを操作しながら実践を通して学ぶ．

学修課題：T検定について復習する．

第24回：論文要約（１）

教員が厳選した論文を読み，書かれている内容を理解して簡潔に要約する．

学修課題:論文に書かれている内容でわからないことについて調べる．

第25回：統計（２）関連を調べる

体力テストで測定したデータを利用し，相関についてパソコンを操作しながら実践を通して学ぶ．

学修課題：相関について復習する．

第26回：論文要約（２）

教員が厳選した論文を読み，書かれている内容を理解して簡潔に要約する．

学修課題:論文に書かれている内容でわからないことについて調べる．

第27回：インターンシップ事前研修

3年次で実施するインターンシップの事前研修に参加する．

学修課題：インターンシップをどのような場で行うかについて考える．

第28回：トレーニング・健康コース　卒業論文発表会参加

卒業論文発表会に参加し，最も興味深かった論文の概要および興味を持った理由とさらに発展させるアイデアについてレポートにまとめる．

学修課題：ゼミの選択を含めて，興味のある分野を考える．

第29回：トレーニング・健康コース　卒業論文発表会参加

卒業論文発表会に参加し，最も興味深かった論文の概要および興味を持った理由とさらに発展させるアイデアについてレポートにまとめる．

学修課題：ゼミの選択を含めて，興味のある分野を考える．

第30回：まとめとゼミナール希望調査　　学修課題：興味のある分野について復習する．

トレーニング・健康コースの基礎演習で学んできたことのまとめを行い，ゼミの希望調査を実施する．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

領域別の授業に対する取り組み（60%）：各教員それぞれが２回の担当授業における成果を10点満点で評価（10点×6名）する．詳細は各担当者より授業内で伝達する．

統計処理の課題（10%）：T検定および相関関係の授業で出された課題を提出する（5点×2回）．

論文要約（10%）：各教員が厳選した論文を，所定の用紙に簡潔に要約されているかを評価する（5点×2本）．

体力測定の実践およびデータの整理（10%）：統計処理の授業に用いる体力測定に参加し，グループで協力して測定が行えているかを評価する．また，得られたデータを分析するためのデータ入力・整理を行う（5点×2回）．

卒論発表会のレポート（10%）：最も興味深かった卒論について，概要，興味を持った理由，さらに発展させるためのアイデアを簡潔に述べているかを評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

授業内で適宜紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．

「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

また，本授業の成績は，ゼミを決定する際の一材料となる．欠席の際は，所定の届を提出し，各自で担当者から課題を聞いて提出すること．

トレーニング・健康演習

【担当】小松　猛

■授業概要

卒業論文作成に向け研究目的の考え方、それを達成するための研究方法の立案とその技術の習得、得た結果のまとめ方、そしてその結果をどのように考察し、結論を見出すかについて具体的に勉強を進める。更に、トレーニング・健康に関する専門的知識を習得するため、スポーツ医学を中心とするテーマのプレゼンテーション、ディスカッション、論文抄読などをしながら、自らの研究テーマを探っていくことから始める。また、統計処理や適切な文献を選択する文献検索のコツについても学習する。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：個人で、またはグループでスポーツ医学に関するテーマについてプレゼンテーションをする。また、学外の研究会やセミナーを聴講することで、最新のトピックを把握する。

目標：自分自身の研究テーマを考えるためのスポーツ医学に関する知識を深める。

２．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：スポーツ医学に関する論文の文献検索を行い、それらをまとめ、内容についてディスカッションすることで、自分の研究テーマを模索していく。

目標：卒業研究に向けて行うテーマを見つけ、実現可能な研究計画を立てる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：本演習の目的と進め方

本授業のガイダンス、スポーツに関する怪我の自己体験をプレゼンテーション

学修課題：適切な自己表現方法と経験したスポーツ傷害について復習

第２回：スポーツ医学に関する知識の総復習

スポーツ医学に関する知識を筆記・口頭で確認

学修課題：講義等で学習したスポーツ医学に関する知識を再確認する

第３回：参考文献の調べ方

あるテーマに対して、図書館やインターネットを用いての先行研究の検索方法

学修課題：自分の興味のあるテーマを検索して、検索方法を熟知する

第４回：プレゼンテーションの作成：準備

グループに分かれて、与えられた課題に対するプレゼンテーションのために必要な準備を理解する。

学修課題：グループでプレゼンテーションの進め方について話し合う

第５回：プレゼンテーションの作成：スライド構成

分かりやすいプレゼンテーションのために必要なプレゼン構成を理解する。

学修課題：パワーポイントの使いこなせるように情報を収集する

第６回：プレゼンテーションの進め方

作成したスライドを分かり易く伝えられるような進め方を学ぶ。

学修課題：今後与えられる課題をイメージして、プレゼンテーションを繰り返す

第７回：運動器の知識を深める（正常解剖）

解剖に関する各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：解剖学の知識を整理して、正確に分かり易く発表できるように準備する

第８回：運動器の知識を深める（正常機能）

運動器（関節や筋肉）の機能に関する各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：運動器の機能を学習し、他者に分かり易いプレゼンテーションができるように計画を立てる

第９回：運動器の知識を深める（上肢のスポーツ傷害の原因、診断）

上肢の外傷・障害の受傷機転や診断方法について、各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：上肢の傷害に関する基礎知識を復習する

第10回：運動器の知識を深める（上肢のスポーツ傷害の治療、リハビリテーション）

上肢の外傷・障害の治療方法と具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：上肢の傷害に対しての対処方法、スポーツ復帰のためのリハビリについて、基礎的な知識を整理しておく

第11回：運動器の知識を深める（下肢のスポーツ傷害の原因、診断）

下肢の外傷・障害の受傷機転や診断方法について、各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：下肢の傷害に関する基礎知識を、今までの講義の資料などから再確認しておく

第12回：運動器の知識を深める（下肢のスポーツ傷害の治療、リハビリテーション）

下肢の外傷・障害の治療方法と具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：下肢の傷害に関するスポーツ復帰に向けた具体的な対処方法について復習する

第13回:運動器の知識を深める（頭頸部、体幹のスポーツ傷害の原因、診断）

頭頸部、体幹の外傷・障害の受傷機転や診断方法について、各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：比較的重症な傷害については理解を深めておく

第14回:運動器の知識を深める（頭頸部、体幹のスポーツ傷害の治療、リハビリテーション）

頭頸部、体幹の外傷・障害の治療方法と具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する

学修課題：知識を整理して、自分は頭頸部・体幹の傷害に対して対応できるように復習する

第15回：前期のまとめと達成度チェック

前期の総まとめ。学んだスポーツ傷害、プレゼンテーションの内容に関する再確認。そして、後期へ向けて医学論文を読んで理解するための準備として、論文の読み方、理解の仕方の概略を説明。

学修課題：自分自身、そして他者が行ったプレゼンテーションの内容を再確認しておく

第16回：卒業研究のテーマを求めて（医学論文に触れる）

医学論文に書かれている内容の傾向を理解する。実際の論文を用いて内容を解説。

学修課題：授業に使用した論文を読んで、自分で内容をまとめる

第17回：卒業研究のテーマを求めて（卒業研究に求められるもの）

過去の卒業研究から各自の担当論文を調べ発表する。自分自身が興味ある領域の論文を、前期で学んだ検索方法を用いて選択する。

学修課題：自分が選択した論文の内容に関するサマリーを作成する

第18回：研究データの取り方

論文に書かれている実験の詳細を調べ、どのような方法でデータを集めるのかを実践できるようにする。

学修課題：データ収集を実践するために何が必要かを論文から読み取る

第19回：データ収集の実践（身体測定の評価）

論文作成に必要とされる身体計測を実践して、そのデータを評価する。その方法が正しいかの検証も行う。

学修課題：実践してみて不足していたと思われる情報については、自分で収集する

第20回：データ収集の実践（機器を用いた測定）

医療機器（エコー）を用いての計測方法。具体的な使用方法と、その画像がいったい何を表しているかを、実際の画像を用いながら解説。

学修課題：エコーに関する知識を復習する

第21回：データの解析（アンケート調査）

アンケート調査を行う場合の注意点と論文とするために必要なデータの集め方、データ分析方法（統計学的検討など）を説明する。

学修課題：アンケート調査をもとにした論文を読んで理解する

第22回：データの分析（実験で得られたデータ）

実験データを取るにあたっての注意と、信用できるデータかどうかの評価、そしてデータの分析方法（統計学的検討など）について解説する。

学修課題：実験から得られたデータをもとにした論文を読む

第23回：卒業研究のテーマを求めて（論文のプレゼンテーション）

スポーツ外傷・障害の臨床研究を広く検索して、その中から各自の担当論文を調べ発表する

学修課題：今までに学んだ検索、論文を読む、それをまとめるという流れを復習する

第24回：卒業研究のテーマを求めて（論文プレゼンテーションに対する評価）
各自の担当論文の発表に対して、グループでディスカッションする。プレゼンテーション内容が分かり易いか、もし難しければ何が分からないのか、をグループディスカッションを通して問題抽出をする。
学修課題：自分のプレゼンテーションで指摘された問題点について考える
第25回：卒業研究のテーマを求めて（学術講演の内容を理解）
学外で聴講した学術講演の内容を聞いて、具体的な講演内容を発言しグループでまとめる。
学修課題：内容を再確認して、それに対する自分の考えをまとめておく
第26回：卒業研究のテーマを求めて（学術講演に対する評価）
学術講演の内容について自分なりの意見を述べ、最終的にどのような知見が得られたかを個人でまとめる。
学修課題：最終的な学術講演に対するレポートを作成する
第27回：トレーニング・健康に関する実践（ウォーキングイベントのサポート）
学外のイベントであるウォーキングイベントのサポートスタッフとして、参加者の健康管理について学び、実際に取るべき対応について考える。
学修課題：イベントの進行や運営方法など、参加するための準備として理解しておく
第28回：トレーニング・健康に関する実践（イベントサポートの振り返り）
イベントサポートでの課題についてディスカッションする。運営上の問題点や、自分が対応した行為に対する検証を行う。
学修課題：自分自身の反省点と、イベントの今後に向けた改良点についてまとめる
第29回：卒業研究のテーマを求めて（プレゼンテーションについてのまとめ）
卒業研究テーマの設定と模擬発表を行う。データの収集、プレゼンテーションに用いるパワーポイントの内容、分析の仕方、が正しいのかをプレゼンテーションを通して検証する。
学修課題：プレゼンテーションを通して出てきた問題点に対して、どのように改善するべきかを考える
第30回：総まとめと卒業研究への準備
１年の授業の振り返りと、卒業研究テーマの決定。そのテーマが適切かについて、グループディスカッションを通して再検討する。
学修課題：次年度の卒業研究に向けて必要な準備を行う

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
レポート課題（50%）：授業内で学んだトレーニング・健康に関する内容、学外で行ったフィールドワークや聴講した講演内容のサマリなどを、適切な表現を使って分かり易く伝えているかを評価。
プレゼンテーション（50%）：スポーツ傷害、リハビリテーションなどの課題について、内容が分かり易く的確なプレゼンテーションになっているのかを評価。スライドの内容に関しても同様に評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
新版　スポーツ整形外科学　中嶋寛之（監修）　福林　徹・史野根生（編集）「南江堂」
スポーツ医学（やさしいスチューデントトレーナーシリーズ４）　藤本繁夫・大久保　衛（編）「嵯峨野書院」
その他、必要に応じて紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

トレーニング・健康演習

【担当】佃　文子

■授業概要

スポーツの経験に基づくセオリーと、急速に発達するトレーニング科学やスポーツ医学の新しい知見について、関連する文献を収集し原典を理解する。

後期には、各自の興味に応じた研究分野の情報収集と卒業研究に向けた予備調査・測定を行う。これらの演習は、卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立案するための重要な素地となる。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ医科学に関する疑問について、論文を読み知見をまとめる

目標：問題解決のための具体的な方法を検討し提案する

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：自己の疑問に沿った課題について、問題解決に向けた研究計画を立案し、適切に調査測定を行う

目標：課題研究について結果をプレゼンテーションできる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：イントロダクション、図書館利用方法の習熟

授業の内容と進め方を説明する。

学修課題：予習：トレーニング・健康分野で、自分自身が最も興味のある内容について、読んでみたい本や雑誌を見つけてくる 復習：読んだ雑誌や本を要約する

第２回：トレーナー活動の計画立案

身近なスポーツフィールドで実施できる、トレーニング計画・コンディショニング計画・体力測定計画などを立案する。

学修課題：予習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織から求められている内容をリサーチしてくる 復習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織的なサポート計画の素案を作成する

第３回：過去の卒業論文の研究課題や問題提起の観点を理解する

トレーニング・健康コースの卒業研究をもとに、研究課題や問題提起の観点を理解する

学修課題：予習：過去のコース内の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を５つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる

第４回：過去の卒業論文の内容を討議し研究方法の理解を広める

トレーニング・健康コース以外の卒業研究をもとに、研究方法を理解する

学修課題：予習：過去のコース外の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を５つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる

第５回：関連分野の研究文献の検索方法

各種の学会にて発表された先行研究を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する

学修課題：予習：スポーツと健康の関連分野の学会から自身で興味が持てる研究報告を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ資料を読み要約する

第６回：国内研究文献から研究課題や問題提起の観点を理解する

各種の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する

学修課題：予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する

第７回：国内研究文献から研究方法の理解を広める

各種の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、研究方法を理解する

学修課題：予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、研究方法について図にまとめる

第８回：国内の研究文献の発表･討議のための準備

調べた文献等の概要をまとめる

学修課題：予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、主な結果を図示する

第９回：国内の研究文献を発表する

調べた文献をまとめて、概要を発表し内容や研究手法について説明する

学修課題：予習：第６回で選んだスポーツと健康の関連分野の学会誌等から、自身で興味が持てる研究をＡ４サイズ１枚に要約する

復習：他者の選んだ研究について復習する

第10回：国内の研究文献を発表する

調べた文献をまとめて、概要を発表し研究結果の分析と考察について討議する

学修課題：予習：自身の発表した研究について、さらに結果と考察の理解を深める 復習：他者からの質問について不明な点を調べる

第11回：症例検討１回目　足部

トレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する

学修課題：予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、足部のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる

復習：足部のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる

第12回：症例検討２回目　下肢

トレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する

学修課題：予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、下肢のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる

復習：下肢のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる

第13回：症例検討３回目　体幹

トレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する

学修課題：予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、体幹のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる

復習：体幹のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる

第14回：症例検討４回目　肩・肩甲帯

トレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する

学修課題：予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、肩・肩甲帯のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：肩・肩甲帯のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる

第15回：総合討議

前期の取り組みを振り返り、各自の興味が持てた課題内容と、各研究の限界から次の研究課題を分析する。

学修課題：予習：前期の学習を振り返り、興味が深まった研究と理解の浅い内容や課題について整理する 復習：洗い出された研究課題についてまとめる

第16回：国外の文献の検索　①ストレッチング、コンディショニング

国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する

学修課題：予習：国際学会誌からストレッチングまたはコンディショニングに関する研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する

第17回：国外の文献の検索　②可動性とパフォーマンス、外傷・障害

国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する

学修課題：予習：国際学会誌から関節の可動性またはスポーツパフォーマンス、スポーツ外傷・障害に関する研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する

第18回：国外の文献の検索　③　動作パターンと身体機能評価
国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する
学修課題：予習：国際学会誌から動作パターンまたは身体機能評価に関する研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する
第19回：国外の文献の検索　④　脳振盪
国外の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、英文を読解し研究課題や問題提起の観点を理解する
学修課題：予習：国際学会誌からスポーツに関係する脳振盪の研究を一つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する
第20回：文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表 ①疫学的研究
国外の学術誌に発表された原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する
学修課題：予習：健康に関する疫学的研究の原著論文を、グループで１－３本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる
第21回：文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表 ②横断的・縦断的研究
国外の学術誌に発表された原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する
学修課題：予習：スポーツと健康に関する横断的研究又は縦断的研究の原著論文を、グループで１－３本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる
第22回：文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表 ③コンディショニング
国外の学術誌に発表された原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する
学修課題：予習：コンディショニングや傷害予防に関する原著論文を、グループで１－３本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる
第23回：文献研究（海外の関連文献を収集し読む）とグループ発表 ④機能評価
国外の学術誌に発表された原著論文を調べてまとめ、グループで概要を発表し内容や研究手法、研究結果の分析について討議する
学修課題：予習：身体の機能評価に関する原著論文を、グループで１－３本程度探してくる 復習：グループ討議で出た意見をもとに原著論文中に用いられている図表を使って概要をまとめる
第24回：総合討議
後期の取り組みを振り返り、課題に対する達成度を確認し、次年度に向けた各自の課題を洗い出し、冬季や春季休業中に取り組むべき内容を計画する。また各種の計画に変更が生じている場合には、修正計画を作成する。
学修課題：予習：これまでの学修を振り返り、自身の興味が深まった海外論文についてさらに詳細に読み込んでまとめてくる　復習：自身のミニ卒論計画に向けて参考になる研究結果と今度の課題についてまとめる
第25回：ミニ卒論計画
自己の興味に基づき、ミニ卒論を計画する。
学修課題：予習：ミニ卒論の研究テーマを考えてくる 復習：ミニ卒論研究計画案を作成する
第26回：ミニ卒論予備実験
第25回の計画に基づき、測定や調査を予備的に行う。
学修課題：予習：ミニ卒論計画で予定している測定や調査方法について詳細を調べて実施に向けた準備をする 復習：手順や測定の練習に取り組み、課題を明確化する
第27回：ミニ卒論本実験
第26回の予備測定の課題を修正し、測定や調査を実施する。
学修課題：予習：前週の課題を改め、ミニ卒論の測定や調査の準備を完成させる 復習：測定や調査結果をまとめる
第28回：症例検討５回目　足部・下肢
トレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係する個々の取り組みと学んだ知識を、マインドマップを用いてまとめて、プレゼンテーションを行う。
学修課題：予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、足部・下肢のスポーツ外傷・障害の予防法についてリサーチしてくる 復習：足部・下肢のスポーツ外傷・障害の予防法と取り組む内容をまとめる
第29回：ミニ卒論まとめ
第28回に行った内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。
学修課題：予習：プレゼンテーションのためのパワーポイントを作成する 復習：各発表について要約し、研究の発展性についてコメントする
第30回：まとめ及び研究計画発表
これまで取り組んだ内容をまとめ、卒業論文の方向性を定めるとともに、研究計画第一案を作成し発表する。
学修課題：予習：前週のプレゼンテーションに対するコメントから、卒論に向けた計画の修正をまとめる 復習：卒業研究に向けた計画案を作成する

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
授業課題への取り組み（40%）：内容の妥当性と理論構成について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
授業課題のプレゼンテーション（30%）：伝える内容のまとめ方50%、伝え方50%の割合で得点化します。
ミニ卒論の計画と結果（30%）：ミニ卒論について、計画70%、結果の伝え方30%の割合で得点化します。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
適宜紹介する。必要に応じて検索し取り寄せる。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

トレーニング・健康演習

【担当】藤松　典子

■授業概要

健康・トレーニング・体力に関する関心があること、問題点、疑問点等をあげ討論・解決しながら自らの課題を探求する。自身の身体を使い、ウォーキングやランニング時のデータを収集し、レポートにまとめることにより卒業論文につなげる。

■養うべき力と到達目標

１．DP3.自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能

具体的内容：これまでの自身のスポーツ経験の中から関心のあることを文献で調べ、まとめて発表する

目標：身近なところで健康・トレーニング・体力に関する関心があることを探求する

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：自身の身体を使い、ウォーキングやランニング時のデータを収集し、レポートにまとめることにより卒業論文につなげる

目標：健康・トレーニング・体力に関する関心があること、問題点、疑問点等をあげ討論・解決しながら自らの課題を探求する

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスとトレーニング・健康についてのディスカッション

演習　ガイダンス　自己紹介等

２年間共に学ぶ学生になるので、おい互いに相手のことを知る。

この１年間の授業計画とゼミ活動として参加するボランティア等について理解する。

学修課題：スポーツ生理学の単元より１つ選び発表できるようにまとめてくる。

第２回：トレーニングと健康づくりについて

文献検索の仕方の復讐と検索した文献の収集をする。自分の現在の興味について突き詰めていく上で、まずはトレーニングと健康づくりについて考える。

学修課題：トレーニングの単元より発表できるようにまとめてくる。

第３回：トレーニングと健康づくり、有酸素運動について　ー文献をまとめるー

授業外でまとめてきたスポーツ生理学の単元を発表する。

関連する基本文献の講読と各自の検索した文献のまとめ。

学修課題：さらに文献を検索し、まとめる。

第４回：文献のまとめ方と発表

授業外でまとめた、トレーニングの単元を発表する。

文献をまとめ、発表する。お互いに質問し、討論する。

学修課題：有酸素運動について調べてまとめる。

第５回：有酸素運動の実際　ースロージョギングー

心拍測定器を装着し，５～ 10kmを走る。走る前後の体重と走行距離を測定する

学修課題：有酸素運動と無酸素運動とのそれぞれの特性と目的を調べ違いをまとめる。

第６回：有酸素運動の比較

先行研究の検討 健康体力づくりのための有酸素運動について調べる。

前回の自分のデータの吸い上げ方を習得し、図を作成する。

学修課題：授業中に作成した図から結果と考察を作成する。

第７回：有酸素運動の効果と活用方法

先行研究の検討（２） 有酸素運動の効果について理解し、生活習慣病のための有酸素運動につなげる。

学修課題：先行研究を引用しながら、緒論と考察を完成させる。

第８回：有酸素運動の実際　ーインターバル速歩ー

心拍測定器を装着し、５～ 10kmをインターバル速歩を試みる。走る前後の体重と走行距離を測定する。

学修課題：データの吸い上げと保存をし、図を作成する。

第９回：有酸素運動の実際　ージョギングー

心拍測定器を装着し，５～ 10kmをジョギングで走る。走る前後の体重と走行距離,心拍数､RPEを測定する｡場合によっては採尿もする。

学修課題：これまでのデータを比較、検討する。

第10回：生活時間調査

調査内容と方法。エネルギー消費量の推定式での計算の仕方。

学修課題：自身の運動を実施した人しない日の生活時間を記録する。

第11回：生活時間調査と水分出納

水分出納について文献検索をし、討論する。自分のデータを見て１日の水分出納について運動実施日としない日を比較検討する。

学修課題：１日の水分、飲食の出納を調査する。

第12回：データの整理の仕方と図表の活用

各自のデータでExcelを使い表を作成し、図を考える。

平均、標準偏差、検定の復習。

学修課題：運動強度を計算してレポートを完成させる。

第13回：有酸素運動の実際　ーペース走ー

心拍測定器を装着し、５～ 10kmをペース走する。走る前後の体重と走行距離を測定する。

夏季のランニングの違いを知る。

学修課題：他の人との比較を行う。

第14回：水分出納の検討

夏季の運動実施日と実施しない日の水分出納データを収集すべく計画と準備

学修課題：レポート作成

第15回：夏季分の水分出納をまとめる

水分出納、生活時間、心拍数をまとめる。

学修課題：引き続きレポート作成、提出。

第16回：課題探索

問題提起

前期の学習を振り返り、各自のテーマを探索するため、討論を行う。

学修課題：トレーニングや健康について興味のあること、疑問に思うことを整理し問題提起できるよう自分の考えをまとめる。

第17回：課題発表

これまでの各種の速歩、走りの自分のデータをまとめ図表を作成し，検定を行うなど作成したレポートを発表用にパワーポイントで作成する。

学修課題：授業う時間では終わらないので引き続きパワーポイントを作成し完成させる。

第18回：有酸素運動の実際　ーランニングー

心拍測定器を装着し，10 ～ 14kmをランニングのスピードで走る。走る前後の体重と走行距離を測定する。

学修課題：データの吸い上げと記録。

第19回：データ集計と分析

データの集計をおこなう。

学修課題：各自の課題について発表できるように準備する。

第20回：データ集計と分析とまとめ

これまでのすべてのデータの集計結果を分析する。テーマ別に整理、課題の発表。

学修課題:高齢者の運動について意義、目的、効果を調べてまとめる。

第21回：高齢者の運動指導

健康寿命を延伸させるための介護予防運動について調べる。

学修課題：健康寿命を延伸させるための介護予防運動について調べ発表できるようにまとめる。

第22回：高齢者の介護予防運動

メタボリックシンドローム、認知症、ロコモティブシンドローム、フレイユについて調べ、その予防運動を考案する。

学修課題：これまで実施されている予防運動の種類、特性、効果を調べて発表する。

第23回：高齢者運動について発表・討論

他の人の発表を聞き疑問や感想を話し合う

学修課題：高齢者に関する論文を検索してまとめる。

第24回：高齢者運動の発表・討論と修正

他の人の発表を聞き疑問や感想を話し合う

学修課題：高齢者に関する論文をまとめてる。

第25回：有酸素運動の実際　ー長い距離を走るー

冬季のランニングを実施し夏季と比較する。これまでより長く10km ～ 15km走る

学修課題：データの吸い上げ、保存

第26回：マラソン大会への参加

ハーフマラソンに参加する。

学修課題：興味のあるマラソン大会やマラソンについて国内外のマラソンを調べる。

第27回：ハーフマラソンのまとめ

実際の大会に参加してデータを取ったものをまとめる。

学修課題：参加したマラソンのレポート作成。

第28回：ランニングに関するまとめ

これまでのすべてのランニングに関するデータををまとめ、発表し討論、修正をする。

学修課題：卒業論文のテーマを決定する。

第29回：まとめ　－文献検索－

自分の興味のあることで卒業論文の計画をたてる。もう１度文献を探しまとめる。

卒論の中間発表を参考に自分のテーマを絞っていく。

学修課題：卒業論文作成の目的、方法を作成し、計画を立案する。

第30回：まとめ　＝卒業論文へ－

１年間のまとめと卒業論文の計画。心拍数、水分出納、高齢者の介護予防運動、ランニングやジョギングの健康づくりに関して、体験して自分の興味や疑問に感じたことを卒論につなげられるようにまとめていく。

学修課題：卒業論文発表会で興味のあるもの、自分の作成したいものと類似の論文等をまとめ質問したものをレポートにする。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法

レポート１（30%）：計画・立案と目的設定の完成度を評価します。

レポート２（30%）：課題、テーマの探求と先行研究をまとめる完成度を評価します。

レポート３（40%）：自身の運動実施データから表や図を作成し、考察、まとめる完成度を評価します。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

必要に応じて適宜紹介

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

トレーニング・健康演習

【担当】禰屋　光男

■授業概要

卒業論文の作成に向けて、研究目的の立て方、研究目的を達成するための研究方法の立案と企画方法の習得、得られた実験結果のまとめ方や統計に関する計算方法、そして、その結果に基づきどのような考察が立てたれるかについてのまとめなど、具体的に勉強を進めます。また、研究は、チームで進めていく場合が多いため、仲間同士のディスカッション能力、協調性も求められます。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：卒業研究につなげるため、基本的な実験を進めるための知識や技能を修得する

目標：自身で卒業研究を実施するための研究計画を立案できる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：トレーニング科学の概説
授業の内容，進め方について説明します．
学修課題：参考文献を紹介するのでその内容を確認してください

第２回：筋パワーの測定（測定の概要）
筋パワーの測定方法について説明します．
学修課題：測定の概要をまとめて復習してください

第３回：筋パワーの測定（データの取得）
実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います．
学修課題：測定した筋パワーのデータを整理してください

第４回：筋パワーの測定（データの整理）
グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます．
学修課題：グループごとに整理した筋パワーのデータをもとに考察の準備をしてください

第５回：等速性筋力の測定（測定の概要）
等速性筋力の測定方法について説明します．
学修課題：等速性筋力の測定の概要をまとめて復習してください

第６回：等速性筋力の測定（データの取得）
実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います．
学修課題：測定した等速性筋力のデータを整理してください

第７回：等速性筋力の測定（データの整理）
グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます．
学修課題：グループごとに整理した等速性筋力データをもとに考察の準備をしてください

第８回：心拍数の測定（測定の概要）
心拍数の測定方法について説明します．
学修課題：心拍数の測定の概要をまとめて復習してください

第９回：心拍数の測定（データの取得）
実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います．
学修課題：心拍数の測定データを整理してください

第10回：心拍数の測定（データの整理）
グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます．
学修課題：グループごとに整理した心拍数のデータをもとに考察の準備をしてください

第11回：血中乳酸濃度の測定（測定の概要）
血中乳酸濃度の測定方法について説明します．
学修課題：血中乳酸濃度の測定の概要をまとめて復習してください

第12回：血中乳酸濃度の測定（データの取得）
実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います．
学修課題：血中乳酸濃度の測定データを整理してください

第13回：血中乳酸濃度の測定（データの整理）
グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます．
学修課題：グループごとに整理した血中乳酸濃度のデータをもとに考察の準備をしてください

第14回：呼気ガス分析の測定（測定の概要）
呼気ガス分析の測定方法について説明します．
学修課題：呼気ガス分析の測定の概要をまとめて復習してください

第15回：呼気ガス分析の測定（データの取得）
実際に，各自が測定を行い，データの処理を行います．
学修課題：呼気ガス分析の測定データを整理してください

第16回：呼気ガス分析の測定（データの整理）
グループ毎にデータを処理し，そのデータの見方を学びます．
学修課題：グループごとに整理した呼気ガス分析のデータをもとに考察の準備をしてください

第17回：データの解析とエクセルの活用（基本的な入力の方法）
これまでの実験データを用いて，エクセルへのデータ入力について勉強します．
学修課題：エクセルにデータを入力する際の基本的な方法を復習してください

第18回：データの解析とエクセルの活用（データの解析）
これまでの実験データを用いて，エクセルでのデータ解析について勉強します．
学修課題：エクセルを用いたデータ解析の方法を復習してください

第19回：総合実験（漸増負荷実験テストの実施）
漸増負荷実験テストについて解説し,持久的能力の評価法を学びます．
学修課題：漸増負荷実験テストについて復習して下さい

第20回：チームプロジェクト（研究の計画の立案）
２～３名のチームを作り，研究テーマを設定します
学修課題：研究テーマと計画を整理してください

第21回：チームプロジェクト（研究の実施）
研究計画にそって、データを取得します。
学修課題：実験結果をまとめてください

第22回：チームプロジェクト（報告書の作成）Ⅰ
取得したデータをもとに報告書作成の準備をします。
学修課題：報告書を作成してください

第23回：論文の書き方（基本的な書き方）
チームプロジェクトのデータを活用して，論文の基本的な書き方を勉強します．
学修課題：基本的な論文の書き方を復習してください

第24回：論文の書き方（図表の作成）
チームプロジェクトのデータを活用して，論文を書く際に必要な図表の作成方法を学びます。
学修課題：図表の作成方法を復習してください

第25回：論文の書き方（参考文献の検索と引用）
論文を書く際に必要な参考文献の検索と引用の方法を学びます。
学修課題：参考文献の検索方法と引用方法を復習してください

第26回：研究報告（プレゼンテーションの準備）
チームプロジェクトの研究の成果をプレゼンテーションにより発表する際のプレゼンテーション作成の基本を学びます。
学修課題：プレゼンテーション作成の際の基本的な方法を復習してください

第27回：研究報告（プレゼンテーションの作成）
チームプロジェクトの研究の成果報告するためのプレゼンテーションを作成します。
学修課題：報告会のためのプレゼンテーションの準備をしてください

第28回：研究報告（プレゼンテーションによる報告会）
チームプロジェクトの研究の成果について報告会を開催します．
学修課題：報告会で指摘された問題点について考え、修正案を作成してください

第29回：研究報告（修正したプレゼンテーションによる発表）
前回指摘された課題を修正したプレゼンテーションにより再び報告会を行います。
学修課題：卒業論文に向けたプレゼンテーションの方法を復習してください

第30回：まとめと達成度チェック
これまでの授業を通して、各自が卒業論文のテーマを検討します。
学修課題：研究実施全般について復習してください

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

実験で得られたデータをもとにレポートを作成する必要があるので、欠席しないでください。
実験データに基づくレポート（50%）：レポートに必要な内容が適切に記載され、十分な考察ができていること

実験データに基づくプレゼンテーション（50%）：プレゼンテーションに必要な内容が含まれ、研究の意義などについてのプレゼンテーションができていること

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

なし

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

トレーニング・健康演習

【担当】田中　忍

■授業概要

インターンシップや教育実習など人前で話す機会に備え，発表時間を考慮して聞き手に見やすくわかりやすい資料を作成し，相手に伝わる発表が出来るようになる．プレゼンテーションは，内容と発表（資料の見やすさ，発表態度，声の大きさ，目線など）に分けて学生同士でも評価をし合いフィードバックを行う．また，卒業論文の作成に向け，興味のある課題を見つけ，文献を検索し，研究方法を理解する．一年間かけて，信頼できる文献を元に課題を具体的に絞り込み，自ら卒業論文を作成できる力を身につける．

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：興味があることを深く学ぶ．

目標：参考文献を用い，興味あることをまとめて説明できる．

2．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：参考文献を検索し，要約する．

目標：信頼できる参考文献を探すことが出来る．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スケジュールの確認

授業をどのように進めるか，どのように評価するかについて説明する．

学修課題：演習での学びを通して自立する見通しを立てる．

第２回：自己紹介

自分の長所はエピソードと共に，「興味あること」は理由をつけて，自己紹介を行う．

学修課題：家族や友人にも「自分の長所」を聞いてみる．

第３回：自己紹介のプレゼンテーション

発表するときに気をつけることを，互いに評価しあう．

学修課題：人前で話すときに自分が改善すべきことを見直す．

第４回：インターンシップに向けた準備

インターンシップ先を考慮し，実習までに準備をしておきたい課題（熱中症，トレーニング指導，応急処置など）をあげ，信頼できる情報を参考にグループでまとめる．

学修課題：課題を調べ，参考にした文献を明記し，プレゼンテーション資料を作成する．

第５回：インターンシップに向けた準備（発表）

グループで準備した課題を発表する．発表に対して質問とフィードバックを行う．

学修課題：質問の答えを調べる．

第６回：インターンシップに向けた準備（修正）

質問を受けたことに対して解答する．

学修課題：適切な準備とプレゼンテーションを復習する．

第７回：文献の検索

本学図書館HPのデータベース一覧を利用し，指定したキーワードを用いて文献を検索する．

学修課題：文献を熟読する．

第８回：レポート・論文の書き方

学術文書と作文・感想文の違いを理解し，適切なレポート・論文の書き方を学ぶ．

学修課題：学術文書とは何か復習する．

第９回：レポートを作成する

文献検索で配布した文献から出された課題に対し，学術文書を作成する．

学修課題：学術文書であるか，確認する．「興味あること」を考えてくる．

第10回：「興味あること」を伝える

興味のあることを伝えるために，聞き手に見やすくわかりやすい資料を作成し，相手に伝わる発表をする準備をする．

学修課題：プレゼンテーションの資料を作成し，発表の練習をする．

第11回：「興味あること」を発表し，評価しあう（１回目）

準備してきた内容を発表する．また，互いに評価しあう．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．参考文献を探す．

第12回：「興味あること」を発表し，評価しあう（２回目）

準備してきた内容を発表する．また，互いに評価しあう．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．参考文献を探し，さらに理解を深める．

第13回：「興味あること」を発表し，評価しあう（３回目）

準備してきた内容を発表する．また，互いに評価しあう．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．参考文献を探し，さらに理解を深め，考えをまとめる．

第14回：「興味あること」についてレポートを作成する

参考文献を探し引用表現を使って，興味あることについてレポートを作成する．

学修課題：レポートを作成する．

第15回：前半のまとめ

前半に実施した内容を振り返る．

学修課題：夏休みの学習計画を立てる．

第16回：夏休みの報告

夏休みの期間にインターンシップ以外で，印象に残っていることについて発表する．インターンシップの報告で必要な項目を考える．

学修課題：インターンシップの報告の準備をする．

第17回：インターンシップの報告（１回目）

準備してきた内容を発表する．また，互いに評価しあう．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．

第18回：インターンシップの報告（２回目）

準備してきた内容を発表する．また，互いに評価しあう．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．他の発表の良いところを次に活かす．

第19回：インターンシップの報告（３回目）

準備してきた内容を発表する．また，互いに評価しあう．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．自分が行った業種と他を比較する．

第20回：卒業論文中間発表会出席に振替

卒業論文中間発表会に出席し，質問をする．

学修課題：興味があった発表について，質問や改善点を考える．

第21回：卒業論文中間発表会の振り返り

質問や改善点を出し，何を調べる必要があるか議論する．

学修課題：文献を検索して，熟読する．

第22回：課題文献を読む

いくつかの課題文献の中から一つ文献を選び，まずは一人で読む．

学修課題:わかったこととわからないことを区別しながら文献を読む．

第23回：グループで要約

同じ課題文献を読んでいるグループで，わかったこととわからないことを相談し，文献を要約する．

学修課題：グループで課題文献を要約し，それぞれが発表できるように練習する．

第24回：文献を発表する

別の課題文献を読んだ者がグループとなって，読んだ文献を発表する（発表10分＋質疑５分）．

学修課題：時間内に伝えられたか振り返る．

第25回：文献を検索する

卒業論文のテーマにしたい内容に関連する文献を検索し，熟読する．

学修課題：要約をする．

第26回：文献を発表する（１回目）

準備してきた内容を発表する．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．

第27回：文献を発表する（２回目）

準備してきた内容を発表する．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．さらに参考文献を探す．

第28回：文献を発表する（３回目）

準備してきた内容を発表する．

学修課題：発表者は自分の発表を振り返る．さらに参考文献を探し，卒業論文のテーマを考える．

第29回：研究テーマとデザインをまとめる

卒業論文のテーマとそのデザインについてまとめる．

学修課題：具体的に絞り込めるように取り組む．

第30回：後半のまとめ

後半に実施した内容を振り返る．

学修課題：卒業論文を作成する計画を立てる．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法

プレゼンテーション（60%）：作成した資料を内容（わかりやすさ・見やすさ）および発表（声の大きさや聞きやすさ）で評価する．

レポート（10%）：学術文書として書けているかについて評価する．

学生同士の評価（10%）：プレゼンテーションを学生同士で評価する．

文献の要約（10%）：必要な事柄を外さず文献を要約し発表する．

授業への取り組み（10%）：提出物の期限厳守，個人およびグループ活動時に積極的に参加しているかを評価する．

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜紹介する．

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる．

「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

トレーニング・健康演習

【担当】武田　哲子

■授業概要

トレーニング・健康・栄養に関する膨大な情報の中から信頼できる情報を選択し、理解した上でプレゼンテーションができる力を養うことを目的とする。

また、さまざまな研究手法を学び、自ら研究を計画し遂行できる力を身につける。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：健康やスポーツと栄養に関する情報を整理し，課題設定や問題解決を考察できる力を養う

目標：情報収集する力，情報を選択する力，課題設定から問題解決までの論理的思考能力を身につける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：健康・栄養に関する概説

本演習の内容と課題について解説し，達成目標を確認する．

学修課題：興味あるテーマについての卒業研究について下調べしておく．

第２回：卒業論文についての概説

自然科学系の研究のテーマ設定について解説する．

学修課題：スポーツ現場における解決すべき問題点について文献検索する．

第３回：現場から栄養に関する課題を探る（１回目）

スポーツ現場における問題点について情報共有を行う．各自調べてきた内容をプレゼンテーションする．

学修課題：発表資料を準備する．また，発表でキーワードとなった内容について各自復習する．

第４回：現場から栄養に関する課題を探る（２回目）

スポーツ現場における問題点について情報共有を行う．各自調べてきた内容をプレゼンテーションする．

学修課題：発表資料を準備する．また，発表でキーワードとなった内容について各自復習する．

第５回：現場から栄養に関する課題を探る（３回目）

スポーツ現場における問題点について情報共有を行う．各自調べてきた内容をプレゼンテーションする．

学修課題：発表資料を準備する．また，発表でキーワードとなった内容について各自復習する．

第６回：現場から栄養に関する課題を探る（４回目）

スポーツ現場における問題点について情報共有を行う．各自調べてきた内容をプレゼンテーションする．

学修課題：発表資料を準備する．また，発表でキーワードとなった内容について各自復習する．

第７回：現場から栄養に関する課題を探る（５回目）

スポーツ現場における問題点について情報共有を行う．各自調べてきた内容をプレゼンテーションする．

学修課題：発表資料を準備する．また，発表でキーワードとなった内容について各自復習する．

第８回：スポーツ現場における栄養に関する課題についての討論

これまでの発表内容を総合的にとらえ，スポーツ現場における栄養に関する問題点について議論する．

学修課題：討論した内容を復習し，まとめる．

第９回：テーマに合わせた食事計画

これまでにあげられた課題に関するテーマを設定し，食事計画を立案する．

学修課題：食事計画立案のために必要な情報を下調べしておく．

第10回：テーマに合わせた食事計画の実践（１回目）

調理実習を行い，計画の見直し，修正を行う．

学修課題：実習をふりかえりレポートを作成する．

第11回：テーマに合わせた食事計画の実践（２回目）

調理実習を行い，計画の見直し，修正を行う．

学修課題：実習をふりかえりレポートを作成する．

第12回：テーマに合わせた食事計画の実践（３回目）

調理実習を行い，計画の見直し，修正を行う．

学修課題：実習をふりかえりレポートを作成する．

第13回：テーマに合わせた食事計画の実践（４回目）

調理実習を行い，計画の見直し，修正を行う．

学修課題：実習をふりかえりレポートを作成する．

第14回：テーマに合わせた食事計画の実践（５回目）

調理実習を行い，計画の見直し，修正を行う．

学修課題：実習をふりかえりレポートを作成する．

第15回：前半授業のまとめ

前半授業をまとめる．

学修課題：これまでの内容を振り返り，卒論テーマに向けて関心事項を整理しておく．

第16回：文献検索とその読み方、紹介方法について

学術論文の書き方について解説する．

学修課題：文献を読み，発表資料を準備する．

第17回：文献紹介（１回目）

文献紹介および内容に関して討論する．

学修課題：文献を読み，発表資料を準備する．文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく．

第18回：文献紹介（２回目）

文献紹介および内容に関して討論する．

学修課題：文献を読み，発表資料を準備する．文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく．

第19回：文献紹介（３回目）

文献紹介および内容に関して討論する．

学修課題：文献を読み，発表資料を準備する．文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく．

第20回：文献紹介（４回目）

文献紹介および内容に関して討論する．

学修課題：文献を読み，発表資料を準備する．文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく．

第21回：文献紹介（５回目）

文献紹介および内容に関して討論する．

学修課題：文献を読み，発表資料を準備する．文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく．

第22回：卒論研究計画の立案

研究計画の立て方と研究の進め方について解説する．

学修課題：扱いたいテーマに関して下調べしておく．

第23回：卒論研究計画の立案と討論（１回目）

研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する．

学修課題：発表準備および発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく．

第24回：卒論研究計画の立案と討論（２回目）

研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する．

学修課題：発表準備および発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく．

第25回：卒論研究計画の立案と討論（３回目）

研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する．

学修課題：発表準備および発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく．

第26回：卒論研究計画の立案と討論（４回目）

研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する．

学修課題：発表準備および発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく．

第27回：卒論研究計画の立案と討論（５回目）

研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する．

学修課題：発表準備および発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく．

第28回：先行研究の検索について

研究したいテーマに関連した研究の調べ方，まとめ方について解説する．

学修課題：先行研究を検索し読み込んでおく．

第29回：課題の設定

先行研究をどのようにまとめ課題を設定するか解説する．

学修課題：先行研究を検索し読み込んでおく．

第30回：まとめと振り返り

後半授業をまとめ，卒業研究テーマ設定に向けた達成状況を確認する．

学修課題：先行研究をまとめ，読み込んでおく．

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

課題発表（30%）：課題の理解，論理的な説明，発表のわかりやすさについて評価する
課題取り組み状況（40%）：課題発表に向けて適切な文献検索，情報処理を行っているかについて評価する
レポート（30%）：所定の書式に合わせて独自の考察を含めて論理的に取り組むことができているかを評価する

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

適宜紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング基礎演習　【担当】コーチングコース教員

■授業概要
前期では、各教員のコーチングポリシーに触れたり、グループ発表において「私たちが考えるコーチング」を発表することによって、自身のコーチングを深めることを目指す。後期では、各教員のゼミ活動の紹介からゼミを選択する。また、今までの大学生活を振り返り、今後のコーチングコースでの学びや将来について考える。さらに、卒業研究発表会を聴講して、卒業研究に向けて考える。

■養うべき力と到達目標
1．DP5.新しい価値を創造する能力
具体的内容：各教員のコーチングポリシー、卒業生発表・質疑応答
目標：自身のコーチングを深め、今後のコーチングコースでの学びや将来について考えることができる。
2．DP6.優れたスポーツマンシップ
具体的内容：グループ発表、個人スピーチ
目標：グループ発表や個人スピーチを傾聴することによって、真摯な態度を身に付けることができる。
3．DP8.スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：卒業研究中間発表会、卒業研究発表会
目標：卒業研究中間発表会や卒業研究発表会を聴講することによって探究心を培うことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）
第１回：オリエンテーション、コーチングの概要
シラバスを授業の進め方や内容について説明する。また、コーチングの概要について解説する。
学修課題：シラバスを熟読する。コーチングについてまとめる。
第２回：コーチングポリシー（渋谷俊浩）
自身のコーチングポリシーについて解説する。
学修課題：担当教員について調べる。
第３回：コーチングポリシー（望月　聡）
自身のコーチングポリシーについて解説する。
学修課題：担当教員について調べる。
第４回：コーチングポリシー（林　弘典）
自身のコーチングポリシーについて解説する。
学修課題：担当教員について調べる。
第５回：コーチングポリシー（吉川文人）
自身のコーチングポリシーについて解説する。
学修課題：担当教員について調べる。
第６回：コーチングポリシー（白木孝尚）
自身のコーチングポリシーについて解説する。
学修課題：担当教員について調べる。
第７回：コーチングポリシー（北村　哲）
自身のコーチングポリシーについて解説する。
学修課題：担当教員について調べる。
第８回：グループ分け
今後のグループ発表に向けてグループ分けを行う。また、各教員のコーチングに対する質問を検討する。
学修課題：各教員のコーチングポリシーについてまとめる。
第９回：各教員のコーチングポリシーに対する議論（渋谷俊浩、望月　聡）
各教員のコーチングポリシーに対して議論する。
学修課題：議論の内容を踏まえ、「私たちが考えるコーチング」についてまとめる。
第10回：各教員のコーチングポリシーに対する議論（林　弘典、吉川文人）
各教員のコーチングポリシーに対して議論する。
学修課題：議論の内容を踏まえ、「私たちが考えるコーチング」についてまとめる。
第11回：各教員のコーチングポリシーに対する議論（白木孝尚、北村　哲）
各教員のコーチングポリシーに対して議論する。
学修課題：議論の内容を踏まえ、「私たちが考えるコーチング」についてまとめる。
第12回：各教員のコーチングポリシーに対する議論（コーチングコース全教員）
各教員のコーチングポリシーに対する議論内容について総括する。
学修課題：議論の内容を踏まえ、「私たちが考えるコーチング」についてまとめる。
第13回：グループ発表準備
各グループで「私たちが考えるコーチング」について発表準備をする。
学修課題：議論の内容を踏まえ、「私たちが考えるコーチング」についてまとめる。
第14回：グループ発表（前半）
「私たちが考えるコーチング」について発表する。
学修課題：発表の打合せをする。
第15回：グループ発表（後半）
「私たちが考えるコーチング」について発表する。
学修課題：発表の打合せをする。
第16回：オリエンテーション、前期の復習：集中授業
授業内容、スケジュールを確認する。また、前期の授業内容について復習する。
学修課題：シラバスを熟読し、前期の授業を振り返る。
第17回：教員紹介（渋谷俊浩、望月　聡）：集中授業
研究活動やゼミ活動などを紹介し、質疑応答する。
学修課題：担当教員の研究活動やゼミ活動について調べる。
第18回：教員紹介（林　弘典、吉川文人）：集中授業
研究活動やゼミ活動などを紹介、質疑応答する。
学修課題：担当教員の研究活動やゼミ活動について調べる。
第19回：教員紹介（白木孝尚、北村　哲）：集中授業
研究活動やゼミ活動などを紹介、質疑応答する。
学修課題：担当教員の研究活動やゼミ活動について調べる。
第20回：卒業研究中間発表会
卒業研究中間発表会を聴講し、興味や関心のある卒業研究の内容を見つける。
学修課題：過去の卒業研究抄録集について調べる。
第21回：卒業生発表：集中授業
本学卒業生から学生時代の過ごし方や将来に向けてどのような取り組みをしていたかを紹介する。
学修課題：今後の大学生活について考えてくる。
第22回：卒業生質疑応答：集中授業
前回の発表を受けて受講生から質疑する。
学修課題：将来の進路について考えてくる。
第23回：個人発表（前半グループ）：集中授業
入学後から今までを振り返り、全員の前で一人一人スピーチをする。
学修課題：入学後から今までの大学生活を振り返ってまとめる。
第24回：個人発表（中盤グループ）：集中授業
入学後から今までを振り返り、全員の前で一人一人スピーチする。
学修課題：入学後から今までの大学生活を振り返ってまとめる。
第25回：個人発表（後半グループ）：集中授業
入学後から今までを振り返り、全員の前で一人一人スピーチする。
学修課題：入学後から今までの大学生活を振り返ってまとめる。
第26回：個人発表（前半グループ）：集中授業
学生や教員のスピーチを聞いて残りの学生生活を通し、どのような人物になりたいかを全員の前で一人一人スピーチをする。
学修課題：今までの授業を踏まえ、これからのコーチングコースでの学びについてまとめる。
第27回：個人発表（中盤グループ）：集中授業
学生や教員のスピーチを聞いて残りの学生生活を通し、どのような人物になりたいかを全員の前で一人一人スピーチをする。
学修課題：今までの授業を踏まえ、これからのコーチングコースでの学びについてまとめる。
第28回：個人発表（後半グループ）：集中授業
学生や教員のスピーチを聞いて残りの学生生活を通し、どのような人物になりたいかを全員の前で一人一人スピーチをする。
学修課題：今までの授業を踏まえ、これからのコーチングコースでの学びについてまとめる。
第29回：講評：集中授業全授業を振り返る。
各教員が講評を行う。受講生は自分が目指すコーチングを明確にし、ゼミの希望を提出する。また、コーチングコースで学びたいことに

ついてレポートを作成する。
学修課題：今までの授業を踏まえ、これからのコーチングコースでの学びについてまとめる。

第30回：卒業研究発表会
卒業研究発表会を聴講し、興味や関心のある卒業研究の内容を見つける。
学修課題：過去の卒業研究抄録集について調べる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
レポート（70%）：内容の妥当性や論理的構成、分量について、独自のルーブリックに基づいて3段階で評価する。
発表（30%）：内容の妥当性や論理的構成、分かりやすさについて、独自のルーブリックに基づいて3段階で評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
必要に応じて授業で紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。

コーチング演習

【担当】渋谷　俊浩

■授業概要

スポーツにおけるコーチングに関するいくつかのテーマについて、実習・ディスカッション・文献講読等を通じて学修することにより、卒業研究（研究論文）作成に向けてイントロダクション的な内容とする。
前期は共通テーマについて実験・調査等を行い、その結果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
後期は個別にテーマを設定し、実験・調査等を行い、その結果を短編論文にまとめ、プレゼンテーションを行う。
また、年間を通じて４年次生の卒業研究の補助を行い、コース中間発表会・最終発表にも必ず参加する。

■養うべき力と到達目標

１．DP6.優れたスポーツマンシップ

具体的内容：アスリートとして、コーチとして、まずは身につけておくべき素養である。正々堂々と競技するために、正しい理論を学修する。
目標：競技スポーツ・コーチングに関する理論を身につける。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：講義で学修した内容を、コーチングの現場で実践し、競技力向上を目指す。
目標：コーチング（トレーニング含む）計画を立案し、自身もしくは他者に対してコーチングを実践する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンスおよびコーチングの現状の確認
授業スケジュール・課題等を確認する。
コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。
学修課題：コース専門科目等の資料・ノートをまとめ、整理しておく。これまでに学修した内容を、自身のスポーツ現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）

第２回：基礎理論の理解
コーチングにかかわる様々な基礎理論を確認し、理解する。
コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。
学修課題：これまでに学修したスポーツ・コーチングに関わる理論について内容をまとめ、整理しておく。自身のスポーツ現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）

第３回：文献講読
テーマにかかわる様々な研究・文献に触れる。
学修課題：テーマに関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第４回：ディスカッション
取り組むテーマについて全員でディスカッションする。
学修課題：ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめ、課題への理解を深める。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第５回：前期課題の理解
提示されたテーマについて理解を深め、取り組みを開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：研究の進め方を理解し、計画立てって進めていく。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第６回：先行研究・文献調査
提示された課題について、先行研究及び文献を調査するなど、取り組みを開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：研究に関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第７回：調査のまとめ
論文・文献の要約集を作成する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：自身が作成した論文・文献要約集を熟読し、課題について十分理解を深め、調査等の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第８回：研究の実践（アンケート調査等）
アンケートを作成するなど、調査等を開始する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：調査を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第９回：中間報告
資料等を基に、進捗状況を報告する。
学修課題：報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。

第10回：研究の実践（結果の整理）
調査結果を整理する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：得られたデータをについて検討を加え、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第11回：研究の実践（結果の分析）
得られた結果について分析を加える。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：研究結果をまとめ、レポートを作成していく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第12回：研究のまとめ（レポート作成）
発表用レポートを作成し、発表の準備をする。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：結果報告会の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第13回：結果報告会（前半グループ）
取り組みの結果を全員に報告し、ディスカッションする。
学修課題：報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、後期課題について構想を練っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第14回：結果報告会（後半グループ）
取り組みの結果を全員に報告し、ディスカッションする。
学修課題：報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、後期課題について構想を練っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第15回：前期のまとめ（後期課題設定）
前期の授業内容を総括する。
学修課題：取り組みの成果をまとめ、資料として残しておく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。

第16回：ガイダンスおよび陸上競技界の動向把握
後期の授業スケジュール・課題等を確認する。
今期に行われた主要大会の結果等を把握し、今後のコーチングに活かす方策を検討する。
コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。
学修課題：陸上競技界の動向について理解し、各自のテーマを構想しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第17回：研究発表会の聴講（基礎理論の理解）
研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。
コーチングにかかわる様々な基礎理論を確認し、理解する。
コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。
学修課題：研究に関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第18回：研究発表会の聴講（文献講読）
研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。
各自研究にかかわる様々な研究・文献に触れ、要約集を作成する。
学修課題：自身が作成した論文・文献要約集を熟読し、課題について十分理解を深め、調査等の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第19回：ディスカッション
各自研究について全員でディスカッションする。
学修課題：ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめ、研究テーマを絞っていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第20回：研究テーマの設定
これまでの学修内容をふまえ、各自の研究テーマを設定する。
学修課題：研究の工程を検討し、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）

第21回：各自研究（調査・実験等）
各自で設定したテーマについて、調査・実験を開始する。並行して、

スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：データを整理し、まとめておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第22回：各自研究（結果の整理等）
得られた結果を整理する。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：データをまとめ、中間報告会の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第23回：各自研究中間報告
資料等を基に、進捗状況を報告する。
学修課題：報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、研究を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。
第24回：各自研究（結果の分析・考察等）
得られた結果について分析し、考察を加える。並行して、スポーツ現場での実践を行う。
学修課題：結果をまとめ、短編論文の執筆を始める。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第25回：各自研究（結果報告・レポート提出）
個人研究の結果を全員に報告し、まとめのレポートを提出する。プレゼンテーションの準備をする。
学修課題：自身のレポートを熟読し、プレゼンテーションの準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第26回：各自研究（前半：結果発表・プレゼンテーション）
一人ずつ、各自の研究成果をプレゼンテーションする。
学修課題：プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第27回：各自研究（後半：結果発表・プレゼンテーション）
一人ずつ、各自の研究成果をプレゼンテーションする。
学修課題：プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第28回：研究発表会の聴講（卒業研究実施へ向けて：テーマの模索）
研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。
３年間の学修内容を総括し、各自の卒業研究テーマを模索する。
学修課題：卒業研究のテーマを模索する。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第29回：研究発表会の聴講（卒業研究実施へ向けて：テーマの設定）
研究発表会を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。
３年間の学修内容を総括し、各自の卒業研究テーマを設定する。
学修課題：卒業研究のテーマを設定する。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング）
第30回：授業のまとめ（卒業研究の進め方）
３年間の学修内容を総括し、各自の卒業研究の行程を検討・設定する。
学修課題:卒業研究の行程を検討し、研究行うための準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
コース卒業研究中間発表会（10月）、最終卒業研究発表会（２月）への参加を原則とする。
共通テーマのレポート（25%）：コーチングに関する基礎理論をふまえた、共通テーマの理解度を25点満点で評価します。
プレゼンテーション１（15%）：プレゼンテーションの内容（作法・表現力等）を15点満点で評価します。
各自テーマの短編論文（40%）：コーチングに関する基礎理論をふまえた、各自テーマの独創性・理解度・論理性等を40点満点で評価します。
プレゼンテーション２（20%）：プレゼンテーションの内容（作法・表現力・論理性等）を20点満点で評価します。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
テーマ別に随時紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング演習

【担当】植田　実

■授業概要

１．指導者の指導哲学、指導行動といった事例について調査し発表する。その過程から指導に必要な実践的な観点や知見を学ぶ。

２．自身の日々の選手および指導活動の振り返りを通して課題を明らかにするとともに改善および向上方法を見出す。PDCAサイクルのもと実践的なセルフコーチングおよび指導のための知見を得る。

３．卒論作成に向けた研究法を学びながら個人またはグループ調査と発表を数多く実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る。

■養うべき力と到達目標

１．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：実践的なコーチングに関する知識

目標：コーチングに関する幅広い知識だけでなく、指導者の経験や考え方など、その思考の要因等ににについて理解できる。

２．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：学んだ知識について自身の競技生活や指導場面での活用・実践

目標：学んだスポーツ科学情報やセルフコーチングの知見を自身の競技生活に活用できる、またコーチング関連の情報やスキルを指導場面で活用できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき4時間）

第１回：コーチングの実践的学びについて

演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する

学修課題：自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。

第２回：コーチングについての理解①　自分の恩師のコーチング

自身が受けてきたコーチングについて理解する

（ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する）

学修課題：授業時に取り上げられた内容について、再度振り返りレポートを作成する。

第３回：コーチングについての理解②　海外のコーチング

自身のスポーツ種目における海外のコーチングの実際に触れ、自身の経験と対比しながら理想のコーチングについて思考を深める。

学修課題：授業時に取り上げられた内容について、再度振り返りレポートを作成する。

第４回：コーチングについての理解③　自分のモチベート

自分自身をモチベートする方法や考えについて理解し、実践する。

学修課題：自身をモチベートするための資料を入手する。

第５回：コーチングスタイル①　チームスポーツのコーチング

チームをモチベートする事例に触れながら、集団をコーチングするための知見を理解する。

学修課題：著名なコーチの自伝書を2冊以上読み、プレゼン資料を作成する。

第６回：コーチングスタイル②　個人スポーツのコーチング

個人（他人）のモチベートする事例に触れながら、個人をコーチングするための知見を理解する。

学修課題：著名なコーチの自伝書を2冊以上読み、プレゼン資料を作成する。

第７回：モチベーションビデオの作成

自分を、他人を、または集団をモチベートするための動画の方法論や知識について理解し、映像をを作成する。

学修課題：モチベーションビデオの作成および発表準備

第８回：モチベーションビデオの発表および内容についてのプレゼン

作成したモチベーションビデを発表する。また、どのような意図で作成したか、映像のポイントや工夫した点についてプレゼンする。

学修課題：他者発表について分析評価し、コメントを作成する。

第９回：日々の競技実践および指導実践の評価

セルフコーチングを理解し、実践するために、日々の競技実践および指導実践を評価し、問題点、これからの課題を明確にする。その後実践のための計画を立案する。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。

第10回：実践活動の報告①

前回調整し直した計画を遂行した結果、実践の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第11回：実践活動の報告②

実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第12回：実践活動の報告③

実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第13回：実践活動の報告④

実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第14回：継続してきた実践活動の評価

これまで継続してきた実践について評価し、新たな問題点や課題を明確にする。その上で計画を新たに立案し報告する。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第15回：計画の評価および調整による新計画の立案

計画を遂行した結果から再度、計画の再調整を図る。また、これまでのPDCAサイクルを活用した実践の中で得られたことや効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第16回：コーチングに関わる研究方法①　スポーツ方法論に関わる研究

スポーツ方法論に関わる研究の概観

学修課題：スポーツ方法論に関する研究論文を読む。

第17回：コーチングに関わる研究方法②　多様なコーチング分野の研究

4年生の卒業研究中間発表会に参加し、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。

学修課題：指導方法に関する研究論文を読む。

第18回：コーチングに関わる研究方法③　コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）

コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）の概観

学修課題：コーチングの事例的研究論文を読む。

第19回：コーチングに関わる研究方法④　コーチング事例に関わる研究（エピソード分析的研究）

コーチング事例に関わる研究（エピソード分析的研究）の概観

学修課題：コーチングの事例的研究論文を読む。

第20回：コーチングに関わる研究方法⑤　コーチング研究の方法

コーチング研究の方法についての学習

学修課題：コーチングの事例的研究論文を読む。

第21回：ミニ論文テーマ設定

論文の作成方法についての実践的学習。グループ別に研究テーマを設定する。

学修課題：日々の実践から課題を見出すためのフィールドワークを行う。

第22回：ミニ論文作成のための先行研究の調査

論文の作成方法についての実践的学習。グループで先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について理解する。

学修課題：授業時に出された課題を行う。

第23回：ミニ論文の研究デザイン

グループで研究のデザインを作成する。

学修課題：授業時に出された課題を行う。

第24回：ミニ論文のデータ収集

グループで、調査や実験を行う。

学修課題：授業時に出された課題を行う。

第25回：ミニ論文のデータ収集②　データの整理

調査や実験で得られたデータの整理方法について学習し整理する。

学修課題：授業時に出された課題を行う。

第26回：ミニ論文のデータの分析

整理したデータの分析方法を学習し、分析をする。

学修課題：授業時に出された課題を行う。

第27回：ミニ論文のデータの解釈
分析したデータの提示方法について学習し､図表および文章を作成する。
学修課題：授業時に出された課題を行う。
第28回：プレゼンテーション　良いプレゼンテーションの理解
プレゼンテーションのアプリケーションについて学習し、プレゼンテーションのスライドを作成る。
学修課題：授業時に出された課題を行う。
第29回：プレゼンテーションの実践
ミニ卒論の発表会。
学修課題：他グループのプレゼンについて分析評価し、コメントを作成する。
第30回：自身の研究テーマの立案
4年生の卒業研究発表会に参加し、先週までの自身らが行った研究と対比させながら、卒業研究について深く思考し、自身の卒業研究のテーマについて立案する。
学修課題：卒業研究テーマの立案。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
■評価方法
期末レポート（60%）：①指導実践についてのレポートおよび②研究テーマ設定に関わるレポートについて各30点
中間プレゼン（40%）：①指導実践についてのプレゼンおよび②研究テーマ設定のプレゼンについて各20点
■教科書
特に指定しない
■参考文献等
・レイナー・マートン（2013）スポーツ・コーチング学：指導理念からフィジカルトレーニングまで
・アンドレ・アガシ（2012）OPEN-アンドレ・アガシの自叙伝
その他授業時に適宜紹介する。
■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング演習

【担当】望月　聡

■授業概要

スポーツ選手を対象とした運動指導や，サッカー競技等のコーチング，ボールゲームを中心としたスポーツのゲーム分析・パフォーマンス分析を計画，実践する。そして卒業研究に向けた文献収集，文献レビューの作成，プレゼンテーション，スポーツとコーチングの実践，ゲーム分析・パフォーマンス分析の実際を行う.

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：サッカー競技のコーチングについて、コーチの実際の役割、資質、能力について学ぶ。

目標：コーチの必要とされる能力を理解する。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：実践力ある選手作りについて講義・実践を通して考え学ぶ。

目標：選手を実際に伸ばすことのできるコーチングを目指す。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス・コーチ学の研究とは

本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行う。研究ノートに、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、コーチ学の研究について、例を紹介し、全体像を概観する。

学修課題：コーチ学について基礎知識を調べておく。

第２回：文献収集①

図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：図書館で興味ある先行研究を調べておく。

第３回：レジュメ作成①

収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：収集した文献資料を読んでおく。

第４回：発表①グループA

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。

第５回：発表②グループB

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。

第６回：スポーツの実践

サッカーの練習としても用いられるフットサル（５対５）を実践し、サッカーに必要な技術、個人戦術、グループ戦術について身体知として理解する。次回の質的分析を行うための動画撮影を行い、質的分析のための情報を収集する。

学修課題：サッカー競技の実践を行うので、身体的な準備(運動)をしておく。

第７回：質的分析、意見の集約方法①

フットサル（５対５）の実施動画を確認し、サッカーに必要な技術、個人戦術、グループ戦術について議論する。半構造化インタビューによりサッカーの戦術構造を構築する。質的分岐手法を経験し、身体知を形式知へ変換する過程を学習する。

学修課題：競技を振り返り分析しておく。

第８回：量的分析、データ収集方法①

フットサル（５対５）におけるサッカーの戦術構造に基づき、戦術行動を一つ定めてデータ収集を行う。実施動画を確認し、戦術行動の成否、本数、人数、状況などを記録する。得られたデータから考えられることを議論し、考察する。

学修課題：前回の授業の内容を復習して、再度理解しておく。

第９回：文献収集②

図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：図書館で興味ある文献を閲覧しておく。

第10回：レジュメ作成②

収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：収集した文献を読んで、まとめておく。

第11回：発表③グループA

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。

第12回：発表④グループB

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。

第13回：競技に専門的な体力測定の実施

サッカーに専門な20m走、５*10mシャトルラン、３歩バウンディング、垂直跳びなどを実施する．スパイクまたはトレーニングシューズを持参する．サッカーフィールドにて計測を実施する。

学修課題：実際にフィジカル測定をするので、運動を行い体力をつけておく。

第14回：データの入力、基本統計量とグラフの出力

体力測定のデータを入力する。得られたデータセットから平均値、標準偏差、最大値、最小値を算出する。各１回目と２回目による信頼性係数を算出する。各項目間の相関係数を算出する。項目間の散布図を作成する。得られたデータの解釈方法を解説し､理解を深める。

学修課題：実際に測定したデータをどう活用するか、自分でまず考えておく。

第15回：研究テーマの選択

前期の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。

学修課題：振り返りから、自分に興味あるテーマ設定を考えておく。

第16回：研究計画を発表する

前期までにそろえた資料と選択したテーマを基に，今後の研究計画を立て発表する.

学修課題：仮決定したテーマについて、関連する文献を調べておく。

第17回：文献収集③

図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。

第18回：レジュメ作成③

収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。

第19回：発表⑤グループA

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。

各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。
学修課題：発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。
第20回：発表⑥グループB
それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。
学修課題：発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。
第21回：スポーツの実践　他の競技から分析
サッカー以外のスポーツを実践し，必要な技術、個人戦術、グループ戦術について身体知として理解する。次回の質的分析を行うための動画撮影を行い、質的分析のための情報を収集する。
学修課題：実技を行うので、身体の準備と他のスポーツの特性について調べておく。
第22回：質的分析、意見の集約方法②
スポーツの実施動画を確認し、必要な技術、個人戦術、グループ戦術について議論する。半構造化インタビューによりサッカーの戦術構造を構築する。質的分岐手法を経験し、身体知を形式知へ変換する過程を学習する。
学修課題：競技を振り返り分析しておく。
第23回：量的分析、データ収集方法②
サッカーなどのTV放映動画から，データ収集を行う。実施動画を確認し､戦術行動の成否､本数､人数､状況などを記録する。得られたデータから考えられることを議論し、考察する。
学修課題：試合映像を見て、観るものの整理(組織化)をしておく。
第24回：文献収集④
図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。
学修課題：図書館で興味ある文献を閲覧しておく。
第25回：レジュメ作成④
収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。
学修課題：図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。
第26回：発表⑦グループA
それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。
学修課題：発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。
第27回：発表⑧グループB
それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。
学修課題：発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。
第28回：次年度研究計画の立案
次年度の卒業研究に向けたテーマの決定，準備，調査･実験計画，データ収集・解析，本文執筆などの計画を立案する．スケジュール表を作成する．
学修課題：テーマについて再考して、自分で計画を立ててみる。
第29回：次年度研究計画の発表①グループA
それぞれの研究計画を発表する。各学生５分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分の計画に対する課題を認識する。他学生の発表を聴き、自身への参考とする。
学修課題：発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。
第30回：次年度研究計画の発表②グループB
それぞれの研究計画を発表する。各学生５分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分の計画に対する課題を認識する。他学生の発表を聴き、自身への参考とする。
学修課題：発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
プレゼンテーションのために、予習や準備を必ずして下さい。プレゼンテーションとともに準備物も確認します。積極的な意見交換や質問も重要視します。
プレゼンテーション（60%）：３回のプレゼンテーション(20点×３回)60点
・テーマに対して理解があり、論理的である。10点
・テーマに対して自分の意見や考え、新しい視点がある。10点
期末レポート（40%）：２回(前期・後期)の期末レポート(20点×２回)
・テーマに関する問題点や課題について、論理的に記述されている。10点
・自身の考えや新たな視点での提言が、明確かつ論理的に記述されている。10点

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
ビデオを適宜使用する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング演習

【担当】林　弘典

■授業概要

前期では、インターンシップ実習先を含めた卒業後の進路について明確にし、卒業研究のモチベーションを高めることを目指す。また、様々な事柄からコーチングの本質を理解し、卒業研究を主体的に取り組む姿勢を身に付けることを目指す。

後期では、「研究とは何か」について学習し、目的と方法を明確に設定することの重要性を理解する。卒業研究発表会に参加することによって、プレゼンテーションの重要性を理解する。個別・グループ別指導によって目的と方法を明確に設定し、卒業研究計画書を完成させる。

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：卒業研究計画書の作成

目標：卒業研究計画書を作成する際に、明確な目的と方法を設定できる。

２．DP9.スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：主体的に取り組む姿勢の修得

目標：コーチングの本質を理解することによって、主体的に取り組むことの意味を理解できる。

３．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：コーチングの本質の理解

目標：映画や教育、武道など様々な事柄からコーチングの本質を見抜くことができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション、将来の進路について

シラバスを確認しながら授業の進め方について説明する。また、インターンシップ実習先も含めて将来の進路について確認する。

学修課題：前期・後期の時間割をまとめる。また、インターンシップ実習先も含めて将来の進路について考えてくる。

第２回：将来の進路について

インターンシップ実習先も含めて将来の進路について確認する。

学修課題：インターンシップ実習先も含めて将来の進路について考えてくる。

第３回：「ショーシャンクの空に（前編）」の視聴

「ショーシャンクの空に（前編）」を視聴する。

学修課題：「ショーシャンクの空に」について調べる。

第４回：「ショーシャンクの空に（後編）」の視聴

「ショーシャンクの空に（後編）」を視聴する。

学修課題：「ショーシャンクの空に」について調べる。

第５回：「ショーシャンクの空に」のレポート作成

「ショーシャンクの空に」のレポートを作成する。

学修課題：「ショーシャンクの空に」を視聴する。

第６回：「ショーシャンクの空に」におけるコーチングの本質（前半グループ）

「ショーシャンクの空に」におけるコーチングの本質について議論する。

学修課題：コーチングの本質とは何かについて考えをまとめる。

第７回：「ショーシャンクの空に」におけるコーチングの本質（中盤グループ）

「ショーシャンクの空に」におけるコーチングの本質について議論する。

学修課題：コーチングの本質とは何かについて考えをまとめる。

第８回：「ショーシャンクの空に」におけるコーチングの本質（後半グループ）

「ショーシャンクの空に」におけるコーチングの本質について議論する。

学修課題：コーチングの本質とは何かについて考えをまとめる。

第９回：コーチングと教育について

自分の受けてきた教育（しつけ）を振り返り、コーチングと教育の関係性について議論する。

学修課題：自分の受けてきた教育（しつけ）についてまとめる。

第10回：暴力やあらゆるハラスメントについて

「暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう」という提言がなぜ必要であるかについて議論する。また、暴力・暴言・ハラスメント・体罰・いじめ・虐待は根本的に何であるについて議論する。

学修課題：「暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう」という理由ついてまとめる。

第11回：いじめについて

いじめについて各自が調べてきたことを発表する。また、いじめについて定義、構造、原因、種類、裁判例について学習する。

学修課題：いじめについて、定義、構造、原因、種類、裁判例などをまとめる。

第12回：スポーツの価値について

オトナの学校完全版　武井壮【オトナの！】を視聴し、スポーツの価値についてレポートを作成する。

学修課題：スポーツの価値について自分なりの考えをまとめる。

第13回：コーチングと武道について

関西熱視線「極めて　なお磨く―剣道八段・最高峰の戦い―」を視聴し、武道とは何かについてレポートを作成する。

学修課題：武道の本質とは何かついて自分なりの考えをまとめる。

第14回：コーチングと修行について

千日回峰行を視聴し、コーチングと修行の関連性についてレポートを作成し、議論をする。

学修課題：千日回峰行、酒井雄哉について調べる。

第15回：まとめ、卒業研究に取り組む心構えについて

今までの授業を振り返り、コーチングの本質について総括する。また、卒業研究に取り組む心構えを確認する。

学修課題：今までの授業内容やレポートを見直す。

第16回：後期オリエンテーション、将来の進路への取り組みについて

後期の授業の進め方や目的について確認する。また、将来の進路への取り組みについて確認する。

学修課題：後期の授業予定などをまとめる。将来の進路への取り組みについてまとめる。

第17回：研究とは？

「研究とは何か？」について学習する。また、目的と方法の重要性について学習する。

学修課題：研究とは何かについて調べる。

第18回：文献検索

図書館において文献検索の講習を受け、正しい文献の検索方法を学習する。

学修課題：興味、関心のあるスポーツの疑問などをまとめる。

第19回：ゼミ内の卒業研究中間発表会

ゼミ内の卒業研究中間発表会を聴講して質問する。また、プレゼンテーションを学習する。卒業研究の取り組みについて、４年生からアドバイスをもらう。

学修課題：卒業研究中間発表の抄録集を熟読する。

第20回：卒業研究中間発表会の聴講

卒業研究中間発表会を聴講し、興味・関心のあった内容をまとめる。

学修課題：興味、関心のあるスポーツの疑問などをまとめる。

第21回：卒業研究の目的と方法について（個別前半）

興味、関心のあるスポーツの疑問点についてグループで議論する。また、卒業研究の目的と方法について検討する。

学修課題：興味、関心のあるスポーツの疑問などをまとめる。

第22回：卒業研究の目的と方法について（個別中盤）

興味、関心のあるスポーツの疑問点についてグループで議論する。また、卒業研究の目的と方法について検討する。

学修課題：興味、関心のあるスポーツの疑問などをまとめる。

第23回：卒業研究の目的と方法について（個別後半）

興味、関心のあるスポーツの疑問点についてグループで議論する。また、卒業研究の目的と方法について検討する。

学修課題：興味、関心のあるスポーツの疑問などをまとめる。

第24回：卒業研究の目的と方法について（グループ前半）

興味、関心のあるスポーツの疑問点についてグループで議論する。また、卒業研究の目的と方法について検討する。

学修課題：関連する文献を調べてくる。

第25回：卒業研究の目的と方法について（グループ中盤）

興味、関心のあるスポーツの疑問点についてグループで議論する。また、卒業研究の目的と方法について検討する。

学修課題：関連する文献を調べてくる。

第26回：卒業研究の目的と方法について（グループ後半）

興味、関心のあるスポーツの疑問点についてグループで議論する。また、卒業研究の目的と方法について検討する。

学修課題：関連する文献を調べてくる。
第27回：卒業研究計画書の作成（緒言）
目的と方法を明確に設定し、卒業研究計画書を作成する。
学修課題：文献を収集する。
第28回：卒業研究計画書の作成（方法）
目的と方法を明確に設定し、卒業研究計画書を作成する。
学修課題：関連する研究分野の教員に質問に行く。
第29回：ゼミ内の卒業研究発表会
ゼミ内卒業研究発表会を聴講して質問する。また、プレゼンテーションを学習する。卒業研究の取り組みについて、４年生からアドバイスをもらう。
学修課題：卒業研究発表の抄録集を熟読する。
第30回：卒業研究発表会の聴講
卒業研究発表会を聴講し、プレゼンテーションを学習する。
学修課題：過去の卒業研究抄録集を熟読する。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
レポート（50%）：内容の妥当性や論理的な構成、分量について、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価する。
発表（50%）：内容の妥当性や論理的な構成、分かりやすさについて、独自のルーブリックに基づいて３段階で評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
１．ショーシャンクの空に（DVD）
２．子どもに変化を起こす簡単な習慣：バーバラ・コロローソ、田栗美奈子訳（PHP文庫）

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる。

コーチング演習

【担当】吉川　文人

■授業概要

コーチングに関連する研究報告や事例報告の調査をとおして、競技力に影響する因子とその分析方法を含め、コーチングの知識やスキルについて学びを広げ、深める。また、コーチングを支援する情報通信技術とその応用事例についても学びを広げ、深め、コーチングにおけるPDCA（Plan, Do, Check, Action）サイクルを効果的に実行する上で要請される能力の充実を図る。加えて、受講生自らの興味・関心を踏まえたコーチング研究に取り組み、研究の推進力を獲得するための基礎固めをする。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識
具体的内容：スポーツの本質、コーチ哲学、指導観に関する考察力
目標：コーチングに関する実践的知見を踏まえ、自らの指導観について説明することができる。

2．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識
具体的内容：コーチング実践に必要な知識
目標：コーチングに関する論文のポイントをまとめた資料を作成することができる。

3．DP3．自然環境・人・スポーツに関する幅広い知識と技能
具体的内容：コーチングを取り巻く問題や課題に関する分析力
目標：コーチングを実践する上で直面する可能性のある問題や課題について論述することができる。

4．DP8．スポーツ学に関する深い知識
具体的内容：スポーツ及びコーチングに関連する知識
目標：スポーツ実践及びコーチング実践に必要な知識を説明することができる。

5．DP9．スポーツ学に関する優れた技能
具体的内容：スポーツ及びコーチングの実践力、応用力
目標：コーチング実践の評価結果と改善点を説明することができる。

6．DP10．スポーツ学に関する実践力
具体的内容：コーチングを実践する上で必要な基本的な知識やスキル
目標：コーチングに関する学びを実践応用する。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション及びスポーツ学とコーチング
授業の進め方や内容について把握する。コーチングに関連の深いスポーツ学の他の細分野について概観する。
学修課題：スポーツ学とコーチングの概念をテーマとするマインドマップを作成する。

第２回：コーチング支援向け情報通信技術とその応用事例
スポーツ競技者の強化に資することを意図して開発された情報通信技術とその応用事例について概観し、センサー技術を用いてスポーツ競技の事象を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。
学修課題：コーチング支援向け情報通信技術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第３回：コーチング支援向け動作分析技術とその応用事例
スポーツ競技者の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用事例について概観し、映像に基づいてスポーツ動作を客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。
学修課題：コーチング支援向け動作分析技術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第４回：コーチング支援向けゲーム＆パフォーマンス分析技術とその応用事例
スポーツ競技の強化に資することを意図して開発されたゲーム＆パフォーマンス分析技術とその応用事例について概観し、映像に基づいてゲームやパフォーマンスを客観的に捕捉しようとする研究の動向について学びを深める。
学修課題：コーチング支援向けゲーム及びパフォーマンス分析技術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第５回：個人スポーツの競技特性とパフォーマンス指標
個別の個人スポーツ競技を題材として取り上げ、競技特性とパフォーマンス指標について詳細化を図る。ゲーム＆パフォーマンス分析の研究動向について理解を深め、コーチの役割とコーチング行動について考える。
学修課題：一つの個人スポーツ競技・種目を取り上げ、パフォーマンス指標についてマインドマップを作成する。

第６回：集団スポーツの競技特性とパフォーマンス指標
個別の集団スポーツ競技を題材として取り上げ、競技特性とパフォーマンス指標について詳細化を図る。ゲーム＆パフォーマンス分析の研究動向について理解を深め、コーチの役割とコーチング行動について考える。
学修課題：一つの集団スポーツ競技・種目を取り上げ、パフォーマンス指標についてマインドマップを作成する。

第７回：運動学習とコーチング
古典的運動学習理論をはじめ、運動学習・制御の分野で議論されてきた問題について概観するとともに、脳神経系の機能と構造について理解を深め、コーチングとの関連について考える。加えて、運動学習のメタ認知に関する研究の動向について概観し、過去に学んだコーチの役割とコーチング行動について改めて別の角度から考える。
学修課題：関心のあるスポーツ競技を取り上げ、関連の深い運動学習の概念について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第８回：体力トレーニングとコーチング
スポーツ競技の特性に応じて求められる行動体力について分類・整理し、からだの適応について概観する。期分けに関する研究の動向を概観し、体力トレーニングの計画をプレゼンテーションする。
学修課題：関心のあるスポーツ競技を取り上げ、重要視すべき体力要素とそのトレーニング方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。

第９回：コーチの役割とコーチング行動
著名なコーチのコーチングスタイルやエピソードを知るとともに、学際的な研究・調査の結果と関連づけてコーチの役割とコーチング行動について見識を広げる。
学修課題：コーチの役割とコーチング行動についてマインドマップを作成する。

第10回：コーチングを取り巻く諸問題
過去の授業で取り扱われなかったコーチング関連事項についてブレインストーミングをおこない、補足及び議論された事項について理解を深める。過去の授業を踏まえ、コーチングのあり方について自らの考えをプレゼンテーションする。
学修課題：コーチングを取り巻く諸問題に関して文献調査を行ない、自らの考えをまとめる。

第11回：研究法の概観
コーチングに関連した卒業研究の意義や研究の進め方、研究論文の書き方について概観する。
学修課題：自らが設定したテーマに関して論文を読み、その研究動向についてプレゼンテーションを行なう準備をする。

第12回：文献調査と情報利用
各自が精読した文献の内容について、パワーポイントの資料を用いてプレゼンテーションをおこなう。先行研究の調査や調査結果の取り纏め、プレゼンテーションといったそれぞれのプロセスの重要事項について理解を深める。
学修課題：関心のあるスポーツ競技の映像を収集する。

第13回：コーチング支援向けスポーツ映像の活用法
スポーツ映像を対象として、スポーツ映像由来のデータの収集方法とその処理方法について実践を通して理解を深める。加えて、映像編集ソフトウェアの操作方法を知り、コーチングに資する映像コンテンツの作成を図る。
学修課題:コーチングに資する映像を収集し、コンテンツを作成する。

第14回：研究課題の策定
コーチングに関する題材を取り上げ、先行・関連研究の知見を踏まえた研究課題の策定を図るとともに、研究論文の作成方法についての理解を深める。
学修課題：関心のある研究テーマについて実施計画案を詳細化する。

第15回：研究構想の発表と前期のまとめ
研究課題とその実施計画案をプレゼンテーションする。前期の授業の内容を振り返る。
学修課題：関心のある研究テーマについて実施計画案を詳細化する。
第16回：前期の演習についての振り返りと後期の演習に関するオリエンテーション
前期の演習において学習した内容について振り返るとともに、後期の授業の進め方や内容について把握する。
学修課題：前期の演習で構想した研究課題の実施計画を策定する。
第17回：コーチング研究事例の調査
コーチングに関する研究発表を視聴し、多岐にわたる研究課題のエッセンスを捕捉する。
学修課題：興味・関心のある研究課題について文献調査を実施する。
第18回：研究活動のプロセス改善
研究課題を立案し、その構想の概要についてのプレゼンテーションをとおして内容の改善を図る。パーソナルプロジェクトマネジメントに必要な知識とスキルについて理解を深め、実践力を培うとともに、コーチング行動への応用について考える。
学修課題：パーソナルプロジェクトマネジメントに関する文献を読む。
第19回：研究構想のブラッシュアップ　発表及び視聴（前半）
各自の研究課題の構想を詳説し、改善事項を明確化する。また、一般的な資料の作成方法やプレゼンテーションの方法について理解を深める。加えて、各自の研究課題に関する補足事項について学びを深める。
学修課題：他者の研究課題に関する改善事項や提案事項をまとめる。
第20回：研究構想のブラッシュアップ　発表及び視聴（後半）
各自の研究課題の構想を詳説し、改善事項を明確化する。また、一般的な資料の作成方法やプレゼンテーションの方法について理解を深める。加えて、各自の研究課題に関する補足事項について学びを深める。
学修課題：他者の研究課題に関する改善事項や提案事項をまとめる。
第21回：ゲーム・パフォーマンス分析研究
ゲーム＆パフォーマンスの記述分析に関する研究の動向を概観するとともに、分析レポートの意義と作成方法を学ぶ。
学修課題：ゲーム＆パフォーマンスの記述分析に関する文献調査を実施し、重要事項や関連事項をまとめる。
第22回：ゲーム＆パフォーマンスの評価方法
複数のゲーム＆パフォーマンスの分析レポートを題材として、ゲームやパフォーマンスの分析・評価方法について概観する。
学修課題：ゲーム＆パフォーマンスの評価方法について重要事項や関連事項をまとめる。
第23回：ゲーム＆パフォーマンスのデータ処理
データの収集・加工・管理・閲覧といったデータ処理手法について理解を深めるとともに、そのコーチング応用について見識を広げる。
学修課題：データ処理を実践する。
第24回：確率・統計の基礎
ゲーム＆パフォーマンス分析研究で求められる確率・統計の基礎について理解を深め、いくつかのサンプルデータを用いて統計処理を実習する。
学修課題：統計処理を含め、分析レポートを作成する。
第25回：分析レポートの発表及び視聴
複数のゲーム＆パフォーマンスの分析レポートを視聴し、分析レポート作成に必要な知識とスキルについて理解を深める。
学修課題：ゲーム＆パフォーマンスの分析レポートの完成度を高める。
第26回：コーチングの事例研究に関する発表の視聴
コーチングの事例研究に関する発表を視聴する。
学修課題：興味・関心のある事例研究課題について文献調査を実施する。
第27回：量的研究に関する発表の視聴
コーチングの量的研究に関する発表を視聴する。
学修課題：興味・関心のある量的研究課題について文献調査を実施する。
第28回：質的研究に関する発表の視聴
コーチングの量的研究に関する発表を視聴する。
学修課題：興味・関心のある質的研究課題について文献調査を実施する。
第29回：研究報告書の作成
過去の授業で設定した研究報告書の作成と推敲に取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。
学修課題：これまでに取り組んだ研究の報告書を作成する。また、卒業研究課題の提案書を作成する。
第30回：まとめ及び総括
前期及び後期の授業を振り返り、学び得た事項の実践応用の展望について考える。
学修課題：前期及び後期の演習の内容を踏まえ、自らがコーチングを実践することを想定し、Todoリストを作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
授業内課題評価（70%）：授業で取り扱った内容についての理解度について、独自のルーブリックに基づいて５点×14で評価する。
レポート評価（30%）：内容の妥当性と論理構成について、独自のルーブリックに基づいて15点×２で評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
随時紹介する

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

コーチング演習

【担当】白木　孝尚

■授業概要

多種多様なニーズに対応できるコーチとしての人材の養成と卒業研究論文作成に向けての基礎知識・能力の習得を目的とする．コーチングに必要な知識を身につけるとともに，コーチング実践に関するプレゼンテーション（練習計画，実験計画や方法など）を行う．また，４年次の卒業研究に向けて，文献検索・研究法・プレゼンテーション法などの基礎を学ぶとともに，卒業研究のための計画や資料収集を行う．

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ学での学びを生かし、卒業研究論文作成に向けて専門的な知識・能力の獲得

目標：卒業研究を計画・実行するための知識・能力を獲得する

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：現場でのコーチングに必要な知識・能力・態度を身につける

目標：コーチングに関わる事象について深く探究するとともに、コーチング実践に関するプレゼンテーション（練習計画，実験計画や方法など）を行う

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション・コーチング概説

本授業の計画についての説明、役割分担を行う。また、コーチ・コーチングの歴史等に関する知識を獲得する。

本授業の計画や到達目標を理解する。コーチ・コーチングの歴史等についての基礎知識を獲得する。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著（西村書店）p.３-34を熟読する。

第２回：コーチングについて（原論）

コーチングの原論についての知識を獲得し、コーチとしての資質を養う。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著（西村書店）p.35-62を熟読する。

第３回：コーチングについて（基礎知識）

コーチングについての基礎知識を獲得し、コーチとしての資質を養うとともに、実践に応用できる能力を養成する。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー）を熟読する。

第４回：コーチングに必要な専門知識（生理学）

生理学・トレーニング生理学についての知識を習得し、現場で用いられているトレーニング理論を考える。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論ならびにスポーツ生理学Ⅰの内容を復習する。

第５回：コーチングに必要な専門知識（栄養学）

スポーツ栄養学についての知識を習得し、アスリート育成に必要な栄養（食事やサプリメントなど）について考える。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論ならびにスポーツ栄養学概論の内容を復習する。

第６回：コーチングに必要な専門知識（医学）

スポーツ医学についての知識を習得し、アスリートのケガやケガの予防法について考える。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論ならびにスポーツ医学概論の内容を復習する。

第７回：トレーニング理論①（トレーニング原論）

トレーニング理論の基礎知識を習得する。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論ならびに体力トレーニング法の内容を復習する。「コーチのためのトレーニングの科学」（松井秀治，大修館，1997）p.96-168を熟読する。

第８回：トレーニング理論②（トレーニングの計画・実践方法）

トレーニングの計画や実践方法についての知識を習得し、実際に応用する能力を養成する。

自身のスポーツ活動現場において、授業で学修した理論等を実践する。

学修課題：スポーツ指導論ならびに体力トレーニング法の内容を復習する。「コーチのためのトレーニングの科学」（松井秀治，大修館，1997）p.240-367を熟読する。

第９回：トレーニング理論③（トレーニング計画の実践）

過去の授業で学んだトレーニング理論を基に、実際のトレーニングを計画する。

学修課題：スポーツ指導論ならびに体力トレーニング法の内容を復習する。「コーチのためのトレーニングの科学」（松井秀治，大修館，1997）p.368-437を熟読する。

第10回：トレーニング理論④（プレゼンテーション）

第９回の授業内で考案したトレーニング計画のプレゼンテーションを行い、それについてのディスカッションを行う。

学修課題：第７～第９回までの授業を振り返り、整理し、テーマに沿ったプレゼンテーションの準備を行う。

第11回：コーチの役割

コーチの役割についての知識を習得し、実際の現場の応用例を基にディスカッションを行う。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー）p.４-40,「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）p.21-43を熟読する。

第12回：コーチに必要な知識

競技（種目）に関すること以外の、コーチに必要な知識（マネジメントなど）を習得し、コーチングに活かすためのディスカッションを行う。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー）p.42-136,「コーチング5つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）p.43-116を熟読する。

第13回：コーチング現場の管理と緊急体制について

コーチング現場の管理と緊急体制についての知識を習得し、コーチング現場の安全管理を考える。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー）p.159-204,「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー）p.137-181を熟読する。

第14回：チーム運営・トレーニング計画の立案

現在所属しているチームの運営やトレーニング計画の立案を行い、実践場面で応用できるものを考える。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。第１～14回までの授業を振り返り、整理する。また、自身のトレーニング計画を立案する。

第15回：プレゼンテーション①（チーム運営）

チーム運営について立案したものをプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。第１～14回までの授業を振り返り、整理する。また、プレゼンテーションの準備をする。

第16回：プレゼンテーション②（トレーニング計画）

トレーニング計画について立案したものをプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

学修課題：スポーツ指導論の内容を復習する。第１～14回までの授業を振り返り、整理する。また、自身のトレーニング計画を立案する。

第17回：研究（卒業研究）に関して

研究（卒業研究）を行う上で必要な基礎知識を習得する。文献検索の方法を学ぶ。

学修課題：配布された資料を復習し、卒論の概要を理解する。

第18回：研究法①（基礎知識の習得）

研究法についての基礎知識を習得し、応用例を挙げて、簡単なミニ実験を計画する。

研究（卒業研究）を行う上で必要な基礎知識・基礎スキルを習得する。またそれらを応用できる能力を身につける。

学修課題：過去の先行研究や卒業研究を参考にミニ実験の計画を立案する。

第19回：研究法②（ミニ実験の実践）

研究法についての基礎知識を習得し、応用例を挙げて、簡単なミニ実験を実践する。

研究（卒業研究）を行う上で必要な基礎知識・基礎スキルを習得する。またそれらを応用できる能力を身につける。
学修課題：過去の先行研究や卒業研究を参考に立案したミニ実験を運営するための準備を行う。

第20回：研究法③（ミニ実験の研究データ処理）
研究法についての基礎知識を習得し、応用例を挙げて、簡単なミニ実験を実践する。実験結果をレポートにまとめる。
研究（卒業研究）を行う上で必要な基礎知識・基礎スキルを習得する。またそれらを応用できる能力を身につける。
学修課題：ミニ実験から得られたデータを適切な手法を用いて分析する。また、分析結果について考察する。

第21回：研究論文講読①（１回目：実験系論文）
事前に各自の興味がある分野の研究論文を検索し、授業内で講読し、ディスカッションを行う。
第17回の講義で受講した内容「文献検索」を利用し、各自が興味深い先行研究を検索し、まとめる。
学修課題：自身が興味を抱く実験系分野の研究論文を検索し、熟読した上で、整理し、プレゼンテーションするための資料を作成する。

第22回：研究論文講読②（２回目：アンケート調査を用いた論文）
事前に各自の興味がある分野の研究論文を検索し、授業内で講読し、ディスカッションを行う。
第21回目とは異なる論文を選択し、内容についてもより詳細にまとめる。
第17回の講義で受講した内容「文献検索」を利用し、各自が興味深い先行研究を検索し、まとめる。
学修課題：自身が興味を抱くアンケート調査を扱った研究論文を検索し、熟読した上で、整理し、プレゼンテーションするための資料を作成する。

第23回：研究論文講読③（３回目：質的研究を用いた論文）
事前に各自の興味がある分野の研究論文を検索し、授業内で講読し、ディスカッションを行う。
第21回目・第22回目とは異なる論文を選択し、内容についてもより詳細にまとめる。
学修課題：自身が興味を抱く質的研究分野の研究論文を検索し、熟読した上で、整理し、プレゼンテーションするための資料を作成する。

第24回：研究論文講読④（４回目：文献研究を用いた論文）
事前に各自の興味がある分野の研究論文を検索し、授業内で講読し、ディスカッションを行う。
第21回目・第22回目・第24回目とは異なる論文を選択し、内容についてもより詳細にまとめる。
学修課題：自身が興味を抱く文献研究分野の研究論文を検索し、熟読した上で、整理し、プレゼンテーションするための資料を作成する。

第25回：卒業研究に向けてのプロポーザル作成①（原案作成）
卒業研究に向けて、研究の背景や目的・方法・仮説を様々な資料を参考にまとめ、卒業研究のプロポーザル原案を作成する。
各自が興味深い先行研究を検索し、各自の卒論作成にあたっての資料とし、卒論の内容を考える。
学修課題：第１～24回目までの授業を振り返り、自身の卒業研究のテーマを考える。また、テーマに合った分野の先行研究を検索する。

第26回:卒業研究に向けてのプロポーザル作成②（プレゼンテーション資料作成）
第25回で作成した卒業研究のプロポーザル原案の内容について、パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成する。
各自が興味深い先行研究を検索し、各自の卒論作成にあたっての資料とし、卒論の内容を考える。
学修課題：検索した先行研究を熟読し、自身の卒業研究のテーマに適した方法論を考える。

第27回：プレゼンテーション①（発表練習）
「卒業研究に向けてのプロポーザル作成」で作成した資料内容をプレゼンテーションするための練習を行い、本番の発表のための修正作業を行う。
各自が興味深い先行研究を検索し、各自の卒論作成にあたっての資料とし、卒論の内容を考える。
学修課題：自身の卒業研究のテーマならびに目的・方法論についてのプレゼンテーションの準備を行う。また、発表の練習を行う。

第28回：プレゼンテーション②（発表）
第25～27回の授業で作成した資料内容を、パワーポイントでプレゼンテーションを行い、卒業研究開始に向けてのディスカッションを行う。
学修課題：自身の卒業研究のテーマならびに目的・方法論についてのプレゼンテーションを完成させ、発表の練習を行う。

第29回：卒業研究開始に向けての準備
第27回・第28回のプレゼンテーションならびにディスカッションで得た示唆をふまえ、卒業研究（実験・調査）に向けての準備を開始する。また、春休みを利用して方法論を確立するための資料を集める。
学修課題：自身の卒業研究のテーマの最終決定に向けて、再度先行研究を検索し、方法論等の情報を集める。

第30回：まとめ・総評
本授業のまとめを行う。卒業研究を行う上での準備に入る。
卒論のテーマならびに内容を決定する。
学修課題：自身の卒業研究のテーマの最終決定に向けて、検索した先行研究を熟読し、方法論を確率する。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
期末レポート（２回）（40%）：与えられたテーマに対して、自身の考えや問題点に対する斬新的な提言などが明確かつ論理的に記述されていることを基準に評価する。
プレゼンテーション（３回）（60%）：与えられたテーマに対して、本題を要約するとともに、自身の考えや問題点に対する斬新的な提言などが明確かつ論理的に説明されていることを基準に評価する。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
「スポーツ・コーチング学」レイナー・マートン著（西村書店），「コーチングマニュアル」S.ソープ&J.クリフォード著（ディスカヴァー），「コーチング５つの原則」J.フラーティ著（ディスカヴァー），「水泳コーチ教本」（財）日本水泳連盟（大修館書店），「スイミング・ファステスト」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社）

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
より実践的でかつ理論的に行動できるコーチとしての資質を磨く授業です。知識を身に付けていく中で，自身の「感性」をしっかり発揮できるよう取り組んでください。

コーチング演習

【担当】北村　哲

■授業概要

1．指導者の指導哲学、指導行動といった事例について調査し発表する。その過程から指導に必要な実践的な観点や知見を学ぶ。
2．自身の日々の選手および指導活動の振り返りを通して課題を明らかにするとともに改善および向上方法を見出す。PDCAサイクルのもと実践的なセルフコーチングおよび指導のための知見を得る。
3．卒論作成に向けた研究法を学びながら個人またはグループ調査と発表を数多く実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る。

■養うべき力と到達目標

1．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：実践的なコーチングに関する知識

目標：コーチングに関する幅広い知識だけでなく、指導者の経験や考え方など、その思考の要因等ににについて理解できる。

2．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：学んだ知識について自身の競技生活や指導場面での活用・実践

目標：学んだスポーツ科学情報やセルフコーチングの知見を自身の競技生活に活用できる、またコーチング関連の情報やスキルを指導場面で活用できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：コーチングの実践的学びについて

演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する

学修課題：自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。

第２回：コーチングについての理解①　自分の恩師のコーチング

自身が受けてきたコーチングについて理解する

（ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する）

学修課題：授業時に取り上げられた恩師のコーチングについて、再度振り返りレポートを作成する。

第３回：コーチングについての理解②　海外のコーチング

自身のスポーツ種目における海外のコーチングの実際に触れ、自身の経験と対比しながら理想のコーチングについて思考を深める。

学修課題：授業時に取り上げられた内海外のコーチングについて、再度振り返りレポートを作成する。

第４回：コーチングについての理解③　自分のモチベート

自分自身をモチベートする方法や考えについて理解し、実践する。

学修課題：自身をモチベートするための資料を入手する。

第５回：コーチングスタイル①　チームスポーツのコーチング

チームをモチベートする事例に触れながら、集団をコーチングするための知見を理解する。

学修課題：著名な集団スポーツにおけるコーチの自伝書を2冊以上読み、プレゼン資料を作成する。

第６回：コーチングスタイル②　個人スポーツのコーチング

個人（他人）のモチベートする事例に触れながら、個人をコーチングするための知見を理解する。

学修課題：著名な個人スポーツにおけるコーチの自伝書を2冊以上読み、プレゼン資料を作成する。

第７回：モチベーションビデオの作成

自分を、他人を、または集団をモチベートするための動画の方法論や知識について理解し、映像をを作成する。

学修課題：モチベーションビデオの作成および発表準備

第８回：モチベーションビデオの発表および内容についてのプレゼン

作成したモチベーションビデを発表する。また、どのような意図で作成したか、映像のポイントや工夫した点についてプレゼンする。

学修課題：他者発表について分析評価し、コメントを作成する。

第９回：日々の競技実践および指導実践の評価

セルフコーチングを理解し、実践するために、日々の競技実践および指導実践を評価し、問題点、これからの課題を明確にする。その後実践のための計画を立案する。

学修課題:実践の中でのフィールドワークおよび振り返りをまとめる。

第10回：実践活動前期の報告

前回調整し直した計画を遂行した結果、実践の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第11回：実践活動前期の報告（実践の継続）

実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第12回：実践活動後期の報告

実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第13回：実践活動後期の報告（実践の継続）

実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第14回：継続してきた実践活動の評価

これまで継続してきた実践について評価し、新たな問題点や課題を明確にする。その上で計画を新たに立案し報告する。

学修課題：変化の過程についてその要因について振り返りまとめる。

第15回：計画の評価および調整による新計画の立案

計画を遂行した結果から再度、計画の再調整を図る。また、これまでのPDCAサイクルを活用した実践の中で得られたことや効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。

学修課題：実践の中でのフィールドワークおよび振り返り。他学生の発表内容に関連した事項や疑問点を調べ、まとめる。

第16回：コーチングに関わる研究方法①　スポーツ方法論に関わる研究

スポーツ方法論に関わる研究の概観

学修課題：スポーツ方法論に関する研究論文を読む。

第17回：コーチングに関わる研究方法②　多様なコーチング分野の研究

4年生の卒業研究中間発表会に参加し、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。

学修課題：指導方法に関する研究論文を読む。

第18回：コーチングに関わる研究方法③　コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）

コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）の概観

学修課題：コーチングの事例的研究論文（実験検証的研究）を読む。

第19回：コーチングに関わる研究方法④　コーチング事例に関わる研究（エピソード分析的研究）

コーチング事例に関わる研究（エピソード分析的研究）の概観

学修課題：コーチングの事例的研究論文を読む（エピソード分析的研究）。

第20回：コーチングに関わる研究方法⑤　コーチング研究の方法

コーチング研究の方法についての学習

学修課題：研究方法に関する文献を読む。

第21回：ミニ論文テーマ設定

論文の作成方法についての実践的学習。グループ別に研究テーマを設定する。

学修課題：日々の実践から課題を見出すためのフィールドワークを行う。

第22回：ミニ論文作成のための先行研究の調査

論文の作成方法についての実践的学習。グループで先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について理解する。

学修課題：各自先行研究の調査、収集を行う。

第23回：ミニ論文の研究デザイン

グループで研究のデザインを作成する。

学修課題：研究計画を各自作成する。

第24回：ミニ論文のデータ収集
グループで、調査や実験を行う。
学修課題：実験および調査のための準備作業を行う。
第25回：ミニ論文のデータ収集②　データの整理
調査や実験で得られたデータの整理方法について学習し整理する。
学修課題：各自分担されたデータの整理を行う。
第26回：ミニ論文のデータの分析
整理したデータの分析方法を学習し、分析をする。
学修課題：分析項目に沿って分析を行う。
第27回：ミニ論文のデータの解釈
分析したデータの提示方法について学習し、図表および文章を作成する。
学修課題：各自分担された分析結果の提示方法にもとづいて図表を作成する。
第28回：プレゼンテーション　良いプレゼンテーションの理解
プレゼンテーションのアプリケーションについて学習し、プレゼンテーションのスライドを作成る。
学修課題：プレゼンテーションの準備作業を行う。
第29回：プレゼンテーションの実践
ミニ卒論の発表会。
学修課題：他グループのプレゼンについて分析評価し、コメントを作成する。
第30回：自身の研究テーマの立案
４年生の卒業研究発表会に参加し、先週までの自身らが行った研究と対比させながら、卒業研究について深く思考し、自身の卒業研究のテーマについて立案する。
学修課題：卒業研究テーマを立案する。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
■評価方法
期末レポート（60%）：①指導実践についてのレポートおよび②研究テーマ設定に関わるレポートについて各30点
中間プレゼン（40%）：①指導実践についてのプレゼンおよび②研究テーマ設定のプレゼンについて各20点
■教科書
特に指定しない
■参考文献等
・レイナー・マートン（2013）スポーツ・コーチング学：指導理念からフィジカルトレーニングまで
・アンドレ・アガシ（2012）OPEN-アンドレ・アガシの自叙伝
その他授業時に適宜紹介する。
■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツビジネス基礎演習　【担当】スポーツビジネスコース教員

■授業概要

本演習では、スポーツビジネスの現場で起こっているさまざまな事象を知り、それらを専門的に学ぶために必要な基礎的スキルを身につけることを目的とする。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツをビジネスの一分野ととらえ、スポーツ産業やプロスポーツ組織の経営に対しての深い洞察や、そこから導き出した仮説を統計スキルを駆使して実証を試みる

目標：問題意識やそれを解決するための仮説づくりやそれを統計的に実証するスキルを身に付ける

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよびスポーツビジネスの概説

前期の概要およびグループ学習の説明。

学修課題：配布資料を確認して、基礎演習の目的、内容構成などを理解すること。

第２回：スポーツビジネス現場の事例を知る：五輪と商業主義

商業主義にかじを切った1984年五輪を中心に、五輪と商業主義について学ぶ。

学修課題：配布資料をよく読み、五輪と商業主義について復習すること。

第３回：スポーツビジネス現場の事例を知る：参加型スポーツ需要

参加型スポーツの実施頻度，派生費用（サービス支出・財支出）などのスポーツ需要指標の時系列変化を学ぶ。

学修課題：配布資料を復習し、参加型スポーツ需要について理解を深めること。

第４回：スポーツビジネス現場の事例を知る：スポーツ観戦者行動

プロ野球やJリーグ等が興行するスポーツ観戦は、開催都市に対して経済的、社会的、心理的効果をもたらす。本講義では、特に心理的効果に焦点を合わせ、その中でも二種類の重要な心理的反応である（１）顧客満足関連の要因と、（２）社会的アイデンティティ、コミュニティの形成につながる要因について学習する。

学修課題：配布資料を復習し、スポーツ観戦者の行動について理解を深めること。

第５回：スポーツビジネス現場の事例を知る：スポーツマネジメント

サッカーのプロクラブチームやNPB球団などの組織（企業）における経営管理について学ぶ。

学修課題：配布資料をもとに、国内プロスポーツ現場にて発生している問題点について、理解と考察に努めること。

第６回：スポーツビジネスコースのゼミを知る

授業では各ゼミの紹介を行う。

学修課題：２～５回の授業で抱いた質問を準備し、授業後は各ゼミの特色をあらためて把握すること。

第７回：スポーツビジネスに関する情報検索

新聞、雑誌、書籍、論文、学会、シンポジウム、実践現場での情報検索について学ぶ。

学修課題：情報検索のやり方を復習し、図書館で実際に検索してみること。

第８回：スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（データ入力:エクセル）

各種調査にて得られた回答をデータ化するために、エクセルを用いた処理方法について学ぶ。

学修課題：エクセルを用いたデータ処理の適切な方法についてマスターすること。

第９回：スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（基礎集計：度数分布および平均）

統計処理ソフトを用いて、度数分布や平均といった基礎集計に関する処理方法について学ぶ。

学修課題：統計処理ソフトを用いた基礎集計方法を理解すること。

第10回：スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（基礎集計：グラフの作成）

統計処理ソフトを用いて算出した統計量をもとに、エクセルを用いてグラフを作成する方法を学ぶ。

学修課題：統計処理ソフトを用いた基礎集計について、グラフを用いて報告できるようにすること。

第11回：スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（学術論文の読み方）

卒業論文における研究の目的、問題の所在、学術的貢献、データ収集、データ分析、主な結果、結論などを読み取れるように、それぞれの特徴について学習する。

学修課題：スポーツビジネス研究領域における学術論文について理解し、また熟読できるようにすること。

第12回：スポーツビジネスに関する情報をまとめる（スライドの作成方法）

グラフおよび表にまとめた分析結果を、パワーポイントスライドに落とし込み、プレゼンテーション資料の作成方法について学習する。

学修課題：スポーツビジネスに関する現状について、二次情報をパワーポイントに落とし込み、適切な表現が出来るように努めること。

第13回：スポーツビジネスに関する情報をまとめる（プレゼンテーションの方法）

スライド作成時の構成内容，論旨展開，図表の効果的な使い方，図表の体裁などを学ぶ。

学修課題：スポーツビジネスに関する現状について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの理解に努めること。

第14回：スポーツビジネスに関する情報を報告する：前半グループ

グループでまとめた情報をプレゼンする。

学修課題：各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。

第15回：スポーツビジネスに関する情報を報告する：後半グループ

グループでまとめた情報をプレゼンする。

学修課題：各グループにおけるプレゼンテーションをもとに、その課題点と解決策について考察すること。

第16回：スポーツ関与とは

スポーツにおいて特定の刺激あるいは状況によって引き起こされた動機付けや関心の高い状態＝消費者関与PCM（pleasure, sign, centrality），Involvement Profile （Pleasure, sign, importance, risk probability, risk consequence ）などの測定尺度や，自我関与，コミュニケーション関与，購買関与，状況関与，製品関与などについても学ぶ。

学修課題：後期のキーワードとなるスポーツ関与について、復習を始め、極めて綿密な理解に努めること。

第17回：調査計画の立案ならびに仮説を考える

後期グループ演習の趣旨となる調査計画について、その立案と仮説について、基本的意味の理解と仮説の検討を行う。

学修課題：効率的な調査計画の立案と仮説の基本的意味の理解に関する復習に努めること。

第18回：スポーツ現場についてのパネルディスカッション

スポーツ現場についてのパネルディスカッションを聴き、自身の選択に役立てる。

学修課題：自身の進路希望も踏まえながら、キャリアについて計画を立てること。

第19回：調査票の作成、標本抽出方法

実際の調査に用いる調査票の作成方法ならびにサンプル抽出方法に関する解説を行う。

学修課題：グループで適切な調査票の作成に努めること。

第20回：ゼミの研究活動を知る

各ゼミでの研究活動について、その詳細を学ぶ。

学修課題：3年次生以降のゼミ所属について、自身が学習したい専門性を考慮しながら計画を立案すること。

第21回：分析方法の理解

各種統計を用いた分析方法ならびにその目的について解説を行う。

学修課題：調査計画に沿った適切な分析方法について検討すること。

第22回：スポーツ現場の専門性を活かせる業種や業務

大学で学修した専門性を活かせるような業種や業務には、どのようなものがあるのか学ぶ。

学修課題：自身の長所及び短所をもとに、実務で活かせるスキルについて検討すること。

第23回：記述統計：度数分布、平均、標準偏差

収集したデータを要約する統計量（度数分布、平均など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの持つ傾向や性質を理解する。

学修課題：実際に収集したデータを用いた記述統計を明らかにすること。

第24回：推計統計①：カイ二乗検定、t検定
標本（サンプル）から収集したデータを基に母集団の性質を予測すること推計統計の基本的な分析として、カイ二乗検定とt検定について学ぶ。
学修課題：実際に収集したデータを用いた推計統計スキルを身につけること。
第25回：推計統計②：一元配置分散分析、相関分析
標本（サンプル）から収集したデータを基に母集団の性質を予測すること推計統計の基本的な分析として、一元配置分散分析と相関分析について学ぶ。
学修課題：実際に収集したデータを用いた推計統計スキルを身につけること。
第26回：推計統計③：回帰分析
要因間の関係性を検証する推計統計の分析方法として、重回帰分析について学ぶ。
学修課題：実際に収集したデータを用いた推計統計スキルを身につけること。
第27回：スポーツ現場における社会人マナー、ＳＮＳについて
社会人としてのマナーやＳＮＳ使用上の注意点などを学ぶ。
学修課題：社会における情報の有効活用について、自身の経験を踏まえながら考察すること。
第28回：分析結果を考察する：スライド/図表の作成
研究結果のスライドに必要な，研究目的，先行研究，研究方法，結果，考察，における留意事項，及び図表の効果的な使用法を学ぶ。
学修課題：グループで効率的かつ効果的なプレゼンテーションについて検討すること。
第29回：スポーツ関与に関する分析結果を報告する：前半グループ
グループでまとめた分析結果をプレゼンする。
学修課題：各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。
第30回：スポーツ関与に関する分析結果を報告する：後半グループ
グループでまとめた分析結果をプレゼンする。
学修課題：各グループにおけるプレゼンテーションをもとに、その課題点と解決策について考察すること。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)創意工夫を凝らしたプレゼンテーション能力を養ってもらいます

■評価方法
前期データ収集（10%）：集めたデータの理解度を踏まえて10点満点で評価する
前期プレゼンテーション（30%）：データを理解して報告しているかを30点満点で評価する
後期データ収集（10%）：収集したデータの理解度を踏まえて10点満点で評価する
後期調査票の作成（20%）：授業内容を踏まえて申し分なく作成されているかを20点満点で評価する
後期プレゼンテーション（30%）：収集したデータを分析、考察して発表しているかを30点満点で評価する

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
「スポーツ産業論・第6版」（原田宗彦編著　杏林書院）

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツビジネス演習

【担当】石井　智

■授業概要

この演習の目的は、マネジメントの基礎知識および、スポーツマネジメントやマーケティング、スポンサーシップにおける応用知識をもとに社会課題の解決を目指した（卒業研究に向けての）研究課題を決定することにある。

■養うべき力と到達目標

1．DP2．スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：自らが考える社会課題を設定し、それを解決するために方策をスポーツ（自らのスポーツ学についての学びやクラブ体験などから）を軸に考える

目標：スポーツにおける学びや経験が社会課題の解決に役立てることを実感し、社会に出てからも活躍できるという有能感を身に付ける

2．DP9．スポーツ学に関する優れた技能

具体的内容：問題意識は情報を収集し、分析することによって明確化されるため、スポーツ実施者や観戦者へのアンケート調査や分析を行う

目標：SPSSを使いこなすレベルにまでスキルアップさせる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーションおよび演習の概説

４年次の卒業研究に向けた動機づけと演習の概要の説明。卒業論文は学生が社会で活躍するための設計図であることを意識させ、問題意識の向上とそれを解決するためのスキルを、研究を通じて獲得することを実感させる

学修課題：配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解しておくこと

第２回：スポーツに対する社会の要請

現代社会が抱える課題について明示することと、それを解決することが果たしてスポーツで可能であるかについて考える。そのためにスポーツが有する価値について整理する

学修課題：事前に配布資料をよく読み、スポーツと社会課題についての各自の疑問についてまとめてくること

第３回：現在のスポーツビジネスについての再評価

現在のスポーツビジネスについての事例から成功の秘訣や失敗の本質について検討する

学修課題：事前に配布資料をよく読み、スポーツビジネスについての各自の疑問についてまとめてくること

第４回：スポーツイベント（メガイベント）の光と影についての検討

これまでのメガスポーツイベントの評価を通じて、イベントの品質と顧客満足について学ぶ。特に、平昌オリンピック・パラリンピックの評価を通じスポーツイベントの光と影について考える。

学修課題：事前に配布資料をよく読み、メガスポーツイベントについての各自の疑問についてまとめてくること

第５回：カスタマーエクイティ（バリュー、ブランド、リレーションシップエクイティ）

スポーツの消費者（顧客）の行動本質などカスタマーエクイティについて学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、顧客価値についての各自の疑問についてまとめてくること

第６回：参画動機（する、観る、支える）

スポーツ消費者の購買動機因子について学ぶ。また、新たなマーケットとしてスポーツを支える人たちがどのような消費行動や、価値創造を行うのかについて研究を深める

学修課題：事前に配布資料をよく読み、スポーツ消費者の動機についての各自の疑問についてまとめてくること

第７回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論１

スポーツ観戦者からスポーツファンへー観戦者とファンの階層性について学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、スポーツ観戦者の特性について各自の疑問についてまとめてくること

第８回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論２

スポーツにおける顧客ロイヤルティについて学ぶ。製品関与についても学びを深める。

学修課題：事前に配布資料をよく読み、顧客ロイヤルティについての各自の疑問についてまとめてくること

第９回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論３

スポーツ企業は今後スポーツの何を売っていくのか？単なる製品やサービスだけでなく、感動を共有するなどの経験価値をいかに創造して販売するのかなど、企業としての戦略や組織マネジメントについて学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、活性化した組織についての各自の考えをまとめてくること

第10回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論４

ブランド価値について学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、ブランド価値についての各自の疑問についてまとめてくること

第11回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論５

アスリートは自らの価値をどう高めていくのか？アスリートのブランド価値の本質と価値創造の方法論について学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、アスリートの価値についての各自の疑問についてまとめてくること

第12回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論６

スポーツにおけるブランドコミュニティについて学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、ブランドコミュニティについての各自の疑問についてまとめてくること

第13回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論７

企業の社会的責任（CSR）について学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、CSRについての各自の疑問についてまとめてくること

第14回：スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論８

スポーツスポンサーシップについて学ぶ

学修課題：事前に配布資料をよく読み、スポンサーシップについての各自の疑問についてまとめてくること

第15回：前期のまとめおよび総評

前期のまとめとして（１）各自の興味･関心のあるテーマや領域、（２）そこで疑問に思ったこと、（３）その疑問に答えて明らかにしたい内容、（４）なぜその研究が必要なのか、を書き出し、学期末の発表を行う

学修課題：発表の準備

第16回：後期の演習に関するオリエンテーションおよび演習の概説

後期の演習の概要および卒業研究の意義を知る

学修課題：配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解しておくこと

第17回：研究課題の選択：第一グループの発表

各自のテーマについて、（１）研究の背景、（２）必要性、（３）重要性、（４）研究目的をまとめ、発表する

学修課題：第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく

第18回：研究課題の選択：第二グループの発表

各自のテーマについて、（１）研究の背景、（２）必要性、（３）重要性、（４）研究目的をまとめ、発表する

学修課題：第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく

第19回：研究課題の選択：第三グループの発表

各自のテーマについて、（１）研究の背景、（２）必要性、（３）重要性、（４）研究目的をまとめ、発表する

学修課題：第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく

第20回：過去の卒業研究の検討：第一グループのレビュー

各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、レビューする

学修課題：第一グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめておく

第21回：過去の卒業研究の検討：第二グループのレビュー

各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、レビューする

学修課題：第二グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめておく

第22回：過去の卒業研究の検討：第三グループのレビュー

各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、レビューする

学修課題：第三グループはレビューの準備。その他は各自の考えをまとめておく

第23回：先行研究（学術論文）の検討：第一グループのレビュー
各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、レビューする
学修課題：第一グループは各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめておく
第24回：先行研究（学術論文）の検討：第二グループのレビュー
各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、レビューする
学修課題：第二グループは各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（４）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめておく
第25回：先行研究（学術論文）の検討：第三グループのレビュー
各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（３）問題点についてまとめ、レビューする
学修課題：第三グループは各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（５）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめておく
第26回：研究方法の検討：第一グループの発表
研究方法について、（１）研究環境、（２）研究の種類、（３）測定尺度、（４）調査概要、（５）サンプリング方法をまとめ、発表する。
学修課題：第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく
第27回：研究方法の検討：第二グループの発表
研究方法について、（１）研究環境、（２）研究の種類、（３）測定尺度、（４）調査概要、（５）サンプリング方法をまとめ、発表する。
学修課題：第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく
第28回：研究方法の検討：第三グループの発表
研究方法について、（１）研究環境、（２）研究の種類、（３）測定尺度、（４）調査概要、（５）サンプリング方法をまとめ、発表する。
学修課題：第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく
第29回：まとめ：マネジメント、マーケティング調査研究
後期の授業を通して疑問に思ったこと、十分な理解が進まずもう一度説明が必要なトピックス、研究を実施する際の不安材料などを書き出し、それについて議論する
学修課題：議論の準備
第30回：まとめ：卒業論文の実施に向けた留意点
１年間の取組を総括し、卒業論文の目的、重要性、意義、流れについて理解する
学修課題：配布資料をよく読むこと

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
■評価方法
プレゼンテーション（60%）：①研究テーマの発表、②研究の目的および重要性の発表、③研究方法の発表：各20%
レポート（40%）：①過去の卒業研究のレビュー、②一般の先行研究のレビュー：各20%
■教科書
特に指定しない
■参考文献等
スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年
スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年
石井智（2006）　スポーツの価値を企業政策－CSRの視点から－」、同志社政策科学研究第８巻，135-147ページ
■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
４年次の卒業論文に向けた準備を、１年間かけて計画的に行うとともに、情熱を注いで打ち込めるような研究テーマを自ら設定すること。
演習は、研究や実践に関する疑問について学生の皆さんが中心となって議論する場です。議論を活発にするために、毎回各自で発表する「ネタ」をしっかり準備頂く必要があります。演習前半に取り上げる各課題について、「これまで何がどこまで明らかにされてきたのか」、「今後は何を明らかにすべきか」という問いに答えられるようにしましょう。演習後半では皆さん自身が研究課題を決定し、３年生から段階的に卒業研究に取り組んでいきましょう。

スポーツビジネス演習

【担当】山本　達三

■授業概要

スポーツ消費者行動に関する研究課題･研究目的･研究仮説に必要な，標本抽出，測定尺度，研究デザイン，研究方法，分析方法などを学ぶんだ上で．興味のある研究課題の文献要約･添削･発表を繰り返し，研究課題を絞り込む．その後，研究計画書作成，調査票作成，予備調査依頼，予備調査実施，データ取り込み，基礎解析，予備調査の結果報告および議論をおこなう．

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：先行研究をたくさん読み，スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する研究を学ぶ

目標：論文要約を繰り返し行い，自ら研究デザインを作成できるようになる．

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツマネジメント，スポーツマーケティング，消費者行動，消費者心理学，統計学に関する深い知識を獲得する．

目標：研究仮説，研究計画，分析方法，結果の解釈などを独力でできるようになる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション及び演習の概説

自己紹介，年間スケジュール，スポーツ消費者行動とは？

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ消費者行動について復習しておく．

第２回：スポーツ消費者行動

スポーツ消費行動・購買行動・購買後行動，情報検索について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ消費者行動について復習しておく．

第３回：スポーツ消費者の動機付け（１）

スポーツ実施動機，スポーツ観戦動機，について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ実施動機，スポーツ観戦動機について復習しておく．

第４回：スポーツ消費者の動機付け（２）

内発的動機付け，有能感，自律性・関係性，外発的動機付け，自己決定理論，主観的幸福感について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ消費者の動機付け・意欲について復習しておく．

第５回：スポーツ消費者の態度変容と行動変容

自己原因性，原因帰属理論，達成目標理論，動機付け雰囲気，欲求階層，期待価値理論，社会的認知理論，について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ消費者の態度変容と行動変容について復習しておく．

第６回：スポーツ消費者の関与(１)

消費者関与（PCM理論，IPスケール，PIIスケール）について学ぶ．

学修課題:配布資料を読み返し，消費者関与（PCM理論，IPスケール，PIIスケール）について復習しておく．

第７回：スポーツ消費者の関与(２)

状況関与，問題関与，製品関与（認知的関与・感情的関与，ブランドロイヤルティ），意思決定関与について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，状況関与，問題関与，製品関与について復習しておく．

第８回：スポーツ消費者の顧客満足・認知的不協和

消費者満足，認知的不協和理論，期待一致モデルについて学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ消費者の顧客満足・認知的不協和について復習しておく．

第９回：スポーツ消費者のサービス評価

スポーツ施設のサービス評価尺度について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツ消費者のサービス評価について復習しておく．

第10回：スポーツにおける愛着

クラブ愛着，コーチ愛着，選手愛着，地域愛着について学ぶ．

学修課題：配布資料を読み返し，スポーツにおける愛着について復習しておく．

第11回：継続調査データでみるスポーツ実施・実施頻度・派生費用のマクロ分析

継続調査データを利用した分析事例

学修課題：配布資料を読み返し，継続調査データを利用した分析事例について復習しておく．

第12回：先行研究の発表（１）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究の文献要約と発表を行う．

学修課題：ゼミ生が個別に先行研究の文献要約と発表資料を事前に作成しておく．

第13回：先行研究の発表（２）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究の文献要約と発表を行う．

学修課題：ゼミ生が個別に先行研究の文献要約と発表資料を事前に作成しておく．

第14回：先行研究の発表（３）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究の文献要約と発表を行う．

学修課題：ゼミ生が個別に先行研究の文献要約と発表資料を事前に作成しておく．

第15回：先行研究の発表（４）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究の文献要約と発表を行う．

学修課題：ゼミ生が個別に先行研究の文献要約と発表資料を事前に作成しておく．

第16回：研究テーマ・研究目的の発表（１）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表を行う．

学修課題：自分の研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表資料の作成を事前に行う．

第17回：研究テーマ・研究目的の発表（２）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表を行う．

学修課題：自分の研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表資料の作成を事前に行う．

第18回：研究テーマ・研究目的の発表（３）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表を行う．

学修課題：自分の研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表資料の作成を事前に行う．

第19回：研究テーマ・研究目的の発表（４）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表を行う．

学修課題：配布資料を読み返し，について復習しておく．自分の研究テーマ・研究目的の抄録作成と発表資料の作成を事前に行う．

第20回：研究仮説・研究方法の発表（１）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究仮説・研究方法の発表を行う．

学修課題：事前に研究仮説・研究方法の発表資料を作成しておく．

第21回：研究仮説・研究方法の発表（２）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究仮説・研究方法の発表を行う．

学修課題：事前に研究仮説・研究方法の発表資料を作成しておく．

第22回：研究仮説・研究方法の発表（３）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究仮説・研究方法の発表を行う．

学修課題：事前に研究仮説・研究方法の発表資料を作成しておく..

第23回：研究仮説・研究方法の発表（４）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた研究仮説・研究方法の発表を行う．

学修課題：事前に研究仮説・研究方法の発表資料を作成しておく．

第24回：卒業研究に関する先行研究のレビュー（１）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究のレビュー論文を作成する．

学修課題：卒業研究に関する先行研究のレビュー論文を作成する．

第25回：卒業研究に関する先行研究のレビュー（２）

各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究のレビュー論文を作成する．

学修課題：卒業研究に関する先行研究のレビュー論文を作成する．

第26回：卒業研究に関する先行研究のレビュー（３）
各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究のレビュー論文を作成する．
学修課題：卒業研究に関する先行研究のレビュー論文を作成する．
第27回：予備調査の実施（１）
各ゼミ生毎に予備調査（アンケート，インタビュー）などの作成．
学修課題：予備調査の調整を事前にしておく．
第28回：予備調査の実施（２）
各ゼミ生毎に予備調査（アンケート，インタビュー）などの実施．
学修課題：予備調査を実施にしておく．
第29回：予備調査の分析（１）
各ゼミ生毎に予備調査の基礎解析の実施．
学修課題：事前に基礎解析しておく．
第30回：予備調査結果のまとめ（２）
各ゼミ生毎に分析結果の発表
学修課題：事前に分析結果の資料を作成しておく．

■課題や取組に対する評価・振り返り
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
■評価方法
先行研究の発表（25%）：幅広い先行研究の要約と発表を複数回行う．要約の内容とプレゼンテーションの内容などを総合的に評価する．
研究テーマ・研究目的の発表（25%）：研究テーマおよび研究目的の発表を行う．研究テーマの新規性・重要性・必要性などを示せているか総合的に評価する．
研究仮説・研究方法の発表（25%）：研究テーマおよび研究目的に適合する，研究仮説・研究方法などを総合的に評価する．
卒業研究に関する先行研究のレビュー（25%）：研究テーマ，研究目的に関するより深い先行研究のレビュー論文を作成する．
■教科書
特に指定しない
■参考文献等
授業中に適宜紹介する．
■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツビジネス演習

【担当】吉倉　秀和

■授業概要

この演習の一番の目的は、スポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングにおける基礎ならびに応用知識の習得を念頭に、問題点を把握し、卒業研究に向けて研究課題を決定することである。具体的には、調査方法、文章表現、プレゼンテーションなどの基本的知識の理解とその実践について、演習を通じて習得することを授業のゴールとし、スポーツビジネス現場での実践機会も設けることで理論と実務のギャップについても認識し、卒業後の進路に向けた自身の現状把握も第二目標として設定する。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツビジネス研究領域に関する知識

目標：学術論文や参考文献の購読を通じて、スポーツビジネスに関する専門用語や統計手法を理解できる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツ産業の実践にて必要とされる社会人基礎力

目標：スポーツ産業に必要とされるプレゼンテーション、コミュニケーション、ファシリテーション手法を獲得できる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツビジネスを学ぶとは？

スポーツビジネス研究領域に関する学習方法について解説する。

学修課題：自身が高めたい専門性について検討すること。

第２回：スポーツビジネス界の現状

スポーツビジネス界の現状について、資料を踏まえながらディスカッションを行う。

学修課題：配布資料をもとに自身が考察したことについてレポートすること。

第３回：スポーツマネジメントの歴史

スポーツマネジメントの歴史について、DVDを見て、レポートを課す。

学修課題：自身の考えや意見をレポートにまとめること。

第４回：スポーツマネジメントの発展過程

スポーツビジネス界の現状について、資料を踏まえながらディスカッションを行う。

学修課題：配布資料をもとに自身の見解ならびにディスカッションに関する意見をまとめること。

第５回：スポーツチームのマネジメント

チームづくりに関するノウハウを講義を中心に解説する。

学修課題：スポーツマネジメントについて、講義内容をもとに復習すること。

第６回：スポーツリーグのマネジメント

リーグのガバナンスについて、SWOT分析をもとに解説する。

学修課題：SWOT分析ならびにガバナンスに関する復習をすること。

第７回：トップスポーツ選手のマネジメント

エージェントや代理人制度の観点からディスカッションを行う。

学修課題：ディスカッションをもとに考えたことについてレポートとしてまとめること。

第８回：スポーツ組織のマネジメント

スポーツ団体の在り方や組織形態について、解説を行う。

学修課題：スポーツ団体が抱えている問題点とその解決策について検討すること。

第９回：スポーツクラブのマネジメント

クラブチームの損益に関する留意点について解説する。

学修課題：クラブチームの経営状況とその問題点について、レポートすること。

第10回：スポーツ行政のマネジメント

クラブチームと行政のつながりについて、資料を基にディスカッションを行う。

学修課題：行政の役割とクラブチームとの関わり方について、自身の考えをまとめること。

第11回：スポーツビジネスにおける法と契約

実際の契約書を用いて、各項目に関する解説を行う。

学修課題：解説した内容について、配布資料を参考に復習すること。

第12回：スポーツツーリズム

観光型スポーツビジネスについて、DVDを見ながら、ディスカッションを行う。

学修課題：スポーツツーリズムの現状とその問題点について復習すること。

第13回：スポーツと地域イノベーション

スポーツによって、地域に変革をもたらす形成過程について、ディスカッションを行う。

学修課題：ディスカッション内容をまとめ、自身の見解を明らかにすること。

第14回：社会調査について

社会調査の基礎について、学習を行う。

学修課題：社会調査の基礎について、復習すること。

第15回：データ分析について

データ分析法について、学習を行う。

学修課題：卒業研究を見据えながら、データ分析に関する書籍を確認しておくこと。

第16回：研究課題の選択：発表と議論（スポーツマネジメント）

各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。

学修課題：他のプレゼンテーションを参考に、自身の研究テーマに深みを持たせられるように検討すること。

第17回：研究課題の選択：発表と議論（スポーツマーケティング）

各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。

学修課題：幅広い知識の習得に向けた参考文献リストを作成すること。

第18回：研究課題の選択：発表と議論（スポーツスポンサーシップ）

各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。

学修課題：他のプレゼンテーションに対するコメントについて検討すること。

第19回：研究課題の選択：発表と議論（スポーツ施設マネジメント）

各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。

学修課題：自身のプレゼンテーションに関する改善点について再検討する。

第20回：研究課題の選択：発表と議論（スポーツイベントマネジメント）

各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。

学修課題：自身の研究テーマについて、今後必要とするタスクについてリストアップをおこなう。

第21回：文献研究：発表と議論（卒業研究要旨集）

各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。

学修課題：文献のリストアップならびに入手方法について確認すること。

第22回：文献研究：発表と議論（学術論文雑誌）

各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。

学修課題：発表をもとに、再検索が必要とされる文献について検討すること。

第23回：文献研究：発表と議論（各種官公庁資料）

各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。

学修課題：文献内において理解できなかった用語に対する再復習をおこなう。

第24回：文献研究：発表と議論（スポーツ組織関連資料）

各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。

学修課題:他の発表をもとに、その改善点についてレポートすること。

第25回：文献研究：発表と議論（新聞記事）

各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。

学修課題：自身の研究テーマにおけるキーワードについて、その理解と定義付けの検討をおこなう。

第26回：研究方法の検討：発表と議論（定量的研究）

各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。

学修課題：適切な研究方法に関する復習をおこなうこと。

第27回：研究方法の検討：発表と議論（定性的研究）

各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。

学修課題：各自の研究方法について、調査計画を立案すること。

第28回：研究方法の検討：発表と議論（アンケート調査）

各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。

学修課題：発表を参考に、自身の調査計画について改善点を列挙すること。

第29回：研究方法の検討：発表と議論（ヒアリング調査）
各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。
学修課題：実際の調査において必要とするタイムスケジュールなどについて立案すること。

第30回：研究方法の検討：発表と議論（フィールドワーク）
各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。
学修課題：最終的な調査計画を決定し、レポートとしてまとめること。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法
プレゼンテーション（60%）：①理論的な発表、②独自の見解が織り交ぜられているか、③発表に対する姿勢や準備
レポート（40%）：①説明すべきテーマに対して簡潔に記されているか、②卒業研究に関するレビューに対して深い考察ができているか

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
「スポーツマネジメント」原田宗彦・小笠原悦子編著，大修館書店
「スポーツマーケティング」原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編，大修館書店
「スポーツファイナンス」武藤泰明著，大修館書店

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ情報戦略基礎演習　【担当】スポーツ情報戦略コース教員

■授業概要

スポーツ情報戦略における専門領域の理解を深めるために必要な基礎的知識や実践力を学修します。ここでの課題は、課題Ⅰ：スポーツフィールドに散在する様々なデータをどのように加工すべきか、課題Ⅱ：どのような方法論をもってデータを分析するのか、課題Ⅲ：スポーツフィールドへどのようにして正しくフィードバックするのか、などです。

■養うべき力と到達目標

１．DP1.スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツ情報戦略についての基礎的理解

目標：スポーツ情報戦略で行われている内容について、理解することができる。

２．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ情報戦略で行われる心、体、技術、戦術の分析に関する深い知識

目標：コース担当教員の専門領域に広く触れ、スポーツ情報戦略の意味について理解することができる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：オリエンテーション（豊田）：スポーツ情報戦略コースの各専門領域についてのガイダンス

本授業のオリエンテーションを行うとともに、スポーツ情報戦略とは何かについての解説を行い、理解を深める。

学修課題：「スポーツ学入門ⅠおよびⅡ」において紹介されたスポーツ情報戦略についての基礎的知識を予め確認しておく。また、スポーツ情報戦略とは何かについて関連文献等を利用して、予習しておく。

第２回：担当者別演習Ⅰ（豊田）：マインドマップの書き方

スポーツに関連する情報を戦略的に利用するために、必要な理念について解説を行う。また、マインドマップの書き方について解説し、ナレッッジマネジメントやブレインストーミングなど、思考力の向上を目指した方法を学修する。

学修課題:授業の内容を踏まえて、マインドマップの書き方について、ノートにまとめておく。また、ナレッジマネジメントについての理解を深めるため、関連図書を利用して、予習をしておく。

第３回：担当者別演習Ⅰ（豊田）：ナレッジマネジメントを学ぼう

ナレッジマネジメントを中心に学修する。スポーツフィールドをより良く変えていくために、既存の情報を加工する手法を学ぶ。

学修課題：授業の内容を踏まえて、ナレッジマネジメントについて、ノートにまとめておく。また、スポーツ情報戦略についての持論を披瀝（プレゼンテーション）する準備をしておく。

第４回：担当者別演習Ⅰ（豊田）：私の考えるスポーツ情報戦略とは何か

グループごとに課題を設定し、スポーツに関わる情報をいかにして有効活用すべきかについてプレゼンテーションする。

学修課題：授業の内容を踏まえて、プレゼンテーションを振り返り、要点をノートにまとめておく。また、ゲーム分析について、関連図書を利用して、予習しておく。

第５回：担当者別演習Ⅱ（山田）：ゲームを分析する楽しさ

スポーツゲームの分析を一緒に考えてみる。

学修課題：授業の内容を踏まえ、ゲーム分析についてノートにまとめておく。また、日常遊びを通じた学びを深めるため、関連図書を利用して、予習をしておく。

第６回：担当者別演習Ⅱ（山田）：日常の遊びのゲームを分析してみる

日常から友達とやっていた遊びのゲームを、「どうしたら勝てるか」をグループワークを通して、考え分析してみる。

学修課題:授業の内容を踏まえて､「遊び」を通じて得た学びについて、ノートにまとめておく。また、プレゼンテーションに向けて、予め準備をしておく。

第７回：担当者別演習Ⅱ（山田）：日常遊びゲーム分析の発表会

グループで考え分析したことを発表する。そしてみんなで質疑応答を通して、さらに深く考えてみる。

学修課題：授業の内容を踏まえて、プレゼンテーションの内容を振り返り、ノートにまとめておく。また、運動のコツについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第８回：担当者別演習Ⅲ（藤林）：運動のコツを科学的に考える

運動の“コツ”に関する情報を科学的な視点から理解して、戦略的にトレーニングに組み込む方法について学習する。

学修課題：授業の内容を踏まえて、運動のコツについて、ノートにまとめておく。また、コツの学習過程について、関連図書を利用して、予習をしておく。

第９回：担当者別演習Ⅲ（藤林）：スポーツにおける“コツ”の学習過程を理解する

運動の“コツ”が発生するプロセスを学習して､スポーツの動作が“うまく”なる方法について考える。

学修課題：授業の内容を踏まえて、コツの学習過程について、ノートにまとめておく。また、コツに関する調査を行う上で必要な基礎的知識について、関連図書を利用して、予習しておく。

第10回：担当者別演習Ⅲ（藤林）：スポーツにおける“コツ”を調査する

学生間でインタビューを行い、自身の“コツ”を言葉にして相手に伝えて方法や、相手の“コツ”を引き出す方法について考える。

学修課題：授業の内容を踏まえて、コツに関するインタビューの結果について、ノートにまとめておく。また、バイオメカニクス（動作分析）について、関連図書を利用して、予習しておく。

第11回：担当者別演習Ⅳ（高橋）：バイオメカニクス（動作分析）の果たす役割について

「情報戦略」という大きな枠組みの中で,バイオメカニクス（動作分析）の果たす役割について理解を深める.

学修課題：授業の内容を踏まえて、バイオメカニクス（動作分析）の基礎的知識について、ノートにまとめておく。また、バイオメカニクスをパフォーマンス向上に役立てる方法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第12回：担当者別演習Ⅳ（高橋）：バイオメカニクスはパフォーマンス向上に役に立つのか？

グループを作り,「バイオメカニクスはパフォーマンス向上に役に立つのか？」という疑問について実例を探し，スポーツ現場ではどのようなフィードバックが行われているかを調査する．その内容を翌週発表する.

学修課題：授業の内容を踏まえて、バイオメカニクスをパフォーマンスに役立てる方法について、ノートにまとめておく。また、スポーツ現場へのバイオメカニクス的フィードバックについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第13回：担当者別演習Ⅳ（高橋）：発表会

前週に考えた「スポーツ現場でのバイオメカニクス的フィードバック」について，グループごとに発表する.

学修課題：授業の内容を踏まえて、プレゼンテーションから学んだ内容について、ノートにまとめておく。また、中間発表に向けて、プレゼンテーションの準備をしておく。

第14回：グループ学習の中間成果発表（担当者全員）

各セッションを通じて学んだことを、グループごとにプレゼンテーションする。

学修課題：授業の内容を踏まえて、プレゼンテーションから学んだ内容について、ノートにまとめておく。

第15回：前期のまとめ（担当者全員）

前半の授業のまとめを行う。また、スポーツ情報戦略について、担当する教員の専門性に触れたことから、ゼミナールの選択に役立てる。

学修課題：授業の内容を踏まえて、プレゼンテーションの準備をしておく。

第16回：担当者別演習Ⅴ（山田）：データの種類と収集

スポーツのパフォーマンスから収集されるデータは、尺度によって質的データと量的データに分類できる。それぞれの分類ごとに収集の方法と手順を学習する。

学修課題：質的データと量的データのそれぞれの分類ごとに収集の方法と手順について、関連図書を利用して、予習しておく。

第17回：担当者別演習Ⅴ（山田）：データの加工

スポーツのパフォーマンスから収集されたデータは、そのままでは大きな意味を持たないことも多い。２つの要因を重ねてみることで隠された特徴を表出する手法を学習する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、データの加工法について、ノートにまとめておく。また、パネルディスカッションに向けて、準備をしておく。

第18回：スポーツ現場についてのパネルディスカッション
スポーツ現場についてのパネルディスカッションを聴き、自身の選択に役立てる。
学修課題：パネルディスカッションから得た学びについて、ノートにまとめておく。また、データのアウトプットや伝え方について、関連図書を利用して、予習しておく。
第19回：担当者別演習Ⅴ（山田）：データのアウトプット、伝え方
得られたデータを伝えるためには、数字をそのまま示すのでは不十分である。グラフや表を巧みに使用し、視覚的に直感的に理解できる工夫が必要である。種々のグラフや逗子の仕方について学習する。
学修課題：授業の内容を踏まえて、データのアウトプットや伝え方について、ノートにまとめておく。また、トップアスリートのコツについて、関連図書を利用して、予習しておく。
第20回：担当者別演習Ⅵ（藤林）：トップアスリートの“コツ”を知る
研究論文や雑誌、映像に関する情報を資料として、トップアスリートの“コツ”について調査、発表・討議を行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、トップアスリートのコツについて、ノートにまとめておく。また、コツを発生させるためのトレーニング法について、関連図書を利用して、予習しておく。
第21回：担当者別演習Ⅵ（藤林）：スポーツにおける“コツ”のトレーニング方法
”コツ”を発生させるために必要なトレーニングについて討議を行い、その効果を体験する。
学修課題：授業の内容を踏まえて、スポーツにおけるコツのトレーニング方法について、ノートにまとめておく。また、自身のキャリア形成にむけて、具体的なビジョンを提示できるよう予習しておく。
第22回：スポーツ現場の専門性を活かせる業種や業務
大学で学修した専門性を活かせるような業種や業務には、どのようなものがあるのか学ぶ。
学修課題：具体的なキャリアビジョンを形成するために、本授業の内容をノートにまとめておく。また、コツの指導法について、関連図書を利用して、予習しておく。
第23回：担当者別演習Ⅵ（藤林）：スポーツにおける“コツ”の指導方法
“コツ”を引き出して、気づきを与える「言葉」のかけ方について学習した後、“コツ”を指導する方法について討議を行い、その効果を体験する。
学修課題：授業の内容を踏まえて、スポーツにおけるコツの指導法について、ノートにまとめておく。また、新たなバイオフィードバック的フィードバックについて、関連図書を利用して、予習しておく。
第24回：担当者別演習Ⅶ（高橋）：私たちの考える新しいバイオメカニクス的フィードバック（1）：グループ分けと考察
グループを作り，バイオメカニクス的なフィードバックを自分がされるならどういうフィードバックを望むか意見を出し合い，「私たちが考えるバイオメカニクス的フィードバック」について発表する．
学修課題：授業の内容を踏まえ、グループ作業で学んだことをノートにまとめておく。また、プレゼンテーションに向けての準備をしておく。
第25回：担当者別演習Ⅶ（高橋）：私たちの考える新しいバイオメカニクス的フィードバック（2）：発表の準備
グループごとに発表に向けた準備を行う。発表はマインドマップを用いて行うので、マインドマップを書く準備をする。
学修課題：授業の内容を踏まえ、プレゼンテーションから学んだことについて、ノートにまとめておく。また、プレゼンテーションに向けての準備をしておく。
第26回：担当者別演習Ⅶ（高橋）：私たちの考える新しいバイオメカニクス的フィードバック（3）：学習成果の発表
グループごとに発表を行い、他の受講者は発表に対して質問応答とピアカンファを行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、プレゼンテーションから学んだことについて、ノートにまとめておく。また、社会人としてのマナーやSNSの取り扱いについても、関連図書を利用して、予習しておく。
第27回：スポーツ現場における社会人マナー、ＳＮＳについて
社会人としてのマナーやＳＮＳ使用上の注意点などを学ぶ。
学修課題：授業の内容を踏まえ、社会人としてのマナーやＳＮＳ使用上の注意点などについて、ノートにまとめておく。また、科学的なアプローチについての基礎的知識を深めるため、関連図書を利用して、予習しておく。
第28回：担当者別演習Ⅷ（豊田）：問いの立て方
スポーツ場面において生じる「素朴な疑問」に対して科学的なアプローチを行うために、正しく「問いを立てる」ことの大切さを学ぶ。特に、方法論の具体例を挙げ、理解を深める。
学修課題：授業の内容を踏まえ、科学的アプローチの基礎的知識について、ノートにまとめておく。また、コーディングの手法について、関連図書を利用して、予習しておく。
第29回：担当者別演習Ⅷ（豊田）：コーディングの手法
質的なアプローチとして、次のような手法を学習する。それは、一般的なコーディング、ＫＪ法、質的統合法など、研究方法を学び、卒業研究の企画につなげていく。その検討内容について次回の授業において、プレゼンテーションを行うころから、その準備を行う。
学修課題：授業の内容を踏まえ、コーディングの方法について、ノートにまとめておく。また、これまでに本授業で取り組んだ内容について、ノートにまとめ、プレゼンテーションの準備をしておく。
第30回：本授業のまとめおよび総評（豊田）
スポーツ情報戦略の基礎的な学習領域を学んだことから、今後のゼミ活動を展望し、レポートする。特に、各指導教員の研究指導領域を意識した学習計画が立案し、プレゼンテーションを行う。
学修課題：本授業を振り返り、学習した内容をノートにまとめておく。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
課題レポート（80%）：それぞれの授業担当者が提示する課題レポート（各担当者２回）を評価します。授業の内容を踏まえ適切な内容のレポートができていれば５点（２課題）、重大な誤りや不足があれば２点とします
最終課題レポート（20%）：スポーツ情報戦略の基礎的知識を用いて、自身の専攻したい領域について自身の意見を述べる問題とする。①自身の専攻したいスポーツ学領域について、②どのようなことを現場にフィードバックしたいかを簡潔に述べる。

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
各担当者より提示する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ情報戦略演習

【担当】豊田　則成

■授業概要

「スポーツ心理学」や「スポーツメンタルサポート」をベースに、卒業論文作成へ向けての文献講読（国内外を問わず）、研究方法論の習得（質的研究法など）を中心に行い、実験の計画、フィールド調査の企画、アンケート用紙の作成、分析の見通しなど、研究活動を実際に行うための様々な手法を学ぶ。特に、質的心理学研究法についての見識を深め、スポーツフィールドに散在するスポーツデータの質的検討ができるようになるための基礎知識を深めていく。

■養うべき力と到達目標

1．DP1．スポーツの定義・意義に関する深い知識

具体的内容：スポーツ心理学の範囲と効能について知る

目標：スポーツ心理学を基礎とした理論について理解を深めることが出来る

2．DP8．スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツメンタルトレーニングの実践例から学ぶ

目標：スポーツメンタルトレーニングの理論についての理解を深めることができる

3．DP10．スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツカウンセリングの実践例から学ぶ

目標：スポーツカウンセリングの理論についての理解を深めることができる

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツへのサイコロジカルアプローチ

本授業のオリエンテーションとして位置づけられ、スポーツへのサイコロジカルアプローチについて解説する。

学修課題：「授業：スポーツ心理学」について予習し、スポーツへのサイコロジカルアプローチについて、予習しておく。

第２回：関連文献をどう読むのか（１）国内の研究報告

国内研究雑誌の検索方法、研究動向について解説する。

学修課題:授業の内容を踏まえ、研究報告の概観の仕方について、ノートにまとめておく。また、次回は国外研究の動向を知る上での手法を学ぶことから、図書館の利用方法などについて、予習しておく。

第３回：関連文献をどう読むのか（２）国外の研究報告

国外研究雑誌の検索方法、研究動向について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、国外の研究動向について、ノートにまとめておく。また、心理学領域の先行研究を概観する手続きについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第４回：実験をどう計画し、遂行するのか（１）心理実験で取り上げる研究テーマについて

心理学実験法についての実例をあげて、研究の観点、実験とポイント、方法の透明性などについて解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、心理学実験法について、ノートにまとめておく。また、実験手続きについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第５回：実験をどう計画し、遂行するのか（２）実際的な実験遂行の手続き

スポーツ心理学実験についての実例をあげて、理解を深める。

学修課題：授業の内容を踏まえ、スポーツ心理学実験について、ノートにまとめておく。また、アンケート調査法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第６回：質問紙の作成と分析（１）アンケート作成のポイント

質問紙調査法について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、質問紙調査法について、ノートにまとめておく。また、アンケート結果のまとめ方について、関連図書を利用して、予習しておく。

第７回：質問紙の作成と分析（２）アンケート結果の分析

質問紙調査の結果のまとめ方について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、質問紙調査の結果のまとめ方について、ノートにまとめておく。また、インタビュー調査法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第８回：人の語りから読み取れること（１）インタビュー法の実際

インタビュー調査法について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、インタビュー調査法について、ノートにまとめておく。また、質的研究法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第９回：人の語りから読み取れること（２）質的研究法

インタビュー調査の結果のまとめ方について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、質的研究法について、ノートにまとめておく。また、参与観察法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第10回：自らが参加し、観察・分析すること（１）参与観察法

参与観察法について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、参与観察法について、ノートにまとめておく。また、観察結果の可視化について、関連図書を利用して、予習しておく。

第11回：自らが参加し、観察・分析すること（２）観察結果の可視化

参与観察の結果のまとめ方について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、監察結果の可視化について、ノートにまとめておく。また、行動観察の視点について、関連図書を利用して、予習しておく。

第12回：身体の動きや行動が意味すること（１）行動観察の視点

行動観察法について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、行動観察の視点について、ノートにまとめておく。また、行動の意味について、関連図書を利用して、予習しておく。

第13回：身体の動きや行動が意味すること（２）行動の意味についての検討

行動観察の結果のまとめ方について解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、行動の意味について、ノートにまとめておく。また、研究計画の立案について、関連図書を利用して、予習しておく。

第14回：研究構想（１）＜自らの興味を中心に＞研究計画の立案

卒業研究の構想を立てる。

学修課題：授業の内容を踏まえ、研究計画の立案について、ノートにまとめておく。また、研究方法論について、関連図書を利用して、予習しておく。

第15回：研究構想（２）＜正しく研究するために＞研究方法の検討

卒業研究の構想における研究方法論について理解を深める。

学修課題：授業の内容を踏まえ、研究方法論について、ノートにまとめておく。また、研究倫理について、関連図書を利用して、予習しておく。

第16回：研究実践の手引き：研究倫理について

研究を実践する上での心構えについて解説する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、研究倫理について、ノートにまとめておく。また、研究の企画に向けて、関連図書を利用して、予習しておく。

第17回：グループワーク（１）研究の企画

研究を企画する。

学修課題:授業の内容を踏まえ、研究を企画した内容を振り返り、ノートにまとめておく。また、研究手法の選択において重要な事柄について、関連図書を利用して、予習しておく。

第18回：グループワーク（２）研究手法の選択

研究手法を選択し、計画を立てる。

学修課題：授業の内容を踏まえ、立案した研究計画について、ブラッシュアップしておく。また、研究調査法の選択について、関連図書を利用して、予習しておく。

第19回：グループワーク（３）調査法の実践

研究調査を実践する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、実践した調査法を振り返って、ノートにまとめておく。また、量的データの分析法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第20回：グループワーク（４）データ分析①量的分析

実際に、データ分析の視点を学ぶ。

学修課題：授業の内容を踏まえ、量的データの分析法について、ノートにまとめておく。また、質的データの分析法について、関連図書を利用して、予習しておく。

第21回：グループワーク（５）データ分析②質的分析

データ分析における課題や問題点を整理する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、質的データの分析法について、ノートにまとめておく。また、研究結果の表記の仕方について、関連図書を利用して、予習しておく。

第22回：グループワーク（６）分析結果の表記：研究成果の提示

分析結果をまとめる。

学修課題:授業の内容を踏まえ、研究成果の提示の仕方について、ノートにまとめておく。また、報告書や研究レポートの書き方について、関連図書を利用して、予習しておく。

第23回：グループワーク（７）報告書の作成：研究レポートの書き方

研究成果報告書を作成する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、報告書や研究レポートの書き方について、ノートにまとめておく。また、プレゼンテーション資料の作成について、関連図書を利用して、予習しておく。

第24回：グループワーク（８）PPT資料の作成：プレゼンテーションの素材をつくる

研究成果をプレゼンテーションするための資料作りを行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、プレゼンテーション資料の作成について、ノートにまとめておく。また、口頭発表について、関連図書を利用して、予習しておく。

第25回：グループワーク（９）プレゼンテーション練習：口頭発表の要領をつくる

研究成果をプレゼンテーションするシナリオを考案する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、口頭発表について、ノートにまとめておく。また、研究成果の還元について、関連図書を利用して、予習しておく。

第26回：グループワーク（10）フィードバックの検討：研究成果の還元

研究成果をスポーツフィールドにフィードバックする。

学修課題：授業の内容を踏まえ、研究成果の還元について、ノートにまとめておく。また、ピアカンファについて、関連図書を利用して、予習しておく。

第27回：グループワーク（11）ピアカンファレンス：質疑応答の練習

ゼミ生間で、研究成果についてのピアカンファを実施する。

学修課題：授業の内容を踏まえ、ピアカンファについて、ノートにまとめておく。また、質疑応答を想定し、プレゼンテーションの内容を予め作成するために、関連図書を利用して、予習しておく。

第28回：研究成果発表＜前半＞プレゼンテーションと質疑応答

研究成果発表会を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、プレゼンテーションから学んだ内容をノートにまとめておく。また、プレゼンテーションの準備をしておく。

第29回：研究成果発表＜後半＞プレゼンテーションと質疑応答

研究成果発表会を行う。

学修課題：授業の内容を踏まえ、プレゼンテーションから学んだことについて、ノートにまとめておく。また、学修のまとめに際して、これまでに作成したノートを振り返り、予習しておく。

第30回：本授業のまとめおよび総評

本授業を振り返り、まとめを行う。

学修課題:授業内容を振り返り、ノートにまとめておくと良い。また、最終レポート課題の作成に向けて、ノートの内容をまとめておくと良い。

■課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法

小レポート課題（25%）：毎回の授業で課されるレポートを評価する。授業内容を踏まえた論述ができていれば５点とし、重大な誤りや不足があれば１点とする。

プレゼンテーション（25%）：授業内容を踏まえた発表であれば５点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば２点を加え、重大な誤りや不足があれば１点とする。

研究計画書（25%）:授業内容を踏まえた発表であれば５点とし、そこに独自の見解や具体例等が示され、分かりやすい内容であれば２点を加え、重大な誤りや不足があれば１点とする。

最終レポート課題（25%）：ルーブリックを利用し、評価する。ルーブリックについては、予め授業内で説明を行う。

■教科書

特に指定しない

■参考文献等

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

■履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。

授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。

特に、各授業での学修効果を向上させる上で、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

スポーツ情報戦略演習

【担当】高橋　佳三

■授業概要

本授業では、一年間を通して「各自が研究計画を立て、データを収集・分析し、考察を加えて論文を執筆する能力を養う」ことを目標とする。そのため前期では「スポーツ動作分析法」で学んだ手法を用いて実験、データ分析を行う。そして後期には考察と論文執筆を行い、ミニ卒論を書き上げる。

■養うべき力と到達目標

１．DP2.スポーツの学術的側面に関する深い知識

具体的内容：スポーツバイオメカニクスに関する知識の習得とその応用

目標：スポーツ技術について、スポーツバイオメカニクスの観点から分析できるようになる。

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツバイオメカニクスで用いられる実験・研究手法の習得

目標：スポーツバイオメカニクスの実験・研究手法を用いた研究ができるようになる。

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：文献読解（１）：文献検索、読解の方法

文献検索の方法、論文の読み方について理解する。

学修課題：次回以降の授業で読む研究論文を検索し、印刷しておく。

第２回：文献読解（２）：論文読解

バイオメカニクスの研究論文を読み、先行研究で明らかにされていること、されていないことを読み取り、課題を明らかにする。

学修課題：授業内で読み終えなかった論文を読み、課題を明らかにしておく。

第３回：文献読解（３）：レビュー作成

先行研究のレビューの作成法について学び、実際に作成する。

学修課題：先行研究のレビューを作成し、パワーポイントで発表資料を作成する。

第４回：文献読解（４）：レビュー発表

レビューのプレゼンテーションをする。

学修課題：プレゼンテーションの際質問を受けた内容についてさらに調査を進める。

第５回：研究計画（１）：研究計画書の書き方

研究計画書の書き方について説明する。そしてレビューを元に研究計画を立て、研究計画書を作成する。

学修課題：研究計画を発表できるよう、パワーポイントで資料を作成する。

第６回：研究計画（２）：研究計画の発表

研究計画についてプレゼンテーションを行う。

学修課題：プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。

第７回：２次元データ分析（１）：２次元画像撮影

実際に映像を撮影することで、２次元画像撮影の方法（固定法、パンニング法）を理解する。その際、カメラの設定内容についても理解を深める。

学修課題：次週の授業に向けて、撮影した映像を変換しておく。

第８回：２次元データ分析（２）：デジタイズ法の理解

デジタイズの方法を理解する。

学修課題：次週の授業までにデジタイズを終わらせておく。

第９回：２次元データ分析（３）：２次元実長換算、平滑化

２次元の実長換算について、概念や計算方法を理解する。また、平滑化（スムージング）について概念と手法を理解する。

学修課題：次週の授業までに実長換算と平滑化を終わらせ、問題があればデジタイズをやり直しておく。

第10回：２次元データ分析（４）：速度算出

微分法について理解し、２次元座標値を微分して速度を算出する。そして速度の意味（成分や合成など）について理解する。

学修課題：速度算出を終わらせ、エクセルでグラフ化し、データに不具合があればデジタイズや実長換算をやり直しておく。

第11回：２次元データ分析（５）：角度・角速度算出

ベクトル間の角度の算出方法について理解する。そして部分角度と関節角度を算出し、それぞれの違いと意味について理解する。また部分角度と関節角度を微分して角速度を算出する。

学修課題：部分角度および角速度、関節角度および角速度を算出し、エクセルでグラフ化しておく。

第12回：３次元データ分析（１）：３次元画像撮影

３次元動作分析を行うために、カメラ２台以上で動作の撮影を行う。カメラの配置や同期の方法を理解し、３次元動作分析の撮影方法を習得する。

学修課題：次週の授業に向けて、撮影した映像を変換しておく。

第13回：３次元データ分析（２）：３次元のデジタイズ法の理解

カメラ２台以上でデジタイズを行う際の注意点など、デジタイズの方法を理解し、デジタイズを行う。

学修課題：次週の授業までにデジタイズを終わらせておく.

第14回：３次元データ分析（３）：３次元DLT法

キャリブレーションポールのデジタイズ方法、カメラ定数の算出方法、３次元DLT法について理解する。

学修課題：次週の授業までにカメラ定数を算出し，DLTを終わらせておく.

第15回：３次元データ分析（４）：３次元キネマティクス算出

３次元速度、角度、角速度を算出し、データの意味を理解する。

学修課題：次週の授業までにそれぞれのデータをエクセルでグラフ化しておく.

第16回：地面反力および筋電図（１）：地面反力、筋電図の計測

地面反力計と筋電図計の使用方法を理解し、データを計測する。そしてデータの意味を理解し、分析する。

学修課題：次週のデータ処理の予習を行う。

第17回：地面反力および筋電図（２）：地面反力データの処理

地面反力と筋電図のデータの意味を理解し、画像データとの同期を行う。

学修課題：次週の統計分析の予習を行う。

第18回：統計処理

t検定、分散分析、相関係数など、基礎統計量について理解し、基礎統計を行う。

学修課題：次週からの考察に向け、統計処理を行っておく。

第19回：考察、論文執筆（１）：ストーリーづくり

データを様々な組み合わせで並べ替え、考察のストーリーを考える。

学修課題：次週のプレゼンテーションに備え、ストーリーを考えスライドを作成する。

第20回：考察，論文執筆（２）：ストーリー発表（１）

考案したストーリーを発表する。受講者は、発表者に対してできるだけ多くの視点から質問を行う。

学修課題：プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。

第21回：考察、論文執筆（３）：ストーリー発表（２）考察執筆

前回から練り直したストーリーについて発表を行い、さらに質問を受ける。考えがまとまれば、考察の執筆に入る。

学修課題：考察の執筆を行う準備をする。

第22回：考察、論文執筆（４）：執筆

考察を執筆する。

学修課題：プレゼンテーションのためのスライド作りを行う。

第23回：考察、論文執筆（５）：発表１

執筆した考察について、プレゼンテーションを行う。

学修課題：プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。

第24回：考察、論文執筆（６）：発表２

練り直した考察について、プレゼンテーションを行う。

学修課題：プレゼンテーションの際質問を受けた内容について加筆・修正を加える。

第25回：論文執筆（１）

これまでの内容を踏まえ、ミニ卒論の執筆を行う。

学修課題：次週までに書き上げられなかった分を執筆する。

第26回：論文執筆（２）

受講生同士で、執筆したミニ卒論をチェックし、内容について訂正を加える。

学修課題：指摘を受けた内容について修正を加える。

第27回：論文執筆（３）

修正を加えた内容をチェックし、ミニ卒論を完成させる。

学修課題：次週までに書き上げられなかった分を執筆する。

第28回：卒論執筆に向けた課題発見
ミニ卒論の内容を踏まえ、翌年の卒業論文執筆に向けて課題を発見するために、グループでディスカッションを行う。
学修課題：翌週からの発表に向け、指摘された課題についてまとめておく。また、前半の発表者は発表準備を行う。
第29回：まとめ（１）：発表
これまでの授業についてまとめ、発表する（前半）。
学修課題：前半の発表者は発表内容を踏まえ卒業論文の構想を練る。後半発表者は発表準備を行う。
第30回：まとめ（２）：発表
これまでの授業についてまとめ、発表する（後半）。
学修課題：後半発表者は発表内容を踏まえ卒業論文の構想を練る。全学生は卒業論文の研究計画書を作成する。

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

■評価方法
研究計画書（20%）：先行研究のレビューが的確に行われ（50点），実験計画が詳細に記されているか（50点）を評価する
実験などへの参加度（30%）：自身の実験の際に主導的立場で実験を行っているか（50点），他の学生の実験に積極的に参加しているか（50点）を評価する
ミニ卒論（50%）：卒業論文の体裁に従って執筆されているか（30点），内容が論文として適切かどうか（40点），新たな発見と卒業論文につながる知見が得られたか（30点）を評価する

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良著，朝倉書店）
バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫著，杏林書院）

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本授業では実験、データ分析、プレゼンテーション、グループディスカッションを繰り返すことで、受講生の知識と実験手法の習得を目指す。
このことから、本授業はアクティブラーニングとして進行する。

スポーツ情報戦略演習

【担当】山田　庸

■授業概要

卒業研究に向けた文献収集、文献レビューの作成、プレゼンテーション、研究計画の作成，ミニ論文の作成を行う。毎週１つの研究論文および専門雑誌記事の抄録を作成し，プレゼンテーションする．自身の興味の深い研究キーワードについての研究背景への理解を深めたうえで，期末にミニ論文を計画，実践，発表し研究実践力を高める．

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツ情報に関する研究を収集理解する力

目標：スポーツ情報に関する研究背景を理解できる

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：研究論文を執筆するための研究方法を理解し，実践する力

目標：研究論文を執筆するために研究方法を理解，実践できる．

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：ガイダンス、研究法の基礎

本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行う。研究ノートを配布し、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、研究を進める手順について解説し、各回の内容を概観する。

学修課題：興味のある研究テーマについて文献調査する

第２回：文献収集法

図書課職員による文献収集ガイダンスを受講し，文献検索データベースCiniiを用いた文献収集方法を身に付ける．さらに，興味のあるキーワードから研究論文を収集する．

学修課題：データベースを用いて研究論文を収集する

第３回：文献収集①

文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：文献を読み解き，集約する

第４回：レジュメ作成①

収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：授業内で完了していないレジュメの作成を行う

第５回：発表①

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表で見つかった書式のミスを修正し，新しい観点を追記しておく

第６回：文献収集②

サッカー医・科学研究PDF版から研究のキーワードに即した研究を探索し,収集する。検索した資料を収集し､コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：授業内で検索した文献を熟読する

第７回：レジュメ作成②

収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：授業内で完了していないレジュメの作成を行う

第８回：発表②

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表で見つかった書式のミスを修正し，新しい観点を追記しておく

第９回：文献収集③

文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：収集した文献を熟読する

第10回：レジュメ作成③

前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：レジュメを完成させる

第11回：発表③

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表で見つかった書式のミスを修正し，新しい観点を追記しておく

第12回：文献収集④

文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。

学修課題：収集した文献を熟読する

第13回：レジュメ作成④

前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。

学修課題：データを入力する

第14回：発表④

それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。

学修課題：発表練習を行う．

第15回：研究テーマの選択

前期の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。

学修課題：卒業論文テーマを考える

第16回：後期ガイダンス

後期のゼミ活動について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法について予定と内容を確認する。自分の研究分野について、方向性を発表する。

学修課題：研究の方向性を検討する

第17回：卒論中間発表会①

スポーツ情報戦略コースの卒論中間発表会に参加する．ポスター発表形式なので，すべてのポスターを閲覧し，自由質問を合計５名以上に行う．報告書を作成し提出する．

学修課題：興味深いテーマについて，意見をまとめる

第18回：卒論中間発表会②

スポーツ情報戦略コースの卒論中間発表会に参加する．ポスター発表形式なので，すべてのポスターを閲覧し，自由質問を合計５名以上に行う．報告書を作成し提出する．

学修課題：興味深いテーマについて，意見をまとめる

第19回：卒論中間発表会③

スポーツ情報戦略コースの卒論中間発表会に参加する．ポスター発表形式なので，すべてのポスターを閲覧し，自由質問を合計５名以上に行う．報告書を作成し提出する．

学修課題：興味深いテーマについて，意見をまとめる

第20回：文献収集⑤
文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。
学修課題：収集した文献を熟読する.
第21回：レジュメ作成⑤
前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。
学修課題：レジュメを完成させる
第22回：発表⑤
それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。
学修課題：これまでの発表をまとめ文献レビューを作成する
第23回：サッカー選手の体力
サッカー選手の体力領域と体力テストについて学習する．間欠的持久力のYOYOテスト，敏捷性領域のアローヘッド・アジリティ・テスト，スピード領域の５*30mテスト，パワー領域の垂直跳びについて，理論的背景と方法論について学習する.
学修課題：測定を実施できるように，測定方法を復習する.
第24回：サッカー選手の体力測定準備
サッカー部選手を対象とした体力テストを実施する．用具の準備，実施スケジュールの作成，測定配置図の作成，測定用紙の作成を行う.
学修課題：体力測定後のフィードバックについて学習する
第25回：文献収集⑥
文献検索データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。前回の文献から発展した内容について検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。
学修課題：収集した文献を熟読する.
第26回：レジュメ作成⑥
前回収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。Ａ４用紙１枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。
学修課題：レジュメを完成させる
第27回：発表⑥
それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。
学修課題：これまでの発表をまとめ文献レビューを作成する
第28回：データ収集，分析
ミニ卒論のためのデータを収集，データセットを作成し分析する．必要な実験を計画し，用具や被験者，スケジュールを準備し実行する.
学修課題：データセットを作成，分析し結果をグラフで出力しておく
第29回：ミニ卒論発表スライド，抄録の作成
それぞれの研究計画を作成する。グループでディスカッションする中で、まず研究の大まかな方向性を決める。タイトルの軸となるキーワードをそろえる。
学修課題：抄録とスライドを完成させておく
第30回：ミニ卒論発表⑦
収集したデータに基づき，ミニ論文発表を行う．発表方式は，パワーポイントスライド形式で行う．発表は５分間，質疑応答３分間．それぞれ抄録を用意する.
学修課題：来年度の卒業論計画を具体化する

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

■評価方法
授業内プレゼンテーション（70%）：対象論文の選定，読解力，抄録の形式，抄録内容，発表時間，伝えるスキル，次回の方針
授業内課題（30%）：データ収集の精度，データセット作成精度，出力の妥当性

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
授業の中で紹介する。

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

スポーツ情報戦略演習

【担当】藤林　献明

■授業概要

卒業論文作成にむけて先行研究の分析やパフォーマンス向上のための動作に関する分析方法を学んでいきます．
具体的には卒業研究に必要な基礎知識や各種測定機器の使用方法，データ解析に関する知識と技能を学習します．また，研究デザインの立案方法について学ぶことで,卒業論文のテーマを明確にしていきます. さらに,測定したデータを分かり易く提示する方法や効果的なプレゼンテーションの方法についても学習することで卒業論文制作へ向けたビジョンを描きます．

■養うべき力と到達目標

１．DP8.スポーツ学に関する深い知識

具体的内容：スポーツトレーニングの基礎知識を習得.
目標：科学的知見に基づいてトレーニングを評価・実践・処方できるようになる.

２．DP10.スポーツ学に関する実践力

具体的内容：スポーツに関する各種測定機器の使用方法に関する知識と技能を習得．また，測定した各種データの加工方法する技能を習得.
目標：測定に必要な機材と分析方法を理解し，適切な手段を選択できるようになる.

３．DP5.新しい価値を創造する能力

具体的内容：測定した各種データの加工方法する技能を習得して，加工したデータの"分かりやすい"提示・表現の知識と方法を習得する.
目標：データを分かり易く整理して説明するスキルを身につけるとともに，スポーツトレーニングに関する新たな知見を提案できるようになる.

■講義計画（授業外学修の目安の時間：各回につき４時間）

第１回：スポーツ情報戦略とは？
スポーツ情報戦略の役割と意義について説明するとともに，全体の授業計画や評価方法について概説する.
学修課題：スポーツ情報戦略の”スポーツ”に対する役割を調査してレポートにまとめる.

第２回：体力トレーニングの原理と方法
力強い動作や素早い動作が発達する過程について学習した後に，学習内容を応用するための方法を考える.
学修課題：学習内容を反映した体力トレーニング計画を立案する.

第３回：技術トレーニングの原理と方法.
運動が“できるように”なる“うまく”なる過程について学習した後に，学習内容を応用するための方法を考える.
学修課題：学習内容を反映した技術トレーニング計画を立案する.

第４回：トレーニング効果の測定評価法.
トレーニングの効果を評価する方法と必要性について学習した後に，各クラブ活動の実施状況や応用方法を考える.
学修課題：各クラス活動ではどのようなトレーニング効果の評価が行われているかを調査する.

第５回：トレーニング計画の原理と方法.
短期・中期・長期のトレーニング計画を立案する方法について学習した後に，各クラブ活動の実施状況や応用方法を考える.
学修課題：学習内容を反映した年間，月間および習慣のトレーニング計画を立案する.

第６回：実践研究の研究方法.
トレーニングの実践過程を論文にまとめる方法について学習した後に，これまでのライフヒストリーを作成する.
学修課題：自身の競技に関するライフヒストリーを作成してレポートにまとめる.

第７回：実践研究のトレーニングへの応用.
各自が興味のあるスポーツ種目の実践研究論文を調査して，トレーニングへ応用する方法について考える.
学修課題：実践研究論文を熟読して，要点を発表できるように準備する.

第８回：実践研究の分析方法.
各自が興味のあるスポーツ種目の実践研究論文を調査して，種目独自の調査方法について発表・討議を行う.
学修課題：闘技で得られたコメントをもとに実践研究の計画を立案する.

第９回：センサー式測定機器の使用方法.
光電管センサーおよび赤外線式センサーを利用して，スプリント動作の疾走時間とジャンプ動作の跳躍高を計測する方法を学習する.
学修課題：区間タイムから疾走速度，滞空時間から跳躍高を計算する方法を調査して，実施できるようにしておく.

第10回：レーザー式速度測定器の使用方法.
レーザーセンサーを利用して，100m走の速度変化を計測する方法を学習する.
学修課題：レーザー式速度計測器が利用されている事例について調査してレポートにまとめる.

第11回：ハイスピードカメラの使用方法.
ハイスピードカメラの使用方法を学び，動作分析を行うための設定を確認する.
学修課題:２次元動作分析と３次元動作分析の相違について調査して，それぞれに最低限必要なカメラの台数と配置方法について調査する.

第12回：デジタイズの方法.
デジタイズを行い，身体座標を読み取る方法を習得する.
学修課題：デジタイズの概念と方法について調査して発表する準備を行う.

第13回：モーションキャプチャーシステム利用方法.
モーションキャプチャーシステムを配置，設定する方法と実際の測定方法を習得する.
学修課題：モーションキャプチャーシステムの概念を調査するとともに，その種類と利点を説明できるようにしておく.

第14回：重心の計算方法.
デジタイズによって得られたデータを利用して，エクセルで重心位置を推定する方法を学ぶ.
学修課題：重心の概念と計算方法について調査して，説明できるようにしておく.

第15回：データの理解・グラフの作成方法.
様々なグラフの形，効果的な図形の作り方，見せ方について考える.
学修課題：グラフの種類と特徴について予習と復讐を行う.

第16回：連続写真を用いた動作分析方法.
ダートフィッシュを用いて，連続写真や合成動画を作成する方法について学習して,研究に応用する方法を考える映像を加工して,合成・遅延・同期させながらムービーを動かす技術を学ぶ.
学修課題：ダートフィッシュの機能とできることを調査する.

第17回：プレゼンテーションの方法と注意点
夏季休業中の活動報告をテーマとして，分かりやすいプレゼンテーションの方法について学習する.
学修課題：”わかりやすい”プレゼンテーションのための,「文字サイズ」「配色」「フォント」を調査して，資料を制作する.

第18回：MATLABを用いた簡単なプログラミング方法.
分析ソフトを利用して，映像分析に必要となる簡単なプログラミングの方法を理解する.
学修課題：MATLABを使ってデータを読み込む方法と書き出す方法を調査して実施できるようにしておく.

第19回：文献の検索方法.
科学的に信頼のおける文献を検索する方法と文献資料を利用する際の注意点について学習する.
学修課題：興味のある研究に関するキーワードを５つ考えて，文献検索の準備を行う.

第20回：文献研究の方法
各自が興味のある論文を検索・熟読して，要点を発表する
学修課題：興味のある論文をコピー，要約して発表する準備を行う.

第21回：研究のデザインの方法.
仮説を立てる方法と仮説を検証する方法を理解して，実践できるようになる.
学修課題：興味のある論文から,「課題」「目的」「方法」「結論」を抜き出して発表する準備を行う.

第22回：２次元動作分析法.
２次元動作分析の理論と方法を理解する.
学修課題：動作分析やバイオメカニクスについて予習と復習を行う.

第23回：３次元動作分析法.
３次元動作分析の理論と方法を理解する.
学修課題：２次元動作分析と３次元動作分析の強みと弱点について調査して説明できるようにしておく..

第24回：動作分析の実践への応用.
卒業論文を書くために必要となる分析手法を選択して，実際に実施した動作分析の結果を発表・闘技する.
学修課題：卒業論文で利用する分析方法について考え，討議した内容をもとに研究計画を立案する.
第25回：運動動作のモデル化.
運動動作を簡略化して把握する方法について学習して，応用できる能力を習得する.
学修課題：「重心」「逆振り子モデル「剛体リンクモデル」のキーワードについて調査して説明できるようにしておく.
第26回：映像をデータ化する方法.
撮影した映像を数値化して表やグラフを作成する方法を学ぶ.
学修課題：データを数値化してグラフや表にする方法について調査するとともに，実際に発表する準備を行う.
第27回：研究データの記述方法.
分析したデータを読みとき，文章としてわかりやすく説明するためのポイントについて学習する.
学修課題:卒業研究に関連する論文を調査して，データを抜き出して，データから読み取れるないようについて説明する準備を行う.
第28回：統計の理解.
卒業論文を作成するために必要となる最低限の統計技術について概説して理解を深める.
学修課題：統計について予習と復習を行う.「回帰式」「T検定」「分散分析」のキーワードを調査して説明できるようにしておく.
第29回：発表.
各自の活動から得られたデータをまとめて発表を行う.
学修課題：発表資料を作成して発表の準備を行う.
第30回：まとめおよび総評
これまでの実施内容を再確認する.
学修課題：これまでの学習内容を振り返り，レポート課題を課す.

■課題や取組に対する評価・振り返り
・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

■評価方法
全ての課題については，以下の４項目について５段階評価を用います.
１）学習内容を適切に反映しているか？
２）自身の意見・考えを反映しているか？
３）自身の経験に基づく具体例が示されているか？
４）自身の卒業論文への発展性があるか？
授業内レポート（25%）：注意事項に示した４項目の合計点を平均して評価します.
プレゼンテーション（25%）：注意事項に示した４項目の合計点を平均して評価します.
研究計画書（25%）：研究計画書注意事項に示した４項目の合計点を平均して評価します．４）については，先行研究との関連性を評価に置き換えます.
最終レポート課題（25%）：注意事項に示した４項目の合計点を平均して評価します.

■教科書
特に指定しない

■参考文献等
筋力トレーニングの理論と実践（大修館書店）
スポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）
動きの質的分析入門（ナップ）
リカバリーの科学（ナップ）
バイオメカニクス-人体運動の力学と制御（ラウンドフラット）
スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法（大修館書店）
陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究（創文企画）

■履修上の注意・備考・メッセージ
本科目は４単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる.
授業内では，各種方法・理論の基礎的部分を学習します．したがって，学習した理論を習得するためには，授業外時間を利用した学習が不可欠となります．また，各種の実験や測定を主体的に計画して実施することを求めます.

びわこ成蹊スポーツ大学
BIWAKO SEIKEI SPORT COLLEGE
〒520-0503
滋賀県大津市北比良1204番地
http://www.bss.ac.jp E-mail:kyo@bss.ac.jp

この制作物は、みんなの文字を使用しています。みんなの文字は、一般社団法人UCDAが「読みやすさ」を認証した書体です。